



本市文化財 保存活用 地域計画



本 庄 市 文 化 財 保 存 活 用 地 域 計 画

令和5（2023）年3月 作成
令和5（2023）年7月 認定
令和5（2023）年9月 一部改訂

本庄市教育委員会

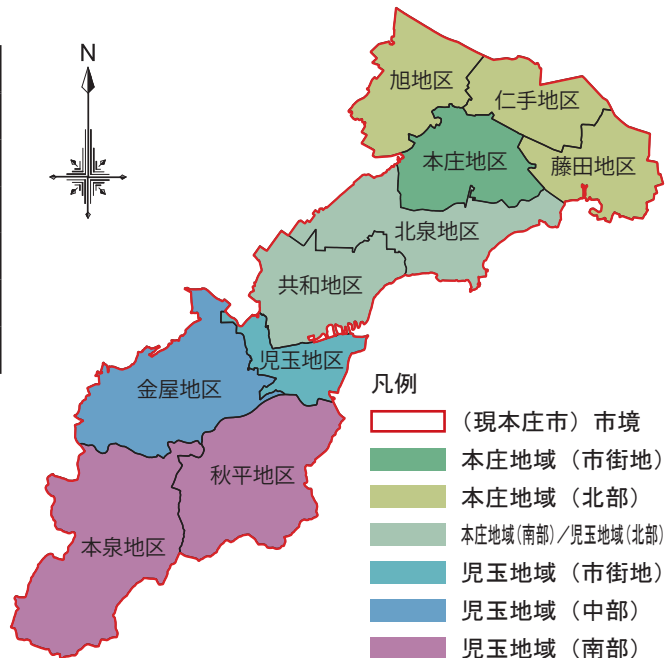
例 言

- 1 本書は、埼玉県本庄市教育委員会が作成した文化財保存活用地域計画である。
- 2 本計画の作成は、文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）の補助を受け、令和3（2021）年度から令和4（2022）年度の2か年で実施した。
- 3 本計画は、本庄市文化財保護審議会の意見を聞きながら作成した。
- 4 本庄市文化財保存活用地域計画協議会を組織し、意見を聞きながら作成した。
- 5 本庄市の関係部局による庁内検討委員会を組織し、計画作成に関わる連絡調整や会議を行った。
- 6 事務局は、本庄市教育委員会事務局文化財保護課に置いた。
- 7 本計画書に掲載した地図のうち、特記のない本市の地図は「本庄市全図」（平成30（2018）年3月印刷）を加工して作成したものである。
- 8 本計画における時代区分の定義は表①のとおりとする。
- 9 本計画における地区・地域の区分は図①のとおりとする。

表① 時代区分の定義

区分	時代
原始	旧石器時代～弥生時代
古代	古墳時代～平安時代前期
中世	平安時代中期（武士の出現）～室町時代
近世	安土・桃山時代（織豊政権）～江戸時代
近代	明治時代～昭和20（1945）年
現代	昭和20（1945）年～

※文部科学省：学習指導要領（高校/地理歴史）より。



図① 地区・地域の区別

国土交通省：「国土数値情報（行政区域データ）」を加工して作成。
 ※大正9（1920）年・昭和35（1960）年の行政区分データ参照。

あいさつ

本庄市には、考古資料や古文書、工芸品、祭礼など、様々な文化財が所在し、それらを取り巻く周辺環境を含めて、現在まで大切に受け継がれてきました。これらは、本市の歴史文化を知るうえで欠かせない存在であり、市民のかけがえのない財産であります。

本市では、「本庄市総合振興計画」において、「あなたと活かす みんなで育む 歴史と教育のまち 本庄 ～世のため、後のため～」という将来像のもと、基本理念と政策大綱を定めています。前期基本計画において、文化財の保護に関わる施策や文化財の観光資源活用、伝統文化継承の支援に関わる施策に取り組んでまいりました。そして、この度、「本庄市文化財保存活用地域計画」を定めました。

本計画は、少子高齢化による文化財の担い手不足など社会問題により文化財を取り巻く環境が変化する中で、市内で受け継がれた文化財をその周辺環境も含めて総合的に保存し、他分野と連携して積極的に活用していくための文化財行政のマスタープランであり、それを実現するアクションプランでもあります。本計画によって、本市の歴史文化の特徴を多くの市民に周知し、文化財に愛着を持ってもらい、地域社会総がかりでこれを保存・活用し、未来へ紡いでいくことを目指してまいります。

結びに、本計画の作成にあたり、ご尽力いただきました本庄市文化財保存活用地域計画協議会の委員の皆様をはじめ、さまざまなお意見をお寄せいただいた文化財所有者、まちづくり団体及び市民の皆様に心から感謝申し上げます。

令和5（2023）年3月
本庄市教育委員会 教育長

下野戸 陽子

本庄市文化財保存活用地域計画

目次

例言	
あいさつ	
序章	6
1 計画作成の背景と目的	6
2 計画の位置づけ	7
3 計画作成の体制	12
4 計画作成の経過	14
5 計画期間	16
6 計画の進捗管理と自己評価の方法	16
7 計画の対象（文化財の定義）	17
第1章 本庄市の概要	19
1 自然的・地理的環境	19
2 社会的環境	26
3 歴史的環境	34
第2章 本庄市の文化財の概要と特徴	46
1 指定等文化財の概要と特徴	46
2 未指定文化財の概要と特徴	65
第3章 本庄市の歴史文化の特徴	72
第4章 本庄市の文化財の保存・活用に関する理念・基本方針	74
1 本庄市の文化財の保存・活用に関する理念	74
2 基本方針	75
第5章 多様な価値を持つ幅広い分野の文化財の把握	76
1 文化財の把握調査の概要	76
2 文化財の調査・研究に関する課題	78
3 文化財の調査・研究に関する方針	79
4 文化財の調査・研究に関する措置	79
5 文化財の調査・研究に関する体制とその整備	80

第6章 文化財のより良い状態での保存・継承 82

- 1 文化財のより良い状態での保存・継承に関する課題 82
- 2 文化財のより良い状態での保存・継承に関する方針 90
- 3 文化財のより良い状態での保存・継承に関する措置 92
- 4 文化財のより良い状態での保存・継承に関する体制とその整備 94

第7章 歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成 97

- 1 歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関する課題 97
- 2 歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関する方針 98
- 3 歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関する措置 100
- 4 歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関する体制とその整備 101

第8章 地域一体で文化財の保存・活用を支える仕組みづくり 103

- 1 文化財の保存・活用を支える仕組みづくりに関する課題 103
- 2 文化財の保存・活用を支える仕組みづくりに関する方針 104
- 3 文化財の保存・活用を支える仕組みづくりに関する措置 105
- 4 文化財の保存・活用を支える仕組みづくりに関する体制とその整備 107
- 5 本計画の推進体制 109

第9章 文化財の総合的・一体的な保存と活用 112

- 1 関連文化財群・保存活用区域の目的 112
- 2 関連文化財群・保存活用区域の設定の考え方 112
- 3 関連文化財群・保存活用区域とその課題・方針・措置 112

第10章 重点施策 147

巻末資料 152

- 1 指定等文化財リスト 152
- 2 未指定文化財リスト 158
- 3 既往調査一覧 205
- 4 アンケート結果 214
- 5 ワークショップの記録 220
- 6 ヒアリング調査の記録 232

序 章

1 計画作成の背景と目的

本庄市（以下、「本市」という。）は、埼玉県の北西部に位置し、市域の南部から北部にかけて山地・丘陵・平野と変化する地形からなるほか、大小さまざまな河川が流れており、県内でも豊かな自然環境を有する地域です。

この豊かな環境に支えられるように古代から人々が定住し、その営みの痕跡を示す数多くの遺跡が市内に残されています。中世には、武蔵武士団の一つである児玉党の本拠地が置かれ、戦国時代には関東管領上杉氏方の居城が築城されました。また、市域を鎌倉街道上道と中山道の2本の街道が通ることから、児玉地域においては中世より、本庄地域においては近世以降、交通の要衝としても栄えました。農村部においても、信仰や民俗行事、食文化など生活に根差した多くの文化が育まれてきました。

本市では、これまでに旧歴史民俗資料館や塙保己一記念館、競進社模範蚕室等の文化施設での文化財の公開事業を通じ、市域の歴史文化の情報発信を行ってきました。旧歴史民俗資料館は、令和2（2020）年2月に閉館しましたが、同年10月より本庄早稲田の杜ミュージアムにその機能を移行し、出土遺物の展示やイベント、講演会等を開催しています。また、指定文化財の所有者・管理者の中でも特に無形の民俗文化財を継承する保護団体においては、地域の小学生を対象にした練習会や体験講座を実施し、後継者の育成に努めてきました。

文化財の所有者・管理者、行政の活動により本市の文化財が現在まで継承されてきた一方で、本市においても少子高齢化をはじめとする社会的課題により、後継者が不足している、管理が行き届かないなどの課題を有する文化財が増加しています。加えて、近年においては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、特に民俗文化財の公演や練習の機会が減少し、今後の継承に著しい影響が生じています。行政では、これらの課題や問題に対して十分な対応ができていないのが現状です。

本市の歴史文化を伝える文化財について、「本庄市総合振興計画」では、文化財に関する取り組むべき6つの課題を挙げています。しかし、これまでは、挙げられた課題への対応に向けた中長期的な視点が不足しておりました。周知の課題に対して今後計画的に取り掛かるために、また、文化財が現在抱える諸問題への対策を効果的に進めるために文化財保存活用地域計画（以下、「本計画」という。）を作成しました。

本計画は、本市の歴史文化の特徴を多くの市民に周知し、文化財に愛着を持ってもらい、地域社会総がかりでこれを保存・活用し、未来へ紡いでいくことを目的とします。

2 計画の位置づけ

本計画は文化財の保存・活用に関する総合的な法定計画として位置づけるもので、作成にあたっては、本市の最上位計画である「本庄市総合振興計画」、教育分野の総合的な施策大綱である「本庄市教育大綱」の理念・方針・政策・施策等を踏まえるとともに、関連計画等との調整・連携・整合を図りました。また、埼玉県における文化財の保存・活用に関する施策の大綱である「埼玉県文化財保存活用大綱」を勘案しました〔図1〕。

なお、本計画の作成と上位計画・関連計画等の改定の時期が重複するものについては、庁内検討委員会で情報共有を図り、改定版との整合性を確認しました。

上位計画と関連計画等における文化財の保存・活用に関する取組状況については、以下のとおりです。

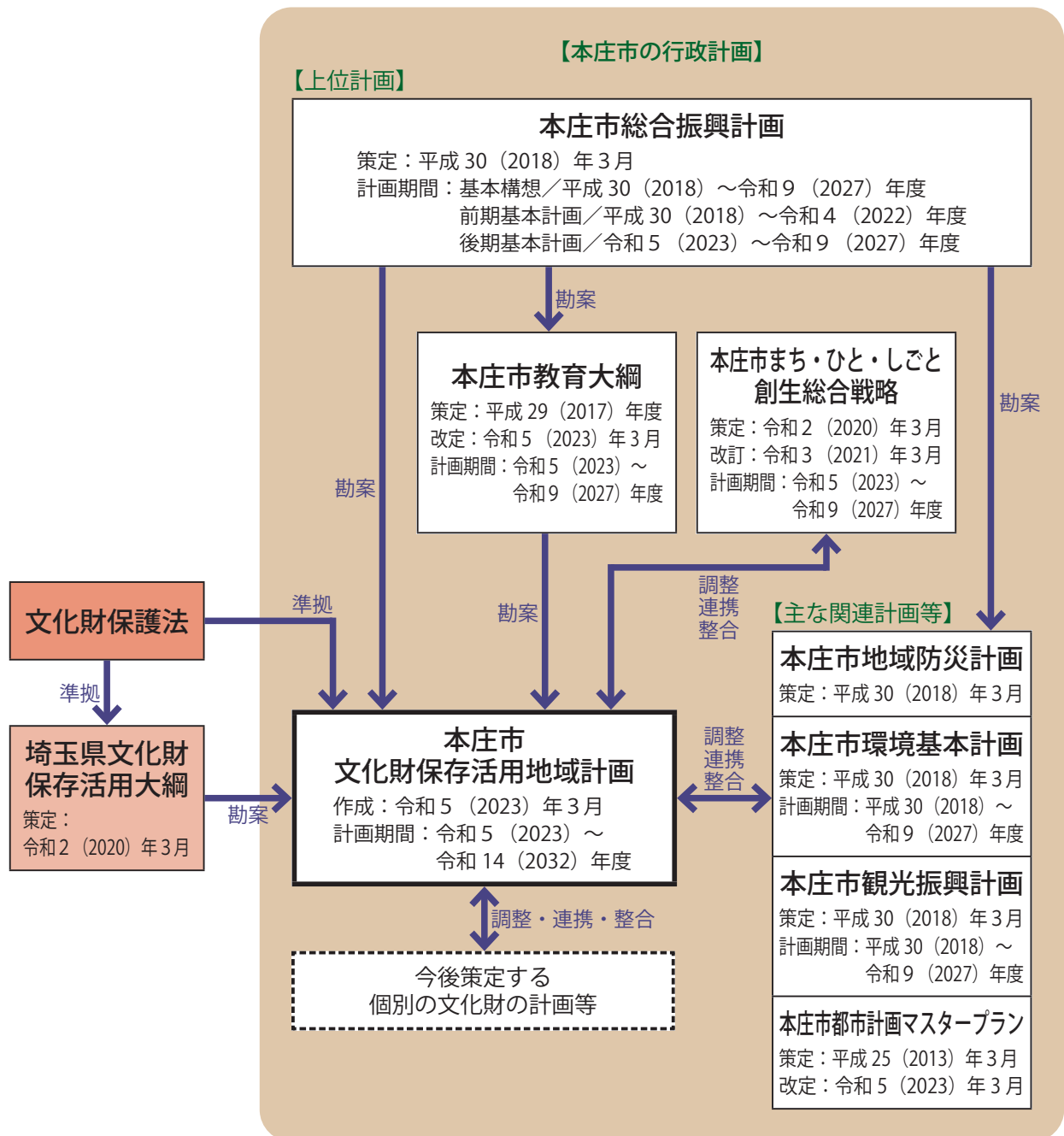


図1 本庄市文化財保存活用地域計画の位置づけ

1) 「本庄市総合振興計画（後期基本計画）」

策定年度：令和4（2022）年度 計画期間：令和5（2023）～令和9（2027）年度

本庄市総合振興計画（基本構想）では、本市の将来像として「あなたと活かす みんなで育む 歴史と教育のまち 本庄 ～世のため、後のため～」を掲げ、3つの基本理念・6つの政策大綱を定めています。また、後期基本計画は、基本構想で定めた将来像の実現に向けて、38の分野別施策（施策大項目）を構成し、各施策に具体的事業を挙げています。

このうち、「第2章 教育文化分野 未来を拓く人を育み、歴史と文化の薫るまち」「施策大項目5 文化財の保護と活用の推進」においては、文化財の保護に関わる施策として、以下に示す6つの取組内容、5つの主要事業を挙げています。

また、「第3章 経済環境分野 持続可能で活力に満ちた、にぎわいと魅力のあるまち」「施策大項目4 観光の振興」においては、文化財の観光資源活用や伝統継承の支援について、5つの取組内容、5つの主要事業を挙げています。

「文化財の保護と活用の推進」に関わる取組内容（本庄市総合振興計画）

将来像	あなたと活かす みんなで育む 歴史と教育のまち 本庄 ～世のため、後のため～
政策大綱	2 教育文化分野 未来を拓く人を育み、歴史と文化の薫るまち
分野別施策（施策大項目）	5 文化財の保護と活用の推進
1	指定文化財等の整備と活用
	<ul style="list-style-type: none"> 国指定史跡竪保己一旧宅をはじめ、市内にある県・市指定文化財や、国登録有形文化財等を適切に保護するとともに、それら貴重な財産を広く紹介し、地域の中で活用するための整備を行います。また、価値のある文化財は、積極的に指定をしていきます。
2	文化財施設等の充実と活用
	<ul style="list-style-type: none"> 竪保己一記念館、本庄早稲田の杜ミュージアム、競進社模範蚕室等の文化財施設とともに郷土の偉人の功績を市内外に広く発信し、入館者の増加と地域の活性化を図ります。歴史的建造物である旧本庄警察署と競進社模範蚕室については、建物の維持保全のために必要な対策を講じます。
3	郷土資料の保存と活用
	<ul style="list-style-type: none"> 市内に残された古文書や行政文書等の歴史的な資料を適切な環境で保存するとともに、それらの整理分類、デジタル化を進めます。また、その成果を「本庄市郷土叢書」等の冊子として刊行するなど、郷土への理解を深めるための活用を図ります。
4	埋蔵文化財の保護と活用
	<ul style="list-style-type: none"> 市内にある埋蔵文化財包蔵地の保存に努め、開発者と調整を図ります。やむを得ず取り壊す場合は発掘調査を行い、報告書として刊行します。 出土遺物については、展示・発表の機会を増やし、より多くの人々が観賞できるよう取り組みます。また、収蔵場所の集約化と適切なスペースの確保を図ります。
5	地域文化の理解と普及
	<ul style="list-style-type: none"> 公民館との連携による歴史講座や、学校との連携による出前授業などを行い、地域文化の理解と普及を促進します。また、古い民具や農具に触れたり、実際に使ってみる機会を提供し、昔の生活への理解と郷土愛の醸成を図ります。
6	伝統文化の保護と継承
	<ul style="list-style-type: none"> 市内各地域で行われている祭りや伝統行事をはじめとする、地域の中で育まれた伝統文化を保護し、これらの継承活動を支援します。また、実演機会の増加等により後継者の育成を支援するなど、地域の文化遺産として未来へ継承できるよう取り組みます。

「文化財の保護と活用の推進」に関する主な事業（本庄市総合振興計画）

① 雉岡城跡公園の維持管理
・ 身近に地域の歴史に親しめる市民の憩いの場として利用できるように、雉岡城跡公園として環境整備を進め維持管理を行います。
② 塙保己一記念館の管理運営
・ 郷土の偉人である塙保己一の業績を広く紹介し、その業績の理解を促進するとともに、市内外に発信していきます。
③ 競進社模範蚕室の管理運営
・ 県指定建造物としての競進社模範蚕室を維持管理するとともに、同施設と木村九蔵が養蚕技術の発展に果たした功績を広く発信していきます。
④ 遺跡発掘調査
・ 埋蔵文化財包蔵地の周知を図り、その保存に努めるとともに、市内の開発と埋蔵文化財の保護との調整を行います。
⑤ 本庄早稲田の杜ミュージアムの管理運営
・ 本市の歴史について調査・研究するとともに、文化資源を活用し、展示及び教育普及事業を通じてその魅力を市内外に発信していきます。

「観光の振興」に関わる取組内容（本庄市総合振興計画）

政策大綱 3 経済環境分野 持続可能で活力に満ちた、にぎわいと魅力のあるまち
分野別施策（施策大項目） 4 観光の振興
1 伝統継承の支援
・ 山車や獅子舞に代表される、特色があり、地域の文化を感じることでできる伝統ある祭り、行事、郷土芸能などの保存を図るため、維持管理や後継者の育成など、祭りの品格を高めるための研究などを支援します。
2 観光資源の活用
・ 日本庄商業銀行煉瓦倉庫、競進社模範蚕室、高窓の里などの歴史的建造物、こだま千本桜やあじさいの小路をはじめとする花の名所など観光資源の活用を図ります。 ・ 工場見学などの体験参加型プログラムを活用した観光ルートの開設や観光資源の活用を図るほか、本庄ブランド発信のための施設として、道の駅等の整備などを検討します。 ・ 観光振興の一つとして、交流人口の増加につなげるため「ほんじょう産業フェスタ」を開催し、本市の魅力ある食べ物や産業を紹介しながら、地域の伝統や文化に触れる機会を創出します。 ・ 児玉地域南部で盛り上がりを見せている施設の観光情報の発信を強化し、更なる観光客の増加に努めます。
3 観光のPR・受入体制の整備
・ ポスター、パンフレット、市ホームページ、ケーブルテレビ等各種媒体を通じて積極的に観光PRを図ります。また、本庄名物「つみっこ」の普及を図ります。さらに、訪日外国人へのPRの推進とともに、受入体制の整備を行います。 ・ 観光客の受入体制の整備として、観光案内板の設置や駐車場の確保を図ります。
4 特産品の開発・普及
・ 関係機関と連携し、推奨土産品制度の促進による優良な特産品の開発、安全・安心な農産物のブランド化を進め、あわせて積極的に広報することによって販路拡大を図ります。 ・ 本市マスコット「はにぼん」のキャラクターグッズの開発及び販売を本庄市観光協会、本庄商工会議所、児玉商工会とともに推進します。
5 広域観光の推進
・ 本庄地域広域観光振興協議会や北武蔵地区観光連絡会を活用し、本市及び近隣市町の観光情報の共有化と観光ルートの開発、PRを図ります。また上武絹の道運営協議会を活用し、魅力的な観光資源を有機的に結びつけ、広域連携による観光振興を図ります。

「観光の振興」に関する主な事業（本庄市総合振興計画）

① 観光協会への支援
・ 本庄市観光協会を支援することにより、祭り、行事、郷土芸能の継承・発展を図ります。
② 回遊型・体験型観光の推進
・ 「七福神めぐり」、「駅からハイキング」、「児玉三十三霊場めぐり」などの回遊型観光の推進を図ります。 ・ 農業体験や工場見学など体験型観光を推進します。
③ 観光案内の充実
・ 本市及び児玉郡内で連携し、広域観光情報の共有化と観光ルート開発を進め、広く情報発信を行います。 ・ 観光客の受入体制の整備として、わかりやすいサイン標識の設置を推進します。さらに訪日外国人に対し、観光パンフレットや案内板の多言語化を推進するとともに、SNSを活用して観光情報の発信を行います。
④ 推奨土産品制度の推進
・ 本庄市観光協会と協力し、推奨土産品制度を推進し、品数の増加とPR及び販売促進を進めます。
⑤ 上武絹の道の推進
・ 上武絹の道運営協議会の構成団体である7市町と連携し、絹産業遺産群並びにこれに関する資産を活用した広域的な観光PRに努めます

2) 「本庄市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」

策定年度：令和4（2022）年度 計画期間：令和5（2023）～令和9（2027）年度

4つの基本戦略の一つとして「【みりよく】基本戦略Ⅲ 魅力があふれるまち」を掲げ、「地域資源の活用によるブランド確立」「魅力発信、移住定住促進」という基本的方向性を挙げています。

「地域資源の活用によるブランド確立」では、観光資源の活用として、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫、競進社模範蚕室、高窓の里などの歴史的建造物の活用を図ると述べています。また、文化財施設等の充実と活用として、本庄早稲田の杜ミュージアム、塙保己一記念館、競進社模範蚕室等の文化財施設とともに郷土の偉人の功績を市内外に広く発信し、入館者の増加と地域の活性化を図り、歴史的建造物である旧本庄警察署と競進社模範蚕室の維持保全のために必要な措置を講じるとしています。

「魅力発信、移住定住促進」では、本市の農産物等について更なる発信強化を図るとともに、魅力の発信拠点として道の駅の整備等について検討を進め、交通アクセスの利便性の高さや自然の豊かさ等、住環境の魅力発信に加え、移住支援施策を一体的に実施することにより、本市への移住・定住促進を図るとしています。

3) 「本庄市教育大綱」

策定年度：令和4（2022）年度 計画期間：令和5（2023）～令和9（2027）年度

本庄市教育大綱では、基本理念として「世のため、後のための教育 ～未来を拓く人を育み、歴史と文化の薫るまち～」を掲げ、6つの基本方針を定めています。このうち、「5 文化財の保護と活用の推進」において、長い歴史と伝統を持つ本市の貴重な財産である文化財を地域社会全体で適切に保護し、未来へと継承しつつ、これら学び親しみ、また市内外にその魅力を広く発信していくとともに一層の有効活用を図ることを一つの目標として掲げています。

4) 「本庄市地域防災計画」

策定年月：平成 30（2018）年 3 月

「第 2 編 災害予防計画」「第 1 章 市の防災力の強化」「第 3 節 生活維持活動のための準備」「第 8 文教に係る事前対策」の中で、文化財、歴史的建造物等が災害によって滅失しないよう予防対策を推進することとしています。

その方策として「3 文化財の事前対策」を掲げ、文化財を災害から保護するため、その管理状況（転倒・倒壊対策状況、消防設備の整備状況等）を調査し、これに基づき必要な指導、助言等を行うこととし、具体的な予防対策として、文化財の収蔵・保管体制の整備、防火体制等の整備強化について示しています。

5) 「本庄市環境基本計画」

策定年月：平成 30（2018）年 3 月 計画期間：平成 30（2018）～令和 9（2027）年度

「第 2 章 環境の現状と課題」「4 快適環境」「(3) 歴史的・文化的環境」において、指定文化財や埋蔵文化財等の歴史的な文化遺産について調査研究を推進するとともに、各種ガイドの充実等による歴史や文化財の紹介、歴史的な文化遺産と緑の調和したまちづくりを進め、市民とのふれあいの機会を創出していく必要があると述べています。

6) 「本庄市観光振興計画」

策定年月：平成 30（2018）年 3 月 計画期間：平成 30（2018）～令和 9（2027）年度

「第 4 章 計画の基本構想」「1. 計画の基本方針」においては、本市に存在する自然、歴史、伝統、食、大地の上に広がるあらゆるものを観光資源として位置づけ、「2. 計画の基本戦略と KPI」においては、計画の実践に向けて「観光資源面 魅力ある観光資源の発掘・創出・活用」を基本戦略の一つに掲げ、地域の文化を感じることでできる伝統ある祭り、行事、郷土芸能などの保存を図るため、維持管理や後継者の育成を支援するとしています。

また、基本方針・基本戦略を踏まえ、当計画のキャッチコピーを「見つけよう、感動。伝えよう、魅力。～みんなで織りなす本庄絵巻～」と定めています。

7) 「本庄市都市計画マスタープラン」

策定年度：令和 4（2022）年度 計画期間：令和 5（2018）～令和 9（2027）年度

「第 4 章 まちづくりの目標」「第 1 節 将来都市像」において、「豊かな自然や歴史・文化的資源を大切に、活かす都市」をまちづくりの施策展開の目標の一つとし、本市の豊かな水やみどり等の自然環境や歴史・文化的資源を保全し後世に伝えていくとしています。

また、「第 5 章 全体構想」「第 5 節 潤いのあるまちづくりの方針」においては、「歴史を感じさせる風情あるエリアのまちなみの整備」を基本方針の一つとし、蔵やレンガ造りの建物が残る中山道沿いや児玉駅周辺市街地、養蚕農家住宅が残る高窓の里など、宿場町や養蚕業が盛んだっころの名残や歴史を感じさせる風情あるエリアについては、回遊して楽しいまちなみがまち全体に広がるよう、その保全や修景、周辺建築物等のデザインを工夫するなどの取組を市民との協働で進めるとしています。

3 計画作成の体制

本計画の作成にあたっては、本庄市文化財保護条例に基づいて設置された附属機関である「本庄市文化財保護審議会」から計画案に対する意見聴取を行いました。また、文化財保護法第183条9に基づく協議会として、有識者などで構成される「本庄市文化財保存活用地域計画協議会」を設置し、計画案の検討や意見聴取を行いました。協議会と並行して、関係部局による「本庄市文化財保存活用地域計画策定庁内検討委員会」を組織し、計画作成に関わる連絡調整や会議を行いました。協議会と庁内検討委員会は、いずれも事務局を教育委員会事務局文化財保護課に置くこととしました。

本計画作成にあたって設置した協議組織について、以下に説明を加えます。

1) 本庄市文化財保存活用地域計画協議会

本庄市文化財保存活用地域計画協議会は、計画の作成及び変更、計画の実施に関わる連絡調整などを目的とするもので、15名の委員を委嘱又は任命し、令和3（2021）年7月1日に設置しました。

本計画は、地域社会総がかりで文化財を保存・活用し、後世へ伝えていく体制づくりを目指すものです。そのため、本協議会は、文化財の所有者や管理団体の代表者、歴史・文化財の有識者、文化財の活用団体（商工関係・観光関係）の代表者、県・市関係課の職員で構成し、本市の文化財に関する知見、文化財の保存・活用の考え方、体制整備等に関する意見聴取を行いました。

2) 本庄市文化財保存活用地域計画策定庁内検討委員会

本計画の作成に向けた検討と情報共有を図る場として庁内検討委員会を設け、協議会の検討内容に関する事前確認、文化財の保存・活用に有用な情報収集、本計画と庁内関係各課が持つ関連計画等との整合性や連携の確認等を行いました。

○本庄市文化財保護審議会委員 名簿

氏名	所属及びその役職	役職	任期（計画作成期間）
柴崎 起三雄	元児玉教育事務所長	委員長	令和2（2020）～令和4（2022）年（再任）
根岸 久	NPO 法人ネットワーク ひがしこだいら事務局長	副委員長 委員長	令和2（2020）～令和4（2022）年（再任） 令和4（2022）～令和6（2024）年（再任）
雉岡 恵一	元小学校教頭	委員 副委員長	令和2（2020）～令和4（2022）年（再任） 令和4（2022）～令和6（2024）年（再任）
茂木 悟	元高等学校教諭	委員	令和2（2020）～令和4（2022）年（再任） 令和4（2022）～令和6（2024）年（再任）
戸谷 正夫	建築設計事務所代表取締役	委員	令和2（2020）～令和4（2022）年（再任） 令和4（2022）～令和6（2024）年（再任）
佐々木 幹雄	元高等学校教諭	委員	令和2（2020）～令和4（2022）年（新任） 令和4（2022）～令和6（2024）年（再任）
川上 美恵	元文化財保護課長	委員	令和2（2020）～令和4（2022）年（新任）
小島 寛	元埼玉県銃砲刀剣類登録審査会 審査員・刀匠	委員	令和4（2022）～令和6（2024）年（新任）
塩原 浩行	古美術研究者	委員	令和4（2022）～令和6（2024）年（新任）

※任期は各期6月1日から2年間（翌々年5月31日まで）。

○本庄市文化財保存活用地域計画協議会委員 名簿

役職	氏名	所属及びその役職	選出区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
会長	佐々木 正峰	国立科学博物館顧問	3号委員	○	○
副会長	近藤 二郎	早稲田大学文学学術院教授* ¹	3号委員	○	○
委員	関口 和則	台町獅子舞保存会会長	1号委員	○	○
	小澤 正幸	自治会連合会副会長	2号委員	○	○
	宮部 孝夫	自治会連合会副会長	2号委員	○	○
	柴崎 起三雄	文化財保護審議会委員長	3号委員	○	
	根岸 久	文化財保護審議会副委員長* ²	3号委員	○	○
	雉岡 恵一	文化財保護審議会副委員長	3号委員		○
	飯塚 孝志	児玉商工会事務局長	4・5号委員	○	○
	戸谷 清一	本庄商工会議所副会頭	4・5号委員	○	○
	内田 幸彦	埼玉県教育局文化資源課主幹	6号委員	○	○
	内田 圭三	企画財政部長	7号委員	○	○
	青木 光蔵	市民生活部長	7号委員	○	
	早野 悟				○
	葦塚 亮	経済環境部長	7号委員	○	○
	加藤 衛	都市整備部長	7号委員	○	
齊藤 順一				○	
高橋 利征	教育委員会事務局長	7号委員	○	○	

※選出区分について

本庄市文化財保存活用地域計画 協議会設置要綱 (抜粋)

第3条 協議会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 文化財の所有者
- (2) 文化財関係団体の代表者
- (3) 歴史及び文化財に関し識見を有する者
- (4) 商工関係団体の代表者
- (5) 観光関係団体の代表者
- (6) 県職員
- (7) 市職員
- (8) その他市長が必要と認めた者

※「所属及びその役職」は協議会委員委嘱時のものとします。

*1：令和4(2022)年度より「早稲田大学名誉教授」。

*2：文化財保護審議会審議会改選に伴い、令和4(2022)年度より「文化財保護審議会委員長」。



写真1 本庄市文化財保存活用地域計画協議会

○本庄市文化財保存活用地域計画策定庁内検討委員会

本庄市	企画財政部
	市民生活部
	経済環境部
	都市整備部
	教育委員会事務局

○指導・助言

文化庁	文化資源活用課計画推進係
	地域文化創生本部

4 計画作成の経過

計画作成の経過を年度ごとに整理し、以下に示します。なお、協議会の経過を含めた計画作成の経過については〔表1〕を参照とします。

表1 本庄市文化財保存活用地域計画 作成の経過

期日	項目	内容	
令和3年度 (2021年度)	9月28日	第1回 庁内検討委員会	・文化財保存活用地域計画の概要説明 ・計画作成のスケジュール確認
	10月7日	第1回 協議会	・本庄市の文化財保護行政の現状説明 ・令和3（2021）年度調査の目的と内容の確認
	10月29日	文化庁協議	・認定手続きに関する説明 ・第1回協議会の報告
	11月22日	アンケート調査送付(12/20 締切)	指定等文化財の所有者・管理者に対して、以下に関するアンケート調査を実施 ・所有・管理する文化財に関する現状（保存状況） ・活用（公開）状況 ・直面する課題 ・理想像・今後の展望 ・未指定文化財の所有確認等
	11月27日	ワークショップ開催	会場：本庄市役所6階大会議室 時間：10：00～11：30（9名参加） 14：00～15：30（7名参加）
	12月4日	ワークショップ開催	会場：児玉文化会館セルディ大会議室 時間：14：00～15：30（21名参加）
	1月28日	第2回 庁内検討委員会	・未指定文化財の概要と特徴について説明 ・アンケート調査の結果・分析について説明 ・ワークショップの実施成果について説明 ・本庄市の歴史文化の特徴について意見聴取
	2月	第2回 協議会（書面開催）	
	3月23日	本庄市文化財保護審議会	・計画作成の進捗状況報告、計画素案の意見聴取
令和4年度 (2022年度)	7月7日	本庄市文化財保護審議会	・計画作成の進捗状況報告、計画素案の意見聴取
	7月	第3回 庁内検討委員会（書面開催）	・計画内容の意見聴取、合意形成（庁内検討委員会） ・関連文化財群及び保存活用区域について意見聴取 ・計画の骨子（文化財の保存・活用に関する課題・方針・措置一覧）について意見聴取 ・計画素案の意見聴取
	8月	第3回 協議会（書面開催）	
	8月10日	文化庁協議（リモート会議）	・認定手続きに関する確認 ・計画素案の意見聴取
	10月7日	文化庁協議（リモート会議）	・認定手続きに関する確認 ・計画素案の意見聴取
	11月16日 11月17日	ヒアリング調査	文化財の保存・活用に関わる団体へ以下に関するヒアリング調査を実施 ・各団体の活動趣旨や内容 ・文化財の保存・活用に関する目標・将来像とその課題 ・今後の活動促進に向けて望まれる補助・支援・仕組み など

1月11日	パブリックコメント開始	意見募集期間：1月11日～2月9日
3月22日	本庄市文化財保護審議会	・計画案説明、意見聴取
3月30日	第4回協議会	

※各種会議は対面を基本としましたが、新型コロナウイルス感染症拡大状況に鑑みて、書面開催・リモート会議等に適宜変更しました。

1) 令和3（2021）年度

① 把握調査（文献調査）

計画作成に必要な基礎資料として、本市に所在する文化財に関する既往調査資料265点（市史・町史、郷土誌、文化財調査報告書等）を調査し、未指定文化財の抽出を行いました。調査で抽出された未指定文化財2,030件は、分類ごとに整理しました。

② アンケート調査

市内に所在する指定等文化財の所有者・管理者に対してアンケート調査を実施しました。アンケートは、全7問による選択・記述併用式とし、所有・管理する文化財に関する現状（保存状況）、活用（公開）状況、直面する課題、理想像・今後の展望、未指定文化財の所有確認等を問うものとなりました。

アンケートは、協議会による内容確認を経て、令和3（2021）年11月22日に発送し、同年12月20日を締切として返送を依頼しました。収集した意見は整理・分析を行い、本計画の作成に反映しました。

③ ワークショップ

未指定文化財の情報収集を目的とするワークショップ「本庄の暮らし暦を考える」を開催しました〔図2〕。市民の記憶に残る季節ごとの風物詩や行事、暮らし方など、民俗文化財に関する情報を体系的に把握し、それらの変遷や関連性を市民と共有することを目的としました。

ワークショップは、令和3（2021）年11月27日に2回、同年12月4日に1回、計3回を開催し、延べ37名に参加いただきました。収集した情報は整理・分析し、本計画の作成に反映しました。

2) 令和4（2022）年度

① ヒアリング調査

文化財の保存・活用に関わる3つの団体に対し、ヒアリング調査を行いました。ヒアリング調査は、令和4（2022）年11月16日、17日に実施しました。

調査では各団体における活動趣旨や内容、文化財の保存・活用に関する目標、将来像とその課題、今後の活動に向けて望まれる補助・支援・仕組みについて意見をうかがい、整理した内容を本計画の作成に反映しました。



図2 ワークショップの募集

② パブリックコメント

本庄市文化財保存活用地域計画（案）（以下、計画（案）とする。）に対する意見を募集するために、パブリックコメントを実施しました。計画（案）の公表は本庄市ホームページで行い、意見の募集は令和5（2023）年1月11日から2月9日までとしました。

意見の提出は、市内在住・在勤・在学者、市内に事務所又は事業所を有する方、市税の納税義務を有する方、この事業に利害関係を有する方を対象とし、「意見提出用紙」に必要事項を記入のうえ、直接又は郵送・ファクス・メールで本庄市文化財保護課への提出を求めました。

期間中、計画（案）の記載内容に寄せられた意見については、市の考え方及び修正案を整理し、計画（案）と同じ方法で公開を行いました。

5 計画期間

本計画の計画期間は、令和5（2023）年度から令和14（2032）年度までの10か年とします〔図3〕。

令和10（2028）年度より上位計画の「本庄市総合振興計画」が次期計画へ移行するため、令和9（2027）年度末までに上位計画と整合性を図るための中間評価を行います。

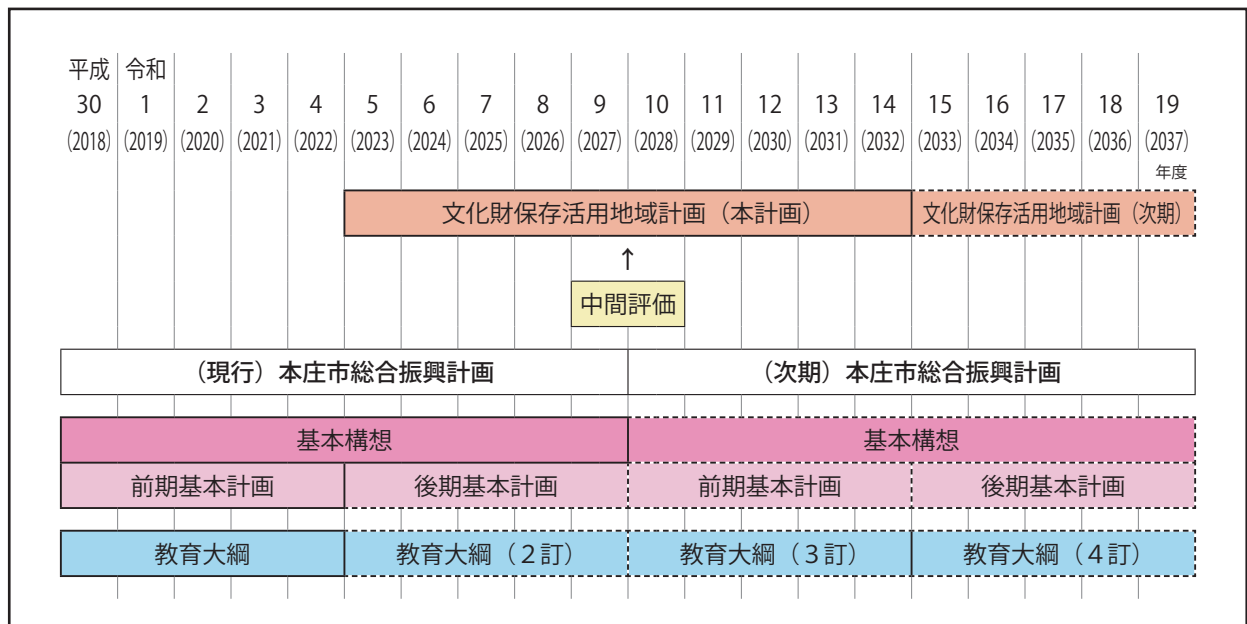


図3 上位計画・関連計画等の計画期間

6 計画の進捗管理と自己評価の方法

本計画の確実な実施のため、前項で述べた中間評価（自己評価）を令和9（2027）年度に行い、計画の進捗状況を確認し、上位計画である「本庄市総合振興計画」（次期計画）との整合性を検証します。検証結果は、今後設置予定の協議組織に報告し、指導・助言を踏まえて修正作業を行います。

本計画に定める文化財の保存・活用の取組を効果的に進めるためには、進捗管理を適切に行う必要があります。文化財の保存・活用に関するKPI（重要業績評価指標）を定め、定めた期間に対する指標と目標値の達成状況を確認します。目標値が達成されないものについては、状況に応じて事業等の改善又

は目標値の再検討（見直し）を図り、計画の確実な推進に努めます。

進捗管理と自己評価に伴い計画の軽微な変更を行う必要がある場合は、当該変更の内容について、埼玉県を經由して文化庁へ報告を行います。また、重大な変更を行った場合は、必要に応じて文化庁に変更の認定を受けることとします。

※認定を受けた地域計画の変更

認定を受けた地域計画を変更する場合は、軽微な変更を除き、文化庁長官による変更の認定が必要である（文化財保護法第183条の4）。軽微な変更とは、次に掲げる変更以外の変更をいう。

- ・ 計画期間の変更
- ・ 市町村の区域内に存在する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更
- ・ 地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更

【出典／文化庁：文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画・保存活用計画の策定等に関する指針、最終変更：令和3（2021）年6月】

※「地域計画」の文言は「文化財保存活用地域計画」に読み替える。

7 計画の対象（文化財の定義）

文化財保護法では、文化財を「有形文化財」「無形文化財」「民俗文化財」「記念物」「文化的景観」「伝統的建造物群」の6類型と定義しています（第2条）。そのほかに、土地に埋蔵されている文化財を「埋蔵文化財」（第6章）、文化財の保存・修理に必要な伝統的技術・技能を「文化財の保存技術」（第10章）と呼び、保護の対象としています〔表2〕〔図4〕。

一般的に、文化財という用語は、国や地方公共団体により指定などを受け、保護の措置が図られているものとして捉えがちですが、文化財保護法に規定されている本来の文化財とは、指定などの措置がとられているか否かにかかわらず、歴史上又は芸術上などの価値が高い、あるいは人々の生活の理解のために必要な全ての文化的所産を指しています。

本計画では、文化財保護法に規定されているものに加えて、地域の人々が大切にし、守り伝えたいと考える歴史や文化にまつわる様々な物事を「文化財」として広く捉えます。

表2 本計画における文言の定義

文言	定義	根拠等
文化財	文化財保護法第2条に定められた6つの類型に該当するもの。	文化財保護法（昭和25（1950）年法律第214号）
	指定等の措置がとられているか否かにかかわらず、歴史上または芸術上などの価値が高いあるいは人々の生活の理解のために必要なすべての文化的所産。	文化審議会文化財分科会企画調査会：「文化審議会文化財分科会企画調査会報告書」平成19（2007）年10月
	指定等文化財	右に示した法令の規定に基づき指定・選定・選択・登録された文化財を指す。
未指定文化財	上述の文化財のうち、法令の規定に基づいた指定・選定・選択・登録を受けていないものを指す。	本庄市文化財保護条例（平成18（2006）年市条例99号）
調査	「文化財を調べること」「文化財に関する情報収集」を指し、本計画ではその手法によって以下のように大別する。	—
把握調査	地域に所在する未指定文化財を含めた多様な文化財を総合的に調査・把握すること。	文化庁：「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画・文化財保存活用計画の策定等に係る指針」平成31（2019）年3月4日
	既往文献では「所在調査」「総合調査」などとも記す。	—
詳細調査	個別の文化財について、由緒・沿革、年代、概要・特徴などを詳しく調べる。既往文献では「二次調査」などとも記す。	—
追跡調査	把握調査・詳細調査で所在や特徴が明らかとなった文化財が、その後どのような経緯を辿っているか、現在どのような状況になっているか調べる。	—
保存	主に、文化財としての価値を後世に向けて確実に維持すること。	文化審議会：「文化財の確実な継承に向けたこれからの時代にふさわしい保存と活用の在り方について（第一次答申）」平成29（2017）年12月8日
活用	主に、文化財としての価値を踏まえ適切に現代社会に生かすこと。	

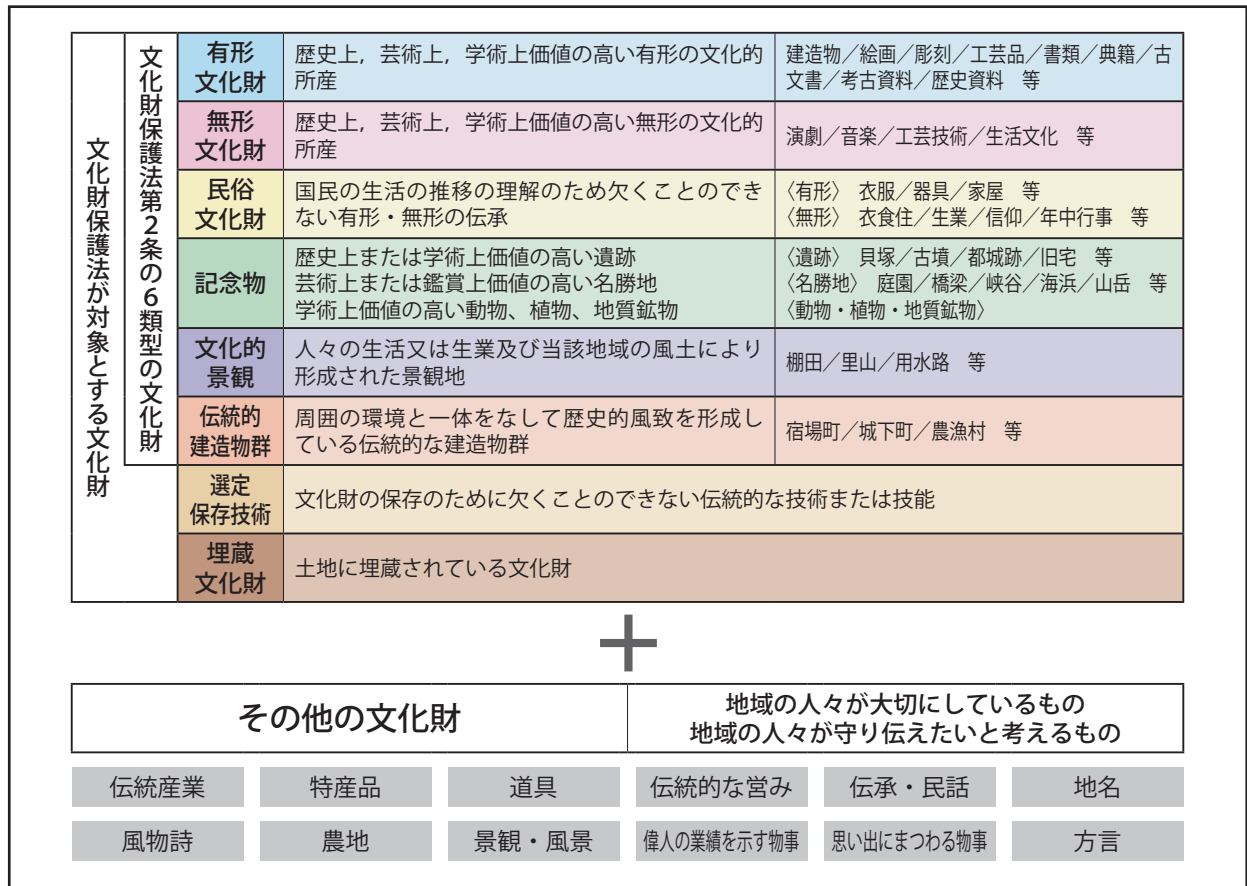


図4 本計画で対象とする「文化財」

第1章 本庄市の概要

1 自然的・地理的環境

1-1 位置

本市は埼玉県の北西に位置し、面積は89.69km²、人口は約7万8千人です。東は深谷市・美里町、西は上里町・神川町、南は長瀨町・皆野町、北は利根川を挟んで群馬県伊勢崎市に接しています〔図1-1〕。

東京からは80km圏内で、JR高崎線、八高線、上越・北陸新幹線、関越自動車道本庄児玉インターチェンジや国道17号・254号・462号などの主要道が縦横に走り、東京と上信越・北陸方面を結ぶ交通の要衝となっています。平成16（2004）年3月の上越新幹線本庄早稲田駅の開業に伴い、本市と東京駅は約50分で結ばれています。



図 1-1 本庄市の位置

1-2 気候

本市は、夏に雨量が多く冬に少ない東日本型気候で、自然災害が少なく水と緑豊かな自然環境に恵まれた地域です。

熊谷地方気象台の観測データ（直近20年）によると、年間平均気温は15.7℃で〔表1-1〕、夏季の平均最高気温は、8月におよそ38℃まで上がります。一方、冬季の平均最低気温は1月におよそ-4℃を記録するなど、年間を通して気温較差の大きい地域です〔表1-2・図1-2〕。年間平均積算降水量は105.6mmで、9月（月間平均積算降水量191.9mm）に降水量が最大となります〔表1-3・図1-3〕。

市域の北部には田畑が広がっており、風をさえぎる物がないため、秋冬には西風が強く吹きます。また、南部の山地によって、夏には湿度が高くなります。冬の強風は空っ風と呼ばれ、土埃を巻き起こすことが気候的特徴として知られています。そのため、この地方の民家は周囲を屋敷林（桧ぐね）で囲むことで強風・土埃を防いでいます。

表 1-1 年間平均気温（単位：℃）と年間平均積算降水量（単位：mm）

年	平均気温	平均積算降水量
平成 15 年 (2003)	14.9	102.5
平成 16 年 (2004)	16.1	109.7
平成 17 年 (2005)	15.0	99.2
平成 18 年 (2006)	15.3	119.9
平成 19 年 (2007)	15.8	89.0
平成 20 年 (2008)	15.4	116.0
平成 21 年 (2009)	15.5	92.6
平成 22 年 (2010)	15.8	108.9
平成 23 年 (2011)	15.4	110.4
平成 24 年 (2012)	15.1	89.9
平成 25 年 (2013)	15.6	104.3
平成 26 年 (2014)	15.3	115.6
平成 27 年 (2015)	16.0	111.3
平成 28 年 (2016)	15.9	108.4
平成 29 年 (2017)	15.4	109.0
平成 30 年 (2018)	16.4	88.0
令和元年 (2019)	16.1	121.7
令和 2 年 (2020)	16.2	113.7
令和 3 年 (2021)	16.0	98.1
令和 4 年 (2022)	16.0	104.3
20 年間の平均	15.7	105.6

【出典／気象庁（観測地点：熊谷）】

月	平均気温	平均最高気温	平均最低気温
1月	4.3	15.9	-4.3
2月	5.3	19.2	-3.5
3月	9.0	22.7	-1.0
4月	13.9	27.8	2.8
5月	19.2	31.8	8.9
6月	22.7	33.8	14.1
7月	26.1	36.8	18.9
8月	27.5	37.7	19.8
9月	23.6	34.4	14.6
10月	17.7	29.4	8.2
11月	12.1	23.2	1.8
12月	6.6	18.2	-2.5

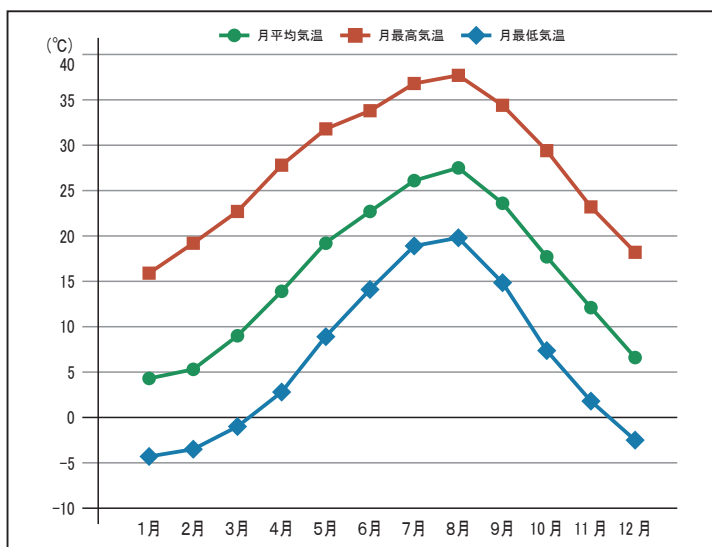


表 1-2・図 1-2 月別平均気温・平均最高気温・平均最低気温（単位：℃）

月	平均日最大降水量	平均月積算降水量
1月	19.1	30.5
2月	19.1	36.3
3月	25.5	66.0
4月	32.6	89.7
5月	41.1	108.3
6月	49.7	146.8
7月	59.2	174.4
8月	50.8	146.8
9月	57.9	191.9
10月	68.9	178.6
11月	26.7	57.9
12月	23.3	40.5

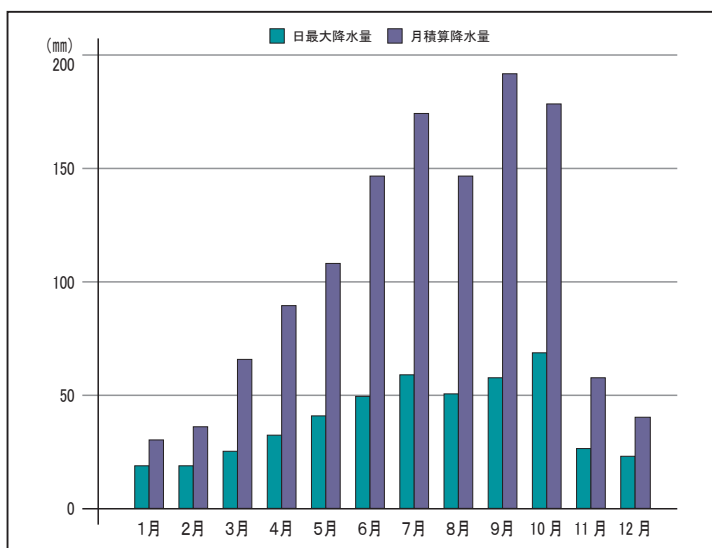


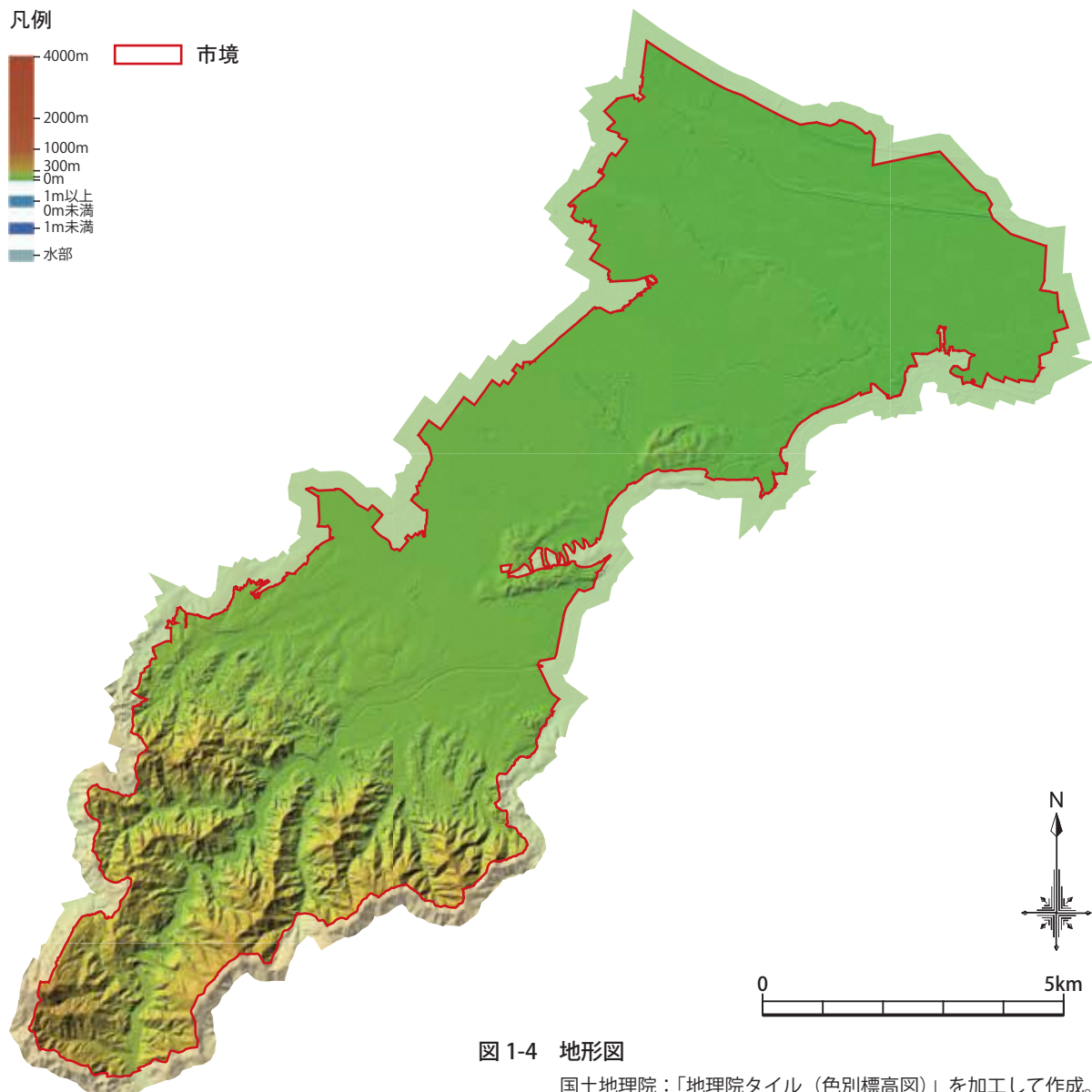
表 1-3・図 1-3 月別平均日最大降水量・平均月積算降水量（単位：mm）

【出典／気象庁（観測地点：熊谷）】 ※統計期間は平成 15（2003）～令和 4（2022）年。

1-3 地形

本市の地形は、北に利根川が流れ、北部の低地から南に向かって台地・丘陵地を経て山地へ移り変わるという特徴を有しています[図1-4]。北部から中央部の地形は、概ね平坦で安定した地盤を有しており、北部利根川沿いの低地(妻沼低地)には肥沃な沖積平野が広がります。また、低地から南にかけて台地(本庄台地)となり、丘陵地(児玉丘陵)へと連なります。長瀨町などとの境界に近い南西部は、陣見山など500m級の山々が連なる山地(上武山地)となります[図1-5]。

低地は、水田の適地であるとともに古くから洪水が多発する地域でした。一方、台地及び丘陵地は、表土が関東ローム層に厚く覆われ、降雨が地下深くに浸透するため、地下水位が深く水を利用することが困難でした。この台地と丘陵地に広がる原野は、古代から近世にかけて「武蔵野」と呼ばれていました。



1-4 地質

本市を含む高崎・深谷地域の地質は、西は神流川扇状地堆積物、東は荒川扇状地堆積物によって境され、南は三波川変成岩類、北は利根川扇状地堆積物で占められています。地形と地質との関係を見ると、山地・丘陵地、台地、低地で地質区が異なっています。山地は、古・中生界の三波川変成岩とそれを貫く蛇紋岩などからなり、丘陵地には新第三系中新統(富岡層群)が発達しています。一方で、台地には

更新統の粘土・礫層と関東ローム層が、低地には更新統の砂礫層・粘土層を不整合に被って完新統未固結堆積物がそれぞれ発達しています [図 1-5・表 1-4]。

三波川変成岩は、青みがかった岩肌に白い模様を持ち、打ち水をしたときに美しい表情を見せることから日本庭園の枯山水や侘や寂を表現する上で欠かせない庭石となっており、江戸時代には既に珍重されていたようです。また、間瀬峠付近地の結晶片岩は、片理が発達しているため剥離性があり加工も容易なので、古くから古墳の石棺や板石塔婆（板碑）・建築石材等に使われてきました。

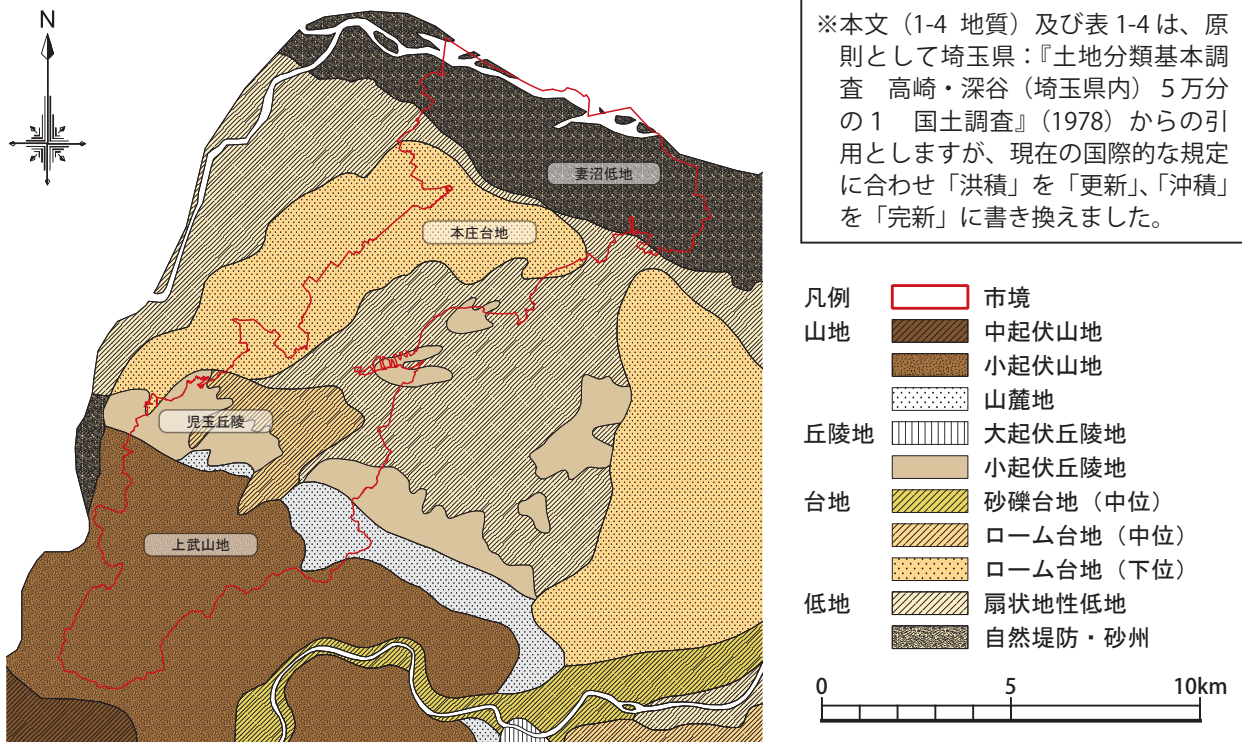


図 1-5 地形分類図

国土交通省：「国土数値情報（20 万分の 1 土地分類基本調査データ）」を加工して作成。

表 1-4 高崎・深谷地域の地質層序

時代		地域		
		山地・丘陵地	台地	低地
新生代	第四紀			
	完新世	崖錐・麓斜面の破屑物・現河床の砂礫層	[谷地田] 泥質礫堆積物	砂泥堆積物 砂質堆積物 泥質礫堆積物
	更新世	関東ローム	関東ローム 立川ローム相当層 武蔵野ローム相当の粘土・礫層	一部埋没した関東ローム 東京層 埼玉層 古利根層
	更・鮮	[生野山・浅見山・山崎山・仙元山各残丘] 浅見山砂礫層		
第三紀	中新世	富岡層群 ・板鼻層 ・吉井層 ・庭谷層 ・原田篠層 (※) 露頭にはあらわれず	・井戸沢層 (※) ・小幡層 (※) ・牛伏層	
中生代		跡倉層	蛇紋岩貫入 三波川変成岩 (=長瀨系)	
古生代				

【出典／埼玉県：『土地分類基本調査 高崎・深谷（埼玉県内）5 万分の 1 国土調査』（1978）】

1-5 自然環境

1) 動物・植物

過去の調査より、本市には [表 1-5] に示す動物の生息が確認されています。埼玉県が実施した調査（平成 23（2011）年度）では、カワラサイコ群落、キバナノアマナ群落、クロモ群落、ミズオオバコ群落、サンショウモ群落といった希少植物が確認されました。また、動物ではチュウヒ、ハヤブサ、サシバ等の重要な種（注目種）の生息が確認されています。しかし、近年では市街地拡大や農地減少等の環境変化に伴い、これらの重要な種の生息地や個体数が減少していると考えられています。

本市には、鳥獣の保護繁殖等を目的とした区域が定められており、県指定鳥獣保護区として秋平、^{あきひら}若泉公園、^{わかいずみ}児玉白楊高等学校の3か所 [図 1-6]、特定猟具使用禁止区域に大久保山、^{おおくぼやま}坂東大橋、本庄、^{ほんどうおほし}児玉、こだまゴルフクラブの5か所が指定されています。

近年では、希少な動植物の個体数の減少をはじめとする生態系の変化が生じている中で、アライグマ等の外来動物やアレチウリ等の外来植物の増加による在来種への影響が懸念されています [表 1-6]。

表 1-5 市内で確認されている動物

区分	種類
哺乳類	モグラ、アブラコウモリ、ノウサギ、アカネズミ、タヌキ、イタチ、イノシシ、アナグマ、ハクビシン、アライグマ、ジネズミ、ヒナコウモリ、カヤネズミ、キツネ、ニホンカモシカ 等
鳥類	アオアシシギ、アオサギ、イソシギ、オナガガモ、オナガ、トビ、カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、カルガモ、コガモ、マガモ、オオタカ、ノスリ、コジュケイ、キジ、キジバト、カワセミ、アカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カッコウ、ハシボソガラス、チョウゲンボウ 等
爬虫類	カナヘビ、ニホントカゲ、アオダイショウ、シマヘビ、ヤマカガシ、マムシ 等
両生類	アマガエル、トウキョウダルマガエル、ウシガエル、ツチガエル 等
魚類	ウグイ、オイカワ、タモロコ、ニゴイ、コイ、ギンブナ、ドジョウ、メダカ、サケ、アユ、ウナギ、ナマズ、ヨシノボリ、ヒガイ、ゲンゴロウブナ、ハス 等
昆虫類	アジイトトンボ、ギンヤンマ、キンヒバリ、ヒメイトアメンボ、ムラサキシジミ、クロヒカゲ、ドウガネブイブイ、カナブン、アカハナカミキリ、コエンマムシ、ヒメマイマイカブリ、イネミズゾウムシ、コガタシマトビケラ、シロハラコカゲロウ、ユスリカ、ミズムシ 等

【出典／本庄市教育委員会：『本庄歴史伍』 他】

表 1-6 市内で確認されている外来植物

区分	種類
特定外来生物	アレチウリ、オオキンケイギク
要注意外来生物	ハリエンジュ、メマツヨイグサ、ヘラオオバコ、ブタクサ、オオブタクサ、クイモ、セイタカアワダチソウ
外来生物	オオケダテ、ゴウシュウアリタソウ、オランダガラシ、ニワウルシ、ヒルザキツキミソウ、マルバルコウ、ハルシャギク、チチコグサモドキ、セイバンモロコシ、ナガミヒナゲシ

*埼玉県における 2008・2009・2010 年度調査に基づき生育が確認された外来種。

【出典／埼玉県：外来植物分布図（2011）、埼玉県：侵略的外来生物県民参加モニタリング調査結果】

2) 森林

本市の森林は、令和 2（2020）年度時点で市域の総面積の約 3 分の 1 にあたる 2,415ha を占めており、その多くが民有林です [表 1-7]。市南部には水源となる豊かな森林が育まれており、東西には県立上武自然公園に指定されている上武山地が広がるとともに、南西部には陣見山などの 500 m 級の山々が連なります。

児玉地域では、森林組合が中心となって間伐や下刈り等の森林の維持管理や林業基盤整備を行っており、森林を資源として活用するための取組が進められています。

表 1-7 現況森林面積（単位：ha）

国有		1	
民有	公有	都道府県	7
		森林整備法人	132
		市区町村	2
私有		2,273	
合計		2,415	

【出典／農林水産省：農林業センサス 2020（林業編）】

3) 水系

本市には北を流れる利根川をはじめ、利根川の支流である備前渠川・元小山川・小山川・男堀川・女堀川・御陣場川、このほか多くの用水路が流れています [図 1-6]。かつては本庄地域市街地に所在する段丘崖から豊かな湧水がありましたが、市街化に伴い地表面のアスファルト等が増加したことで地下への雨水浸透が妨げられ、河川流量や湧水量は激減しました。平成 24 (2012) 年以降は、埼玉県事業による河川改修工事が元小山川において進められ、水質改善等を目的とした整備が行われました。

凡例

- 市境
- 一級河川 (指定区間)
- その他の主な河川・用水路
- 埼玉県鳥獣保護区
- 県立上武自然公園 (本庄市範囲のみ図示)
- 第2種特別地域
- 第3種特別地域
- 普通地域

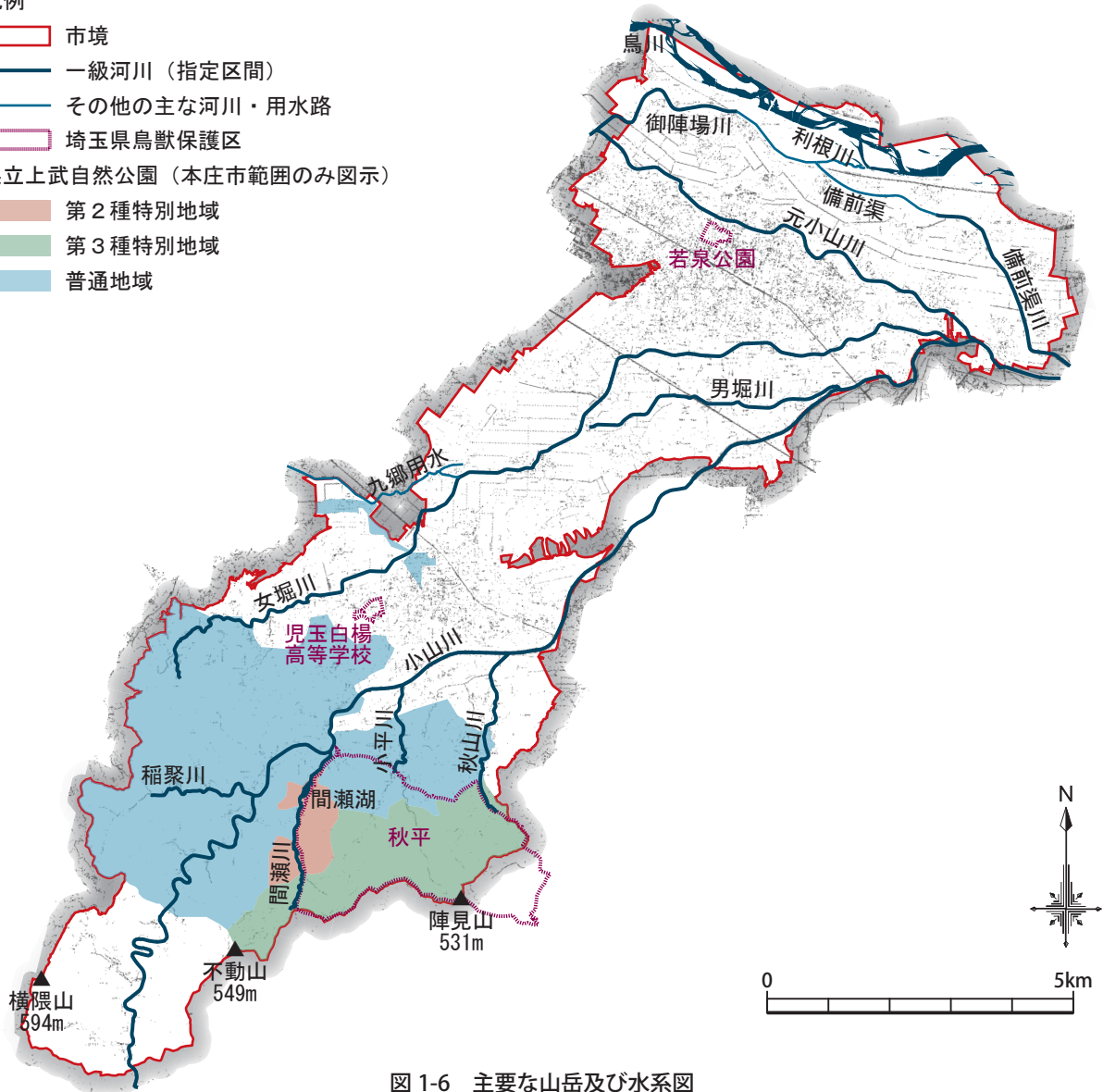


図 1-6 主要な山岳及び水系図

4) 巨木・樹林地

本計画における巨木とは、昭和 63 (1988) 年に環境庁が実施した巨樹・巨木林調査での定義「地上から 130cm の位置で幹周 (幹の円) が 301cm 以上の樹木を対象とする」に則したものを指します。金鑽神社、城山稲荷神社、八幡神社等の神社・寺院を中心に 34 か所 78 本以上が確認されており、ケヤキが最も多く、そのほかにもイチョウやクスノキ、カヤなどがあります [表 1-8]。これらの巨木は、市内の緑の中でも特に地域の象徴的な存在となっています。また、かつては、雑木林や屋敷林をはじめとする樹林地が人々の生活に欠かせない資源の生産及び採取の場として形成されてきましたが、近年は十分な管理が行き届かず、荒廃や減少傾向にあります。

表 1-8 市内で確認されている巨木

所在地	本数	樹種	所在地	本数	樹種
愛宕神社	2	ケヤキ	諏訪神社（上仁手）	1	ケヤキ
飯玉神社（長沖）	3	ケヤキ	諏訪神社（仁手）	3	ケヤキ
飯玉神社（沼和田）	6	ケヤキ、サイカチ	石神神社	2	ケヤキ、スギ
金鑽神社（千代田）	3	カヤ、ケヤキ、モミ、クスノキ	大正院	1	ケヤキ
金鑽神社（西富田）	2	ケヤキ	長泉寺	10 ≤	フジ
上若電神社	2	クスノキ	八幡大神社（宮戸）	2	ケヤキ
記述なし（児玉町）	5	ケヤキ	八幡大神社（牧西）	1	ケヤキ
記述なし（中央）	2	ケヤキ	日枝神社	1	ケヤキ
記述なし（西今井）	1	ケヤキ	藤田小学校	2	クスノキ
記述なし（本庄）	1	イチョウ	宝輪寺	2	クスノキ、カヤ
記述なし（本庄市）	2	ケヤキ	佛母寺	2	イチョウ、クスノキ
記述なし	1	ハルニレ	万年寺※	1	ケヤキ
児玉高校	2	ケヤキ	御嶽教児玉太気教会	2	ケヤキ
宗真院	1	ケヤキ	八坂神社	3	ケヤキ
正一位稲荷	2	ケヤキ	利益寺	1	イチョウ
正観寺	3	クロマツ、ケヤキ	龍清寺	1	カヤ
城山神社	3	ケヤキ	若泉稲荷神社	1	ケヤキ

【出典／環境省：巨樹・巨木林調査データベース】（※原文ママとします。）

1-6 景観

本市の特徴の一つに豊かな自然環境があります。北部の利根川沿いの平野部、南部の秩父山地に連なる丘陵地・山間部といった多様性に富んだ自然環境で構成され、間瀬湖などの湖沼や利根川・小山川などの河川、浅見山丘陵など、首都圏の中でも貴重な自然を残しています。また、市内各所から見える赤城山や浅間山、秩父山地などの美しい山並みは、本市の地域資源になっています。

2 社会的環境

2-1 人口・世帯

本庄市の人口は、令和2（2020）年10月1日時点で78,569人に及びます。近年の人口推移を見ると〔表1-9・図1-7〕、平成12（2000）年の82,670人をピークに減少へ転じ、平成27（2015）年には77,881人と15年間で約6%減少しています。令和2（2020）年には微増に転じたものの、将来推計人口を参照すると、今後も人口は減少し、2045年には約62,000人になると予想されています。これは、令和2（2020）年の人口78,569人に対して約21%減少となります。

世帯数は、増加傾向にあります。一方、1世帯あたりの人員は、昭和55（1980）年の3.67人から令和2（2020）年には2.38人と落ち込んでいます。

年齢3区分別人口の構成比を見ると〔表1-10・図1-8〕、年少人口は昭和55（1980）年以降、生産年齢人口は平成2（1990）年以降減少傾向にあります。老年人口（65歳以上の高齢者）は昭和55（1980）年以降増加傾向にあり、令和2（2020）年時点では、全体の29.3%を占め、超高齢社会（高齢化率21%超）に突入しています。

このような人口の減少と急速な少子高齢化は、既に課題となっている文化財を保存・継承する人口の減少、担い手不足の問題に深刻な影響を及ぼすと想定されます。

表1-9 人口・世帯推移（単位：人・戸）

年次	総人口	旧本庄市	旧児玉町	世帯数	人員/世帯
昭和30年 (1955)	59,876	39,527	20,349		
昭和35年 (1960)	60,117	40,992	19,125		
昭和40年 (1965)	61,296	43,032	18,264		
昭和45年 (1970)	65,187	47,116	18,071		
昭和50年 (1975)	69,294	51,090	18,204		
昭和55年 (1980)	72,089	53,531	18,558	19,652	3.67
昭和60年 (1985)	75,449	56,495	18,954	21,344	3.53
平成2年 (1990)	78,551	59,098	19,453	23,969	3.28
平成7年 (1995)	81,662	60,806	20,856	26,190	3.12
平成12年 (2000)	82,670	61,461	21,209	27,939	2.96
平成17年 (2005)	81,957	60,807	21,150	29,290	2.80
平成22年 (2010)	81,889			32,217	2.54
平成27年 (2015)	77,881			31,004	2.51
令和2年 (2020)	78,569			33,033	2.38
2025 (予測)	73,914				
2030 (予測)	71,356				
2035 (予測)	68,516				
2040 (予測)	65,356				
2045 (予測)	61,994				
2015/2000 比	94.2%				
2045/2020 比	78.9%				

【出典/人口・世帯数：国勢調査 予測人口：国土技術政策総合研究所】

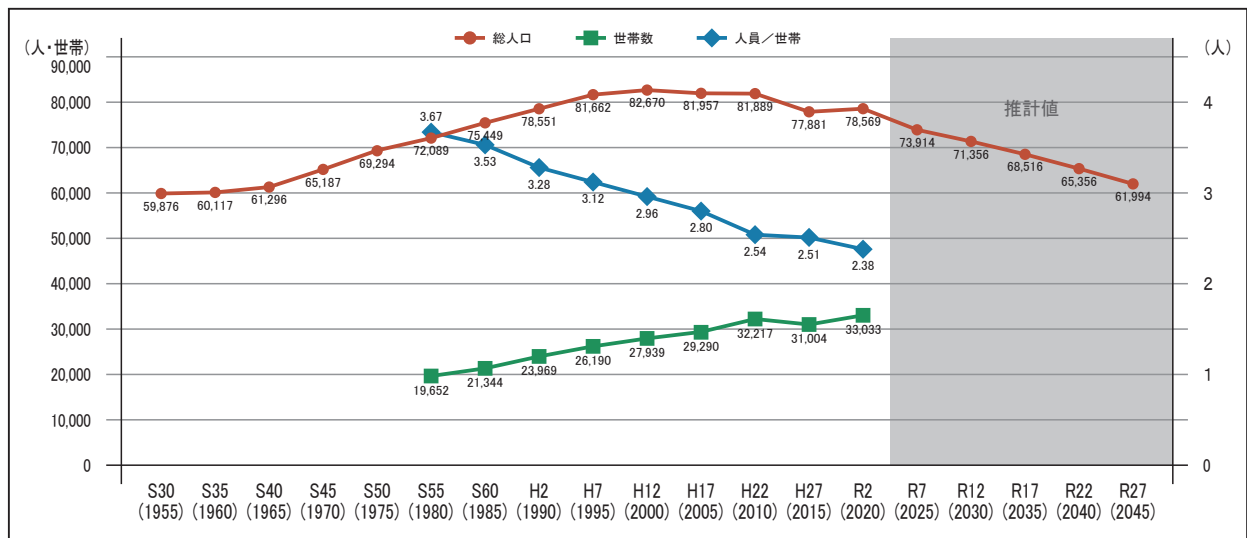
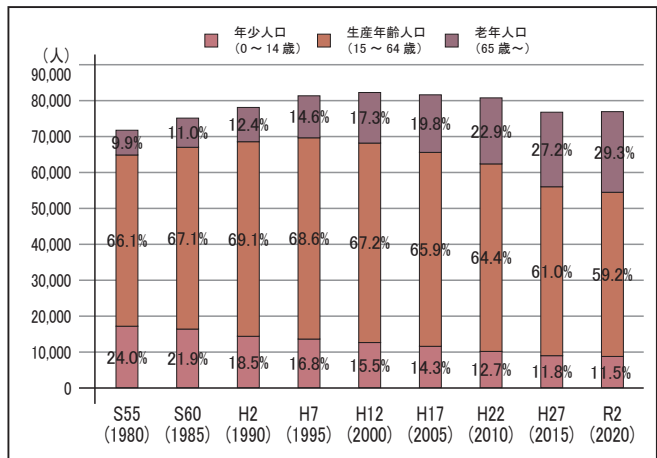


図1-7 本庄市の総人口・世帯数の推移（単位：人）

年次 (和歴)	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
昭和55年	17,305	24.0	47,671	66.1	7,099	9.9
昭和60年	16,514	21.9	50,603	67.1	8,332	11.0
平成2年	14,500	18.5	54,168	69.1	9,752	12.4
平成7年	13,733	16.8	56,026	68.6	11,903	14.6
平成12年	12,761	15.5	55,531	67.2	14,288	17.3
平成17年	11,709	14.3	53,986	65.9	16,238	19.8
平成22年	10,293	12.7	52,199	64.4	18,592	22.9
平成27年	9,103	11.8	47,028	61.0	20,965	27.2
令和2年	8,894	11.5	45,696	59.2	22,661	29.3



【出典/国勢調査】
 ※「年齢不詳」の区分があるため、各年齢区分の合計と表1-9の総人口は一致しません。

表1-10・図1-8 年齢3区分別人口の推移 (単位: 人・%)

2-2 産業

就業者総数は、平成7（1995）年以降減少傾向にあります [表1-11・図1-9]。就業者総数に占める産業別人口の割合を見ると、第一次産業は減少傾向にあり、現在は5%を割り込んでいます。第二次産業は平成2（1990）年をピークに減少傾向にあり、現在は約30%となります。第三次産業の占める割合が最も大きく、平成2（1990）年以降増加傾向にあり、現在は50%を大きく超えています。

表1-11 産業別就業者数の推移

年次	第一次産業		第二次産業		第三次産業		分類不能産業		総数	
	人	構成比 (%)	人	構成比 (%)	人	構成比 (%)	人	構成比 (%)	人	構成比 (%)
昭和55年 (1980)	5,711	16.0	12,826	35.8	17,207	48.1	42	0.1	35,786	100.0
昭和60年 (1985)	4,873	13.0	14,650	39.2	17,807	47.6	56	0.2	37,386	100.0
平成2年 (1990)	4,020	10.0	16,583	41.2	19,529	48.6	94	0.2	40,226	100.0
平成7年 (1995)	3,587	8.5	16,611	39.6	21,658	51.6	130	0.3	41,986	100.0
平成12年 (2000)	2,958	7.2	16,067	39.0	21,761	52.8	417	1.0	41,203	100.0
平成17年 (2005)	2,703	6.6	14,681	36.1	22,624	55.6	684	1.7	40,692	100.0
平成22年 (2010)	2,038	5.1	12,939	32.4	21,920	54.8	3,095	7.7	39,992	100.0
平成27年 (2015)	1,836	4.9	12,258	32.6	21,374	56.9	2,087	5.6	37,555	100.0
令和2年 (2020)	1,755	4.6	12,366	32.5	22,412	59.0	1,469	3.9	38,002	100.0

【出典/国勢調査】

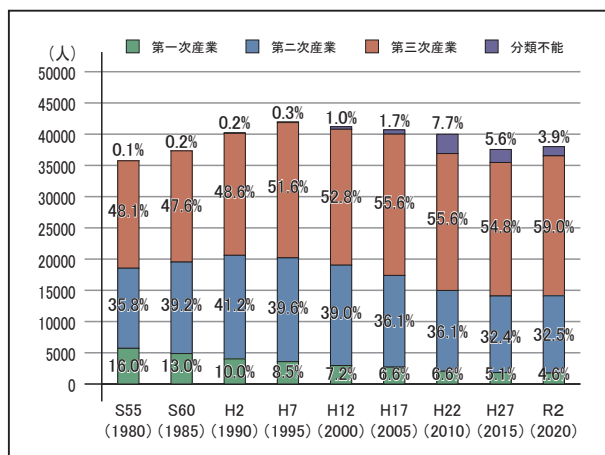


図1-9 産業別就業者数の推移

1) 第一次産業

本市は、水と緑に恵まれた肥沃な大地に支えられた首都圏近郊型農業が盛んに行われています。特に、ねぎ、ブロッコリー、きゅうり、なす、たまねぎ等の野菜や、ポインセチア等の鉢物の産地として知られています [表 1-12]。

総農家数は、平成 22 (2010) 年まで 2,000 戸を超えていましたが、平成 27 (2015) 年に大きく減少しています。分類別では、自給的農家は、平成 12 (2000) 年より平成 22 (2010) 年まで増加傾向にありましたが、平成 27 (2015) 年には減少に転じています。販売農家は、専業農家、第一種兼業農家、第二種兼業農家の全てにおいて減少傾向にあります。経営耕地面積は平成 17 (2005) 年を底に現在まで増加傾向にあります [表 1-13・図 1-10]。全体として、農業従事者の高齢化や後継者不足、遊休農地の増加などが課題となっています。

表 1-12 農作物収穫面積の状況 (ha)

年次	稲	麦類	雑穀	いも類	豆類	工芸農作物	野菜類	花き類・花木	その他の作物	計
平成 22 年 (2010)	371	277	2	4	2	1	595	18	6	1,276
平成 27 年 (2015)	414	917	0	2	0	0	458	16	36	1,843
令和 2 年 (2020)	448	1,072	1	x	x	3	538	x	x	2,107

【出典／農林業センサス】

表 1-13 農家数・就業人口・経営耕地面積の推移

年次	農家数 (戸)					就業人口 (人)	平均年齢 (歳)	経営耕地面積 (ha)			
	専業	第1種兼業	第2種兼業	自給的	計			田	畑	樹園地	計
平成 12 年 (2000)	446	425	828	466	2,165	2,736	60.3	750	1,035	33	1,818
平成 17 年 (2005)	444	385	469	889	2,187	1,776	62.1	635	835	18	1,488
平成 22 年 (2010)	401	231	346	1,044	2,022	1,941	64.3	664	907	9	1,580
平成 27 年 (2015)	375	174	221	735	1,505	1,505	65.1	700	922	5	1,627
令和 2 年 (2020)	—	—	—	—	—	—	—	984	886	4	1,874

【出典／農林業センサス】※令和 2 (2020) 年度の統計より専業業別統計や就業人口の統計項目が削除されました。

表 1-14 製造業事業所数・従業者の推移数

年次	事業所数			従業者数
	合計	30人以上	29人以下	
平成 19 年 (2007)	181	56	125	7,876
平成 20 年 (2008)	189	58	131	7,501
平成 21 年 (2009)	164	54	110	6,853
平成 22 年 (2010)	161	54	107	6,483
平成 23 年 (2011)	164	57	107	6,470
平成 24 年 (2012)	158	56	102	6,323
平成 25 年 (2013)	155	56	99	7,304
平成 26 年 (2014)	148	57	91	7,147
平成 27 年 (2015)	—	—	—	—
平成 28 年 (2016)	161	57	104	7,124
平成 29 年 (2017)	145	60	85	7,091
平成 30 年 (2018)	143	61	82	7,430
令和元年 (2019)	143	58	85	7,431
令和 2 年 (2020)	138	56	82	7,129

【出典／工業統計調査】

※平成 27 (2015) 年は国勢調査実施年のため、工業統計調査実施なし。

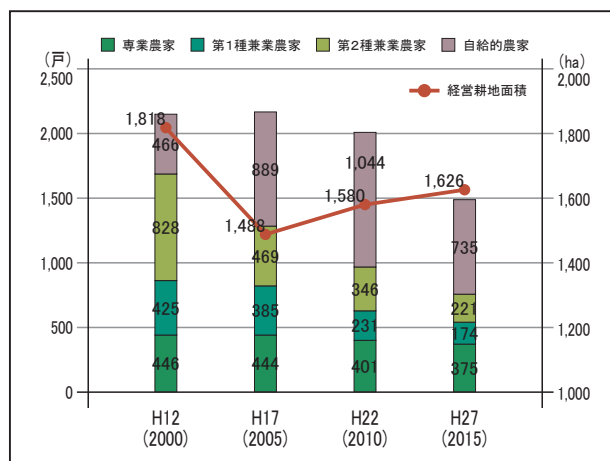


図 1-10 農家数・経営耕地面積の推移

2) 第二次産業

本市では、戦後、積極的に工業団地が造成され、電気・機械などの工業誘致が進みました。近年では、関越自動車道やJR高崎線等の利便性を生かした先端技術等の製造業が基幹産業として位置づけられ、都市の魅力と田園風景が調和した田園都市が形成されつつあります。

工業事業所数は、平成20(2008)年をピークに減少し、平成28(2016)年に一旦増加に転じたものの、現在まで再び減少傾向にあります。従業者数は、平成24(2012)年まで減少が続いたものの、平成25(2013)年に大幅な増加に転じ、以降は7,000～7,500人を推移しています〔表1-14・図1-11〕。

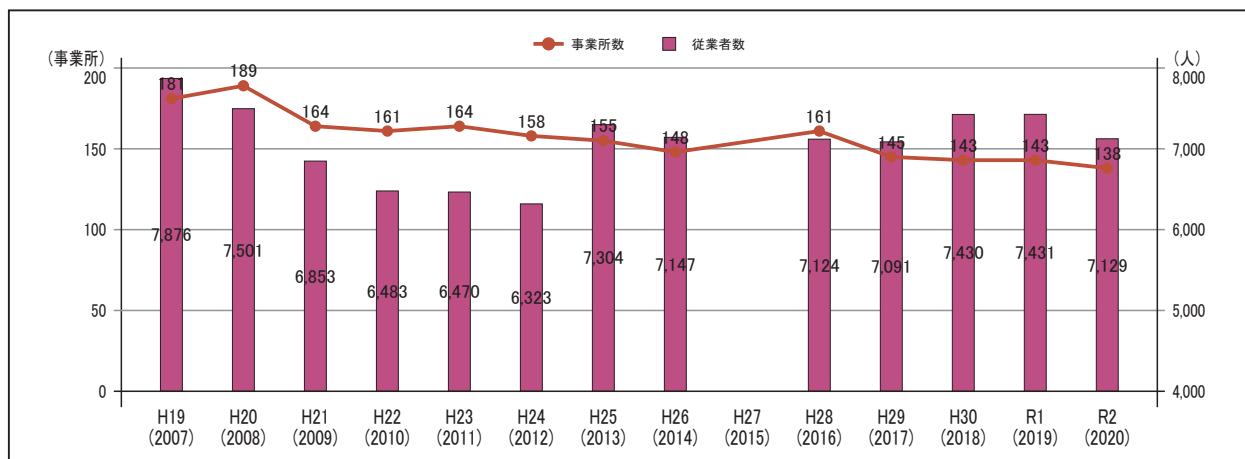


図 1-11 製造業事業所数・従業者の推移数

3) 第三次産業

本庄地域市街地や児玉地域市街地は、かつて街道によって栄えた地域です。現在は、ホテルやマンション、オフィスビルなどが建ち、大手食料品店をはじめとする大型店舗が立地するなど、周辺市町の商業の中心となっています。

商業事業所数は、平成11(1999)年から平成26(2014)年まで減少傾向が続きましたが、平成28(2016)年に増加の兆しが見えます。従業者数は、平成11(1999)年から平成24(2012)年まで減少傾向にありましたが、平成26(2014)年には大きく増加に転じています〔表1-15・図1-12〕。

表 1-15 商業事業所数・従業者数の推移

年次	事業所数			従業者数
	合計	卸売業	小売業	
平成11年 (1999)	1,186	203	983	7,077
旧本庄市	915	161	754	5,519
旧児玉町	271	42	229	1,558
平成14年 (2002)	1,094	178	916	6,568
旧本庄市	853	141	712	5,120
旧児玉町	241	37	204	1,448
平成16年 (2004)	965	156	809	6,299
旧本庄市	746	122	624	4,907
旧児玉町	219	34	185	1,392
平成19年 (2007)	925	140	785	6,244
平成24年 (2012)	670	—	—	4,685
平成26年 (2014)	632	122	510	5,685
平成28年 (2016)	685	123	562	6,067

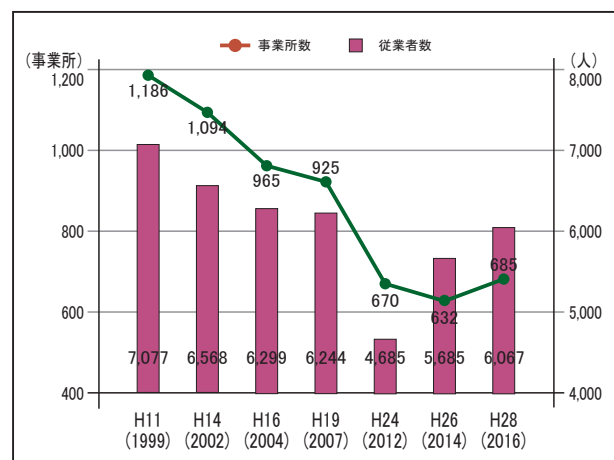


図 1-12 商業事業所数・従業者数の推移

【出典／商業統計調査、平成24年のみ経済センサス活動調査】

2-3 観光客数

東京から80km圏、上越・北陸新幹線の本庄早稲田駅と関越自動車道の本庄児玉ICを有する交通の便があり、歴史文化をはじめ、祭り、イベント、花めぐり、体験スポット、グルメ、特産品などを生かした観光振興に取り組んでいます。

過去10年間の観光客数を見ると、平成26(2014)年の大幅な減少で70万人を割り込みましたが、翌27(2015)年から増加傾向にあり、平成28(2016)年以降は70万人超で推移しています。令和2(2020)年以降は新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、イベント等の中止によって観光客数が激減し、観光客数は約半数に落ち込んでいます[表1-16・図1-13]。

表1-16 年間観光入込客数(延べ人数)

年次(和暦)	観光地点	イベント	合計
平成24年	484,294	274,500	758,794
平成25年	473,575	258,100	731,675
平成26年	378,712	235,000	613,712
平成27年	395,034	261,800	656,834
平成28年	428,487	271,700	700,187
平成29年	436,719	264,400	701,119
平成30年	447,471	275,300	722,771
令和元年	435,110	288,940	724,050
令和2年	349,608	12,800	362,408
令和3年	370,985	27,600	398,585

【出典/埼玉県産業労働部観光課】

※「観光地点」は当該市町村内にある観光施設、「イベント」は祭りなどのイベントの入込客数を合計したものとします。

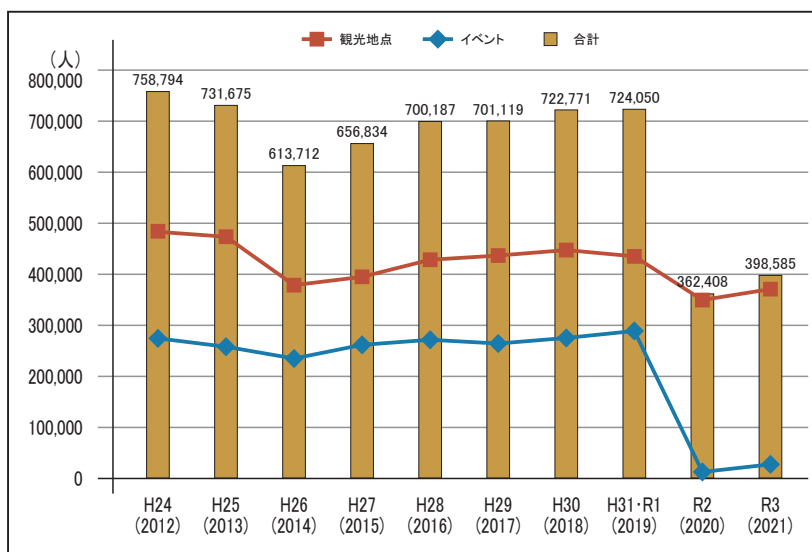


図1-13 年間観光入込客数

2-4 土地利用

本庄駅北口周辺や児玉駅周辺には古くからの市街地が立地しています。近年は、本庄早稲田駅周辺地域において若い世代を中心に着実に人口が増加しており、良好な市街地が形成されています。

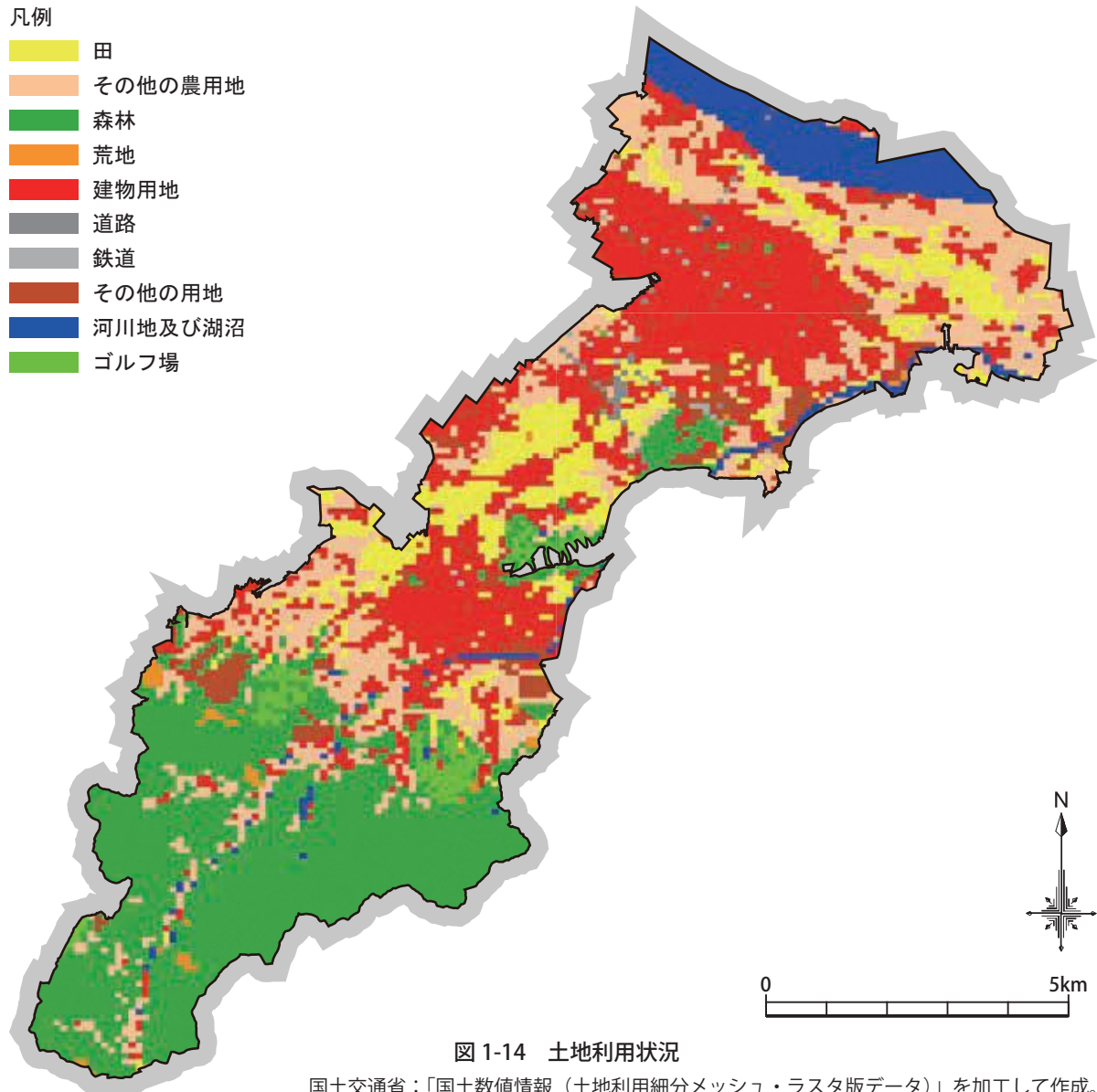
一方、農地は、北部や中部をはじめとして市域全体に広がっています。農業は、本市の地域産業としての役割を果たすとともに、郷土を特徴づける景観や文化を生み出してきました。

このほかにも、本市南西部に所在する陣見山をはじめとする森林や里山、北部の利根川をはじめとする河川など、市域には多様に富んだ自然環境が存在します[表1-17・図1-14]。

表1-17 地目別面積

地目	総面積	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地
面積 (ha)	8,969	771.0	1,613.2	1,598.5	7.4	1,543.5	131.5	520.5

【出典/埼玉県統計年鑑 令和2(2020)年】 ※地目は代表的なものとするため、合計は総面積となりません。



2-5 交通

市域には JR 高崎線、八高線、上越・北陸新幹線、関越自動車道、国道 17 号・254 号・462 号などが通っています。東京―埼玉―群馬、そして上信越、北陸方面を結ぶ交通網の結末点にある本市は、ヒトやモノが集まる交流拠点としての特性を持っています [図 1-15]。

平成 16（2004）年 3 月に上越新幹線本庄早稲田駅が開業したことによって、東京駅からの所要時間は約 50 分に短縮しました。本庄早稲田駅前には早稲田大学を中心に教育・研究施設が整備され、国際化にも対応したゆとりと魅力ある地域づくりが進められています。

平成 23（2011）年 3 月には、群馬・栃木・茨城の 3 県をつなぎ、都心から 100～150km 圏を環状に連結する関東大環状の一部を構成する北関東自動車道が全線開通となりました。東北自動車道、関越自動車道、常磐自動車道が接続されたことにより、首都圏・北陸地方・東北地方の交流が進むことが期待されています。

市内での移動における交通機関としては、民間企業 3 社がそれぞれ路線バスを運行しているほか、本庄駅（JR 高崎線）と本庄早稲田駅（上越・北陸新幹線）間を定期運行するシャトルバス、予約を受けて運行するデマンドバスがあります。

凡例

- 市境
- 高速道路
- ▼ 国道
- 新幹線
- 鉄道（在来線）
- 駅／インターチェンジ

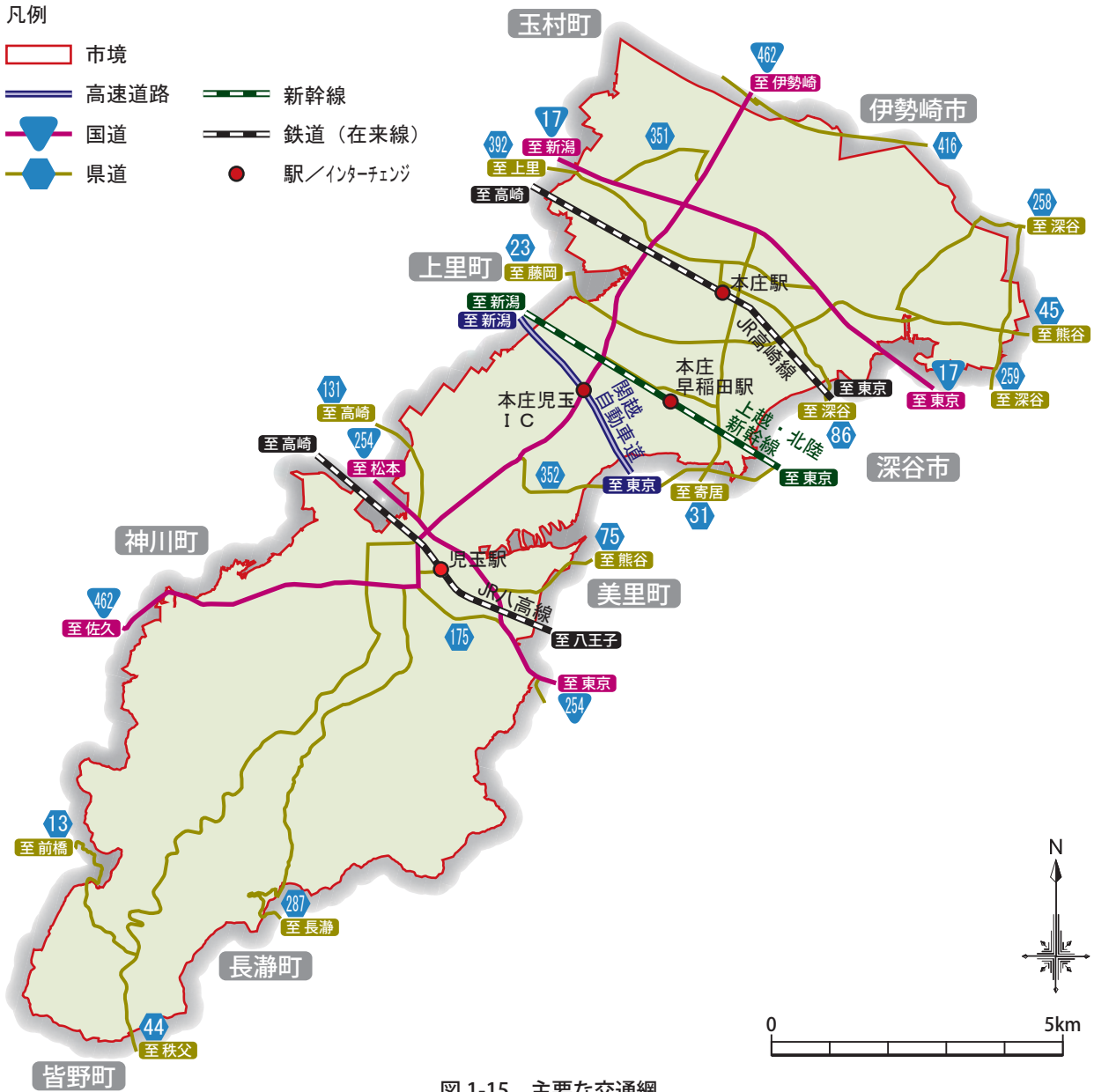


図 1-15 主要な交通網

2-6 文化財関連施設

市が管理する社会活動施設（博物館・資料館・文化施設・図書館・市民活動施設 ※公民館を除く）、産業施設（観光施設など）、文化財収蔵庫を〔表 1-18〕に整理します。

表 1-18 本庄市文化財関連施設一覧

No.	名称	種別	所在地	施設概要
1	本庄早稲田の杜ミュージアム	博物館	西富田 1011	本庄市と早稲田大学が所蔵する文化財を共同で展示する施設。市内出土の考古資料や映像、年表から本庄市の歴史をたどるほか、早稲田大学の貴重な収蔵品を企画展示。
2	競進社模範蚕室	資料館	児玉町児玉 2514-27	木村九蔵が明治 27（1894）年に建設した養蚕伝習専用の蚕室。内部に養蚕業を紹介する展示。県指定有形文化財。
3	塙保己一記念館 （アスピアこだま内）	資料館	児玉町八幡山 368	塙保己一の遺品及び関係資料（県指定有形文化財）を収蔵展示し、保己一の残した偉業について紹介。
4	本庄市民文化会館	文化施設	北堀 1422-3	市民文化の向上、住民福祉の増進を図るための施設。コンサート等の催し物、会議などで幅広く利用。

No.	名称	種別	所在地	施設概要
5	本庄市児玉文化会館 (セルディ)	文化施設	児玉町金屋 728-2	児玉文化会館・児玉中央公民館・市立図書館児玉分館の機能を持った複合施設。
6	本庄市立図書館	図書館	千代田4丁目 1-9	1階に「おはなしコーナー」、3階に多世代交流室を設け、幅広い年代層の利用に配慮する。
7	本庄市立図書館児玉分館	図書館	児玉町金屋 728-2	本庄市児玉文化会館（セルディ）内に設置。
8	本庄市市民活動交流センター (はにぼんプラザ)	市民活動施設	銀座1丁目 1-1	7つの機能を持つ市民活動交流施設。本庄まつりの前後（8～1月）、展示ホールで山車の展示を実施。
9	本庄市あさひ多目的研修センター	市民活動施設	沼和田 1005	研修室、多目的ホール、調理室があり、市内在住・在勤者が利用。
10	旧本庄商業銀行煉瓦倉庫	市民活動施設	銀座1丁目 5-16	担保の繭や生糸を保管する倉庫として明治29（1896）年建築。1階は交流・展示施設、2階は多目的ホールとして使用。国登録有形文化財。
11	本庄市観光農業センター	観光施設	児玉町小平 653	地元農産物やハンドメイド品などを販売、そば打ち体験、バーベキュー、レンタサイクルなどが体験できる。
12	本庄市ふれあいの里いずみ亭 (地域資源活用総合交流促進施設)	観光施設	児玉町河内 209-1	児玉地域南部に位置する本泉地区の自然環境を生かした地域活性化、農林水産物の展示直売、都市との交流促進などを目的とした施設。
13	本庄市インフォメーションセンター (テラスバ本庄)	その他	駅南2丁目 1-4	JR高崎線「本庄駅」にある観光案内所。市内の情報発信や土産品の販売を行う。
14	旧本庄警察署前収蔵庫	文化財収蔵庫	中央1丁目 2-2	収蔵庫、歴史資料及び報告書等の収蔵
15	旭民具収蔵庫	文化財収蔵庫	都島 904-1	収蔵庫、民具の収蔵
16	太駄文化財収蔵庫	文化財収蔵庫	児玉町太駄 352	収蔵庫、考古資料の収蔵
17	蛭川文化財収蔵庫	文化財収蔵庫	児玉町蛭川 915-12	収蔵庫、考古資料の収蔵
18	下浅見文化財収蔵庫	文化財収蔵庫	児玉町下浅見 867-11	収蔵庫、古文書の収蔵

令和5（2023）年4月より利用開始の施設追加

19	児玉文化財収蔵庫	文化財収蔵庫	児玉町児玉 391	収蔵庫、考古資料の収蔵
----	----------	--------	--------------	-------------

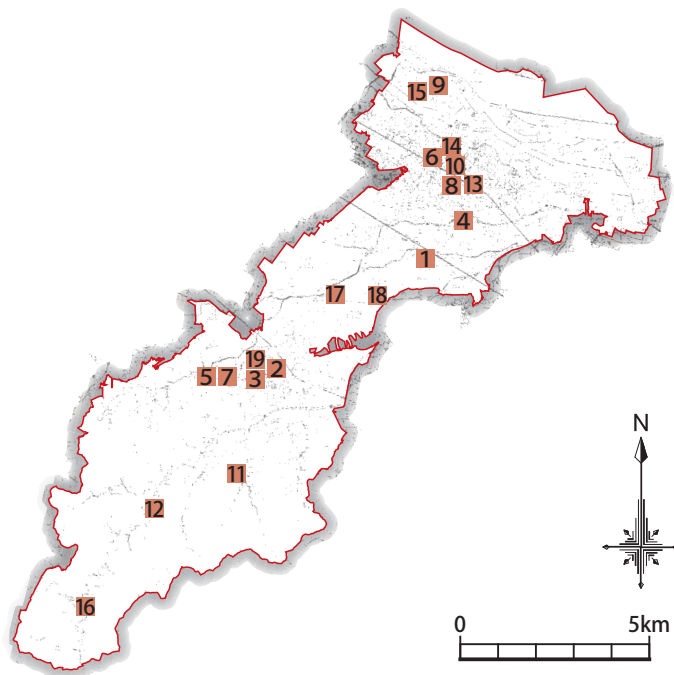


図 1-16 本庄市文化財関連施設 位置図

※図上の番号は表 1-18 の「No.」欄と整合します。

写真 1-1 塙保己一記念館
(アスピアこだま内)写真 1-2 本庄市市民活動交流センター
(はにぼんプラザ)

3 歴史的環境

注 本項では、本市に所在する指定等文化財に関わる文言を太字で示します（但し、文脈の都合上、指定等文化財の正式な名称とは一致しません）。

3-1 原始（旧石器・縄文・弥生時代）

●社会・生活

本庄市域での人類の活動開始時期は、旧石器時代にまで遡ります。浅見山丘陵の浅見山 I 遺跡で発掘された黒曜石の石器群は、約2万年前と推定され、本庄市内では最も古い人類の遺物の一つです。

縄文時代は、日本列島で人々が土器を使い始めた時代で、その始まりは今から1万6,000年ほど前に遡ります。本庄市内でも浅見山 I 遺跡や宍勝寺北裏遺跡、長沖古墳群梅原地区遺跡などで縄文時代草創期の土器片が確認されています。縄文時代前期になると、児玉丘陵を中心に、人々の定住を示す竪穴住居跡を伴った集落遺跡が増えてきます。温暖化によりクリやドングリなどの植物が増え、食料の確保が容易になったことが人口の増加につながったと考えられています。縄文時代中期に入ると、本庄台地上にも集落の進出が認められるようになります。特に、現在の児玉工業団地内で確認された将監塚、古井戸、新宮の3遺跡は、いずれも直径約200mもある大規模環状集落です。続く縄文時代後期や晩期になると、丘陵上の集落が減少し、本庄台地上の環状集落も縮小するなど、遺跡の減少が顕著になります。

弥生時代は、大陸から稲作や金属器の文化が北海道を除く日本列島の各地に伝わり、本格的な農耕社会に移行した時代とされています。本庄市域に弥生文化が波及した時期は、確認できる限り紀元前3世紀頃とやや遅く、弥生時代中期になってからのことでした。集落遺跡はまだ見つかっていませんが、浅見山 I 遺跡では、墓と推定される土坑が発見されています。弥生時代後期になると、浅見山丘陵や児玉丘陵で谷筋の水田化が進み、山根遺跡、真鏡寺後遺跡などの小規模な集落が展開するようになります。

3-2 古代

1) 古墳時代

●社会・生活

古墳時代に入ると、集落遺跡の分布から、女堀川流域に広がる低地帯の開発が進み、集落も増えて、人口が急速に増加した様子が見えます。古墳時代前期には、生産力の向上を背景にして鷺山古墳をはじめとする前方後方墳、前山1号墳などの前方後円墳、北堀新田前2号墓などの前方後方形周溝墓が造られました。

古墳時代中期初頭（4世紀後半）には、石製模造品の優品を出土した万年寺つつじ山古墳をはじめとする方墳や、箱形石槨が検出された万年寺八幡山古墳などの円墳が現れるようになります。やがて中期中頃（5世紀前半）になると、金鑽神社古墳や生野山将軍塚古墳、公卿塚古墳のような直径60mを超える大型円墳が相次いで造られるようになりました。この頃には、女堀川周辺ばかりではなく台地の開発も進み、二本松遺跡や夏目遺跡、夏目西遺跡、薬師堂東遺跡など新たな集落が形成されています。この頃の集落遺跡からは、鉄器生産に関する資料を出土する住居跡も発見されていることから、新しい技術を携えて遠方から移入してきた人々がいたことがうかがえます。

古墳時代後期になると、横穴式石室の普及や副葬品の組合せの変化、多種多様な形象埴輪の出現など、古墳の様相が大きく変化します。秋山庚申塚古墳からは、金銅製馬具をはじめとする多くの副葬品が検出されています。また、小島前の山古墳からは盾持人物埴輪、御手長山古墳からも人物埴輪が出土しています。

古墳時代中期末（5世紀第4四半期）から終末期（7世紀）にかけて、西五十子古墳群、塚本山古墳群、長沖古墳群、秋山古墳群など数十から100基以上の数の古墳からなる群集墳が形成されるようになります。中でも長沖古墳群は、総数200基を超える埼玉県内最大規模の群集墳として知られています。

●産業・生産

古墳時代後期（6世紀）から終末期（7世紀）にかけての集落遺跡は、中期に続いて女堀川流域や本庄台地北縁を中心に広く分布します。それらの中には、7世紀中頃のガラス小玉^{いがた}鑄型を大量に出土した薬師堂東遺跡のように、特殊な手工業製品の生産に関わった集落も認められます。なお、古墳時代終末期の後半になると、従来の集落立地に変化が生じ、伝統的な集落が解体・再編される一方で、台地上に新たな大規模集落が作られるようになります。

2) 奈良・平安時代

●統治・政治

奈良時代に入ると、本庄市域の大部分は、武蔵国児玉郡^{むさしのくに}に編入されました。この頃には、律令制度の定着とともに地方の行政組織も整備されたことで、文字の普及が進みました。本市の遺跡からも文字が記された石製紡錘車^{せきせいぼうすいしゃ}が出土しており、薬師元屋舗遺跡から出土したものには「武蔵国児玉郡草田郷戸主大田部身万呂^{くさたごうこしゅ}」の線刻文字が、枇杷橋遺跡^{びわばし}の資料には「武蔵国児玉」の線刻文字が記されています。さらに、山崎上ノ南遺跡からは宝亀2（771）年に檜前部名代女^{ひのくまべのなしろめ}に貸し付けた出挙^{すいこ}の利稻四十束の収納を税長大伴国足^{おおとものくにたり}が確認したという内容が記された寶龜二年銘木簡^{ほうき}が発見されています。

●産業・生産

山崎上ノ南遺跡のある金屋地域^{かなや}（飯倉^{いいぐら}）の谷筋には、国分寺創建期の瓦を生産した飯倉窯跡^{かなくさ}や金草窯跡、製鉄遺構、炭窯などの各種生産関連遺跡が集中し、当地に古代児玉郡の官営工房が所在したことが想定されます。また、市域を流れる神流川から分水された九郷用水^{くごうようすい}が整備されたのも奈良時代と考えられています。条里制^{じょうりせい}の施行に伴い、九郷用水を幹線水路として、女堀川周辺には四方田条里^{しほうでん}、今井条里^{いまい}、児玉条里などと呼ばれる条里水田が整備されていきました。

●社会・生活

奈良時代の集落の形態は、条里水田に接する台地上に大規模な集団を形成して多人数で集住する傾向が顕著になります。これは、条里制に伴う水田区画の整備とともに集落も計画的に配置されたためと推定されます。一方で、平安時代に入ると、律令制度の弛緩とともに大規模集落は徐々に分散していき、10世紀にはほぼ解体されました。また、この頃には住居形態の変化とともに、検出される竪穴住居も数を減らし、11世紀になると古代の集落は、遺跡としてほぼ痕跡を残さなくなります。

●信仰・祭礼

奈良・平安時代には、地域の有力者による私営の寺院が造営されるようになります。東小平中山廃寺^{ひがしこだいらなかやまほじ}は堂塔伽藍^{どうとうがらん}を持った寺院で、国分寺創建期の瓦や仏像^{らぼつ}の螺髪^{らぼつ}が出土しました。

3-3 中世

1) 平安時代末期～鎌倉時代

●統治・政治

平安時代末期になると、関東各地で武士団が形成されるようになり、武蔵国において「武蔵七党」と総称される武士団が形成されました。その一つに、武蔵国北部で誕生した児玉党と呼ばれる武士団があります。児玉党は、阿久原牧^{あくはらのまき}（児玉郡神川町）や児玉荘という荘園を経済的基盤とした武士団で、本庄市内の本庄^{くげつか}・久下塚^{くくさづか}・四方田^{もくさい}・牧西^{こうち}・河内^{ひるがわ}・蛭河（川）^{しおや}・今井^{いまい}・塩谷^{しおや}・児玉^{ましも}・真下など所領の地名を名字の地としました。

児玉党の所領は、九郷用水の流末や生野山丘陵の南側、あるいは扇状地の広い後背地を控えた児玉地域の丘陵地に広く分布しており、主に九郷用水かんがい区域の周辺地域を中心に支配していたことがう

かがえます。また、本泉地区の河内寺山廃寺からは、堂宇の四隅に垂下される風鐸が出土しました。このことから、格式ある寺院の存在や、同地を拠点にしていた児玉党河内氏との関係が推定されます。この時期の児玉党の活動は九条兼実の日記『玉葉』に、安元元（1175）年に児玉庄が上野国高山御厨を押領して訴えられた記事があります。児玉党は上野国西部にも一族を分派していますが、このような事件も児玉党の上野国進出と何らかの関係があるのかもしれませんが。

●信仰・祭礼

鎌倉時代を通じて板石塔婆（板碑）が数多く造立されました。本泉地区（元田）には、全国でも稀な大型の板碑が残っています。正嘉2（1258）年銘を持つ三連板碑で、高さが200cm余り、幅は116cmもあり、相当な有力者によって造立されたものと推定されます。また、児玉地区（児玉）の玉蓮寺には、児玉党武士の児玉時国と日蓮上人の逸話が伝承され、墓地に嘉元2（1304）年銘の大型の板碑があることから、同寺と児玉党との関係がうかがえます。

板碑以外にも、市内には石造物が多く残されています。秋平地区（小平）のほてい堂には、鎌倉時代の造立と考えられる大型の五輪塔2基があります。北泉地区（栗崎）の宥勝寺も児玉党との関係の深い寺院であり、墓地に一の谷合戦で討ち死にした荘小太郎頼家の供養塔が残されています。さらに、共和地区（蛭川）の釈迦堂墓地には、一の谷合戦で庄四郎高家に生け捕られた（『平家物語』）三位中将重衡の首塚が残されています。このほかにも、宝治元（1247）年の自然石塔婆（藤田地区（小和瀬））や乾元2（1303）年の円形光背を持つ凶像板碑（金屋地区（保木野））などが残っており、武蔵武士の熊野信仰の隆盛が認められます。

●交通・経済

児玉地域市街地を鎌倉街道上道が縦貫しています〔図1-17〕。『曾我物語』に児玉宿の記述があり、生野山南側に古い宿場があったものと思われます。児玉地区（児玉）にある貫相寺の本尊「木造阿弥陀三尊像」は、戦国時代に雉岡城主夏目豊後守定基の勧めにより生野山より移したものと寺伝で伝えられています。

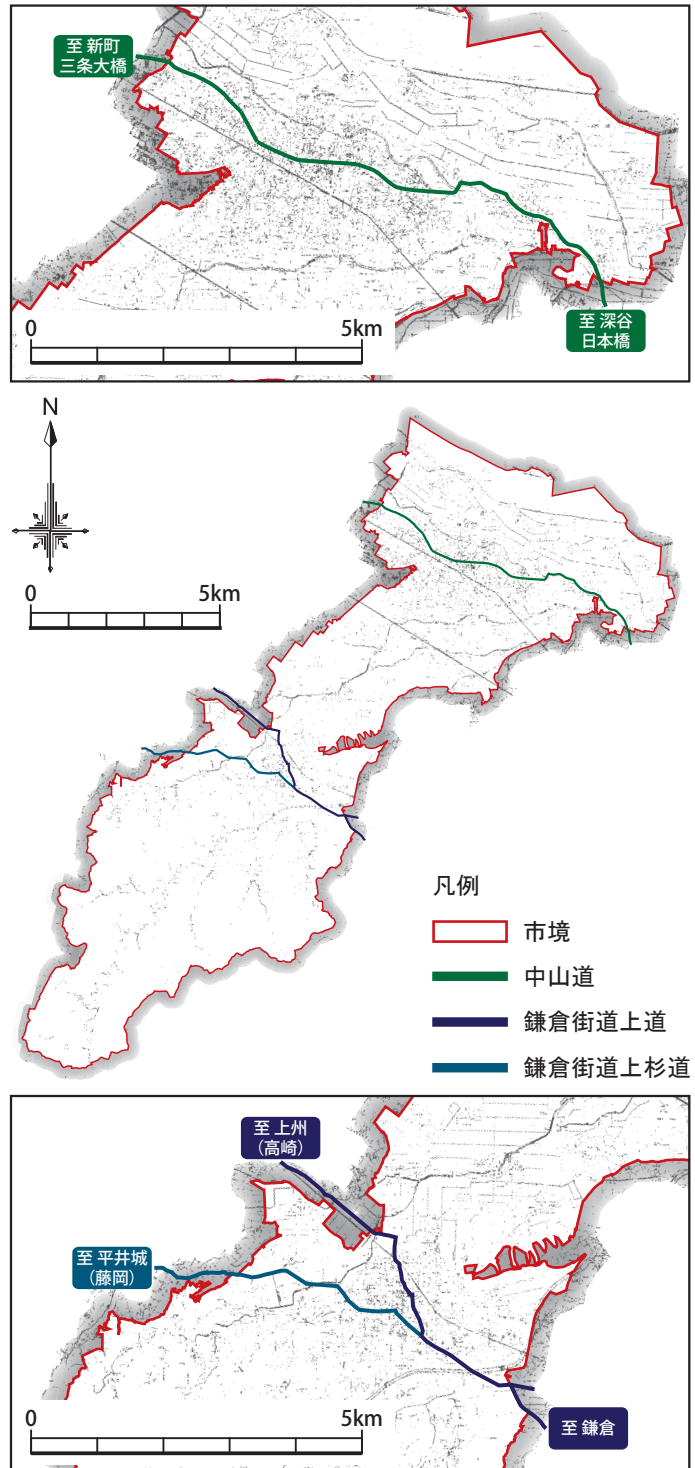


図1-17 主要な街道（中山道・鎌倉街道上道）

※各街道の道筋は以下の資料を参照しました。

- ・埼玉県立歴史資料館：『鎌倉街道上道（歴史の道調査報告書 第1集）』（1983.3）
- ・埼玉県立博物館：『中山道（歴史の道調査報告書 第5集）』（1986.3）

2) 南北朝・室町時代～戦国時代

●統治・政治

南北朝の動乱期を経た室町時代の市域は、関東管領山内上杉氏とその家宰職であった長尾氏との関係が強い地域です。児玉地区の独立丘陵上には、関東管領山内上杉顕定によって**雉岡城**が築城されました。この場所にはかなり早い時期から武士の館が設けられていたと考えられていますが、城として整備されたのは室町時代末期頃と推定されています。その後、家臣の夏目豊後守定基が城主となりました。

この時代の関東各地は度々戦乱の場となり、この地域においても長禄元（1457）年に古河公方に対抗して五十子陣が築かれました。雉岡城は、鎌倉街道上道と上杉道の分岐点の内側という交通の要所に位置していたことから、五十子陣と同様に上杉方の重要な拠点であったと考えられます。

やがて戦国時代後半になると、関東管領上杉憲政が越後の長尾景虎（上杉謙信）を頼って越後に逃れたことで、関東の多くは後北条氏の勢力下に入りました。弘治2（1556）年には、本庄地区の北部段丘上に本庄実忠によって**本庄城**が築かれました。本庄氏は、児玉党本庄氏の後裔と思われます。本庄氏も当初は関東管領上杉氏の配下でしたが、後北条氏の武蔵進出に伴い、後北条氏の勢力下に組み込まれました。

戦国時代の当地の様子を伝える資料として戦国大名が発給した朱印状や判物等の文書が残されています。永禄4（1561）年の河越合戦の様子を伝える**福田家中世文書**や、永禄12（1569）年と翌年に出された武田家高札と北条家制札（**長泉寺中世文書**）は、武田氏の武蔵侵略と後北条氏の動静を今に伝えています。

●産業・生産／芸術・交通

天正15（1587）年の北条氏邦朱印状（**鈴木家中世文書**）には、この地域の重要な用水路である九郷用水の記述が見られ、戦国時代の様子を伝えています。

また、金屋地区には室町時代に鋳物師集団が発生し、この時期の作品が残されています。北条氏は、金屋地区の鋳物師に伝馬手形（**倉林家中世文書**）を発給して交通の整備と組織化を行いました。

●信仰・祭礼

戦国時代になると板碑の造立は大幅に減少し、やがて造られなくなりました。一方で、生前に自らの冥福を祈る逆修のための供養塔や墓石として五輪塔や宝篋印塔、石幢などの石造物は引き続き造立されました。市内各地には、戦国時代の五輪塔や宝篋印塔が残されています。秋平地区（小平）の成身院には、戦国時代の歴代住職の五輪塔があります。秋平地区（秋山）にある室町時代の**六面重制石幢**は、秩父郡から児玉郡、上野国までの範囲に広く分布する形式の一例として注目されています。北泉地区（西五十子）には、文明元（1469）年銘の**石造十一面観音坐像**があり、銘文にある「道德」は『松陰私語』の作者の松陰西堂のことといわれています。

●人物

戦国時代末期、天正18（1590）年に豊臣秀吉が小田原攻めを行うと、後北条方であった雉岡城と本庄城は相次いで落城し、やがて小田原城も開城して後北条氏は滅亡しました。翌天正19（1591）年に秀吉は大規模な国替えを実施し、徳川家康を関東に転封させました。家康は、関東各地に家臣を配置して領国支配を行い、雉岡城には松平清宗・家清父子が、本庄城には小笠原信嶺が配置されました。また、各地で検地を実施しており、児玉村や宮戸村には天正19（1591）年の検地帳が残されています。

3-4 近世（江戸時代）

●統治・政治

後北条氏の滅亡から徳川家康の関東入国をもって、近世（江戸時代）という新しい時代へ移っていき、本庄の地も変革を遂げることになります。

本庄城に配置された小笠原信嶺は、本庄宿内に菩提寺の開善寺を開き、小笠原氏と極めて深い関係にある清拙正澄の画を納めました。なお、開善寺は、武田信玄との関係も深く、**信玄公画**も所蔵しています。信嶺は、慶長3（1598）年に没し、開善寺に葬られ、現在、**信嶺夫妻の墓**が並んで建っています。信嶺の後は養子の信之が跡を継ぎましたが、慶長17（1612）年に下総国古河城へ転封となり本庄を去り、慶長19（1614）年に古河城にて没し開善寺に葬られました。現在でも**信之の墓**が同寺に残っています。

雉岡城には、松平清宗・家清父子が入城したものの、清宗が間もなく亡くなったため家清が城主となりました。なお、この頃の雉岡城は、八幡山城と呼ばれたようです。家清によって城下の整備が始められていましたが、家清が関ヶ原合戦の翌年の慶長6（1601）年に三河国吉田（愛知県豊橋市）に転封となり、以降、雉岡城は廃城となりました。

●交通・経済

家康は、支配力強化の一環として五街道の整備を実施しました。その一つとして、本庄地域を通過する中山道が整備されました〔図1-17〕。中山道の開通により本庄宿が成立し、宿には本陣・脇本陣が整備されました。現在、二つの本陣の一つ**田村本陣の門**が残されています。

一方、児玉地域では中山道脇往還川越道が児玉地区内の八幡山と児玉の二町を通り、江戸時代には二町があたかも一町のごとく家並みが連続していました。現在でも、児玉地区の八幡神社には、街道の中央に置かれていたという**高札場**が残されています。

●信仰・祭礼

本庄宿の整備・発展に伴い、寺社も造営されました。本庄宿西端の**金鑽神社**は、小笠原信嶺の孫で宿城主の小笠原忠貴（政信）によって社殿が建立され、その**寄進状**が残されています。このほかにも、金鑽神社の別当寺である威徳院の**大門**も残されています。**安養院**は、東富田村にあった安養庵が本庄宿に移されたもので、**総門・山門・本堂**が建立によって伽藍が整備されていきました。**円心寺**は、二代城主の小笠原信之が父の供養のために開いた円心坊を起源とし、後に豪華な**鐘楼山門**が建立されました。

一方、児玉地域では、鎌倉街道上道沿いに所在する**八幡神社の社殿**と**青銅製の鳥居**が享保期（1716-1736）に造立されたほか、宝暦期（1751-1764）に**隨身門**、寛保期（1741-1744）に**能楽殿**が整備されました。なお、八幡神社は、永承6（1051）年に源義家によって児玉地区（八幡山）に勧請されたと伝わるもので、雉岡城の築城を機に現在地へ移されたと考えられています。八幡神社には、近代に作成された**能面**や**能装束**も残されています。

金屋地区（金屋）の天龍寺には、宝永8（1711）年に金屋鋳物師によって作られた**銅鐘**が残っています。秋平地区（小平）には、さざえ堂と呼ばれる独特な建築様式で造られた**成身院百体観音堂**があります。この仏堂は、天明3（1783）年の浅間山大噴火の犠牲者の供養を目的に建立されました。

また、市内各地に獅子舞が伝えられ、**台町の獅子舞**や**小平の獅子舞**、さらに**仁手諏訪神社の獅子舞**、**今井金鑽神社の獅子舞**、**吉田林の獅子舞**は今でも継承されています。

●芸術・工芸

本庄宿では、芸術や文化が発展し、多くの文人が活躍しました。俳句の世界では、本庄宿の豪商戸谷半兵衛（中屋）が俳人として活躍するだけでなく、俳句宗匠を援助するなど文化面で大きく貢献しました。児玉出身の春秋庵系の俳人久米逸淵は、高崎で活躍した後、江戸へ出て活動しました。晩年は本庄宿へ移り、没後郷里の児玉町の玉蓮寺に葬られました。同寺の墓地には、逸淵の墓と句碑が残されています。

絵画の分野では、武正南盧たけまさなんろや上州島村出身の金井烏州かない うじゅうらが活躍し、貴重な作品を残しました。また、地元出身の刀鍛冶長谷部若狭守国治はせべ わかさのかみくに はるが作刀した大正院の不動剣だいしょういんや短刀が市内に残されています。

地元の文人だけでなく、交通量の増大でにぎわった本庄宿には多くの文人が行き交い、本庄宿の人々と交流を持ちました。料亭紅葉屋を営んだ小倉紅おぐらこうおは、交流を持った多くの文人達の遺墨を石に刻み、墓碑（小倉家の墓碑群）として残しました。

●人物

延享3（1746）年に武蔵国児玉郡保木野村で生まれた塙保己一はなわほきいちは、7歳で失明し、15歳で江戸に出て当道座とうどうざに入門し、晩年には総検校そうけんぎょうに昇進しました。盲目の国学者としても有名で『群書類従』の編纂へんさんや和学講談所の設立など多大な業績を残しました。郷里には生家である塙保己一旧宅があるほか、遺品と関係資料が塙保己一記念館で展示されています。

3-5 近代・現代（明治時代～昭和時代）

●交通・経済

幕末期の安政6（1859）年、我が国は長く続いた鎖国政策を解き開国し、横浜よこはまを開港しました。諸外国との貿易が始まった当初の我が国の主要な輸出品は生糸きいとと蚕種さんしゆでした。生糸と蚕種が高値で取引されると、当然ながら養蚕業ようさんが脚光を浴びることになり、繭まゆから糸を取る製糸業も同様に発展しました。明治5（1872）年に官営富岡製糸場が開業すると、繭を供給するために本庄町の繭市場がより一層にぎわうことになりました。また、大量の繭や絹が取引されるようになったことから、明治27（1894）年には本庄商業銀行が設立され、大量の担保用の繭を保管するための煉瓦倉庫れんがが明治29（1896）年に建設されました。

大量の物資が輸送されるようになった背景には、需要の増加以外にも交通面での変革がありました。江戸時代には本庄地域北部を流れる利根川を利用した舟運が盛んに行われていました。三友河岸・山王堂河岸・一本木河岸等が設けられ、江戸へ物産が運ばれましたが、明治16（1883）年に日本鉄道が敷設され本庄駅が開業されたことで、舟運に比べ安全性や速度に優れた鉄道運輸が主力となりました。

本市域においても大正4（1915）年に本庄・児玉間を結ぶ本庄電気軌道が営業を開始し、昭和6（1931）年には八高線児玉駅が開業しました。同年、本庄地域北部においても利根川に坂東大橋が架橋されるなど次第に交通網が整備されていきました。

●産業・生産

児玉地域では、養蚕業や製糸業だけでなく、それらの産業の基礎となる養蚕改良や飼育方法の普及といった教育・研究分野も盛んに行われていました。木村九蔵は、明治5（1872）年に新しい蚕の飼育法である「一派温暖育いっぺおんだんいく」を考案しました。明治10（1877）年には養蚕改良競進組きょうしんぐみを組織し、明治17（1884）年には養蚕改良競進社に組織を拡大させました。また、明治27（1894）年には競進社蚕業伝習所内に模範蚕室もはんさんしつを建設しました。

●社会・生活

鉄道沿線に機械製糸の製糸場が進出したことで、本庄町は、宿場町から商業都市に変貌し、中山道沿いに近代的な建造物が建てられるようになりました。

明治16（1883）年に建設された旧本庄警察署は、コリント式オーダーの柱を持つ洋風建築として現在も異彩を放っています。本庄宿で郵便局を開設した諸井泉衛もろいせんえいが明治13（1880）年頃に自宅として建設した諸井家住宅は、和風の造りを基本としながらも、洋風の構造や装飾が取り入れられています。昭和9（1934）年には、洒落た装飾や洋風の外壁を持つ本庄郵便局舎（旧本庄仲町郵便局なかもち）を二代目庁舎として建設しました。

また、元小山川に架かる伊勢崎道の寺坂橋てらさかばしは、明治22（1889）年に建設された石造アーチ橋で、現

役で使用されています。自動車の普及に伴い伊勢崎新道が開削されると、モダンな外観の賀美橋^{かみばし}が大正15（1926）年に架けられました。

児玉地域では、市街地に近代水道が整備され、水道施設の児玉町旧配水塔が建設されました。昭和12（1937）年には、児玉地域と現在の美里町北部地域から深谷市西部の榛沢^{はんざわ}地域までかんがいする児玉用水（美児沢^{みこさわ}用水）の間瀬堰堤^{えんてい}が建設されました。

産業の発展や近代的な建築物の建設が進む一方で、明治17（1884）年に勃発した秩父事件のように自由民権運動の高まりや不景気に伴う暴動が各地で起きました。金屋地区で起きた暴動は「金屋戦争」として知られています。

●信仰・祭礼

明治時代以降も市内各地で民俗芸能が継承されてきました。その中でも、特に本市の特徴的な民俗芸能の一つとして神楽^{かぐら}があります。江戸時代より市内各所で神楽が伝えられていましたが、明治15（1882）年の遊芸人取締規則の施行に伴い、金鑽神社神楽組として再編されました。市内では、本庄組・宮崎組・杉田組^{すぎた}・太駄組^{おおだ}・根岸組^{ねがし}の5組が現在も活動しています。このほかにも、児玉地域のうち西小平^{にしごだいら}と元田^{もとだ}では、万作^{まんさく}が行われました。

また、本庄地域では金鑽神社の例大祭の附祭^{つけまつり}として山車^{やまぐるま}10台が、児玉地域では八幡神社の例大祭の附祭として屋台^{やたい}1台と山車^{やまぐるま}3台が街中を巡行します。いずれの神社の例大祭も近世より続けられてきましたが、明治時代以降に山車や屋台が製作されたことで、附祭で巡行されるようになりました。

3-6 本庄市ゆかりの偉人

埼玉県：「埼玉ゆかりの偉人データベース」には、[表 1-19] に示した条件を満たす偉人が掲載されています。このうち、本庄市にゆかりのある偉人は27名に上ります [表 1-20]。以下に主要な3人の偉人について、その功績などを記述します。

表 1-19 偉人の定義（埼玉県：「埼玉ゆかりの偉人データベース」抜粋）

県にゆかりのある*1人物（物故者）で、次のいずれかの条件を満たすものをいう	
1.	県の内外で活躍し、その活動分野において顕著な功績が認められること（その功績が確認できる資料等*2が存在していること）。
2.	その人物の功績やゆかりの史跡等を活用し、地域*3のまちづくりに生かしていること。 ただし、明治時代以降の功績で、下記のいずれかに該当する業績は原則として対象としない。 政治活動上の業績*4、宗教上の業績、内外の戦争での業績、公職中の職務上の業績*5。
*1 本県の出身、本県に居住したことがある、または、本県にその人物ゆかりの史跡等が現存していることをいう。	
*2 その功績が明文化されている書物等をさす。	
*3 必ずしも市町村全域でなくてもよい。	
*4 公職中（首長、議員在職中）の職務上の業績をさす。	
*5 役所、学校などの職務上の業績をさす。	

① 塙 保己一

塙保己一は、江戸時代の国学者です。延享3（1746）年に武蔵国児玉郡保木野村の荻野家おぎのに生まれました。7歳の春に病気により失明、15歳にして江戸に出て盲人一座「当道座」へ入り、雨富須賀一あめとみすがいちけんぎょう検校に弟子入りしました。雨富検校のもとで学問に専念し、萩原宗固はぎわらそうこ・川島貴林かわしまたかしげ・賀茂真淵かものまぶちらより国学・和歌・漢学・国史等を学びました。勾当こうとうへ昇進したのち、「世のため後のため」になることをしたいと考え、散逸した古典典籍類を取りまとめ、後世に国学を学ぶ人の助けとなるようにと『群書類従』の出版を志しました。また、幕府に願い出て和学講談所を設立し多くの門弟を育成しました。水戸藩の『大日本史』の編纂にも従事し、文政2（1819）年には『群書類従』666冊を完成しました。なお、明治時代以降、和学講談所の史料編纂事業は、東京大学史料編纂所に受け継がれました。



図 1-18 塙保己一

② 木村 九蔵

木村九蔵は、上野国緑埜郡高山村の高山家たかやまの5男として生まれ、幼少の頃から、後に高山社を創立した兄・長五郎ちやうごろうとともに養蚕の研究に励みました。元治元（1864）年に武蔵国児玉郡新宿村の木村家の養子となった後も養蚕改良を続け、明治5（1872）年に新しい飼育方法「一派温暖育」を発表しました。その後、明治10（1877）年に同志を募り養蚕改良競進組を結成、九蔵はその組長となりました。明治17（1884）年には組織を改編して養蚕改良競進社とし、児玉町に出張事務所と競進社蚕業伝習所（旧児玉白楊高校の前身）を設立しました。蚕・繭の品質の改良、養蚕飼育法の研究及び普及などに励み、さらに多くの子弟を育てて近代産業・蚕業教育など多方面で大きな業績を残しました。



図 1-19 木村九蔵

③ 諸井 恒平

諸井恒平もろいつねへいは、若いころから実業家としての才覚があり、明治11（1878）年に16歳で本庄生糸改所頭取、明治19（1886）年に児玉郡外二郡蚕糸組合の副頭取、同年に本庄郵便局長と若くして要職を歴任しました。明治20（1887）年には親類であった渋沢栄一しぶさわえいいちの勧めで深谷の日本煉瓦製造株式会社に勤務し、明治40（1907）年に専務取締役にならば昇進しました。この間にも、明治32（1899）年に日本工業協会理事、明治39（1906）年に東京毛織株式会社専務取締役、明治43（1910）年には秩父鉄道株式会社取締役を務めました。また、秩父鉄道の役員となった際に武甲山の石灰岩に注目し、セメント製造事業を開拓し秩父セメント株式会社を創設、大正12（1923）年に社長に就任、大正14（1925）年には秩父鉄道株式会社の社長も兼任しました。秩父セメント株式会社と秩父鉄道株式会社は、密接な関係にあったため、両会社の発展に寄与しました。

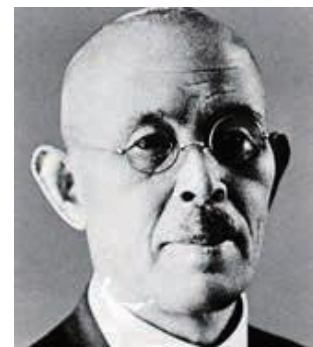


図 1-20 諸井恒平

表 1-20 本庄市ゆかりの偉人（埼玉県：「埼玉ゆかりの偉人データベース」抜粋）

ふりがな 氏名	生年 - 没年	出生地	分野	主な功績
	ゆかりの場所（所在地）：説明			
いしかわ 石川 さん しろ 三四郎	1876-1956	本庄市	その他	社会思想家 石川三四郎翁顕彰碑（本庄市若葉第二公園）：昭和 52（1977）年完成、三四郎の言葉を刻む
いのうえ 井上 ため じろう 為次郎	1834-1908	本庄市（旧児玉町）	教育	浅田流裁縫の普及 實相寺（児玉町児玉）：墓と頌徳碑がある
いまい 今井 わしやう 和昇	1820-1903	本庄市（旧児玉町）	その他	剣術家 薬師堂（児玉町元田）：和昇翁の頌徳碑がある
おざわ 小沢 よしみつ 義光	不明	本庄市（旧児玉町）	その他	剣術家 駒形神社（児玉町蛭川）：義光奉納の剣術額がある
きむら 木村 くぞう 九蔵	1845-1898	群馬県	産業	養蚕改良家・一派温暖育を発明 競進社模範蚕室（児玉町児玉）：木村九蔵は競進社を設立、養蚕技術の普及に努めた。
くぼた 久保田 そひやう 素瓢	1832-1910	本庄市	文学	寺子屋師匠、俳人 頌徳碑（四方田）
くめ 久米 いつえん 逸淵	1790-1861	本庄市（旧児玉町）	文学	俳諧宗匠・「すみれ塚集」ほか 八幡神社（児玉町児玉）、俳額、芭蕉句碑がある／玉蓮寺（児玉町児玉）、俳額、墓、句碑がある
くめ 久米 せんじゆ 千寿	1800-1858	本庄市（旧児玉町）	文学	狂歌・和歌歌人 —
くわばら 桑原 ぼくりん 北林	1790-1884	本庄市（旧児玉町）	芸術	書家 日枝神社（吉田林）の藤池の碑、成身院百体観音堂（児玉町小平）の碑ほか
さとう 佐藤 とら じろう 虎次郎	1864-1928	本庄市（旧児玉町）	産業	海外雄飛・豪州で会社設立 茂木家（児玉町太駄）：虎次郎の生家
たけまさ 武正 なん ろ 南廬	1786-1865	群馬県藤岡市	芸術	画家・「百鶴図」 金鑽神社（千代田）：幣殿の天井画、板戸の雲竜画
たむら 田村 へい べい 平兵衛	1756-1832	本庄市（旧児玉町）	その他	柔術家 玉蔵院（児玉町児玉）：寺に墓がある
とこよだ 常世田 ちやうすい 長翠	1750-1813	千葉県	文学	俳諧宗匠・俳書「黒襦宜」 —
とや 戸谷 そうう 双鳥	1774-1849	本庄市	文学	俳人、豪商として地元の文化に貢献 雉岡城跡内金毘羅神社の俳句奉納額（児玉町八幡山）
なかがみ 中神 りやうほ 長甫	1791-1869	長瀬町	教育	医師・寺子屋開設 八幡神社（児玉町児玉）：筆塚がある／實相寺（児玉町児玉）：墓と頌徳碑がある
なかざと 中里 ちゆうべえ 忠兵衛	1812-1891	本庄市（旧児玉町）	産業	生糸仲買商 岩上神社（児玉町太駄）：忠兵衛奉納の石灯籠がある
のざわ 野沢 しやうぎぶらう 正三郎	1814-1861	本庄市（旧児玉町）	産業	生糸問屋の創設 玉蔵寺（児玉町児玉）：墓がある
はなわ 埴 ぼ きち 保己一	1746-1821	本庄市（旧児玉町）	教育	国学者・「群書類従」の刊行 国指定史跡・埴保己一生家（児玉町保木野）、埴保己一墓（児玉町保木野）ほか
ひらの 平野 こくめい 克明	1749- 不明	本庄市（旧児玉町）	芸術	書家 實相寺（児玉町児玉）：平野家墓地がある
ほそむら 細村 せい かの 青荷	1803-1881	本庄市（旧児玉町）	文学	俳人・「春水集」ほか 光徳廃寺墓地（児玉町児玉）：墓がある／八幡神社（児玉町児玉）：青荷建立の頌布句碑と俳額がある
ほんじやう 本庄 ふいち 普一 (ほんじやう しんいち)	1798-1846	本庄市	その他	眼科、内科、外科医 浄眼寺（児玉町八幡山）に葬られる
もろい 諸井 しゆんけい 春畦	1862-1941	本庄市	芸術	書家・「書法三角法」 安養院（千代田）：庭に「春畦諸井先生碑」が建てられている

ふりがな 氏名	生年 - 没年	出生地	分野	主な功績
	ゆかりの場所（所在地）：説明			
もろい づねへい 諸井 恒平	1862-1941	本庄市	産業	セメント会社創設 県指定文化財・諸井家住宅（中央）
もろい ろくろう 諸井 六郎	1872-1940	本庄市	その他	外交官、郷土史家・「徳川時代之武蔵本庄」 —
もん や 門弥	不明	本庄市	産業	北堀村の百姓、発明家 —
よしだ きよひで 吉田 清英	1840-1918	鹿児島県	産業	蚕糸業の振興 —
よもだ そうえん 四方田 草炎	1902-1981	本庄市	芸術	素描家・「四方田草炎素描集」 —

3-7 合併の推移

近代から現代までの本庄市の沿革を〔図 1-22〕にまとめました。

明治 22（1889）年の町村制の施行により本庄地域では、本庄宿が「児玉郡本庄町」となり、児玉地域でも児玉郡児玉町・八幡山町が合併し、「児玉郡児玉町」が発足しました。また、両町周辺の村々の合併も進められました〔図 1-21〕。

町村合併促進法により、昭和 29（1954）年 7 月 1 日、本庄町と周辺 4 村（藤田村・仁手村・旭村・北泉村）が合併し旧「本庄市」となり、昭和 30（1955）年 3 月 20 日には、児玉町と周辺 3 村（金屋村・秋平村・本泉村）が合併し児玉町の範囲が拡大しました。昭和 32（1957）年 7 月 18 日には児玉郡共和村が分村して、大字今井・共栄の一部が旧本庄市、残部が児玉町に分割編入しました（共和村廃止）。

平成になると、いわゆる「平成の大合併」と呼ばれる全国的な市町村合併の動きが生じ、旧本庄市と児玉町も平成 18（2006）年 1 月 10 日に合併し、新「本庄市」が誕生しました。

なお、平成の大合併に伴い住所表記が変更されることとなり、本庄地域では大字表記を廃し、児玉地域では郡名と大字表記を廃し市名の次に「児玉町」を付すこととなりました〔表 1-21〕。

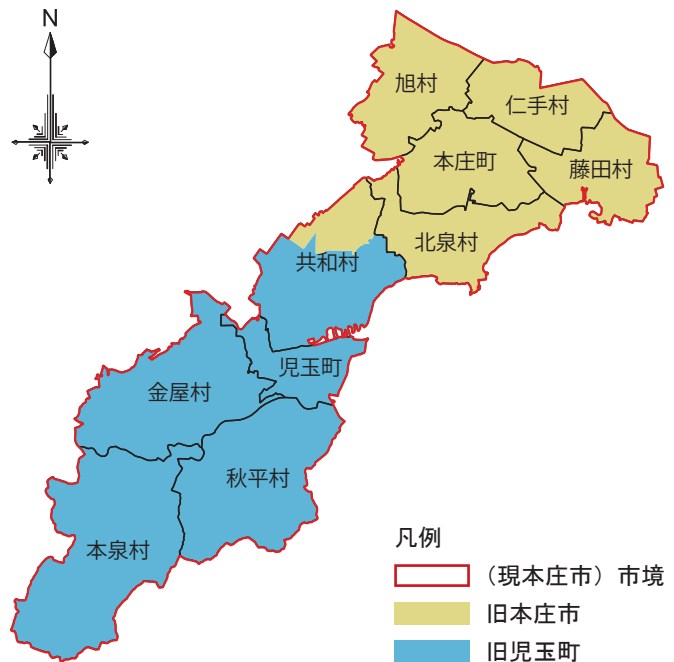


図 1-21 本庄市の合併（模式図）

国土交通省：「国土数値情報（行政区域データ）」を加工して作成。
 ※実線区分・旧市町村名：大正 9（1920）年の行政区分データ参照。
 色分け区分：昭和 35（1960）年の行政区分データ参照。
 ※本図の色分けは図 1-22 と整合します。

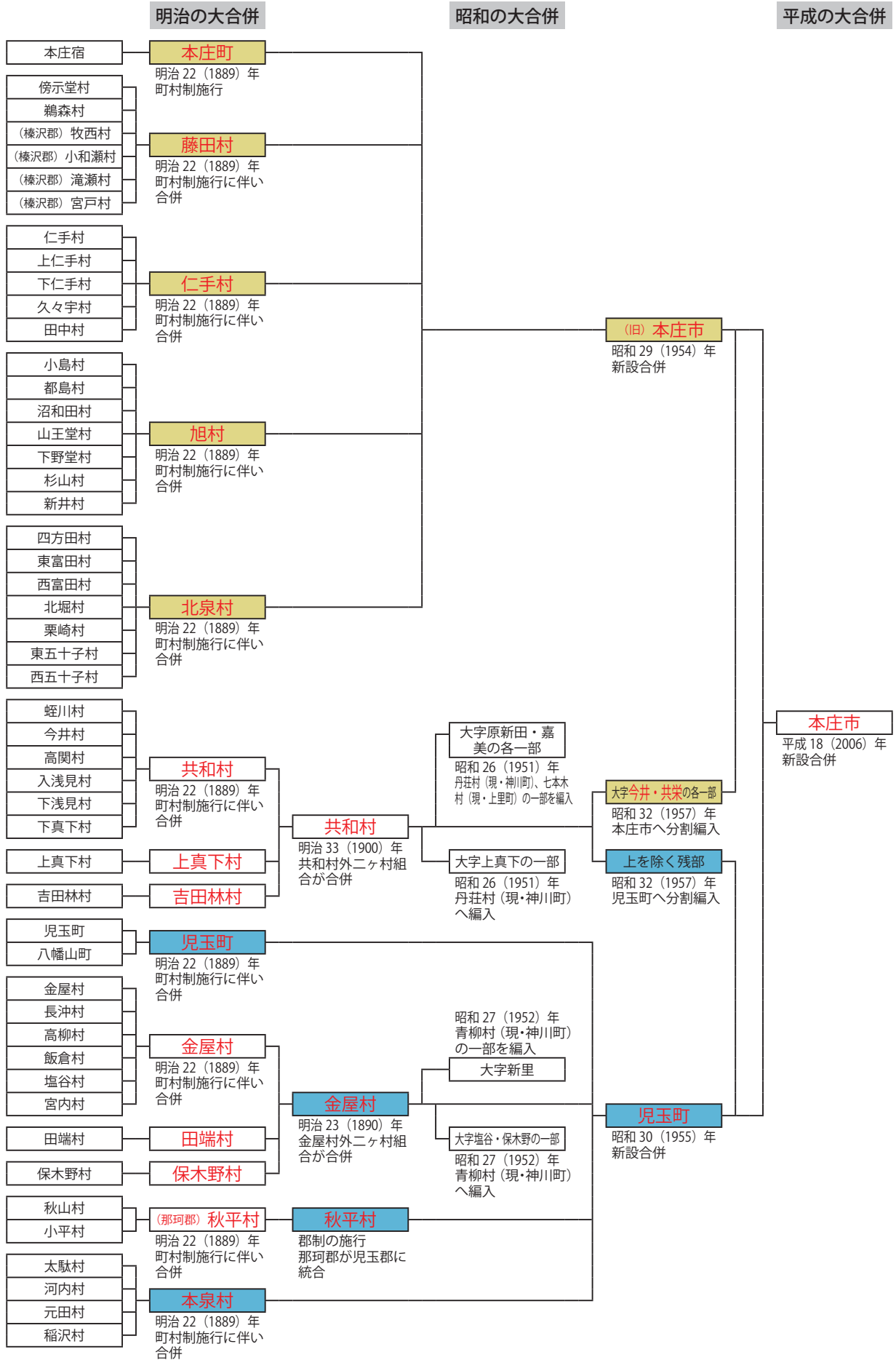


図 1-22 本庄市沿革図

表 1-21 現在の本庄市の地名

旧市町村	地区名	(旧大字)	ヨミ	旧市町村	地区名	(旧大字)	ヨミ	
旧本庄市	旭地区	小島南	オジマミナミ	旧本庄市	本庄地区	千代田	チヨダ	
		小島	オジマ			若泉	ワカイズミ	
		下野堂	シモノドウ			中央	チュウオウ	
		都島	ミヤコジマ			銀座	ギンザ	
		山王堂	サンノウドウ			本庄	ホンジョウ	
		沼和田	ヌマワダ			東台	ヒガシダイ	
		杉山	スギヤマ			日の出	ヒノデ	
		新井	アライ			前原	マエハラ	
		万年寺	マンネンジ			柏	カシワ	
	北泉地区	早稲田の杜	ワセダノモリ			駅南	エキナン	
		北堀	キタボリ			見福	ケンブク	
		栗崎	クリザキ			五十子	イカッコ	
		西五十子	ニシイカッコ			南	ミナミ	
		東五十子	ヒガシイカッコ			栄	サカエ	
		西富田	ニシトミダ			寿	コトブキ	
		東富田	ヒガシトミダ			けや木	ケヤキ	
		四方田	シハウデン			緑	ミドリ	
		今井	イマイ			朝日町	アサヒチョウ	
		共栄	キョウエイ			照若町	テルワカチョウ	
		いまい台	イマイダイ			台町	ダイマチ	
	四季の里	シキノサト	諏訪町		スワチョウ			
	仁手地区	仁手	ニッテ		本町	モトマチ		
		下仁手	シモニッテ		旧児玉町	児玉南地区	児玉南	コダマミナミ
		久々宇	クグウ				児玉地区	八幡山
		田中	タナカ			児玉		コダマ
		上仁手	カミニッテ			金屋地区	金屋	カナヤ
	藤田地区	鶺森	ウノモリ				長沖	ナガオキ
		傍示堂	ハウジドウ				高柳	タカヤナギ
		牧西	モクサイ				飯倉	イイグラ
		小和瀬	コワゼ				宮内	ミヤウチ
		宮戸	ミヤド				塩谷	シオヤ
		堀田	ホッタ				保木野	ホキノ
		滝瀬	タキセ		田端		タバタ	
秋平地区		秋山	アキヤマ	小平	コダイラ			
本泉地区	太駄	オオダ	本泉地区	太駄	オオダ			
	河内	コウチ		河内	コウチ			
	稲沢	イナザワ		稲沢	イナザワ			
	元田	ゲンダ		元田	ゲンダ			
共和地区	蛭川	ヒルガワ	共和地区	蛭川	ヒルガワ			
	下真下	シモマシモ		下真下	シモマシモ			
	共栄	キョウエイ		共栄	キョウエイ			
	上真下	カミマシモ		上真下	カミマシモ			
	吉田林	キタバヤシ		吉田林	キタバヤシ			
	入浅見	イリアザミ		入浅見	イリアザミ			
	下浅見	シモアザミ		下浅見	シモアザミ			
	高関	タカゼキ		高関	タカゼキ			

備考

- ・現在、本庄市は大字表記をしていないため、旧大字を（カッコ）書きとしました。
- ・旧児玉町の住所表記は本庄市のあとに「児玉町（旧大字）」と付きますが、ここでは省略しました。

第2章 本庄市の文化財の概要と特徴

1 指定等文化財の概要と特徴

1-1 指定等文化財の状況

文化財保護法（昭和25（1950）年法律第214号）、埼玉県文化財保護条例（昭和30（1955）年県条例第46号）、本庄市文化財保護条例（平成18（2006）年市条例99号）の規定に基づき指定・選定・選択・登録された市内の文化財の状況を整理しました。

1) 文化財の指定等の状況

本市に所在する指定等文化財の件数は141件（令和4（2022）年11月30日現在）で、詳細な類型・種別ごとの件数は〔表2-1〕のとおりとなっています。

表2-1 指定等文化財件数

令和4（2022）年11月30日現在

類型	種別	国指定	県指定	市指定	国登録	指定小計	登録小計	合計	割合（%）			
									指定	登録	合計	
有形文化財	建造物	0	5	8	10	13	10	23	9.2	7.1	16.3	
	美術工芸品	絵画	0	1	6	0	7	0	50	5.0	0	35.6
		彫刻	0	1	6	0	7	0		5.0	0	
		工芸品	0	1	5	0	6	0		4.3	0	
		書跡・典籍	0	0	0	0	0	0		0	0	
		古文書	0	0	8	0	8	0		5.7	0	
		考古資料	0	1	4	0	5	0		3.5	0	
		歴史資料	0	1	16	0	17	0		12.1	0	
	小計	0	10	53	10	63	10	73	51.9	51.9		
無形文化財	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	16	0	16	0	28	11.3	0	19.8	
	無形の民俗文化財	0	1	11	0	12	0		8.5	0		
	小計	0	1	27	0	28	0	28	19.8	19.8		
記念物	遺跡	1	3	18	0	22	0	40	15.6	0	28.3	
	名勝地	0	0	0	0	0	0		0	0		
	動物・植物・地質鉱物	0	3	11	0	14	0		9.9	0		
	旧跡*	—	3	1	—	4	—		2.8	—		
	小計	1	9	30	0	40	0	40	28.3	28.3		
文化的景観	0	—	—	—	0	—	0	0	0			
伝統的建造物群	0	—	—	—	0	—	0	0	0			
文化財の保存技術	0	0	—	—	0	—	0	0	0			
合計		1	20	110	10	131	10	141				
割合（%）		0.7	14.2	78.0	7.1				100	100		

※本表における「指定」とは文化財の「指定」「選定」「選択」を含みます。「—」は法令に指定等の規定がない区分を示します。

*「旧跡」は埼玉県及び本庄市特有の文化財指定区分。指定基準は表2-2参照。

① 指定文化財

本市に所在する国・県・市の指定文化財の件数は131件（令和4（2022）年11月30日現在）で、以下に種別ごとの概要を示します。

【有形文化財】 有形文化財の内訳は県指定10件、市指定53件、合計63件で、種別の内訳は建造物13件、美術工芸品50件です。

建造物は近世の社寺8件、近代の仏堂1件、近世における宿場本陣^{ほんじん}の門1件、近代の住宅1件、官公庁舎1件、産業施設1件と多岐にわたります。

美術工芸品は絵画7件、彫刻7件、工芸品6件、古文書8件、考古資料5件、歴史資料17件が指定されています。代表的なものとしては、古墳時代の人物埴輪^{じんぶつほにわ}、奈良時代の木簡^{もつかん}など遺跡出土品を筆頭に、頂相^{ちんぞう}、仏像、金属工芸品（銅鐘・鰐口^{どうしやう わにぐち}）、石造物（板碑・石仏^{いたび}・五輪塔^{ごりんとう}）、奉納物（剣、絵馬^{えま}、算額^{さんがく}）など信仰に関連するもの、地域の統治や社会状況を示す古文書などが挙げられます。

【民俗文化財】 民俗文化財の内訳は県指定1件、市指定27件、合計28件で、種別の内訳は有形の民俗文化財16件、無形の民俗文化財12件です。

有形の民俗文化財のうち、8件は本庄まつりで用いる山車^{ほんじやう}、1件は本庄祇園まつりに関する神輿^{ぎおん}、4件はこだま秋まつりで用いる山車・屋台です。神輿のみ近世のもので、山車・屋台は全て近代に製作されたものです。このほかは能装束・能面が1件、石造物が2件です。

無形の民俗文化財は市内各地に伝承される金鑽神楽^{かなさなかくら}5件全てが指定されるほか、神社祭礼で奉納される獅子舞5件、万作^{まんさく}2件が指定されています。

【記念物】 記念物の内訳は国指定1件、県指定9件、市指定30件、合計40件で、種別の内訳は遺跡22件、動物・植物・地質鉱物14件、旧跡4件です。名勝地の指定は行われていません。

遺跡には本市唯一の国指定文化財として、全盲の国学者・塙保己一^{はなわほきいち}の生家が所在するほか、古墳時代の古墳・集落跡・埴輪窯跡などの遺跡、中世城跡、近世の高札場、歴史上の人物の墓地などが含まれます。

植物に関する指定は、社寺境内等に所在する巨木・古木・名木・社叢林^{しゃそう}となります。動物・地質鉱物の指定は行われていません。

旧跡は埼玉県特有の文化財指定区分です。昭和36（1961）年4月1日づけで埼玉県文化財保護条例を一部改正し、旧跡指定を設けました。指定基準は〔表2-2〕に挙げたとおりです。本市の旧跡は、顕彰を意味する墓、生地が各1件、伝承地が2件です。

表2-2 旧跡指定基準

1.	指定基準が漠然とし、現状変更が制限が無理なもの
2.	顕彰を意味する墓、碑、生地等
3.	歌謡遺跡
4.	現状変更が著しく、原状のないもの
5.	史実に基づかないもの

「文化財時報第6号」

昭和37（1962）年埼玉県文化財保護協会発行

② 登録文化財

本市に所在する国の登録文化財の件数は10件（令和4（2022）年11月30日現在）となっており、全て有形文化財（建造物）です。内訳は産業3次・官公庁舎・生活関連が各1件、産業1次・住宅が各2件、交通が3件です。

③ その他

無形文化財の指定、文化的景観・伝統的建造物群・文化財の保存技術の選定、建造物を除く文化財の登録、記録作成等の措置を講ずべき無形文化財・記録作成の措置を講ずべき無形の民俗文化財の選択は行われていません。

1-2 指定等文化財の時代別の状況

本市に所在する指定等文化財を主たる時代（制作・築造・使用の年代）別で整理すると [表 2-3]、近世が 49 件と最も多く、以降は、中世が 29 件、近代が 28 件、古代が 17 件と続きます。一方で、原始（旧石器・縄文・弥生時代）^{さかのぼ}に遡る遺跡・出土品や、現代（昭和 20（1945）年代以降）の建造物等も市内に所在しますが、これらの指定・登録は行われていません。

最も多い時代／種別は、^{こだま}児玉地域の^{なかせんどう}中世美術工芸品、本庄地域の^{なかせんどう}近代美術工芸品であり、前者は^{かまくらかいどうかみつみち}鎌倉街道上道と^{なかせんどう}中世武士団、後者は^{なかせんどう}中山道によってもたらされた歴史文化をよく示す分布といえます。

近代の文化財のうち、10 件が登録有形文化財（建造物）です。多種多様かつ大量の文化財を後世に継承するため、緩やかな規制により幅広く保護する制度の趣旨から、近代以降の文化財を中心とした登録状況となっています。なお、本市の登録有形文化財は全て近代のもので、現時点で近世以前、現代の登録物件はありません。近代以降の文化財は未だ調査が行き届いていない種別も多く、今後増加が期待されます。

表 2-3 時代別指定等文化財件数

地区	類型	種別	原始	古代	中世	近世	近代	現代	年代不詳	合計	割合 (%)		
本庄地域	有形文化財	建造物	0	0	0	5	9	0	0	14	77	9.9	54.6
		美術工芸品	0	5	6	15	1	0	0	27		19.1	
	民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	1	8	0	0	9		6.4	
		無形の民俗文化財	0	0	0	0	0	0	6	6		4.3	
	記念物	遺跡	0	6	1	4	0	0	0	11		7.8	
		動物・植物・地質鉱物	0	0	2	3	0	0	4	9		6.4	
		旧跡*	0	0	1	0	0	0	0	1		0.7	
	小計		0	11	10	28	18	0	10				
児玉地域	有形文化財	建造物	0	0	0	4	5	0	0	9	64	6.4	45.4
		美術工芸品	0	0	15	7	1	0	0	23		16.3	
	民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	1	2	4	0	0	7		5.0	
		無形の民俗文化財	0	0	0	0	0	0	6	6		4.3	
	記念物	遺跡	0	5	2	4	0	0	0	11		7.8	
		動物・植物・地質鉱物	0	0	1	2	0	0	2	5		3.5	
		旧跡*	0	1	0	2	0	0	0	3		2.1	
	小計		0	6	19	21	10	0	8				
合計		0	17	29	49	28	0	18	141				
割合 (%)		0	12.0	20.6	34.7	19.9	0	12.8				100	

*表 2-3 における「旧跡」は埼玉県及び本庄市特有の文化財指定区分。指定基準は表 2-2 参照。

1-3 指定等文化財の区域別の状況

地形に基づき低地、台地（市街地を含む）、丘陵地・山地の 3 区域に大別すると [表 1-5]、本市の指定等文化財 141 件のうち 89 件が台地に分布し、中でも 71 件が市街地に集中しています [表 2-4]。なお、市街地を本庄地域と児玉地域に 2 分すると、本庄地域市街地には 45 件、児玉地域市街地には 26 件の指定等文化財が分布することがわかります。また、市街地に次いで分布が見られる区域は丘陵地・山地であり、29 件の指定等文化財が分布することは特徴的です。

次に、指定等文化財の種別ごとの分布の状況を示すと、建造物は23件中16件が市街地に集中し、残りが丘陵地・山地と低地に分布しています。美術工芸品も台地に集中していますが、本庄地域市街地・児玉地域市街地・市街地以外の分布がほぼ同数であることに加え、低地と丘陵地・山地とも大きな差がないことから、区域による分布の特徴は見られません。有形の民俗文化財は、その多くが市街地に分布しています。これは、有形の民俗文化財16件中12件が本庄まつりやこだま秋まつりで曳行される山車・屋台であることが要因です。一方、無形の民俗文化財は、12件中10件が市街地以外の地域で傳承されてきた民俗芸能であることから、低地や丘陵地・山地にも広く分布しています。遺跡は、市域に広く分布しています。植物は、指定を受けたものの多くが社寺境内に所在するため、社寺が集中する本庄地域市街地が最も多いですが、分布自体は市域全体に広く見られます。

表 2-4 区域別指定等文化財件数

類型	種別	低地	台地			丘陵地・山地	合計
			全体	うち市街地			
				本庄地域	児玉地域		
有形文化財	建造物	3	16	11	5	4	23
	美術工芸品	7	31	13	10	12	50
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	16	9	5	0	16
	無形の民俗文化財	5	2	2	0	5	12
記念物	遺跡	4	14	5	5	4	22
	動物・植物・地質鉱物	3	9	5	1	2	14
	旧跡*	1	1	0	0	2	4
合計		23	89	45	26	29	141
割合 (%)		16.3	63.1	31.9	18.4	20.6	100

*表 2-4 における「旧跡」は埼玉県及び本庄市特有の文化財指定区分。指定基準は表 2-2 参照。

1-4 指定等文化財の概要

1) 有形文化財

① 建造物

【社寺】

●本庄金鑽神社社殿（県指定）、本庄金鑽神社大門（市指定）

金鑽神社は、中山道本庄宿の西端に位置し、本庄宿の総鎮守として崇敬されました。現存する社殿は、流造の本殿と入母屋造の拝殿を幣殿でつなぐ複合形式で、本殿は享保9（1724）年、拝殿は安永7（1778）年、幣殿は嘉永3（1850）年の建築と伝えられています。

境内には金鑽神社の別当寺・威徳院白蓮寺の総門であった大門が建っています。文化11（1814）年建立の四脚門で、19世紀初期の時代的様相を留めています。

●八幡神社社殿及び銅製鳥居（県指定）、八幡神社隨身門（市指定）、八幡神社能楽殿（市指定）

八幡神社は、江戸時代に八幡山町、児玉町及び近郷16か村の総鎮守として信仰されました。現在の社殿は、本殿・幣殿・拝



写真 2-1 本庄金鑽神社社殿



写真 2-2 本庄金鑽神社大門

殿が連結した複合社殿で、地元の有力者・久米六右衛門くめろくえもんが中心となって、享保7（1722）年に再建されました。棟梁は妻沼の伝兵衛、彫刻は江戸の彫刻師五右衛門と茂右衛門によるものとされます。屋根は当初柿葺こけらぶきでしたが、大正13（1924）年の解体修理の際に銅板葺に改められました。

隨身門ずいしんもんは、社殿と同様に久米六右衛門を中心とした崇敬者達によって宝暦6（1756）年に建立されました。

能楽殿のうがくでんは、寛保2（1742）年の建立と伝えられています。修復工事の際、棟木から天明8（1788）年の墨書が発見されました。大正2（1913）年の社務所建築の際に鏡の間が撤去され、現在は橋掛りに新築した社務所を結合しています。

●安養院本堂・山門及び総門（市指定）

安養院あんよういんは、東富田村にあった戦国時代創立の草庵を起源とし、本庄城の築城にあわせて城下町に移された曹洞宗寺院です。現在の本堂は、寛政2（1790）年に再建されたもので、市内に現存する寺院建築の中でも最大規模を誇ります。

山門せんもんは元禄15（1702）年に建築された楼門であり、総門は享保元（1716）年に再建されたものです。

●円心寺山門（市指定）

円心寺えんしんじは、本庄城二代城主の小笠原信之おがさわらのぶゆきが実父のために慶長8（1603）年に円心坊として建立した浄土宗寺院です。元禄6（1693）年に要行山円心寺に名称を改めました。山門は、天明年間（1781-1789）の建立と伝えられ、木割を縦横に駆使した構造的にも最も発達した時期の山門といえます。

●成身院百体観音堂（市指定）

成身院百体観音堂じょうしんいんは、信州浅間山の大噴火の犠牲者を弔うために寛政7（1795）年に建てられました。外観2層、内部3層の回廊式の通称「さざえ堂」とも呼ばれる特殊な構造を有します。堂内には、西国三十三所、坂東三十三観音、秩父三十四箇所の観音が安置されています。現存する観音堂は、明治21（1888）年に焼失した建物を明治42（1909）年に再建したものです。

【民家】

●諸井家住宅（県指定）

諸井家住宅もろいは、明治時代初期の近代郵便制度発足にあたって郵便取締役を務めた旧家の住宅です。諸井家は、有能な人材を多く輩出し、秩父セメントの創始者・諸井恒平もろい つねへい、書家・諸井春畦もろい しゅんけい、旧西武鉄道・秩父鉄道役員・諸井四郎もろい しろう、外交官・諸井六郎もろい りくろうなどが同家で育ちました。木造二階建、切妻造きりづまづくり、瓦葺、塗屋造という和風の造りを基本としますが、木造キングポストトラスの小屋組、正面の洋風ベランダ、色ガラスのアーチ窓を設けるなど、各所に洋風の意匠が施されています。建築時の当主・



写真 2-3 八幡神社社殿及び銅製鳥居



写真 2-4 安養院本堂



写真 2-5 円心寺山門



写真 2-6 成身院百体観音堂



写真 2-7 諸井家住宅

諸井泉衛^{もろい せんえい}は、出入りの大工を連れて横浜^{よこはま}居留地の西洋館を実地見聞したといわれています。建築年を示す資料は発見されていませんが、泉衛の孫・逸郎^{いつろう}の詩文などから、明治13(1880)年の建築と推定されています。

●田村本陣の門(市指定)

田村本陣^{たむら}は、本庄宿に二つあった本陣のうちの一つであり、寛永19(1642)年からの記録が残っています。幕末期には皇女和宮一行の宿所に用いられました。明治25(1892)年頃に田村家は東京へ移住したため、田村本陣の門は群馬県島村(現・伊勢崎市)^{いせさき}の田島家^{たじま}の所有となりましたが、後に本庄市へ寄贈され、旧本庄警察署の前に移築されました。

●田島亀夫家住宅主屋、田島亀夫家住宅蚕室(国登録)

田島亀夫家住宅主屋^{たじまかめ お}は、明治2(1869)年頃に建てられた木造総二階建、切妻造棧瓦葺の民家です。同家は、かつて「有隣館^{ゆうりんかん}」の屋号で蚕種業^{さんしゅ}を営んでいました。主屋二階を蚕種製造の場として利用していたため、屋根の最頂部には採光や煙抜きのための高窓^{たかまど}(小さな屋根)を3か所備えています。明治時代初期に建てられた地域最大級の民家で、蚕種製造の様子を知る上で貴重な建物です。

同敷地内に建つ蚕室は、明治時代末期～大正時代初期頃の建築と推定され、一階は貯桑場^{ちようそうば}、二階は窓を連ねた開放的な上簇室^{じようぞくしつ}として用いた専用蚕室として貴重な建物です。

【近代建築・近代化遺産】

●旧本庄警察署(県指定)

旧本庄警察署は、明治16(1883)年に建設された洋風建築です。二階ベランダにはアカンサスの葉を彫刻したコリント式オーダーの柱を並べ、半円窓や天井の灯火掛けにはレリーフ彫刻を施すなど、各所に洋風の意匠が見られます。昭和10(1935)年の新庁舎建設・移転まで使用され、その後は本庄消防団本部、簡易裁判所、区検察庁、本庄公民館、市立図書館、市立歴史民俗資料館などに利用されました。

●競進社模範蚕室(県指定)

競進社模範蚕室^{きやうしんしゃもはんさんしつ}は、養蚕技術^{ようさん}の改良に一生を捧げた木村九蔵^{きむらくぞう}によって、明治27(1894)年に児玉町の競進社蚕業伝習所内に建築されました。蚕の飼育を最も適した条件で行えるように採光・通風・温度調節・作業効率など多くの工夫が凝らされた蚕室で、一派温暖育に適した専用の蚕室として最も模範的な機能を持っていたことから、「模範蚕室」と呼ばれました。

●旧本庄商業銀行煉瓦倉庫(国登録)

旧本庄商業銀行煉瓦倉庫^{れんが}は、明治27(1894)年に設立した本庄商業銀行が融資の際に担保として取り扱う大量の繭^{まゆ}を保管



写真 2-8 田村本陣の門



写真 2-9 田島亀夫家住宅主屋



写真 2-10 旧本庄警察署



写真 2-11 競進社模範蚕室



写真 2-12 旧本庄商業銀行煉瓦倉庫

する倉庫として、明治29（1896）年に建設されました。この倉庫は、煉瓦造二階建、^{よせむねづくり}寄棟造^{おかもとそう たろう}棧瓦葺、木造洋小屋組といった構造で造られています。設計者は、^{おかもとそう たろう}岡本鋈太郎と^{しみずでいきち}清水釘吉と明らかです。埼玉県では類例の少ない大型の煉瓦建造物で、かつての本庄繭市場の繁栄を今に伝えています。

●児玉町旧配水塔（国登録）

児玉町旧配水塔は、水利の便が悪い旧児玉町に建設された近代水道の重要施設の一つで、昭和6（1931）年に完成しました。設計は、埼玉県技師の宮原雄次郎が行っています。配水塔は、鉄筋コンクリート造、塔の上部を貯水槽とする高架水槽で、下部にポンプ室を配置します。高さ17.7m、内径6.4m、水槽の容量は130kl、埼玉県唯一の塔型配水塔で、近代水道の文化遺産として貴重な建造物です。

●日本庄仲町郵便局（国登録）

日本庄^{なかもち}仲町郵便局は、旧局社跡に昭和9（1934）年に建設されたスクラッチタイルの外壁が特徴的な郵便局舎です。設計は石間氏、施工は今村氏、棟梁は地元の大工・尾高定吉でした。

●間瀬堰堤（国登録）、間瀬堰堤管理橋（国登録）

間瀬^{まぜえんてい}堰堤は、児玉用水普通水利組合の農業用ダムです。昭和3（1928）年に着工したものの難工事となり、昭和12（1937）年3月に完成となりました。県内初の本格的な玉石^{コンクリート}重力堰堤（重力式コンクリートダム）で、貯水量は530,000m³、東日本に現存する農業用重力式ダムとしては最古のものです。

堰堤部すぐ下の頭首工には昭和12（1937）年建設の間瀬堰堤管理橋が設けられています。

●寺坂橋（国登録）

旧伊勢崎道の元^{もと}小山川^{こやまがわ}に架かる寺坂橋^{てらさかばし}は、明治22（1889）年に建設された県内最古の石造アーチ橋です。かつては石製の^{おやぼしら}手摺を設けていましたが、現在は金属製に替わり、石製の親柱^{おやぼしら}は袂に寄せられて現存します。

●賀美橋（国登録）

賀美^{かみばし}橋は、鉄筋コンクリート造^{けたばし}桁橋で、伊勢崎新道の開削に伴い大正15（1926）年に元小山川に架けられました。竣工当時は、家型の造形を持つ親柱の上にガラスの橋^{きょうとう}灯を設置していました（現状の橋灯は後に復元したもの）。高欄下部には半円形の白いタイル張りの装飾が見られます。

●滝岡橋（国登録）

滝岡^{たきおかばし}橋は、昭和3（1928）年に本庄市^{ほった}堀田^{ふか}と深谷市^{おか}市岡^この境界を流れる小山川（旧中山道）に架けられました。橋台表面は、赤煉瓦のイギリス積仕上げ、親柱・欄干には花崗岩が用いられます。



写真 2-13 児玉町旧配水塔



写真 2-14 日本庄仲町郵便局



写真 2-15 間瀬堰堤



写真 2-16 寺坂橋



写真 2-17 賀美橋

② 美術工芸品

【絵画】

● 絹本着色清拙正澄画像（県指定）

小笠原信嶺おがさわらのぶみねが自身の菩提寺である開善寺かいぜんじへ奉納した画像であり、小笠原氏と極めて深い関係にあった中国からの渡来僧・清拙正澄せいせつしょうちようが描かれています。同画像は、14世紀後半の南北朝期の作品と考えられています。



写真 2-18 絹本着色清拙正澄画像

● 紙本着色武田信玄公画像（市指定）

本庄に開かれた開善寺の起源にあたる信州松尾の開善寺の開祖たけだしんげんが武田信玄の弟・逍遙軒信綱しょうようけんしんこうの子である球山宗温まつお禅師であることや、球山宗温禅師が小笠原信嶺の妻・久旺院尼くおういんにの兄であることなど、武田氏と開善寺の関係が深いために伝わる肖像画です。織田信長の弟・織田有楽齋長益おだうらくさいながますによって江戸時代初期に描かれたものと推定されています。

● 武正南盧筆絵画一括（市指定）

武正南盧たけまさなんろは天明6（1786）年、上州藤岡じょうしゅうふじおか（現・藤岡市）の峯家に生まれ、本庄宿武正家の婿養子となり伊右衛門と名乗りました。雅号は茂恒、画号が南盧です。画の他にも書道・歌道も極めましたが、慶応元（1865）年に没し、本庄宿円心寺に葬られました。19点の絵画が一括で指定されるもので、竹林七賢人・曲水図・山水図・恵比寿大黒図・徳川十六将図などがあります。

写真 2-19
紙本着色武田信玄公画像写真 2-20
武正南盧絵画

● 宮戸八幡大神社拝殿格天井の花鳥図（市指定）

宮戸八幡大神社拝殿格天井の花鳥図みやとどはちまんたいじんじやごうてんじようは、同社拝殿の格天井に描かれた花鳥画28面で、金井烏州かないうじゅうら7名の作者が明らかです。金井烏州は寛政8（1796）年、上州島村しまむら（現・伊勢崎市境島村）の豪農の家に生まれました。春木南湖はるきなんこに画の手解きを受け、江戸に出てからは谷文晁たにぶんちように師事、江戸南画壇の一人として名を成しました。晩年は故郷に「呑山楼」を構え、書画の製作に打ち込み、安政4（1857）年に没しました。



写真 2-21 宮戸八幡大神社拝殿格天井の花鳥図

【彫刻】

● 木造阿弥陀三尊像（県指定）

児玉地区の新町にある浄土宗寺院・實相寺じっそうじ えんきゆうは延久2（1070）年の創立と伝わる古刹で、寺伝によると戦国時代の雉岡城主・夏目豊後守定基なつめぶんごのかみさだもとの勧めで生野山より移転したとされています。本尊である木造阿弥陀三尊像は、平安時代初期の作風の様相を強く残しますが、鎌倉時代に流行した作風も見られ、同中期頃の守旧派的な仏師による製作と推定されます。

● 不動寺石造十一面観音坐像（市指定）

不動寺石造十一面観音坐像きたいずみは、北泉地区の西五十子にししいかつこに所在する中世に造立された石仏です。同時期の石仏は市内に類例が少



写真 2-22 木造阿弥陀三尊像

なく、紀年銘のある唯一の資料です。向かって左側に「文明元己丑年七月吉日」、右側に「願主道德」の銘があります。道德は、東五十子にある増国寺の住職であった松陰西堂を指すといわれています。なお、松陰西堂は、『松陰私語』の作者として知られています。

【工芸品】

●天龍寺の銅鐘（県指定）

天龍寺の銅鐘は、同寺山門二階に吊るされており、地元の鋳物師集団である金屋鋳物師の代表的な作品の一つです。銘文には、宝永8（1711）年の年紀と、鋳物匠工の倉林太左衛門金貞と同茂左衛門金珍の名が刻まれています。

●唐銅造大日如来坐像（市指定）

成身院百体観音堂の前に鎮座する、唐銅造の鋳造仏です。台座には「御鋳工武州金屋住倉林治兵衛国義、補鋳工野州佐野住丸山林八長暉」の銘文があり、金屋鋳物師の作品の一つであることがわかります。造立年は不明ですが、「成身院文書」の記述から百体観音堂が完成した寛政7（1795）年頃に造られたものと推定されます。

●法養寺の鰐口（市指定）

法養寺の鰐口は、天文2（1533）年の銘があり、『新編武蔵風土記稿』にも記述があります。追刻によると、児玉地藏菩薩祈念所に願主の六郎次郎が奉納したもので、その後、洪水で流出し土中から発見され、元文5（1740）年に久米氏が購入し、延享2（1745）年に再び地藏堂に奉納されたと伝えられています。

●成身院百体観音堂の鰐口（市指定）

成身院百体観音堂の鰐口は、直径180cm、厚さ60cm、重さ750kgで、日本有数の規模を誇るものです。寛政7（1795）年の銘があり、明治21（1888）年に百体観音堂が火災焼失した際も焼け残り、明治42（1909）年の再建時に再び吊るされました。

●大正院の不動剣（市指定）

大正院の不動剣は、大正院不動堂建立の際に奉納されたもので、表面に「長谷部若狭守國治作」、裏面に「正目剣、慶応三年二月吉日」の銘が確認されています。なお、長谷部若狭守國治は、幕末から明治時代にかけて本庄宿で活躍した刀鍛冶です。

●長谷部若狭守國治銘脇差（市指定）

長谷部若狭守國治銘脇差は、表面に「慶応三年八月吉日」、裏面に「長谷部若狭守國治」の銘が確認されています。



写真 2-23 不動寺石造十一面観音坐像



写真 2-24 天龍寺の銅鐘



写真 2-25 唐銅造大日如来坐像



写真 2-26 成身院百体観音堂の鰐口



写真 2-27 大正院の不動剣



写真 2-28 長谷部若狭守國治銘脇差

【古文書】

●八幡山福田家中世文書（市指定）

八幡山^{ふくだ}福田家中世文書は、永禄^{えいろく}4（1561）年の北条氏^{ほうじょうじたか}茂感状、北条氏^{ほうじょうじまさ}政感状、今川氏^{いまがわうじざね}真感状の3点からなる古文書です。永禄4（1561）年の越後上杉勢の侵攻により生じた河越城^{かわごえ}での籠城戦で活躍した畑彦十郎に対する3氏からの感謝状です。

●長泉寺中世文書（市指定）

長泉寺^{ちようせんじ}中世文書は、2点の資料からなります。1点が永禄12（1569）年に武田信玄が武蔵国^{むさしのくに}秩父・児玉両郡に侵入した際に、自軍兵士の長泉寺における乱暴狼藉を禁止した高札、もう1点が元亀元（1570）年に北条氏邦が長泉寺の寺中・門前、末寺であった広齊寺（興西寺・小平村に所在）での殺生禁止、竹木切り取り禁忌の制札です。この資料から、短期間に長泉寺周辺地域は武田・北条両軍の争奪場となっており、当地域における長泉寺の重要性がわかります。

●今井鈴木家中世文書（市指定）

今井鈴木^{いまいすずき}家中世文書は、天文21（1552）年から天正18（1590）年に至る8点の文書群です。このうち、天正15（1587）年の北条氏邦^{しゆいんじよう}朱印状は、九郷^{くごうせき}堰の者達に前々の如く堰普請を行うように命じたものです。共和地区を中心とした北武蔵地域の戦国時代の状況を知る上で貴重な資料です。

●小笠原忠貴建立祈願文（市指定）

本庄城主・小笠原信嶺の孫である小笠原忠貴^{おがさわらただか}（政信）^{まさのぶ}が寛永16（1639）年に金鑽神社の社殿を寄進した際の祈願文です。

【考古資料】（※一部の出土品は「3）記念物」に記載しています。）

●小島前の山古墳出土盾持人物埴輪（市指定）

小島前^{おじままえ}の山古墳^{やま}出土^{たてもち}盾持人物埴輪は、小島前の山古墳の横穴式石室の入口左右に顔を外側に向けて配置された状態で検出されました。大きく口角を上げて笑う口と三日月形の眼孔、左右に張出した耳、高い鷲鼻、大きくしゃくれた顎など、他には類を見ない特異な容貌が特徴です。帰属年代は他の出土品から6世紀後半と推定されます。

●御手長山古墳出土人物埴輪（市指定）

御手長^{おてながやま}山古墳出土人物埴輪は、昭和40（1965）年頃に墳丘から発見された男子の半身像です。美豆良を結った表現は見られませんが、玉を連ねた頸飾と耳輪を着け、腰には鎌を差しています。鎌を差す人物は馬形埴輪とともに出土する例が多いことから、馬飼いの人物を表現していると推測されます。

●元田の板石塔婆（県指定）

元田^{げんだ}の板石塔婆^{いたいしとうぼ}は、一石に三基の板石塔婆を表現した三連碑です。中央に阿弥陀如来、両脇のやや低い位置に聖観音菩薩・



写真 2-29 八幡山福田家中世文書



写真 2-30 今井鈴木家中世文書



写真 2-31 小島前の山古墳出土盾持人物埴輪



写真 2-32 御手長山古墳出土人物埴輪

勢至菩薩を示す種子（梵字）を刻み、阿弥陀三尊の配置を表しています。全高181cm、上幅118cm、下幅125cm、厚さ9cmあり、正嘉2（1258）年の銘があります。三連碑は他に類例がなく、極めて珍しいものです。

【歴史資料】

●寶龜二年銘木簡（市指定）

金屋地区（飯倉）の山崎上ノ南遺跡から出土した木簡です。宝龜2（771）年に檜前部名代女という女性が稲40束を返済したことを税長大伴国足が確認したという内容が記されています。奈良時代の年号が記された木簡として県内唯一のものです。

●玉蓮寺釈迦一尊種子板石塔婆（市指定）

玉蓮寺の墓地に建つ嘉元2（1304）年銘の大型板碑で、正面に釈迦如来を示す種子（梵字）を刻みます。武蔵武士児玉党の一族・児玉時国の供養塔との伝承があります。全高240cm、幅54cm、厚さ6cmであり、本市最大級の板碑です。

●小和瀬薬師堂自然石塔婆（市指定）

小和瀬薬師堂自然石塔婆は、円柱状の自然石の三面を調整して三角柱状に整えられたもので、市内の石製塔婆の中でも珍しい様式です。三面のうち、一面に大日如来を示す種子（梵字）と宝治元（1247）年銘があり、他の面に阿弥陀如来を示す種子（梵字）を刻みます。

●保木野の円形光背図像板石塔婆（市指定）

保木野の円形光背図像板石塔婆は、乾元2（1303）年銘の阿弥陀一尊種子図像板碑です。主尊が種子（梵字）ではなく、円形光背を持つ阿弥陀如来の図像で表現される特徴があります。この板碑は、宅地より掘り出されたものとされています。

●ほてい堂の五輪塔（市指定）

大型の五輪塔2基で、秋平地区（小平）の根岸廓と呼ばれる集落のほてい堂（布袋森堂）に納められています。2基ともに空輪・風輪の破損が著しく、また銘文は見られないものの、火輪と水輪の形態から鎌倉時代の造立と推定されています。

●風洞の石幢（市指定）

風洞の石幢は、室町時代のもので推定される六面重制石幢です。同形式の重制石幢は、秩父郡から児玉郡にかけて多く分布しています。

●塙保己一遺品及び関係資料（県指定）

本市では、郷土の偉人である塙保己一の遺品や関係資料98点を収蔵しています。遺品の中には、保己一が生涯大切にしていた母手縫いの巾着や、保己一が江戸へ出る際に使用したそうめん箱（お宝箱）、借用証文や告文、愛用の道具類などがあります。

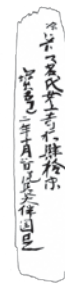


写真 2-33 寶龜二年銘木簡



写真 2-34 玉蓮寺釈迦一尊種子塔婆



写真 2-35

写真 2-36

小和瀬薬師堂自然石塔婆 保木野の円形光背図像板石塔婆



写真 2-37 ほてい堂の五輪塔



写真 2-38 塙保己一遺品及び関係資料(母手縫いの巾着)

2) 民俗文化財

① 有形の民俗文化財

【山車・屋台】

●本庄地域の山車8台（市指定）[表2-5]

11月2日と3日に執り行われる本庄まつりでは、金鑽神社秋季大祭の^{つけまつり}附祭として10台の山車が曳き回されます。このうち、8台が市指定民俗文化財となっています。

いずれの山車も江戸型の人形山車で、指定された山車は、明治5（1872）年に最古のものが作成され、残りの7台も大正時代までの間に作られました。いずれも人形座の上に町特有の人形を乗せ、高々とせり上げる形式です。

●児玉地域の屋台1台・山車3台（市指定）[表2-5]

11月3日に執り行われるこだま秋まつりでは、八幡神社秋季大祭の附祭として、屋台1台と山車3台が曳き回されます。これらの屋台と山車は、いずれも市指定民俗文化財となっています。

児玉新町の屋台は、秩父型屋台の流れをくんだ大型で豪華なつくりをしています。3台の山車はいずれも人形山車ですが、このうち、仲町の山車は、人形座の昇降機構を持つ江戸型山車と秩父型屋台の特徴を取り入れています。他の2台の山車は、秩父型屋台の特徴を取り入れ、屋根上に人形座を設けた児玉型山車と呼べるものとなっています。



写真 2-39
本庄宮本町の山車



写真 2-40
児玉新町の屋台

表 2-5 本庄市の山車・屋台（指定文化財）

	指定名称	製作	囃子台	人形座	車	人形	
本庄地域	本庄宮本町の山車	明治15年 (1882年)	三代目・原舟月 (東京)	唐破風屋根 床上勾欄付	二重枠組 せり出し式	四輪固定式	日本武尊
	本庄泉町の山車	明治28年 (1895年)	横山友治郎 (東京浅草)	欄間式 床上勾欄付	二重枠組 せり出し式	四輪式 (前輪馬車式)	武内宿禰
	本庄上町の山車	明治35年 (1902年)	横山友治郎 (東京浅草)	唐破風屋根 床上勾欄付	二重枠組 せり出し式	四輪式 (前輪馬車式)	神功皇后
	本庄照若町の山車	明治33年 (1900年)	浪花屋庄田七郎兵衛 (東京浅草)	唐破風屋根 床上勾欄付	二重枠組 せり出し式	四輪式 (前輪馬車式)	桃太郎
	本庄七軒町の山車	大正13年 (1924年)	地元大工	唐破風屋根 床上勾欄付	二重枠組 せり出し式	四輪式 (前輪馬車式)	加藤清正
	本庄仲町の山車	明治5年 (1872年)	三代目・原舟月 (東京)	唐破風屋根 床上勾欄付	二重枠組 せり出し式	四輪式 (前輪馬車式)	神武天皇
	本庄本町の山車	明治28年 (1895年)	浪花屋庄田七郎兵衛 (東京浅草)	唐破風屋根 床上勾欄付	二重枠組 せり出し式	四輪式 (前輪馬車式)	石橋
	本庄台町の山車	明治18年 (1885年)	浪花屋庄田七郎兵衛 (東京浅草)	唐破風屋根 床上勾欄付	二重枠組 せり出し式	四輪式 (前輪馬車式)	素盞鳴尊
児玉地域	児玉新町の屋台	明治10～20 年代	不明	向唐破風屋根 平床式回り舞台	—	四輪式 (前輪馬車式)	—
	児玉上町の山車	明治30年代	(伝) 秩父の宮大工	向唐破風屋根 床上勾欄付	—	四輪式 (前輪馬車式)	—
	児玉仲町の山車	明治25年 (1892年)	藤井作次郎 (小前田村)	唐破風屋根 三層勾欄	三重枠組 せり出し式	四輪式 (前輪馬車式・梶棒)	神功皇后
	児玉本町の山車	明治33年 (1900年)	不明	六本柱向唐破風屋根 二重勾欄	—	四輪式 (前輪馬車式)	—



写真 2-41
本庄泉町の山車



写真 2-42
本庄上町の山車



写真 2-43
本庄照若町の山車



写真 2-44
本庄七軒町の山車



写真 2-45
本庄仲町の山車



写真 2-46
本庄本町の山車



写真 2-47
本庄台町の山車



写真 2-48
児玉上町の山車



写真 2-49
児玉仲町の山車



写真 2-50
児玉本町の山車

【神輿】

●本庄本町の神輿（市指定）

本庄本町の神輿は、もとまち明和4（1767）年に製作されたものです。製作の翌年から、市神祭礼日（のちの本庄祇園まつり）に神輿渡御が行われました。神輿の内部には墨書きが見られ、「細工人 大坂北御堂筋富屋九郎兵衛 明和四丁亥都市十一月」と書かれています。明治12（1879）年に修理が行われましたが、旧状を良く保っています。現在の本庄祇園まつりでは、昭和5（1930）年に新調された神輿による渡御が行われ、本神輿は御仮舎に安置されます。

【能】

●八幡神社の能装束・能面（市指定）

八幡神社社伝によると、雉岡城主・夏目豊後守定基が同社境内に能楽殿を建立し、能興行を行ったとされ、また、享保年間（1716-1736）に小宮山清右衛門が能楽を児玉に伝えたともいわれています。八幡神社の能装束・能面は、あんどうつしまのかみ安藤対馬守が奉納したものと伝わっており、神社の宝物とされています。明治時代初期まで毎年8月15日に興行が行われていましたが、中断し、大正時代にほうしやうりゆう宝生流児玉能楽会として一時復活しましたが現在は行われていません。



写真 2-51 本庄本町の神輿



写真 2-52 八幡神社の能装束・能面

② 無形の民俗文化財

【獅子舞】

●台町の獅子舞（県指定）ほか4団体（市指定）

[表 2-6]

台町の獅子舞は、寛文3（1663）年に台町八坂神社の氏子有志によって奉納されたのが始まりとされています。干ばつ時の雨乞いに靈験あらたかであるとされ、雨乞い獅子として崇められてきました。獅子頭は、最も古いものが寛文8（1668）年、二代目が文政11（1828）年、三代目が昭和11（1936）年の製作で、現在使用するものは昭和60（1985）年に製作されたものです。なお、台町の獅子舞以外にも現在まで活動を継続している獅子舞が市内に4団体あり、いずれも市指定文化財となっています。



写真 2-53 台町の獅子舞



写真 2-54 仁手諏訪神社の獅子舞



写真 2-55 今井金鑽神社の獅子舞

【神楽】

●金鑽神楽5組（市指定）[表 2-7]

児玉郡から大里郡にかけての金鑽神社信仰圏の諸社に金鑽神楽と称する神楽が分布しています。明治15（1882）年「遊芸人取締規則」発布の際に、神楽が神事であることを理由に、規則に該当しな



写真 2-56 小平の獅子舞



写真 2-57 吉田林の獅子舞

表 2-6 本庄市の獅子舞（指定文化財）

	指定名称	所在地	日時	場所	由来
本庄地域	台町の獅子舞	台町八坂神社	7/14-15 練習は祭り前1週間。前日獅子洗い。	神社境内、仮宮前他7か所。また、大正院境内不動尊・薬師前にて。	寛文3（1663）年、市神社（天王さま）の定期市開設の際はじめてと伝える。厄除け、雨乞い、五穀豊穡、悪魔降伏。
	仁手諏訪神社の獅子舞	仁手諏訪神社	10/19 臨時に雨乞いに舞う（雨乞い神社にて）。前日、獅子舞諸準備。練習は祭り10日前より公会堂にて。	諏訪神社、雷電神社、蚕影神社、名主家、雨乞神社、稻荷神社、琴平神社、二十三夜、神主家、御役所、地神宝、八雲神社、阿夫利神社の13か所。	獅子頭は、延宝3（1675）年、常陸城主蔭山数馬より、当地領主笹山彦左衛門を経由して拝領した。天明8（1788）年、獅子舞の達人で日の下開山常陸角兵衛流の奥義を極めた高原喜なる者が当村に來たり、諏訪神社氏子に舞を伝授したという。
	今井金鑽神社の獅子舞	今井金鑽神社	10/19 練習は10/10より1週間。	神社の庭・村回り。	享保9（1724）年、社殿再建の際、京都吉田家配下岩本日向を迎え、神主にした。この頃、獅子舞を社前に奉納するようになった。豊作・防災祈願。
児玉地域	小平の獅子舞	児玉町小平石神社 日本神社	春秋の神社祭典（旧行）。練習は祭り前10日間普明寺にて。	神社境内。	元禄12（1699）年より伝わる獅子舞が、その後小平に入り、成身院覺桑上人に渡り管理された。成身院の寺男の1人が上人の許しをうけて舞方・笛吹き等を考案、村の若い衆に教えたのがはじまり。厄払い・雨乞い。
	吉田林の獅子舞	児玉町吉田林日枝神社 西養寺	10/19（旧行、昭和41（1966）年が最後。）練習は祭り1週間前。	倉元（宿）に集合。日枝神社、弁天様、西養寺、八坂神社、稻荷神社、御手長様を経て、村全域を悪魔祓いに廻る。	江戸時代中期に始められたと伝える。悪疫が流行し死者が多く出た。これは死神のたたりと恐れ、他村に習い、獅子舞を舞って悪魔を祓った。

※指定当時の情報で、現在は公演日時や場所が変更になっているものもあります。

いと願い出て組織再編され、金鑽神楽として統一が図られました。その結果、神楽組は計13組となり、このうち、本庄組・宮崎組・杉田組・太駄組・根岸組の5組が本市で活動しました。組の名称は、組発足当時の組長（主に奉納される神社の宮司）の名を取ることが多いですが、土地の名を取った組もあります。なお、現在は、根岸組が活動を休止しています。

【万作】

●西小平の万作（市指定）

西小平の万作は、伊勢音頭の手踊りを基本とする民俗芸能です。明治21（1888）年頃に美里町広木から伝えられました。明治時代末期から大正時代にかけて最盛期を迎え、鑑札を取って各地で上演されました。現在は、日本神社の春の例祭で上演されています。

●元田の万作（市指定）

元田の万作は、大正時代初期に榛澤（現・深谷市）から伝わったもので、村の若者たちによって始められました。村の貴重な娯楽として親しまれ、神社祭礼で奉納されました。大正時代は主に手踊りを行い、昭和12（1937）年頃には芝居も行われるようになりました。現在は活動を休止しています。



写真 2-58
金鑽神楽本庄組



写真 2-59
金鑽神楽宮崎組



写真 2-60
金鑽神楽杉田組



写真 2-61
金鑽神楽根岸組



写真 2-62
金鑽神楽太駄組



写真 2-63
西小平の万作



写真 2-64
元田の万作

表 2-7 本庄市の神楽（指定文化財）

	指定名称	所在地	組織	伝承経路	主な上演	備考
本庄地域	金鑽神楽本庄組	本庄	不明	深谷宿の鼠八幡神社から岡部（深谷市）の森田組を経て伝承	金鑽神社（4/10,11/2-3） 諏訪神社（10/17） 阿夫利天神社（9/3）	当時は免許制、文政8（1825）年の免許状あり。
	金鑽神楽宮崎組	牧西	明治15年（1882年）再編	仁手より伝承	八幡神社（4/15,10/14-15）	江戸時代から続く。牧西八幡大神社の宮司宮崎氏が歴代組長として統括。
	金鑽神楽杉田組	四方田	明治15年（1882年）再編	金鑽組（神川町）より伝承	金佐奈神社（4/4） 西富田金鑽神社（10/19）	江戸時代から続く。旧四方田村の金佐奈神社の宮司杉田家が組長。
児玉地域	金鑽神楽根岸組	児玉町小平	明治15年（1882年）再編	大里郡用土村に伝来していた神楽面・装束等を譲り受けて開始、直接的には本庄組より伝授されたと考えられている	日本神社（4/3） 石神社（3/3,10/14）	現在活動休止。 写真・録音・スライド・8mm映画で記録保存。
	金鑽神楽太駄組	児玉町太駄	明治26年（1893年）	本庄組より師事	岩上神社（4/15）	明治34（1901）年9月29日神川村金鑽神社より金鑽神楽員申付候事の記録。

※指定当時の情報で、現在は公演日時や場所が変更になっているものもあります。

3) 記念物 (※下浅見鷺山古墳出土品は「有形文化財」の指定)

① 遺跡・旧跡

【古墳・集落・窯跡】

●長沖 32 号墳 (市指定)

総数 200 基を超える県内最大規模の古墳群である長沖古墳群(県選定重要遺跡(長沖・高柳古墳群))の一角を占める前方後円墳です。埋葬施設の形状は明らかになっていませんが、周囲の堀から出土した円筒埴輪や朝顔形埴輪の形態から、6 世紀中頃に築造された古墳と考えられています。



写真 2-65 長沖 32 号墳

●鷺山古墳 (県指定)、下浅見鷺山古墳出土品 (市指定)

鷺山古墳は、県内でも最古級の古墳の一つであり、4 世紀半ば以前の築造と推定されています。かつては円墳と考えられていましたが、昭和 60 (1985) 年の調査で、古墳時代前期に築造された主軸長約 60 m の前方後方墳と判明しました。周溝(古墳の周囲をめぐる溝)からは底部に穿孔をもつ壺形土器や椀形土器など(下浅見鷺山古墳出土品)が出土しました。前方部の平面形が左右両端を切り落としたような特異な形状で、他の古墳では例を見ない事例として注目されています。



写真 2-66 鷺山古墳

●万年寺つつじ山古墳 付出土品 (市指定)、万年寺八幡山古墳 (市指定)

旭・小島古墳群(県選定重要遺跡)に属する万年寺つつじ山古墳と万年寺八幡山古墳は、いずれも 4 世紀後半頃の築造と推定されています。万年寺つつじ山古墳は、一辺 25m の方墳で、周囲には幅 4.2m ~ 6.3m の周溝がめぐります。墳丘内部からは刀子や斧、鎌を象った蛇紋岩製の石製模造品 12 点が検出されました。万年寺八幡山古墳は、直径 40m の円墳で、周囲には幅 9 ~ 11m の周溝がめぐります。板石を組み合わせた箱形石槨が確認されていますが、墳丘の中心部には未確認の埋葬施設が存在する可能性があります。



写真 2-67 万年寺八幡山古墳

●入浅見金鑽神社古墳 付出土品 (市指定)

入浅見金鑽神社古墳は、生野山丘陵から北東に派生した支丘上に位置する直径約 68m の円墳です。築造年代は、5 世紀前半と考えられています。出土した円筒埴輪の表面には、朝鮮半島の土器製作技法に起源する「格子タタキ技法」が用いられていることから、金鑽神社古墳の埴輪の製作に、朝鮮半島出身の土器製作技術者が参加していたことがうかがえます。



写真 2-68 入浅見金鑽神社古墳

●二本松古代住居跡 (市指定)

二本松古代住居跡からは、5 世紀中頃の竪穴式住居 6 棟が検出されました。この遺跡の特徴として、東日本で最も早く竈が導入されていることが挙げられます。



写真 2-69 二本松古代住居跡

●秋山古墳群（市指定）、秋山庚申塚古墳 付出土品（市指定）

秋山古墳群は、小山川右岸の丘陵先端部を中心に分布する古墳群で、前方後円墳2基を含む43基が現存しています。当初は、100基を超える規模であったことが推定されます。この古墳群の中でも、秋山庚申塚古墳は、直径34mの円墳で、前方後円墳の秋山諏訪山古墳（未指定）を除くと、群内最大規模の古墳です。周囲には円墳では珍しい二重の周溝がめぐり、墳丘や周溝の中堤からは円筒、家、人物、馬などの形象埴輪が出土しました。埋葬施設は胴張型横穴式石室で、石室の内部からは馬具類、鉄鏃、瑪瑙製・碧玉製の勾玉、銀製や金銅製の耳輪、刀装具など装身具類を中心に豊富な副葬品が出土しています。秋山庚申塚古墳の築造年代は、6世紀後半と考えられています。

●宥勝寺裏埴輪窯跡 付靱形埴輪4点（県指定）

宥勝寺裏埴輪窯跡は、浅見山丘陵の北側に伸びる尾根の東側斜面に立地する古墳時代後期の埴輪製作遺跡です。平成13（2001）年の調査で、5基の埴輪窯跡が良好な状態で確認されました。丘陵斜面の傾斜を利用して作られた半地下式の登り窯で、長さ7m前後、幅1.5mほどの大きさです。窯のまわりからは、円筒埴輪や人物埴輪、馬形埴輪のほか、矢を入れる武具の一種である「靱」、大きな団扇のような形をした「翳」など、様々な形の埴輪が出土しました。出土した埴輪の型式から、6世紀後半に操業されていたと推定されます。

【城跡】

●雉岡城跡（県指定）

雉岡城跡は、戦国時代初期に児玉地区（八幡山）の独立丘陵上に築かれた城跡です。別名、八幡山城とも呼ばれ、鎌倉街道上道と上杉道の分岐点内側の交通の要衝にあたります。関東管領山上内杉顕定が築城したとされ、その後、家臣の夏目豊後守定基が城主となりました。戦国時代後半になると後北条氏の武蔵進出に伴い同氏の勢力下に組み込まれましたが、天正18（1590）年の豊臣秀吉の小田原攻め、その後の徳川家康の関東入国に伴い松平玄蕃頭家清が配置されました。その後、慶長6（1601）年に家清が三河国吉田（愛知県豊橋市）に転封となったことで、雉岡城は廃城となりました。

●本庄城跡（市指定）

本庄城は、弘治2（1556）年に武蔵武士児玉党の後裔・本庄実忠が築城したとされます。雉岡城と同様に関東管領上杉氏の勢力下でしたが、後北条氏の勢力下に置かれた後、徳川家康の関東入国に伴い小笠原信嶺が配置されました。その後、慶長17（1612）年、信嶺の子・信之の代に下総国古河へ転封となったことで、本庄城は廃城となりました。



写真 2-70 秋山庚申塚古墳



写真 2-71 宥勝寺裏埴輪窯跡



写真 2-72 宥勝寺裏埴輪窯跡 付靱形埴輪4点



写真 2-73 雉岡城跡



写真 2-74 本庄城跡

【高札場】

●八幡神社の高札場（市指定）

八幡神社の高札場は、児玉地区の本町と連雀町の境付近、中山道脇往還川越道の中央にあったとされています。交通の障害となることから、八幡神社境内北西隅に移設されました。

●太駄の高札場（市指定）

本泉地区（太駄）の中央には秩父道と上州道の分岐点となる交通の要衝が存在し、太駄の高札場はこの地点に位置しています。



写真 2-75 太駄の高札場

【旧宅】

●塙保己一旧宅（国指定）

金屋地区（保木野）には、塙保己一の生家が残されています。塙保己一旧宅は、木造二階建、入母屋造茅葺で、屋根の四方を大きく切り上げた養蚕住宅となっています。保己一の父・宇兵衛の代に建てられたものと伝えられています。



写真 2-76 塙保己一旧宅

【墓所・墓碑など】

●平重衡の首塚（市指定）

共和地区（蛭川）の釈迦堂墓地に、一の谷合戦で生け捕られた平清盛の五男で三位中将である平重衡の首塚が残されています。なお、重衡を生け捕ったのは、『平家物語』では庄四郎高家、『武蔵七党系図』では庄太郎家長と異なりますが、いずれも児玉党の武士となります。



写真 2-77 平重衡の首塚

●莊小太郎頼家供養塔（県指定・旧跡）

本泉地区（栗崎）の宥勝寺墓地には、寿永3・治承8（1184）年に起きた一の谷合戦で討ち死にした莊小太郎頼家の供養塔が残されています。莊小太郎頼家は児玉党の嫡流で旗頭といわれた庄太郎家長の長男で、頼家夫人の妙清禅尼は、夫の菩提を弔うために建仁2（1202）年に宥勝寺を建てたと伝わっています。この供養塔は、戦国時代の特徴を持つ五輪塔であることから、後年になって頼家の供養塔として造立されたものと考えられています。



写真 2-78 莊小太郎頼家供養塔

●小笠原信嶺夫妻の墓（市指定）、小笠原信之の墓（市指定）

本庄城主・小笠原信嶺は、慶長3（1598）年に没し、自身が生前に開基した開善寺に埋葬されました。同寺墓地には信嶺夫妻の墓が並立しています。2基ともに宝篋印塔であり、戦国時代末期から近世初頭頃に流行した形状です。

信嶺の没後、養子・信之が慶長3（1598）年に家督を継ぎ本庄城主となりました。慶長17（1612）年に下総国古河城へ転封となり、慶長19（1614）年に古河城にて没しましたが、開善寺に埋葬されました。信之の墓は同寺にあり、墓石は宝篋印塔で戦国時代の特徴をよく示しています。近世初期に起きた本庄大火の影響か、全体的に火災に遭った痕跡が見られます。



写真 2-79 小笠原信嶺夫妻の墓

●小倉家の墓碑群（市指定）

本庄宿で料亭紅葉屋を営んだ小倉紅於おぐらこうおが、交流を持った多くの文人達の遺墨を後世に残すために、遺墨を刻んだ墓石が現代まで伝えられています。



写真 2-80 小倉家の墓碑群

② 植物

●金鑽神社のクスノキ（県指定）、本庄金鑽神社のカヤ（市指定）

本庄金鑽神社のクスノキとカヤは、本庄城主小笠原信嶺の孫・忠貴（後に政信に改名）が、寛永16（1639）年に社殿を寄進建立した際に献木したものと伝えられています。



写真 2-81 金鑽神社のクスノキ
本庄金鑽神社のカヤ

●城山稲荷神社のケヤキ（県指定）、城山稲荷神社のヤブツバキ（市指定）

城山稲荷神社しろやまいなりじんじやのケヤキと城山稲荷神社のヤブツバキは、本庄実忠が弘治2（1556）年に本庄城を築城した際に献木したものと伝えられています。

●東富田観音塚のマツ（市指定）

本庄城主・小笠原氏は、慶長3（1598）年に赤城山あかぎやま山麓から100本のマツを取り寄せ、城内及び領内各所に植えたといわれています。東富田観音塚のマツは、その最後の生き残った1本とされます。



写真 2-82 城山稲荷神社のケヤキ

●仲町愛宕神社のケヤキ（市指定）

仲町愛宕神社あたごじんじやは古墳上に祀られており、ケヤキは御神木として所在しています。

●石神神社のケヤキとスギ（市指定）

秋平地区（小平）の鎮守・石神神社せきじんじんじやには御神木のケヤキとスギの古木があります。樹齢は不明ですが、ケヤキについては近世初期の社殿造営後に植えられたと推定されます。

●骨波田のフジ（県指定）

長泉寺境内にある房長が1mを超える古木のフジです。一説には江戸時代中期、宝暦3（1753）年に仏国哲眼大和尚が伊豆最勝院いずさいしょういんより長泉寺第19世として入山した際に、山路で供の荷物の紐が切れ、近くで咲いていた藤の蔓で荷物を結わいて代用したものが当寺で根付いたものと伝えられています。



写真 2-83 骨波田のフジ

2 未指定文化財の概要と特徴

2-1 未指定文化財の状況

指定等文化財以外でも、後世に伝えるべき文化財は多く残されています。本計画の作成にあたり、本庄市に所在する未指定文化財を把握するため、既往調査資料（市史・町史、郷土誌、文化財調査報告書等）265点を調査し、未指定文化財の抽出を行いました。

抽出した未指定文化財の件数を分類ごとに整理し、[表 2-8] に示しました。本市に所在する未指定文化財は、令和4（2022）年12月の時点で合計2,030件に上ります。中でも、歴史資料919件、考古資料131件をはじめとする有形文化財や、古墳170件、集落跡168件、寺院・寺院跡92件を含む記念物が未指定文化財全体に占める割合が高いことがわかります。

表 2-8 未指定文化財件数

分類1	分類2	分類3	3内訳	2内訳	1内訳	
有形文化財	建造物	社寺	23	66	1253	
		民家・町家	13			
		近代建築	2			
		近代化遺産	6			
		近代和風建築	22			
	美術 工芸品	絵画	53	1187		
		彫刻	4			
		工芸品	1			
		書跡・典籍	21			
		古文書	58			
		考古資料	131			
		歴史資料	919			
		無形文化財	工芸技術			2
	民俗文化財	有形の 民俗文化財	衣服	17		54
食文化			1			
住居			12			
生業			7			
信仰			3			
民俗芸能			9			
山車			2			
民俗工芸			3			
無形の 民俗文化財		食文化	5	136		
		住居	2			
		生業	9			
		人の一生	5			
		信仰	7			
		社会生活	6			
		年中行事	32			
		民俗芸能	18			
		民俗工芸	17			
		民謡	35			
		記念物	遺跡		集落跡	168
古墳群	14					
古墳	170					
複合遺跡	34					
鍛冶遺構	5					
窯跡	3					
祭祀	1					
城館跡	40					
戦跡	1					
条里遺跡	6					
寺院・寺院跡	91					
神社	9					
交通（街道・水運）	8					
その他	17					
名勝地	公園		1	3		
	湧水		2			
動物 植物 地質鉱物	動物		7	10		
	植物	2				
	地質鉱物	1				
文化的景観			2	2	2	
伝統的建造物群			1	1	1	
その他の文化財	文化財の集中する地区	2	2	2		
合計			2030			

2-2 未指定文化財の概要

1) 有形文化財

① 建造物

【社寺】 『埼玉の近世社寺建築』を中心に23件の社寺建築を確認しました。同調査で詳細調査(二次調査)が行われたものの多くは、既に指定を受けていますが、宮戸八幡神社本殿・拝殿、長泉寺外門・山門が未指定・未登録です。ただし、宮戸八幡神社は拝殿格天井の花鳥図が市指定有形文化財、長泉寺は境内の「骨波田のフジ」が県指定天然記念物となっており、既に指定を受けた文化財が敷地内に所在する点において、文化財の一体的保存・活用に向けた土壌は整っているといます。

【民家】 『埼玉県の民家』から13件の民家を確認しました。詳細調査(二次調査)の対象となっておらず、未指定・未登録のまま現在に至っています。また、建築年代が近世に遡るものや、茅葺屋根を有するものが列挙されていますが、追跡調査が行われていないため、現状が把握できていません。

【近代建築・近代化遺産・近代和風建築】 2件の近代建築、6件の近代化遺産、22件の近代和風建築を確認しました。『日本近代建築総覧』より本庄地域市街地に所在する飯塚医院、中沢医院などの洋風建築を確認しました。また、『埼玉県の近代和風建築』からは、本庄地域市街地・児玉地域市街地に現存する住宅や商業・産業施設、市内各地に所在する高窓を持つ養蚕民家などを確認しました。市街地における建造物の特徴として、旧大政商店本庄支店などを代表とする防火建築(煉瓦造・土蔵造・卯建)が挙げられます。上述のほか、『埼玉県の近代化遺産』『近代遺跡調査報告書』などから十二天池、備前渠用水といった農業用水に関する近代化遺産や坂東大橋などの交通遺産を確認しました。坂東大橋は新橋架橋(平成16(2004)年3月6日開通)に伴い伊勢崎市側の袂に一部がモニュメント保存されています。なお、各報告書において木造校舎の掲載も散見されましたが、いずれも現存していません。

② 美術工芸品

【絵画】 『埼玉県仏教絵画調査報告書』より53件の仏画・頂相を確認しました。市内寺院に伝わる室町～江戸時代のものが中心になります。

【彫刻】 『美術工芸品(彫刻)所在緊急調査報告書』より4件の仏像を確認しました。いずれも中世(鎌倉～室町時代)のものになります。

【工芸品】 『埼玉のやきもの』より江戸時代末期～明治時代にかけて秋山地区で製作された「秋山焼」と呼ばれる陶器を確認しました。操業に関して記録が残っておらず、当時製造された陶器で所在が明らかなのは徳利1点のみであるため、窯跡から採集された陶片類からその特徴が知られるだけとなっています。

【書跡・典籍】 書跡は『埼玉ゆかりの人びとの書』より諸井春畦の額装・屏風・軸装など5件を確認しました。典籍は『埼玉県文学資料所在調査』より市立図書館所蔵の現代文学資料16件を確認しました。

【古文書】 『埼玉県古文書所在目録』『埼玉の中世文書』『埼玉県古文書所在確認調査目録』『埼玉県寺院聖教文書遺品調査報告書』などの所在調査が行われ、また、市史・町史編纂の過程においても目録化・翻刻が行われています。主要なものを所蔵元ごとに整理した結果、58件を確認しました。個別の文書の性格を概観すると、中世～近世文書では支配層の書状をはじめ、年貢帳・検地帳・村絵図など地域の社会状況等を示すもの、近代文書では繭・生糸・織物・桑畑や水道・用水関係史料などに地域の特徴が表れています。

【考古資料】 膨大な遺跡出土物の中から『本庄早稲田の杜ミュージアム常設展示図録』に掲載されるものを中心に131件を確認しました。主に旧石器～室町時代における貴重な出土物が整理されています。

【歴史資料】 大多数は石造物で、『板碑：埼玉県板石塔婆調査報告書』『埼玉中世石造遺物調査報告書』『埼玉の文化財第52号特集 埼玉の石造物』『本庄市石造物調査報告書』『児玉町史史料調査報告中世第

3集 児玉町の中世石造物』『児玉町史史料調査報告第15集 児玉町の石仏』『歴史の道調査報告書』などで所在調査が重ねられています。内容は板石塔婆、中世石造物（宝篋印塔・五輪塔・石幢など）、近世石仏（庚申塔・地蔵・馬頭観音・日待塔・月待塔・念仏塔・經典供養塔など）、道標、石碑、墓石など多岐に渡り、主要なものを種別・所在地・時代ごとに整理した結果、902件を確認しました。板石塔婆、中世石造物は児玉郡一帯が中世武士団の本拠であったこと、近世石仏は地域の篤い民間信仰の様子を、道標や路傍の石仏等は本庄・児玉が交通の要衝であったことを伝えています。なお、石碑の件数には記念碑・句碑・顕彰碑なども含まれています。上述のほか、『埼玉の算額』などから、社寺に奉納された俳句奉額・相撲奉額・算額を8件、職工組合名簿や古写真など9件を確認しました。

2) 無形文化財

本庄織物（本庄絣）と纏や人形の製作・修理技術の2件を確認しました。

3) 民俗文化財

① 有形の民俗文化財

【衣服】『埼玉県民俗地図』より、かつての衣服について17件を確認しました。仕事着の呼称、着用箇所、男女の違いなどが整理されています。

【食文化】『埼玉県民俗地図』より、食事に関する用具（御膳）を1件確認しました。

【住居】『埼玉県民俗地図』『埼玉県民俗工芸調査報告書第12集 埼玉の草屋根葺き』より、住居に関する構造（屋根の形式・材料、間取りの型）や民具とその呼称（イロリの用具）などについて、12件を確認しました。養蚕に適した住居の形式などをうかがうことができます。

【生業】『埼玉県民俗地図』『麦作りとその用具』より、生業（農耕・運搬など）に関する用具とその呼称などについて、7件を確認しました。同じ用途の用具でも地域によって呼称が変わることがうかがえます。また、「エンガ」と呼ばれる柄鍬の刃は、児玉町金屋で製作されたものが多く、この刃には釜の絵の刻印が施されています。

【信仰】『埼玉県民俗地図』などから、屋敷神や神社への奉納品・奉物について3件を確認しました。神社奉納品・奉物については、内訳が示されており、額・太鼓・版木・幟・神像・流鍋馬用具・短筒・大弓・刀・鞍・鎧・陣笠・掛軸類など様々なものが奉納されたことがうかがえます。

【民俗芸能】『埼玉の万作』『埼玉の神楽』『埼玉の民俗芸能』より、無形の民俗文化財（万作・神楽・獅子舞）に関する用具（施設・衣装・楽器・採物）や記録類を9件確認しました。いずれも無形の民俗文化財の継承に欠かせないものといえます。

【山車】『本庄まつりの山車調査報告書』より、山車と山車に関する史料（古写真）を2件確認しました。

【民俗工芸】『埼玉県民俗工芸調査報告書第11集 埼玉の竹細工』『木工(民俗工芸収蔵資料解説目録2)』より、地域に伝わる民俗工芸品（竹籠・駒下駄）を3件把握しました。

② 無形の民俗文化財

【食文化】『埼玉県民俗地図』より、食文化に関する情報（食材・料理・調理法など）6件を確認しました。あくぬきを行う食材として山菜が挙げられ、儀礼食として団子のほか、うどん・まんじゅうなど小麦による食文化が挙げられています。

【住居】『埼玉県民俗地図』より、イロリの座名を2件確認しました。地域によってイロリにおける着座場所の呼称が異なることがうかがえます。

【生業】『埼玉県民俗地図』より生業に関する情報や市内で行われた定期市を9件確認しました。湿田の

呼称や稲の干し方に関する地域の差異がうかがえます。

【人の一生】『埼玉県民俗地図』より、人の一生（産育・婚礼・葬儀など）に関わる風俗慣習を5件確認しました。

【信仰】『埼玉県民俗地図』などから、地域の民間信仰（講）を6件確認しました。山岳信仰・職人仲間に関する信仰がうかがえます。

【社会生活】『埼玉県民俗地図』より、地域社会において共同生活を送る上での決まり事や慣習などを6件確認しました。

【年中行事】『埼玉の正月行事』『埼玉県民俗地図』『埼玉県史民俗調査報告書』『埼玉の祭り・行事』などから、各地域の年中行事を32件確認しました。信仰・祭礼に関わるもの、生業に関わるもの、社会生活に関わるものなど多岐に渡り、各地の多様な祭礼・儀礼がうかがえます。

【民俗芸能】『埼玉の地芝居』『埼玉の祭り囃子』『埼玉県の民俗芸能』『埼玉の祭り・行事』『埼玉の民俗芸能』などから、各集落に継承される民俗芸能（囃子・太鼓など）を18件を確認しました。各町内の囃子は市指定民俗文化財の山車・屋台で演奏されるものが含まれており、これらの演奏に必要な用具（衣装・楽器）も併せ、指定等文化財と一体的に継承する必要があります。

【民俗工芸】『埼玉県の諸職』『埼玉県民俗工芸緊急調査報告書』などから、生業に関わる工芸技術を17件確認しました。様々な職種に関する技術は市街地の発展の様子を示しています。また、農地を多く有する本市において、棒屋・野鍛冶・蹄鉄工など農作用具の製作に関わる工芸技術が特徴といえます。

【民謡】『埼玉の民謡：埼玉県民謡緊急調査報告書』より、各集落に継承される民謡を35件確認しました。祝い唄・祭り唄・踊り唄・行事唄・仕事唄のほか、遊び唄・子守唄など子ども向けのものも多く記録されています。中でも機織り唄は、絹産業の歴史を持つ本市を特徴づけるものといえます。

3) 記念物

① 遺跡

【集落跡】『本庄市遺跡地図』『埼玉県重要遺跡緊急調査報告書』などから、原始・古代の集落跡を168件確認しました。このうち、西富田遺跡は古墳時代中期の大集落跡で、カマド出現期の住居群として県選定重要遺跡となっています。

【古墳群・古墳】『本庄市遺跡地図』『古墳調査報告書』『埼玉県重要遺跡緊急調査報告書』『埼玉の古墳』などから、古墳群14件、古墳170件を確認しました（古墳／古墳群で重複計上しているものを含みます）。本市内に所在する古墳は県内で2番目に多く、複数の古墳によって構成される古墳群には県選定重要遺跡（長沖・高柳古墳群、旭・小島古墳群、大久保山古墳群、生野山古墳群）が含まれます。

【複合遺跡】『本庄市遺跡地図』において、同一範囲内に複数の時期・時代にまたがる複数種類の遺構が存在している遺跡を「複合遺跡」として分類し、34件を確認しました。

【鍛冶遺構】『埼玉県民俗工芸調査報告書』より、平安時代を中心とする鍛冶遺構を5件確認しました。鞆（片・羽口）、刀子、鎌、鉄鍬、鉄滓、紡錘車、釘、手斧などの出土が確認されています。

【窯跡】『本庄市遺跡地図』より、古墳～奈良・平安時代の窯跡を3件確認しました。

【祭祀】『本庄市遺跡地図』より、戦国・江戸時代の祭祀跡（平沢祭祀遺跡）を1件確認しました。

【城館跡】『本庄市遺跡地図』『埼玉の館城跡』『埼玉の中世城館跡』などから、中世～近世の城館跡を40件確認しました。中世以降の関東各地は、度々戦乱の場となり、本市域も時代によって支配勢力が変わっていく歴史を持っています。地域支配と戦乱の歴史を知る上でも重要な遺跡といえます。

【戦跡】『自治資料埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告』より、古河公方・足利成氏と山上内杉氏の最前線、「長尾景春の乱」の激戦地である五十子古戦場を把握しました。

【条里遺跡】『本庄市遺跡地図』より、古代条里制じょうりせいに基づく地割遺構を6件確認しました。

【寺院・寺院跡】『本庄市遺跡地図』『埼玉の中世寺院跡』『埼玉県重要遺跡緊急調査報告書』『歴史の道調査報告書』などから、市内の主要な寺院・寺院跡、浅間山噴火の犠牲者を供養するために始まった児玉三十三霊場に属する市内寺院など91件を確認しました（建造物と所在が重複するものも含まれます）。

【神社】『歴史の道調査報告書』などから、市内の主要な神社を9件確認しました（建造物と所在が重複するものも含まれます）。

【交通】『歴史の道調査報告書』より、街道（中山道・鎌倉街道上道）や利根川水運とねがわに関する遺跡（河岸跡・渡し跡）を8件確認しました。

【その他】上記に区分されない遺跡を「その他」に分類し、17件を確認しました。

② 名勝地

【公園】「彩の国クールスポット100選」に選ばれた若泉公園わかいづみを確認しました。元小山川沿いに整備された公園で、桜の名所として知られるとともに、元小山川の水源は元来湧水であった歴史もあります（現在は枯渇）。

【湧水】『埼玉の名水』より、市内の主要な湧水2件を確認しました。

③ 動物・植物・地質鉱物

【動物】『埼玉の希少野生動物とその仲間』より、市域に生息が確認された特徴的な動物を7件確認しました。

【植物】『歴史の道調査報告書』より、市内に所在する巨木・古木を2件確認しました。

【地質鉱物】『埼玉県の地質鉱物 天然記念物緊急調査（地質鉱物）報告書』より、市域の特徴的な地質・鉱物として間瀬峠まぜとうげ付近地の点紋片岩てんもんへんがんを1件確認しました。点紋片岩は、片理が発達しているため剥離性があり加工も容易なので、古くから古墳の石棺せつかんや板石塔婆・建築石材などに大量に使われました。

4) 文化的景観

『採掘・製造、流通・往来及び居住に関連する文化的景観の保護に関する調査研究』より、高窓の里（東小平地区）を、「美しい日本のむら景観百選」「彩の国クールスポット100選」「埼玉県景観資源データベース」より、高窓の里みやこじま・都島地区を確認しました。いずれも高窓を持つ養蚕民家が多く残る集落で、周辺の社寺建築や農地、工作物などを含めた農村景観の一体的保護が求められます。

5) 伝統的建造物群

『埼玉県の近代和風建築』『埼玉県歴史的遺産調査報告書』より、本庄宿（中山道沿いの町並み）を把握しました。旧街道の歴史文化と商店・近代建築・土蔵などの歴史的建造物が数多く残り、町並みとしての保存が求められます。

6) その他の文化財

『埼玉県歴史的遺産調査報告書』内の「埼玉県歴史的遺産保存活用地区調査表一覧」より、大久保山の周辺、児玉の里の2件を確認しました。文化財の集中する地区として保存・活用が期待されます。

なお、序章「7 計画の定義（文化財の定義）」及び図4において「その他の文化財」として定義づけた「伝統産業」「特産品」「道具」「伝統的な営み」「伝承・民話」「地名」「風物詩」「農地」「景観・風景」「偉人の業績を示す物事」「思い出にまつわる物事」「方言」などについては、既存の調査研究の蓄積がなく、現状で把握できていません。

2-3 未指定文化財の概要と特徴

本市の未指定文化財について、歴史的背景を考慮した特徴を分類ごとに整理し、[表 2-9] に示しました。

表 2-9 未指定文化財の概要と特徴

分類1	分類2	分類3	未指定文化財の概要と特徴	
有形文化財	建造物	社寺	・近世社寺建築 他分野の指定文化財を所蔵する社寺が散見される	
		民家	・近世の茅葺民家	
		近代建築 近代和風建築	・中山道沿いの医院などの洋風建築 ・中山道沿い、鎌倉街道上道沿いの住宅、商業・産業施設 ・防火建築（煉瓦造、土蔵造、卯建など） ・市内各地の高窓を持つ養蚕民家	
		近代化遺産	・農業用水に関する土木遺産 ・交通に関する産業遺産	
	美術 工芸品	歴史資料	絵画	・寺院に伝わる室町～江戸時代の仏画、頂相
			彫刻	・鎌倉～室町時代の仏像
			工芸品	・秋山焼（江戸時代末～明治時代に児玉地域秋平地区（秋山）で生産）
			書跡・典籍	・諸井春畦による額装、屏風、軸装など ・市立図書館に所蔵される現代文学資料
			古文書	・中世～近世における支配層の書状 ・年貢帳、検地帳、村絵図など地域の社会状況等を示すもの ・近代における繭、生糸、織物、桑畑、水道・用水関係資料
			考古資料	・旧石器～室町時代における貴重な遺跡出土品
		石造物	・板石塔婆 ・中世石造物（宝篋印塔、五輪塔、石幢など） 児玉郡一帯が中世武士団の本拠であったことを伝える ・近世石仏（庚申塔、地藏、馬頭観音、日待塔、月待塔、念仏塔、經典供養塔など） 地域の篤い民間信仰の様子を伝える ・道標 路傍の石仏等と併せて本庄・児玉が交通の要衝であったことを伝える ・石碑（記念碑、句碑、顕彰碑など） ・墓石	
		絵馬・奉額	・社寺に奉納された俳句奉額、相撲奉額、算額	
		その他	・市内職工組合名簿や古写真など	
	無形文化財	工芸技術	・本庄織物、纏、人形の製作・修理技術	
民俗文化財	有形の民俗文化財	衣服	・衣服（仕事着の呼称、着用箇所、男女の違いなど）	
		食文化	・食事用具	
		住居	・住居の構造（屋根形式・材料、間取りの型） ・民具（囲炉裏の用具）	
		生業	・生業（農耕、運搬）に関する用具	
		信仰	・屋敷神 ・神社奉納品、奉物	
		民俗芸能	・芸能（万作、神楽、獅子舞など）に関する用具（施設、衣装、楽器、採物など）	
		山車	・山車（未指定の2台） ・山車に関する資料（古写真）	
		民俗工芸	・地域に伝わる民俗工芸品（竹籠、駒下駄）	

分類1	分類2	分類3	未指定文化財の概要と特徴
民俗文化財	無形の民俗文化財	食文化	<ul style="list-style-type: none"> ・あくぬきを行う食材（山菜） ・儀礼食、小麦による食文化（団子、うどん、まんじゅう）
		住居	<ul style="list-style-type: none"> ・イロリの座名（地域によって着座場所の呼称が異なる）
		生業	<ul style="list-style-type: none"> ・湿田の呼称、稲の干し方（地域によって異なる） ・定期市
		人の一生	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生に関わる風俗慣習（産育、婚礼、葬儀など）
		信仰	<ul style="list-style-type: none"> ・山岳信仰、職人仲間に関する信仰（講）
		社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会における共同生活の決まり事、慣習
		年中行事	<ul style="list-style-type: none"> ・信仰、祭礼に関する年中行事 ・生業に関する年中行事 ・社会生活に関する年中行事
		民俗芸能	<ul style="list-style-type: none"> ・囃子、太鼓（市指定民俗文化財の山車・屋台で演奏されるもの） 演奏に必要な用具（衣装、楽器）と一体的な価値を有する
		民俗工芸	<ul style="list-style-type: none"> ・棒屋、野鍛冶、蹄鉄工など農作用具の製作に関わる工芸技術
		民謡	<ul style="list-style-type: none"> ・祝い歌、祭り歌、踊り歌、行事歌、仕事歌など ・遊び歌、子守歌 ・機織り唄は絹産業の歴史を特徴づける
記念物	遺跡	集落跡	<ul style="list-style-type: none"> ・原始、古代の集落跡 ・西富田遺跡（県選定重要遺跡）
		古墳群・古墳	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県内で古墳が2番目に多い市町村 ・未指定の県選定重要遺跡4件（長沖・高柳古墳群、旭・小島古墳群、大久保山古墳群、生野山古墳群）
		複合遺跡	<ul style="list-style-type: none"> ・同一範囲内に複数の時期、時代にまたがる複数種類の遺構が存在する遺跡
		鍛冶遺構	<ul style="list-style-type: none"> ・平安時代を中心とする鍛冶遺構 ・出土資料（鞆（片、羽口）、刀子、鎌、鉄鍬、鉄滓、紡錘車、釘、手斧など）
		窯跡	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳～奈良・平安時代の窯跡
		祭祀	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国、江戸時代の祭祀跡
		城館跡	<ul style="list-style-type: none"> ・中世～近世の城館跡（地域支配と戦乱の歴史を伝える）
		戦跡	<ul style="list-style-type: none"> ・五十子古戦場（「長尾景春の乱」の激戦地）
		条里遺跡	<ul style="list-style-type: none"> ・古代条里制に基づく地割遺構
		寺院・寺院跡	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の主要な寺院、寺院跡 ・児玉三十三霊場に属する市内寺院
		神社	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の主要な神社
		交通	<ul style="list-style-type: none"> ・街道（中山道、鎌倉街道上道）に関する遺構 ・利根川水運に関する遺構（河岸跡、渡し跡）
		その他	<ul style="list-style-type: none"> ・上述に区分されない遺構
	名勝地	公園	<ul style="list-style-type: none"> ・若泉公園（元小山川）
		湧水	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な湧水
	動物	<ul style="list-style-type: none"> ・市域に生息が確認された特徴的（希少）な動物 	
	植物	<ul style="list-style-type: none"> ・市内に所在する巨木、古木 	
地質鉱物	<ul style="list-style-type: none"> ・間瀬峠付近地の点紋片岩 ・古くから古墳の石棺や板石塔婆、建築石材に使われた 		
文化的景観	<ul style="list-style-type: none"> ・高窓を持つ養蚕民家が多く残る農村景観（旭地区（都島）、秋平地区（小平）） 		
伝統的建造物群	<ul style="list-style-type: none"> ・旧街道の歴史文化と商店、近代建築、土蔵などの歴史的建造物を有する町並み（本庄宿） 		
その他の文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の集中する地区（大久保山周辺、児玉の里） 		

第3章 本庄市の歴史文化の特徴

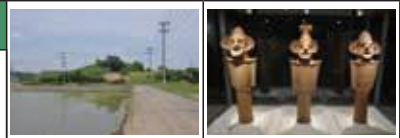
前章までの記述を基に、本市における文化財の概要を示すキーワードを抽出し、主な「時代」と「分野」の縦横軸で整理しました。加えて、文化財の周辺環境（自然的・地理的環境、社会的状況、歴史的背景）、文化財の特徴を踏まえた上で、これらのキーワードを特定のテーマによりまとめて整理したものを、本市における「歴史文化の特徴」として位置づけます。

原始	旧石器	今から約2万年前の旧石器時代の狩人たちが訪れ、その後の縄文、弥生、古墳の各時代においても定住する人々が増加 彼らが残した遺跡である埋蔵文化財包蔵地は県下有数で500か所余りを数える
	縄文 弥生	
古代	古墳	現在の本庄市域の大半が武蔵国児玉郡に編入され、平安時代の終わり頃には武蔵七党の一つである児玉党が勃興
	奈良 平安	
中世	鎌倉	資料に「本庄」の地名が現れるようになる 市内を通る「鎌倉街道」は、この地域が交通の要衝であったことを物語る
	室町	末期、児玉町八幡山に関東管領山内上杉氏が雉岡城を築城 児玉党の末裔とされる本庄実忠が本庄城を築城
近世	江戸	中山道を整備、天保年間（1830-1844）には本庄宿が中山道最大の宿場町に発展 鎌倉街道をもとに中山道脇往還川越道を整備 盲目の国学者・塙保己一の活躍（叢書「群書類従」の編纂・刊行、和学の研究教育機関「和学講談所」の創設などの功績）
		江戸
近代	明治	江戸時代から盛んだった養蚕業を基礎に、本庄町に生繭の市場が開設 木村九蔵が、競進社蚕業伝習所内に模範蚕室を設立 近代産業の振興に貢献した実業家の諸井恒平、社会思想家である石川三四郎を輩出
	大正	児玉町旧配水塔をはじめとする近代水道を整備
	昭和	間瀬堰堤の完成

時代	社会・生活	産業・生産	統治・政治	信仰・祭祀	交通・経済	芸術・工芸	人物	
原始	旧石器	石器の出土	① 表情豊かな原始・古代の文化					
	縄文 弥生	土器の出土 竪穴式住居・集落遺跡	④ 風土に育まれた産業 (農耕と養蚕)					
古代	古墳	集落増加 古墳・石室の出現 群集墳	水田開発 埴輪窯跡 鉄器生産・ガラス小玉鋳造	⑤ 人々の祈りと祭り		② 鎌倉街道と武家社会		
	奈良 平安	条里制施行	九郷用水 瓦窯跡・炭窯跡	文字の普及 木簡の出土	古代寺院造営			
中世	鎌倉		荘園	児玉党勃興	中世寺院造営 板碑・五輪塔・供養塔 武士団の熊野信仰	鎌倉街道上道 児玉宿		
	室町			⑦ 本庄の歴史を見守る 緑の景観			⑥ 本庄にゆかりのある偉人たち	
近世	安土 桃山		朱印状(九郷用水)		近世寺院造営 板碑・五輪塔・石幢・宝篋印塔	伝馬手形	山内上杉氏 北条氏(後北条氏)・本庄氏 徳川家康	
	江戸		備前渠用水路	検地帳 城下整備	近世社寺整備 金鑽神社・八幡神社勧請 浅間山大噴火供養 獅子舞(雨乞い) 神輿の製作	中山道・本庄宿 利根川水運 児玉街道(中山道脇往還) 高札場	俳人の活躍 奉納絵画等 刀鍛冶	松平氏 小笠原氏 戸谷半兵衛 武正南庵・金井烏州 塙保己一
		江戸	③ 中山道を行き交う人・文化・物資					
近代	明治	郵便局開局 警察署建設	養蚕業・製糸業興隆 養蚕の改良と普及		金鑽神楽伝承 屋台・山車の製作	繭市場・銀行設立 日本鉄道による路線敷設 近代的な橋の架設	本庄織物(本庄緋) 諸井恒平 木村九蔵	
	大正・昭和	近代水道(配水塔)	児玉用水(間瀬堰堤)		万作			

1. 表情豊かな原始・古代の文化

本庄市域における人類の活動は、旧石器時代にさかのぼります。古墳時代に低地（女堀川流域）の水田開発が急速に進展したものと推定され、大規模な集落や古墳が相次いで築造されました。これらの古墳からは土器、ナイフ形石製品、埴輪などが出土しており、坊主頭の人物埴輪や大耳しゃくれあごの盾持人物埴輪など珍しい表現の埴輪が発見され、広く知られています。



代表的な文化財：宥勝寺裏埴輪窯跡、鷺山古墳（及び出土品）、御手長山古墳出土人物埴輪、小島前の山古墳出土盾持人物埴輪

2. 鎌倉街道と武家社会

児玉党は、児玉地域周辺に本拠を置き、後に鎌倉街道と呼ばれる道を馬に乗って鎌倉幕府へ出仕し、番役の勤めを果たしました。室町時代には五十子陣、雉岡城、本庄城などが築かれました。交通の要所にあった当地は、戦乱の中で山内上杉・後北条・徳川と統治が移り変わり、近世には鎌倉街道に重なる児玉街道（中山道脇往還）が整備されました。現在も街道を中心に歴史を物語る文化財が色濃く残っています。



代表的な文化財：鎌倉街道、児玉街道（中山道脇往還）、五十子陣跡、雉岡城跡、實相寺、本庄城跡、板碑（板石塔婆）、長泉寺中世文書

3. 中山道を行き交う人・文化・物資

本庄宿は、中山道最大の宿場町・利根川水運の集積地として発展し、近隣に神社・寺院が建立されました。文人の往来も多く、有力者との交流や庇護のもと華やかな文化が開きました。明治5（1872）年に官営富岡製糸工場が開業すると、本庄の繭市場がにぎわい、明治16（1883）年の日本鉄道開通後は機械製糸工場が複数進出し、市場が一層盛り上がりました。現在も中山道の興隆を背景とした遺構が点在しています。



代表的な文化財：田村本陣の門、金鑽神社社殿（天井絵）、安養院、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫、旧本庄警察署、旧本庄仲町郵便局

4. 風土に育まれた産業（農耕と養蚕）

本庄市域は、利根川水系の水資源を背景に古代から条里制が施行され、多くの農業用水路が開かれました。現在も県内最古級の用水路・備前渠用水路や地域一帯に農業用水を確保する間瀬堰堤が稼働しています。近代には、横浜開港と生糸・蚕種の輸出に伴い養蚕業・製糸業が盛んになりました。桑の生産に適した地域では大規模な蚕種製造が行われ、現在も高窓を乗せた大型養蚕民家が見られます。



代表的な文化財：備前渠用水路、間瀬堰堤（同管理橋）、競進社模範蚕室、田島亀夫家住宅主屋・蚕室、高窓の里（秋平地区（小平））

5. 人々の祈りと祭り

本庄市には、古くから地域に根差した祭礼が数多く存在します。本庄地域や児玉地域の市街地では、秋祭りの際に豪華な山車や屋台の巡行が行われます。各地域では、五穀豊穡の祈願祭や感謝祭、雨乞いなど、生活や生業と密接にかかわる祭礼行事が執り行われています。また、天明3（1783）年の浅間山噴火の犠牲者を供養するために成身院百体観音堂が建立され、児玉三十三霊場めぐりが始まりました。



代表的な文化財：金鑽神社社殿、八幡神社社殿、山車、屋台、神輿、金鑽神楽、獅子舞、万作、児玉三十三霊場、成身院百体観音堂

6. 本庄にゆかりのある偉人たち

本庄市は、多くの偉人を輩出しています。全盲の国学者・塙保己一は、『群書類従』の編纂により歴史学・国学・国文学等の学的研究に貢献しました。木村九蔵は、養蚕結社「競進社」を結成、蚕の品種改良や飼育法の研究・普及に励みました。諸井恒平は、セメント製造事業の開拓を手掛け「セメント王」とも呼ばれました。その他、教育、産業、文学、芸術、医学等の分野に功績者が見られます。



代表的な人物：塙保己一、木村九蔵、諸井恒平、岡登景能、戸谷半兵衛、中里忠兵衛、野沢正三郎、吉田清英、石川三四郎

7. 本庄の歴史を見守る緑の景観

市北部には利根川が流れ、南部に500m級の山々がそびえる本庄市は、夏に雨が多く冬に少ない東日本型気候で、水と緑の豊かな自然環境に恵まれた風土です。古くはこの地が「若泉の荘」という荘園で、荘園の中心地の意の「本荘」から「本庄」の地名が名付けられました。市内には、中世から近世にかけて、神社・寺院の整備を契機に植えられたと考えられる巨木・古木・名木が散見されます。



代表的な文化財：城山稲荷神社のケヤキ・ヤブツバキ、金鑽神社のクスノキ・カヤ、骨波田のフジ、八幡神社のヤブツバキと社叢林

第4章 本庄市の文化財の保存・活用に関する理念・基本方針

1 本庄市の文化財の保存・活用に関する理念

^{ほんじょう}本庄市の文化財をとりまく現況を踏まえ、本市の文化財を保存・活用していくための理念を次のとおり定めました。本庄市の文化財の将来を見据えて、地域社会総がかりで保存・活用を行うための目標です。

理 念

**文化財を守り育て、未来に向けて歴史文化を紡ぎ織りなすまちへ
～世のため、後のため～**

この理念は、平常時だけでなく防災・防犯等の非常時への対応も含めた保存に関する措置を講じることで文化財を「**守り**」、後継者をはじめとする文化財に携わる人材や文化財の保存体制を「**育て**」、調査研究を通して文化財の価値を「**紡ぎ**」、歴史文化の魅力発信によって誇りと愛着の醸成という形で「**織りなし**」、後世に継承していくことをあらわしています。

また、郷土の偉人・^{はなわほきいち}塙保己一の遺したことは「世のため、後のため」の理念にもつながるもので、地域社会を構成する一人ひとりが文化財保護に関わり、未来へ向けて持続可能な文化財保護の体制を整えることも視野に入れたものです。

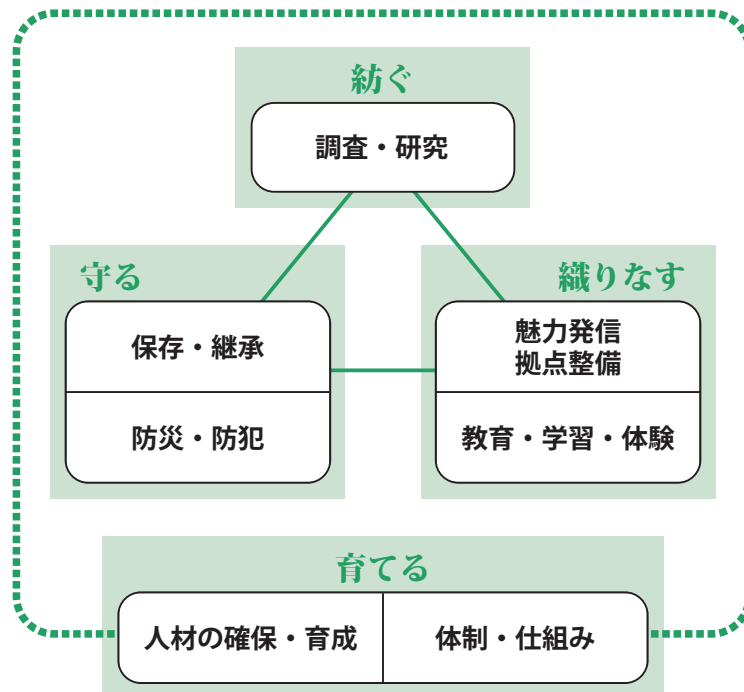


表 4-1 本庄市の文化財の保存・活用に関する理念（概念図）

2 基本方針

本市における「文化財の保存・活用に関する理念」は、「調査・研究」、「保存・継承」、「防災・防犯」、「魅力発信・拠点整備」、「教育・学習・体験」、「人材の確保・育成」、「体制・仕組みづくり」といった要素を含んでいます。この理念を実現するために必要となる基本的な考え方について、上述の7つの要素を基に4つの「基本方針」として整理しました。

基本方針1	市内に所在する文化財とその情報を把握します
調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多種多様な文化財を広く把握し、まちづくりに資する文化財情報を収集します ・ 詳細調査を実施して文化財の価値を高めます ・ 未指定文化財の価値を把握し、文化財の新規指定・登録件数の増加へつなげます
基本方針2	文化財をより良い状態で保存・継承します
保存・継承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な維持管理と周辺環境の保全によって文化財を後世に継承します ・ 文化財の価値を保存するための修理・整備を行います ・ 地域の伝統文化に関する保存・活用・後継者養成を市の取組として支援します
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財を災害・犯罪から守る対策を講じます ・ 災害時に関係者が取るべき行動・対応を定めます
基本方針3	歴史文化の魅力を発信し、郷土の誇りと愛着を醸成します
魅力発信・ 拠点整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史文化の魅力発信に向けた環境を整備します ・ 「本庄早稲田の杜ミュージアム」を歴史文化の魅力を発信する拠点と位置づけ、文化財のネットワーク化を図ります
教育・学習・ 体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史文化の教育・学習環境を整えます ・ 歴史文化に触れるための体験機会を増やします
基本方針4	地域一体で文化財の保存・活用を支える仕組みを整えます
人材の確保・ 育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財の所有者や保護団体を支援する体制を整えます ・ 文化財保護を「みんなが参加する楽しみ」に変えていきます ・ 次代の文化財の保存・活用を担う人材を育成します
体制・仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内の体制を整備します ・ 産学官民による協力体制の整備に取り組みます ・ 文化財保護に向けた資金調達の方法を検討します ・ 近隣市町村との連携を強化します

第5章 多様な価値を持つ幅広い分野の文化財の把握

1 文化財の把握調査の概要

1) 把握調査の概要

本庄市の文化財については、これまで国・埼玉県（教育委員会及び所管の博物館施設等）・本庄市など、行政が主体となって様々な把握調査（所在調査・総合調査等）が行われ、報告書等が刊行されてきました。本計画の作成においては、これら既往の報告書等に掲載された文化財を整理することで、市内文化財の総合的な把握を行いました。

また、本計画では、調査・研究の側面だけでなく、市民等の意向や文化財行政以外からの視点などを加えた、より幅広い文化財の把握するために、テーマに沿った事柄について公募・有識者選定・私選が行われた各種「百選」や、伝統的工芸品、観光情報（ガイドブック、パンフレットなど）に掲載された文化財も把握調査の対象としました。

調査で把握した文化財のうち、国・県・市の文化財指定等を受けているものを除いたリストを「巻末資料2 未指定文化財リスト」、市内文化財の総合的な把握に用いた既往の報告書等については「巻末資料3 既往調査一覧」として掲載しました。

2) 把握調査の進捗状況

把握調査の進捗状況を〔表 5-1〕に整理しました。

把握調査の進捗状況を概観すると、建造物、古文書、考古資料、無形の民俗文化財、遺跡については、一部に追加の調査を行う余地も見られますが、概ね把握は進んだものと考えます。なお、調査の余地があるものとしては、建造物：養蚕民家^{ようさん}、無形の民俗文化財：年中行事、遺跡：近代産業遺跡などが挙げられます。

また、絵画、彫刻、歴史資料、無形文化財、有形の民俗文化財、動物・植物・地質鉱物については、一部に調査不足の時代・種別も見られますが、一定の把握が行われています。調査不足の時代・種別としては、絵画：近代、彫刻：近世～近代、歴史資料：石造物・奉納額以外のもの、有形の民俗文化財：資料群やコレクションとして所蔵するもの、地質鉱物などが挙げられます。上述の文化財分類については、これまでの把握成果を基礎資料とし、不足の範囲について補完が必要です。

工芸品、書跡・典籍、名勝地、文化的景観、伝統的建造物群については、既往調査が行われていない（又は確認できていない）ため、本計画期間における体系的・総合的な把握調査が必要です。

3) 今後の把握調査の方向性

本計画の限られた作成期間においては、国・県が主体の調査報告書の確認を優先したため、自治体史・市の調査報告書について一部確認が行き届きませんでした。本計画期間においては、これら未調査の文献について補完し、把握を進めることが必要です。

全体的な傾向として、既往調査の報告書等は昭和30年代に刊行されたものもある中で、掲載された多くの文化財に対して追跡調査が行われていません。そのため、報告書の刊行から現在に至るまでに、道路拡幅をはじめとする社会資本整備・環境破壊・自然災害・後継者不足など様々な理由により滅失やき損、継承が断絶した文化財が存在するおそれがあります。未指定文化財の活用を進めるうえで、文化財の現状確認は必要です。

表 5-1 文化財の把握調査の進捗状況

凡例 ○：調査成果あり、×：該当なし、△：調査不足、未：未調査（又は未確認）
 ※時代の区分ができない文化財は、枠を一括りで表しています。

		原始	古代	中世	近世	近代	備考（把握調査の進捗状況）	
有形文化財	建造物	×			○	○	一定の調査成果は認められるが、追跡調査が行き届かず、滅失したものが把握できていない。養蚕民家は把握調査の余地がある。	
	美術工芸品	絵画	×		○	○	未	近代の絵画について把握調査が行われていない。中世・近世の絵画は追跡調査が行き届かず、現況が把握できていない。
		彫刻	×		○	△	未	中世仏像の把握調査が中心で、近世・近代の彫刻について把握調査が行き届いていない。
		工芸品	×		未	未	未	工芸品に関する把握調査の成果が認められない。
		書跡・典籍	×			未	未	書跡・典籍に関する把握調査の成果が認められない。
		古文書	×		○	○	○	調査成果は認められるが、追跡調査が行き届かず、所在の現況が把握できていない。
		考古資料	○	○	○	○	△	出土資料については、発掘調査の中で実測や年代特定等の把握が進んでいる。
		歴史資料	×		△	△	△	中世・近世の石造物、奉納額は把握調査が行われているが、その他の歴史資料については把握調査の余地がある。
無形文化財		×				△	該当する文化財について把握しているが、保持者（保持団体）への追跡調査が行われていない。	
民俗文化財	有形の民俗文化財	×			△	△	個々の文化財情報は把握できるが、市収蔵品との整合が未確認。また、資料群やコレクションとして所蔵するものの整理や把握ができていない。	
	無形の民俗文化財	○					民俗文化財・民俗工芸・民謡などは追跡調査が不足し、既往調査以降の変化や現在の伝承状況等の把握が行き届いていない。年中行事については把握調査の余地がある。	
記念物	遺跡	○	○	○	○	△	発掘調査や文献調査によって、遺跡又は比定地が把握されている。近代の遺跡に関する把握調査が行き届いていない。	
	名勝地	未					名勝地に該当する文化財は確認できるが、把握調査は行われていない。	
	動物・植物・地質鉱物	△					自然環境に対する把握調査は行われているが、文化財保護の観点による把握調査が不足している。地質鉱物については把握調査の余地がある。	
文化的景観		×		未	未	未	文化的景観に該当する地域は確認できるが、把握調査は行われていない。	
伝統的建造物群		×			未	未	伝統的建造物群に該当する地区は確認できるが、把握調査は行われていない。	
その他の文化財		未					既存の調査研究の蓄積がなく、現状で把握できていない。	

また、既往調査において把握・認識されていない文化財や、既往調査時に報告書への掲載が見送られたが時代の経過とともに文化財としての価値が生じているものが潜在する可能性も考えられ、これらを掘り起こしていくことも必要です。

加えて、行政がこれまで実施してきた文化財の把握調査（所在調査・総合調査等）は、文化財保護法で定義された6類型の文化財を中心に実施されました。そのため、今後は本計画で保存・活用の対象とする「その他の文化財（地域の人々が大切にしているもの、守り伝えたいと考えるもの）」の把握を進める必要があります。

2 文化財の調査・研究に関する課題

本計画作成に向けて実施した文化財の把握調査、指定等文化財の所有者・管理者に対するアンケート調査、これまでの文化財行政の運営などを通して明らかとなった、本庄市の文化財の調査・研究に関する課題を以下に整理します。

① 把握調査の課題

本庄市における文化財の把握調査の全体的な課題は、前項で示したとおり、保存・活用すべき文化財の全体像の把握と、それらの現況確認が十分でないことが挙げられます。

特に、名勝地、文化的景観、伝統的建造物群の類型に対する把握調査が滞っており、自然、町並み、地域の人々の生活・生業や風土によって形成された景観などに対する把握が十分ではありません。中山道最大の宿場町であった本庄宿や、鎌倉街道上道によって古くから栄えた児玉地域市街地については、いずれも文化財の集積地となっています。しかしながら、未指定の歴史的建造物（町家・土蔵など）について、建て替えや空き家対策、災害時における倒壊が危惧されるなどの理由によって解体が増加しています。歴史的景観が失われつつあるため、町並みに対する面的な調査は急務です。

また、これまで把握した文化財の情報には、半世紀以上前の所在調査によるものも含まれているため、現況（現存又は滅失の状況、特に現存の場合はき損や改変、継承の状況など）が把握できていない状態です。加えて、本計画で新たに保存・活用の対象とする「その他の文化財（地域の人々が大切にしているもの、守り伝えたいと考えるもの）」の把握も行わなければなりません。

なお、本市の歴史文化に関して発信する情報は、未だ合併前の行政単位で行われた既往調査の成果に頼るところが大きく、分類ごとの情報量に地域による偏りが生じています。将来的には次回の市史編纂に備えて情報・資料の収集・整理を行い、文化財の情報検索機能を備えたデータベースを整え、定期的に更新する仕組みづくりが必要です。

② 詳細調査の課題

これまでの把握調査で確認された文化財の課題として、詳細調査が行われず、価値評価が定まらないものが多く存在していることが挙げられます。既往調査から相応の年月が経過している文化財や調査時に詳細調査の対象とならなかった文化財の中には、再調査によって価値評価が高まる可能性があるものもあり、再評価の作業が求められます。

③ 価値評価の課題

文化財の新たな指定が滞っていることが課題として挙げられます。なお、本市における文化財の指定は、国指定が昭和19（1944）年11月の「塙保己一旧宅」（史跡）、県指定が平成29（2017）年3月の「本庄金鑽神社社殿」（県指定有形文化財）、市指定が平成28（2016）年4月の「児玉仲町の山車」「児玉

本町の山車」(いづれも市指定民俗文化財)を最後に行われていません。特に、市指定民俗文化財である8台の山車・屋台を用いる「本庄まつり」については、祭礼自体の文化財指定を望む市民からの強い要望もありますが、指定に向けた学術調査や資料整理が実施できていない状況です。

文化財の登録は、令和3(2021)年6月24日に「田島亀夫家住宅主屋」、令和4(2022)年2月17日に「田島亀夫家住宅蚕室」が相次いで登録を受けました。一方で、市内には文化財登録原簿への登録が望ましい地域の歴史を示す貴重な文化財が多数所在しています。「厳重な規制と手厚い保護」を行う従来の指定制度を補完するように「緩やかな保存を行う」という登録制度の意義を考慮すると、今後の積極的な登録制度の利用と登録後の建物の活用が求められます。

3 文化財の調査・研究に関する方針

前項までに整理した課題の解決に向けて、文化財の調査・研究に関する方針を以下に整理します。

① 把握調査の方針

【多種多様な文化財を広く把握し、まちづくりに資する文化財情報を収集します】

既往の把握調査の結果から、特に古文書や考古資料を除く美術工芸品や名勝地・動植物等の記念物、文化的景観や伝統的建造物群、その他の文化財についての把握調査ができていないことが明らかです。そのため、調査不足の類型に関する未指定文化財の把握調査を推進します。また、把握調査で確認された未指定文化財について追跡調査を実施し、現況(現存又は滅失、現存の場合はき損や改変、継承の状況など)を把握します。

また、「その他の文化財」については、市民の協力をもって文化財情報の収集を行います。

文化財に関する情報・資料の収集・整理を進め、将来的な市史編纂や文化財情報の検索システム構築等の活用に向けて、文化財のデータベースを整えます。

② 詳細調査の方針

【詳細調査を実施して文化財の価値を高めます】

詳細調査によって文化財の価値評価を明確にします。既に調査が行われた文化財についても再調査によって新たな価値の把握や文化財群としての価値を見出すことで、再評価を行います。

③ 価値評価の方針

【未指定文化財の価値を把握し、文化財の新規指定・登録件数の増加へつなげます】

文化財保護審議会と連携して文化財の指定・登録等を推進します。市民に対して、国登録文化財制度の理解向上や有用性の周知に努め、市民とともに本市のまちづくりへの活用方法を模索します。

4 文化財の調査・研究に関する措置

前項で定めた文化財の調査・研究に関する方針に対する具体的な措置を[表5-2]に示し、本庄市の文化財の調査・研究に関するアクションプランとします。

調査・研究に関わる事業実施の財源については市費の利用を中心とし、国・県の補助金・交付金(文化財補助金等)の利用を検討していきます。文化財の登録に向けた調査等の費用については原則所有者負担となりますが、まちづくりに資する文化財の登録に際しては市の支援・補助を検討していきます。

表 5-2 文化財の調査・研究の措置一覧

基本方針	目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体				財源	
					前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民		団体
基本方針1 市内に所在する文化財とその情報を把握します	調査・研究	多種多様な文化財を広く把握し、まちづくりに資する文化財情報を収集します											
		1-①	未指定文化財の把握調査・データベース整理事業	未指定文化財（名勝地、文化的景観、伝統的建造物群等）の把握調査を実施する。将来の市史編纂や文化財情報検索システム構築に備え、基本情報・基礎資料を収集・整理したデータベースを作成する。	■	■	■	○	○	○	○	○	市費
		1-②	未指定文化財の現況確認（追跡調査）事業	これまで把握された未指定文化財の中から、歴史文化の特徴との関連性が高いものを中心に、保存・活用に向けた現況確認（追跡調査）を実施し、現況（現存／滅失、き損・改変状況、伝承の状況など）を記録する。	■	■	■	○	○	○	○	○	市費
		1-③	市民遺産登録・認定制度の創設	市民遺産登録・認定制度を創設し、市民自らが保存・活用すべき文化財を選出する。	■	■	■	○	○	○	○	○	市費
		詳細調査を実施して文化財の価値を高めます											
		1-④	文化財詳細調査及び報告書作成事業	文化財の詳細調査を推進し、必要に応じて報告書を作成する。	■	■	■	○	○	○	○	○	市費
未指定文化財の価値を把握し、文化財の新規指定・登録件数の増加へつなげます													
1-⑤	指定・登録等の推進によるまちづくり連携事業	本市の歴史文化の根拠をなす文化財の指定・登録等を推進し、まちづくりにおけるシンボルとなりうる指定等文化財の増加を目指す。文化財の指定・登録に向けた調査については市が支援・補助を行う。	■	■	■	○	○	○	○	○	指定：市費 登録：市補助		

凡例 ◆事業計画期間 前期：令和5（2023）～令和7（2025）年度 中期：令和8（2026）～令和11（2029）年度
後期：令和12（2030）～令和14（2032）年度

◆取組主体 行政：本庄市（国、埼玉県との協働を含む） 市民：本庄市民
専門家・大学等：大学、博物館、研究者など 団体：保存活用支援団体、市民活動団体、
所有者・管理者：文化財の所有者・管理者・保護団体など 各種団体、協議会、企業など

◎：主として取り組む主体
○：協力して取り組む主体

※措置の具体的な内容を「第9章 文化財の一体的・総合的な保存と活用」に示したものがあ

5 文化財の調査・研究に関する体制とその整備

文化財の調査・研究に関する取組は、文化財保護課が積極的に主体を担い、文化庁や埼玉県教育委員会、本庄市文化財保護審議会等の指導・助言を受けて行います。なお、文化財の把握調査には、市民や保存活用団体の情報提供をはじめとする協力も必要不可欠です。地域の人々が大切にし、守り伝えたいと考える物事についての情報提供を受けられる体制の整備を目指します。詳細調査は、所有者・管理者の理解・同意を得て行い、市の学芸員や文化財保護審議会だけでなくヘリテージマネージャー（歴史的建造物の保存・活用に関わる専門家）等の専門家や大学等への委託・協力によって実行します。

調査結果は、報告書の刊行に加え、説明会や講演会等を開催するなどして、所有者・管理者、市民、団体等へ周知を図り、文化財価値の普及・啓発に努めます。さらに、専門家・大学等による自主的な調査・研究の成果など様々な文化財情報についても、皆で共有できる体制の整備を目指します。

調査により特に高い価値が明らかとなった文化財は、指定・登録文化財として保存・活用を図ります。なお、指定・登録制度への所有者・管理者の理解が不可欠となるため、行政による制度の啓発に努めます。

文化財の調査・研究に関して、各取組主体がどのような役割を担い実行する必要があるのか、[表5-3]に整理しました。

表 5-3 調査・研究に関する取組主体ごとの役割

取組主体	役割	対象
行政	取組主体としての調査の実行	
	情報収集・情報共有の体制整備	
	調査への協力依頼	⇒ 所有者・管理者
	調査実施に関する広報	⇒ 市民、団体
	調査・研究の委託	⇒ 専門家・大学等
	調査・研究の専門的知見に関する指導・助言の依頼	⇒ 専門家・大学等
	文化財データベースの作成	
	文化財指定・登録の同意形成	⇒ 所有者・管理者
	文化財指定・登録の事務手続き	
	調査報告書の作成・刊行	
	調査成果・文化財価値の普及・啓発（主に保存に向けた意識啓発）	⇒ 市民
	調査成果・文化財価値の普及・啓発（主に活用に向けた基礎情報の提供）	⇒ 団体
	市民遺産登録・認定制度の創設・公募	
専門家 大学等	調査・研究の受託	⇒ 行政、所有者・管理者
	調査報告書の監修協力	⇒ 行政
	文化財指定・登録の支援	⇒ 行政、所有者・管理者
	文化財の評価・価値説明	⇒ 市民、団体
	調査成果・文化財価値の普及・啓発への協力	⇒ 行政
所有者 管理者	調査協力依頼に対する同意	⇒ 行政
	（事業主としての）調査の委託	⇒ 専門家・大学等
	文化財指定・登録への同意	⇒ 行政
市民	その他文化財（地域の人々が大切にしているもの、守り伝えたいと考えるもの）の情報提供	
	調査への協力	⇒ 専門家・大学等
	市民遺産の登録・認定の要望	⇒ 行政
団体	その他文化財（地域の人々が大切にしているもの、守り伝えたいと考えるもの）の情報提供	
	調査への協力	⇒ 専門家・大学等
	市民遺産の登録・認定の要望	⇒ 行政

第6章 文化財のより良い状態での保存・継承

1 文化財のより良い状態での保存・継承に関する課題

1) 文化財のより良い状態での保存・継承に関する課題

本計画作成に向けて実施した文化財の把握調査や指定等文化財の所有者・管理者に対するアンケート調査（以下、アンケート調査とする。）、これまでの文化財行政の運営などを通して明らかとなった本庄市の文化財のより良い状態での保存・継承に関する課題を以下に整理します。

① 維持管理の課題

文化財を保存・継承していくためには、適切な時期・手法で維持管理や修理を行う必要があります。しかしながら、アンケート調査では、相続等による所有者の変更、保護団体の責任者交替、保護団体の活動の停滞などにより、所有者・管理者が文化財の現状（破損・劣化状況）を把握できていない事例が見受けられました。行政の取組としても、所有者・管理者に対して定期的な現状報告を求めるにとどまり、行政による巡回点検（モニタリング）などは行っていませんでした。加えて、所有者・管理者による管理方法や定期的な点検内容等を定めた要綱や規定がなく、所有者・管理者が発生した文化財の破損や劣化に対して対処処置を取ることしかできない状態でした。このままでは、適切な維持管理や保存修理の機会を逸することとなり、文化財のき損につながるおそれがあるため、行政や所有者・管理者が適切に文化財の維持管理や保存修理を行うための体制の整備が必要です。

また、文化財、特に歴史的建造物や史跡の保存・継承においては、文化財だけでなく周辺環境や景観との一体的な保全も必要です。しかし、本市では、周辺環境の保全に対する取組は十分でない状況でした。

文化財の保存において保管施設の整備も不可欠です。しかし、本庄^{こだま}・児玉の山車・屋台を収める山車蔵をはじめとする所有者が管理する保管施設の中には、施設の老朽化や現行の建築基準法で定められた耐震性能基準未達など、文化財の保管施設として求められる機能を備えていないものがあります。また、市が収蔵する古文書、考古資料、歴史資料、民具などについても、収蔵スペース不足が顕著であり、将来的に増加していく歴史資料の保存場所が十分でないことが明らかです。

② 保存修理・整備の課題

文化財の価値を後世へ伝えるためには、適切な保存修理と活用に向けた整備が必要です。しかし、本市の指定等文化財（建造物・史跡）については、保存状態の改善や一般公開に向けた安全性を確保するための措置が滞っており、塙保己一旧宅（国指定史跡^{はなわほきいち}）、競進社模範蚕室（県指定有形文化財^{きょうしんしゃもはんさんしつ}）、旧本庄警察署（県指定有形文化財^{もろい}）、諸井家住宅（県指定有形文化財）など、保存修理や耐震補強が必要なものが複数あります。

③ 継承の課題

無形の民俗文化財においては、後継者不足や継承活動の衰退が全国的な課題となっており、今後も人口減少と急速な少子高齢化が継承に深刻な影響を及ぼす可能性が指摘されています。本市においても、各地域で行われている祭礼や年中行事をはじめとする伝統文化が、高齢者から若者へ継承できていないといった危機的状況にあり、指定された無形の民俗文化財にも活動を休止しているものが生じています。断絶が危惧される無形の民俗文化財に対しては、記録保存をはじめとする措置が必要となります。しかしながら、本市においては、現時点でそれらの文化財に対する具体的な取組が定められておらず、効果的な対応が取れていない状況にあります。

2) 文化財に対する災害・犯罪とその被害想定 [表 6-1 ~ 6-4]

近年、全国各地で地震・台風・集中豪雨等による大きな自然災害が増加し、文化財にも多大な被害が生じています。さらに、火災・盗難・破壊等の人為災害も発生しており、地域のコミュニティ力が低下している中で、防災・防犯といった文化財の保存管理は大きな課題となっています。

本項では、災害・犯罪によって本市の文化財が受ける被害の想定と、防災・防犯における課題を整理します。

表 6-1 近年の災害と文化財の罹災状況

年	年月	月日	災害名	罹災文化財	罹災状況
平成 14 年	(2002)	5 月	(雨水被害)	日枝神社のケヤキ	枝 2 本折損
			東日本大震災	旧本庄仲町郵便局	二階外壁一部崩落
				旧本庄警察署	天井塗装ひび割れ、外壁一部剥落
				諸井家住宅	瓦破損
平成 24 年	(2012)	6 月 19 日	台風 4 号	競進社模範蚕室	雨漏り
平成 25 年	(2013)		台風 18 号	山王堂日枝神社のケヤキ	枝が折れる
平成 26 年	(2014)	2 月 14 日 ~ 同月 15 日	平成 26 年豪雪	旧本庄警察署	雨どい落下
				競進社模範蚕室	瓦、雨どい落下
				諸井家住宅	瓦落下
令和元年	(2019)	10 月 12 日	台風 19 号	本庄金鎖神社大門	瓦破損
				ほてい堂の五輪塔	堂の外壁破損
				本庄本町の山車	山車蔵の扉破損
				競進社模範蚕室	壁面板材、高窓板破損
令和 4 年	(2022)	6 月 2 日	(降ひょう被害)	競進社模範蚕室	管理室窓ガラス破損
令和 4 年	(2022)	7 月 28 日	(令和 4 年 7 月豪雨)	旧本庄仲町郵便局	雨漏り

※書類上で確認できる被害のみをまとめました。

① 自然災害

【地震災害】

地震災害で想定される文化財の被害として、建造物や遺跡など土地やその定着物に関しては、構造物又は遺構の損壊・崩落等が想定されます。美術工芸品や有形の民俗文化財など移動可能なものの被害として、転倒・落下・損壊等が挙げられます。植物については、倒木・落枝等の被害が想定されます。

埼玉県が作成した「埼玉県地震被害想定調査被害分布図」では、関東平野北西縁断層帯地震が発生した場合、本庄市内で最大震度 7 の地震が発生することが想定されています。想定される地震に耐えうるような文化財又は文化財保管施設の耐震診断の実施や耐震化等の検討を行う必要があります。

【風水害】

風水害とは、強風・大雨・洪水等による災害を指します。想定される被害として、建造物・遺跡・美術工芸品・有形の民俗文化財等に関しては損壊・浸水・流失等が挙げられ、植物については、倒木・落枝等が挙げられます。

本庄市は、南部に山地・丘陵地を有し、北部の利根川をはじめ備前渠用水、元小山川、小山川、男堀川、女堀川、御陣場川など多くの河川が縦横に流れています。本庄市が作成した「本庄市土砂災害ハザードマップ」[図 6-1・6-2] においては、山地・丘陵地の河川沿いに土砂災害警戒区域が多く見られ、

また、「本庄市洪水・内水氾濫ハザードマップ」〔図 6-3・6-4〕においては、上述の各河川沿いを中心に浸水想定区域が設定され、特に利根川沿い（沖積地）は広範囲にわたり警戒が必要となっています。これらの警戒区域に所在する文化財については、重点的な対策を講じる必要があります。

なお、近年は、台風や集中豪雨による土砂災害や家屋浸水、河川堤防決壊、道路冠水、橋の流出などの被害が全国的に生じています。本市における直近事例では、令和 4（2022）年 7 月 28 日に記録的短時間大雨情報が発表され、1 時間に約 100mm の猛烈な雨によって市内の広い範囲で道路の冠水や住宅への浸水などが発生しました。文化財及び関連施設にも、旧本庄仲町郵便局（国登録有形文化財）や下浅見文化財収蔵庫に、（経年劣化を一因とする）建物の一部破損や雨漏りが生じました。今後想定される甚大な被害に対して、効果的な対策が求められます。

また、竜巻等の突風は局所的・突発的に発生し、未然の正確な予測は現状では困難であるため、被害に対する予防対策が必要です。

【雪害】

多量の積雪で想定される文化財の被害として、建造物など屋外に位置する文化財の損壊等が挙げられます。また、建造物が被災すると、その内部に収蔵される文化財にも被害が及ぶ可能性があります。植物については、倒木・落枝等の被害が想定されます。

平成 26 年豪雪の際、本市では積雪 65cm（山間部では 1 m 以上）を記録し、各地で住宅や企業の倉庫、車庫、カーポートのほか、多くの農家でビニールハウスが潰れるなど大変な被害が発生しました。豪雪時に交通路の遮断や山間部の孤立が発生した場合は、文化財の被害状況の把握にも遅延が生じる可能性があります。対策が必要と考えます。

【落雷】

落雷で想定される文化財の被害として、建造物や植物等への雷の直撃又はサイドフラッシュ（側激）による破損や発火による火災が挙げられます。また、文化財建造物では火災等の被害から文化財を守るために設置された各種防災設備が近隣の落雷の影響を受けて破壊される被害も全国で発生しています。

近代以降、避雷針の普及に伴って落雷による文化財の消失は減少しています。しかし、現代の建造物に比べ落雷に対する脆弱性を有するという文化財建造物の性質上、文化財そのものだけでなく、人命や防災設備をはじめとする電気・電子機器の保護を併せた雷保護システムの設置が不可欠となります。

このほか、植物においては、サイドフラッシュ（側激）による人的被害も想定されることから、雷の発生時には屋内等への避難を周知するなどの対策も必要になります。

【降ひょう害】

降ひょうで想定される文化財の被害として、建造物や収蔵庫をはじめとする屋外の文化財の破損が挙げられ、内部に収蔵される文化財にも被害が及ぶ可能性があります。

直近の事例としては、令和 4（2022）年 6 月 2 日に発生した降ひょうにより、市内の住宅・公共施設（窓ガラス破損等）や農業（農作物・生産施設）に多数の被害が発生しました。文化財に直接的な被害は発生しなかったものの、競進社模範蚕室（県指定有形文化財）に隣接する管理室（指定範囲外）、蛭川文化財収蔵庫、下浅見文化財収蔵庫等に屋根や窓ガラスの破損が生じました。降ひょう害が原因の雨漏り等の二次被害も生じたことから、降ひょう後は文化財自体だけでなく文化財保存施設の被害確認及び修繕が必要となります。

表 6-2 埼玉県における被害地震

発生年月日	マグニチュード (M)	緯度 経度	深さ (km)	震源地域	被害記述
818.	7.5	36.50 139.50	—	関東諸国	相模、武蔵、下総、常陸、上野、下野等、山崩れ谷埋まること数里、百姓の圧死者多数。
878.11.1	7.4	35.50 139.30	—	関東諸国	相模、武蔵が特にひどく、5～6日震動が止まらなかった。公私の屋舎1つ全きものなく、地陥り往還不通となる。圧死者多数。
1615.6.26	6.5	35.70 139.70	—	江戸	家屋破潰、死傷多く、地割れを生じた。詳縮*不明。
1630.8.2	6.3	35.75 139.75	—	江戸	江戸城西の丸御門口の石垣崩れ、堀も多少損ず。細川家上屋敷では白壁少々落ち、堀もゆり割れたが下屋敷は異常なし。
1649.7.30	7.0	35.80 139.50	—	武蔵、 下野	川越で大地震、町屋で700軒ばかり大破、500石の村、700石の村で田畑3尺ゆり下る。江戸城二の丸石垣、堀被損、その他城の石垣崩れ、侍屋敷、長屋の破損、倒壊あり、上野東照宮の大仏の頭落ち、日光東照宮の石垣、石の井垣被損し、八王子、伊那で有感、余震日々40～50回、死50人余り。川越で被害があった事が最近分かったが、川越付近の地盤の悪さによるところが大きいと思われる、液状化現象らしい点もある。
1703.12.31	8.2	34.70 139.80	—	関東 南部	相模武蔵、上総、安房で震度大、特に小田原付近の被害が大きい。房総でも津波に襲われ多数の死者が出た。江戸の被害も大きかったが、埼玉県内の被害の詳細は不明。
1791.1.1	6.3	35.80 139.60	—	川越・蕨	蕨で堂塔の転倒、土蔵等の被損。 川越で喜多院の本社屋根等破損。
1854.12.23	8.4	34.00 137.80	—	東海	県内の推定震度5(蕨、桶川、行田)。
1855.11.11	6.9	36.65 139.80	—	江戸	激震地域は江戸の下町で、中でも本所、深川、浅草、下谷、小川町、曲輪内が強く、山の手は比較的軽かったが土蔵の全きものは1つもなかった。民家の壊も多く、14,346軒という。また土蔵壊1,410。地震後三十余箇所から出火し、焼失面積は2町(0.2km)×2里19町(10km)に及んだ。幸いに風が静かで大事には至らず翌日の日の刻には鎮火した。死者は計1万くらいであろう。県内の推定震度は大宮5、浦和6。荒川沿いに北の方熊谷辺りまで、土手割れ噴砂等の被害があった。幸手から松戸付近までの荒川～利根川間の52ヶ村総家数5,041軒中、壊家17軒、人家、土蔵、物置等壊同然3,243軒。(村毎の被害率9～73%)。殆どは液状化による被害か。越谷土蔵の小被害。蕨で宿壊3軒。土蔵は全て瓦壁土落ちる。家の大破33軒、死1、傷1。見沼代用水の堤も多くの損害。行田で壊、半壊3。土蔵は所々で大破、壁落等あり。
1859.1.11	6.0	35.90 139.80	—	岩槻	居城本丸櫓、多門その他所々被損、江戸、佐野、鹿沼で有感。
1894.6.20	7.0	35.60 139.80	—	東京湾 北部	被害の大きかったのは東京、横浜等の東京湾岸で、内陸に行くにつれて軽く、安房、上総は震動がはるかに弱かった。東京府で死者24、負傷157人。家屋全半壊90、破損家屋4,922、煙突倒壊376、煙突亀裂453、地面の亀裂316か所。埼玉県は南部で被害があった。飯能では山崩れ(幅350間(約630m))あり、鳩ヶ谷で土蔵の崩壊10、家屋破損5、川口で家屋、土蔵の破損25。南平柳村で家屋小破50、土蔵の大破3、水田の亀裂から泥を噴出した。鴻巣や菅浦では亀裂多く泥を噴出し、荒川、江戸川、綾瀬川筋の堤に亀裂を生じた。
1894.10.7	6.7	35.20 139.30	—	東京湾 北部	芝区桜川町、赤坂溜池、下谷御徒町で建物の屋根や壁に小被害。南足立郡小台村は震動やや強く、練瓦製造所の煙突3本折れ、屋根、壁等小破多し。
1923.9.1	7.9	35.50 139.20	—	関東 南部	死者99,331名、負傷者103,733名、行方不明者43,476名、家屋全壊128,266軒、半壊126,233軒、焼失447,128軒、流出868軒。 県の被害は、死者316名、負傷者497名、行方不明者95名、家屋全壊9,268軒、半壊7,577軒。
1924.1.15	7.3	36.15 139.23	—	丹沢山地	関東地震の余震。神奈川県中南部で被害大。関東地震後の家の修理が十分でないことにより被害をうけたものが多い。
1931.9.21	6.9	36.15 139.23	0	埼玉県 北部	県で、死者11人、負傷者114人、全壊家屋172戸、中北部の荒川、利根川沿の沖積地に被害が多い。
1968.7.1	6.1	35.59 139.26	50	埼玉県 中部	深さが50kmのため、規模の割りに小被害で済んだ。東京都で負傷6名、家屋一部破損50、非住家破損1、栃木で負傷1名。
1989.2.19	5.6	36.01 139.54	54	茨城県 南西部	茨城県、千葉県で負傷者2人、火災2件。他に堀、車、窓ガラス破損、熊谷で震度3。
2011.3.11	9.0	38.06 142.51	24	三陸沖	東北地方を中心に死者15,883名、行方不明2,676名、負傷者6,144名。 県の最大震度は6弱(宮代町)、負傷者104名、全壊24棟、半壊194棟、一部破損16,161棟、火災発生12件。

【出典／埼玉県防災会議：「埼玉県地域防災計画(資料編)」、平成26(2014)年3月】 (*：原文ママとします。)

表 6-3 本庄市における災害の被害

災害の種類	年月日	名称	区域別被害状況	
			市の震度	震度 5 弱
地震	平成 23 (2011) 年 3月 11 日	東日本 大震災	市の震度	震度 5 弱
			市内被災状況	①灯籠、屋根瓦、外壁、ブロック、墓石の倒壊及び落下等あり（市内計 96 件）。 ②県水道は給水停止し、自家水源で対応。漏水 1 件。 ③新耐震基準以外の公共施設で耐震工事を完了していない施設の使用を停止し、安全確認を実施。 ④橋の安全点検を実施。 ⑤市民プラザ・第三金屋集会所は当面の使用を停止。 ⑥本庄公民館は、中央公民館へ機能を移転。
雪害	平成 26 (2014) 年 2月 8～9 日、 14～15 日	平成 26 年 豪雪	本庄市	積雪 65cm (本庄市内、埼玉県本庄県土整備事務所観測) 1m 以上 (山間部) 人的被害：負傷者 15 名 建物被害：全壊 55 棟、半壊または損壊 129 棟 その他建造物の損壊：207 件 農業用施設被害：ハウス 2,261 棟、畜舎等 50 棟
竜巻等の突風	平成 28 (2016) 年 7月 14 日	突風	本庄市他	住家屋根の一部損壊 1 件 ビニールハウス損壊 1 件
水害 土砂災害	昭和 22 (1947) 年 9月 14～15 日	カスリーン 台風	旧共和村 旧児玉町 旧金屋村 旧日本泉村 旧秋平村	浸水 426 戸 死傷者 3 人 田畑冠水 157 町 浸水 311 戸 破壊 1 戸 田畑冠水 79 町 5 反 浸水 100 戸 田畑冠水 115 町 3 反 浸水 100 戸 流失 2 戸 田畑冠水 19 町 3 反 浸水 170 戸 流破壊 2 戸 負傷者 10 人 畑冠水 55 町 5 反
	昭和 28 (1953) 年 9月 23～25 日	台風 13 号	旧共和村 旧秋平村	破壊 1 戸 破壊 1 戸
	昭和 41 (1966) 年 6月 27～28 日	台風 4 号	旧本庄市	浸水 床下 5 戸 田畑冠水 245ha
			旧児玉町	浸水 9 戸 田畑冠水 310ha
	昭和 41 (1966) 年 10月 7 日	台風 26 号	旧本庄市	浸水 床下 42 戸 死傷者 15 人 建物破壊 6,689 戸
			旧児玉町	浸水 床上 13 戸 床下 237 戸 死傷者 17 人 建物破壊 248 戸
	昭和 57 (1982) 年 8月 1～2 日	台風 10 号	旧本庄市	浸水 床下 400 戸 建物破壊 76 戸 田畑冠水 600ha 橋流失 6 橋
			旧児玉町	浸水 床上 36 戸 床下 384 戸 田畑冠水 358ha
	昭和 57 (1982) 年 9月 12～13 日	台風 18 号	旧本庄市	浸水 床上 15 戸 床下 600 戸 堤防損傷 24 か所 田畑冠水 50ha
	平成元 (1989) 年 8月 16 日	集中豪雨	旧本庄市	浸水 床上 26 戸 床下 127 戸
	平成 7 (1995) 年 6月 27～28 日	大雨	旧本庄市	橋流失 1 橋 負傷者 2 人
	平成 9 (1997) 年 8月 26 日	集中豪雨	旧本庄市	浸水 床上 4 戸 床下 59 戸
	平成 10 (1998) 年 9月 16 日	台風 5 号	旧本庄市	浸水 床上 2 戸 床下 9 戸 田畑冠水 334ha
	平成 19 (2007) 年 9月 5～8 日	台風 9 号	本庄市	本庄地域 浸水 床下 1 戸 児玉地域 浸水 床下 1 戸 河川堤防決壊 3 か所 崖崩れ 11 か所 道路冠水 3 か所 避難者 10 人
本庄市			本庄地域 浸水 床上 4 戸 床下 43 戸 児玉地域 浸水 床上 5 戸 床下 8 戸 土砂流出等 7 か所 (うち崖崩れ 3 か所) 橋流失 1 橋 避難者 22 人	
平成 23 (2011) 年 9月 1～6 日	台風 12 号	本庄市	本庄地域 浸水 床上 4 戸 床下 43 戸 児玉地域 浸水 床上 5 戸 床下 8 戸 土砂流出等 7 か所 (うち崖崩れ 3 か所) 橋流失 1 橋 避難者 22 人	
平成 27 (2015) 年 9月 8～10 日	台風 18 号	本庄市	児玉地域 土砂崩れ 2 か所 道路冠水 1 か所	

【出典／「本庄市地域防災計画」より一部抜粋】



図 6-1 「本庄市土砂災害ハザードマップ（北部面）」

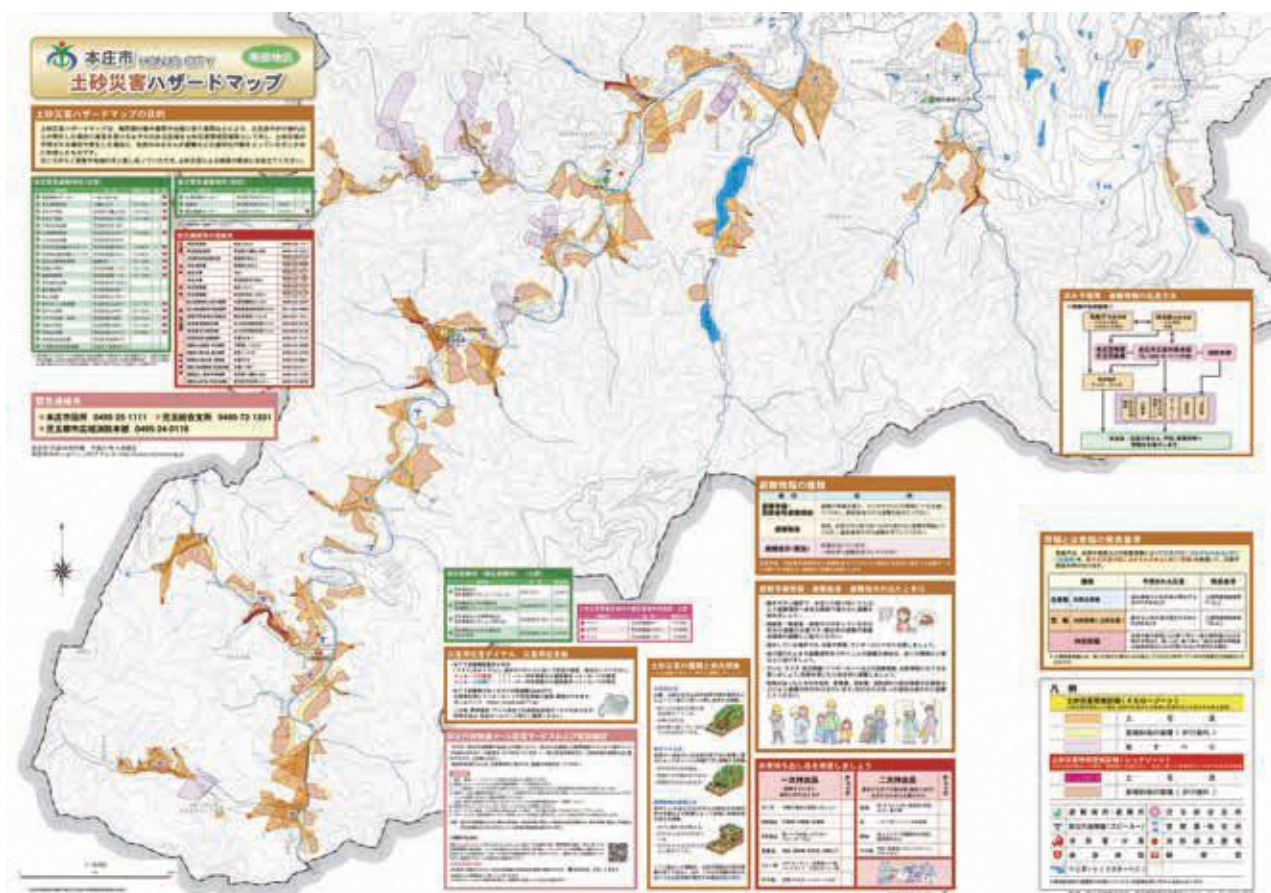


図 6-2 「本庄市土砂災害ハザードマップ（南部面）」

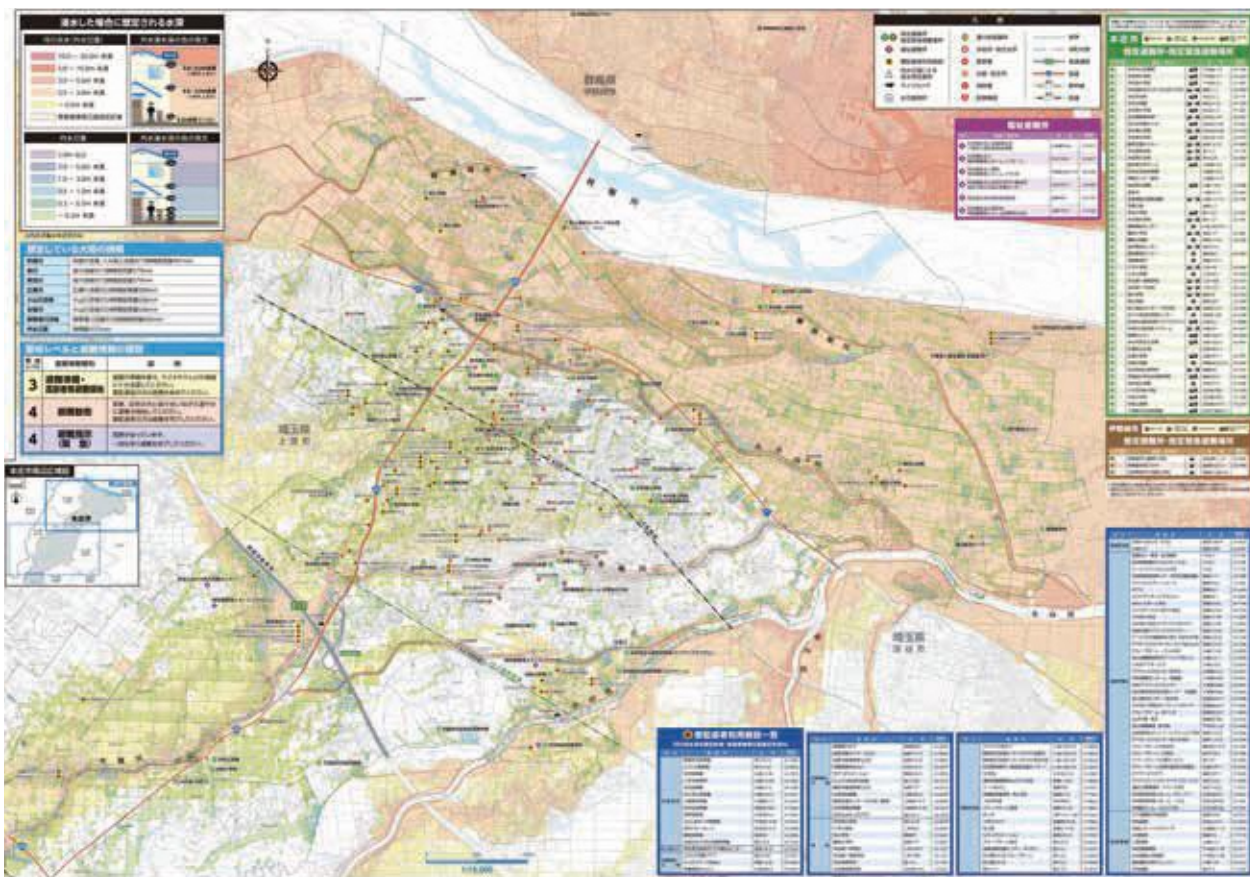


図 6-3 「本庄市洪水・内水氾濫ハザードマップ（南部）」（抜粋）

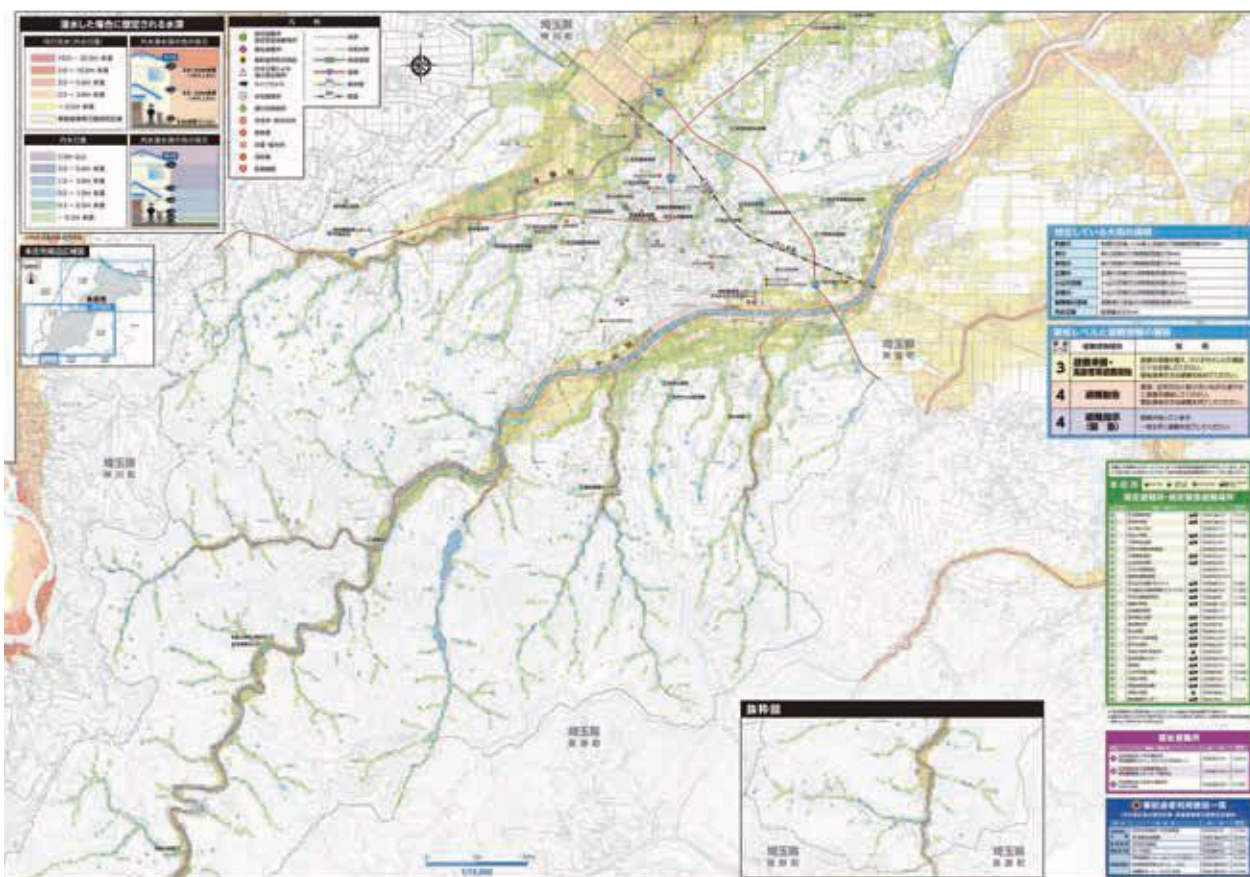


図 6-4 「本庄市洪水・内水氾濫ハザードマップ（北部）」（抜粋）

【火山噴火に伴う降灰被害】

我が国は火山国であり、火山噴火予知連絡会によって「概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山」と定義された活火山が111山も存在します。さらに、火山噴火予知連絡会では「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山」として55山を選定し、火山活動を24時間体制で常時観測・監視しています。また、相模トラフや南海トラフで大規模な地震が発生した場合には、国内の火山活動が活発化する可能性が中央防災会議で指摘されています。

埼玉県内に活火山は存在しませんが、上記の「火山防災のために監視・観測体制の充実が必要な火山」に選定されている富士山・浅間山・草津白根山などの活動の影響が想定されます。過去の火山活動では、浅間山の天明3（1783）年の大噴火において、本庄～深谷にかけて軽石、火山灰の降下、堆積が確認されています。また、「富士山ハザードマップ検討委員会報告書」（平成16（2004）年）や「富士山火山広域防災検討会報告書」（平成17（2005）年）にある「富士山降灰可能性マップ」によれば、埼玉県は県南地域が最大で2～10cm堆積可能性のあるエリアに入っているほか、その他の地域でも2cm未満の降灰が予想されています。これらの過去の被害や今後発生が想定される噴火の被害予測から、本市においても噴火の状況や気象状況によっては、降灰の被害を受ける可能性が考えられます。

火山噴火に伴う降灰で想定される文化財の被害として、建造物をはじめ屋外に所在するものの汚損や、植物の生育に関する影響が懸念されます。多量の降灰があった場合は、火山灰の重みによって建物等が倒壊する可能性もあり、速やかに除去を行う必要があります。また、火山灰が堆積した斜面は、通常よりも浸透能が著しく低下するため、少量の雨でも土石流が発生する可能性が高くなります。そのため、特に土石流危険渓流においては、降灰後の降雨による土石流被害も想定され、流域に所在する文化財は風水害と併せて警戒が必要です。

表 6-4 埼玉県下における火山被害の想定

区分	影響内容
富士山が噴火した場合	最大で2～10cm堆積可能性のあるエリアに県南地域が入っているほか、その他の地域で2cm未満の降灰が予想されている。
その他の近隣の火山（浅間山、草津白根山など）が噴火した場合	県内で数cmの降灰堆積の可能性がある。

出典／埼玉県防災会議：「埼玉県地域防災計画」（平成26年3月）

② 人為災害・犯罪

【火災】

文化財の中でも建造物は、火災が生じた際の被害が甚大となる可能性が非常に高いです。その際の被害は建造物にとどまらず、その内部に収蔵される文化財にも被害が及ぶおそれがあります。また、本市の指定等文化財の植物は、市街地の社寺境内にあるものが散見され、類焼による焼失が危惧されます。

本庄駅北口や児玉駅周辺の市街地には木造住宅が密集していることから、大規模火災・延焼の発生が懸念されるエリアとなっています。そのため、市街地内に所在する文化財については、特に対策を講じる必要があります。また、市街地以外においても、建造物や文化財保管施設への消火栓設備、自動火災報知設備等の設置が行き届いていないことが大きな課題となっています。

【盗難・破壊・紛失】

文化財の中でも美術工芸品は、他の類型に比べ盗難や破壊、紛失の危険性が高いものと想定されます。建造物や有形の民俗文化財についても、汚損や部材の盗難等の被害が想定されます。

盗難等の対象となる原因の一つに不十分な管理体制が挙げられます。アンケート調査においても、相

続や管理者変更等の要因のために文化財の保管状況を把握できていないとの意見があり、これが管理体制の脆弱化につながるものと想定されます。特に、管理者が常駐しない文化財や、人通りの少ない場所に所在する文化財については、防犯を意識した日頃からの管理体制を強化する必要があります。

3) 文化財の防災・防犯に関する課題

前項で整理した想定される災害・犯罪とその被害や、アンケート調査、これまでの文化財行政の運営などを通して明らかとなった本庄市の文化財の防災・防犯に関する課題を以下に整理します。

① 平常時の対策に関する課題

文化財の被害・災害リスクは、文化財の特性や周辺環境（地理的環境・設置状況等）により異なります。そのため、文化財ごとに災害・犯罪リスクを把握し、個々のリスクに応じた対策を図る必要があります。本市では、市内の文化財が抱える災害・犯罪リスクに対して、未然かつ個別に検討し対策を講じるという一連の流れができていませんでした。また、文化財保管施設に対する防災・防犯設備の設置に関する方針や規定も定められていない状態です。想定される災害・犯罪リスクへの対策が必要な文化財の把握と設備設置の促進は喫緊の課題といえます。

平常時における文化財の防災・防犯は、所有者・管理者が責務を負います。一方で、文化財を地域の共有財産として捉える見方もできます。市民に向けてより一層の文化財保護に対する意識啓発と連携強化を図り、文化財を地域全体で見守り、災害や犯罪を防止・抑止するための協力体制の構築が必要です。

② 災害時の対応に関する課題

文化財が災害・犯罪による被害を受けた際には、関係者への通報、初期対応、応急措置などを行う必要があります。『本庄市地域防災計画』には、災害時における文化財の保護対策が定められていますが、文化財ごとの災害リスクと対策状況を踏まえた災害時の行動指針も必要と考えられます。

また、市域に甚大な被害をもたらす災害が発生した場合、文化財への対応を行政の文化財担当者が行うことが困難となる可能性もあります。その際、行政の文化財担当者以外の者が文化財の被災状況の把握や被災した文化財の救出及び応急措置を速やかに行うことが想定されますが、これらの緊急時の対応について実施可能な組織体制が整っていません。

2 文化財のより良い状態での保存・継承に関する方針

前項で整理した課題の解決に向けて、文化財のより良い状態での保存・継承に関する方針を以下に整理します。また、[表 6-5] に記載した文化財の防災・防犯に関するガイドライン・計画等を踏まえ、文化財の防災・防犯に関する方針を以下に整理します。

1) 文化財のより良い状態での保存・継承に関する方針

① 維持管理の方針

【適切な維持管理と周辺環境の保全によって文化財を後世に継承します】

文化財の修理や維持管理を適切な時期及び手法で行うため、所有者・管理者と行政との間で文化財の保存・活用について情報共有を図る制度を設け、所有者等による自主的な保存・活用を促します。また、文化財をより良い状態で保存・活用するために、文化財を含む周辺環境や景観に対する保全意識を高めます。

文化財の保管環境の現状を把握し、保管施設の機能や設備を十分に満たしていないものについて優先

度の高いものから、保管施設の改修や耐震補強などを実施します。

現在市が収蔵する資料（考古資料・歴史資料・有形の民俗文化財など）だけでなく、今後増加が予想される資料の収蔵に必要な容積も踏まえて、集約化に必要な十分な保存スペースと保存環境を整備します。

② 保存修理・整備の方針

【文化財の価値を保存するための修理・整備を行います】

保存に向けた措置が必要な指定等文化財（建造物・史跡）について、所有者や埼玉県と連携して優先順位を定め、計画的で適切な保存修理や耐震補強を実施し、安全性を確保した上での利用・公開を目指します。

③ 継承の方針

【地域の伝統文化に関する保存・活用・後継者養成を市の取組として支援します】

記録作成等の措置を講ずべき、又は継承の断絶が危惧される無形の民俗文化財について、記録作成等を図ります。

無形の民俗文化財の保存・活用や後継者養成に関わる活動に対して、行政が支援する仕組みづくりを推進します。後継者養成を保護団体のみに任せるのではなく、市の取組として位置づけます。

表 6-5 文化財の防災・防犯に関する各種ガイドライン・計画

	上位・関連計画	作成	作成年月	概要
1	国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン	文化庁	令和2年（2020年）12月改訂	平成31（2019）年に発生したノートルダム大聖堂での火災を受けて実施した国宝・重要文化財の防火設備の緊急状況調査結果（令和元（2019）年8月公表）等を踏まえ、国宝・重要文化財（建造物）や史跡等に所在する建造物の所有者等が総合的な防災対策を検討・実施できるよう、各文化財等の特性ごとに、想定される火災リスク・防火についての基本的な考え方、必要な点検事項と手順、対応策等をまとめている。
2	国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火対策ガイドライン	文化庁	令和元年（2019年）9月改訂	国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火設備の緊急状況調査結果（令和元（2019）年8月公表）等を踏まえ、国宝・重要文化財を保管する博物館等が総合的な防火対策を検討・実施できるよう作成したものであり、防火管理体制や日常管理体制における火災予防、各種設備のあり方、設備の点検や消防訓練等についての基本的な考え方を示している。
3	世界遺産・国宝等における防火対策5か年計画	文化庁	令和元年（2019年）12月	国宝・重要文化財の防火設備の緊急状況調査結果等を踏まえ、世界遺産または国宝（建造物）や国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等、さらに世界遺産となっている史跡等に所在する建造物について、総合的かつ計画的な防火対策を重点的に進めるため、当計画が策定された。き損・不具合がある防火設備の整備、早期覚知のための警報設備の充実、防火計画の策定、設備の定期点検など、ハード・ソフトの両面から取り組むこととしている。
4	埼玉県文化財保存活用大綱	埼玉県教育委員会	令和2年（2020年）3月	すべての県民が地域の文化財等と触れ合う機会を増やし、その価値を知って地域に愛着と誇りを深めていただくとともに、地域社会総がかりで文化財の適切な保存・活用の促進を目指し、当計画が策定された。文化財の防災・防犯に関しては、「第4章 文化財の保存活用の目指すべき方向性と取組・第2節 文化財を適切に保存する」で、「文化財の防災・防犯の推進」の項目を立て、市町村と連携した防災・防犯等の対策の周知徹底や災害発生に備えた市町村との連携強化等を明記している。また、「指定文化財の紛失等の防止の徹底」の項目を立て、指定文化財の所在確認調査や所有者への啓発活動等を実施するとしている。
5	本庄市地域防災計画	本庄市防災会議	平成30年（2018年）3月改訂	災害対策基本法第42条の規定に基づき、本市において、防災上必要と思われる諸施策の基本を定める計画であり、県、本市、公共機関及び住民がその有する機能を有効に発揮し、本市における災害予防対策、災害応急対策、災害復旧を実施することにより、本市の地域、住民のかけがえない生命、身体及び財産を災害から保護することを目的としている。
6	本庄市都市計画マスタープラン	本庄市都市整備部都市計画課	令和5年（2023年）3月	「大規模地震や河川氾濫等の自然災害の発生に備えて、市街地や農村・山村集落の防災性を高めて、人的被害を最小限にとどめる取組について「本庄市立地適正化計画」の防災指針と連携しながら進めるとともに、都市機能や産業機能の維持・早期回復、3つの駅周辺拠点間での相互連携・保管、円滑な避難・救急・救援活動のための防災拠点の整備や的確な気象情報の収集・提供など、防災まちづくりを進めます」と定めている。

2) 文化財の防災・防犯に関する方針

① 平常時の対策に関する方針

【文化財を災害・犯罪から守る対策を講じます】

各文化財の災害・犯罪リスクを整理し、対策に必要な設備設置等の現況を把握します。そして、把握した災害・犯罪リスクやリスクに対する対策状況に応じて、防災・防犯設備の設置を促進します。

災害・犯罪リスクを関係者で共有し、防災・防犯の意識向上を図るとともに、平常時においても巡回点検等の実施体制の整備をはじめ、防災・防犯に関する行政、所有者・管理者、市民等の連携を強化します。

② 災害時の対応に関する方針

【災害時に関係者が取るべき行動・対応を定めます】

災害時に関係者（行政、所有者・管理者、市民等）が取るべき行動や連絡体制を整理し、これらの周知と定期的な訓練等を行い、災害時の円滑な行動につなげます。

災害時においても、文化財の被害状況の把握と、文化財の遺棄・滅失を防ぐために行動できる組織体制を整備します。

3 文化財のより良い状態での保存・継承に関する措置

前項で定めた文化財のより良い状態での保存・継承に関する方針に対する具体的な措置を [表 6-6] に示し、本庄市の文化財のより良い状態での保存・継承に関するアクションプランとします。

事業実施の財源については、市費、国・県の補助金・交付金（文化財補助金やデジタル田園都市国家構想交付金等）の利用を検討していきます。ただし、文化財の保存・継承には原則として所有者の負担金が必要であり、これが高額となって保存への支障をきたす場合などがあれば、民間からの支援金・助成金の利用など、様々な財源調達の方法を検討します。

表 6-6 文化財のより良い状態での保存・継承に関する措置一覧

基本方針	目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体				財源	
					前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民		団体
基本方針2 文化財をより良い状態 で保存・継承します	適切な維持管理と周辺環境の保全によって文化財を後世に継承します												
	2-①	指定等文化財 現状報告体制 整備事業	文化財の所有者・管理者に対して、定期的な現状報告を依頼するとともに、現状変更許可申請や各種届出等の周知化を図る。	■	■	■	■	○		○			市費
	2-②	文化財保護指 導員制度の創 設	文化財保護法第 191 条の規定に基づき、文化財の巡回点検（モニタリング）と適正な保護に関する助言等を行う文化財保護指導員制度を創設する。	■	■	■	■	○	○	○		○	市費
	2-③	指定等文化財 保存活用計画 策定推進事業	塙保己一旧宅、競進社模範蚕室、雉岡城跡、旧本庄警察署、諸井家住宅、旧本庄仲町郵便局など、優先度の高いものから保存活用計画を策定し、周辺環境を含めた保存・活用や維持管理の方針・方法・体制を整える。	■	■	■	■	○	○	○		○	国・県・ 市補助
2-④	文化財保管施 設改修事業	本庄の山車、兎玉の屋台・山車など、主に所有者自らが管理する指定等文化財について、き損・散逸等の危険性がないよう、保管施設の改修又は耐震補強等を行う。	■	■	■	■	○		○			国・県・ 市補助	

基本方針	目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体					財源		
					前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民	団体			
基本方針2 文化財をより良い状態で保存・継承します	保存・継承	2-⑤	新収蔵庫新設事業	多くの資料（特に本市の特徴である多くの出土遺物）の保管場所を集約化し、かつ有効に活用するため、展示機能を備えた収蔵庫の新設を検討する。	■	■	■	○	○					市費	
		文化財の価値を保存するための修理・整備を行います													
		2-⑥	建造物保存修理・史跡整備事業	塙保己一旧宅、競進社模範蚕室、日本庄警察署、諸井家住宅など、優先度の高いもの（保存活用計画策定が完了したもの）から順次、保存修理・耐震補強・整備事業に取り掛かる。	■	■	■	○		○					国・県・市補助
		地域の伝統文化に関する保存・活用・後継者養成を市の取組として支援します													
		2-⑦	無形の民俗文化財後継者養成事業	無形の民俗文化財の保護団体が実施する後継者養成に対して助成、人的支援、応援体制を整備する。	■	■	■	○		○					国・県・市補助
		2-⑧	無形の民俗文化財記録等作成事業	無形の民俗文化財について、デジタル技術を活用した記録作成等を行い、その保存・活用（公開）を図る。	■	■	■	○	○	○			○		市費 国・県補助
		文化財を災害・犯罪から守る対策を講じます													
		2-⑨	文化財の防災・防犯対策検討事業	GISデータ等を用いて、文化財の災害・犯罪リスクの見える化（ハザードマップと文化財所在地の重ね合わせなど）を図り、関係者で共有することで、特に注意すべき文化財の把握と対策を検討する。	■	■	■	○		○	○	○			市費
		2-⑩	文化財防災・防犯設備設置状況確認事業	文化財又は文化財保管施設に対し、災害・犯罪リスクに応じた防災・防犯設備等の設置状況を確認し、所有者・管理者に必要な設備設置を促す。	■	■	■	○		○					市費
		2-⑪	文化財防災・防犯設備設置補助・支援事業	防災・防犯設備の設置を検討する指定等文化財又は文化財保管施設の所有者に対し、設置に関わる費用を補助する。	■	■	■	○		○					国・県・市補助
		2-⑫	文化財防災・防犯意識啓発事業	文化財の防災・防犯について、所有者・管理者・市民への研修・説明会等を開催する。関係者で防災・防犯マニュアルを共有し、防災・防犯意識を高める。	■	■	■	○		○	○	○			市費
		2-⑬	文化財防災・防犯地域連携事業	文化財の防災・防犯に関する訓練活動（初期消火や通報訓練）を消防・警察と市民が一体で行うなど、行政と市民との協力体制を強化する。身近な文化財の巡回確認・点検を市民に協力を求めるための方法・体制を整える。	■	■	■	○		○	○	○			市費
		災害時に関係者が取るべき行動・対応を定めます													
		2-⑭	災害・犯罪対応マニュアル作成事業	災害・犯罪対応マニュアルを作成し、通報、初期対応、応急措置を担うことが想定される関係者（行政、所有者・管理者、市民等）で共有するとともに、定期的な訓練を実施する。	■	■	■	○		○	○	○			市費
		2-⑮	文化財レスキュー体制整備事業	埼玉県、近隣市町村の各担当課、埼玉県ヘリテージマネージャー（埼玉県建築士会）等と協力体制を築き、地域全体で文化財レスキューに取り組む体制を検討・整備する。	■	■	■	○	○				○		市費

凡例 ◆事業計画期間 前期：令和5（2023）～令和7（2025）年度 中期：令和8（2026）～令和11（2029）年度
後期：令和12（2030）～令和14（2032）年度

◆取組主体 行政：本庄市（国、埼玉県との協働を含む） 市民：本庄市民
専門家・大学等：大学、博物館、研究者など 団体：保存活用支援団体、市民活動団体、
所有者・管理者：文化財の所有者・管理者・保護団体など 各種団体、協議会、企業など
○：主として取り組む主体
○：協力して取り組む主体

※措置の具体的な内容を「第9章 文化財の一体的・総合的な保存と活用」に示したものがあ

4 文化財のより良い状態での保存・継承に関する体制とその整備

1) 文化財のより良い状態での保存・継承に関する体制とその整備

文化財のより良い状態での保存・継承に関する取組は、原則として所有者・管理者を主体とし、文化財保護課がその支援を担います。必要に応じて文化財保護課が補助金申請等の事務手続きを速やかに進め、文化庁、埼玉県教育委員会、本庄市文化財保護審議会の指導・助言を受ける体制を整えます。

指定等文化財の確実な保存と維持管理に向けては、文化財保護課への定期的な報告や情報提供について所有者・管理者へ理解と協力を求めます。また、行政側からも専門家として文化財保護指導員を置いて文化財の巡回点検（モニタリング）を行い、相互の情報共有を図ります。

今後、保存・活用を推進する文化財については、順次、保存活用計画を策定し、所有者・管理者の自主的な保存・活用を促します。保存活用計画の策定にあたっては、文化財保護課が事務局となり、専門家・大学等の学識経験者や当該文化財の活用を担う団体等を中心とする策定委員会を組織し、文化庁、埼玉県教育委員会、本庄市文化財保護審議会の指導・助言を受けて策定が円滑に進む体制を整えます。

文化財の保管施設については、当該文化財にき損・滅失・散逸等の危険性がないよう、所有者・管理者に改修や耐震補強等を求め、出土遺物や寄託品の保管・管理については、本庄市及び所管する博物館施設が責任をもって行います。

破損・劣化等が著しい建造物については、所有者・管理者によるいち早い修理が行えるよう、行政側で必要となる実施体制の整備に努めます。

無形の民俗文化財は、行政、専門家・大学等、保護団体が連携の上で記録を作成します。デジタル技術を生かした記録作成に向けては、様々な技術の中から文化財の特性に対して適正なものを選択できるよう協議を行います。また、後継者育成については、原則として保護団体が主体的に行うものとなりますが、行政が助成・人的支援等の応援体制を整備します。

文化財の保存・継承に関して、各取組主体がどのような役割を担い実行する必要があるのか、[表6-7]に整理しました。

2) 文化財の防災・防犯に関する体制とその整備

文化財の防災・防犯に関する取組は、行政だけでなく所有者・管理者、市民、団体など地域全体の連携が不可欠です。そのため、文化財保護課が中心となって地域全体での連携を図れる体制の構築を進めます。文化財の防災・防犯に関わる措置については、関連する法令や計画等を踏まえるとともに、文化庁や埼玉県教育委員会、大学等の専門機関の指導・助言を仰ぎながら、地域社会総がかりで実施します。

自然・人的災害や犯罪等の発生の備えとして、本庄市（本庄市危機管理課）、児玉郡市広域消防本部、本庄市消防団、本庄警察署・児玉警察署、所有者・管理者が連携のもと、GISデータ等を用いた文化財における災害・犯罪リスクの見える化（ハザードマップと文化財所在地の重ね合わせなど）を行い、関係者で共有し、特に注意すべき文化財の把握と対策を検討します。また、文化財及び文化財保管庫については、防火・防犯設備の設置状況を確認し、不備不足については、所有者・管理者に必要な設備設置を促します。

文化財の防災・防犯意識の向上に向けては、埼玉県教育委員会と連携し、防災・防犯に関する研修や説明会、訓練活動の実施を通じて、文化財の所有者・管理者への啓発に取り組みます。また、行政、所有者のみでは市内各地に所在する文化財の巡回確認・点検が行き届かないため、各文化財の周辺に居住する市民や関係する団体等と連携した文化財の巡回確認・点検の体制を整備します。

災害時には、所有者・管理者だけでなく、市民、団体による初期行動や通報が必要であるため、これ

らを想定した対応マニュアルを作成し、行政、所有者・管理者、市民、団体など地域全体で共有するとともに、緊急時に迅速な行動をとれるよう訓練活動に努めます。

文化財に被害が発生した場合、行政は文化財の被害状況の迅速な把握に努め、埼玉県教育委員会等の関係機関へ報告し、指導・助言を受けるとともに、文化財の所有者・管理者に必要な指示を伝達します。被害状況の把握やその情報発信にあたっては、本庄市危機管理課・広報課と連携し、速やかに情報伝達が図れるよう、その方法について検討します。

災害時に備えては、埼玉県教育委員会、^{かみさと}上里町・^{かみかわ}神川町・^{みさと}美里町の各担当課、ヘリテージマネージャー（歴史的建造物の保存・活用に関わる専門家）等と協力体制を築き、文化財レスキュー活動に取り組む体制を検討・整備します。

文化財の防災・防犯に関して、各取組主体がどのような役割を担い実行する必要があるのか、[表6-8]に整理しました。

表 6-7 文化財のより良い状態での保存・継承に関する取組主体ごとの役割

取組主体	役割	対象
行政	文化財の現況に関する定期報告・情報提供の依頼	⇒ 所有者・管理者
	文化財保護指導員制度の創設、指導員の依頼	⇒ 専門家・大学等、団体
	保存活用計画策定に関する事務局支援（策定委員会の設置）	
	文化財保管施設の管理支援	⇒ 所有者・管理者
	管理が困難な文化財の管理代行（文化財の寄託受入）	⇒ 所有者・管理者
	文化財収蔵庫の管理、出土遺物や寄託品の保存管理	
	新収蔵庫新設の検討	
	建造物保存修理・史跡整備事業の促進	⇒ 所有者・管理者
	保存・継承の専門的知見に関する指導・助言の依頼	⇒ 専門家・大学等
	無形の民俗文化財の記録等作成	⇒ 所有者・管理者
	無形の民俗文化財の後継者育成支援	⇒ 所有者・管理者
専門家 大学等	より良い状態での保存・継承に関する指導・助言	⇒ 行政
	文化財保護指導員の受託、文化財の巡回点検（モニタリング）	⇒ 行政
	保存活用計画策定に関する指導・助言（策定委員の受託）	⇒ 行政
	新収蔵庫新設に関する指導・助言	⇒ 行政
	無形の民俗文化財の記録等作成に関する指導・助言	⇒ 行政
所有者 管理者	文化財の現況に関する定期報告・情報提供、文化財保護指導員との連携	⇒ 行政
	保存活用計画の策定（事業主）、保存活用計画に基づく保存・活用の推進	
	文化財保管施設の管理	
	無形の民俗文化財の後継者育成（保護団体）	
	維持管理が困難な文化財の管理依頼（寄託）	⇒ 行政
団体	文化財保護指導員の受託、文化財の巡回点検（モニタリング）	⇒ 行政
	無形の民俗文化財の記録等作成の支援	⇒ 行政

表 6-8 文化財の防災・防犯に関する取組主体ごとの役割

取組主体	役割	対象
行政	災害リスクの見える化、特に注意すべき文化財の把握と対策検討	
	災害・犯罪等の発生に備えた巡回確認・点検の協力依頼	
	文化財及び文化財保管施設に対する防災・防犯設備設置状況の確認	⇒ 所有者・管理者
	防災・防犯設備の設置促進・補助	⇒ 所有者・管理者
	防災・防犯等の発生に備えた意識啓発（研修・説明会等）	⇒ 所有者・管理者、市民、団体
	防災・防犯訓練の実施	⇒ 所有者・管理者、市民、団体
	災害・防災対応マニュアルの作成・共有	⇒ 所有者・管理者、市民、団体
	災害・犯罪発生時における被害状況の把握、関係機関への連絡・対応	
	文化財レスキュー活動の広域連携	⇒ 県、近隣市町村
専門家 大学等	文化財レスキュー活動への協力	⇒ 行政
所有者 管理者	災害リスクの共有、特に注意すべき文化財の把握	
	文化財及び文化財保管施設に対する防災・防犯設備設置状況の確認受入	⇒ 行政
	防災・防犯等の発生に備えた巡回確認・点検	
	防災・防犯設備の設置	
	防災・防犯等の発生に備えた意識啓発（研修・説明会等）への参加	
	防災・防犯訓練への参加	
	災害・防災対応マニュアルの把握	⇒ 行政
	災害・犯罪に対する初期行動・通報	⇒ 行政
市民	災害リスクの共有、特に注意すべき文化財の把握	
	防災・防犯等の発生に備えた巡回確認・点検への協力	⇒ 所有者・管理者
	防災・防犯等の発生に備えた意識啓発（研修・説明会等）への参加	
	災害・防災対応マニュアルの把握	⇒ 行政
	災害・犯罪に対する初期行動・通報	⇒ 行政
団体	災害リスクの共有、特に注意すべき文化財の把握	
	防災・防犯等の発生に備えた巡回確認・点検への協力	⇒ 所有者・管理者
	防災・防犯等の発生に備えた意識啓発（研修・説明会等）への参加	
	災害・防災対応マニュアルの把握	⇒ 行政
	災害・犯罪に対する初期行動・通報	⇒ 行政
	文化財レスキュー活動への協力（保存活用支援団体）	

第7章 歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成

1 歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関する課題

文化財の活用には、文化財の価値、ひいては歴史文化の魅力の発信が基本かつ重要になります。また、文化財の保存・活用に関する市民の活動は、郷土に対する誇りや愛着が根底にあります。

これまでの市政や、市内文化財の保存・活用状況などによって明らかな、本庄市における歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関する課題を以下に整理します。

1) 魅力発信・拠点整備に関する課題

① 魅力発信に関する課題

近年は、ICT（情報通信技術）の発達により、多彩かつ効果的な手法を用いた情報発信が全国的に取り組まれています。本市における歴史文化の魅力の発信は、報告書や冊子、印刷物に加え、市HPやSNS等の媒体を用いて行われてきました。一方で、ICTを活用した情報発信に必要な文化財情報のデジタルデータベース化が進んでおらず、先端技術を用いた情報発信に取り組む環境が整っていません。

本市、特に市内の文化財を訪れた来街者に対する取組も課題として挙げられます。具体的には、来訪機会やリピーターの創出に向けた取組や、本市特有の食文化や名産品に関する情報発信が不足していることに加え、歴史文化の魅力を観光の側面から活用する環境も十分に整っていません。また、本庄駅、本庄早稲田駅、児玉駅といった交通拠点を出発点とした文化財の周遊についても、効率的かつ歴史文化の魅力を理解、享受しやすいルートの内容や設定の検討が必要です。

② 拠点整備に関する課題

本庄市の歴史文化の魅力を発信するための拠点施設として「本庄早稲田の杜ミュージアム」が挙げられます。この施設は、令和2（2020）年10月に本市と早稲田大学が共同で開設しました。大久保山、浅見山丘陵の恵まれた自然環境と多様な遺跡を始めとする文化財に囲まれた一帯を地域文化の拠点として位置づけた「本庄早稲田の杜」の拠点施設の役割を担っています。本市と大学が所蔵する豊富な資料を活用し、地域の歴史を総合的な視点でとらえる展示を行っています。令和5（2023）年1月には延べ来館者が4万人に達しました。

ミュージアムでは常設展（本庄市展示室）において、埴輪をはじめとする多種多様な考古資料の展示や年表等の掲示物で本市の歴史と文化を紹介し、企画展・イベント等によって常設展示では紹介しきれない魅力を発信しています。しかし、特に来街者にとって「本庄早稲田の杜ミュージアム」への来訪だけでは、本庄市の多様な歴史文化の特徴と魅力を理解することが難しい状況といえます。「本庄早稲田の杜ミュージアム」で解説が困難な内容については、市内の文化財所在地へのガイダンス施設の設置及び連携を行って補うことが望ましいですが、多種多様な文化財を総合的・一体的に捉える視点での施設の設置や既存施設の連携がなされておらず、他施設への誘導や周遊性の創出などにつながっていない状況です。

2) 教育・学習・体験に関する課題

① 教育・学習に関する課題

将来、文化財の担い手となる子ども達の地域への誇りと愛着を醸成する機会を増やす必要があります。また、市民へ文化財の存在や価値が十分に浸透していない状況であるため、市民が歴史文化に親しみを

感じ、魅力や価値に関する情報を享受・理解できるようになるための取組が必要です。

「本庄早稲田の杜ミュージアム」において、歴史講座や文化財を身近に体感できるワークショップ等が企画・運営されていますが、取り扱われている時代・テーマが主に原始や古代に偏っています。そのため、より幅広い分野の歴史文化の教育・学習につなげるプログラムの企画・運営が必要です。

② 公開・体験に関する課題

現地で見学・観光に供する文化財については、市民又は来街者を受け入れるための便益施設、解説機能、管理設備などが未整備のものが多く見られ、より多くの見学者の受入や、より有効な文化財価値の理解・享受に向けて、文化財の見学環境を改善していく必要性があります。

一方、本市では、資料展示が可能な施設が限られており、市が収蔵する資料の多くについて公開を始めとする活用がなされていません。民間所有の文化財についても、防犯上の理由によりその多くが非公開となっています。しかしながら、指定等文化財の所有者・管理者に対するアンケート調査によると、展示公開を目的とした貸出について検討の余地がある旨の回答もありました。個人が所有する指定等文化財の公開機会の創出は、本市の指定等文化財の活用に向けた課題の一つと位置づけられます。

無形の民俗文化財（伝統芸能・祭礼等）については、担い手不足が課題として位置づけられます。担い手不足の背景には、市民や来街者が触れる機会が限られ興味関心の創出機会が少ない、移住等に伴った市民意識の希薄化により地域に伝わる無形の民俗文化財が認識されていない、価値が把握されていないといった要因があります。さらに、令和2（2020）年以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、多くの無形の民俗文化財が公開の中止・縮小を強いられており、収束後の再構築が課題として挙げられます。

このほか、既存の文化財の活用では、ガイダンス施設や文化財所在地での公開及び現地来街者を対象とした情報発信が主体であり、歴史文化へ興味関心がある来街者が現地を訪れることを前提としたものでした。今後は、来街者のガイダンス施設への来訪や市内の文化財の周遊を促すような、より積極的に幅広い情報発信を始めとする活用方法が求められます。

2 歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関する方針

前項で整理した課題の解決に向けて、歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関する方針を以下に整理します。

1) 魅力発信・拠点整備に関する方針

① 魅力発信に関する方針

【歴史文化の魅力発信に向けた環境を整備します】

様々な先端技術を用い、文化財情報を記録・収集します。また、記録・収集した文化財の情報をデータベース化し、多角的・継続的に発信する環境を整備します。

来街者が気軽に入手できる歴史文化の魅力を紹介したハンドブック作成を推進します。

観光活用の側面からは、インバウンド、マイクロツーリズム、教育旅行の受け入れなどの促進を念頭においた環境整備を進めます。

② 拠点整備に関する方針

【「本庄早稲田の杜ミュージアム」を歴史文化の魅力発信する拠点と位置づけ、文化財のネットワーク化を図ります】

「本庄早稲田の杜ミュージアムの設置及び管理に関する条例」では、当該施設の設置によって「資料収集・

保管・調査及び研究を行うとともに、資料の活用を図り、教育・学術及び文化の発展並びに市民の郷土愛の醸成に寄与する」ことを目的としています。

本計画では、「本庄早稲田の杜ミュージアム」の位置づけや、本庄早稲田駅に近く本庄地域と児玉地域の中間に位置する立地状況などに鑑みて、同施設を文化財のメインガイド施設とし、文化財の総合的・一体的な保存・活用に取り組みます。その際、特定の時代や分野に偏らない幅広い分野のプログラムを企画・運営していきます。

一方で、本庄・児玉の各地域に文化財情報の発信を担うサテライトガイド施設を設け、市内文化財の案内・解説に関する連携体制を整備します。各ガイド施設では、多種多様な文化財を共通のテーマやストーリーでまとめ、価値・魅力を様々な視点から、わかりやすく示すことで、周遊性を高めます。

【メインガイド施設】

本庄市の歴史文化に対する理解を目的とした市全体の基本情報を発信します。

歴史文化の概要解説と普及啓発活動を行うとともに、各地区・各文化財への誘導・来訪を促します。

【サテライトガイド施設】

メインガイド施設より詳細な地域情報を発信し、地域の歴史文化に対する理解を深めることを目的とします。

地域内に所在する各文化財への誘導・来訪を促します。

※ガイド施設の整備方針については「第10章 重点施策」において詳しく説明します。

2) 教育・学習・体験に関する方針

① 教育・学習に関する方針

【歴史文化の教育・学習環境を整えます】

性別・年齢を問わず世代ごとに、歴史文化に対する「学びの場」の提供を充実させ、地域の誇りと愛着を醸成します。歴史文化の魅力を市民と共有し、地域全体で理解を深め、歴史的価値の再発見につなげます。

② 公開・体験に関する方針

【歴史文化に触れるための体験機会を増やします】

文化財の公開をはじめとする活用にあ資する施設・設備の現況を確認し、不備不足のあるものは整備を実施します。

諸事情により現在公開できていない市の収蔵資料について、定期的に特別公開する機会や場所を設けます。また、現状で非公開となっている民間所有の文化財について、特別公開などの協力依頼を検討します。所有者自らが公開できない場合は、行政が借用や管理を行った上での公開を検討します。

無形の民俗文化財（伝統芸能）については、コロナ渦の中でも継続して定期的な公演を行うことが必要です。参加者の減少に対しては、感染拡大の停滞期や収束を見計らい、感染対策を十分に実施した上で公演機会の増加を図り、行事が持つ歴史的・文化的価値や魅力を普及・啓発し、市民の興味関心を高め担い手の確保につなげます。無形の民俗文化財に気軽に触れる場を設け、様々な人々を巻き込んだ文化財の保存に結び付けます。

文化財に対する興味・関心の裾野を広げるため、価値の発信（公開、展示、学習）だけでなく、市民をはじめとする来街者が参加できる体験型の活用を推進します。

3 歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関する措置

前項で定めた歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成の方針に対する具体的な措置を〔表 7-1〕に示し、本市の歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関するアクションプランとします。

事業実施の財源については、市費、国・県の補助金・交付金（文化財補助金やデジタル田園都市国家構想交付金等）の利用を検討していきます。文化財の活用・整備に掛かる費用については、その用途に応じて文化庁・内閣府・国土交通省・観光庁など、様々な省庁の補助を検討します。また、民間からの支援金・助成金の利用など、様々な財源調達の方法を検討します。

表 7-1 歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関する措置一覧

基本方針	目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体				財源	
					前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民		団体
基本方針3 歴史文化の魅力発信し、郷土の誇りと愛着を醸成します	魅力発信・拠点整備	歴史文化の魅力発信に向けた環境を整備します											
		3-①	先端技術・ICTを活用した文化財保存・活用事業	文化財情報のデジタル化を推進し、公開体制（インターネットミュージアム）を整備するとともに、先端技術・ICTを活用したコンテンツで歴史文化の魅力を発信する。	■	■	■	○	○	○	○	○	市費 国補助
		3-②	文化財関係冊子刊行頒布事業	歴史文化の魅力を解説したハンドブックを作成する。伝達に効果的な配布形式（紙製本・電子版など）と公開場所を検討する。	■	■	■	○	○	○			市費
		3-③	歴史文化の観光連携事業	周遊ルートの検討をはじめ、モデルツアーの実験、民間事業者との連携検討などを通して歴史文化ツーリズムの振興を図る。食文化や名産品の歴史的・文化的背景を明確にし、観光商品として磨く。	■	■	■	○		○		○	市費 国補助
		「本庄早稲田の杜ミュージアム」を歴史文化の魅力発信する拠点と位置づけ、文化財のネットワーク化を図ります											
		3-④	歴史文化解説拠点施設検討事業	「本庄早稲田の杜ミュージアム」を歴史と文化の魅力を発信するメインガイダンス施設と位置づけ、各地域の文化財解説を担うサテライトガイダンス施設を整備し、連携・役割分担を明確にする。	■	■	■	○	○	○		○	市費
		歴史文化の教育・学習環境を整えます											
		3-⑤	子どものための文化財体験活用事業	夏休み講座、ワークショップなどの文化財体験事業を継続して取り組む。	■	■	■	○	○			○	市費
		3-⑥	学校教育活用事業	文化財を訪れる地域学習、出前授業の実施、実際の民具を利用する体験授業、観光ボランティアの体験など、文化財に触れる学校授業を実施する。	■	■	■	○	○	○		○	市費
		3-⑦	生涯学習活用事業	市民を対象とした歴史講座（市民総合大学との連携）、歴史シンポジウム、講演会、発掘等文化財調査の見学会、文化財の体験学習の開催などを促進する。	■	■	■	○	○	○		○	市費
		歴史文化に触れるための体験機会を増やします											
		3-⑧	文化財公開・活用環境整備事業	各文化財の解説看板・誘導サイン・パンフレット・便益施設（駐車場、トイレ、休憩場所等）などの整備を進める。	■	■	■	○		○			国・県・市補助
		3-⑨	文化財特別公開事業	既存の文化施設を有効活用し、特別公開に向けた公開体制を整備する。無形の民俗文化財の保護団体に対し、行政が主催するイベントでの公演を依頼し、公演の機会を増やす。	■	■	■	○		○		○	市費 国・県補助

基本方針	目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体				財源	
					前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民		団体
基本方針3	教育・学習・体験	3-⑩	参加体験型活用推進事業	ユニークベニュー、Living History（生きた歴史体験プログラム）、文化財体験ワークショップなどの参加型体験活用を推進する。				◎		○		◎	市費 国・県 補助

凡例 ◆事業計画期間 前期：令和5（2023）～令和7（2025）年度 中期：令和8（2026）～令和11（2029）年度
後期：令和12（2030）～令和14（2032）年度

◆取組主体 行政：本庄市（国、埼玉県との協働を含む） 市民：本庄市民
専門家・大学等：大学、博物館、研究者など 団体：保存活用支援団体、市民活動団体、
所有者・管理者：文化財の所有者・管理者・保護団体など 各種団体、協議会、企業など

◎：主として取り組む主体
○：協力して取り組む主体

※措置の具体的な内容を「第9章 文化財の一体的・総合的な保存と活用」に示したものがあ

4 歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関する体制とその整備

歴史文化の魅力発信を図るためには、魅力を発信する拠点の整備が必要です。また、郷土の誇りと愛着の醸成には、教育・学習・体験に関する環境整備と歴史文化に触れるための体験機会の増加が求められます。これらの取組の推進に向けては、行政が中心となって、専門家・大学等、所有者・管理者、団体等との連携・協力体制を構築し、様々な世代の市民や来街者が文化財の価値を理解・享受できる体制を目指します。

近年のデジタル技術の著しい発展に伴い、文化財の保存・活用に先端技術を用いていく機運が高まっています。文化財のデジタルアーカイブに関する取組には、コンテンツ（デジタル技術による文化財情報の記録）の作成・充実が不可欠です。行政所有の文化財だけでなく、民間所有のものについても、所有者・管理者の協力を得ながら、地域の特徴ある文化財をデジタルデータによって記録保存します。記録作業は「本庄早稲田の杜ミュージアム」を中心に取り組み、専門的技術については専門家・大学等、団体（専門業者）との協力体制を構築します。記録した情報はインターネットミュージアムやSNS公式アカウント等、ICTを活用した公開体制を整備します。ただし、文化財価値の理解やコンテンツの享受において、受け取り手側の年代や活用できる媒体の違いによって受け取ることができる情報量に差や偏りが生じないように、専門家・大学等による編集協力のもと、旧来の紙媒体による冊子刊行も継続的に実施し、市ホームページにおける電子版の頒布も並行して行います。

歴史文化と観光の連携については、商工観光課が中心となって関係団体（商工・観光関係団体や民間事業者）との連携・調整を図り、周遊ルートの検討をはじめ、モデルツアーの実験、所有者・管理者の協力を得た文化財の特別公開、食文化や名産品の商品開発などを通して歴史文化ツーリズムの振興を図ります。

歴史文化の魅力発信に向けては、文化財のネットワーク化と解説拠点の整備を図ります。「本庄早稲田の杜ミュージアム」を歴史文化の特徴・魅力を発信するメインガイド施設と位置づけるとともに、本庄・児玉各地域の文化財や関連施設を団体（市民による活用団体等）が管理運営を行うサテライトガイド施設として整備することで、行政と団体の連携によって文化財解説を強化するとともに、役割分担を明確化し、効果的な魅力発信につなげます。

教育・学習・体験の環境整備は、教育委員会事務局が主体となり、「本庄早稲田の杜ミュージアム」や市内小中学校、生涯学習施設等において、各世代の市民を対象に、専門家・大学等や団体等との連携を図りながらプログラムを編成します。体験事業については所有者・管理者の理解を得て、団体（市民による活用団体等）との連携を図りながら、文化財の特別公開や文化財に直接触れることができる参加体

験事業の増加を目指します。また、文化財の公開・活用環境（解説看板・誘導サイン・パンフレット・便益施設等）の整備は、行政と所有者・管理者が連携して事業を円滑に進め、より早い段階での実現に努め、文化財保護課が中心となって、デザインの統一などを図ります。

歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関して、各取組主体がどのような役割を担い実行する必要があるのか、[表 7-2] に整理しました。

表 7-2 歴史文化の魅力発信・郷土の誇りと愛着の醸成に関する取組主体ごとの役割

取組主体	役割	対象
行政	文化財のデジタルアーカイブコンテンツの作成 (デジタル技術による文化財情報の記録)	
	ICT を活用した文化財情報の公開 (インターネットミュージアムの開設、SNS 公式アカウントの運営等)	
	文化財関係冊子（歴史文化解説ハンドブック等）刊行・頒布	
	歴史文化の観光連携に関わる検討・協力依頼	⇒ 団体
	文化財のネットワーク化と解説拠点整備 (本庄早稲田の杜ミュージアムのメインガイダンス施設整備・運営) (サテライトガイダンス施設整備)	
	教育・学習・体験プログラムの編成・運営	
	文化財の公開・活用環境（解説看板・誘導サイン・パンフレット・便益施設等） の整備	
	非公開文化財の特別公開に向けた体制整備	
	参加型体験活用の推進	
専門家 大学等	デジタルアーカイブコンテンツの作成の技術的な協力 (デジタル技術による文化財情報の記録)	⇒ 行政
	文化財関係冊子（歴史文化解説ハンドブック等）の監修	⇒ 行政
	文化財のネットワーク化と解説拠点整備への連携・協力	
	教育・学習・体験プログラムの運営協力	⇒ 行政
所有者 管理者	デジタルアーカイブコンテンツの作成への協力 (デジタル技術による文化財情報の記録)	⇒ 行政
	文化財関係冊子（歴史文化解説ハンドブック等）の協力	⇒ 行政
	文化財のネットワーク化と解説拠点整備への連携・協力	
	教育・学習・体験プログラムへの協力	⇒ 行政
	(所有者として) 文化財の公開・活用環境の整備	
	非公開文化財の特別公開に向けた協力	
団体	参加型体験活用への協力	
	デジタルアーカイブコンテンツの作成の技術的な協力 (デジタル技術による文化財情報の記録)	⇒ 行政
	歴史文化の観光連携事業の検討 (周遊ルートの検討、モデルツアーの実験、文化財の特別公開、食文化や名産 品の商品開発等)	
	文化財のネットワーク化と解説拠点整備（サテライトガイダンスの管理運営）	
	教育・学習・体験プログラムの運営協力	⇒ 行政
	非公開文化財の特別公開に向けた運営協力	
	参加型体験活用への運営協力	

第8章 地域一体で文化財の保存・活用を支える仕組みづくり

1 文化財の保存・活用を支える仕組みづくりに関する課題

本計画作成に向けて実施した指定等文化財の所有者・管理者に対するアンケート調査（以下、アンケート調査とする。）やこれまでの文化財行政の運営などを通して明らかとなった地域一体で文化財の保存・活用を支える仕組みづくりに関する課題を以下に整理します。

1) 人材の確保・育成に関する課題

① 所有者・管理者の支援に関する課題

現在、本市^{ほんじょう}では、教育委員会事務局文化財保護課が文化財保護行政を所管しています。しかし、文化財の所有者・管理者が抱える保存・活用に関する懸念事項への支援体制が整備されていません。アンケート調査においても、文化財の価値を損わずに保存修理を行う際に、行政に信頼できる専門家や業者の指定・紹介を求める意見が挙げられました。所有者・管理者から挙げられた懸念事項の中には、行政だけでなく専門家、団体との連携して対応すべきものもあります。しかしながら、現状では指導・アドバイス等の支援を受ける、又は必要な措置を委託するための実施体制が定まっています。

② 保存・活用の市民参加に関する課題

市民が文化財の保存・活用に関わる機会の減少が課題となっています。

全国的な人口減少・少子高齢化社会にも関わらず、本市の人口は直近30年間、8万人前後で維持されています。これは、本市が都心部を中心としたベッドタウンとして発展してきた経緯があり、住宅団地や新興住宅地などの開発による新住民の増加が背景にあります。一方で、移住等に伴って文化財（特に地縁・血縁等の縁故を基盤とする民俗文化財）の保存・活用に対する市民意識の希薄となり、市民による文化財の保存だけでなく、来街者に対する本市の歴史文化の紹介といった活用への積極的な参加が減少しています。また、文化財の保存・活用に関する市民の活動について取り上げられる機会が少なく、広く認知されていません。

③ 保存・活用の人材育成に関する課題

文化財の調査・保存・活用を担う次世代の人材が不足しています。今後は、少子高齢化や人口減少に伴い人材不足に拍車がかかることも懸念されています。既に人材不足による影響が顕在化している事例もあり、無形の民俗文化財の保護団体では、高齢者から若者へ文化財の継承ができていません。また、郷土史家をはじめとする地元の研究者が高齢化し文化財の調査・保存・活用を担う人材の不足が懸念されているにもかかわらず、次世代の人材育成が滞っていることなどが喫緊の課題として挙げられます。

2) 体制・仕組みの課題

① 市の体制に関する課題

文化財の調査・研究や本計画を含めた保存・活用を推進する市の体制が十分に整っていません。職員の世代交代を念頭に置いた学芸員採用が行われなかったため、専門職員の不足や調査・研究事業の停滞といった課題が顕在化しつつあります。

② 地域連携に関する課題

本市には早稲田大学本庄キャンパスが所在し、平成17（2005）年に早稲田大学と本市は協働連携に関する基本協定書を締結しました。この協定では、地域社会の発展や地域経済の振興を積極的に推進し、

早稲田大学と本市との相互連携により、豊かな地域社会を創造することを目的としています。今後は、同協定を文化財の保存・活用にも拡大・発展させていくことが必要です。また、早稲田大学との連携に加え、市内教育機関との連携などにより、若者の文化財に対する興味・関心の創出が求められます。

このほかの課題として、次のものが挙げられます。保存活用団体や研究機関等との連携が取れていないため、行政以外が主体となって実施した調査結果や研究成果を行政が把握・活用できていません。また、文化財の所有者・管理者が各々で保存・継承にあたっているため地域社会総がかりで協力しながら文化財の保存・活用を行う視点が欠けています。そして、様々な団体による文化財の保存・活用に関する活動が市民に広く周知されていません。これらの課題は、地域社会総がかりによる文化財の保存・活用の推進に向けた産学官民の情報共有・協力体制が整備されていないことに起因するものと考えられます。

③ 財源の確保・資金調達に関する課題

アンケート調査では、文化財の保存に関する資金調達に苦慮する意見が非常に多く挙げられました。文化財の保存には、行政からの補助金以上の金額が必要となるため、財源不足が指定等文化財の保存の妨げであることは明らかです。一方で、未指定文化財には、法令による保護・補助制度がありません。保存に向けた熱意があっても、所有者の自己負担のみで未指定文化財を守り伝えるには限界があり、現状では解体・滅失に歯止めをかけることができません。文化財は個人の所有物であるものであっても、地域の歴史文化を伝える共有財産でもあるため、地域全体でその価値を共有し、保存・活用のための資金調達の手法・仕組みづくりが必要です。

④ 広域連携に関する課題

近隣市町との連携が不足しているため、近隣市町の歴史文化にも関係する文化財について効果的な活用ができていません。歴史文化は市町村区分によって分断されるものではなく、近隣市町との相互関係によって理解や普及の促進につなげることが可能です。本市の様々な文化財の価値・歴史文化の特徴を近隣の市町や県境を越えた広域圏で捉える視点や保存・活用の手法検討が必要です。

2 文化財の保存・活用を支える仕組みづくりに関する方針

前項で整理した課題の解決に向けて、地域一体で文化財の保存・活用を支える仕組みづくりの方針を以下に整理します。

1) 人材の確保・育成に関する方針

① 所有者・管理者の支援に関する方針

【文化財の所有者や保護団体を支援する体制を整えます】

文化財の所有者や保護団体による自主的かつ率先した保存・活用の推進に向けて、相談窓口を設け、支援策を提案します。

保存・活用の推進に向けては、行政だけでは対応できない様々な課題が想定されます。文化財の特徴に整合した専門家・団体との連携や指導・アドバイス等を受けられる協力体制を整備します。

② 保存・活用の市民参加に関する方針

【文化財保護を「みんなが参加する楽しみ」に変えていきます】

文化財をより広く市民に近い存在として認識してもらうため、市民による新たな文化財の発見、活用方法の公募を行う体制を整備します。

文化財の保存・活用を通じた交流人口の拡大、市民と来街者の交流促進を目的に、市民による文化財

の理解、愛着の醸成、来街者に向けた市民によるホスピタリティの向上を図ります。

文化財の保存・活用に貢献する市民・団体の活動について、広報・顕彰などによる周知を図り、活動の楽しみ・やりがいを創出し、市民参加者の増加につなげます。

③ 保存・活用の人材育成に関する方針

【次代の文化財の保存・活用を担う人材を育成します】

本市の歴史文化について調査研究を行う新たな人材を育成するとともに、調査研究の結果を広くまちづくり活動へ活用できるような体制を整備します。

2) 体制・仕組みに関する方針

① 市の体制に関する方針

【庁内の体制を整備します】

本市の歴史文化の特徴に合わせた専門職員の確保・育成を通して、調査・研究（本庄市郷土叢書^{そうしょ}など研究報告書の刊行等）、文化財の保存・活用事業を推進します。

② 地域連携に関する方針

【産学官民による協力体制の整備に取り組みます】

文化財の保存・活用をまちづくりの一環と捉え、行政の補助・支援のみに頼らない、産学官民が協力した地域社会総がかりによる文化財の保存・活用に向けた体制整備を目指します。

教育機関との連携を通して、学生に対して文化財の保存・活用に対する興味・関心の創出を促し、次代の文化財の保存・活用を担う人材の育成を図ります。

保存活用団体（まちづくり団体、NPO 法人、市民活動団体、自治会等）との協力・連携体制を整え、文化財の保存・活用の持続性を確保します。

文化財の保存・活用に関する様々な活動を市民へ周知し、希望者の参加を促す体制を整えます。

③ 財源の確保・資金調達に関する方針

【文化財保護に向けた資金調達の方法を検討します】

公的補助のみに頼らない、文化財の保存・活用に向けた多角的な資金調達の方法を検討し、所有者や個々の文化財の特徴や置かれた状況に則して複数の手法から選択できる仕組みを目指します。

④ 広域連携に関する方針

【近隣市町村との連携を強化します】

近隣市町村と共通のテーマ・ストーリーによる保存・活用の方策を協議します。

3 文化財の保存・活用を支える仕組みづくりに関する措置

前項で定めた方針に対する具体的な措置を〔表 8-1〕に示し、地域一体で文化財の保存・活用を支える仕組みづくりに関するアクションプランとします。

事業実施の財源については、市費、県費、国費（文化財補助金やデジタル田園都市国家構想交付金等）の利用を検討していきます。

表 8-1 地域一体で文化財の保存・継承を支える仕組みづくりに関する措置一覧

基本方針	目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体				財源	
					前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民		団体
基本方針4 地域一体で文化財の保存・活用を支える仕組みを整えます	人材の確保・育成	文化財の所有者や保護団体を支援する体制を整えます											
		4-①	文化財相談窓口の設置	庁内に文化財の保存・活用に関する窓口を設置し、情報の一元化を図る。行政と専門家の連携体制を築き、所有者が専門家から保存に関する指導を得られる体制づくりを行う。	■	■	■	○	○				市費
		4-②	文化財保存活用支援団体指定制度の創設	文化財保護法第192条の2の規定に基づく、文化財保存活用支援団体の指定制度を創設し、行政と民間の円滑な連携によって、市内文化財の保存・活用等の推進を図る。	■	■	■	○	○		○	市費	
		文化財保護を「みんなが参加する楽しみ」に変えていきます											
		4-③	市民協働による文化財保存・活用事業	市民遺産制度を創設し、市民自らが保存・活用すべき文化財を選出する。活用事業提案を公募し、市民が望む活用方法を模索する。	■	■	■	○		○	○	市費	
		4-④	文化財案内ボランティア育成事業	市内文化財の周遊ガイド、又は解説員が常駐しない文化財施設等のボランティアガイドの育成を支援する。	■	■	■	○			○	市費	
		4-⑤	顕彰制度の創設	文化財の保存・活用に貢献した市民・団体の功績に対する顕彰制度を設ける。	■	■	■	○			○	市費	
		次代の文化財の保存・活用を担う人材を育成します											
		4-⑥	次世代の専門人材育成事業	市内の文化財調査や研究活動の機会を利用し、文化財に対する専門知識を有する人材の育成を支援する。	■	■	■	○	○		○	国・県・市補助	
		体制・仕組み		庁内の体制を整備します									
4-⑦	専門職員の採用と育成			市の歴史文化の特徴を踏まえて必要とされる分野の専門職員を採用し、文化財の保存・活用（調査・研究・管理等）の専門員として育成する。	■	■	■	○				市費	
産学官民による協力体制の整備に取り組みます													
4-⑧	文化財ネットワーク組織整備事業			文化財の保存・活用に関する産学官民のネットワーク組織を整備し、様々な地域連携事業を推進する。各団体が実施する活動とその成果を、市民や団体間で共有する体制を整える。市は必要に応じた支援制度を検討する。	■	■	■	○	○	○	○	市費	
文化財保護に向けた資金調達の方法を検討します													
4-⑨	資金調達の仕組みづくり			文化財保護基金の創設検討のほか、クラウドファンディングや企業版ふるさと納税など公的補助のみに頼らない文化財を保存・活用するための資金調達の仕組みを検討する。	■	■	■	○	○	○	○	市費	
近隣市町村との連携を強化します													
4-⑩	関連文化財群広域連携事業			世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」、埼玉ゆかりの3偉人（渋沢栄一・塙保己一・荻野吟子）など、近隣市町村との連携を視野に入れた関連文化財群の活用・発信を推進する。	■	■	■	○	○	○	○	市費	

凡例 ◆事業計画期間 前期：令和5（2023）～令和7（2025）年度 中期：令和8（2026）～令和11（2029）年度
後期：令和12（2030）～令和14（2032）年度

◆取組主体 行政：本庄市（国、埼玉県との協働を含む） 市民：本庄市民
専門家・大学等：大学、博物館、研究者など 団体：保存活用支援団体、市民活動団体、
所有者・管理者：文化財の所有者・管理者・保護団体など 各種団体、協議会、企業など
◎：主として取り組む主体 ○：協力して取り組む主体

※措置の具体的な内容を「第9章 文化財の一体的・総合的な保存と活用」に示したものがあ

4 文化財の保存・活用を支える仕組みづくりに関する体制とその整備

地域一体で文化財の保存・活用を支える仕組みづくりにおいて、文化財保護課が中心となって、行政、専門家・大学等、所有者・管理者、市民、団体らが地域社会総がかりで文化財の保存・活用に取り組む体制の整備を目標として、以下の方針に則して進めていきます。

人材の確保・育成については、文化財保護課と市民、団体が連携して取組を進めます。

文化財相談窓口の設置にむけて取り組みます。また、文化財保存活用支援団体指定制度を創設し、保存活用支援団体の指定を目指します。

文化財の保存・活用に関する市民協働については、行政が市民活動の契機を設け、市民、団体による自主的な活動への移行を図り、顕彰制度の創設によって活動のやりがいへとつなげます。

人材育成については、市民、団体を主体として、個々の活動に対して行政や専門家・大学等が育成の場を提供する形で支援します。

行政、専門家・大学等、所有者・管理者、市民、団体らが参加する文化財ネットワーク組織を整備し、文化財の保存・活用に関わる事業での地域連携の推進を図ります。

文化財の保存・活用に必要な資金調達については、行政が公的補助にのみにとどまらない資金調達の仕組みを検討し、所有者・管理者への情報提供を行い、様々な人や団体が保存・活用を資金によって応援する体制を目指します。

より広い枠組によって活用が推進されるべき文化財については、行政や団体が他市町村との連携を調整し、保存・活用を推進することで、文化財の潜在的価値を引き出し、市町村の相互発展を目指します。

各取組主体（行政、専門家・大学等、所有者・管理者、市民、団体）らがどのような役割を持ち、また、どのように連携を図る必要があるのか、[表 8-2] に整理します。

表 8-2 地域一体で文化財の保存・継承を支える仕組みづくりに関する取組主体ごとの役割

取組主体	役割	対象
行政	文化財相談窓口の設置	
	文化財の保存・活用に関する指導依頼	⇒ 専門家・大学等
	文化財保存活用支援団体制度の創設	
	市民活用事業の公募	⇒ 市民
	ボランティアガイドの育成支援	⇒ 市民
	保存・活用活動に関する顕彰制度の創設及び実施	
	専門人材の育成支援	
	専門職員の採用と育成	
	文化財ネットワーク組織の編成と支援制度の創設	
	資金調達の仕組みづくり	
	文化財の広域連携の検討	
専門家 大学等	文化財の保存・活用に関する指導	⇒ 所有者・管理者
	文化財保存活用支援団体への助言・支援	⇒ 所有者・管理者
	専門人材の育成支援	
	文化財ネットワーク組織への参画	
	資金調達の仕組みづくりの支援	⇒ 行政
	文化財の広域連携への助言・支援	⇒ 行政
所有者 管理者	文化財ネットワーク組織への参画	
	資金調達の実行	
	文化財の広域連携への協力	⇒ 行政
市民	市民活用事業の検討・応募	⇒ 行政
	ボランティアガイドへの応募・実行	⇒ 行政
	専門人材の育成	
	文化財ネットワーク組織への参画	
	資金の供出	
団体	文化財保存・活用活動の実行	
	ボランティアガイドへの応募・実行	⇒ 行政
	専門人材の育成	
	文化財ネットワーク組織への参画	
	資金の供出	
	文化財の広域連携	⇒ 行政

5 本計画の推進体制

第5章から第8章に示した文化財の保存・活用に関わる体制とその整備を整理・総括し、本計画の取組主体と役割の具体案を〔表 8-3〕に、推進体制を〔図 8-1〕に示します。

本計画の推進主体となる本庄市は、関係機関を含めた市内の連携を図りながら、国や埼玉県の指導を仰ぎ、文化財の専門家・大学等、所有者・管理者、市民、関係団体との協働で文化財の保存・活用に取り組めます。また、児玉郡内の市町や県境を越えた市町村の協力体制の強化も図っていきます。

本市の文化財保護行政は、教育委員会事務局文化財保護課が所管しています。本計画に示した文化財の保存・活用に関する取組を実施するため、文化財専門員の確保と育成に努めます。

文化財の保存・活用の取組は多岐にわたり、文化財保護課のみでは実行に限界があることから、関係部署と分担して取組を進め、連携と情報共有に向けた「(仮称)文化財保存活用地域計画市内連絡会」の設置を検討します。また、文化財は地域の共有財産であることから、行政と文化財の所有者・管理者だけでなく、専門家・大学等、市民、団体(民間事業者等)がそれぞれの役割分担のもとで協働して保存・活用に取り組むことを目指します。

本計画の推進に向けては、学識経験者、地域の代表、商工・観光団体、行政関係者など、多様な主体の参画を得て構成する「(仮称)本庄市文化財保存活用地域計画推進協議会」を設置します。文化財の保存・活用に関する産学官民のネットワークを組織することで、各団体が実施する活動とその成果を共有し、新たな地域連携事業の推進を図ります。

表 8-3 文化財の保存・活用に関わる取組主体と役割の具体案

行政(本庄市)		
教育委員会事務局	学校教育課	学校教育に関する指導
	生涯学習課	生涯学習の推進、所管施設の管理 等
	文化財保護課	文化財の保存・活用、埋蔵文化財の調査、文化財の調査・研究、文化財に関わる活動の情報発信、塙保己一の顕彰活動、所管施設の管理 等 事務職7人、専門職4人(うち、3人は埋蔵文化財の発掘業務を担当)
企画財政部	企画課	総合的施策(総合振興計画・総合戦略)の企画・調整 等
	広報課	広報ほんじょうの発行、歴史文化に関する広報 等
市民生活部	市民活動推進課	市民活動の支援、市民協働の推進、所管施設の管理 等 所管施設:本庄市市民活動交流センター(はにぼんプラザ)、日本庄商業銀行煉瓦倉庫 等
	危機管理課	市民の安全に関する事業、防災・防犯に関する啓発・指導 等
	支所総務課	児玉地域の地域振興、所管施設の管理 所管施設:アスピアこだま 等
経済環境部	商工観光課	観光振興、観光地域づくり 等
	農政課	農業振興、農産物の魅力発信、所管施設の管理 等 所管施設:本庄市あさひ多目的研修センター 等
	支所環境産業課	児玉地域の産業振興、所管施設の管理 所管施設:本庄市ふれあいの里いずみ亭(地域資源活用総合交流促進施設)
都市整備部	道路管理課	道路、河川、その他の土木に関する管理 等
	都市計画課	都市計画、緑地・公園に関する管理、デマンドバス(はにぼん号・もといずみ号) 等
	営繕住宅課	(文化財建造物を含む)所管施設の管理 等
	市街地整備室	中心市街地の活性化、土地区画整理事業(本庄駅北口周辺整備基本計画) 等

行政（本庄市）	
本庄早稲田の杜ミュージアム	市の歴史・文化、早稲田大学所蔵の文化財の公開
競進社模範蚕室	木村九蔵及び競進社に関する資料の展示
塙保己一記念館（アスピアこだま内）	塙保己一の遺品及び関係資料（県指定有形文化財）を収蔵・展示
本庄市民活動交流センター（はにぼんプラザ）	本庄まつりの前後（8～1月）、展示ホールで本庄の山車を展示
旧本庄商業銀行煉瓦倉庫	1階を交流・展示施設として活用
本庄市立図書館・本庄市立図書館児玉分館	地域資料の収集・提供

行政（関連組織）	
本庄市文化財保護審議会 （学識経験者等7名で組織） （令和5（2023）年3月時点）	文化財の指定及び解除
	指定文化財の保存修理又はき損防止の措置
	指定文化財の現状変更の許可及び環境保全のために必要な措置等の勧告

行政（埼玉県や域外の関係機関等との連携）	
国・県	文化庁、埼玉県教育局文化資源課
県立博物館等	埼玉県立歴史と民俗の博物館、埼玉県立自然の博物館、埼玉県さきたま史跡の博物館、埼玉県立川の博物館、埼玉県嵐山史跡の博物館、埼玉県近代美術館、埼玉県立文書館
県関係機関	本庄警察署、児玉警察署
近隣市町村	（埼玉県）深谷市、皆野町、長瀬町、美里町、神川町、上里町 （群馬県）伊勢崎市
一部事務組合	児玉郡市広域消防本部

行政（今後設置・指定を計画する組織）	
本庄市文化財保存活用地域計画庁内連絡会	文化財の保存・活用の取組の分担・連携・情報共有・進捗管理 等
本庄市文化財保護指導員	文化財の巡回点検（モニタリング）、適正な保護に関する助言 等
本庄市文化財保存活用支援団体	行政と民間の円滑な連携、市内文化財の保存・活用等の推進 等
本庄市文化財保存活用地域計画推進協議会	各団体が実施する活動と成果の共有、進捗管理と評価、新たな地域連携事業の推進 等

専門家・大学等	
早稲田大学（本庄キャンパス） 早稲田大学本庄高等学院	周辺地域と連携した教育・研究活動の展開
埼玉県立児玉高等学校（旧埼玉県立児玉白楊高等学校）	競進社模範蚕室関連資料の管理
市内小中学校	児童生徒に対する地域の歴史文化の特徴に関する教育普及

団体	
本庄市観光協会	観光事業の振興、産業経済及び文化の進展、市民意識の高揚 など
本庄商工会議所	商工事業者の発展と振興、各種祭事・行事・イベント（本庄まつり・祇園まつり・本庄商業祭楽市）支援
児玉商工会	商工業者の支援・育成、まちづくり推進、意見具申活動の展開
一般社団法人埼玉建築士会	埼玉県歴史的建造物の保全・活用専門家（埼玉県ヘリテージマネージャー）
各伝統芸能等保護団体	民俗文化財の保存継承に努める保存会 等
地域コミュニティ団体	自治会、子ども会、老人会 等
市民活動団体	NPO法人、研究団体 等

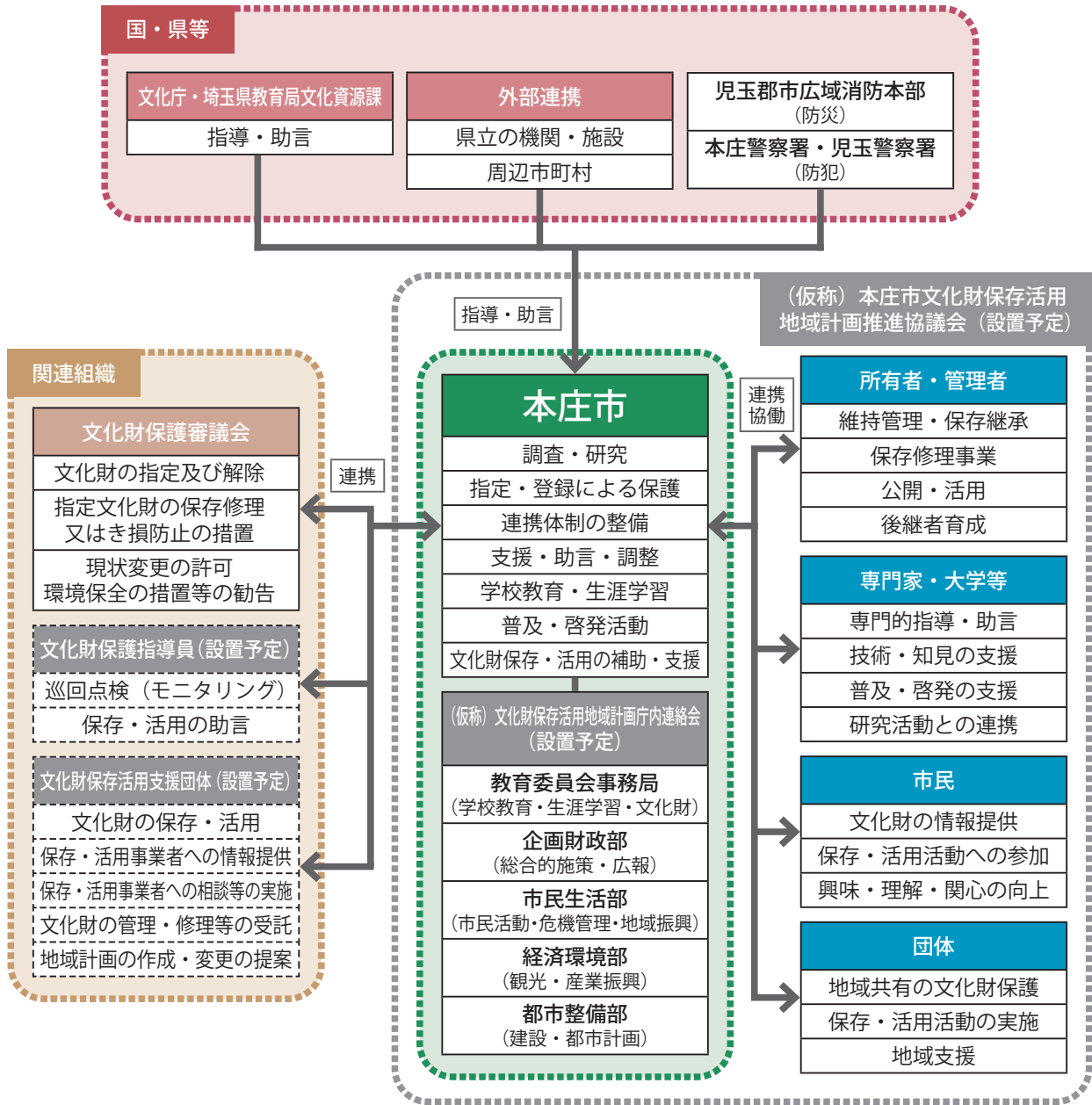


図 8-1 保存・活用推進のための体制図

第9章 文化財の総合的・一体的な保存と活用

1 関連文化財群・保存活用区域の目的

本計画においては、文化財の総合的・一体的な保存と活用に向けて、「関連文化財群」及び「保存活用区域」を設定します。

関連文化財群	有形・無形、指定・未指定にかかわらず様々な文化財を歴史的・地域的関連性に基づき一定のまとまりとして捉えたものです。一体的に扱うことで、未指定文化財についても構成要素として価値づけが可能となり、また、相互に結びついた文化財の多面的な価値・魅力の発見につながることを期待されます。
保存活用区域	文化財が特定の範囲に集積している場合に、当該文化財（群）をその周辺環境も含めて面的に保存・活用するために設定するものです。域内の地区特性や歴史文化に応じて市町村が独自に設定する戦略的な計画区域。多様な文化財が集中する区域を設定して保存・活用を図ることで、魅力的な空間の創出につながることを期待されます。

歴史文化の特徴に基づき、共通の要素を持つ一体的なまとまりを設定することによって、域内に散在している文化財を俯瞰した保存と活用のプランニングが可能になります。歴史的・文化的・地域的な関連性や共通のテーマを持つまとまりとして捉えた関連文化財群、文化財が集積しているエリアとその周辺環境を面的に捉えた保存活用区域を設定して、歴史文化をいかした文化財の総合的・一体的な保存・活用につなげます。

2 関連文化財群・保存活用区域の設定の考え方

関連文化財群・保存活用区域の設定については、本庄市の歴史文化の特徴を備えていることを必須条件としました。また、前項の目的を達成するため、単に特徴をまとめるだけでなく、関連文化財群・保存活用区域ごとの課題を検討し、解決のための方針・措置を立てました。措置については、関連文化財群・保存活用区域の運用にあたって重点的に取り組むものを具体的に記述しました。

なお、今後の文化財の把握調査の進展や、事業の進捗状況に応じて、関連文化財群・保存活用区域及び構成文化財・域内にある文化財の増減や措置の追加等も検討していきます。

3 関連文化財群・保存活用区域とその課題・方針・措置

設定した関連文化財群・保存活用区域について、対応する歴史文化の特徴も含め、以下の一覧表にまとめました [表 9-1]。各関連文化財群・保存活用区域ごとに、目的、ストーリー又は概要、構成文化財又は域内にある文化財一覧、文化財の分布図を記載し、各関連文化財群・保存活用区域を運用していく上での課題と、その解決に向けた方針・措置を示します。

表 9-1 本庄市の関連文化財群・保存活用区域一覧

歴史文化の特徴		
No.	関連文化財群／保存活用区域のテーマ	頁
	関連文化財群／保存活用区域の目的	
1. 表情豊かな原始・古代の文化		
関連文化財群 1	古墳・埴輪の世界 —自然素材の造形美— 様々な造形や特徴的な表情を持つ本庄市の古墳・埴輪を中心に関連文化財群を構成し、一体的な活用を図るとともに、古墳をはじめとする遺跡への興味・関心を掘り起します。	114
2. 鎌倉街道と武家社会		
関連文化財群 2	板碑（板石塔婆） —石に宿す安楽の願い— 全国的にも稀な大型の板碑（板石塔婆）など、中世に造立された石造物を中心に関連文化財群を構成し、一体的な活用を推進します。	117
保存活用区域 1	鎌倉街道上道 —中世武家社会から近代化までの道のり— 鎌倉街道上道を中心とした保存活用区域を設定し、児玉地域の市街地における中世～近代にかけての建造物、歴史資料、遺跡などを一体的に保存・活用し、町並み整備とまちづくりへ活かします。	137
3. 中山道を行き交う人・文化・物資		
保存活用区域 2	中山道本庄宿 —城下町から宿場町・繭市場への発展— 本庄宿を保存活用区域に設定し、城下町としての名残、宿場町や繭市場としての興隆を示す建造物、歴史資料、遺跡などを一体的に捉え、町並み整備とまちづくりへ活かします。	142
4. 風土に育まれた産業（農耕と養蚕）		
関連文化財群 3	農業と人々の生活 —水資源の確保・供給— 農業と人々の生活に関する関連文化財群を構成し、中でも特に備前渠用水路、間瀬堰堤など水資源の確保・供給に関わる文化財や食文化に関する価値を啓発します。	120
関連文化財群 4	競進社模範蚕室と養蚕文化 —養蚕で紡がれた産業・信仰・食文化— 競進社模範蚕室をはじめとする養蚕文化（養蚕民家・蚕室・道具・資料・信仰・風習）や、木村九蔵をはじめ蚕業の発展に貢献した人物の功績等を示す文化財を一体的に保存・活用します。	124
5. 人々の祈りと祭り		
関連文化財群 5	本庄・児玉の地域祭礼 —奉納と娯楽の伝承— 本庄・児玉の各地域で催される祭礼・奉納行事等に関する関連文化財群を設定し、これらの記録・伝承に取り組むとともに、地域コミュニティによる保存・継承を促し更なるにぎわいにつなげます。	128
6. 本庄にゆかりのある偉人たち		
関連文化財群 6	塙保己一の里 —塙保己一の足跡と功績— 本庄出身の全盲の国学者・塙保己一ゆかりの地・遺品等を関連文化財群にまとめ、顕彰活動を推進します。	133

関連文化財群 1

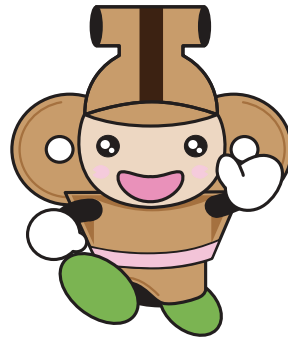
古墳・埴輪の世界 —自然素材の造形美—

目的

様々な造形や特徴的な表情を持つ本庄市の古墳・埴輪を中心に関連文化財群を構成し、一体的な活用を図るとともに、古墳をはじめとする遺跡への興味・関心を掘り起します。



写真 9-1 本庄早稲田の杜ミュージアム
常設展示品



本庄市マスコット
はにぼん
「はにぼん」

図 9-1 本庄市マスコット
「はにぼん」

ストーリー

本庄市には古墳時代における遺構の確認事例が多く、特に古墳は県内市町村でも2番目に多い数を誇ります。4世紀前半の鷲山古墳は、県内でも最古級の古墳の一つと考えられ、長沖32号墳を含む長沖古墳群は、総数200基を超える埼玉県内最大規模の群集墳に位置づけられています。

本庄市域では、3世紀後半から4世紀前半にかけて女堀川流域に広がる低地帯の開発が進み、集落遺跡も増えて、人口が急速に増加している様子がうかがえます。こうした生産力の向上を背景に、前方後方墳・前方後円墳・前方後方形周溝墓が築かれはじめました。

4世紀後半になると方墳・円墳が現れ、(壺形・円筒)埴輪が作られるようになり、5世紀には直径60mを超える大型円墳が相次いで造られ、埴輪は人物や馬などが表現されるようになりました。

6世紀になると、埋葬施設に横穴式石室が採用され、副葬品の組合せが変わるとともに、埴輪の表現が豊かになり、鞍、翳、盾持人物など多種多様な埴輪が作られるようになるなど、古墳の様相が大きく変化しました。また、宍勝寺裏埴輪窯跡をはじめとする埴輪の製作遺跡の確認も特筆されます。

このように、本庄市の古墳や埴輪は、各年代に幅広く存在し、造形の変遷を追うことが可能です。特に、埴輪をはじめとする出土資料の数々は、工芸技術の精緻化に伴い表現が豊かかつ多様化する過程を追うことができる貴重な文化財群といえます。

現在、これらの考古資料の多くは、「本庄早稲田の杜ミュージアム」に収蔵・展示され、その芸術的造形や質感などを見て感じるすることができます。

また、本庄市で出土した「笑う盾持人物埴輪」(小島前の山古墳出土盾持人物埴輪)をモデルとした公式PRマスコットキャラクター「はにぼん」も様々なPR活動や施策に用いられ、歴史文化の発信の一役を担っています。

構成文化財一覧

番号	名称	指定等区分	種別	概要
1	鷲山古墳	県指定	遺跡	墳形が前方後方墳であることや出土した土器の形式から、4世紀半ばに遡ると推定される県内最古級の古墳の一つ。

2	下浅見鷲山古墳出土品	市指定	考古資料	壺や埴などの器種がある。製作段階で底部に円形の孔が開けられ、全体を赤色に塗彩されている。古墳に供献する儀礼用土器と考えられる。
3	長沖・高柳古墳群	未指定 (県選定重要遺跡)	遺跡	小山川にのぞむ丘陵の上に分布する古墳群。前方後円墳を含み約150基を超える。
4	旭・小島古墳群	未指定 (県選定重要遺跡)	遺跡	本庄台地東北端の台地上に分布する古墳群。下野堂二子山古墳(前方後円墳)をはじめ、5世紀後半～8世紀初頭の円墳・方墳約100基で構成される。
5	小島前の山古墳出土盾持人物埴輪	市指定	考古資料	大きく口角を挙げて笑う口と三日月形の眼孔、左右に張り出した耳、高い鷲鼻、大きくしゃくれた顎などが特徴。6世紀後半と推定される。
6	御手長山古墳出土人物埴輪	市指定	考古資料	古墳時代の埴輪。男子の半身像で、玉を連ねた頸飾と耳環を着け、腰には鎌を差している。馬飼いの人物を表現していると推測される。
7	宥勝寺裏埴輪窯跡付鞍形埴輪4点	県指定	遺跡	古墳時代後期の埴輪製作遺跡。矢を収納する武具を造形した鞍形埴輪4点が出土したほか、家、馬、人物など各種の形象埴輪片も確認された。
8	「本庄早稲田の杜ミュージアム」収蔵品	未指定	考古資料	市内の遺跡から出土した様々な資料を収蔵している。旧石器時代から16世紀の室町時代までの出土資料の展示による本庄の歴史紹介が行われている。

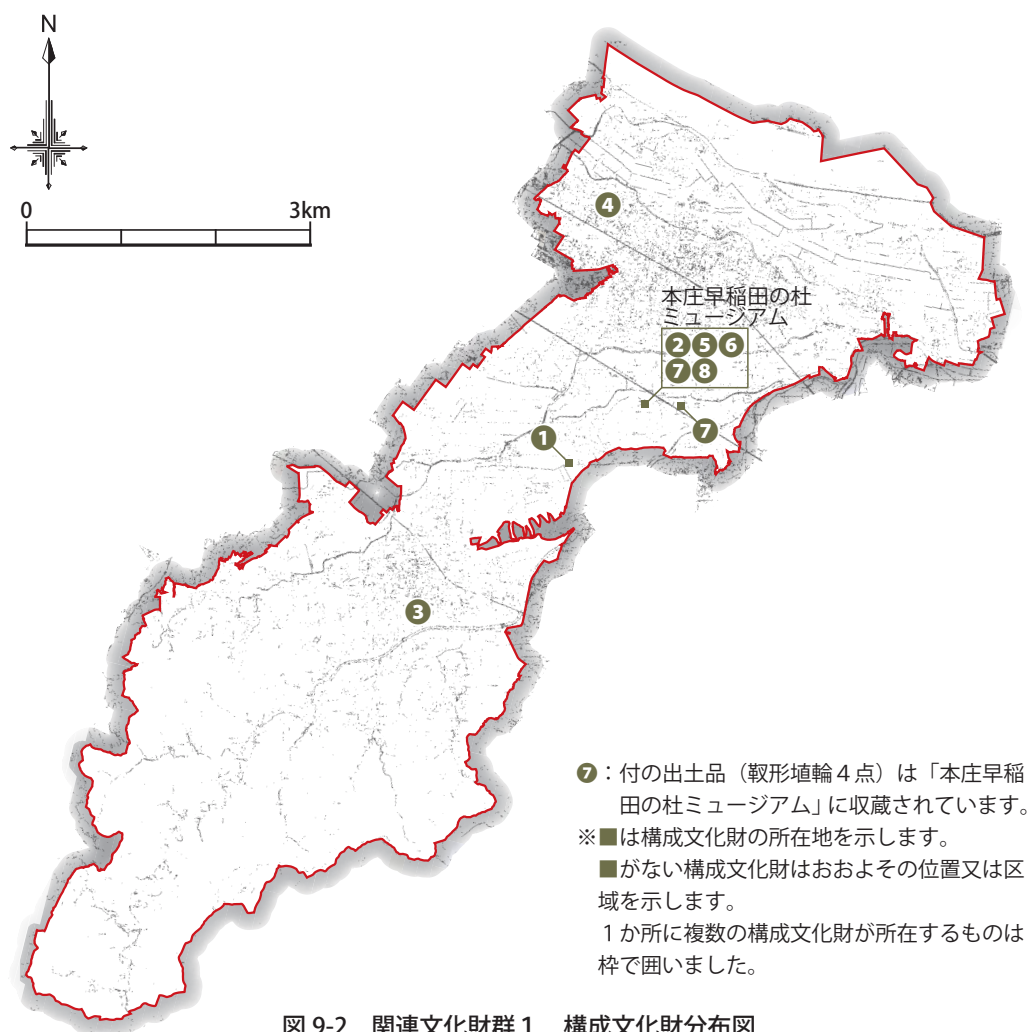


図9-2 関連文化財群1 構成文化財分布図

課題

- ・本庄早稲田の杜ミュージアムにおける常設展示での公開資料が一部の考古資料に偏っています。また、特別展示の機会も少なく、その他収蔵品が十分に活用されていません。
- ・考古資料が有効に活用されている現況に対して、市が所有・管理している遺跡の活用が不足しています。遺跡とそこから出土した考古資料とを結びつけた活用が十分に行われていません。
- ・遺跡の見学環境が十分に整っていません。

方針

- ・一般公開されていない収蔵品についてデジタルデータ化を行って公開するなど、多様な活用方法を検討します。
- ・市が所有・管理している遺跡を積極的に公開・活用します。公開が困難な遺跡については、その他の活用方法を検討します。
- ・公開が可能な遺跡について、見学環境の整備を図ります。

措置

目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体				財源	
				前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民		団体
魅力発信・拠点整備	3-①-1	先端技術を活用した埋蔵文化財の保存・活用事業	文化財情報のデジタルデータの公開、インターネットミュージアムの開設に向けて、埋蔵文化財に関する文化財情報について、先端技術を活用しデジタル化を図る。	■	■	■	◎	◎	○		○	市費 国補助
	3-③-1 3-④-1	遺跡の公開・活用推進事業	考古資料と公開可能な遺跡を関連付けた周遊ルートを構築する。遺跡に関する企画展やフィールドワークを実施する。先端技術（VR、AR等）を利用した活用事業を検討する。	■	■	■	◎	◎	○		○	市費 国補助

凡例 ◆事業番号 親番号と丸番号は第5～8章に前掲した措置の事業番号と整合し、最後の枝番号はその中の通し番号を示します。

◆事業計画期間 前期：令和5（2023）～令和7（2025）年度 中期：令和8（2026）～令和11（2029）年度
後期：令和12（2030）～令和14（2032）年度

◆取組主体 行政：本庄市（国、埼玉県との協働を含む） 市民：本庄市民
専門家・大学等：大学、博物館、研究者など 団体：保存活用支援団体、市民活動団体、
所有者・管理者：文化財の所有者・管理者・保護団体など 各種団体、協議会、企業など

◎：主として取り組む主体
○：協力して取り組む主体

関連文化財群2

板碑（板石塔婆） — 石に宿す安楽の願い —

目的

全国的にも稀な大型の板碑（板石塔婆）など、中世に造立された石造物を中心に関連文化財群を構成し、一体的な活用を推進します。



写真 9-2
元田の板石塔婆



写真 9-3
西五十子の阿弥陀
一尊種子板石塔婆



写真 9-4
實相寺阿弥陀
一尊種子板石塔婆



写真 9-5
保木野の宝篋
印塔板石塔婆

ストーリー

板碑（「板石塔婆」「青石塔婆」ともいう）は、主に中世仏教で供養塔として使われた石碑の一種で、鎌倉時代から室町時代に死者の追善や後世の安楽を願って、全国各地で造立されました。

各地方によって形状が異なるものもありますが、多くは板状で、最上部を山形とし、その下部に二条線や切り込みを施して主体部と区別しています。「種子」（仏尊を梵字で表したものの）のほか、天蓋・蓮台・花瓶などの文様、被供養者名、記念銘、造立趣旨などが刻まれる場合もあります。

本市に所在する石碑には、秩父地方を中心に産出する緑色片岩（又は緑泥片岩）が使われています。緑色片岩は、板状に薄く割れる性質を持つ石材で、加工が容易であることに加え、見た目の美しさから古くから用いられてきました。秩父地方から産出される緑色片岩を用いた板碑は、「武蔵型板碑」と分類され、青色を帯びていることから「青石塔婆」とも呼ばれます。

板碑の発生は関東武士の本拠地である武蔵国中北部と考えられています。熊谷市には現存最古とみられる嘉禄3（1227）年の板碑があることから、板碑の造立はこの地方から徐々に周辺地域に広まり、やがて全国に分布するようになったとみられています。また、板碑は、全国でも関東地方、特に鎌倉武士の本拠地とその所領に分布が集中していることから、板碑の分布と鎌倉武士の勢力圏には有意な関係があったと考えられています。

このような観点から、本庄市の板碑は、武蔵国北部に拠点を置いた武士団である児玉党との関係が強くうかがえ、13世紀中頃に遡るもの、全国的に稀な大型のものなどが所在することから、板碑伝播の歴史において貴重な情報を有するとみて差し支えありません。

鎌倉時代に始まった板碑造立の風習は、武蔵国を中心に盛行し、中世の終末には姿を消します。江戸時代に入ると一切途絶え、やがて墓石の建立が一般的となります。鎌倉街道の成立と同時期に造立が始まり、鎌倉街道が使命が終わる頃に姿を消す板碑は、中世の本庄を代表する文化財の一つといえます。

構成文化財一覧

番号	名称	指定等区分	種別	概要
1	元田の板石塔婆	県指定	考古資料	正嘉2（1258）年の銘を持つ、一石に三基の板石塔婆を表現した三連塔婆。阿弥陀三尊の配置を示す。三連板碑は類例がなく極めて珍しい。

2	西五十子の阿弥陀一尊種子板石塔婆	市指定	歴史資料	康元2（1257）年銘、明瞭な二条線を持ち、横幅の広さに比して高さが低いという特徴的な形態をもつ。
3	小和瀬薬師堂自然石塔婆	市指定	歴史資料	宝治元（1247）年銘、円柱状の自然石の三面を調整し、三角柱状に整えた自然石塔婆。一般的に板石塔婆が多い中で稀な形式。
4	玉蓮寺釈迦一尊種子板石塔婆	市指定	歴史資料	嘉元2（1304）年造立、武蔵武士児玉党の一族・児玉時国の供養塔との伝承がある。本庄市最大の板石塔婆。
5	實相寺阿弥陀一尊種子板石塔婆	市指定	歴史資料	文永2（1265）年銘、上部に二条線を刻み、阿弥陀の主尊一字を大きく刻む。
6	保木野の宝篋印塔板石塔婆	市指定	歴史資料	貞治3（1364）年銘、中央に宝篋印塔を陽刻する。この板碑と対になるものが、神川町長慶寺に所在し、夫婦逆修板碑であったと推定される。
7	保木野の円形光背図像板石塔婆	市指定	歴史資料	乾元2（1303）年銘、主尊の阿弥陀如来一尊を種子ではなく円形の光背を持つ図像で表現する。
8	その他 板石塔婆	未指定	歴史資料	上述の指定文化財以外で鎌倉～室町時代の銘を持つ約120基の板石塔婆の調査記録がある。所在地は寺院、墓地、公民館、個人宅が挙げられる。
9	間瀬峠（結晶片岩）	未指定	地質鉱物	長瀬町との境界付近にある峠。近辺の結晶片岩（緑色片岩）は古くから古墳石棺・板石塔婆・建築石材等に大量に使われてきたとされる。



図9-3 関連文化財群2 構成文化財分布図

課題

- ・板碑の所在地が把握されている一方で、調査結果を活用した情報周知がなされていません。
- ・教育や学習、拠点整備等の分野において板碑の情報が十分に活用されていません。

方針

- ・本庄市における板碑の価値について周知を図ります。
- ・主要な板碑の見学環境を整えます。案内や解説機能の向上を図ります。

措置

目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体				財源	
				前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民		団体
魅力発信・教育・学習・体験 ・拠点整備	3-②-1 3-⑦-1	板碑の魅力普及啓発事業	板碑の解説ハンドブックを作成するとともに、歴史講座を開催し普及啓発を図る。	■	■	■	◎	○	○			市費
	3-③-2 3-⑧-1	板碑見学サイン・周遊ルート作成事業	未指定の板碑を含めた周遊・見学ルートを作成し、解説サインを整備する。	■	■	■	◎		○			市費

凡例 ◆事業番号 親番号と丸番号は第5～8章に前掲した措置の事業番号と整合し、最後の枝番号はその中の通し番号を示します。

◆事業計画期間 前期：令和5（2023）～令和7（2025）年度 中期：令和8（2026）～令和11（2029）年度
後期：令和12（2030）～令和14（2032）年度

◆取組主体 行政：本庄市（国、埼玉県との協働を含む） 市民：本庄市民
専門家・大学等：大学、博物館、研究者など 団体：保存活用支援団体、市民活動団体、
所有者・管理者：文化財の所有者・管理者・保護団体など 各種団体、協議会、企業など

◎：主として取り組む主体
○：協力して取り組む主体

関連文化財群3

農業と人々の生活 —水資源の確保・供給—

目的

農業と人々の生活に関する関連文化財群を構成し、中でも特に備前渠用水路、間瀬堰堤など水資源の確保・供給に関わる文化財や食文化に関する価値を啓発します。



写真 9-6 備前渠用水路（第3樋門）



写真 9-7 雨乞い獅子（台町の獅子舞）



写真 9-8 間瀬堰堤



写真 9-9 間瀬堰堤管理橋

ストーリー

本庄市の地層は、富士山や浅間山の噴火によって広く拡散した火山灰が粘土化した土壌によってできた関東ローム層を中心としています。粘土分の多い粘り気の強い土壌が高台や台地を構成しているため農業用水の確保が難しく、また、火山灰でできた土壌であることから植物の生育に必要な栄養分をあまり含まず、農業、特に稲作にはあまり適さない土地でした。

このような地質的背景により、本庄における農業や人々の生活において水資源の確保と供給は大きな課題であったといえます。そのため、古代には既に条里制及び九郷用水が整備されました。このかんがい区域一帯は後世においても重要な役割を果たし、中世に勃興した児玉党の統治基盤にもなったことがうかがえます。

慶長9（1604）年には、幕府代官頭・伊奈備前守忠次により備前渠用水路が開削されました。備前渠用水路は、延長約23kmに及び、本庄市域・深谷市域・熊谷市域を流れ、利根川右岸の1,400haの水田に用水を供給しています。現存する県内最古級の用水路として、令和2（2020）年12月には世界かんがい施設遺産に登録されました。

それでもなお、干ばつが発生した際には、住民は信仰の力「雨乞い」に頼ったと考えられます。代表的なものとして、市内各地に継承される「獅子舞」があり、雨乞い祈願を目的の一つとしたものが散見されます。また、榛名神社から水を借りて帰る「お水借り」、地域の高い山に梵天を掲げる行事、龍作りや水神信仰を背景に持つ雨乞屋台など、雨乞い行事に関する民俗風習も各地に残されています。

近代に入ると、土木技術の向上に伴い、大規模なため池の建設が行われました。間瀬堰堤は、昭和12（1937）年に建造された東日本最古の農業用重力式コンクリートダムです。児玉用水のかんがい用水を確保するため、間瀬川中流部をせき止めて間瀬湖に貯水する施設で、現在も本庄市・美里町区域の農業

における重要な役割を担っています。

上述の様々な創意工夫で台地地形にも安定した水が供給されたことなどによって、県北地域では古くから稲と麦の二毛作が行われ、現在は関東圏でも有数の穀倉地帯として成長しています。一方で、利根川の氾濫原には肥沃な土壌が広がっており、首都圏に近い立地条件に恵まれた本庄市は、関東有数の野菜の産地としても知られています。

二毛作による小麦の生産は地域の食文化にも大きく影響も与えており、近世以降、当地域では小麦を原料とした郷土料理が広まりました。埼玉県が県別生産量全国2位となっているうどんは各家庭で打つことも多く、日常食だけでなく行事食・儀礼食としても食卓に並びます。また、様々な行事の供物として、米を使う餅・団子だけではなく、小麦を使うまんじゅうを主とする地域も確認されています。特に、生地に重曹（炭酸水素ナトリウム）を加えて膨らませる「炭酸まんじゅう」は、田植えや稲刈りなどの農作業の合間の小昼飯としても日常的に食べられました。「つみっこ」は、小麦粉を水で練って作った生地を「つみとる」ようにちぎり季節の野菜と一緒に鍋で煮る、いわゆる「すいとん」で、仕事の合間に手早く作ることができる日常食として、多忙な養蚕農家等に重宝されました。本庄地方の「つみとる」の方言がその名の由来とされており、小麦と野菜といった本庄の農業品目を使った代表的な郷土料理といえます。現在も家庭で作られるほか、市内店舗で販売・提供されるなど、人々の生活に息づいています。

このように、本市域の人々は、農業による生活に対して、地質的条件を時代ごとの土木技術によって改善を試み、気象不良など技術的に解決できない事象は皆で祈ることによって乗り越えてきました。また、土壌に適した作物を栽培し、それらを日常的に食し、「ハレ」の日には行事食・儀礼食を神とともに食べることで感謝と祈りを捧げ、再び農業に勤しむというサイクルによって、現在に至る生活基盤を確立してきた長い歴史を有しています。

構成文化財一覧

番号	名称	指定等区分	種別	概要
1	九郷用水	未指定	遺跡	神流川から分水された用水路。古代条里制の幹線水路であったとされ、また、このかんがい区域は児玉党一族の中心的基盤を形成したことがうかがえる。
2	条里遺跡	未指定	遺跡	九郷用水を幹線水路として、女堀川周辺の耕地が四方田条里、今井条里、児玉条里などと呼ばれる条里水田として整理された。
3	備前渠用水路	未指定 (世界かんがい施設遺産)	建造物	慶長9(1604)年、幕府代官頭・伊奈備前守忠次により開削。利根川右岸1,400haの水田に用水供給する県内最古級の用水路。世界かんがい施設遺産に登録。
4	雨乞い獅子 ◎台町の獅子舞 ●仁手諏訪神社の獅子舞 ●小平の獅子舞 ●吉田林の獅子舞	◎県指定 ●市指定	無形の民俗	獅子舞の起源には洪水などにより川から流れ着いたとする伝承が多く、龍頭の獅子頭を用いる事例あることから水神信仰の要素がうかがえる。本庄市内の獅子舞にも雨乞い祈願を目的とするものが多く見られる。
5	雨乞い行事 ・お水借り、梵天、水神信仰 など	未指定	無形の民俗	お水借り(榛名神社から水を借りて帰る)、梵天(地域の高い山に梵天を掲げる)、雨乞屋台(龍作り・水神信仰)、鳴物、唄、池浚いなどが雨乞い行事として行われたという。
6	間瀬堰堤	国登録	建造物	昭和12(1937)年に建造された東日本最古の農業用重力式コンクリートダム。間瀬川中流部をせき止めて間瀬湖に貯水し、かんがい用水を確保する。
7	間瀬堰堤管理橋	国登録	建造物	昭和13(1938)年完成の鉄筋コンクリート造桁橋。間瀬堰堤と一体をなす構造物で、堰堤部すぐ下の頭首工上に橋を設け、左岸部に取水口を設ける。
8	二毛作	未指定	無形の民俗	県北地域では古くから稲と麦の二毛作が行われ、関東圏でも有数の穀倉地帯として成長した。

9	小麦文化 ・うどん、つみっこ、炭酸 まんじゅう など	未指定	無形の民俗	近世以降、うどんをはじめ、小麦を原料とした郷土料理が広まり、人々の生活に息づいている。
10	本庄野菜	未指定	無形の民俗	利根川が育んだ肥沃な土地を有し、首都圏に近い立地条件に恵まれたため、関東有数の野菜の産地として知られている。

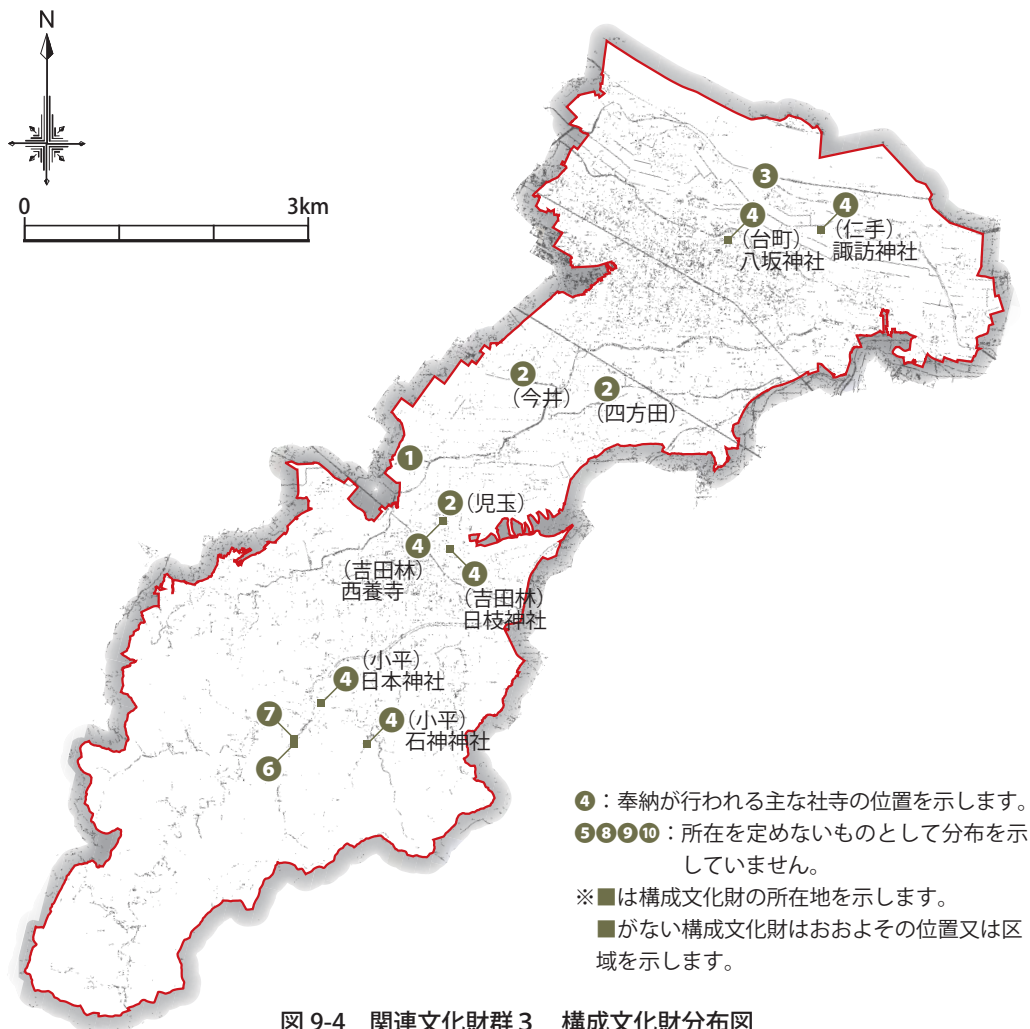


図 9-4 関連文化財群 3 構成文化財分布図

課題

- ・ 農業（特に麦・野菜栽培）に関する身近な文化財が十分に把握されていません。
- ・ 農業や水資源の歴史について市民に周知されていません。また、関連する文化財も活用されていません。
- ・ 各構成文化財の見学環境が十分に整っていません。
- ・ 本庄の郷土食・特産品と農業の歴史的背景との関連付けが希薄で、商品価値、文化的価値を高める形での情報発信が行えていません。

方針

- ・農業を軸とした文化財（かんがい施設、民具、技術、儀礼、行事・祭礼、食文化など）を幅広く調査・収集します。
- ・農業や水資源の確保・供給に関する文化財の周知・活用を通して、関連文化財への興味・関心を高め、来訪へとつなげます。
- ・公開が可能な構成文化財について、見学環境の整備を図ります。
- ・現代に伝わる本庄の郷土食・特産品が持つ歴史的背景についての情報発信を強化し、文化的価値の向上を図ります。

措置

目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体					財源
				前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民	団体	
調査・研究	1-①-1	農業に関する文化財調査事業	農業を軸とした文化財情報（かんがい施設、民具、技術、儀礼、行事・祭礼、食文化など）について、市民の協力によって調査・収集し、関連文化財群の保存・活用に向けた基礎資料とする。	■	■	■	◎	○	○	○		市費
魅力発信・拠点整備	3-⑧-2	農業・水資源に関する文化財の周知及び公開・活用環境整備事業	農業・水資源に関する文化財の解説看板・誘導サイン・パンフレット・便益施設（駐車場、トイレ、休憩場所等）などの整備を進める。		■	■	◎		○			市費 国補助
	3-⑩-3	地域の特徴ある郷土食・特産品の歴史・魅力発信事業	地域の特徴ある郷土食や特産品が生まれた歴史的背景や魅力を市内外に発信し、文化的価値と商品価値の向上を図る。		■	■	◎	○		○	◎	市費

凡例 ◆事業番号 親番号と丸番号は第5～8章に前掲した措置の事業番号と整合し、最後の枝番号はその中の通し番号を示します。

◆事業計画期間 前期：令和5（2023）～令和7（2025）年度 中期：令和8（2026）～令和11（2029）年度
後期：令和12（2030）～令和14（2032）年度

◆取組主体 行政：本庄市（国、埼玉県との協働を含む） 市民：本庄市民
専門家・大学等：大学、博物館、研究者など 団体：保存活用支援団体、市民活動団体、
所有者・管理者：文化財の所有者・管理者・保護団体など 各種団体、協議会、企業など

◎：主として取り組む主体
○：協力して取り組む主体

関連文化財群4

競進社模範蚕室と養蚕文化 —養蚕で紡がれた産業・信仰・食文化—

目的

競進社模範蚕室をはじめとする養蚕文化（養蚕民家・蚕室・道具・資料・信仰・風習）や、木村九蔵をはじめ蚕業の発展に貢献した人物の功績等を示す文化財を一体的に保存・活用します。



写真 9-10 競進社模範蚕室



写真 9-11 高窓の里



写真 9-12 つみっこ



写真 9-13 本庄織物（本庄紜）

ストーリー

日本が鎖国を解き、江戸時代末期に横浜が開港すると、蚕種や生糸が輸出の主要産品として注目されるようになったことで、横浜に比較的近い埼玉県では養蚕業が盛んになっていきました。本市域は、桑の生産に適していたことから、大型の養蚕民家が成立するとともに、蚕種製造も盛んに行われました。

繭の需要が高まると、高い収繭高を目指して養蚕を学ぶ人が増加しました。これにに応じて、養蚕改良とその伝習・教育に生涯を捧げた木村九蔵は、新宿村（現神川町）で養蚕改良競進組を結成します。明治17（1884）年には名称を養蚕改良競進社に改め、児玉町に出張事務所と競進社蚕業伝習所を開設、全国から生徒を集め、全国へ養蚕教師を派遣しました。児玉町は、養蚕改良の中心地となり、日本の養蚕業の発展に大きな役割を果たしました。明治27（1894）年には、競進社蚕業伝習所内に近代的な養蚕の教育施設として競進社模範蚕室を建築しました。蚕の飼育が最も適した条件で行えるよう、採光・通風・温度調節・作業効率などに工夫を凝らした蚕室で、以後の養蚕民家の模範となった建物です。現在、競進社と木村九蔵に関する資料は、競進社蚕業伝習所を前身とする旧埼玉県立児玉白楊高等学校（令和5（2023）年4月より旧県立児玉高等学校と統合し県立児玉高等学校となっています）に収蔵されています。

江戸時代以降、本庄宿・八幡山町・児玉村には市場が開かれ、繭・生糸などが大量に取引されました。明治時代以降も取引は続き、養蚕の隆盛とともに取引量が増大、本庄は繭の一大集散地として発展しました。明治27（1894）年には、繭・絹取引の資金供給のため本庄商業銀行が設立され、明治29（1896）年には同銀行の融資担保となる大量の繭を保管した旧本庄商業銀行煉瓦倉庫が建築されました。現存する旧本庄商業銀行煉瓦倉庫の建物は、近代本庄における繭市場の発展の名残を今に伝えています。

市内各地には、養蚕に適した形式の民家が数多く現存し、本市一帯が蚕の生産拠点の一つだったことがうかがえます。中でも、田島亀夫家住宅は、国登録有形文化財の主屋・蚕室をはじめ、土蔵、表門、

井戸、屋敷神、防風・日除林、洪水除け石垣など養蚕民家の屋敷構えが良好に残り、4軒隣の世界遺産・田島弥平旧宅（伊勢崎市境島村）とともに、江戸時代末期から明治時代初期における当地域の蚕種製造業の隆盛を示しています。また、秋平地区（小平）には、高窓と呼ばれる換気用の越屋根を乗せた養蚕民家が複数現存しており、「高窓の里」として養蚕集落の景観を伝えています。

近世以前の養蚕は、不安定な産業であり、近代化が進んでも養蚕家は神仏に豊蚕を祈りました。市域では「蚕影様」が広く信仰され、金屋地区（宮内、塩谷）などでは毎年4月16日に蚕影山神社に参詣し下賜された札を蚕室に貼って祀りました。小正月（1月14～15日）には木の枝に団子をつけた繭玉飾りを家に飾る行事があり、作物の豊作や、養蚕の成功を祈願したものと伝わります。また、生糸採取で処分される蚕蛹も供養され、大正院境内には大正12（1923）年建立の蚕蛹供養塔が現存しています。

養蚕や機織りが盛んだった市域では、多忙な時に仕事の合間に手早く作ることができる郷土料理「つみっこ」が重宝されました。「つみっこ」とは本庄地方の方言で「つみとる」という意味で、県域で栽培が盛んだった小麦粉を水で練って作った生地を「つみとる」ようにちぎって鍋に入れたことから、このように呼ばれるようになったと伝わります。地元の小麦粉と季節の野菜をたっぷりと使う、滋味深い日常食として地元で愛され続けています。

絹産業の興隆に伴い、市域の農家の副業では、繭から自家製糸を行い、普段着として太織の製織を行うようになりました。この製織は、後に専門家が生まれ、明治時代中期以降に伊勢崎の織物組合に加入、「伊勢崎銘仙」として全国に名声を広めました。現在は、「本庄緋」の名称で埼玉県伝統的手工芸品に指定されています。

養蚕業・製糸業の発展とその流通において、本庄は非常に大きな役割を果たしました。

構成文化財一覧

番号	名称	指定等区分	種別	概要
1	競進社模範蚕室	県指定	建造物	明治27（1894）年建築。蚕の飼育を最も適した条件で行えるように、採光・通風・温度調節・作業効率など多くの工夫を凝らした蚕室。
2	養蚕道具	未指定	有形の民俗	競進社模範蚕室で、養蚕の際に実際に使用されていた道具が数多く展示される。
3	旧埼玉県立児玉白楊高等学校収蔵資料	未指定	歴史資料	旧埼玉県立児玉白楊高等学校（現在は埼玉県立児玉高等学校と統合）では、競進社と木村九蔵に関する資料を収蔵している。
4	開善寺	未指定	遺跡	本庄宿の繭市場は、富岡製糸場所長・尾高惇忠が原料繭の仕入れのために本庄に出張し、開善寺を借り受け、生繭の買付場としたことに始まる。
5	日本庄商業銀行煉瓦倉庫	国登録	建造物	明治29（1896）年建築、本庄商業銀行において融資の担保として取り扱われた大量の繭を保管する大型の煉瓦倉庫。
6	茂木小平翁頌徳碑	市指定	歴史資料	茂木小平は上仁手村に生まれ、利根川上組蚕種製造組合頭取を務めるなど、埼玉県内の蚕種製造・改良・販売に多大な貢献を果たした。
7	田島亀夫家住宅主屋 田島亀夫家住宅蚕室	国登録	建造物	「有隣館」の屋号で蚕種業を営んだ。棟に3か所の越屋根を備えた明治時代初期の姿を残す養蚕民家と桑もぎ場・貯桑場・上蔭に用いた蚕室が現存する。
8	藤田地区 （宮戸、小和瀬）	未指定	文化的景観	世界遺産・田島弥平旧宅のバッファゾーンに隣接し、伊勢崎市境島村と一体的な景観を有する。
9	高窓の里	未指定	文化的景観	江戸時代から明治時代にかけて興隆した養蚕業を営んだ秋平地区（小平）の呼称。高窓と呼ばれる換気用の越屋根を乗せた養蚕民家が複数現存する。

10	養蚕信仰	未指定	無形の民俗	市域の養蚕農家では“蚕影様”が広く信仰されている。金屋地区（宮内、塩谷）などでは4月16日に蚕影山神社に参詣し下賜された札を蚕室に貼って祀った。
11	繭玉飾り	未指定	無形の民俗	農村では小正月（1月14～15日）に木の枝に団子をつけた繭玉飾りを家に飾る行事がある。作物の豊作や、養蚕の成功を祈願して飾ったものといわれる。
12	蚕蛹供養塔	未指定	歴史資料	生糸採取で処分される蚕蛹の供養として、製糸所や糸繭商により大正12（1923）年、大正院境内に建立。毎年5月28日に供養祭が行われたという。
13	つみっこ	未指定	無形の民俗	小麦粉の生地を「つみとる」ようにちぎって沢山の野菜と一緒に煮る郷土料理。養蚕や機織りが多忙な時に手早く作れ、栄養が取れるため重宝された。
14	本庄織物（本庄絣）	未指定 （県伝統的 手工芸品）	無形の民俗	農家の副業から始まったとされる太織りの絹織物。埼玉県伝統的手工芸品。近年はバッグ作りなど、伝統文化を現代に生かすための取組も行われている。

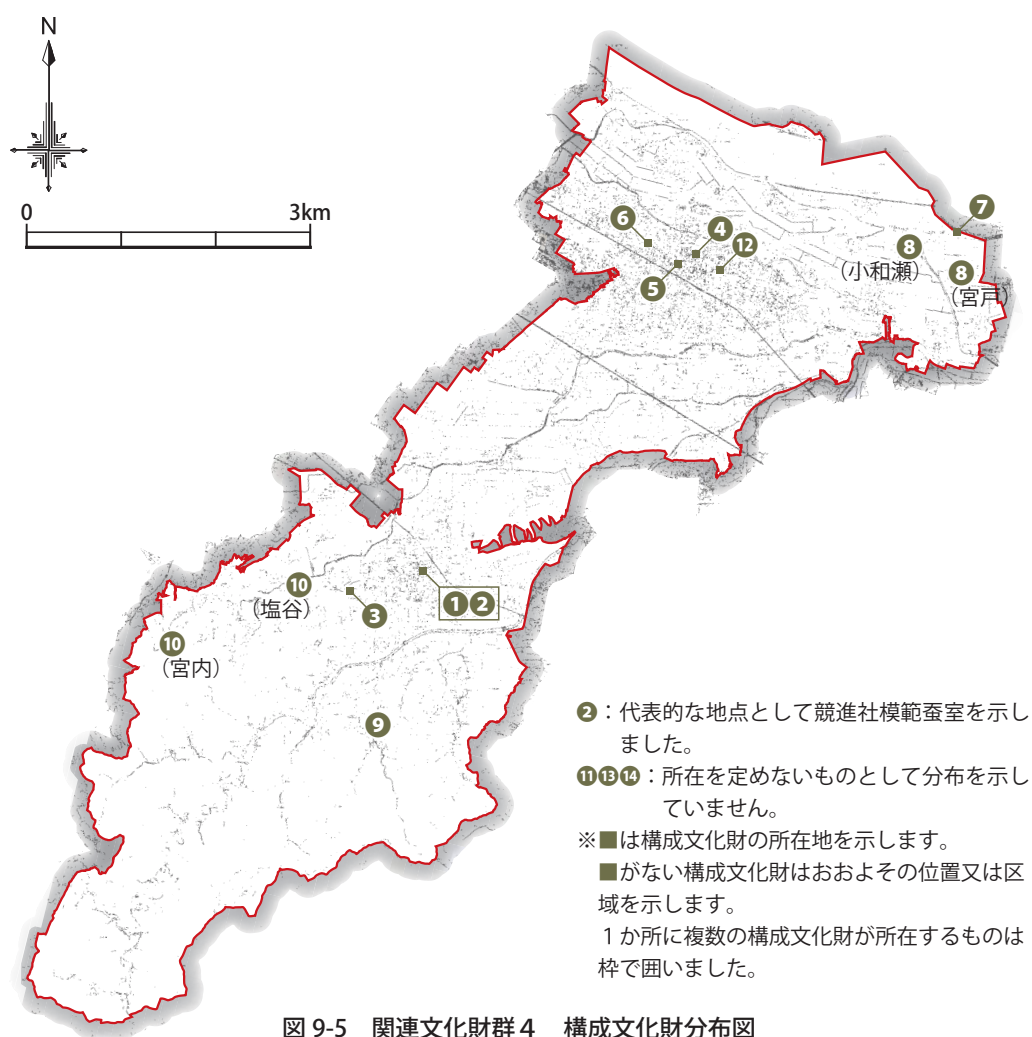


図 9-5 関連文化財群 4 構成文化財分布図

課題

- ・拠点施設の一つとして位置づけられる競進社模範蚕室について、保存修理や耐震補強が行われていません。
- ・競進社模範蚕室の来館者が減少傾向にあります。
- ・構成文化財ごとの活用は進められていますが、各文化財の連携が不足しています。養蚕や競進社といった共通する要素が強調できていません。
- ・埼玉県立児玉高等学校（旧埼玉県立児玉白楊高等学校）が収蔵する競進社模範蚕室関連資料が活用されていません。担当教諭が不在で資料散逸の危険性があります。

方針

- ・競進社模範蚕室の耐震補強工事を実施し、建物の安全性向上によって活用の幅を広げます。
- ・競進社模範蚕室の来館者を増やすため、企画展などの事業を実施します。
- ・競進社模範蚕室を中心とした市全体の養蚕の歴史を守り伝えるための活用方法を検討します。
- ・各文化財の相互連携（施設紹介・誘導・関連展示など）を強化します。
- ・埼玉県立児玉高等学校（旧埼玉県立児玉白楊高等学校）が収蔵する競進社模範蚕室関連資料について、管理体制を整備するとともに、定期的に特別公開する機会や場所を設けます。

措置

目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体				財源	
				前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民		団体
保存・継承	2-⑥-1	競進社模範蚕室耐震補強事業	競進社模範蚕室の見学者の安全確保に向けて、耐震補強工事を実施する。	■	■	■	◎	○				市費 国・県補助
魅力・学習・体験	3-④-2 3-⑧-3	競進社模範蚕室展示整備事業	競進社模範蚕室は、建物の構造や使い方の公開を主とし、養蚕の歴史を伝える展示については、展示施設の別途新設を含めてより良い形を検討・実施する。	■	■	■	◎	○				市費 国補助
体制・仕組み	4-⑧-1	教育機関と連携した活用事業	県立文書館、埼玉県立児玉高等学校（旧埼玉県立児玉白楊高等学校）と連携を図り、木村九蔵の資料を収集し、活用する。	■	■	■	◎	◎				市費

凡例 ◆事業番号 親番号と丸番号は第5～8章に前掲した措置の事業番号と整合し、最後の枝番号はその中の通し番号を示します。

◆事業計画期間 前期：令和5（2023）～令和7（2025）年度 中期：令和8（2026）～令和11（2029）年度
後期：令和12（2030）～令和14（2032）年度

◆取組主体 行政：本庄市（国、埼玉県との協働を含む） 市民：本庄市民
専門家・大学等：大学、博物館、研究者など 団体：保存活用支援団体、市民活動団体、
所有者・管理者：文化財の所有者・管理者・保護団体など 各種団体、協議会、企業など
◎：主として取り組む主体
○：協力して取り組む主体

関連文化財群5

本庄・児玉の地域祭礼 —奉納と娯楽の伝承—

目的

本庄・児玉の各地域で催される祭礼・奉納行事等に関する関連文化財群を設定し、これらの記録・伝承に取り組むとともに、地域コミュニティによる保存・継承を促し更なるにぎわいにつなげます。



写真 9-14 本庄まつり



写真 9-15 こだま秋まつり

ストーリー

本庄市各地では、春に豊作を祈り、夏に悪疫を祓い、秋に収穫に感謝し、冬は新年を祝うなど、一年を通して多彩な祭礼行事が催されます。

中でも、北関東随一と謳われる「本庄まつり」は、毎年11月2・3日に開催される本庄宿の総鎮守・金鑽神社の例大祭の附祭で、江戸時代から行われた記録を有しています。明治時代初期に旦那衆が江戸文化を取り入れて、附祭として山車の曳き回しを行うようになりました。現在曳行される山車は10台あり、うち8台は明治時代から大正時代に製作されたもので、市指定民俗文化財となっています。いずれも江戸型の人形山車で、人形座に人形を乗せ、高々とせり上げる形式です。

児玉市域市街地でも、八幡神社の例大祭の附祭として毎年11月3日に「こだま秋まつり」が開催され、附祭として屋台1台、山車3台の曳き回しが行われます。主産業であった養蚕に携わる商店主等を中心に、江戸型曳山祭礼を模して、秩父型屋台・江戸型山車が製作され、最盛期には計9台前後の屋台・山車が繰り出す北関東有数の曳山祭礼行事となりました。現在は明治10年代末から明治30年代半ばに建造された屋台1台、山車3台が現存し、市指定民俗文化財となっています。新町の屋台は、秩父型屋台の流れをくむ大型で豪華な屋台です。3台の山車はいずれも人形山車ですが、仲町の山車は、人形座の昇降機構を持つ江戸型山車と秩父型屋台の特徴を取り入れたもので、他の2台の山車は秩父型屋台の特徴を取り入れ、屋根上に人形座を設けた児玉型山車と呼べるものです。

各町の山車・屋台は、精巧な彫刻・漆塗り・金箔・彫金・華麗な文様の幕類で飾られた豪華絢爛なもので、本庄宿の発展や児玉地域の養蚕の隆盛を現在に伝えていきます。また、曳き回しの際に演奏されるお囃子は、各町によって異なる曲調が奏でられ、独特な祭情緒を醸し出します。このお囃子は楽器（太鼓、鉦、笛）とともに各町の保存会等によって管理・伝承が行われています。

なお、山車・屋台については、通常各町が管理する倉庫に保管されていますが、本庄の山車は、8月から10月と11月から1月にかけての本庄まつりの前後の時期に本庄市市民活動交流センター「はにぼんプラザ」で展示を行い、市民・来街者にその文化財価値を伝えています。

児玉郡から大里郡にかけての金鑽神社信仰圏の諸社には、金鑽神楽と称する神楽が分布しています。金鑽神楽は、宝暦年間（1751-1764）、金鑽神社に古くから伝わる神楽と大宮住吉神社（坂戸市）に伝わる神楽を融合し、改良を加えたものといわれています。旧来は神社ごとに特色のあるものが演じられたようですが、明治15（1882）年に遊芸取締令が公布され、神楽がその対象になると、神川町金鑽神社の主導により各神社の神楽に優雅さを加え、25座の演目を定めるなどの統一を図り、金鑽神社附属神楽として免許状を与えることで取締対象から逃れました。その後、各地への伝承や組織再編が図られた

結果、金鑽神社神楽組は計13組となり、このうち、本庄組・宮崎組・杉田組・太駄組・根岸組の5組が本市域で活動しています。

神仏への奉納を目的に行われる芸能として、獅子舞も挙げられます。多くは江戸時代に市内各地へ伝えられ、厄除け・雨乞い・五穀豊穡・悪魔祓いなどを目的に奉納されました。現在は、台町の獅子舞（県指定）、仁手諏訪神社の獅子舞、今井金鑽神社の獅子舞、吉田林の獅子舞、小平の獅子舞（以上：市指定）が文化財指定を受け、継承に向けた取組が行われています。中でも代表的な台町の獅子舞では歴代の獅子頭も保管されており、最も古いものが寛文8（1668）年、二代目が文政11（1828）年、三代目が昭和11（1936）年の製作で、現在は、昭和60（1985）年に制作されたものを使用しています。

児玉地域の山地・丘陵地においては、西小平と元田で万作が伝承され、市指定民俗文化財となっています。万作とは江戸時代末期～明治時代にかけて関東地方に流行した手踊芝居です。名称は「豊年満作」に由来し、村の若者たちによって始められたものが多く、村の貴重な娯楽として親しまれるとともに、春と秋の祭礼の際に踊が奉納されました。

これら本庄・児玉地域の祭礼は、地域の個性や市民同士のつながり、郷土愛を醸成するのに不可欠な存在であり、未来へ伝えていかなければならない重要な歴史文化といえます。また、舞や踊を伴う民俗芸能は、日々の練習によって地域コミュニティ内で伝承されてきたものであって、時代や世代を超えた市民の協働・連帯感・支え合いを生んできました。しかし、少子高齢化・人口減少が一層顕著となる現代においては、担い手不足が深刻化しており、休止を余儀なくされるものも出ています。人から人への伝承で受け継がれる無形の民俗文化財は、担い手が必要不可欠であり、長期間絶えると復活が困難になってしまいます。地域社会が一体となって伝統の灯火を絶やさぬよう受け継いでいくことが求められています。

構成文化財一覧

番号	名称	指定等区分	種別	概要
1	日本神社春祭り	未指定	無形の民俗	全国で唯一、「日本」の名が付いた神社。4月3日の春祭りでは、小平の獅子舞が奉納される。
2	小平の獅子舞	市指定	無形の民俗	元禄12（1699）年、皆野町に伝わった獅子頭を譲り受けたことが始まりとされる。厄除け、悪魔払い、雨乞いなどで舞われた。
3	西小平の万作	市指定	無形の民俗	西小平の万作は伊豆音頭の手踊りを基本とするもので、明治21（1888）年頃、美里町広木から伝えられた。最盛期は鑑札をとって各地で上演された。
4	産泰神社春季例大祭	未指定	無形の民俗	「安産の神様」として知られる産泰神社で、4月4日に行われる祭り。桜の咲く境内で、底がないひしゃくを奉納し、安産を願う習わし。
5	本庄祇園まつり	未指定	無形の民俗	八坂神社において疫病を追い払うため、獅子舞や神輿を担いだのが始まり。各町内の神輿が巡行するほか、台町八坂神社境内で獅子舞が奉納される。
6	本庄本町の神輿	市指定	有形の民俗	明和4（1767）年製作、翌年に市神例祭日に神輿渡御が行われた。現在の本庄祇園まつりでは、昭和5（1930）年に新調された神輿による渡御が行れ、本神輿は御仮舎に安置される。
7	台町の獅子舞	県指定	無形の民俗	寛文3（1663）年、大里郡榛沢村の生絹市場の定期市が本庄宿に移された記念に始まったとされる。現在まで毎年休むことなく奉納されている。
8	獅子頭（台町の獅子舞）	未指定	有形の民俗	台町の獅子舞で使用された過去3代の獅子頭（地元では龍頭と呼ぶ）が保管される。現在は4代目・昭和60（1985）年製作のものを使用する。
9	こだま夏まつり	未指定	無形の民俗	八幡神社末社である八坂神社の大祭にあわせて、9基の神輿が児玉地域市街地を練り歩く。通称「けんか神輿」と呼ばれる荒々しいぶつかり合いが見られる。

10	お姿流し	未指定	無形の民俗	7月31日、「夏越の大祓（なごしのおおはらえ）」。金鑽神社の「茅の輪くぐり」をして無病息災を願い、自分の身の穢れを形代に込めて水に流し去る行事。
11	仁手諏訪神社の獅子舞	市指定	無形の民俗	日下開山常陸角兵衛流といい、天明8（1788）年の文書によると角兵衛流の元祖・高原喜八が来村して流技を村民に伝授したとされる。
12	今井金鑽神社の獅子舞	市指定	無形の民俗	享保9（1724）年、社殿再建の際に奉納された獅子舞が起源とされ、京都の神官が伝えたもので、京風の雅楽や蹴鞠の仕草が取り入れられているという。
13	吉田林の獅子舞	市指定	無形の民俗	文政9（1826）年頃に始められた。当時は疫病の厄払いと干ばつの際の雨乞い祈願のために舞った。
14	本庄まつり	未指定	無形の民俗	毎年11月2・3日に行われる本庄・金鑽神社の例大祭の附祭。江戸時代から祭礼が行われた記録が残る。明治時代以降、附祭として山車の曳き回しを行う。
15	本庄の山車 ●本庄宮本町の山車 ●本庄泉町の山車 ●本庄上町の山車 ●本庄照若町の山車 ●本庄七軒町の山車 ●本庄仲町の山車 ●本庄本町の山車 ●本庄台町の山車	●市指定	有形の民俗	明治時代初期の旦那衆が江戸文化を取り入れて、金鑽神社例大祭の附祭として参加した。10台の山車のうち8台が明治5（1872）年から大正13（1924）年までに建造、山車・人形の製作者が明らかである。4輪台車の上に囃子座と人形座をのせる江戸型山車の形式とする。人形座と人形が迫り出すカラクリを持つ。精巧な彫刻や漆塗り、金箔や彫金、華麗な文様の幕類で飾られる。
16	こだま秋まつり	未指定	無形の民俗	毎年11月3日に行われる児玉・八幡神社の例大祭の附祭。祭典行事と、御神馬を伴う御神馬行列が巡行する。附祭として屋台1台、山車3台の曳き回しを行う。
17	児玉の屋台・山車 ●児玉新町の屋台 ●児玉上町の山車 ●児玉仲町の山車 ●児玉本町の山車	●市指定	有形の民俗	江戸時代末期から明治時代、主産業の養蚕に携わる商店主等を中心に、江戸型曳山祭礼を模して、秩父型屋台・江戸型山車が製作された。最盛期には計9台前後の屋台・山車が繰り出す北関東有数の曳山祭礼行事となった。明治10年代末から明治30年代半ばに建造された屋台1台、山車3台が現存する。
18	お囃子	未指定	無形の民俗	本庄まつり及びこだま秋まつりでは、屋台・山車を曳き回す際に奏でお囃子が伝承されている。各町によって曲調が異なり、独特な祭情緒を醸し出す。
19	金鑽神楽 ●金鑽神楽・本庄組 ●金鑽神楽・宮崎組 ●金鑽神楽・杉田組 ●金鑽神楽・根岸組 ●金鑽神楽・太駄組	●市指定	無形の民俗	児玉郡から大里郡の金鑽神社信仰圏の諸社に分布する神楽。明治15（1882）年、遊芸取締令発布に伴い「金鑽神楽」として統一が図られた結果、計13組の神楽組に組織再編され、このうち、5組が本市に伝わる（現在は根岸組が活動休止）。
20	高尾山だるま市	未指定	無形の民俗	1月2日に高尾山佛母寺で行われる新年恒例のだるま市。新年の招福祈願。本堂では護摩が焚かれ、この煙をだるまにかけて、寺務所で片目を入れる。
21	元田の万作	市指定	無形の民俗	大正時代初期頃に榛澤（現深谷市）から伝えられたもので、村の若者達により始められ、貴重な娯楽として親しまれた。現在は活動休止。
22	民俗芸能用具（楽器、衣裳、採物など）	未指定	有形の民俗	囃子を奏でる楽器（太鼓・鼓・笛等）、演目に沿った衣裳（着物・面・帽子等）、採物（鈴・鏡・鉾・扇・劔・弓矢等）が各保存会によって管理・伝承される。

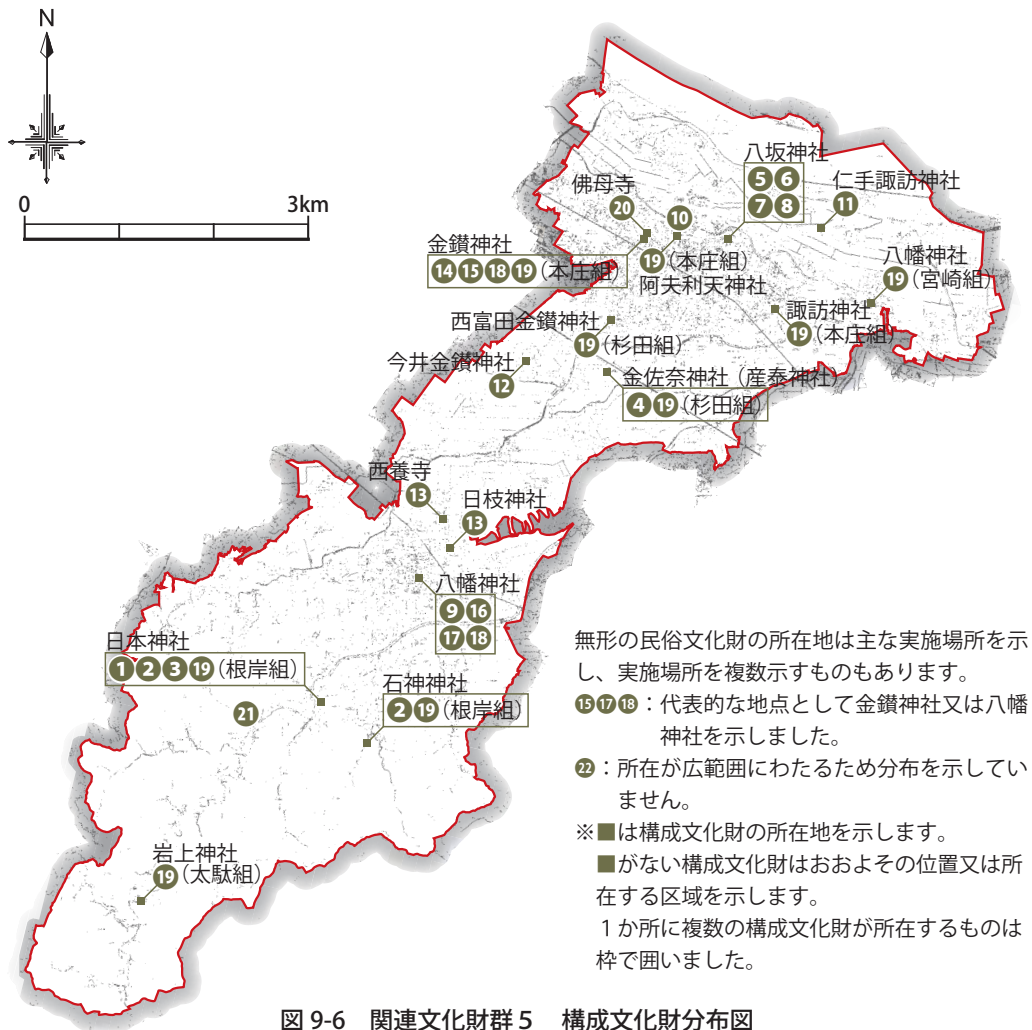


図 9-6 関連文化財群 5 構成文化財分布図

課題

- ・本庄まつりの文化財指定を市民が強く要望しているが、現時点で指定に必要な調査や資料整理が行われていません。
- ・複数ある山車・屋台の保存修理が計画的に行われていません。
- ・山車・屋台を保管する倉庫や付属品等に関する修理要望が相次いでいますが、補助範囲が明確でないため対応できていません。
- ・山車・屋台や道具類が防災・防犯上の観点から適切な保管状態にないものが見受けられます。
- ・少子高齢化に伴い、無形の民俗文化財の後継者不足や継承活動の衰退が生じています。
- ・公開を中止している、あるいは将来的に存続が危ぶまれる無形の民俗文化財があります。
- ・祭礼や公演など伝統行事への参加者が減少しています。若者や新住民の参加が少なく、後継者不足が懸念されます。
- ・無形の民俗文化財に触れる機会が限られているため、興味関心の創出機会が少なくなっています。
- ・祭礼や公演に必要な道具類を維持管理するための資金調達に苦慮が見られます。

方針

- ・本庄まつりに関して調査・研究し、指定の検討に必要な資料や調査結果を蓄積します。
- ・山車・屋台の計画的な修理に向けて、所有者と連携して優先順位を定めます。
- ・山車・屋台の付属品等に関する修理要望を整理するとともに、補助範囲を明確にします。
- ・山車・屋台や道具類の保管状況について把握を行い、必要な対策を整理します。
- ・無形の民俗文化財の保存・活用や後継者養成に関わる活動に対して、行政が支援する仕組みづくりを

推進します。後継者養成を保護団体のみに任せるのではなく、市の取組として考えます。

- ・無形の民俗文化財について、優先順位を判定した上で、順次、記録保存の措置をとるとともに、記録を公開資料としての有効活用を図ります。
- ・市民、団体との連携を図り、本庄まつりやこだま秋まつりをはじめとする祭りへの参加者増加を図ります。
- ・無形の民俗文化財について公演機会の増加を図り、伝統芸能が持つ歴史的・文化的価値や魅力を普及・啓発し、市民などの興味関心を高め担い手の確保につなげます。
- ・無形の民俗文化財に気軽に触れる場を設け、様々な人々を巻き込んだ文化財の保存に結び付けます。
- ・祭礼や公演を継続的に実施するための新たな資金調達的手法について検討を行います。

措置

目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体					財源
				前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民	団体	
調査・研究	1-④-1	本庄まつり調査・報告書作成事業	本庄まつりに関する調査を実施し、無形の民俗文化財としての価値についての報告書を作成する。	■	■	■	◎	○	○	○		市費
保存・継承	2-③-1	山車・屋台保存活用計画作成事業	山車・屋台の本質的価値を整理し、補助の指針を作成する。複数ある山車・屋台の保存修理の計画を定める。優先度の高いものから、保存修理事業に取り掛かる。	■	■	■	◎	○	◎			市補助
	2-④-1	山車・屋台保管施設改修事業	山車・屋台の持つ損・滅失・散逸等のリスクに対処するため、保管施設の改修又は耐震補強等を促す。	■	■	■	○		◎			市補助
	2-⑦-1	無形の民俗文化財後継者養成事業	無形の民俗文化財の保護団体が実施する後継者養成事業に対する助成、人的支援、応援体制を整備する。	■	■	■	○		◎			県・市補助
	2-⑧-1	無形の民俗文化財記録保存調査事業	地域の祭礼や芸能など、無形の民俗文化財について記録保存の措置を講じる。	■	■	■	◎	○	○			市費 国・県補助
防災・防犯	2-⑩-1 2-⑪-1	山車・屋台保管施設防災・防犯対策事業	山車・屋台保管施設に対し、防災・防犯設備等の設置状況について確認を行う。現状に則した防災設備が未整備のものについて、設置に関わる費用を補助する。	■	■	■	○		◎			市補助
魅力・拠点整備	3-③-4 4-⑧-2	祭りの活性化事業	文化財としての伝統を守りつつ、地域経済の活性化にもつながるような祭りの活用方法を地域との連携で生み出す。	■	■	■	◎			◎	◎	市補助
啓・蓄・継	3-⑨-1 3-⑩-1	無形の民俗文化財体験事業	無形の民俗文化財について、行事の意味や所作の解説を伴ったワークショップ等を行い、気軽に触れる場を創出する。	■	■	■	◎		◎		○	市費
体制・仕組み	4-⑨	資金調達の仕組みづくり	文化財保護基金の創設検討のほか、クラウドファンディングや企業版ふるさと納税など、公的補助以外の資金調達方法を検討する。	■	■	■	◎	○	○	○	○	市費

凡例 ◆事業番号 親番号と丸番号は第5～8章に前掲した措置の事業番号と整合し、最後の枝番号はその中の通し番号を示します。

◆事業計画期間 前期：令和5（2023）～令和7（2025）年度 中期：令和8（2026）～令和11（2029）年度
後期：令和12（2030）～令和14（2032）年度

◆取組主体 行政：本庄市（国、埼玉県との協働を含む） 市民：本庄市民
専門家・大学等：大学、博物館、研究者など 団体：保存活用支援団体、市民活動団体、
所有者・管理者：文化財の所有者・管理者・保護団体など 各種団体、協議会、企業など

◎：主として取り組む主体
○：協力して取り組む主体

関連文化財群6

塙保己一の里 — 塙保己一の足跡と功績 —

目的

本庄出身で全盲の国学者・塙保己一ゆかりの地・遺品等を関連文化財群にまとめ、顕彰活動を推進します。



写真 9-16 塙保己一旧宅



写真 9-17 塙保己一公園（塙保己一の墓）

ストーリー

塙保己一は、延享3（1746）年、武蔵国児玉郡保木野村の萩野家に生まれました。7歳の時に病が原因で失明しましたが、学問を志し、宝暦10（1760）年に15歳で江戸に出て雨富須賀一檢校に弟子入りし、盲人一座の「当道座」へ入門しました。天明3（1783）年、保己一は、38歳で檢校の位につきます。「檢校」とは、当道座における最上位で、当時は直参旗本と同等の身分として扱われました。文政4（1821）年、76歳で当道座の最高位である総檢校につき、同年9月に天命を全うしました。

保己一は、生涯を通じて、散逸するおそれのある貴重な文献を校正し次々と出版していきました。特に大きな功績として『群書類従』の編纂が挙げられます。安永8（1779）年から江戸幕府や諸大名・寺社・公家などの協力や門人の助けを得て全国の貴重な書物を集め、25の部に分類した大文献集で、文政2（1819）年に530巻・666冊が完成するまで41年間をかけた大事業となりました。保己一は『群書類従』が多くの人の手に渡るよう、版木に彫らせて印刷を可能としました。版木製作には莫大な費用が掛かり、資金の「借用証文」も残されています。

寛政5（1793）年には、幕府に土地拝借を願い出て国学の教育・研究の場として「和学講談所」を創設し、多くの弟子を育てました。生涯、自分と同じように障がいのある人たちの社会的地位向上のために全力を注いだのです。

金屋地区（保木野）には保己一の生家が現存し、国の史跡に指定されています。生家北側には、保己一が子どもの頃に遊び、母が保己一の病氣平癒を祈願した龍清寺が所在します。生家西側の塙保己一公園内には、保己一の墓と渋沢栄一題字による没後百周年記念碑が建つなど、保己一の足跡を知る上で貴重な遺構・資料が集まった地域となっています。また、アスピアこだま内の塙保己一記念館には、宝暦7（1757）年に死去した母の形見・手縫いの巾着、群書類従の版木、版木製作資金の「借用証文」など、350点余りの資料群（内98点が県指定有形文化財）を展示しています。

明治42（1909）年、保己一の業績と人物を広く伝えるために、曾孫の塙忠雄や渋沢栄一らによって東京都渋谷区に「温故学会」が設立されました。『群書類従』版木（国重要文化財）の保管、盲人福祉事業、各種啓発事業に現在まで努めています。昭和12（1937）年に米国大統領の平和親書を携えたヘレン・ケラーが来日した際には、「温故学会」への来訪や埼玉会館での講演において保己一に尊敬の意を表しています。

このほか、保己一は『群書類従』の版木製作において、なるべく20字×20行の400字詰に統一させました。これが現在の原稿用紙の基本様式となったという説があります。日本初の公認女性医師である萩野吟子は、医学校を優秀な成績で卒業したにも関わらず男尊女卑の壁に医師への道を閉ざされかけ

ていましたが、保己一がまとめた古代律令の解説書「^{りょうのぎげ}令義解」に女性医師に関する規定があり、吟子の開業試験の道を開きました。^{ぶんきゆう}文久元（1861）年に小笠原諸島の^{むらがさわら}帰属問題が持ち上がった際には、和学講談所の後継者である^{はなわじろう}塙保己一の息子・塙次郎が領土を証明する歴史資料を即座に提供したことで、小笠原諸島が国際的に日本の国土として認められました。塙保己一が遺した功績は、国や時代を越えて現代にも大きな影響を与え続けています。

構成文化財一覧

番号	名称	指定等区分	種別	概要
1	塙保己一旧宅	国指定	遺跡	盲目の国学者・塙保己一の生家。木造二階建、入母屋造茅葺。北武蔵地方の典型的な養蚕民家の形式を持つ。
2	『群書類従』	未指定	書跡・典籍	江戸時代後期に編集された古文獻の叢書。塙保己一が安永8（1779）年着手、門人の助けを得て、文政2（1819）年530巻666冊を刊行。版木は温故学会（東京都渋谷区）が保管しているが、一部の版木を本庄市が所蔵している。
3	塙保己一遺品及び関係資料	県指定	歴史資料	母手縫いの巾着、江戸へ出る際に使用したそうめん箱（お宝箱）、群書類従の版木、版木製作資金の「借用証文」など、350点余りの資料群（内98点が県指定有形文化財）。
4	塙保己一の奉納刀	未指定	歴史資料	天明3（1783）年、塙保己一が検校（けんぎょう）に就任した時に稲荷大明神（現在の御霊稲荷神社＝金屋地区（保木野））に奉納。糸巻き太刀拵えと呼ばれる形式の「飾り太刀」。
5	龍清寺	未指定	遺跡	塙保己一旧宅の北側にある寺院。保己一が子どもの頃に遊び、境内の不動堂では母が保己一の病氣平癒を祈願した。「三日月不動」とも呼ばれる。
6	保木野龍清寺のカヤ	市指定	植物	龍清寺境内に所在する龍が空に飛び上がるような形をした古木のカヤ。「飛龍のカヤ」とも呼ばれる。
7	實相寺	未指定	遺跡	保己一の生家である荻野家の菩提寺。父母供養のために保己一が奉納した燭台が遺される。本尊「木造阿弥陀三尊像」は県指定有形文化財。
8	塙保己一公園 ・塙保己一の墓 ・塙保己一没後百周年記念碑	未指定	歴史資料	保己一は文政4（1821）年永眠し、江戸四谷の安楽寺に埋葬された。明治31（1898）年に隣接する愛染院に改葬の際、墓の土を郷里に持ち帰り墓が建てられた。現在、墓は塙保己一公園内に移転し、隣には渋沢栄一題字の塙保己一没後百周年記念碑が建つ。



図 9-7 関連文化財群 6 構成文化財分布図

課題

- ・ 塙保己一旧宅の保存修理や耐震補強が行われていません。
- ・ 塙保己一旧宅は本市の塙保己一に関する文化財の中核的な存在ですが、現住建物のため積極的に活用できていません。
- ・ 塙保己一の様々な功績に対して、全国的な知名度が高いとはいえません。
- ・ 塙保己一記念館における情報発信が不足しています。また、情報発信する体制が整っていません。

方針

- ・ 塙保己一旧宅の保存修理や耐震補強の計画的な実施を検討します。
- ・ 塙保己一旧宅を中心とした周辺環境整備を推進します。
- ・ 塙保己一の人物史を体感できる活用と、功績をよりわかりやすく伝える顕彰活動を推進します。
- ・ 記念館の展示や活動を充実させ、郷土の偉人塙保己一の偉業について市の内外に強く発信します。
- ・ 埼玉三偉人（塙保己一・渋沢栄一・荻野吟子）の顕彰活動との連携を図り、全国的な知名度の向上を図ります。

措置

目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体					財源
				前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民	団体	
保存・継承	2-⑥-2	塙保己一旧宅耐震補強事業	塙保己一旧宅の保存活用計画を策定し、計画を実行に移す。				○	○	◎			市費 国・県補助
教育・学習・体験	3-⑧-4 4-⑩-1	塙保己一関連文化財活用整備事業	塙保己一の人物像や功績を広く周知するための関連文化財について、公開や普及啓発に向けた整備を実施する。				◎		○		◎	市費 国・県補助

凡例 ◆事業番号 親番号と丸番号は第5～8章に前掲した措置の事業番号と整合し、最後の枝番号はその中の通し番号を示します。

◆事業計画期間 前期：令和5（2023）～令和7（2025）年度 中期：令和8（2026）～令和11（2029）年度
後期：令和12（2030）～令和14（2032）年度

◆取組主体 行政：本庄市（国、埼玉県との協働を含む） 市民：本庄市民
専門家・大学等：大学、博物館、研究者など 団体：保存活用支援団体、市民活動団体、
所有者・管理者：文化財の所有者・管理者・保護団体など 各種団体、協議会、企業など
◎：主として取り組む主体
○：協力して取り組む主体

保存活用区域1

鎌倉街道上道 — 中世武家社会から近代化までの道のり —

目的

鎌倉街道上道を中心とした保存活用区域を設定し、児玉地域の市街地における中世～近代にかけての建造物、歴史資料、遺跡などを一体的に保存・活用し、町並み整備とまちづくりへ活かします。

概要

児玉地域の市街地の中でも JR 児玉駅の南西に広がる地域は、中世に鎌倉街道上道によって交通の要衝として栄えるとともに、雉岡城と城下町が築かれた歴史ある区域です。

児玉地域には、平安時代後期から鎌倉時代にかけて武蔵国で割拠した武士団の一つ・児玉党が本拠を置き、後に鎌倉街道と呼ばれる道を馬に乗って鎌倉幕府へ出仕し番役の勤めを果たしました。鎌倉街道は、鎌倉と関東諸国や信濃・越後・陸奥方面各地を結んだ道路の総称です。上道・中道・下道という3つの主要道があったとされ、児玉地域には上道が通過していました。鎌倉街道上道として定説化している道筋は、鎌倉から鎌倉七切通しの一つ化粧坂を越え、戸塚・瀬谷・町田・府中・所沢・日高・花園・児玉を経由して上州に入り、高崎を通過して碓氷峠を越え信濃に向かっていたとされ、信濃道などの呼称もあります。上道は鎌倉街道の中でも伝承がよく残っているため、歴史家・郷土史家による調査・研究によって道筋が明確にたどることが可能となっています。また、街道跡といわれる掘割状の遺構や、鎌倉街道の成立と同時期に造立が始まった板石塔婆（板碑）の現存をはじめ、多くの文化財を沿線部に伝えています。

戦国時代初期には、関東管領山内上杉氏によって鎌倉街道沿いの交通の要衝に雉岡城（別名：八幡山城）が築かれ、實相寺の移転、浄眼寺・東福院の開基、八幡神社の遷座をはじめ、城下町が整備されました。鎌倉時代から交通の要衝にあった当地は、戦乱の中で山内上杉氏から後北条氏・徳川氏へと統治が移り、関ヶ原合戦後に廃城となります。廃城となったのちの児玉の城下町は、近世には児玉街道（中山道脇往還）が整備されたことで、駅場の役を務めるとともに、六斎市が開かれにぎわいました。信仰の中心であった八幡神社は享保期（1716-1736）に壮麗な社殿が建築され、青銅製の鳥居が築造されています。境内には隨身門や能楽殿が建設され、文化の中心地でもありました。

近代以降、蚕種や生糸が輸出の主要産品として注目されると、埼玉県の養蚕業が盛んになり、高い収繭高を目指して養蚕を学ぶ人が増加しました。これに応じて、養蚕改良とその伝習・教育に生涯を捧げた木村九蔵は、明治17（1884）年、児玉町に児玉養蚕伝習所を開設しました。児玉町は、養蚕改良の中心地となり、日本の養蚕業の発展に大きな役割を果たします。明治27（1894）年には、競進社蚕業伝習所内に近代的な養蚕の教育施設として競進社模範蚕室を建築しました。蚕の飼育が最も適した条件で行えるよう、採光・通風・温度調節・作業効率などに工夫を凝らした蚕室で、以後の養蚕民家の模範となった建物です。

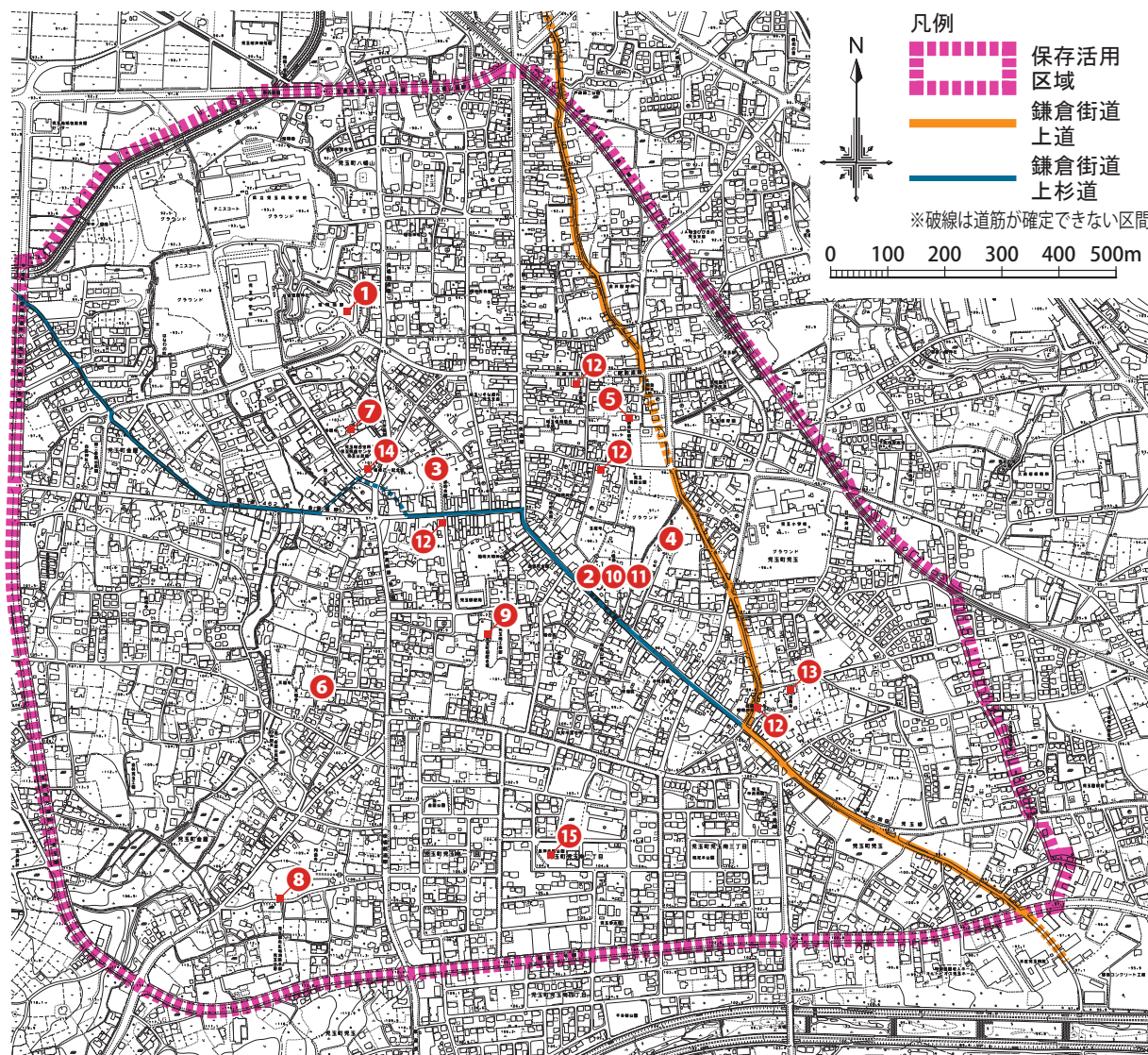
このほか域内には、金屋地区で活躍した近世鋳物師の代表的な作品（天龍寺の銅鐘）や、近世～近代にかけて児玉地域が輩出した偉人ゆかりの地（句碑・筆塚・墓地など）、近代最大の農民蜂起「秩父事件」に関する遺構など地域の歴史を伝える資料が現存しています。昭和3（1928）～9（1934）年、児玉町水道施設工事の一環で建設された児玉町旧配水塔は、町の発展や近代化の面影を現在に伝えています。また、児玉地域の各町が誇る山車・屋台が曳行するこだま秋まつりをはじめとした様々な伝統行事の舞台でもあります。

児玉地域の市街地は、鎌倉街道上道を中心とした武家社会の歴史文化を基盤とし、近世以降は雉岡城の廃城に伴って鎌倉街道に重なる形での児玉街道（中山道脇往還）の整備によって、近代においては地域産業（特に養蚕改良）の中心地として発展を遂げました。中世から近代にかけてのまちの変遷を示す様々な時代・類型の文化財が集積し、地域一帯の歴史文化の縮図をあらわす区域の一つとして総合的・一体的な保存・活用が必要です。

域内にある文化財

番号	名称	指定等区分	種別	概要
1	雉岡城跡	県指定	遺跡	戦国時代初期、関東管領山内上杉氏により鎌倉街道沿いの交通の要衝に築かれた。別名：八幡山城。後北条氏、徳川氏の支配を経て、関ヶ原合戦後に廃城となった。
2	八幡神社の文化財 ◎八幡神社社殿及び銅製鳥居 ●八幡神社隨身門 ●八幡神社能楽殿 ●八幡神社の日清戦争絵馬 ●八幡神社の能装束・能面 ●八幡神社の高札場 ●八幡神社のヤブツバキと社叢林 ・医師中神良甫の筆塚 ・芭蕉句碑 ・川村碩布句碑 ・俳句奉額、相撲奉額	◎県指定 ●市指定 ・未指定	建造物 歴史資料 有形の民俗 遺跡 植物 (歴史資料) (有形の民俗)	源義家が奥州征討の戦勝を祈願し、康平6(1063)年、奥州平定の帰途に八幡宮を勧請したと伝わる。戦国時代初期、雉岡城築城に伴い八幡山から現在地に移転、江戸時代には八幡山町及び児玉町と近郷16か村の総鎮守として信仰された。社殿及び銅製鳥居、隨身門、能楽殿(建造物)、日清戦争絵馬、能装束・能面(美術工芸品)、高札場(遺跡)、ヤブツバキと社叢林(植物)などの指定文化財を所有・管理する。また、境内には眼科医・中神良甫の筆塚、芭蕉句碑、俳人・川村碩布句碑、俳句奉額、相撲奉額などの未指定文化財も所在し、児玉地域における文化財の集積地となっている。
3	實相寺の文化財 ◎木造阿弥陀三尊像 ●實相寺阿弥陀一尊種子板石塔婆 ・医師中神良甫の墓	◎県指定 ●市指定 ・未指定	彫刻 歴史資料 (遺跡)	塙保己一の生家である荻野家の菩提寺。鎌倉時代中期頃の製作と推定される阿弥陀三尊像、文永2(1265)年銘の板石塔婆、眼科医として医療に功績を残し、蓬源堂という寺子屋を開いた中神良甫の墓が所在する。
4	玉蓮寺の文化財 ●玉蓮寺釈迦一尊種子板石塔婆 ・日蓮聖人御足洗の井戸 ・俳人久米逸淵自建の墓、句碑	●市指定 ・未指定	歴史資料 (遺跡)	嘉元2(1304)年造立の板石塔婆は、児玉党の一族・児玉時国の供養塔との伝承がある。門前には日蓮が足を洗ったとされる井戸があり、墓地には児玉出身の俳人・久米逸淵自建の墓と句碑が所在する。
5	競進社模範蚕室	県指定	建造物	養蚕技術の改良に一生を捧げた木村九蔵が、明治27(1894)年に児玉町の競進社蚕業伝習所内に建築。我が国の近代的養蚕業発展に関わった貴重な遺構。
6	◎天龍寺の銅鐘 ・天龍寺山門	◎県指定 ・未指定	美術工芸品 (建造物)	天龍寺の銅鐘は、金屋鋳物師の代表的な作品の一つ。鋳造は宝永8(1711)年で、鋳物匠工の倉林太左衛門金貞・同茂左衛門金珍の名を刻む。山門二階に吊られる。
7	本庄普一墓 (浄眼寺)	未指定	遺跡	浄眼寺は延徳年間(1489-1492)雉岡城主・夏目豊後守定基による再興とされ、医師(眼科・内科・外科)で日本蘭学の祖、本庄普一の墓地が所在する。
8	秩父事件供養塔 (円通寺)	未指定	歴史資料	近代最大の農民蜂起「秩父事件」の死者供養塔。明治17(1884)年児玉町を目指した秩父蜂起軍を高崎鎮台が鎮圧、円通寺が病院・埋葬地となった。
9	児玉町旧配水塔	国登録	建造物	昭和3(1928)～9(1934)年、児玉町水道施設工事の一環で建設。揚水用ポンプ室と筒形高架水槽からなる。旧児玉町内5,000人に水道水を供給した。
10	こだま夏まつり	未指定	無形の民俗	八幡神社末社である八坂神社の大祭にあわせて、旧町内から9基の神輿が繰り出し、児玉地域市街地を繰り歩く。「八坂の祇園祭」とも呼ばれる。
11	こだま秋まつり	未指定	無形の民俗	毎年11月3日。児玉・八幡神社の例大祭の附祭。祭典行事と、御神馬を伴う御神馬行列の巡行に加え、屋台1台、山車3台の曳き回しを行う。
12	児玉の屋台・山車 ●児玉新町の屋台 ●児玉上町の山車 ●児玉仲町の山車 ●児玉本町の山車	●市指定	有形の民俗	江戸時代末期から明治時代、主産業の養蚕に携わる商店主等を中心に、江戸型曳山祭礼を模して、秩父型屋台・江戸型山車が製作された。最盛期には計9台前後の屋台・山車が繰り出す北関東有数の曳山祭礼行事となった。明治10年代末から明治30年代半ばに建造された屋台1台、山車3台が現存する。

13	法養寺の文化財 ●法養寺木造延命地藏尊坐像 ●法養寺の鰐口	●市指定	彫刻 工芸品	法養寺は鎌倉街道上道と上杉道の分岐地点に位置する。鎌倉時代の製作と推定され、古くから信仰を集めた延命地藏尊や、天文2年(1533)銘を持つ鰐口が所在する。
14	塙保己一遺品及び関係資料	県指定	歴史資料	塙保己一の遺品や関係資料98点。母手縫いの巾着、保己一が江戸へ出る際に使用したそうめん箱(お宝箱)、借用証文や告文、愛用の道具類などがある。
15	長沖32号墳	市指定	遺跡	総数200基を超える県内最大規模の長沖・高柳古墳群(県選定重要遺跡)の一角を占める前方後円墳。6世紀中頃に築造された古墳と考えられている。



⑩⑪：代表的な地点として八幡神社を示しました。
 ※■は域内にある文化財の所在地を示します。
 ■がないものは複数の文化財が所在するおおよその位置を示します。

図9-8 保存活用区域1 設定区域及び域内にある文化財分布図

課題

- ・未指定の歴史的建造物(町家・土蔵など)の解体増加や老朽化による倒壊が危惧されています。この結果、児玉の市街地の歴史的景観が失われつつあります。
- ・雉岡城跡の遺構確認のための調査が滞っているため、価値の向上が図られていません。
- ・雉岡城跡の史跡としての保存と活用の指針が定まっています。
- ・拠点施設の一つとして位置づけられる競進社模範蚕室について、保存修理や耐震補強が行われていません。
- ・雉岡城跡の敷地は水がたまりやすく、長く環境整備について市民から改善を求める意見が多く寄せられています。
- ・鎌倉街道上道について、道筋をわかりやすく示し、楽しく散策できるような案内・解説が不足しています。
- ・電柱・電線をはじめ、後年に整備された建築物や構造物が、町並みの景観やこだま秋まつりにおける山車・屋台の曳行を阻害しています。

方針

- ・鎌倉街道上道一帯が持つ町並みとしての価値を明らかにします。
- ・雉岡城跡の遺構確認のための調査を実施し、価値の向上と明確化を図ります。調査の成果を公開するとともに、今後の保存と活用を図ります。
- ・雉岡城跡の保存・活用に向けて、文化財(史跡)としての保存・景観の回復と、桜の名所として親しまれてきた市民の憩いの場としての活用を両立した指針を定めます。
- ・競進社模範蚕室の保存修理・耐震補強工事を実施することで、建物の安全性を向上し、活用の幅を広げます。
- ・雉岡城跡における排水不備の原因を明らかにし、史跡としての保存と活用を両立した整備を進めます。
- ・鎌倉街道上道一帯の案内・解説を見直し、地域の歴史に関する来街者の興味・関心を創出します。
- ・八幡神社の祭礼行事とその附祭の舞台でもある町並みの景観改善を図ります。

措置

目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体					財源
				前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民	団体	
調査・研究	1-②-1 1-③-1	鎌倉街道上道町並み調査事業	鎌倉街道上道一帯に所在する未指定の歴史的建造物等の把握調査を実施する。特徴的な建造物については、詳細調査を実施し、文化財の指定・登録を推進する。	■	■	■	◎	○	○	○		市費
	1-④-2	雉岡城跡遺構調査事業	雉岡城跡の遺構確認のための調査を実施し、保存・活用の基礎資料とする。	■	■	■	◎	○				市費 県補助
保存・継承	2-③-2	雉岡城跡保存活用計画策定事業	雉岡城跡の保存活用計画を策定し、計画を実行に移す。	■	■	■	◎	○				市費 県補助
	2-⑥-1	競進社模範蚕室耐震補強事業	競進社模範蚕室の見学者の安全確保に向けて、耐震補強工事を実施する。	■	■	■	◎	○				市費 県補助
教育・学習・体験	3-⑧-5	雉岡城跡排水問題調査・整備事業	雉岡城跡の排水不備の原因を調査・特定し、文化財価値に影響のない方法による排水整備を行う。	■	■	■	◎	○				市費 県補助
	3-⑧-6	鎌倉街道上道町並み環境整備事業	鎌倉街道上道における歴史的景観の改善を図る。歴史的建造物や町並みの保存・美化を促す。鎌倉街道上道の道筋と周辺文化財を解説する案内板を整備する。	■	■	■	◎	○	○	○	○	市費 国補助
	3-⑧-7	鎌倉街道上道電線地中化事業	鎌倉街道上道の町並みやこだま秋まつりの山車・屋台をより綺麗に見せるために電線の地中化を図る。	■	■	■	◎				◎	市費 国補助

凡例 ◆事業番号 親番号と丸番号は第5～8章に前掲した措置の事業番号と整合し、最後の枝番号はその中の通し番号を示します。

◆事業計画期間 前期：令和5（2023）～令和7（2025）年度 中期：令和8（2026）～令和11（2029）年度
後期：令和12（2030）～令和14（2032）年度

◆取組主体 行政：本庄市（国、埼玉県との協働を含む） 市民：本庄市民 ◎：主として取り組む主体
専門家・大学等：大学、博物館、研究者など 団体：保存活用支援団体、市民活動団体、 ○：協力して取り組む主体
所有者・管理者：文化財の所有者・管理者・保護団体など 各種団体、協議会、企業など

保存活用区域2

中山道本庄宿 一城下町から宿場町・繭市場への発展一

目的

本庄宿を保存活用区域に設定し、城下町としての名残、宿場町や繭市場としての興隆を示す建造物、歴史資料、遺跡などを一体的に捉え、町並み整備とまちづくりへ活かします。

概要

本庄地域の市街地の中でも JR 本庄駅北側の地域は、弘治2（1556）年、武蔵武士児玉党の後裔・本庄実忠が築城した本庄城の城下町を基盤とするもので、本庄城跡をはじめ、築城に際して植えられた古木、歴代城主に関わる社寺などがその名残を示しています。

江戸時代以降になると、この地域は中山道の宿場町・本庄宿として発展しました。慶長8（1603）年、徳川家康が征夷大將軍に任官し江戸幕府が創立されると、江戸と京都・大坂などを結ぶ交通網の整備は領国経営の上でも重要な施策となり、慶長9（1604）年には日本橋を起点と定め、政治的・軍事的に重要な5つの街道を幕府直轄としました。幕府安泰・江戸防衛を目的として街道の要所に関所を置いて通行人を取締り、朱印状によって各宿場に伝馬の常備を義務付け、宿場や一里塚の設置などの整備が行われ、道は拡幅をはじめ、砂利や砂等を敷いて路面を固めたり、並木を植えるなど通行者の便宜が図られました。これが、後に「五街道」と称される東海道、日光街道（日光道中）、奥州街道（奥州道中）、中山道、甲州街道（甲州道中）の整備です。このうち、中山道は江戸日本橋から内陸を經由して高崎・下諏訪・妻籠を経て草津に至り、草津追分以西は京都三条大橋に至る街道で、道筋には江戸から草津までの間に67の宿場が、これに草津・大津を加えて合計69の宿場が設けられました。

本庄宿は、江戸から22里（約88km）、10番目に位置した中山道における武蔵国最後の宿場であり、利根川水運の集積地としての経済効果もあいまって、旅籠・商店などが立ち並ぶ中山道最大規模の宿場として大いににぎわいました。天保14（1843）年の「中山道宿村大概帳」によれば、家数1,212軒、うち本陣2軒、脇本陣2軒、旅籠70軒、宿内人口4,554人を誇ったとされます。

現在は、宿場に置かれた二つの本陣の一つである田村本陣の門、街道整備に伴って遷座された金鑽神社のほか、開善寺には本庄城主の小笠原信嶺夫妻とその後を継いだ小笠原信之の墓、安養院には本堂・山門・総門のほか江戸時代末期に料亭紅葉屋を営み、交流を持った文人墨客達の遺墨を刻んだ小倉家の墓碑群などが所在し、中山道の歴史と文物の交流を伝えています。

また、江戸時代以降の本庄市域にはいくつかの繭市場が開かれ、本庄宿もそのうちの一つとして繭・生糸の取引が盛んに行われました。明治時代以降も養蚕の隆盛とともに取引量が増大し、かつて本庄宿として栄えた中山道沿いの地域は、繭の一大集散地として発展しました。発展の背景には、明治5（1872）年の官営富岡製糸場の開設による影響もあり、同所長・尾高淳忠が原料繭の仕入れのために本庄に出張し、開善寺を借り受け、生繭の買付場としたことが本格的な繭市場の始まりとされています。明治16（1883）年には日本鉄道本庄駅が開業し、路線の延長によって信州地域の製糸会社の進出が進み、より一層市場がにぎわいました。

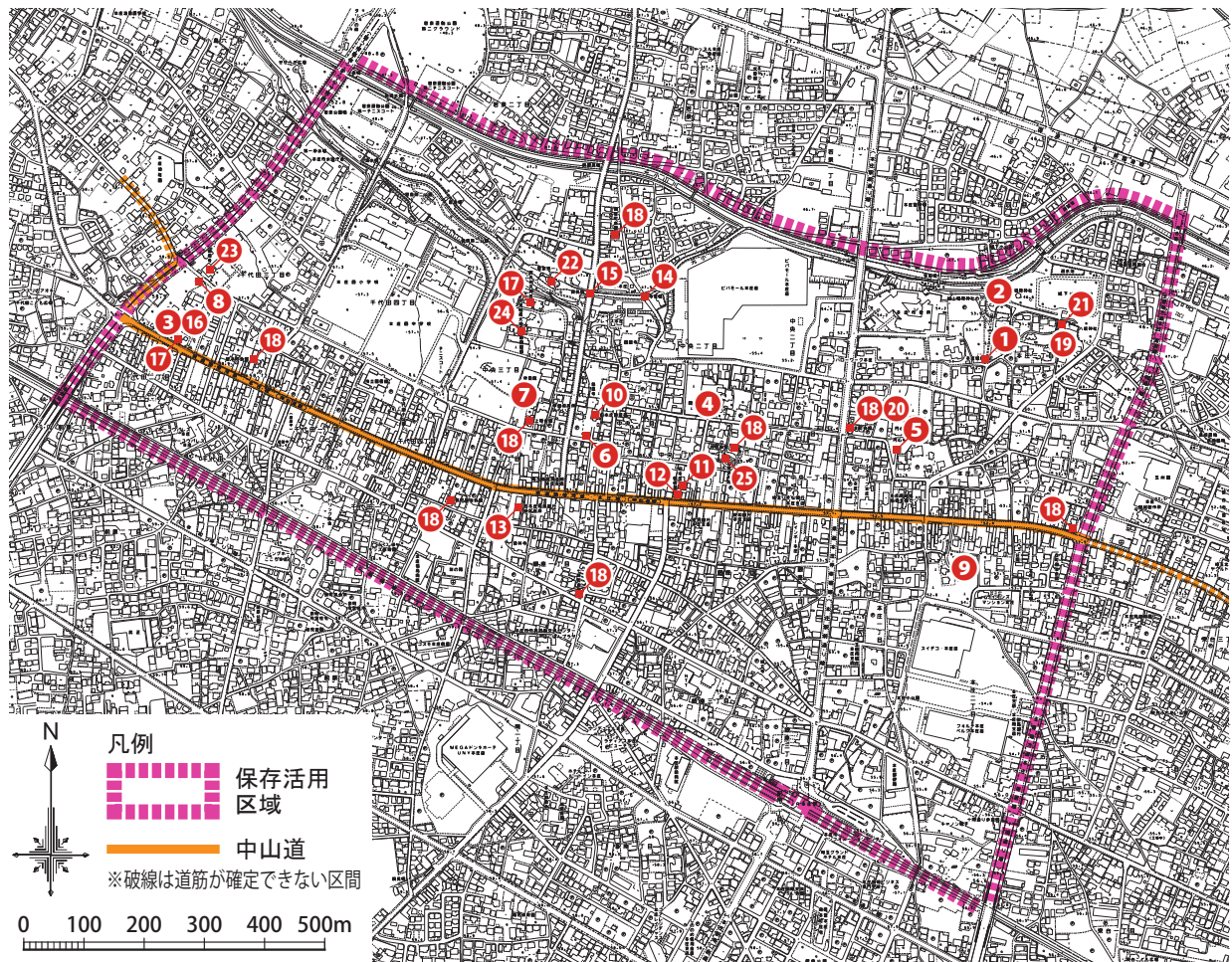
近代に繭の集散地として栄えた結果、中山道沿いには西洋様式を取り入れた建築が建てられました。旧本庄警察署・諸井家住宅・旧本庄仲町郵便局・旧本庄商業銀行煉瓦倉庫といった指定等文化財のほか、未指定の建築物にも現存するものがあります。このほか交通の利便性を図るために整備された近代的な橋などが点在しており、近代の様相を現在に伝えています。また、特に町の拡大が進んだ18世紀以降は火災被害が度重なったことを背景に防火建築（煉瓦造・土蔵造・卯建）が普及した様子もうかがえます。

中山道沿いの地域は、本庄城の城下町を基盤に、中山道の整備や利根川水運に伴う人・物・文化が集積する宿場として江戸時代を通じて発展し、近代における絹産業の発展により興隆を極めました。中世から近代にかけてのまちの発展の経過を示す文化財が現存・集積しており、また、中山道沿いに位置する10町が誇る山車が曳行する本庄まつりなど市民による伝統行事の舞台でもあります。この地域は、現在も本市の文化的中心地の一つとして歴史的景観を後世に伝える役割を担っています。

域内にある文化財

番号	名称	指定等区分	種別	概要
1	本庄城跡	市指定	遺跡	弘治2(1556)年、武蔵武士児玉党の後裔・本庄実忠が築城、小田原北条氏、小笠原氏が城主となったのち、慶長17(1612)年、小笠原氏が下総国へ転封となり廃城。
2	城山稲荷神社の文化財 ◎城山稲荷神社のケヤキ ●城山稲荷神社のヤブツバキ	◎県指定 ●市指定	植物	城山稲荷神社に所在するケヤキとヤブツバキは、いずれも弘治2(1556)年に本庄実忠が本庄城を築城した際に植えられたものとされる。ケヤキの樹齢はおよそ460年と推定され、関東でも有数の古木。ヤブツバキは、西本庄の地より椿稲荷を現在地に移したことに因んだものと伝わっている。
3	金鑽神社の文化財 ◎本庄金鑽神社社殿 ◎金鑽神社のクスノキ ●本庄金鑽神社大門 ●小笠原忠貴筆建立祈願文 ●本庄金鑽神社のカヤ	◎県指定 ●市指定	建造物 古文書 植物	古代から中世にかけて武蔵武士の児玉党が氏神として信奉した。弘治2(1556)年に本庄城を築いた本庄実忠により勧請され、後の城主・小笠原信嶺により本庄領の総鎮守とされた。中山道整備に伴い現在地に移されたとされ、寛永16(1639)年、小笠原忠貴(政信)による社殿寄進の祈願文が残っている。現存する社殿は、本殿：享保9(1724)年、幣殿：嘉永3(1850)年、拝殿：安永7(1778)年の建築で、幣殿格天井には武正南廬や小倉紅於ら郷土の画家・絵師による花鳥画が画かれている。他に同社別当寺・金鑽山威徳院白蓮寺の総門だった大門やクスノキ・カヤなどの指定等文化財が所在する。
4	開善寺の文化財 ◎絹本着色清拙正澄画像 ●紙本着色武田信玄公画像 ●開善寺境内絵図 ●開善寺の御朱印箱 ●小笠原信嶺夫妻の墓 ●小笠原信之の墓	◎県指定 ●市指定	歴史資料 遺跡	開善寺は武田信玄の甥・球山宗温禅師の開山で、信州松尾の開善寺を開山した清拙正澄の頂相や信玄の肖像画が伝わる。また、本庄城主小笠原氏の菩提寺で、小笠原信嶺夫妻・小笠原信之の墓が所在する。小笠原氏が下総国古河へ転封後も本庄宿で格式高い寺院として位置づけられ、家光以降歴代将軍家より賜った朱印状を納めた箱や現在の5倍近い寺域を示す境内絵図が残る。 なお、近代においては、富岡製糸場所長・尾高惇忠が原料繭の仕入れのために本庄に出張した際、同寺を借り受けて生繭の買付場としたことが、本庄宿の繭市場の始まりとされる。
5	円心寺山門	市指定	建造物	本庄城主・小笠原信之が実父・酒井左衛門尉忠次の冥福を祈るために慶長8(1603)年建立。山門は天明年間(1781-1789)の建立と伝わっている。
6	田村本陣の門	市指定	建造物	本庄宿に二つ所在した本陣のうち北本陣と呼ばれた田村本陣の門。旧来の所在地から現在の旧本庄警察署の前に移築された。
7	安養院の文化財 ●安養院本堂・山門及び総門 ●小倉家の墓碑群	●市指定	建造物 遺跡	本堂は寛政2(1790)年再建で、市内に現存する寺院建築で最大規模を持つ。山門は元禄15(1702)年、総門は享保元(1716)年に再建された。江戸時代末期に料亭紅葉屋を営んだ小倉家の墓地があり、交流を持った文人墨客達の遺墨を刻んだ墓碑群が所在する。
8	茂木小平翁頌徳碑	市指定	歴史資料	茂木小平は天保7(1836)年上仁手村生まれ。青年期に江戸で漢学を修め、利根川上組蚕種製造組合頭取や仁手村長を務めるなど行政・産業面で活躍した。
9	大正院の文化財 ●大正院の不動剣 ・蚕蛹供養塔	●市指定 ・未指定	工芸品 歴史資料	大正院の不動剣は、不動堂建立の際に奉納されたもので、幕末から明治時代にかけて本庄宿で活躍した刀鍛冶・長谷部若狭守國治の作。境内には、大正12(1923)年に製糸所や糸繭商が建てた、生糸採取で処分される蚕蛹の供養塔が所在し、蚕糸業で繁栄した中山道の様子を今に伝える。
10	旧本庄警察署	県指定	建造物	明治16(1883)年に建設されたコリント式オーダーの柱を持つ洋風建築。昭和10(1935)年の新庁舎建設・移転まで使用され、その後は様々な施設として利用された。

11	諸井家住宅	県指定	建造物	明治時代初期の近代郵便発足にあたり取締役を務めた旧家。秩父セメント創始者：恒平、書家：春畦、旧西武・秩父鉄道役員：四郎、外交官：六郎などを輩出。
12	旧本庄仲町郵便局	国登録	建造物	昭和9（1934）年建設の郵便局舎。外観はスクラッチタイル張りの看板建築で、側壁に防火の煉瓦壁を廻す。内部は漆喰塗りで当時の照明器具も現存。
13	旧本庄商業銀行煉瓦倉庫	国登録	建造物	本庄商業銀行の担保用繭の倉庫として明治29（1896）年に建築。中山道沿いが繭の集散地としてにぎわった様子を今に伝える貴重な煉瓦造建造物。
14	寺坂橋	国登録	建造物	中山道から山王堂河岸（利根川舟運）を結ぶ幹線道路であった旧伊勢崎道に架けられた石造アーチ橋。現在使用される道路橋としては県内最古のもの。
15	賀美橋	国登録	建造物	大正15（1926）年、元小山川に架けられた鉄筋コンクリート桁橋。伊勢崎新道の開設に際し架橋され、生糸・織物業関係者の通行改善が図られた。
16	本庄まつり	未指定	無形の民俗	毎年11月2・3日に行われる本庄・金鑽神社の例大祭の附祭。江戸時代から祭礼が行われた記録が残る。明治時代以降、附祭として山車の曳き回しを行う。
17	金鑽神楽本庄組	市指定	無形の民俗	江戸時代から続く太々神楽で、金鑽神楽13組の一つ。文政8（1825）年の免許状が残されている。金鑽神社、阿夫利天神社、諏訪神社で奉納される。
18	本庄の山車 ●本庄宮本町の山車 ●本庄泉町の山車 ●本庄上町の山車 ●本庄照若町の山車 ●本庄七軒町の山車 ●本庄仲町の山車 ●本庄本町の山車 ●本庄台町の山車	●市指定	有形の民俗	明治時代初期の旦那衆が江戸文化を取り入れて、金鑽神社例大祭の附祭として参加した。10台の山車のうち8台が明治5（1872）年から大正13（1924）年までに製作された。山車・人形の製作者が明らかである。4輪台車の上に囃子座と人形座をのせる江戸型山車の形式とする。人形座と人形が迫り出すカラクリを持つ。精巧な彫刻や漆塗り、金箔や彫金を持ち、華麗な文様の幕類で飾られる。
19	本庄祇園まつり	未指定	無形の民俗	八坂神社で疫病を追い払うため、各町内の神輿が巡行するほか、境内で獅子舞が奉納される。現在は海の日直前の土日に開催。
20	本庄本町の神輿	市指定	有形の民俗	明和4（1767）年製作。本庄祇園まつりの神輿渡御で用いられた。現在は、昭和5（1930）年に新調された神輿による渡御が行れ、本神輿は御仮舎に安置される。
21	台町の獅子舞	県指定	無形の民俗	寛文3（1663）年に台町八坂神社の氏子有志が奉納を始めた。寛文8（1668）年以降、歴代の獅子頭も保管される（現在は昭和60（1985）年製作の4代目を使用）。
22	お姿流し	未指定	無形の民俗	金鑽神社の「茅の輪くぐり」をして無病息災を願い、神社の飛地の若泉公園（元小山川）において、自分の身の穢れを形代に込めて水に流し去る行事。
23	高尾山だるま市	未指定	無形の民俗	1月2日に高尾山佛母寺で行われる新年恒例のだるま市。露店にはだるまのほか招き猫や干支人形などが並び多くの人でにぎわう。
24	普寛上人の墓 （普寛霊場）	市指定	遺跡	普寛上人は天台宗修験者。木曾御嶽山を開山した。享和元（1801）年本庄宿で死去・埋葬、大正11（1922）年に霊堂・墓地を現在地に移転した。
25	仲町愛宕神社のケヤキ	市指定	植物	仲町愛宕神社は、古墳の上に祀られており、ケヤキは社殿に至る石段の左手に御神木として所在する。



- 16：代表的な地点として金鑽神社を示しました。
- 19：代表的な地点として八坂神社を示しました。
- ※■は域内にある文化財の所在地を示します。
- がないものは複数の文化財が所在するおおよその位置を示します。

図 9-9 保存活用区域 2 設定区域及び域内にある文化財分布図

課題

- ・未指定の歴史的建造物(町家・土蔵など)の解体増加や老朽化による倒壊が危惧されています。この結果、本庄の市街地の歴史的景観が失われつつあります。
- ・歴史民俗資料館の閉館に伴い非公開となった旧本庄警察署について、保存修理や耐震補強が行われていません。また、その後の活用の目途が立っていません。
- ・田村本陣の門が強風で傷み、倒壊の危険があります。また、移築によって建築当初とは異なる旧本庄警察所の前にありますが、歴史的背景や価値等の情報発信が十分に行われていません。
- ・諸井家住宅が個人所有であることに加え、耐震補強が必要であることから非公開となっています。
- ・旧本庄仲町郵便局の郵便局機能が移転し、今後の活用方法が定まっていません。
- ・本庄宿がかつて中山道一の宿場町だったことを伝えるサインの設置や町並み整備が行われていません。
- ・電柱・電線をはじめ、後年に整備された建築物や構造物が、町並みの景観や本庄まつりにおける山車の曳行を阻害しています。

方針

- ・本庄宿一帯が持つ町並みとしての価値を明らかにします。
- ・歴史民俗資料館の閉館に伴って非公開となった旧本庄警察署の保存・活用・整備方法を定めます。また、田村本陣の門を含め、中山道散策の拠点となるよう整備を進めます。
- ・保存修理や耐震補強が必要な主要な文化財について、所有者や埼玉県と連携して優先順位を定め、計画的な保存修理や耐震補強を行い、安全性を確保した上での利用・公開を目指します。
- ・本庄宿の活性化につながるような旧本庄仲町郵便局の活用方法を検討します。
- ・来街者に対し本庄宿の歴史やかつての宿場の様子について解説を行い、興味・関心を創出します。
- ・本庄まつりの舞台でもある町並みの景観改善を図ります。

措置

目的	事業番号	事業名	事業内容	事業計画期間			取組主体					財源
				前期	中期	後期	行政	専門家 大学等	所有者 管理者	市民	団体	
調査・研究	1-②-2 1-③-2	本庄宿町並み調査事業	本庄宿に所在する未指定の歴史的建造物等の把握調査を実施する。 特徴的な建造物については、詳細調査を実施し、文化財の指定・登録を推進する。	■	■	■	◎	○	○	○		市費
保存・継承	2-③-3 2-⑥-3	旧本庄警察署及び田村本陣の門保存・活用事業	旧本庄警察署及び田村本陣の門の保存活用計画を策定し、計画を実行に移す。	■	■	■	◎	○				市費 県補助
	2-③-4 2-⑥-4	諸井家住宅及び旧本庄仲町郵便局活用検討事業	所有者や埼玉県と連携し、個別の保存活用計画を策定し、計画を実行に移す。	■	■	■	○	○	◎			国・県・市補助
教育・学習・体験	3-⑧-8	本庄宿町並み環境整備事業	本庄宿における歴史的景観の改善を図る。 歴史的建造物や町並みの保存・美装化を促す。 かつての本庄宿の様子を伝える解説・写真等を配置した案内板を整備する。	■	■	■	◎	○	○	○	○	市費 国補助
	3-⑧-9	中山道電線地中化事業	町並みや本庄まつりの山車をより綺麗に見せるために電線の地中化を図る。	■	■	■	◎				◎	市費 国補助

- 凡例 ◆事業番号 親番号と丸番号は第5～8章に前掲した措置の事業番号と整合し、最後の枝番号はその中の通し番号を示します。
- ◆事業計画期間 前期：令和5（2023）～令和7（2025）年度 中期：令和8（2026）～令和11（2029）年度
後期：令和12（2030）～令和14（2032）年度
- ◆取組主体 行政：本庄市（国、埼玉県との協働を含む） 市民：本庄市民
専門家・大学等：大学、博物館、研究者など 団体：保存活用支援団体、市民活動団体、
所有者・管理者：文化財の所有者・管理者・保護団体など 各種団体、協議会、企業など
- ◎：主として取り組む主体
○：協力して取り組む主体

第10章 重点施策

文化財保存活用地域計画における各取組は、文化財の保存・活用を通して、様々な市政に寄与するものです。本計画で示した取組が、上位計画である「本庄市総合振興計画（後期基本計画）」に定められた各施策とどのような関係性にあるか [図 10-2]、[表 10-1] に示しました。

各取組の中から、「本庄市総合振興計画（後期基本計画）」との関連性や、文化財の保存・活用に向けて急務又は重要な施策について以下に示し、本計画の重点施策として位置づけ、計画期間において優先的に実施していくこととします。

1) 文化財の調査・研究

文化財の保存・活用を市民協働で進めていくためには、市民自らが守り伝えたい文化財を行政が把握することが必要であるため、「1-③ 文化財の市民遺産登録・認定制度の創設」を重点施策として位置づけます。

2) 文化財の保存・継承

文化財の保存・継承に関わる取組の中でも、最も重要なものは文化財の存続に関わるものであることから、「2-④ 文化財保管施設改修事業」「2-⑥ 建造物保存修理・史跡整備事業」「2-⑦ 無形の民俗文化財後継者養成事業」「2-⑧ 無形の民俗文化財記録等作成事業」を重点施策として位置づけます。

3) 文化財の防災・防犯

文化財の防災・防犯に際しては、保存・継承と同様、文化財の存続に関わるものが重要な施策であることから「2-⑪ 文化財防災・防犯設備設置補助・支援事業」を重点施策として位置づけます。

4) 歴史文化の魅力発信・拠点整備

本市に所在する多種多様な文化財を後世に継承するため、関連文化財群・保存活用区域に基づいた文化財の総合的・一体的な保存・活用を図り、重点的な維持・保存に努めます。そして、市民への普及啓発を行い、観光振興の分野とも連携することで、歴史文化の魅力を生かしたまちづくりにつなげていきます。

また、令和2（2020）年に開館した「本庄早稲田の杜ミュージアム」を、本市の歴史文化の発信拠点・メインガイダンス施設として位置づけるとともに、各地域に関連文化財群・保存活用区域に基づく歴史文化を発信するサテライト施設を定めます

[図 10-1]。各施設が価値の理解（学習・体験）や観光拠点（個別の文化財への誘導）を担い、相互連携による総合的展示体制（ネットワーク化）を整えるため、「3-④ 歴史文化解説拠点施設検討事業」を重点施策として位置づけます。



写真 10-1 「本庄早稲田の杜ミュージアム」

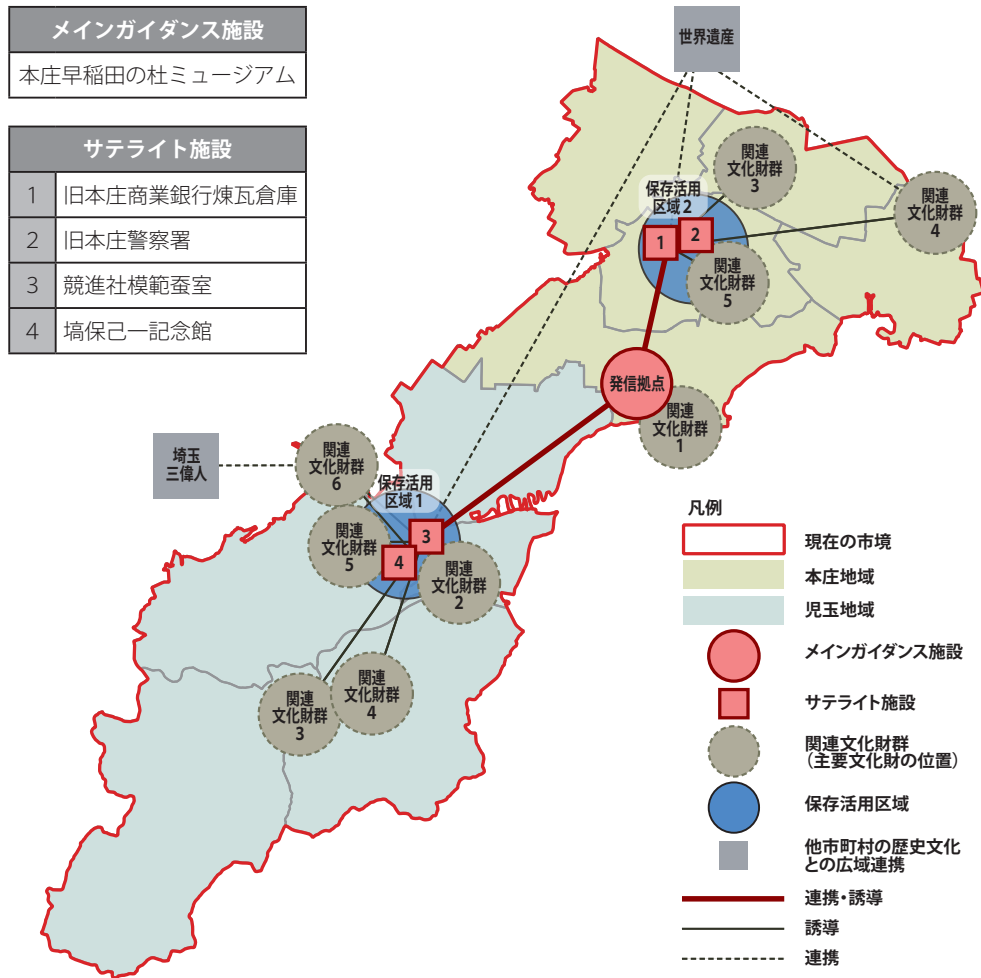


図 10-1 歴史文化の魅力発信・拠点整備のイメージ図

5) 文化財の教育・学習・体験

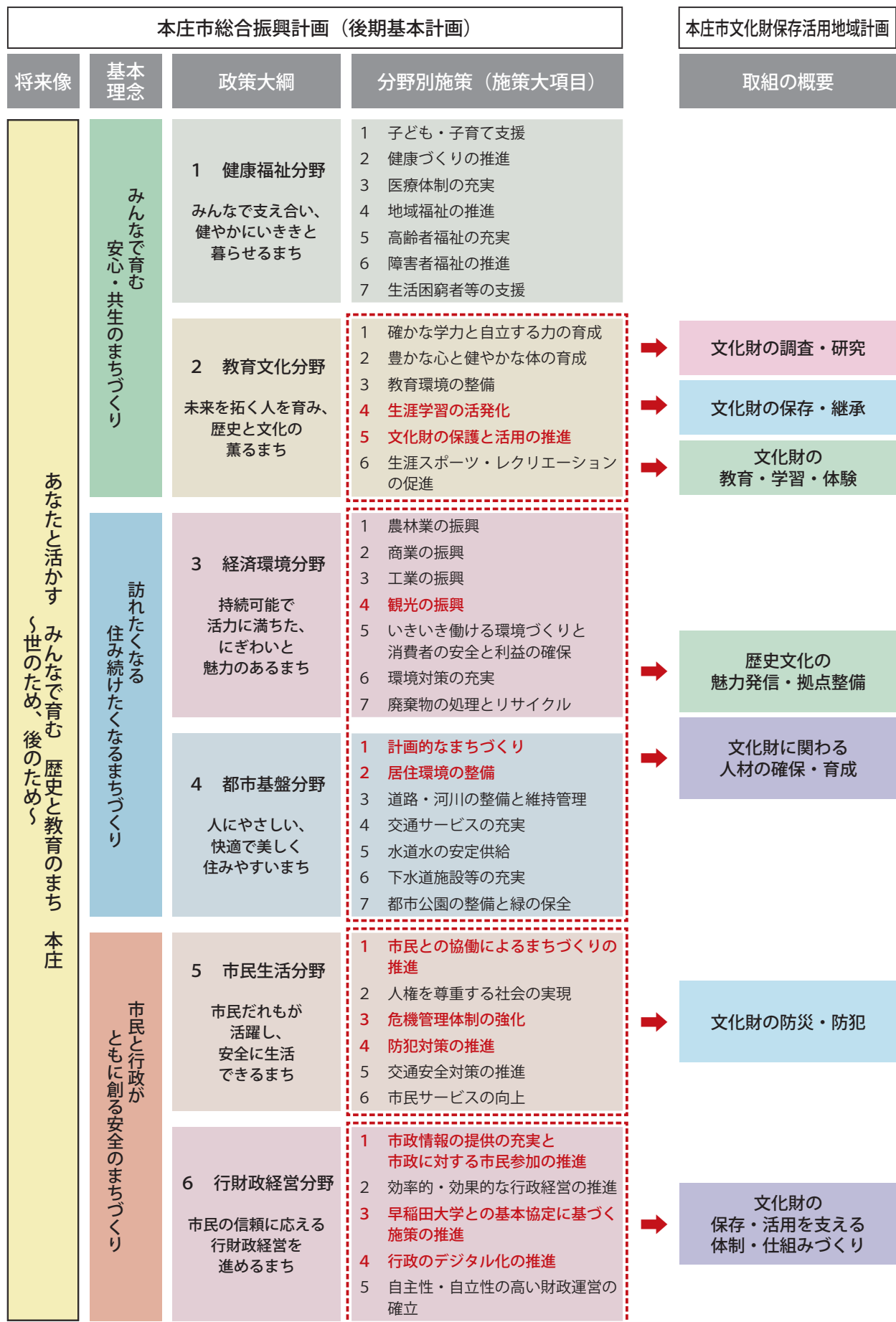
文化財を教育・学習・体験に向けて活用を図るためには、文化財の見学環境を整える必要性があることから、「3-⑧ 文化財公開・活用環境整備事業」を重点施策として位置づけます。

6) 文化財に関わる人材の確保・育成

本市における文化財の保存・活用之际には、官民における専門的な人材の確保・育成が大きな課題となっていることから、「4-② 文化財保存活用支援団体指定制度の創設」「4-⑥ 次世代の専門人材育成事業」を重点施策として位置づけます。

7) 文化財の保存・活用を支える体制・仕組みづくり

文化財の保存・活用に関する産学官民のネットワーク組織を整備し、様々な地域連携事業の推進を図るため、「4-⑧ 文化財ネットワーク組織整備事業」を重点施策として位置づけます。



※総合振興計画における赤字が文化財保存活用地域計画との関連性のある施策を示します。

図 10-2 総合振興計画と文化財保存活用地域計画の関連性

表 10-1 文化財保存活用地域計画の措置一覧と重点施策

※「総合振興計画との関連」欄は同計画における「政策大綱」-「分野別施策（施策大項目）」の番号を示します（図 10-2 参照）。

※重点施策欄凡例 ●：重点施策 ○：関連施策（重点施策の推進に向けて必要な施策）

目的	事業番号	事業名	総合振興計画との関連	重点施策
調査・研究	1-①	未指定文化財の把握調査・データベース整理事業	2-5	
	1-②	未指定文化財の現況確認（追跡調査）事業		
	1-③	市民遺産登録・認定制度の創設	5-1 / 6-1	●
	1-④	文化財詳細調査及び報告書作成事業	2-5 / 3-4	○
	1-⑤	指定・登録等の推進によるまちづくり連携事業	2-5	○
保存・継承	2-①	指定等文化財現状報告体制整備事業		
	2-②	文化財保護指導員制度の創設		
	2-③	指定等文化財保存活用計画策定推進事業	2-5	○
	2-④	文化財保管施設改修事業	4-2 / 5-3 / 5-4	●
	2-⑤	新収蔵庫新設事業	2-5	○
	2-⑥	建造物保存修理・史跡整備事業	2-5 / 4-2	●
	2-⑦	無形の民俗文化財後継者養成事業	2-5 / 3-4	●
	2-⑧	無形の民俗文化財記録等作成事業	3-4	●
防災・防犯	2-⑨	文化財の防災・防犯対策検討事業	5-3 / 5-4	
	2-⑩	文化財防災・防犯設備設置状況確認事業	5-3 / 5-4	○
	2-⑪	文化財防災・防犯設備設置補助・支援事業	5-3 / 5-4	●
	2-⑫	文化財防災・防犯意識啓発事業	5-3 / 5-4	
	2-⑬	文化財防災・防犯地域連携事業	5-1 / 5-3 / 5-4	○
	2-⑭	災害・犯罪対応マニュアル作成事業	5-3 / 5-4	
	2-⑮	文化財レスキュー体制整備事業	5-3 / 5-4	○
魅力発信・拠点整備	3-①	先端技術・ICTを活用した文化財保存・活用事業	2-5 / 3-4 / 6-1 / 6-4	
	3-②	文化財関係冊子刊行頒布事業	2-5	
	3-③	歴史文化の観光連携事業	3-4	
	3-④	歴史文化解説拠点施設検討事業		●
教育・学習・体験	3-⑤	子どものための文化財体験活用事業		
	3-⑥	学校教育活用事業	2-5	
	3-⑦	生涯学習活用事業	2-4 / 2-5	
	3-⑧	文化財公開・活用環境整備事業	2-5 / 3-4 / 4-1	●
	3-⑨	文化財特別公開事業	2-4 / 2-5	○
	3-⑩	参加体験型活用推進事業	2-5	○
人材の確保・育成	4-①	文化財相談窓口の設置		
	4-②	文化財保存活用支援団体指定制度の創設		●
	4-③	市民協働による文化財保存・活用事業	5-1 / 6-1	○
	4-④	文化財案内ボランティア育成事業	5-1	
	4-⑤	顕彰制度の創設		
	4-⑥	次世代の専門人材育成事業	6-3	●
体制・仕組み	4-⑦	専門職員の採用と育成		
	4-⑧	文化財ネットワーク組織整備事業	2-4 / 5-1 / 6-1 / 6-3	●
	4-⑨	資金調達の仕組みづくり		○
	4-⑩	関連文化財群広域連携事業	3-4	○

目的	事業番号	事業名	総合振興計画との関連	重点施策
関連文化財群 1	3-①-1	先端技術を活用した埋蔵文化財の保存・活用事業	2-5 / 3-4 / 6-1 / 6-4	
	3-③-1 3-④-1	遺跡の公開・活用推進事業	3-4	○
関連文化財群 2	3-②-1 3-⑦-1	板碑の魅力普及啓発事業	2-4 / 2-5	
	3-③-2 3-⑧-1	板碑見学サイン・周遊ルート作成事業	2-5 / 3-4 / 4-1	○
関連文化財群 3	1-①-1	農業に関する文化財調査事業	2-5	
	3-⑧-2	農業・水資源に関する文化財の周知及び公開・活用環境整備事業	2-5 / 3-4 / 4-1	●
	3-③-3	地域の特徴ある郷土食・特産品の歴史・魅力発信事業	3-4	
関連文化財群 4	2-⑥-1	競進社模範蚕室耐震補強事業	2-5 / 4-2	●
	3-④-2 3-⑧-3	競進社模範蚕室展示整備事業	2-5 / 3-4 / 4-1	●
	4-⑧-1	教育機関と連携した活用事業	2-4 / 5-1 / 6-1 / 6-3	○
関連文化財群 5	1-④-1	本庄まつり調査・報告書作成事業	2-5 / 3-4	
	2-③-1	山車・屋台保存活用計画作成事業	2-5	○
	2-④-1	山車・屋台保管施設改修事業	2-5	●
	2-⑦-1	無形の民俗文化財後継者養成事業	2-5 / 3-4	○
	2-⑧-1	無形の民俗文化財記録保存調査事業	3-4	●
	2-⑩-1 2-⑪-1	山車・屋台保管施設防災・防犯対策事業	5-3 / 5-4	●
	3-③-4 4-⑧-2	祭りの活性化事業	2-4 / 3-4 / 5-1 / 6-1 / 6-3	●
	3-⑨-1 3-⑩-1	無形の民俗文化財体験事業	2-4 / 2-5	○
	4-⑨	資金調達の仕組みづくり		○
関連文化財群 6	2-⑥-2	塙保己一旧宅耐震補強事業	2-5 / 4-2	●
	3-⑧-4 4-⑩-1	塙保己一関連文化財活用整備事業	2-5 / 3-4 / 4-1	○
保存活用区域 1	1-②-1 1-③-1	鎌倉街道上道町並み調査事業	4-1 / 5-1 / 6-1	●
	1-④-2	雉岡城跡遺構調査事業	2-5 / 3-4	○
	2-③-2	雉岡城跡保存活用計画策定事業	2-5	
	2-⑥-1	競進社模範蚕室耐震補強事業	2-5 / 4-2	●
	3-⑧-5	雉岡城跡排水問題調査・整備事業	2-5 / 3-4 / 4-1	○
	3-⑧-6	鎌倉街道上道町並み環境整備事業	2-5 / 3-4 / 4-1 / 4-2	●
	3-⑧-7	鎌倉街道上道電線地中化事業	2-5 / 3-4 / 4-1	
保存活用区域 2	1-②-2 1-③-2	本庄宿町並み調査事業	4-1 / 5-1 / 6-1	●
	2-③-3 2-⑥-3	旧本庄警察署及び田村本陣の門保存・活用事業	2-5 / 4-2	●
	2-③-4 2-⑥-4	諸井家住宅及び旧本庄仲町郵便局活用検討事業	2-5 / 4-2	○
	3-⑧-8	本庄宿町並み環境整備事業	2-5 / 3-4 / 4-1 / 4-2	●
	3-⑧-9	中山道電線地中化事業	2-5 / 3-4 / 4-1	

卷末資料 1 指定等文化財リスト

指定別	類型	種別	番号	名称	指定・登録年月日	所有者又は管理者等	所在地	時代
国指定	記念物	史跡	1	塙保己一旧宅	1944.11.13	個人	児玉町保木野 325	近世
県指定	有形文化財	建造物	2	競進社模範蚕室	1970.3.30	本庄市	児玉町児玉 2514-27	近代
			3	旧本庄警察署	1972.3.28	本庄市	中央 1-2-3	近代
			4	八幡神社社殿及び銅製鳥居	1990.3.28	八幡神社	児玉町児玉 198	近世
			5	諸井家住宅	1998.3.17	(株)諸井家	中央 1-8-1	近代
			6	本庄金鑽神社社殿	2017.3.24	金鑽神社	千代田 3-2-3	近世
			美術工芸品	絵画	7	絹本着色清拙正澄画像	2016.3.15	開善寺
	彫刻	8			木造阿弥陀三尊像	1984.3.27	實相寺	児玉町児玉 100
	工芸品	9		天龍寺の銅鐘	1964.3.29	天龍寺	児玉町金屋 142-1	近世
	考古資料	10		元田の板石塔婆	1965.3.16	元田自治会	児玉町元田 263	中世
	歴史資料	11		塙保己一遺品及び関係資料	1991.3.15	本庄市	児玉町八幡山 368	近世
	民俗文化財	無形民俗文化財	12	台町の獅子舞	1993.3.10	台町獅子舞保存会	本庄	近世～現代
記念物	史跡	13	雉岡城跡	1938.3.31	本庄市	児玉町八幡山 446 ほか	中世	
		14	鷺山古墳	2001.3.16	本庄市	児玉町下浅見 819-12 ほか	古代	
		15	宥勝寺裏埴輪窯跡 付靱形埴輪 4点	2009.3.17	本庄市	早稲田の杜 1丁目13	古代	
	天然記念物	16	骨波田のフジ	1959.3.20	長泉寺	児玉町高柳 901	近世	
		17	金鑽神社のクスノキ	1969.3.31	金鑽神社	千代田 3-2-3	近世	
		18	城山稻荷神社のケヤキ	1969.3.31	城山稻荷神社	本庄 3-5	中世	
	旧跡	19	岡登景能の生地	1961.9.1	個人	児玉町高柳 146-5	近世	
		20	飯倉御厨跡	1962.10.1	住吉神社 氏子総代	児玉町飯倉 841	古代	
		21	荘小太郎頼家供養塔	1963.8.27	宥勝寺	栗崎 155	中世	
市指定	有形文化財	建造物	22	本庄金鑽神社大門	1970.5.21	金鑽神社	千代田 3-2-3	近世
			23	田村本陣の門	1971.5.28	本庄市	中央 1-2-3	近世
			24	円心寺山門	1979.4.27	円心寺	本庄 3-3-2	近世
			25	安養院本堂・山門及び総門	1993.12.21	安養院	中央 3-3-6	近世
			26	八幡神社隨身門	1965.3.1	八幡神社	児玉町児玉 198	近世
			27	八幡神社能楽殿	1965.3.1	八幡神社	児玉町児玉 198	近世
			28	成身院百体観音堂	1965.3.1	成身院	児玉町小平 647	近代
			29	秋山十二天社社殿	1988.1.1	秋山十二天社	児玉町秋山 3566	近世
			美術工芸品	絵画	30	紙本着色武田信玄公画像	1958.3.25	開善寺
	31	宮戸八幡大神社拝殿格天井の花鳥図			1970.5.21	宮戸八幡神社	宮戸 107	近世

指定別	類型	種別	番号	名称	指定・登録年月日	所有者又は管理者等	所在地	時代	
市指定	有形文化財	美術工芸品	絵画	32	絹本着色愛染明王画像	1981.7.24	個人	本庄	近世
				33	紙本墨画鍾馗之図	1985.7.26	個人	銀座	近世
				34	武正南廬筆絵画一括	1994.11.2	個人	西富田	近世
				35	長泉寺開山堂格天井絵	1971.4.1	長泉寺	児玉町高柳 901	近世
			彫刻	36	木造阿弥陀如来三尊来迎仏	1967.11.24	個人	千代田	近世
				37	木造阿弥陀如来立像	1967.11.24	個人	牧西	中世
				38	不動寺石造十一面観音坐像	1967.11.24	不動寺	西五十子 622-1	中世
				39	法養寺木造延命地藏尊坐像	1971.4.1	法養寺	児玉町児玉 1258	中世
				40	長泉寺木造延命地藏尊半跏坐像	1971.4.1	長泉寺	児玉町高柳 901	近世
				41	成身院の三仏	2010.7.22	成身院	児玉町小平 647	中世
			工芸品	42	大正院の不動剣	1979.4.27	大正院	本庄 2-4-8	近世
				43	長谷部若狭守国治銘脇差	1991.3.29	個人	駅南	近世
				44	成身院百体観音堂の鰐口	1965.3.1	成身院	児玉町小平 647	近世
				45	法養寺の鰐口	1971.4.1	法養寺	児玉町児玉 1258	中世
				46	唐銅造大日如来坐像	1988.1.1	成身院	児玉町小平 647	近世
			古文書	47	小笠原忠貴筆建立祈願文	1958.3.25	金鑽神社	千代田 3-2-3	近世
				48	高山彦九郎自筆墓前日記	1958.3.25	個人	銀座	近世
				49	今井鈴木家中世文書	1965.3.23	個人	今井	中世
				50	天正十九年宮戸村検地帳 (付・金井家文書一括)	1993.10.29	個人	宮戸	近世
				51	長泉寺中世文書	1999.4.1	長泉寺	児玉町高柳 901	中世
				52	八幡山福田家中世文書	1999.4.1	個人	児玉町八幡山	中世
				53	金屋倉林家中世文書	1999.4.1	個人	児玉町金屋	中世
				54	飯倉富岡家中世文書	1999.4.1	個人	児玉町飯倉	中世
			考古資料	55	御手長山古墳出土人物埴輪	1966.2.17	本庄市	西富田 1011	古代
				56	小島前の山古墳出土盾持人物埴輪	2001.7.27	本庄市	西富田 1011	古代
				57	下浅見鷺山古墳出土品	1988.1.1	本庄市	西富田 1011	古代
				58	寺山廃寺の風鐸	2012.4.18	本庄市	西富田 1011	古代
			歴史資料	59	開善寺境内絵図	1958.3.25	開善寺	中央 2-8-26	近世
				60	開善寺の御朱印箱	1958.3.25	開善寺	中央 2-8-26	近世
				61	茂木小平翁頌徳碑	1964.1.22	個人	千代田 3-2	近代
				62	西五十子の阿弥陀一尊種子板 石塔婆	1966.2.17	西五十子自治会	西五十子 425	中世
				63	正観寺の算額	1975.3.27	正観寺	都島 864	近世
				64	小和瀬薬師堂自然石塔婆	1991.8.28	小和瀬自治会	小和瀬 178	中世

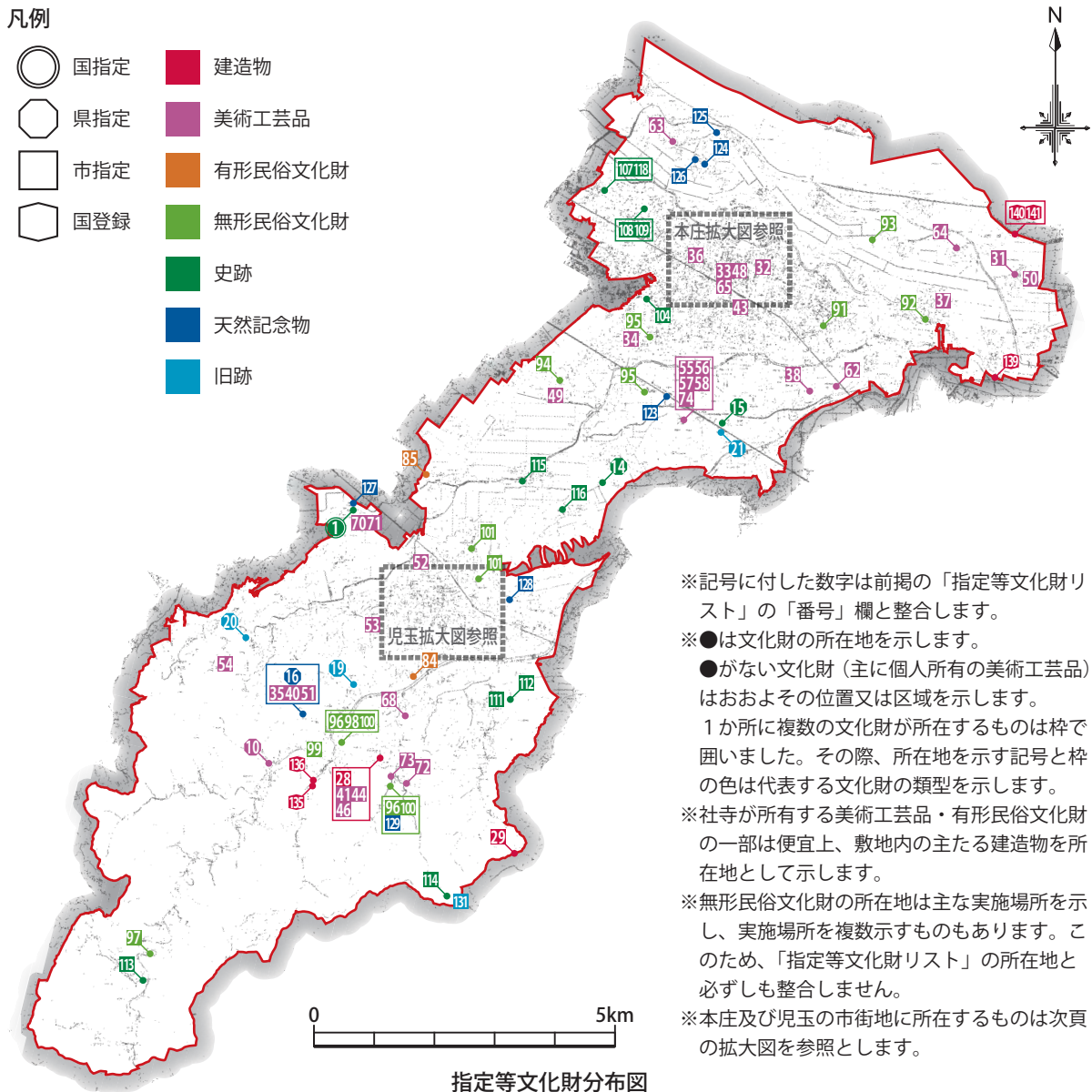
指定別	類型	種別		番号	名称	指定・登録年月日	所有者又は管理者等	所在地	時代
市指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	65	和宮生母親行院拝領品	2004.5.28	個人	銀座	近世
				66	八幡神社の日清戦争絵馬	1965.3.1	八幡神社	児玉町児玉 198	近代
				67	玉蓮寺釈迦一尊種子板石塔婆	1965.3.1	玉蓮寺	児玉町児玉 203	中世
				68	風洞の石幢	1965.3.1	本庄市	児玉町秋山 2825-1	中世
				69	實相寺阿弥陀一尊種子板石塔婆	1971.4.1	實相寺	児玉町児玉 100	中世
				70	保木野の宝篋印塔板石塔婆	1971.4.1	個人	児玉町保木野	中世
				71	保木野の円形光背図像板石塔婆	1971.4.1	個人	児玉町保木野	中世
				72	ほてい堂の五輪塔	1988.1.1	根岸廓布袋講	児玉町小平 442	中世
				73	浄厳の画像及び墨跡	1999.4.1	普明寺	児玉町小平 445	近世
				74	寶龜二年銘木簡	1999.4.1	本庄市	西富田 1011	古代
	民俗文化財	有形の民俗文化財	75	本庄宮本町の山車	1990.3.27	宮本町自治会	千代田 3-1-2	近代	
			76	本庄泉町の山車	1990.3.27	泉町自治会	千代田 1-6-4	近代	
			77	本庄上町の山車	1990.3.27	上町自治会	中央 3-3-5	近代	
			78	本庄照若町の山車	1990.3.27	照若町自治会	若泉 1-1-30	近代	
			79	本庄七軒町の山車	1990.3.27	七軒町自治会	銀座 1-6-1	近代	
			80	本庄仲町の山車	1990.3.27	仲町自治会	中央 1-5-2	近代	
			81	本庄本町の山車	1990.3.27	本町自治会	本庄 3-2-1	近代	
			82	本庄台町の山車	1990.3.27	台町自治会	本庄 2-6-28	近代	
			83	八幡神社の能装束・能面	1965.3.1	八幡神社	児玉町児玉 198	近世～近代	
			84	長沖の庚申塔	1971.4.1	長沖自治会	児玉町長沖 49	近世	
			85	正楽寺の十一面観音	1971.4.1	正楽寺	児玉町上真下 451	中世	
			86	本庄本町の神輿	2007.2.26	本町自治会	本庄 3-2-1	近世	
			87	児玉新町の屋台	2007.2.26	児玉新町自治会	児玉町児玉 137-1	近代	
			88	児玉上町の山車	2014.4.1	児玉上町自治会	児玉町児玉 40-4	近代	
89	児玉仲町の山車	2016.4.1	児玉仲町自治会	児玉町児玉 2512-1	近代				
90	児玉本町の山車	2016.4.1	児玉本町自治会	児玉町児玉 1257	近代				
民俗文化財	無形の民俗文化財	91	金鑽神楽・本庄組	1958.4.14	金鑽神楽本庄組保存会	千代田 3-2-3	近世～現代		
		92	金鑽神楽・宮崎組	1960.11.10	武蔵二ノ宮金鑽神楽宮崎組	牧西 557	近世～現代		
		93	仁手諏訪神社の獅子舞	1962.3.23	仁手諏訪神社獅子舞保存会	仁手 353	近世～現代		
		94	今井金鑽神社の獅子舞	1967.4.19	今井獅子舞保存会	今井 1124-1	近世～現代		
		95	金鑽神楽・杉田組	1981.2.27	金鑽神楽杉田組	四方田 288-1	近世～現代		
		96	金鑽神楽・根岸組	1965.3.1	金鑽神楽根岸組保存会	児玉町小平 1051	近代～現代		
		97	金鑽神楽・太駄組	1965.3.1	金鑽神楽太駄組保存会	児玉町太駄	近代～現代		

指定別	類型	種別	番号	名称	指定・登録年月日	所有者又は管理者等	所在地	時代	
市指定	民俗文化財	無形の民俗文化財	98	西小平の万作	1965.3.1	西小平万作保存会	児玉町小平	近代～現代	
			99	元田の万作	1965.3.1	元田万作保存会	児玉町元田	近代～現代	
			100	小平の獅子舞	1958.10.11	東小平獅子舞保存会	児玉町小平	近世～現代	
			101	吉田林の獅子舞	1965.3.1	吉田林獅子舞保存会	児玉町吉田林	近世～現代	
	記念物	史跡	102	小笠原信嶺夫妻の墓	1958.3.25	開善寺	中央 1-4 (開善寺墓地)	近世	
			103	本庄城跡	1958.3.25	本庄市	本庄 3-5	中世	
			104	二本松古代住居跡	1958.3.25	個人	栄 2-7	古代	
			105	普寛上人の墓	1958.4.14	普寛大教会	中央 3-4	近世	
			106	小倉家の墓碑群	1964.1.22	個人	中央 3-3	近世	
			107	万年寺八幡山古墳	1976.12.27	本庄市	万年寺 3-3	古代	
			108	小島蚕影山古墳	1976.12.27	本庄市	小島 2-15	古代	
			109	小島山の神古墳	1976.12.27	本庄市	小島 2-15	古代	
			110	八幡神社の高札場	1965.3.1	八幡神社	児玉町児玉 198	近世	
			111	秋山古墳群	1965.3.1	本庄市	児玉町秋山	古代	
			112	秋山庚申塚古墳 付出土品	1988.1.1	本庄市	児玉町秋山 1769-1	古代	
			113	太駄の高札場	1971.4.1	太駄中自治会	児玉町太駄 908-1	近世	
			114	岩谷堂	1988.1.1	岩谷堂保存会	児玉町小平	近世	
			115	平重衡の首塚	1988.1.1	釈迦堂	児玉町蛭川 214-3	中世	
			116	入浅見金鑽神社古墳 付出土品	1988.1.1	入浅見金鑽神社	児玉町入浅見 899	古代	
			117	長沖 32 号墳	2012.4.18	本庄市	児玉町児玉南 2-9	古代	
			118	万年寺つつじ山古墳 付出土品	2012.4.18	本庄市	万年寺 3-3	古代	
			119	小笠原信之の墓	2014.4.1	開善寺	中央 2-8 (開善寺墓地)	近世	
			天然記念物	120	城山稻荷神社のヤブツバキ	1968.10.23	金鑽神社	本庄 3-5	中世
				121	本庄金鑽神社のカヤ	1968.10.23	金鑽神社	千代田 3-2-3	近世
				122	仲町愛宕神社のケヤキ	1968.10.23	仲町自治会	中央 1-5-2	—
				123	東富田観音塚のマツ	1968.10.23	紫摩馬頭観世音	東富田 50-1	近世
				124	沼和田宝輪寺のカヤ	1971.5.28	沼和田自治会	沼和田 869	—
				125	山王堂日枝神社のケヤキ	1976.4.26	山王堂自治会	山王堂 228-1	—
				126	沼和田飯玉神社のサイカチ	1981.9.28	飯玉神社	沼和田 926	—
				127	保木野龍清寺のカヤ	1988.1.1	龍清寺	児玉町保木野 387	—
				128	思池のマルバヤナギ	2010.7.22	本庄市	児玉町児玉 1746	—
				129	石神神社のケヤキとスギ	2010.7.22	八幡神社	児玉町小平 1	近世
				130	八幡神社のヤブツバキと社叢林	2010.7.22	八幡神社	児玉町児玉 198	中世

指定別	類型	種別	番号	名称	指定・登録年月日	所有者又は管理者等	所在地	時代
市指定	記念物	旧跡	131	陣見平	1988.1.1	東小平森林組合	児玉町小平	中世
国登録	有形文化財	建造物	132	旧本庄商業銀行煉瓦倉庫	1997.6.12	本庄市	銀座 1-5-16	近代
			133	旧本庄仲町郵便局	1998.10.9	(株)諸井家	中央 1-8-2	近代
			134	児玉町旧配水塔	2000.10.18	本庄市	児玉町児玉 323-2	近代
			135	間瀬堰堤	2000.10.18	美児沢用水土地改良区	児玉町小平	近代
			136	間瀬堰堤管理橋	2000.10.18	美児沢用水土地改良区	児玉町小平	近代
			137	寺坂橋	2008.3.7	本庄市	中央 2	近代
			138	賀美橋	2008.3.7	本庄市	若泉 2	近代
			139	滝岡橋	2008.3.7	本庄市 深谷市	本庄市堀田～深谷市岡	近代
			140	田島亀夫家住宅主屋	2021.6.24	個人	宮戸字西浦 650-3	近代
			141	田島亀夫家住宅蚕室	2022.2.17	個人	宮戸字西浦 650-3	近代

凡例

- 国指定
- ◻ 県指定
- ◻ 市指定
- ◻ 国登録
- 建造物
- 美術工芸品
- 有形民俗文化財
- 無形民俗文化財
- 史跡
- 天然記念物
- 旧跡



※記号に付した数字は前掲の「指定等文化財リスト」の「番号」欄と整合します。

※●は文化財の所在地を示します。

●がない文化財（主に個人所有の美術工芸品）はおおよその位置又は区域を示します。

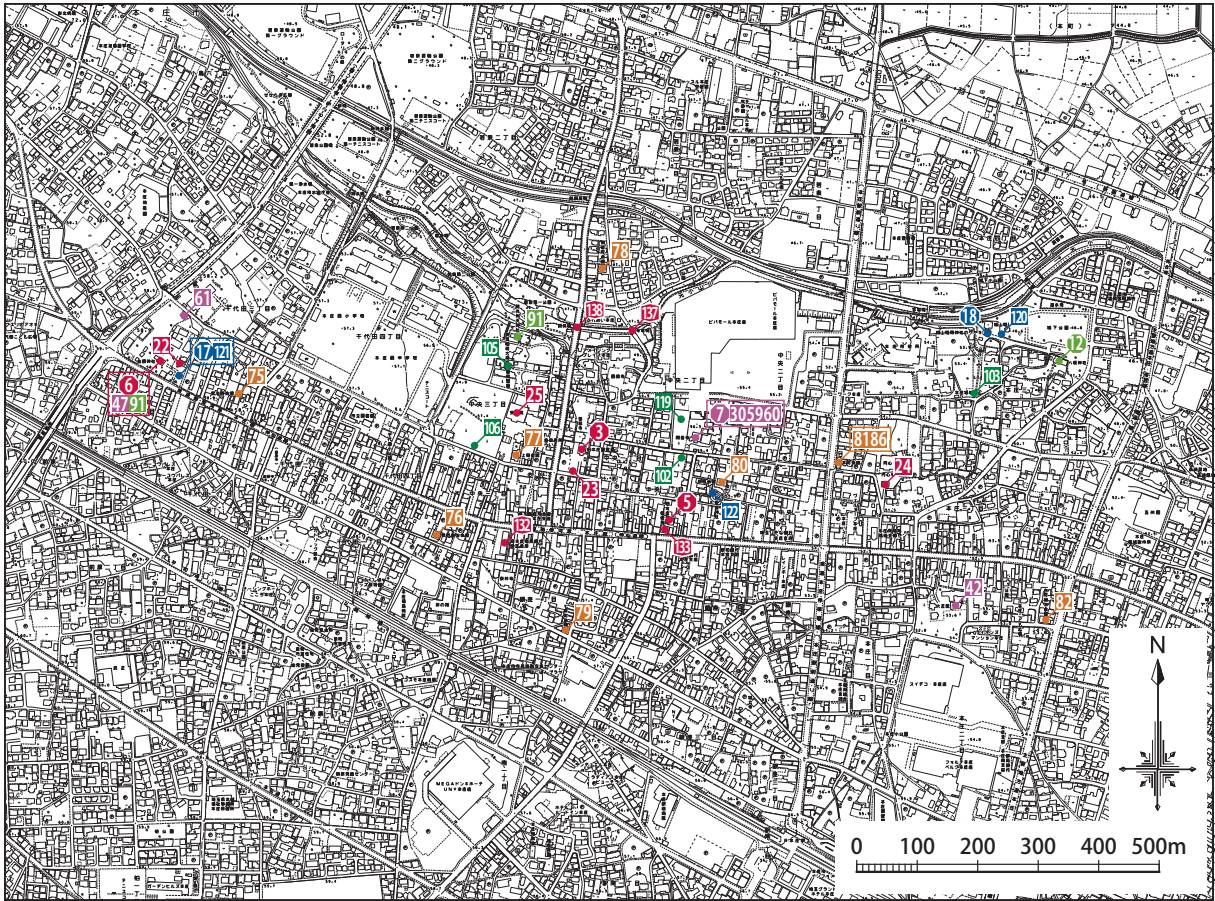
1か所に複数の文化財が所在するものは枠で囲いました。その際、所在地を示す記号と枠の色は代表する文化財の類型を示します。

※社寺が所有する美術工芸品・有形民俗文化財の一部は便宜上、敷地内の主たる建造物を所在地として示します。

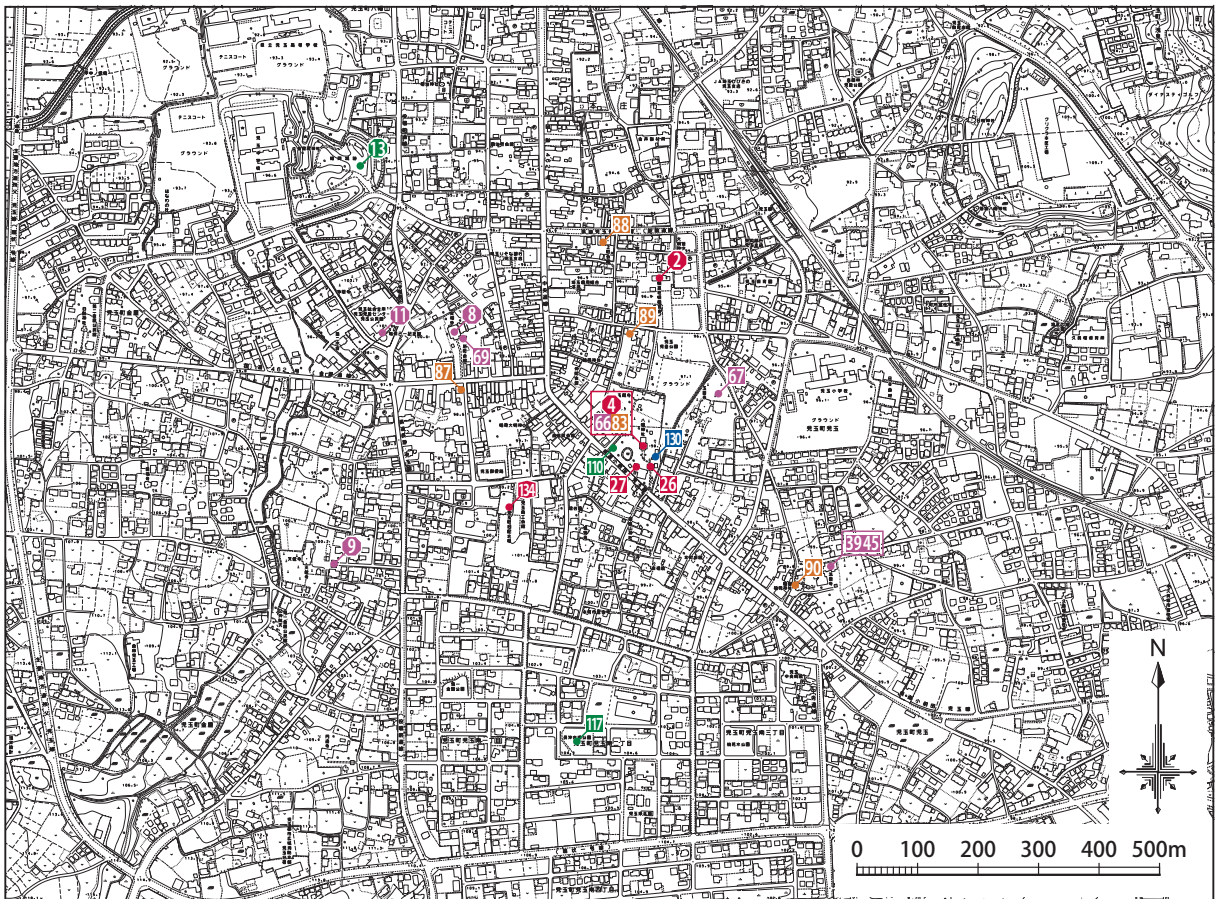
※無形民俗文化財の所在地は主な実施場所を示し、実施場所を複数示すものもあります。このため、「指定等文化財リスト」の所在地と必ずしも整合しません。

※本庄及び児玉の市街地に所在するものは次頁の拡大図を参照とします。

指定等文化財分布図



指定等文化財分布図（本庄拡大図）



指定等文化財分布図（児玉拡大図）

巻末資料2 未指定文化財リスト

注

- ①当資料は、本計画作成にあたって実施した既往の文化財調査（調査対象は巻末資料3「既往調査一覧」に掲載）の成果をリスト化したものであり、指定等文化財の候補物件を示すものではありません。
- ②リストは文化財の類型ごとにまとめ、表項目についても各類型に適したものを選定しました。表項目に関する注記について、各類型のリストの最初に示しています。
- ③表中各項目の記載内容は原則として既往の調査資料等の内容を転載しています。このため、情報が古く現状に則していないものや、転載元の文献が異なることによって名称や概要の内容が統一でないものが含まれる可能性があります。既往の調査資料等からの転載に際し、わかりづらい表現に対しては、「※」書きで補足注記を行いました。
- ④表中の空欄は既往の調査資料に情報の記載がないものとしします。
- ⑤既往の調査資料等において、個人情報に結び付く記載があったものは〔 〕書きで伏せています。
- ⑥「文献番号」欄は巻末資料3「既往調査一覧」の「番号」欄と整合するもので、各文化財情報を抽出した調査資料等を示します。また、「頁」欄は各文化財情報が掲載される調査資料等の頁番号（掲載箇所）を示します。

【有形文化財】（建造物） ※令和4（2022）年度時点で滅失が確実視されたものは「現存確認」欄に「×」を付しました。

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号	頁	現存確認
1	社寺	若電神社社殿	東五十子	近世			5	22	
2	社寺	角折神社社殿	都島	近世			5	22	
3	社寺	八幡大神社本殿 2棟	宮戸	近世	19世紀前期頃	一間社流造、覆屋	5	22 160	
4	社寺	八幡大神社拝殿	宮戸	近世	嘉永5（1852） 年（棟札）		5	22 160	
5	社寺	諏訪神社社殿	仁手	近世			5	22	
6	社寺	稲荷神社社殿	小和瀬	近世			5	22	
7	社寺	立岩寺本堂	滝瀬	近世			5	22	
8	社寺	宝珠寺本堂	牧西	近世			5	22	
9	社寺	宝珠寺山門	牧西	近世			5	22	
10	社寺	宗真院本堂	仁手	近世			5	22	
11	社寺	長興寺本堂	今井	近世			5	22	
12	社寺	八幡神社本殿	児玉町下浅見	近世			5	23	
13	社寺	駒形神社本殿	児玉町蛭川	近世			5	23	
14	社寺	金鑽神社本殿	児玉町入浅見	近世			5	23	
15	社寺	日枝神社社殿	児玉町吉田林	近世			5	23	
16	社寺	玉蓮寺本堂	児玉町本町	近世			5	23	
17	社寺	玉蓮寺鐘つき堂	児玉町本町	近世			5	23	
18	社寺	長泉寺外門	児玉町高柳	近世	幕末	薬医門	5	23 160	
19	社寺	長泉寺山門	児玉町高柳	近世	江戸時代後期	三間一戸楼門、伝慶安3（1650）年 建築	5	23 160	
20	社寺	長泉寺本堂	児玉町高柳	近世			5	23	
21	社寺	天龍寺山門	児玉町金屋	近世			5	23	
22	社寺	正楽寺本堂	児玉町上真下	近世			5	23	
23	社寺	普寛霊場	中央三丁目	近世	江戸	信州御嶽山開闢普寛行者終焉の地 にして、其の霊を祀る	123 195	79 -	

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号	頁	現存確認
24	民家	[個人住宅]	牧西	近世	伝 170 年前 (1972 年当時)	木造切上中二階建 農主、名主、草葺入母屋	1	付表 18	
25	民家	[個人住宅]	傍示堂	近世	伝 170 年前 (1972 年当時)	木造中二階建 名主、鉄板葺切妻、中二階	1	付表 18	
26	民家	[個人住宅]	下仁手			木造二階建 農主、瓦葺切妻	1	付表 18	
27	民家	[個人住宅]	下仁手	近世	幕末	木造二階建 町主、名主、瓦葺切妻、改造大	1	付表 18	
28	民家	[個人住宅]	下仁手	近世	幕末	木造二階建 町主、名主、瓦葺切妻、改造大	1	付表 18	
29	民家	[個人住宅]	下仁手	近世	慶応 2 (1866) 年 (普請帳)	木造中二階建 町主、瓦葺切妻	1	付表 18	
30	民家	[個人住宅]	下仁手	近世	安政 4 (1857) 年頃	木造中二階建 町主、瓦葺切妻	1	付表 18	
31	民家	[個人住宅]	下仁手	近世	慶応 3 (1867) 年頃	木造 町主、瓦葺切妻	1	付表 18	
32	民家	[個人住宅]	小和瀬	近世	慶応元 (1865) 年頃	木造二階建 農主、瓦葺切妻	1	付表 18	
33	民家	[個人住宅]	東今井	近世	慶応 2 (1866) 年頃	木造 草庇 農主、神官、草葺入母屋	1	付表 18	
34	民家	[個人住宅]	仁手	近世	慶応 2 (1866) 年 (普請帳)	木造二階建 農主、名主、瓦葺切妻	1	付表 18	
35	民家	[個人住宅]	児玉町秋山			木造 社主、医家、板葺切妻	1	付表 18	
36	民家	[個人住宅]	児玉町秋山	近世	152 年前 (1972 年当時)	木造中二階建 農主、草葺入母屋	1	付表 18	
37	近代 建築	飯塚医院	千代田	近代	大正 10 (1921) 年頃	木造二階建 取り壊し計画あり (1983 年当時)	4 10	89 334	
38	近代 建築	中沢医院	千代田	近代	大正 15 (1926) 年	木造二階建 施工：小林 (大工)	4	89	
39	近代化 遺産	坂東大橋	国道 462 号、 利根川	近代	昭和 5 (1930) 年	鉄骨橋、新橋架橋 (2004.3.6 開通)、 モニュメント保存 (伊勢崎市側)	8	170	
40	近代化 遺産	十二天池	児玉町秋山	近代	昭和 15 (1940) 年	かんがい用貯水池、設計：高森農 林技官、施工：遠藤組	8 177 265	171 258 口絵、24	
41	近代化 遺産	[個人住宅]		近代			176	265	
42	近代化 遺産	備前渠用水	本庄市	近世	慶長 9 (1604) 年	世界かんがい施設遺産登録、埼玉 県最古の用水路	194	—	
43	近代化 遺産	八幡山陸橋		近代	昭和 6 (1931) 年		265	3	
44	近代化 遺産	金屋高柳の池		近代	大正 14 (1925) 年		265	3 25	
45	近代和 風建築	[個人住宅] (旧大 政商店本庄支店)	銀座	近代	大正 8 (1919) 年	3 月竣工、煉瓦造二階建・木造二 階建、卯建、施工：渋沢武作	2 4 10	5, 71, 112 89 334	
46	近代和 風建築	[個人住宅] 倉庫	銀座	近代	大正 9 (1920) 年	産業施設、倉庫、煉瓦造	10	334	
47	近代和 風建築	—	児玉町八幡山	近代	大正	商業施設、店舗、煉瓦造、卯建付	10	334	
48	近代和 風建築	—	児玉町児玉	近代	明治	住宅、商家建築	10	334	
49	近代和 風建築	[個人住宅]	児玉町児玉	近代	大正 5 (1916) 年	住宅、土蔵造、大正 3 (1914) 年 大火後	10	51 334	
50	近代和 風建築	—	児玉町板倉	近代	明治 16 (1883) 年 (文書)	住宅、土蔵造	10	334	
51	近代和 風建築	—	児玉町児玉	近代		商業施設、店舗、商家造 (土蔵造)	10	334	
52	近代和 風建築	—	新井	近代	大正 (口伝)	住宅、高窓付	10	334	
53	近代和 風建築	[個人住宅]	傍示堂	近代	大正元 (1912) 年 (口伝)	住宅、高窓 (総ヤグラ) 付	10	18 227 334	
54	近代和 風建築	(中林美容院 (旧 児玉郵便局))	児玉町児玉	近代	昭和 9 (1934) 年改装	公共施設、郵便局、木造及び RC 造、 旧登記所	10	20 51 335	
55	近代和 風建築	—	児玉町児玉	近代	昭和 3 (1928) 年 (建築写真)	産業施設、公衆浴場	10	335	
56	近代和 風建築	—	児玉町稲沢	近代		住宅、高窓付	10	335	

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号	頁	現存確認
57	近代和風建築	—	児玉町稲沢	近代		住宅、高窓付	10	335	
58	近代和風建築	—	児玉町小平	近代		住宅、高窓付	10	335	
59	近代和風建築	[個人住宅]	児玉町小平	近代	明治時代前期	住宅、木造三階建、高窓付、養蚕農家、施工：百体観音堂を手掛けた秩父の棟梁	10	51 335	
60	近代和風建築	—	児玉町小平	近代		住宅、高窓付、蚕室	10	335	
61	近代和風建築	—	児玉町長沖	近代		住宅、高窓付	10	335	
62	近代和風建築	—	児玉町児玉	近代		住宅、高窓付	10	335	
63	近代和風建築	—	小和瀬	近代		住宅、高窓付	10	335	
64	近代和風建築	[個人住宅]	宮戸	近代	昭和5(1930)年(大正(口伝))	住宅、高窓(総ヤグラ)付、養蚕農家、ガラス欄間	10	50 335	
65	近代和風建築	(田島屋旅館)	児玉町児玉	近代	大正3(1914)年頃(大正5(1916)年(記録写真))	産業施設、旅館、木造一部三階建、1階住居・2階普通客室・3階上等客室	10	50 335	
66	近代和風建築	[個人住宅]	宮戸	近代	明治元(1868)年(昭和9(1934)年)	商業施設、住宅、養蚕農家、五畝館	10	50 335	
	民家	[個人住宅]	西五十子	近代	伝100年前(1972年当時)	木造切上二階建農主、草葺寄棟	1	付表 18	×
	近代建築	県立本庄高等学校校舎(一部)	柏	近代	大正11(1922)年	木造二階建、「本庄高等学校五十年史」同校編纂委員会(昭和47(1972)年)による	4	89	×
	近代建築	市立西小学校	千代田	近代	大正14(1925)年	木造二階建 昭和54(1979)年取壊し予定	4	89	×
	近代建築	本庄警察署	中央	近代	昭和9(1934)年	県指定：旧本庄警察署の後の警察署、RC二階建	4 6	89 97	×
	近代建築	西沢写真館	銀座	近代	昭和1(1926)～2(1927)年	木造三階建 取り壊し計画あり(1983年当時)	4 10	89 334	×
	近代建築	本庄市立北泉小学校前館	北堀	近代	大正14(1925)年	木造平屋建、設計者：牧野快助、施工者：上野金作	6	98	×
	近代建築	本庄市立北泉小学校2階建校舎	北堀	近代	昭和13(1938)年	木造二階建	6	99	×
	近代建築	本庄市立西中学校1号館	千代田	近代	昭和2(1927)年	木造二階建、本庄女子中学校時代に建設、一字形片廊下型の洋風校舎	6	100	×
	近代建築	本庄市立西中学校2号館	千代田	近代	明治43(1910)年	木造二階建、本庄女子中学校時代に建設、学校創設以来の校舎	6	100	×
	近代建築	国鉄高崎線本庄駅舎	銀座	近代	大正11(1922)年	木造平屋建、高崎線沿線の戦前木造駅舎	6	102	×
	近代建築	国鉄高崎線本庄駅危険物入倉庫	銀座	近代	不明	煉瓦造平屋建、煉瓦造、かまぼこ型トタン葺のランプ小屋	6	102	×
	近代建築	前本庄市立旭公民館(旧旭村役場)	都島	近代	大正15(1926)年(棟札)	木造二階建、設計・施工者：渡辺重吉、大正2(1913)年の土蔵あり	6	103	×
	近代建築	本庄市立仁手小学校東校舎	仁手	近代	明治43(1910)年	木造平屋建、特別教室を設ける目的で建設された県内最古の木造校舎	6	105	×
	木造校舎	本庄市立旭小学校	都島	近代	昭和12(1937)年	昭和63(1988)年取壊し	7	86 134	×
	木造校舎	本庄市立本庄南小学校	栄	現代	昭和34(1959)年	3月5日竣工 平成元(1989)年取壊し	7	86 134	×
	木造校舎	児玉町立共和小学校	児玉町蛭川	近代	昭和3(1928)年		7	86 135	×
	木造校舎	児玉町立秋平小学校	児玉町秋山	近代	昭和12(1937)年	8月竣工	7	86 135	×
	近代化遺産	児玉駅舎	児玉町小平	近代	昭和13(1938)年	現存しない	265	口絵 25	×

※「考古資料」の「所在地」欄は出土地を示します。

※「歴史資料」（石造物）は複数をもとめてまとめているものがあり、「概要」欄にその数を示しています。「年代」欄は、一つの年号が「概要」欄の石造物いずれか1基に対応します（年号の記載数と概要数の差分は年代不詳となります）。判明している年号が全て記載できない場合は、最も古い年号のみを示し、最後に「(他□基)」と付しています。

【有形文化財】（美術工芸品）

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文献号	頁
1	絵画	絹本着色阿弥陀三尊来迎図	中央	中世	室町	安養院	1幅、60.3×34.4cm、県下に残る阿弥陀如来来迎図の佳品	39	56 139
2	絵画	絹本着色天神像	中央	中世	室町	安養院	1幅、46.8×31.2cm、この種の遺品の中では古いほうに属する	39	57 140
3	絵画	絹本着色仏涅槃図	中央	近世	江戸	安養院	1幅、185.5×127.2cm	39	140
4	絵画	絹本着色釈迦十六善神像	中央	近世	江戸	安養院	1幅、150.3×55.8cm、「恵林」の款記あり	39	140
5	絵画	絹本着色釈迦十八羅漢像	中央	近世	江戸	安養院	1幅、144.0×93.6cm	39	140
6	絵画	絹本淡彩出山釈迦図 黒沢墨山筆	中央	近世	江戸	安養院	1幅、122.2×40.4cm	39	140
7	絵画	絹本墨画淡彩竜頭観音図	中央	近世	江戸	安養院	1幅、170.5×87.2cm	39	140
8	絵画	絹本着色十三仏図	中央	近世	江戸	安養院	1幅、83.1×38.2cm	39	140
9	絵画	絹本墨画寒山拾得図 東泉心越筆	中央	近世	江戸	安養院	1幅、82.3×42.7cm、賛あり	39	140
10	絵画	絹本着色阿字図	中央	近世	江戸	安養院	1幅、87.6×38.4cm	39	140
11	絵画	絹本着色月潭太紋像	中央	近世	江戸	安養院	1幅、88.9×33.5cm、賛あり、天保7（1836）年の年記あり	39	140
12	絵画	紙本墨画淡彩十六羅漢像	中央	近代	明治	安養院	4幅、124.4×52.9cm	39	140
13	絵画	絹本着色豊干像	中央		明（中国）	安養院	1幅、130.4×65.5cm	39	140
14	絵画	絹本着色十三仏図	中央	中世	室町	開善寺	1幅、75.2×30.4cm、賛あり、天正13（1585）年作	39	140
15	絵画	絹本着色即印元夷像	中央	近世	江戸	開善寺	1幅、97.4×41.8cm、第八世、賛あり、宝永5（1708）年作	39	53 55 140
16	絵画	絹本着色梅州宗曇像	中央	近世	江戸	開善寺	1幅、97.3×41.7cm、正徳4（1714）年作	39	53 140
17	絵画	絹本着色徹道元理像	中央	近世	江戸	開善寺	1幅、97.2×41.1cm、正徳4（1714）年作	39	53 140
18	絵画	絹本着色南洲宗混像	中央	近世	江戸	開善寺	1幅、96.2×41.5cm、正徳4（1714）年作	39	53 55 140
19	絵画	絹本着色球山宗温像	中央	近世	江戸	開善寺	1幅、104.8×48.4cm、元文2（1737）年作	39	53 141
20	絵画	紙本墨画淡彩出山釈迦図	中央	近世	江戸	開善寺	1幅、93.3×36.8cm	39	141
21	絵画	紙本着色大量妙丈像	中央	近世	江戸	開善寺	1幅、94.0×40.8cm、第四世	39	141
22	絵画	紙本着色馬翁祖鞋像	中央	近世	江戸	開善寺	1幅、92.7×40.4cm、第九世	39	141
23	絵画	紙本着色要閑禪板像	中央	近世	江戸	開善寺	1幅、107.6×47.1cm、第十世	39	141
24	絵画	絹本着色梁宝禅梁像	中央	近世	江戸	開善寺	1幅、97.8×40.4cm、第十一世	39	141
25	絵画	絹本着色観海祖倫像	中央	近世	江戸	開善寺	1幅、99.6×40.8cm、第十三世	39	141
26	絵画	紙本着色仏涅槃図	都島	近世	江戸	正観寺	1幅、126.2×112.2cm、「仙竜道人」の款記あり	39	141
27	絵画	紙本着色興教大師・弘法大師像・十三仏図	都島	近世	江戸	正観寺	3幅、114.3×37.8cm（十三仏図：114.9×37.5cm）	39	141
28	絵画	紙本着色如意輪観音像 雉岡住東圭筆	都島	近世	江戸	正観寺	1幅、85.2×26.0cm	39	141
29	絵画	紙本着色光明真言曼荼羅図	都島	近世	江戸	正観寺	1幅、90.0×38.3cm	39	141
30	絵画	紙本着色十三仏図	都島	近世	江戸	正観寺	1幅、90.6×38.6cm	39	141

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文庫番号	頁
31	絵画	紙本着色十三仏図	都島	近世	江戸	正観寺	1幅、83.3×35.0cm、3幅対の内	39	141
32	絵画	紙本着色興教大師像	都島	近世	江戸	正観寺	1幅、83.9×35.0cm、3幅対の内	39	141
33	絵画	紙本着色弘法大師像	都島	近世	江戸	正観寺	1幅、83.9×35.0cm、3幅対の内	39	141
34	絵画	紙本着色聖宝像	都島	近世	江戸	正観寺	1幅、64.4×28.4cm	39	141
35	絵画	紙本着色阿字像	都島	近世	江戸	正観寺	1幅、91.2×38.5cm	39	141
36	絵画	紙本着色仏涅槃図	児玉町太駄	近世	江戸	光福寺	1幅、179.3×161.0cm	39	142
37	絵画	紙本着色虚空蔵菩薩像	児玉町太駄	近世	江戸	光福寺	1幅、83.9×36.3cm	39	142
38	絵画	紙本着色仏涅槃図源陳素筆	児玉町児玉	近世	江戸	實相寺	1幅、177.0×101.6cm	39	142
39	絵画	絹本着色釈迦三尊像源陳素筆	児玉町児玉	近世	江戸	實相寺	3幅、92.0×32.0cm	39	142
40	絵画	絹本着色阿弥陀三尊来迎図	児玉町児玉	近世	江戸	實相寺	1幅、68.3×39.6cm	39	142
41	絵画	絹本着色阿弥陀聖衆来迎図	児玉町児玉	近世	江戸	實相寺	1幅、107.5×52.5cm	39	142
42	絵画	紙本墨画淡彩白衣観音像狩野典信筆	児玉町児玉	近世	江戸	實相寺	1幅、119.5×57.2cm	39	142
43	絵画	紙本墨画淡彩十六羅漢図	児玉町児玉	近世	江戸	實相寺	1幅、129.1×70.7cm	39	142
44	絵画	絹本着色十三仏図	児玉町児玉	近世	江戸	實相寺	1幅、84.5×39.9cm	39	142
45	絵画	絹本着色十三仏図	児玉町児玉	近世	江戸	實相寺	1幅、92.2×36.9cm	39	142
46	絵画	紙本着色法然上人・善導大師像	児玉町児玉	近世	江戸	實相寺	2幅、92.8×40.5cm	39	142
47	絵画	紙本版画善導大師像	児玉町児玉	近世	江戸	實相寺	1幅、117.2×55.6cm、安政6(1859)年の記あり	39	142
48	絵画	絹本着色十三仏図	児玉町下浅見	近世	江戸	成就院	1幅、92.0×36.8cm	39	142
49	絵画	紙本着色両界種子曼荼羅・真言八相像	児玉町下浅見	近世	江戸	成就院	2幅、95.7×37.2cm	39	143
50	絵画	紙本着色不動明王像	児玉町小平	近世	江戸	成就院	1幅、102.8×39.0cm	39	143
51	絵画	絹本墨画淡彩釈迦三尊像	児玉町小平	近世	江戸	成就院	3幅、109.9×35.0cm	39	143
52	絵画	絹本着色不動明王・四天王像	児玉町小平	近世	江戸	成就院	3幅、136.6×69.9cm(中)、137.2×69.3cm(左右)	39	143
53	絵画	紙本墨画淡彩富士山図	児玉町小平	近世	江戸	成就院	1幅、50.5×65.6cm	39	143
54	彫刻	木造馬頭観音菩薩立像	東富田	中世	鎌倉	紫磨観音堂	像高43.8cm、寄木造、玉眼	30	69
55	彫刻	木造毘沙門天立像	仁手	中世	室町	最法寺(県博寄託)	像高88.5cm、寄木造、彫眼古色仕上げ	30	70
56	彫刻	木造阿弥陀如来及び脇侍像	今井	中世	鎌倉～南北朝	長興寺	善光寺式三尊、木彫の大型像としては極めて貴重	30	72
57	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	児玉町金屋	中世	文禄4(1595)年	真福寺	像高92.5cm、寄木造、彫眼、像底墨書あり、文禄4(1595)年	30 142 144	80 76 123
58	工芸品	秋山焼 徳利	児玉町秋山	近世近代	幕末～明治		幕末から明治にかけて現在の児玉町秋山で焼かれたやきもの	17	—
59	書跡	諸井春畦：「忘機無物我」		近代		埼玉県立近代美術館	額装	36	19
60	書跡	諸井春畦：「翠南邨居」		近代		個人	額装	36	19
61	書跡	諸井華畦：劉禹錫「陋室銘」		近代		本庄市立歴史民俗資料館	屏風	36	19
62	書跡	諸井華畦：七言二句		近代		個人	軸装	36	19
63	書跡	諸井華畦：「鏡花水月」		近代		個人	額装	36	19

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文庫番号	頁
64	典籍	鈴木幸輔：『詞華万葉』	千代田	現代	昭和 52 (1977) 年	本庄市立図書館	古径社	33	1
65	典籍	月村敏行：『詩と批評』	千代田	現代	昭和 53 (1978) 年	本庄市立図書館	芹澤出版社	33	1
66	典籍	月村敏行：『埴谷雄高論』	千代田	現代	昭和 53 (1978) 年	本庄市立図書館	講談社	33	1
67	典籍	月村敏行：『批評の原理』	千代田	現代	昭和 49 (1974) 年	本庄市立図書館	国文社	33	1
68	典籍	月村敏行：『江藤淳論』	千代田	現代	昭和 52 (1977) 年	本庄市立図書館	而立書房	33	1
69	典籍	山本容朗：『猫は神さまの贈り物』	千代田	現代	昭和 57 (1982) 年	本庄市立図書館	実業之日本社	33	7
70	典籍	山本容朗：『文壇百話ここだけの話』	千代田	現代	昭和 53 (1978) 年	本庄市立図書館	潮出版社	33	7
71	典籍	山本容朗：『続ここだけの話』	千代田	現代	昭和 54 (1979) 年	本庄市立図書館	潮出版社	33	7
72	典籍	山本容朗：『居酒屋の作家』	千代田	現代	昭和 55 (1980) 年	本庄市立図書館	潮出版社	33	7
73	典籍	山本容朗：『新宿交遊学』	千代田	現代	昭和 55 (1980) 年	本庄市立図書館	潮出版社	33	7
74	典籍	月村敏行：『幻視の鏡』	千代田	現代	昭和 51 (1976) 年	本庄市立図書館	国文社	33	7
75	典籍	宇野信夫：『美しい言葉』	千代田	現代	昭和 58 (1983) 年	本庄市立図書館	講談社	33	7
76	典籍	宇野信夫：『味のある言葉』	千代田	現代	昭和 57 (1982) 年	本庄市立図書館	講談社	33	7
77	典籍	宇野信夫：『しゃれた言葉』	千代田	現代	昭和 56 (1981) 年	本庄市立図書館	講談社	33	7
78	典籍	宇野信夫：『はなし帖』	千代田	現代	昭和 54 (1979) 年	本庄市立図書館	文芸春秋	33	7
79	典籍	宇野信夫：『むかし空の美しく』	千代田	現代	昭和 42 (1967) 年	本庄市立図書館	青蛙房	33	7
80	古文書	〔個人所有〕 文書	栗崎	近世		個人		11	26
81	古文書	〔個人所有〕 文書	栗崎	近世		個人		11	26
82	古文書	〔個人所有〕 文書	本庄市	近世		個人	総数 2,200 点余り、本庄宿問屋及び助郷関係文書	11 19 143	26 257 71
83	古文書	〔個人所有〕 文書	西五十子	近世		個人	目録	11	26
84	古文書	〔個人所有〕 文書	北堀	近世		個人	目録	11	26
85	古文書	〔個人所有〕 文書	本庄市	中世 近世		個人	総数 500 点余り、天正十九年検地帳を含む	11、12、 19、143	26、316、 202、71
86	古文書	〔個人所有〕 文書	都島	近世		個人	目録	11	26
87	古文書	〔個人所有〕 文書	小和瀬	近世		個人		11	26
88	古文書	〔個人所有〕 文書	小和瀬	近世		個人		11	26
89	古文書	市教育委員会	宮戸	近世		本庄市		11	26
90	古文書	〔個人所有〕 文書	児玉町秋山	近世 近代		個人	数量：145 目録	11	26
91	古文書	〔個人所有〕 文書	児玉町秋山	近世 近代		個人	数量：368 目録	11	26
92	古文書	〔個人所有〕 文書	児玉町秋山	近世 近代		個人	数量：128 目録	11	26
93	古文書	〔個人所有〕 文書	児玉町秋山	近世		個人	数量：15 目録	11	26
94	古文書	〔個人所有〕 文書	児玉町秋山	近世 近代		個人	数量：10	11	26
95	古文書	〔個人所有〕 文書	児玉町	中世～ 近代	天正～明治	個人	369 点、児玉、目録・抄録	11 19 252	26 259 25
96	古文書	八幡神社文書	児玉町本町	中世 近世		八幡神社		11	26

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文庫番号	頁
97	古文書	[個人所有] 文書	児玉町吉田林	近世		個人		11	26
98	古文書	[個人所有] 蒐蔵文書	本庄市	近世	元和～寛永	個人	北葛飾郡中曾根村年貢割付状	19	202
99	古文書	成身院文書	児玉町小平	近世近代	貞享～大正	成身院	304点、小平、縁起・記録、教理、教派、僧侶、祭典、社寺経済、造営・修復	19 27 248	203 121 -
100	古文書	[個人所有] 文書	児玉町	中世近世		個人	191点、児玉、目録・抄録	19 144 252	204 90 1
101	古文書	正観寺文書	都島	近世		正観寺	慶長17(1612)年の検地帳など概して村方関係の史料が残る	19 27	258 119
102	古文書	[個人所有] 文書(検地帳)	児玉町	近世	寛永21(1644)年	個人	飯倉村畠方覚帳(寛永廿一年霜月十一日)	19	259
103	古文書	宝珠寺文書	牧西	近世		宝珠寺	朱印状の写が保存	27	119
104	古文書	宥勝寺文書	栗崎			宥勝寺	法流関係の史料及び仁和寺の直末許可状など、総点数約130点	27	120
105	古文書	開善寺文書	中央			開善寺	残された史料は近世中後期のものが多く、総点数約80点	27	315
106	古文書	増国寺文書	東五十子			増国寺	戦国期の記録五十子記は他に類本が少なく貴重	27	317
107	古文書	[個人所有] 文書	児玉町八幡山	中世～近代	永禄～大正	個人	2,323点、名主、地方文書・家・商業・金融関係、俳諧、町域近世文書最大	144 263	92 55
108	古文書	[個人所有] 文書	児玉町八幡山	中世～近代	安永～大正	個人	256点、名主、問屋、郡中取締役、宗門人別改帳、五人組帳、村高数人別改帳、借家宗門改帳、借家請人帳、公用日記、御用留、八幡学校	144 246	92 -
109	古文書	判取帳	山王堂				縦16.8cm、横12cm、山王堂河岸関係資料	154	84
110	古文書	大字小平区有文書	児玉町小平	近代	明治～大正	小平区	376点、小平、村況(村誌原稿等)、社寺(明細)、産業関係(繭・生糸・織物・桑畑等)、村政(議案報告)、教育	247	-
111	古文書	[個人所有] 文書	児玉町太駄	近世近代	延享～明治	個人	76点、太駄村、子年貢可納割付之事、太駄村往古より御支配替改	249	32
112	古文書	[個人所有] 文書	児玉町太駄	近世近代	寛文～明治	個人	109点、太駄村、御公用覚書、御用村用萬日記、御用留	249	39
113	古文書	[個人所有] 文書	児玉町河内	近世	寛文	個人	7点、河内村、検地水帳、鎮守基金勘定明細帳、地引帳、村絵図	249	49
114	古文書	[個人所有] 文書	児玉町河内	近世	明和～慶応	個人	4点、河内村、算用記、役用控、平塚宿助郷免除願	249	50
115	古文書	[個人所有] 文書	児玉町河内	近世	寛文～慶応	個人	8点、河内村、鉄砲御免願、八幡山領之内支配替覚	249	51
116	古文書	[個人所有] 文書	児玉町河内	近世	宝永～文久	個人	20点、河内村、古書付写、古箏聞傳覚書、往昔傳來記	249	52
117	古文書	[個人所有] 文書	児玉町稲沢	中世～近代	文禄～明治	個人	108点、稲沢、検地帳、名寄帳	250 19	25 258
118	古文書	[個人所有] 文書	児玉町稲沢	近世近代	寛永～明治	個人	225点、稲沢、検地名寄帳、村絵図、年貢勘定帳、皆済目録	250	37
119	古文書	[個人所有] 文書	児玉町元田	近世近代	安永～明治	個人	110点、元田、年貢請取、神社・村芝居帳簿	250	64
120	古文書	[個人所有] 文書	児玉町元田	近世近代	弘化～明治	個人	20点、元田、年貢帳、村絵図	250	73
121	古文書	町立児玉小学校蔵史料	児玉町	近世近代	万治～明治		67点、児玉、目録・抄録	252	99
122	古文書	[個人所有] 文書	児玉町	近世近代	元禄～明治	個人	271点、児玉村、名主・引継ぎ文書、地頭上納金、年貢減免願、酒造高取調べ等	261	1
123	古文書	玉蔵寺文書	児玉町	近世近代	延宝～明治	玉蔵寺	111点、児玉村、朱印改め、本山達書、本堂再建等	261	1
124	古文書	[個人所有] 文書	児玉町金屋	近世近代	享保～大正	個人	89点、金屋村、有力農民、質地証文、借用証文	261	1
125	古文書	[個人所有] 文書	児玉町金屋	近世近代	元禄～明治	個人	34点、金屋村、鍛冶屋	261	2
126	古文書	[個人所有] 文書	児玉町飯倉	近世近代	元禄～明治	個人	260点、飯倉村、名主、名寄帳、年貢割付、年貢取立帳、戸口関係文書等	261	2
127	古文書	[個人所有] 文書	児玉町秋山	近世	明和～寛政	個人	24点、秋山村、割元不正追及、日記類、十二天社再建、本覚院、年貢収納	261	2
128	古文書	[個人所有] 文書	児玉町秋山	近世	元治	個人	2点、秋山村、広木村、用水溜池示談書	261	2
129	古文書	[個人所有] 文書	児玉町秋山	近世近代	元禄～明治	個人	近世:169点、近代:58点、風洞分、検地帳、年貢減免、御用留、村絵図、五人組帳、宗門人別改帳、家数増減帳	261	2

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文獻番号	頁
130	古文書	[個人所有] 文書	児玉町下浅見	近世 近代	慶応～昭和	個人	16点、下浅見村、名主、御用留	261	2
131	古文書	[個人所有] 文書	児玉町下浅見	近世	延享～文久	個人	25点、下浅見村、真福寺文書、 修繕、寺領、村方出入の仲介	261	2
132	古文書	[個人所有] 文書	児玉町下浅見	近世	文政～天保	個人	2点、下浅見村、村借	261	2
133	古文書	[個人所有] 文書	児玉町下浅見	近世 近代	宝暦～明治	個人	6点、下浅見村	261	2
134	古文書	児玉町水道関係史料、児玉町水道配水塔関係図面		近代	明治～昭和			265	31
135	古文書	児玉用水関係史料、児玉用水筒瀬堰堤関係図面		近代	昭和			265	58
136	古文書	金屋村耕地整理組合ト水利権獲得契約締結ノ件		近代	昭和2(1927)年			265	62
137	古文書	埼玉県児玉郡秋山村耕地整理組合事業ノ概況		近代	昭和		秋山十二点池築造に関する書類	265	62
138	考古資料	旧石器(角錐状石器)	万年寺	原始	旧石器	本庄市	三空山古墳	49	5
139	考古資料	旧石器(ナイフ形石器)	児玉町塩谷	原始	旧石器	本庄市	下原北遺跡	49	5
140	考古資料	旧石器(ナイフ形石器)	万年寺	原始	旧石器	本庄市	石神境遺跡	49	5
141	考古資料	旧石器(ナイフ形石器)	西五十子	原始	旧石器	本庄市	西五十子田端屋敷遺跡	49	5
142	考古資料	旧石器(ナイフ形石器)	児玉町児玉南	原始	旧石器	本庄市	金屋南遺跡	49	5
143	考古資料	旧石器(ナイフ形石器)	北堀	原始	旧石器	本庄市	久下東遺跡	49	5
144	考古資料	旧石器(ナイフ形石器)	北堀	原始	旧石器	本庄市	久下前遺跡	49	5
145	考古資料	旧石器(縦長剥片)	北堀	原始	旧石器	本庄市	下田遺跡	49	5
146	考古資料	旧石器(削器)	児玉町共栄	原始	旧石器	本庄市	塚島遺跡	49	5
147	考古資料	旧石器(尖頭器)	万年寺	原始 古代	旧石器～縄文 草創期	本庄市	三空山遺跡	49	5
148	考古資料	旧石器(尖頭器)	西富田	原始	旧石器	本庄市	浅見山I遺跡	49	5
149	考古資料	旧石器(ナイフ形石器)	西富田	原始	旧石器	本庄市	浅見山I遺跡	49	5
150	考古資料	旧石器(荒屋型彫刻刀形石器)	西富田	原始	旧石器	本庄市	浅見山I遺跡	49	5
151	考古資料	旧石器(搔器)	西富田	原始	旧石器	本庄市	浅見山I遺跡	49	5
152	考古資料	旧石器(剥片)	西富田	原始	旧石器	本庄市	浅見山I遺跡	49	5
153	考古資料	旧石器(小型石器)	西富田	原始	旧石器	本庄市	浅見山I遺跡	49	5
154	考古資料	縄文土器	北堀	原始	縄文 草創期	本庄市	宥勝寺北裏遺跡	49	6
155	考古資料	縄文土器	西富田	原始	縄文 早期	本庄市	浅見山I遺跡	49	6
156	考古資料	縄文土器(深鉢)	児玉町秋山	原始	縄文 前期	本庄市	秋山中山遺跡	49	6
157	考古資料	石器	児玉町秋山	原始	縄文 前期	本庄市	秋山中山遺跡	49	6
158	考古資料	縄文土器(深鉢)	児玉町秋山	原始	縄文 前期	本庄市	秋山中山遺跡	49	7
159	考古資料	縄文土器(深鉢)	児玉町宮内	原始	縄文 前期	本庄市	宮内上ノ原遺跡	49	7
160	考古資料	縄文土器(深鉢)	児玉町秋山	原始	縄文 前期	本庄市	秋山中山遺跡	49	8
161	考古資料	縄文土器(小型深鉢)	児玉町秋山	原始	縄文 前期	本庄市	秋山中山遺跡	49	8
162	考古資料	縄文土器(浅鉢)	児玉町秋山	原始	縄文 前期	本庄市	秋山中山遺跡	49	8

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文庫番号	頁
163	考古資料	縄文土器（深鉢）	児玉町秋山	原始	縄文 前期	本庄市	秋山竹ノ原遺跡	49	8
164	考古資料	縄文土器（深鉢）	児玉町宮内	原始	縄文 前期	本庄市	天田遺跡	49	8
165	考古資料	縄文土器（深鉢）	児玉町秋山	原始	縄文 前期	本庄市	秋山中山遺跡	49	8
166	考古資料	石器	児玉町秋山	原始	縄文 前期	本庄市	秋山中山遺跡	49	8
167	考古資料	石棒	児玉町宮内	原始	縄文 前期	本庄市	宮内上ノ原遺跡	49	8
168	考古資料	縄文土器（深鉢）	児玉町共栄	原始	縄文 中期	本庄市	新宮遺跡	49	9
169	考古資料	縄文土器（深鉢）	児玉町共栄	原始	縄文 中期	本庄市	新宮遺跡	49	9
170	考古資料	縄文土器（深鉢）	児玉町共栄	原始	縄文 中期	本庄市	新宮遺跡	49	10
171	考古資料	縄文土器（深鉢）	児玉町児玉南	原始	縄文 中期	本庄市	金屋南遺跡	49	10
172	考古資料	石器	児玉町児玉南	原始	縄文 中期	本庄市	金屋南遺跡	49	10
173	考古資料	石棒	児玉町児玉南	原始	縄文 中期	本庄市	金屋南遺跡	49	11
174	考古資料	土製耳飾	児玉町共栄	原始	縄文 中期	本庄市	新宮遺跡	49	11
175	考古資料	土偶・土製耳飾	児玉町下真下	原始	縄文 後・晩期	本庄市	藤塚遺跡	49	11
176	考古資料	弥生土器（壺・甕・高坏）	児玉町塩谷	原始	弥生 後期	本庄市	塩谷平氏ノ宮遺跡	49	12
177	考古資料	石器	児玉町塩谷	原始	弥生 後期	本庄市	塩谷平氏ノ宮遺跡	49	12
178	考古資料	弥生土器（壺）	日の出	原始	弥生 後期	本庄市	薬師堂遺跡	49	13
179	考古資料	弥生土器（甕）	児玉町塩谷	原始	弥生 後期	本庄市	真鏡寺後遺跡	49	13
180	考古資料	土師器（壺・小型台付甕・高坏）	北堀	古代	3世紀後半	本庄市	北堀新田前遺跡2号墓	49	14
181	考古資料	土師器（壺・小型台付甕・器台）	北堀	古代	4世紀前半	本庄市	北堀新田前遺跡3号墓	49	14
182	考古資料	土師器（壺）	西富田	古代	4世紀前半	本庄市	浅見山Ⅰ遺跡3号方形周溝墓	49	15
183	考古資料	土師器（壺・高坏・鉢）	西富田	古代	4世紀前半	本庄市	浅見山Ⅰ遺跡8号方形周溝墓	49	15
184	考古資料	壺型埴輪	美里町関	古代	4世紀後半	本庄市	川輪聖天塚古墳	49	16
185	考古資料	円筒埴輪・朝顔形埴輪	小島	古代	5世紀後半	本庄市	上前原5号墳	49	18
186	考古資料	円筒埴輪・朝顔形埴輪	北堀	古代	5世紀後半	本庄市	西五十子44号墳	49	18
187	考古資料	円筒埴輪・朝顔形埴輪	北堀	古代	5世紀後半	本庄市	西五十子6号墳	49	18
188	考古資料	円筒埴輪・朝顔形埴輪	東五十子	古代	5世紀後半	本庄市	東五十子17号墳	49	18
189	考古資料	円筒埴輪・朝顔形埴輪	東五十子	古代	5世紀後半	本庄市	長沖137号墳	49	18
190	考古資料	壺を運ぶ女子人物埴輪	万年寺	古代	5世紀後半	本庄市	東五十子23号墳	49	19
191	考古資料	琴を弾く男子人物埴輪	万年寺	古代	5世紀後半	本庄市	東五十子23号墳	49	19
192	考古資料	馬形埴輪	万年寺	古代	5世紀後半	本庄市	三杓山7号墳	49	20
193	考古資料	家形埴輪	日の出	古代	6世紀前半	本庄市	石神境古墳	49	20
194	考古資料	家形埴輪	小島	古代	6世紀後半	本庄市	石神境古墳	49	21
195	考古資料	家形埴輪	小島	古代	6世紀後半	本庄市	伝・諏訪道満古墳	49	21

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文庫番号	頁
196	考古資料	男子人物埴輪	小島	古代	6世紀後半	本庄市	山の神古墳	49	22
197	考古資料	女子人物埴輪	小島	古代	6世紀後半	本庄市	前の山古墳	49	23
198	考古資料	女子人物埴輪	北堀	古代	6世紀後半	本庄市	せきね古墳	49	23
199	考古資料	鬚形埴輪	万年寺	古代	6世紀後半	本庄市	伝・諏訪道満古墳	49	26
200	考古資料	鬚形埴輪	万年寺	古代	6世紀後半	本庄市	宥勝寺裏埴輪窯跡	49	26
201	考古資料	土製・石製模造品と紡錘車(土製馬形模造品)	西富田	古代	5世紀後半	本庄市	西富田新田遺跡	49	27
202	考古資料	土製・石製模造品と紡錘車(土製鏡形模造品)	西富田	古代	5世紀後半	本庄市	西富田新田遺跡	49	27
203	考古資料	土製・石製模造品と紡錘車(雛形土器)	西富田	古代	5世紀後半	本庄市	西富田新田遺跡	49	27
204	考古資料	土製・石製模造品と紡錘車(石製剣形模造品)	西富田	古代	5世紀後半	本庄市	西富田新田遺跡	49	27
205	考古資料	土製・石製模造品と紡錘車(石製円盤形模造品)	西富田	古代	5世紀後半	本庄市	西富田新田遺跡	49	27
206	考古資料	土製・石製模造品と紡錘車(石製勾玉形模造品)	西富田	古代	5世紀後半	本庄市	西富田新田遺跡	49	27
207	考古資料	土製・石製模造品と紡錘車(砥石)	西富田	古代	5世紀後半	本庄市	西富田新田遺跡	49	27
208	考古資料	土製・石製模造品と紡錘車(土製紡錘車)	西富田	古代	5世紀後半	本庄市	西富田新田遺跡	49	27
209	考古資料	土製・石製模造品と紡錘車(石製紡錘車)	西富田	古代	5世紀後半	本庄市	西富田新田遺跡	49	27
210	考古資料	須恵器(坏)	児玉町塩谷	古代	5世紀後半	本庄市	ミカド遺跡	49	28
211	考古資料	須恵器(甗)	児玉町塩谷	古代	5世紀後半	本庄市	ミカド遺跡	49	28
212	考古資料	須恵器(把手付碗)	日の出	古代	5世紀後半	本庄市	薬師堂東遺跡	49	28
213	考古資料	須恵器(坏)	日の出	古代	5世紀後半	本庄市	薬師堂東遺跡	49	28
214	考古資料	須恵器(甗)	日の出	古代	5世紀後半	本庄市	薬師堂東遺跡	49	28
215	考古資料	鉄製農具・砥石(鍬鋤先)	東五十子	古代	5世紀後半	本庄市	東五十子城跡遺跡10号住居跡	49	28
216	考古資料	鉄製農具・砥石(斧)	東五十子	古代	5世紀後半	本庄市	東五十子城跡遺跡11号住居跡	49	28
217	考古資料	鉄製農具・砥石(鉈)	東五十子	古代	5世紀後半	本庄市	東五十子城跡遺跡12号住居跡	49	28
218	考古資料	鉄製農具・砥石(鑿)	東五十子	古代	5世紀後半	本庄市	東五十子城跡遺跡13号住居跡	49	28
219	考古資料	鉄製農具・砥石(鎌)	東五十子	古代	5世紀後半	本庄市	東五十子城跡遺跡14号住居跡	49	28
220	考古資料	鉄製農具・砥石(鋸)	東五十子	古代	5世紀後半	本庄市	東五十子城跡遺跡15号住居跡	49	28
221	考古資料	鉄製農具・砥石(摘鎌)	東五十子	古代	5世紀後半	本庄市	東五十子城跡遺跡16号住居跡	49	28
222	考古資料	鉄製農具・砥石(鋸)	東五十子	古代	5世紀後半	本庄市	東五十子城跡遺跡17号住居跡	49	28
223	考古資料	鉄製農具・砥石(砥石)	寿	古代	5世紀後半	本庄市	諏訪新田遺跡	49	28
224	考古資料	石製玉類・耳環・鉄鍬(水晶製勾玉)	児玉町児玉南	古代	6～7世紀	本庄市	長沖3号墳	49	29
225	考古資料	石製玉類・耳環・鉄鍬(瑪瑙製勾玉)	児玉町児玉南	古代	6～7世紀	本庄市	長沖3号墳	49	29
226	考古資料	石製玉類・耳環・鉄鍬(碧玉製勾玉)	児玉町児玉南	古代	6～7世紀	本庄市	長沖3号墳	49	29
227	考古資料	石製玉類・耳環・鉄鍬(碧玉製管玉)	児玉町児玉南	古代	6～7世紀	本庄市	長沖3号墳	49	29
228	考古資料	石製玉類・耳環・鉄鍬(水晶製切子玉)	児玉町児玉南	古代	6～7世紀	本庄市	長沖3号墳	49	29

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文庫番号	頁
229	考古資料	石製玉類・耳環・鉄鏃(金銅製耳環)	児玉町児玉南	古代	6～7世紀	本庄市	長沖 30 号墳	49	29
230	考古資料	石製玉類・耳環・鉄鏃	児玉町児玉南	古代	6～7世紀	本庄市	長沖 30 号墳	49	29
231	考古資料	重曹ガラス玉	児玉町児玉南	古代	6世紀後半	本庄市	長沖 203 号墳	49	30
232	考古資料	ガラス小玉鑄型	日の出	古代	7世紀	本庄市	葉師堂東遺跡	49 163	30 31
233	考古資料	帯金具(丸柄・巡方)	下野堂	古代	8世紀	本庄市	開拓 1 号墳	49	31
234	考古資料	石製紡錘車	栄	古代	9世紀	本庄市	葉師元屋舗遺跡	49	32
235	考古資料	石製紡錘車	東五十子	古代	9世紀	本庄市	東五十子田端屋敷遺跡	49	32
236	考古資料	石製紡錘車	東五十子	古代	9世紀	本庄市	東五十子田端屋敷遺跡	49	32
237	考古資料	墨書土器	西富田	古代	9世紀	本庄市	大久保山遺跡	49	33
238	考古資料	八稜鏡	西富田	古代	10世紀	本庄市	大久保山遺跡Ⅲ A 地区 1 号墓	49	33
239	考古資料	黒釉広口壺	栗崎	中世	13世紀	本庄市	大久保山寺院跡	49	34
240	考古資料	瀬戸灰釉瓶子	栗崎	中世	13世紀	本庄市	大久保山寺院跡	49	34
241	考古資料	蔵骨器	栗崎	中世	13世紀	本庄市	大久保山寺院跡	49	34
242	考古資料	蔵骨器	西富田	中世	13世紀	本庄市	社具路遺跡	49	34
243	考古資料	内耳鍋・片口鉢他	東五十子	中世	15世紀後半	本庄市	五十子陣跡	49	35
244	考古資料	内耳鍋・片口鉢他(瀬戸播鉢)	東五十子	中世	15世紀後半	本庄市	五十子陣跡	49	35
245	考古資料	内耳鍋・片口鉢他	東五十子	中世	15世紀後半	本庄市	五十子陣跡	49	35
246	考古資料	内耳鍋・片口鉢他(香炉)	東五十子	中世	15世紀後半	本庄市	五十子陣跡	49	35
247	考古資料	内耳鍋・片口鉢他(手焙)	東五十子	中世	15世紀後半	本庄市	五十子陣跡	49	35
248	考古資料	白磁小皿・角坏	東五十子	中世	15世紀後半	本庄市	五十子陣跡	49	36
249	考古資料	白磁小皿・角坏	東五十子	中世	15世紀後半	本庄市	五十子陣跡	49	36
250	考古資料	かわらけ・坩堝	東五十子	中世	15世紀後半	本庄市	五十子陣跡	49	36
251	考古資料	かわらけ・坩堝	東五十子	中世	15世紀後半	本庄市	五十子陣跡	49	36
252	考古資料	かわらけ・坩堝(耳皿)	東五十子	中世	15世紀後半	本庄市	五十子陣跡	49	36
253	考古資料	秋山般若寺古瓦		中世	徳治 2 (1307) 年		埼玉県における記年銘入りの最古の瓦	68 156	22 5
254	考古資料	個人所蔵出土品	秋平	古代	古墳		金環 7、管玉、切子玉、曲玉、鉄鏃等	125	5
255	考古資料	寺山廃寺出土品	児玉町河内	古代			寺山廃寺の風鐸(市指定有形文化財)、瓦塔、須恵器、土師器	139	118
256	考古資料	旭・小島古墳群出土品		古墳			碧玉製石剣	150	21
257	考古資料	御手長古墳(旭・小島古墳群)出土品		古墳			金環 8、丸玉 243、大刀 1、鉄鏃 86、人物埴輪 2、家型埴輪 1、※人物埴輪 1：市指定	150	21
258	考古資料	前山 2 号墳(大久保山古墳群)出土品		古墳	5世紀前半		刀子 3、鎌 2、錡 1、鏡 2、剣 2	150	24
259	考古資料	大久保山寺院跡出土品	栗崎 ほか	中世	鎌倉・室町		板石塔婆、五輪塔、黄瀬戸瓶子、片口鉢、剣尖文、偏行唐草文軒平瓦、巴文鍔瓦等	150 178	25 -
260	考古資料	公卿塚古墳出土品	児玉町	古代			円墳、造り出し付、普通円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪、石製模造品(斧、直刀鎌、刀子、白玉、ガラス小玉)	151	144
261	考古資料	北廓遺跡出土品	今井北廓 1123-1	中世	15世紀		覆土中、かわらけ、内耳鍋、ほうろく、石臼	153	27

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文獻番号	頁
262	考古資料	古井戸遺跡出土品	児玉町共栄、下真下	中世	13世紀後半		常滑甕片	153	27
263	考古資料	真鏡寺出土瓦	児玉町	中世				156	5
264	考古資料	西光寺跡出土瓦		中世				156	5
265	考古資料	社具路遺跡出土瓦		中世				156	5
266	考古資料	北堀新田前遺跡出土品(二重口縁壺・壺・小形台付壺・高杯・器台)				本庄市	本庄市教育委員会(本庄早稲田の杜ミュージアム)所蔵	163	31
267	考古資料	壺形埴輪(川輪聖天塚古墳)				本庄市	本庄市教育委員会(本庄早稲田の杜ミュージアム)所蔵	163	31
268	考古資料	銀象嵌円頭太刀装具	本庄	古代	古墳		重要美術品、古墳時代の工芸美術	184	18
269	歴史資料	武州小平村 観世音堂 算額	児玉町小平	近世	文化8(1811)年	観世音堂	文化8(1811)年8月	15	27
270	歴史資料	武州八幡山町 八幡宮 算額	児玉町八幡山	近世	安政3(1856)年	八幡宮	安政3(1856)年8月15日	15	90
271	歴史資料	中仙道本庄駅 金鑽明神社 算額	千代田	近世	安政5(1858)年	金鑽神社	安政5(1858)年9月	15	97
272	歴史資料	武州小平村 観音境内 算額	児玉町小平	近世	安政5(1858)年	観世音堂	安政5(1858)年10月	15	98
273	歴史資料	本庄市沼和田 聖天宮 算額	沼和田	近代	明治27(1894)年	聖天宮	明治27(1894)年4月	15	171
274	歴史資料	八幡神社俳句奉額	児玉町児玉	近代	明治時代初期	八幡神社	2種3枚、春秋庵系の俳人の額、久米逸淵・川村硯布等の名	144	122
275	歴史資料	相撲奉額	児玉町児玉	近代	昭和26(1951)年	八幡神社	随神門に3枚掛かる、八幡相撲と関連か	144	122
276	歴史資料	俳句奉額	児玉町八幡山	近世	寛政11(1799)年銘		木製墨書、本庄・児玉の俳人等、縦42cm横96cm	144	124

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文獻番号
277	歴史資料	板石塔婆(宥宝寺墓地)	西富田			5基	22
278	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	南			3基	22
279	歴史資料	板石塔婆(末広町)	末広町			1基	22
280	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	栗崎	中世	建長8(1256)年	1基	22
281	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	西五十子	中世	元徳元(1329)年	1基	22
282	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	西五十子			1基	22
283	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	西五十子	中世	延文2(1357)年	5基(うち市指定1)	22
284	歴史資料	板石塔婆(増国寺)	東五十子			1基	22
285	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	牧西			2基	22
286	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	牧西			1基	22
287	歴史資料	板石塔婆(立岩寺墓地)	滝瀬			4基	22
288	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	滝瀬			2基	22
289	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	滝瀬	中世	嘉歴3(1328)年	1基	22
290	歴史資料	板石塔婆(富田寺墓地)	東富田			1基	22
291	歴史資料	板石塔婆(共同墓地)	東富田			1基	22
292	歴史資料	板石塔婆(正観寺)	都島			2基	22
293	歴史資料	板石塔婆(本庄公民館)	中央	中世	延文(1356-1361)	3基	22

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文獻番号
294	歴史資料	板石塔婆(真福寺)	児玉町下浅見			2基	22
295	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	児玉町下浅見			1基	22
296	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	児玉町下浅見	中世	応安8(1375)年	4基、結晶片岩	22 48
297	歴史資料	板石塔婆(成就院)	児玉町下浅見	中世	至徳2(1385)年	1基、結晶片岩	22 48
298	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	児玉町下真下			1基	22
299	歴史資料	板石塔婆[個人墓地]	児玉町下真下			1基	22
300	歴史資料	板石塔婆[個人墓地]	児玉町下真下	中世	嘉歴元(1326)年 観応元(1350)年 文和4(1355)年	8基、結晶片岩	48
301	歴史資料	板石塔婆(能淵寺)	児玉町蛭川	中世	応安5(1372)年	2基、結晶片岩	22 48
302	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	児玉町蛭川中郭	中世	寶徳3(1451)年	1基、結晶片岩	22 48
303	歴史資料	板石塔婆(延命寺)	児玉町蛭川193			2基	22
304	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	児玉町下浅見鷺山			1基	22
305	歴史資料	板石塔婆[個人墓地]	児玉町入浅見大塚			2基	22
306	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	児玉町上真下八幡方			1基	22
307	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	児玉町上真下西浦	中世	延徳2(1490)年	2基、結晶片岩	22 48
308	歴史資料	板石塔婆(正楽寺)	児玉町上真下原	中世	康永□(1342-1345)年	4基、結晶片岩	22 48
309	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	児玉町上真下中内而			3基	22
310	歴史資料	板石塔婆[個人所有]	児玉町上真下東			1基	22

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	燐砒
311	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町蛸川新田			1基	22
312	歴史資料	板石塔婆 (墓地)	児玉町入浅見久保			1基	22
313	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町上真下南			4基	22
314	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町上真下南			2基	22
315	歴史資料	板石塔婆 [個人墓地]	児玉町上真下南	中世	元徳元(1329)年	2基、結晶片岩	22 48
316	歴史資料	板石塔婆 (堂の前墓地)	児玉町吉田林堂の前			1基	22
317	歴史資料	板石塔婆 [個人墓地]	児玉町児玉下町大道北			3基	22
318	歴史資料	板石塔婆(大久保共同墓地)	児玉町児玉下町			1基	22
319	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町八幡山			1基	22
320	歴史資料	板石塔婆 (浄眼寺)	児玉町八幡山			2基	22
321	歴史資料	板石塔婆 (玉蔵寺)	児玉町児玉	中世	弘安3(1280)年	3基、結晶片岩	22 48
322	歴史資料	板石塔婆 (玉蓮寺)	児玉町児玉本町	中世	嘉元2(1304)年 元徳2(1330)年 康永2(1343)年	6基、結晶片岩 (うち市指定1)	22 48
323	歴史資料	板石塔婆 (児玉公民館)	児玉町児玉				22
324	歴史資料	板石塔婆 (法養寺)	児玉町児玉	中世	文安2(1445)年	7基、結晶片岩	22 48 144
325	歴史資料	板石塔婆 (竜清寺)	児玉町保木野	中世	乾元2(1303)年	4基、結晶片岩	22 48
326	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町保木野	中世	貞治3(1364)年	4基(うち市指定1)	22
327	歴史資料	板石塔婆 [個人墓地]	児玉町保木野			3基	22
328	歴史資料	板石塔婆 (共同墓地)	児玉町田端	中世	応永12(1405)年	4基、結晶片岩	22 48
329	歴史資料	板石塔婆 [個人供養地]	児玉町田端中原	中世	応永12(1405)年	48基、結晶片岩	22 48
330	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町田端			3基	22
331	歴史資料	板石塔婆 (真鏡寺)	児玉町塩谷			4基	22
332	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町塩谷	中世	文保2(1318)年 元弘2(1332)年	4基、結晶片岩	22 48
333	歴史資料	板石塔婆 (天竜寺)	児玉町金屋			9基	22
334	歴史資料	板石塔婆 [個人墓地]	児玉町宮内阿久津	中世	嘉元2(1304)年	7基	22
335	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町宮内飯宿前	中世	永仁(1293-1299)	1基、結晶片岩	22 48
336	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町宮内阿久津			1基	22
337	歴史資料	板石塔婆 (法性寺)	児玉町飯倉北			1基	22
338	歴史資料	板石塔婆 [個人墓地]	児玉町飯倉上洪田			1基	22
339	歴史資料	板石塔婆 [個人墓地]	児玉町塩谷			2基	22
340	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町塩谷	中世	暦応3(1340)年	1基、結晶片岩	22 48
341	歴史資料	板石塔婆 [個人墓地]	児玉町塩谷	中世	延文2(1357)年	1基、結晶片岩	22 48
342	歴史資料	板石塔婆 (淵竜寺墓地)	児玉町金屋倉林	中世	元応元(1319)年	4基、結晶片岩	22 48
343	歴史資料	板石塔婆 (恵日寺)	児玉町長沖	中世	正安(1299-1302)	4基、結晶片岩	22 48

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	燐砒
344	歴史資料	板石塔婆 [個人墓地]	児玉町長沖冨家の上	中世	元享(1321-1324)	1基、結晶片岩	22 48
345	歴史資料	板石塔婆 (観音堂)	児玉町飯倉山崎下南			1基	22
346	歴史資料	板石塔婆 [私有地畑]	児玉町高柳間の田			1基	22
347	歴史資料	板石塔婆 (観音寺墓地)	児玉町高柳			1基	22
348	歴史資料	板石塔婆 (虚空蔵尊)	児玉町高柳江之浜			2基	22
349	歴史資料	板石塔婆 (長泉寺)	児玉町高柳			9基	22
350	歴史資料	板石塔婆 (光福寺)	児玉町宮内背戸谷			3基	22
351	歴史資料	板石塔婆 (風洞共同墓地)	児玉町秋山			1基	22
352	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山			1基	22
353	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山			4基	22
354	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山			1基	22
355	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山塚原			1基	22
356	歴史資料	板石塔婆 [個人墓地]	児玉町秋山塚原			1基	22
357	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山塚原			1基	22
358	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山四反畑			1基	22
359	歴史資料	板石塔婆 [個人墓地]	児玉町秋山			1基	22
360	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山			2基	22
361	歴史資料	板石塔婆 (日輪寺)	児玉町秋山			1基	22
362	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山			1基、結晶片岩	22 48
363	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山			2基	22
364	歴史資料	板石塔婆 (直正寺)	児玉町秋山	中世	延慶2(1309)年	1基、結晶片岩	22 48
365	歴史資料	板石塔婆 (本覚院)	児玉町秋山中通	中世	寛正5(1464)年	3基、結晶片岩	22 48
366	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山			1基	22
367	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山	中世	文保元(1317)年	3基、結晶片岩	22 48
368	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山			1基	22
369	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山			5基	22
370	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町秋山後内手			2基	22
371	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町小平			1基	22
372	歴史資料	板石塔婆 (石仏百体観音)	児玉町			1基	22
373	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町元田			1基	22
374	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町元田			1基	22
375	歴史資料	板石塔婆 (後元田墓地)	児玉町元田			1基	22
376	歴史資料	板石塔婆 [私有地]西側薬師堂跡	児玉町元田	中世	永徳(1381-1384)	7基、結晶片岩	22 48

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	建群
377	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 稲沢			3基	22
378	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 稲沢			1基	22
379	歴史資料	板石塔婆 [個人墓地]	児玉町 稲沢			1基	22
380	歴史資料	板石塔婆 (太駄沢戸口)	児玉町			1基	22
381	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 河内			7基	22
382	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 河内勝沢			9基	22
383	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 河内下勝沢			2基	22
384	歴史資料	板石塔婆 (荒神堂前)	児玉町 河内下勝沢			1基	22
385	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 河内神子沢			1基	22
386	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 河内神子沢	中世	永徳2 (1382)年	13基、 結晶片岩	22 48
387	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 太駄下谷戸			1基	22
388	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 太駄			7基	22
389	歴史資料	板石塔婆 (正覚寺)	児玉町 太駄小塚	中世	文永5 (1268)年	3基、結 晶片岩	22 48
390	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 太駄小塚			3基	22
391	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 太駄沢戸口			1基	22
392	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 宮内阿久戸			4基	22
393	歴史資料	板石塔婆 [個人所有]	児玉町 太駄横畑			5基	22
394	歴史資料	板石塔婆	児玉町 保木野	中世	嘉元元 (1303)年	結晶片 岩	48
395	歴史資料	板石塔婆	児玉町 宮内阿久津	中世	延慶元 (1308)年	結晶片 岩	48
396	歴史資料	板石塔婆	児玉町 塩谷	中世	建武2 (1335)年	結晶片 岩	48
397	歴史資料	板石塔婆	児玉町 児玉	中世	貞治6 (1367)年	結晶片 岩	48
398	歴史資料	放光寺 中世石造物	山王堂	中世		石仏2	46
399	歴史資料	正覚院跡 中世石造物	小和瀬	中世		宝篋印塔3、 五輪塔7	46
400	歴史資料	薬師堂 中世石造物	小和瀬	中世	宝治丁未 (1247)	宝篋印塔1、 その他1(う ち市指定1)	46
401	歴史資料	宝珠寺 中世石造物	牧西	中世	応安7(1374)年 永徳元(1381)年	宝篋印塔2、 五輪塔2	46
402	歴史資料	共同墓地 中世石造物	寿	中世		五輪塔 1	46
403	歴史資料	久下塚墓地 中世石造物	見福	中世		五輪塔 1	46
404	歴史資料	宥宝寺 中世石造物	西富田	中世		五輪塔 8	46
405	歴史資料	共同墓地 中世石造物	東富田	中世		五輪塔 1	46
406	歴史資料	薬師堂 中世石造物	今井	中世		宝篋印塔5、 五輪塔9	46
407	歴史資料	光明寺 中世石造物	四方田	中世		宝篋印塔1、 五輪塔6	46
408	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	栗崎	中世	天文12(1543)年 天文17(1548)年	宝篋印塔5、 五輪塔7	46
409	歴史資料	[個人所有] 中世石造物	栗崎	中世		五輪塔 1	46

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	建群
410	歴史資料	宥勝寺 中世石造物	栗崎	中世	大永3(1523)年 永祿4(1561)年	宝篋印塔2、五 輪塔27、石仏1 (うち市指定1)	46
411	歴史資料	早稲田大学考古資 料館中世石造物	栗崎	中世	応永13 (1406)年	五輪塔 3	46
412	歴史資料	東谷中世墳墓址 中世石造物	栗崎	中世		宝篋印塔 25、石仏1	46
413	歴史資料	増国寺 中世石造物	東五十 子	中世		五輪塔 1	46
414	歴史資料	東五十子城遺跡 中世石造物	東五十 子	中世	文安5 (1448)年	宝篋印塔4、 五輪塔4	46
415	歴史資料	不動寺 中世石造物	西五十 子	中世	文明元 (1469)年	五輪塔4、 石仏1(う ち市指定1)	46
416	歴史資料	台遺跡 中世石造物	西五十 子字台	中世	応永22(1415)年 永享13(1441)年	宝篋印塔1、 五輪塔1	46
417	歴史資料	西五十子古墳群 中世石造物	北堀	中世	康暦2 (1380)年	五輪塔 1	46
418	歴史資料	慈恩寺 中世石造物	中央	中世		石仏1	46
419	歴史資料	安養院 中世石造物	中央	中世		五輪塔1、 石仏1	46
420	歴史資料	正観寺 中世石造物	都島 864	中世		五輪塔 1	46
421	歴史資料	宝輪寺 中世石造物	沼和田 869	中世		五輪塔 4	46
422	歴史資料	宗真院 中世石造物	仁手 267	中世		五輪塔 3	46
423	歴史資料	立岩寺 中世石造物	滝瀬 1420	中世		五輪塔 5	46
424	歴史資料	観音堂 中世石造物	堀田 1001	中世		宝篋印 塔1	46
425	歴史資料	本庄城跡 中世石造物	台町城 山	中世		宝篋印塔1、 五輪塔4	46
426	歴史資料	旭小島古墳群地原 屋敷中世石造物	下野堂	中世		五輪塔 1	46
427	歴史資料	市理蔵文化財セ ンター中世石造物	西牧 1137	中世		宝篋印 塔1	46
428	歴史資料	真福寺 中世石造物	児玉町 下浅見	中世	元和9 (1623)年	宝篋印塔1、 五輪塔8	46 245
429	歴史資料	[個人所有] 中世石造物	児玉町 下浅見	中世		五輪塔 4	46 245
430	歴史資料	成就院墓地 中世石造物	児玉町 下浅見	中世		五輪塔 9	46 245
431	歴史資料	[個人所有] 中世石造物	児玉町 下浅見	中世		宝篋印塔1、 五輪塔1	46 245
432	歴史資料	[個人所有] 中世石造物	児玉町 下浅見	中世		宝篋印塔2、 五輪塔3	46 245
433	歴史資料	工杓神様 中世石造物	児玉町 下浅見	中世		五輪塔 4	46 245
434	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 下浅見	中世		五輪塔 5	46 245
435	歴史資料	成就院墓地 中世石造物	児玉町 下浅見	中世		五輪塔 1	46
436	歴史資料	観音堂墓地 中世石造物	児玉町 入浅見	中世		五輪塔 10	46 245
437	歴史資料	阿弥陀堂墓地 中世石造物	児玉町 入浅見	中世		五輪塔 2	46 245
438	歴史資料	城の内遺跡 中世石造物	児玉町 入浅見 見字城の内	中世		宝篋印塔1、 五輪塔3	46 245
439	歴史資料	能淵寺 中世石造物	児玉町 蛭川	中世		宝篋印塔2、 五輪塔2	46 245
440	歴史資料	延命寺 中世石造物	児玉町 蛭川	中世		五輪塔4、 石幢1	46 245
441	歴史資料	釈迦堂 中世石造物	児玉町 蛭川	中世	永正8 (1511)年	五輪塔1、多 孔 真黒色系安山岩	46 48 245
442	歴史資料	共有墓地 中世石造物	児玉町 蛭川	中世		宝篋印塔1、 五輪塔2	46 245

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献
443	歴史資料	西養寺 中世石造物	児玉町 吉田林	中世	応永 13 (1406) 年	宝篋印塔 3、五 輪塔 16、多孔 質黒色系安山岩	46、48、 144、245
444	歴史資料	中原遺跡 中世石造物	児玉町田 端字中原	中世		宝篋印塔 8、 五輪塔 5	46 245
445	歴史資料	〔個人墓地〕 中世石造物	児玉町田 端	中世		宝篋印塔 7、 五輪塔 4	46 245
446	歴史資料	田端共同墓地 中世石造物	児玉町田 端	中世		宝篋印塔 7、 五輪塔 4	46 245
447	歴史資料	〔個人墓地〕 中世石造物	児玉町田 塩谷	中世	寛正 3 (1462) 年	五輪塔 2、 牛状砂岩	46 48 245
448	歴史資料	金王神社跡 中世石造物	児玉町田 塩谷	中世		宝篋印塔 3、 五輪塔 2	46 245
449	歴史資料	真鏡寺館跡 中世石造物	児玉町田 塩谷	中世		宝篋印塔 2、 五輪塔 1	46 245
450	歴史資料	真鏡寺 中世石造物	児玉町田 塩谷	中世		宝篋印塔 3、 五輪塔 6、 その他 1	46 245
451	歴史資料	塩谷墓地 中世石造物	児玉町田 塩谷	中世	応安 3 (1370) 年	宝篋印塔 1、 多孔質黒色 系安山岩	46 48 245
452	歴史資料	〔私有共同墓地〕 中世石造物	児玉町田 塩谷	中世		宝篋印 塔 2	46 245
453	歴史資料	〔個人墓地〕 中世石造物	児玉町上 真下	中世	応永 7 (1400) 年 天文 4 (1535) 年	宝篋印塔、 五輪塔 7	46、48、 144、245
454	歴史資料	〔個人墓地〕 中世石造物	児玉町上 真下	中世		五輪塔 5	46 245
455	歴史資料	釈迦堂跡 中世石造物	児玉町上 真下	中世		五輪塔 1	46 245
456	歴史資料	〔個人所有〕 中世石造物	児玉町上 真下	中世		五輪塔 2	46 245
457	歴史資料	〔個人墓地〕 中世石造物	児玉町下 真下	中世		五輪塔 3	46 245
458	歴史資料	正楽寺 中世石造物	児玉町上 真下	中世		宝篋印塔 1、 五輪塔 6	46 245
459	歴史資料	〔個人所有〕 中世石造物	児玉町上 真下	中世	明応 7 (1498) 年	五輪塔 1、 多孔質角閃 石安山岩	46 48 245
460	歴史資料	下真下 中世石造物	児玉町上 真下	中世		宝篋印 塔 2	46 245
461	歴史資料	下真下共同墓地 中世石造物	児玉町下 真下	中世		宝篋印塔 2、 五輪塔 6	46 245
462	歴史資料	〔個人墓地〕 中世石造物	児玉町下 真下	中世	天正 18 (1590) 年	宝篋印塔 3、 五輪塔 7、石 鐘 1、石室 2	46 245
463	歴史資料	實相寺 中世石造物	児玉町児 玉	中世		宝篋印塔 1、 五輪塔 11	46 245
464	歴史資料	玉蔵寺 中世石造物	児玉町児 玉	中世	永徳 2 (1382) 年	宝篋印塔 1、 五輪塔 3	46 48 245
465	歴史資料	玉蓮寺 中世石造物	児玉町児 玉	中世		宝篋印塔 1、 五輪塔 2	46 245
466	歴史資料	光徳寺跡墓地 中世石造物	児玉町児 玉	中世		五輪塔 4	46 245
467	歴史資料	東福院墓地 中世石造物	児玉町児 玉	中世		五輪塔 10	46
468	歴史資料	東福院 中世石造物	児玉町児 玉	中世		宝篋印 塔 1	46 245
469	歴史資料	油地藏堂 中世石造物	児玉町児 玉	中世		宝篋印塔 1、 五輪塔 8	46 245
470	歴史資料	新町区 中世石造物	児玉町児 玉	中世		五輪塔 1	46 245
471	歴史資料	法養寺 中世石造物	児玉町児 玉	中世	文明 (1469- 1487)	宝篋印塔 1、 五輪塔 3、多孔 質角閃石安山岩	46、48、 144、245
472	歴史資料	白山神社 中世石造物	児玉町児 玉	中世	永和 2 (1376) 年	宝篋印塔 1、 多孔質黒色 系安山岩	46 48 245
473	歴史資料	下町区 中世石造物	児玉町児 玉	中世		五輪塔 1	46
474	歴史資料	久保田馬頭尊 中世石造物	児玉町児 玉	中世		五輪塔 1	46 245
475	歴史資料	大道北庚申塔脇 中世石造物	児玉町児玉 字下生野	中世		五輪塔 1	46 245

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献
476	歴史資料	生野山南路傍 中世石造物	児玉町児玉 字下生野	中世		五輪塔 2	46 245
477	歴史資料	〔個人墓地〕 中世石造物	児玉町児 玉字生野	中世		五輪塔 3	46 245
478	歴史資料	〔個人墓地〕 中世石造物	児玉町児 玉字山王	中世		五輪塔 4	46 245
479	歴史資料	浄眼寺 中世石造物	児玉町八 幡山	中世		五輪塔 2	46 245
480	歴史資料	雉岡の丘の上 中世石造物	児玉町八 幡山	中世		宝篋印塔 1、 五輪塔 2	46 245
481	歴史資料	雉岡城跡 中世石造物	児玉町八 幡山	中世		五輪塔 1	46 245
482	歴史資料	雉岡城跡 中世石造物	児玉町八 幡山	中世		五輪塔 1	46 245
483	歴史資料	保木野 中世石造物	児玉町保 木野	中世		宝篋印塔 1、 五輪塔 1	46 245
484	歴史資料	〔個人墓地〕 中世石造物	児玉町保 木野	中世		五輪塔 4	46 245
485	歴史資料	龍清寺 中世石造物	児玉町保 木野	中世	応永 34 (1427) 年 大永 2 (1522) 年	宝篋印塔 3、 五輪塔 14、多孔 質黒色系安山岩	46、48、 144、245
486	歴史資料	日向 中世石造物	児玉町飯 倉字日向	中世		五輪塔 2	46 245
487	歴史資料	共同墓地 中世石造物	児玉町飯 倉	中世		宝篋印 塔 1	46
488	歴史資料	飯倉共同墓地 中世石造物	児玉町飯 倉	中世		宝篋印塔 1、 五輪塔 1	46
489	歴史資料	法性寺 中世石造物	児玉町飯 倉	中世		宝篋印 塔 1	46 245
490	歴史資料	道祖神脇 中世石造物	児玉町飯 倉	中世		宝篋印塔 1、 五輪塔 1	46 245
491	歴史資料	〔個人所有〕 中世石造物	児玉町飯 倉	中世		五輪塔 3	46 245
492	歴史資料	山崎観音堂墓地 中世石造物	児玉町飯 倉	中世		五輪塔 4	46 245
493	歴史資料	手箱池共有墓地 中世石造物	児玉町宮 内	中世		五輪塔 9	46 245
494	歴史資料	光福寺 中世石造物	児玉町宮 内	中世		五輪塔 5	46 245
495	歴史資料	〔個人所有〕 中世石造物	児玉町宮 内	中世		宝篋印塔 1、 五輪塔 1	46 245
496	歴史資料	〔私有共同墓地〕 中世石造物	児玉町宮 内	中世	延文 3 (1358) 年	宝篋印塔 1、 五輪塔 9、多孔 質黒色系安山岩	46 48 245
497	歴史資料	共同墓地 中世石造物	児玉町高 柳	中世		五輪塔 3	46 245
498	歴史資料	観音寺 中世石造物	児玉町高 柳	中世	応永 28 (1421) 年 明応 6 (1497) 年	宝篋印塔 3、 五輪塔 7	46 48 245
499	歴史資料	三嶋愛宕神社 中世石造物	児玉町高 柳	中世	文明 16 (1484) 年	宝篋印塔 1、 多孔質角閃 石安山岩	46 48 245
500	歴史資料	高柳共同墓地 中世石造物	児玉町高 柳	中世	文明 16 (1484) 年	宝篋印塔 3、 五輪塔 34	46 245
501	歴史資料	長泉寺 中世石造物	児玉町高 柳	中世		宝篋印塔 4、 五輪塔 6	46 245
502	歴史資料	虚空蔵尊 中世石造物	児玉町高 柳	中世		五輪塔 2	46 245
503	歴史資料	〔私有共同墓地〕 中世石造物	児玉町高 柳	中世		宝篋印塔 1、 五輪塔 5	46 245
504	歴史資料	光福寺 中世石造物	児玉町太 駄	中世		五輪塔 3	46 245
505	歴史資料	千手院跡 中世石造物	児玉町太 駄	中世		五輪塔 8、 牛状砂岩	46 48 245
506	歴史資料	〔個人所有〕 中世石造物	児玉町太 駄	中世	天文 2 (1533) 年	墓石 1、 結晶片岩	46 48 245
507	歴史資料	十輪院 中世石造物	児玉町河 内	中世		五輪塔 1	46 245
508	歴史資料	〔個人墓地〕 中世石造物	児玉町河 内	中世		五輪塔 6	46 245

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	棟数
509	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 稲沢	中世		五輪塔 3	46 245
510	歴史資料	元田の庚申塔竊 中世石造物	児玉町 元田	中世		五輪塔 2	46 245
511	歴史資料	普明寺 中世石造物	児玉町 小平	中世		五輪塔 2	46 245
512	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 小平	中世		五輪塔 12	46 245
513	歴史資料	[個人所有] 中世石造物	児玉町 小平	中世	応永10(1403)年 応永17(1410)年	宝篋印塔2、 多孔質黒色 系安山岩	46 48 245
514	歴史資料	成身院 中世石造物	児玉町 小平	中世	文明壬辰(1472) (他15基)	宝篋印塔1、 五輪塔47	46 48 245
515	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 小平	中世	応口(1394- 1428)	宝篋印塔塔 7、五輪塔 11、石幢1	46 48 245
516	歴史資料	光西寺跡墓地 中世石造物	児玉町 小平	中世		五輪塔 3	46 245
517	歴史資料	光西寺跡墓地 中世石造物	児玉町 小平	中世		宝篋印塔1、五 輪塔16、多孔 質黒色系安山岩	46 48 245
518	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 小平	中世		五輪塔 1	46 245
519	歴史資料	岩谷堂 中世石造物	児玉町 小平	中世	応永2(1395)年 (他5基)	宝篋印塔3、五 輪塔189、宝 篋1、その他2	46 48 245
520	歴史資料	恵日寺 中世石造物	児玉町 長沖	中世	永享十口(1438- 1441)年	宝篋印塔10、 五輪塔80、 無縫塔2	46 48 245
521	歴史資料	円満寺墓地 中世石造物	児玉町 長沖	中世		宝篋印塔1、 五輪塔4	46 245
522	歴史資料	円通寺 中世石造物	児玉町 金屋	中世	天正4 (1576)年	宝篋印塔1、 五輪塔24、 牛状砂岩	46 48 245
523	歴史資料	天龍寺 中世石造物	児玉町 金屋	中世	天文16 (1547)年	宝篋印塔 6、五輪塔 6、石室1	46、48、 144、245
524	歴史資料	宝蔵寺 中世石造物	児玉町 金屋	中世		宝篋印塔1、 五輪塔12、 その他1	46 245
525	歴史資料	真福寺 中世石造物	児玉町 金屋	中世	永正14 (1517)年	五輪塔 14	46 144 245
526	歴史資料	金屋共同墓地 中世石造物	児玉町 金屋	中世		五輪塔 3	46
527	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 金屋	中世		五輪塔 1	46 245
528	歴史資料	[個人所有] 中世石造物	児玉町 金屋	中世		五輪塔 1	46 245
529	歴史資料	馬頭観音脇 中世石造物	児玉町 金	中世		五輪塔 1	46 245
530	歴史資料	馬頭観音脇 中世石造物	児玉町 金	中世		五輪塔 1	46 245
531	歴史資料	馬頭観音脇 中世石造物	児玉町 金屋	中世	応安3 (1370)年	宝篋印塔2、五 輪塔3、多孔 質黒色系安山岩	46 245
532	歴史資料	本覚院 中世石造物	児玉町 秋山	中世		宝篋印塔1、 五輪塔7	46 245
533	歴史資料	日輪寺 中世石造物	児玉町 秋山	中世	応安2(1369)年 (他5基)	宝篋印塔8、 五輪塔24	46 48 245
534	歴史資料	秋山薬師堂跡 中世石造物	児玉町 秋山	中世		宝篋印塔1、 五輪塔4	46 245
535	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 秋山	中世		五輪塔 1	46 245
536	歴史資料	普賢寺墓地 中世石造物	児玉町 秋山	中世		宝篋印塔 1	46
537	歴史資料	天神社 中世石造物	児玉町 秋山	中世		五輪塔 1	46 245
538	歴史資料	[個人所有] 中世石造物	児玉町 秋山	中世		宝篋印塔1、 五輪塔1	46 245
539	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 秋山	中世	永享6 (1434)年	宝篋印塔 1、五輪塔 4、石幢1	46 48 245
540	歴史資料	堂跡墓地 中世石造物	児玉町 秋山	中世		五輪塔 1	46 245
541	歴史資料	風洞 中世石造物	児玉町 秋山風洞	中世		五輪塔 1	46

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	棟数	
542	歴史資料	古井戸遺跡 中世石造物	児玉町 共栄 字南共和	中世			宝篋印塔1、 五輪塔1	46 245
543	歴史資料	長福寺 中世石造物	児玉町 八幡山	中世			五輪塔の 部品4基	245
544	歴史資料	(字生野) 共有 墓地中世石造物	児玉町 児玉	中世			五輪塔の立 塔と部品	245
545	歴史資料	大光院寺墓地 中世石造物	児玉町 金屋	中世			五輪塔 の部品	245
546	歴史資料	円通寺入口庚申 塔竊中世石造物	児玉町 金屋	中世			五輪塔ほか の部品	245
547	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 飯倉	中世			宝篋印塔 の立塔	245
548	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 飯倉	中世			五輪塔 の立塔	245
549	歴史資料	(字上八幡) 共有 墓地中世石造物	児玉町 飯倉	中世			宝篋印塔 の立塔	245
550	歴史資料	[個人所有] 中世石造物	児玉町 飯倉	中世			五輪塔の 空風輪	245
551	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 塩谷	中世			五輪塔の 空風輪	245
552	歴史資料	(字下宿) 祠前 中世石造物	児玉町 保木野	中世			五輪塔 の水輪	245
553	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 保木野	中世			五輪塔 の水輪	245
554	歴史資料	御獄神社 中世石造物	児玉町 秋山	中世			五輪塔 の水輪	245
555	歴史資料	(塚原) [個人所有] 中世石造物	児玉町 秋山	中世			五輪塔 の火輪	245
556	歴史資料	(塚原) [個人所有] 中世石造物	児玉町 秋山	中世			五輪塔 の火輪	245
557	歴史資料	(風洞) 字新堀 墓地中世石造物	児玉町 秋山	中世			宝篋印 塔の笠	245
558	歴史資料	(風洞) 小山川そば 路傍中世石造物	児玉町 秋山	中世			五輪塔の 空風輪	245
559	歴史資料	(西小平) [個人墓地] 中世石造物	児玉町 小平	中世			五輪塔の空 風輪と水輪	245
560	歴史資料	(西小平) 就業セノ ター掘中世石造物	児玉町 小平	中世			五輪塔の空 風輪ほか	245
561	歴史資料	(西小平) [個人墓地] 中世石造物	児玉町 小平	中世	康暦3 (1381)年		宝篋印塔の 基礎ほか	48 245
562	歴史資料	(東小平) 岩谷堂 登り口中世石造物	児玉町 小平	中世			五輪塔の空 風輪と火輪	245
563	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 太駄	中世			五輪塔の空 風輪と水輪	245
564	歴史資料	徳蔵寺 中世石造物	児玉町 太駄	中世			五輪塔の 空風輪	245
565	歴史資料	徳蔵寺北側の路 傍中世石造物	児玉町 太駄	中世			五輪塔 の地輪	245
566	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 太駄	中世			五輪塔・宝篋 印塔の部品	245
567	歴史資料	(下稲沢) [個人墓地] 中世石造物	児玉町 稲沢	中世			五輪塔 の部品	245
568	歴史資料	(字神西) 地藏 堂中世石造物	児玉町 上真下	中世			五輪塔の空 風輪ほか	245
569	歴史資料	阿弥陀堂墓地 中世石造物	児玉町 吉田林	中世			五輪塔 の部品	245
570	歴史資料	[個人墓地] 中世石造物	児玉町 高関	中世			五輪塔の 空風輪	245
571	歴史資料	白山神社 中世石造物	児玉町 高関	中世			五輪塔 の水輪	245
572	歴史資料	子育観音 石造物	新井	近世	宝暦3(1753)年 (他3基)		宝暦1、二十一夜 講1、二十三夜講1、講 講1、真塔1	44
573	歴史資料	(新井) 石造物	新井	近世	延宝8(1680)年 (他5基)		庚申塔4、 二十二夜塔 1、巡拜塔1	44
574	歴史資料	清洲寺 石造物	新井	近世	享保19(1734)年 (他3基)		庚申塔4、馬頭 観音1、道祖神 2、不詳1	44

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号
575	歴史資料	(杉山)石造物	杉山	近世	寛政12(1800)年	庚申塔3、道祖神1、不詳1	44
576	歴史資料	角折神社石造物	都島	近世	安政7(1860)年	庚申塔1、道祖神1	44
577	歴史資料	(都島)石造物	都島			地藏菩薩1、読誦塔1	44
578	歴史資料	正観寺石造物	都島	近世	元文5(1740)年(他3基)	庚申塔4	44
579	歴史資料	(都島)石造物	都島	近世	寛政6(1794)年 寛政12(1800)年	庚申塔2	44
580	歴史資料	(都島)石造物	都島	近代	明治40(1907)年	庚申塔1	44
581	歴史資料	日枝神社石造物	山王堂	近世近代	元文5(1740)年(他12基)	庚申塔7、二十二夜塔1、不詳1、馬頭観音1	44
582	歴史資料	利根川堤防石造物	山王堂	近世	安政4(1857)年	庚申塔2、馬頭観音1	44
583	歴史資料	飯玉神社石造物	沼和田	近世	文政7(1824)年(他3基)	庚申塔4、不明1	44
584	歴史資料	沼和田セソ夕一東石造物		近世	享保11(1726)年(他4基)	庚申塔7、念仏供養塔1、名号塔1、不詳1	44
585	歴史資料	宝輪寺入口石造物	沼和田	近世	万延元(1860)年	庚申塔1	44
586	歴史資料	旭産業正門前石造物	沼和田	現代	昭和38(1963)年	庚申塔1、聖観音1	44
587	歴史資料	(沼和田)石造物	沼和田	近世	天明2(1782)年	二十二夜塔1	44
588	歴史資料	(沼和田)石造物	沼和田			馬頭観音1	44
589	歴史資料	茂木工業東石造物	沼和田			庚申塔2、道祖神2	44
590	歴史資料	(沼和田)石造物	沼和田	近世	慶応元(1865)年	馬頭観音1	44
591	歴史資料	(沼和田)石造物	沼和田	近世	嘉永5(1852)年	二十二夜塔1	44
592	歴史資料	(沼和田)石造物	沼和田	近世	安政3(1856)年	馬頭観音1	44
593	歴史資料	(沼和田)石造物	沼和田	近世近代	安政7(1860)年 明治35(1902)年	庚申塔1、道祖神1、不詳1	44
594	歴史資料	(沼和田)石造物	沼和田	近世	弘化2(1845)年	馬頭観音1	44
595	歴史資料	(沼和田)石造物	沼和田	近世	延享4(1747)年	二十二夜塔2	44
596	歴史資料	(沼和田)石造物	沼和田			庚申塔2	44
597	歴史資料	(山王堂)石造物	山王堂			庚申塔1、不詳1	44
598	歴史資料	(山王堂)石造物	山王堂			庚申塔1	44
599	歴史資料	(小島)石造物	小島	近世	明和元(1764)年 安政4(1857)年	庚申塔2、馬頭観音1	44
600	歴史資料	(小島)石造物	小島			庚申塔3	44
601	歴史資料	(下野堂)石造物	下野堂	近世	宝永5(1708)年 宝永3(1753)年 寛政2(1790)年	庚申塔1、二十二夜塔2、馬頭観音1、念仏塔1	44
602	歴史資料	山本製作所石造物	下野堂	近世	寛政12(1800)年 万延元(1860)年 万延(1860-1861)	庚申塔9	44
603	歴史資料	二柱神社石造物	下野堂	近世近代	明和6(1769)年(他5基)	庚申塔5、大山嶺三神塔道祖神1、不詳1	44
604	歴史資料	(小島)石造物	小島	近世	享保7(1722)年(他4基)	庚申塔5、二十二夜塔2	44
605	歴史資料	諏訪神社石造物	小島			馬頭観音1	44
606	歴史資料	(小島)石造物	小島			庚申塔1	44
607	歴史資料	(小島)石造物	小島			弁財天1、水天宮1	44

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号
608	歴史資料	唐鈴神社石造物	小島	近世	天保6(1835)年	五神塔1、三神塔1、霊神塔2	44
609	歴史資料	長松寺石造物	小島	近世近代	延享2(1745)年	庚申塔6、二十二夜塔4、馬頭観音2、不詳塔1、読誦塔1	44
610	歴史資料	(千代田)石造物	千代田	近世	安永8(1779)年	二十二夜塔1	44
611	歴史資料	(上仁手)石造物	上仁手	近世	享保7(1722)年 寛延4(1751)年 万延元(1860)年	庚申塔2、二十二夜塔3、二十二夜塔1、地蔵菩薩1、読誦塔1	44
612	歴史資料	(田中)石造物	田中	近代	明治32(1899)年	観音1	44
613	歴史資料	(田中)石造物	田中	近世	宝暦12(1762)年	庚申塔1	44
614	歴史資料	(田中)石造物	田中	近世近代	宝暦11(1761)年(他7基)	庚申塔4、二十二夜塔3、馬頭観音2	44
615	歴史資料	医王寺石造物	田中	近世	宝暦11(1761)年 寛政3(1791)年	庚申塔2、二十二夜塔1、地蔵菩薩2	44
616	歴史資料	(田中)石造物	田中	近世	天保6(1835)年 嘉永3(1850)年	不動明王1、御嶽山神1、霊神塔1	44
617	歴史資料	一之神社石造物	田中	近世	天保6(1835)年 文久3(1863)年	庚申塔1、道祖神1、五神塔1	44
618	歴史資料	(久々宇)石造物	久々宇			庚申塔1	44
619	歴史資料	(久々宇)石造物	久々宇			庚申塔1	44
620	歴史資料	稻荷神社石造物	久々宇	近世近代	寛政12(1800)年(他7基)	不詳塔1、読誦塔1、霊神塔1、馬頭観音1、読誦塔1	44
621	歴史資料	円融寺石造物	久々宇	近世	宝暦9(1759)年(他4基)	庚申塔5、地蔵菩薩1、勢至菩薩1	44
622	歴史資料	(久々宇)石造物	久々宇	近世	明和7(1770)年 寛政5(1793)年	二十二夜塔1、馬頭観音1	44
623	歴史資料	(仁手)石造物	仁手			馬頭観音1	44
624	歴史資料	(久々宇)石造物	久々宇	近世近代	安永2(1773)年 大正2(1913)年	二十二夜塔1、馬頭観音1	44
625	歴史資料	(久々宇)石造物	久々宇	近世	文久4(1864)年	猿田彦神1	44
626	歴史資料	墓地石造物	久々宇	近世	宝暦7(1757)年(他3基)	庚申塔8、二十三夜塔1、馬頭観音1、不詳1	44
627	歴史資料	仁手新田墓地石造物	仁手	近世	享保18(1733)年(他11基)	庚申塔16、二十二夜塔2、馬頭観音2、地蔵菩薩1	44
628	歴史資料	墓地石造物	下仁手	近世	元禄16(1703)年(他3基)	庚申塔3、地蔵菩薩1、猿田彦神1	44
629	歴史資料	(下仁手)石造物	下仁手	近世	天保10(1839)年	御嶽山神1	44
630	歴史資料	(下仁手)石造物	下仁手	近代	明治42(1909)年	猿田彦神1	44
631	歴史資料	諏訪神社石造物	仁手	近世	享保7(1722)年(他3基)	庚申塔4、猿田彦神1、五神塔1	44
632	歴史資料	(仁手)石造物	仁手	近代	大正5(1916)年	馬頭観音1	44
633	歴史資料	(仁手)石造物	仁手	近世	天保8(1837)年	地蔵菩薩1	44
634	歴史資料	宗真院石造物	仁手	近世	元禄元(1688)年 元文5(1740)年 寛政12(1800)年	庚申塔6、二十二夜塔1	44
635	歴史資料	(仁手)石造物	仁手	近世	明和9(1772)年	地蔵菩薩1	44
636	歴史資料	(仁手)石造物	仁手	近世	文政5(1822)年	二十二夜塔1	44
637	歴史資料	(小和瀬)石造物	小和瀬	近世	享保元(1716)年 文化(1804-1818)	庚申塔2、馬頭観音1	44
638	歴史資料	(小和瀬)石造物	小和瀬	近世	寛政12(1800)年	庚申塔1	44
639	歴史資料	小和瀬薬師堂石造物	小和瀬	近世	享保7(1722)年(他9基)	庚申塔2、二十二夜塔3、馬頭観音6	44
640	歴史資料	稻荷神社石造物	小和瀬	近世	享保元(1716)年 寛政10(1798)年 天保2(1831)年	庚申塔2、二十二夜塔1、庚申塔1	44

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号
641	歴史資料	石造物		近世	享保 18 (1733) 年 (他 5 基)	庚申塔 5、二十二夜塔 2	44
642	歴史資料	観泉寺石造物	宮戸	近世	寛文 4 (1664) 年 (他 7 基)	庚申塔 11、馬頭観音 1	44
643	歴史資料	稻荷神社石造物	傍示堂	近世	安政 5 (1858) 年	庚申塔 1	44
644	歴史資料	円満寺石造物	傍示堂	近世近代	宝暦 2 (1752) 年 (他 9 基)	庚申塔 1、二十二夜塔 2、馬頭観音 1、地藏菩薩 1、不詳 2	44
645	歴史資料	(傍示堂)石造物	傍示堂			庚申塔 1	44
646	歴史資料	(牧西)石造物	牧西	近世	明和元 (1764) 年	庚申塔 3	44
647	歴史資料	(牧西)石造物	牧西	近世近代	宝永 5 (1708) 年 (他 4 基)	庚申塔 5、二十二夜塔 1、地藏菩薩 2、地蔵菩薩 1	44
648	歴史資料	(牧西)石造物	牧西	近世	万延元 (1860) 年	庚申塔 1	44
649	歴史資料	(牧西)石造物	牧西			庚申塔 1	44
650	歴史資料	(牧西)石造物	牧西	近世	元文元 (1736) 年	不動明王 1	44
651	歴史資料	(牧西)石造物	牧西	近代	明治 7 (1874) 年	二十三夜塔 1	44
652	歴史資料	(牧西)石造物	牧西	近世	天保 13 (1842) 年	二十二夜塔 1	44
653	歴史資料	(牧西)石造物	牧西	近世	天明 3 (1783) 年	馬頭観音 1、道祖神 1	44
654	歴史資料	(牧西)石造物	牧西	近世近代	元文 2 (1737) 年 明治 3 (1870) 年	庚申塔 3	44
655	歴史資料	(牧西)石造物	牧西	近世	嘉永 5 (1852) 年	供養塔 1	44
656	歴史資料	(堀田)石造物	堀田	近世	慶応 4 (1868) 年	庚申塔 1	44
657	歴史資料	集落センター庭石造物	堀田	近世	嘉永 2 (1849) 年	五神塔 1	44
658	歴史資料	諏訪神社入口石造物	堀田	近世	文化 2 (1805) 年	二十二夜塔 1、二十三夜塔 1	44
659	歴史資料	観音堂石造物	堀田	近世	元禄 5 (1692) 年 (他 4 基)	庚申塔 5、馬頭観音 1、猿田彦神 1	44
660	歴史資料	(滝瀬)石造物	滝瀬	近世	文久 2 (1862) 年	庚申塔 1	44
661	歴史資料	立岩寺石造物	滝瀬	近世近代	享保 12 (1727) 年 (他 12 基)	庚申塔 9、二十二夜塔 2、二十三夜塔 2、馬頭観音 1、不詳 1	44
662	歴史資料	立岩寺北東石造物	滝瀬	近世	享保元 (1716) 年	庚申塔 1	44
663	歴史資料	(滝瀬)石造物	滝瀬			庚申塔 1	44
664	歴史資料	浅間神社石造物	鶴森	近世	元治元 (1864) 年	大黒天 1	44
665	歴史資料	利益寺本堂西石造物	鶴森	近世	文化 7 (1810) 年	庚申塔 1、読経塔 1、真言塔 1	44
666	歴史資料	利益寺参道石造物	鶴森	近世現代	元文 5 (1740) 年 (他 5 基)	庚申塔 5、二十二夜塔 1、聖観音 2	44
667	歴史資料	(鶴森)石造物	鶴森	近世	安政 5 (1858) 年	二十三夜塔 1	44
668	歴史資料	(牧西)石造物	牧西	近世	文政元 (1818) 年 安政 4 (1857) 年	庚申塔 1、百庚申塔 1	44
669	歴史資料	(牧西)石造物	牧西	近世	慶応 4 (1868) 年	薬師如来 1	44
670	歴史資料	(西今井墓地)石造物	今井	近世	寛文 12 (1672) 年	地藏菩薩 1	44
671	歴史資料	(西今井墓地)石造物	今井	近世	寛政元 (1789) 年	二十三夜塔 1、地藏菩薩 1	44
672	歴史資料	養豚場南石造物	今井			馬頭観音 1	44
673	歴史資料	(今井)石造物	今井	近世	天明 6 (1786) 年	庚申塔 1	44

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号
674	歴史資料	金鑽神社石造物	今井	近世近代	寛政 12 (1800) 年 (他 6 基)		44
675	歴史資料	薬師堂石造物	今井	近世近代	延享元 (1744) 年 (他 3 基)	二十三夜塔 1、阿彌陀如来 1、地藏菩薩 1、不詳 2	44
676	歴史資料	公会堂東石造物	今井	近世	明和 5 (1768) 年	二十三夜塔 1、地藏菩薩 2	44
677	歴史資料	長興寺石造物	今井	近世現代	享保 14 (1729) 年 (他 7 基)	庚申塔 4、二十二夜塔 1、馬頭観音 1、地藏菩薩 1、不詳 2	44
678	歴史資料	(今井)石造物	今井	近世近代	寛政 12 (1800) 年 大正 2 (1913) 年	庚申塔 1、二十三夜塔 1	44
679	歴史資料	(今井)石造物	今井	近世	寛政 12 (1800) 年	庚申塔 1	44
680	歴史資料	(今井)石造物	今井	近世近代	寛政 3 (1791) 年 大正 13 (1924) 年	庚申塔 1、馬頭観音 2	44
681	歴史資料	(今井)石造物	今井	近代	明治 21 (1888) 年	馬頭観音 1	44
682	歴史資料	(今井)石造物	今井			道祖神 1	44
683	歴史資料	東今井石造物	今井			馬頭観音 1	44
684	歴史資料	(栄)石造物	栄			庚申塔 5	44
685	歴史資料	(西富田)石造物	西富田			二十三夜塔 1、地藏菩薩 2、不詳 1	44
686	歴史資料	(西富田)石造物	西富田	近世	寛政 12 (1800) 年 万延元 (1860) 年	庚申塔 2	44
687	歴史資料	宍宝寺西側石造物	西富田	近世	寛延元 (1748) 年 (他 10 基)	庚申塔 4、二十三夜塔 3、馬頭観音 3、地藏菩薩 1、不詳 1、地藏菩薩 1	44
688	歴史資料	金鑽神社境内石造物	栄	近世近代	寛政 12 (1800) 年 (他 3 基)	猿田彦神 3、地藏菩薩 1	44
689	歴史資料	金鑽神社北側石造物	栄	近世	宝暦 12 (1762) 年 (他 3 基)	庚申塔 5	44
690	歴史資料	(見福)石造物	見福			庚申塔 1	44
691	歴史資料	光明寺石造物	四方田	近世	元文 5 (1740) 年 (他 3 基)	庚申塔 2、二十三夜塔 1、馬頭観音 1	44
692	歴史資料	産泰神社石造物	四方田	近世近代	寛政 12 (1800) 年 (他 3 基)	猿田彦神 5	44
693	歴史資料	(四方田)石造物	四方田	近代	大正 9 (1920) 年	馬頭観音 1	44
694	歴史資料	(東富田)石造物	東富田	近世	正徳 4 (1714) 年 (他 5 基)	庚申塔 2、馬頭観音 2、薬師如来 1、地藏菩薩 1	44
695	歴史資料	富田寺石造物	東富田	近世	宝暦 9 (1759) 年 (他 5 基)	庚申塔 1、二十三夜塔 2、地藏菩薩 1、六地藏 1、不詳 1	44
696	歴史資料	熊野十二社石造物	東富田	近世	文久 3 (1863) 年 文久 4 (1864) 年	馬頭観音 1、巡拝塔 1、地藏菩薩 1	44
697	歴史資料	北堀下塚墓地石造物		近世近代	享保 12 (1727) 年 (他 6 基)	庚申塔 9、二十三夜塔 2、馬頭観音 1、六地藏 1、不詳 1	44
698	歴史資料	(北堀)石造物	北堀	近世近代	万延元 (1860) 年 (他 3 基)	庚申塔 7、馬頭観音 1	44
699	歴史資料	(北堀)石造物	北堀	現代	昭和 47 (1972) 年	八幡神 1	44
700	歴史資料	(北堀)石造物	北堀	近世近代	文化 8 (1811) 年 (他 3 基)	庚申塔 7	44
701	歴史資料	(北堀)石造物	北堀			地藏菩薩 1	44
702	歴史資料	清福寺石造物	北堀	近世近代現代	安永 5 (1776) 年 (他 5 基)	二十三夜塔 1、二十二夜塔 1、馬頭観音 1、地藏菩薩 1、不詳 1	44
703	歴史資料	北堀新田原集落センター石造物		近世近代	寛政 12 (1800) 年 (他 7 基)	庚申塔 17、不詳 1	44
704	歴史資料	(けや木 1 丁目)石造物	けや木	近代	昭和 15 (1940) 年	馬頭観音 1	44
705	歴史資料	中央公民館裏石造物	北堀			庚申塔 1、薬師如来 1	44
706	歴史資料	(北堀)石造物	北堀			庚申塔 2	44

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文獻番号
707	歴史資料	東福寺石造物	北堀	近世近代	宝暦7(1757)年(他8基)	観音、馬頭観音、地藏菩薩、地蔵菩薩	44
708	歴史資料	(北堀)石造物	北堀	近世	元文5(1740)年(他5基)	庚申塔5、馬頭観音1	44
709	歴史資料	駐在所北側石造物	北堀	近世近代	安永3(1774)年(他4基)	庚申塔1、二十夜塔3、地蔵菩薩1、不詳1	44
710	歴史資料	畑地石造物	北堀諏訪台			馬頭観音1	44
711	歴史資料	男堀川堤防石造物	西五十子			庚申塔1	44
712	歴史資料	(北堀)石造物	北堀	近世	元文元(1736)年	庚申塔2、不詳1	44
713	歴史資料	金鑽神社石造物	栗崎	近代	明治17(1884)年、明治33(1900)年、大正9(1920)年	猿田彦神1、仙元神1、地藏神1、墓影神1	44
714	歴史資料	宥勝寺石造物	栗崎	近世	正徳4(1714)年(他4基)	二十二夜塔3、廻国塔2	44
715	歴史資料	早稲田大学本庄校地南側石造物	栗崎	近世	明和3(1766)年、天明3(1783)年、安政6(1859)年	大日如来1、弘法大師2	44
716	歴史資料	(栗崎)石造物	栗崎	近世	元禄11(1698)年(他5基)	庚申塔6、二十二夜塔1	44
717	歴史資料	総合公園遊水池脇石造物	西五十子	近世	延享元(1744)年、文政7(1824)年	庚申塔3	44
718	歴史資料	不動寺石造物	西五十子	近世	元禄10(1697)年(他4基)	二十二夜塔3、二十二夜塔(台座)1、地藏菩薩8	44
719	歴史資料	(西五十子)石造物	西五十子			不詳1	44
720	歴史資料	(西五十子)石造物	西五十子	近世	安政4(1857)年、安政7(1860)年、安政7(1860)年	庚申塔5、提供養塔1	44
721	歴史資料	(西五十子)石造物	西五十子	近代	明治24(1891)年	庚申塔2	44
722	歴史資料	小史跡公園石造物	西五十子			地藏菩薩1	44
723	歴史資料	女堀川天神橋南石造物	西五十子	近世	寛政9(1797)年	馬頭観音1	44
724	歴史資料	(西五十子)石造物	西五十子			庚申塔2	44
725	歴史資料	(東五十子)石造物	東五十子	近代	昭和17(1942)年	馬頭観音1	44
726	歴史資料	(西五十子)石造物	西五十子	近世	宝永元(1704)年、文政7(1824)年	庚申塔2	44
727	歴史資料	(東五十子)石造物	東五十子	近世	天保5(1834)年、安政7(1860)年	庚申塔1、馬頭観音1、不詳1	44
728	歴史資料	(東五十子)石造物	東五十子	近世近代	享保7(1722)年(他3基)	庚申塔5	44
729	歴史資料	(東五十子)石造物	東五十子	近世	安政7(1860)年	庚申塔1	44
730	歴史資料	(栗崎)石造物	栗崎	近世	文化元(1804)年	二十二夜塔3、不詳1	44
731	歴史資料	(栗崎)石造物	栗崎			不詳1	44
732	歴史資料	(北堀)石造物	北堀	近代	昭和13(1938)年	猿田彦神1	44
733	歴史資料	(北堀)石造物	北堀	近代	明治41(1908)年	庚申塔1	44
734	歴史資料	(北堀)石造物	北堀1730	近代	昭和46(1971)年	猿田彦神1	44
735	歴史資料	(北堀)石造物	北堀	近代	昭和40(1965)年	庚申塔1	44
736	歴史資料	(北堀)石造物	北堀			庚申塔1	44
737	歴史資料	飯玉神社石造物	北堀	近世	天保6(1835)年	大黒天1	44
738	歴史資料	(西五十子)石造物	西五十子	近世	天保15(1844)年	堀供養塔1	44
739	歴史資料	(前原2丁目)石造物	前原	近世	文化(1804-1818)	庚申塔1	44

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文獻番号
740	歴史資料	(柏1丁目)石造物	柏	近世近代	寛保元(1741)年(他5基)	庚申塔2、二十二夜塔1、地藏菩薩1、不詳1、大黒天1	44
741	歴史資料	(見福4丁目)石造物	見福			馬頭観音1	44
742	歴史資料	(見福4丁目)石造物	見福	近世	元文5(1740)年	庚申塔1、地藏菩薩1	44
743	歴史資料	(見福4丁目)石造物	見福			庚申塔1、養師如来1	44
744	歴史資料	(見福4丁目)石造物	見福	近世近代	寛政10(1798)年、大正4(1915)年	庚申塔2、猿田彦神1、八咫大神像、浅間大菩薩、浅間大菩薩	44
745	歴史資料	(見福1丁目)石造物	見福	近世近代	寛政2(1790)年(他4基)	庚申塔5、浅間1、大日如来1	44
746	歴史資料	(見福2丁目)石造物	見福	近世	嘉永5(1852)年(他3基)	庚申塔1、二十三夜塔1、大黒天1、不詳1	44
747	歴史資料	(見福1丁目)石造物	見福	近代	明治29(1896)年	庚申塔1	44
748	歴史資料	(見福4丁目)石造物	見福	近世	万延元(1860)年	庚申塔1	44
749	歴史資料	本庄高等学校校地石造物	柏	近代	大正11(1922)年、昭和11(1936)年	万霊塔1、供養塔1	44
750	歴史資料	(前原1丁目)石造物	前原	近代	昭和32(1957)年	猿田彦大神1	44
751	歴史資料	(前原1丁目)石造物	前原	近世	文政3(1820)年	庚申塔1	44
752	歴史資料	(前原1丁目)石造物	前原	近世	万延元(1860)年	庚申塔1	44
753	歴史資料	朝日町自治会館前石造物	本庄	近世近代	宝暦9(1759)年、寛政12(1800)年、大正7(1918)年	庚申塔3、二十二夜塔1、馬頭観音1	44
754	歴史資料	(本庄)石造物	本庄	近世近代	文化3(1806)年、明治26(1893)年	庚申塔1、馬頭観音1	44
755	歴史資料	朝日町墓地脇石造物	寿	近世	享保17(1732)年	庚申塔1	44
756	歴史資料	朝日町墓地脇石造物	寿	近世	享保17(1732)年	庚申塔1	44
757	歴史資料	諏訪町共同墓地角石造物	寿			庚申塔1	44
758	歴史資料	諏訪町共同墓地内石造物	寿	近世近代現代	元禄10(1697)年(他7基)	庚申塔8、馬頭観音1、馬頭観音1、地藏菩薩1、地蔵菩薩1、井天1	44
759	歴史資料	(寿3丁目)石造物	寿	近代	大正5(1916)年	馬頭観音1	44
760	歴史資料	(日の出4丁目)石造物	日の出	近代	昭和14(1939)年	供養塔1	44
761	歴史資料	御堂坂石造物	日の出	近世	宝暦13(1763)年、文化元(1804)年、安政元(1854)年	庚申塔1、馬頭観音2	44
762	歴史資料	(日の出3丁目)石造物	日の出	現代	昭和54(1979)年	馬頭観音1	44
763	歴史資料	東中学校西石造物	日の出	近代	大正4(1915)年	猿田彦神1	44
764	歴史資料	裸薬師内石造物	東台	近世	宝永元(1704)年(他3基)	道祖神1、不詳3	44
765	歴史資料	(台町)石造物	台町	近代	昭和12(1937)年	庚申塔1	44
766	歴史資料	長峰墓地西方石造物	東台	近世近代現代	文化11(1814)年、昭和12(1937)年、昭和46(1971)年	馬頭観音1、地藏菩薩1、万霊塔1	44
767	歴史資料	市役所石造物	本庄			不詳1、地藏菩薩1	44
768	歴史資料	(本庄3丁目)石造物	本庄	近代	明治5(1872)年、明治9(1876)年	庚申塔4、馬頭観音1	44
769	歴史資料	(本庄3丁目)石造物	本庄	近世	万延元(1860)年	庚申塔1、不詳1	44
770	歴史資料	(本庄3丁目)石造物	本庄	近世	文化元(1804)年	庚申塔3	44
771	歴史資料	(本庄2丁目)石造物	本庄	近世	寛政12(1800)年	庚申塔4	44
772	歴史資料	(本庄2丁目)石造物	本庄	近代	大正14(1925)年	馬頭観音1、道祖神1	44

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文獻
773	歴史資料	(本庄2丁目)石造物	本庄			庚申塔1	44
774	歴史資料	(銀座3丁目)石造物	銀座			猿田彦神1	44
775	歴史資料	旧久城堀端石造物	銀座			猿田彦神1	44
776	歴史資料	城立寺石造物	銀座	近世近代	元禄12(1699)年(他10基)	評1、聖観音1、十二夜塔1、地蔵菩薩1、馬頭観音1、五輪塔1、壱神1	44
777	歴史資料	百庚申石造物	銀座	近世近代	享保元(1716)年(他6基)	庚申塔8、馬頭観音2、五輪塔1、壱神1	44
778	歴史資料	(銀座2丁目)石造物	銀座	近代	明治45(1912)年	庚申1、金毘羅神1	44
779	歴史資料	(銀座2丁目)石造物	銀座	近代	明治(1868-1912)	庚申塔2	44
780	歴史資料	(銀座2丁目)石造物	銀座	近世	天保6(1835)年	庚申塔1	44
781	歴史資料	愛宕神社境内石造物	中央	近世	安永5(1776)年 寛政12(1800)年 万延元(1860)年	庚申塔3、地蔵菩薩1	44
782	歴史資料	(中央1丁目)石造物	中央	近世	安永7(1778)年	二十二夜塔1	44
783	歴史資料	開善寺石造物	中央	現代	昭和36(1961)年 昭和56(1981)年	如意輪観音1、聖観世1、水子地蔵1	44
784	歴史資料	(中央1丁目)石造物	中央	近世近代	嘉永3(1850)年 昭和12(1937)年	庚申塔1、天津神1、道祖神1	44
785	歴史資料	(中央1丁目)石造物	中央	近世	万延元(1860)年	庚申塔1	44
786	歴史資料	市立歴史民俗資料館内石造物	中央	近世	寛政7(1795)年	庚申塔1	44
787	歴史資料	慈恩寺石造物	中央			大日如来1	44
788	歴史資料	(中央1丁目)石造物	中央			庚申塔1	44
789	歴史資料	西広寺石造物	中央	現代	昭和48(1973)年	地蔵菩薩1	44
790	歴史資料	(若泉1丁目)石造物	若泉	近世	宝永7(1710)年 寛政12(1800)年 嘉永5(1852)年	庚申塔3、道祖神1	44
791	歴史資料	(銀座1丁目)石造物	銀座	近世	文化(1804-1818)	庚申塔1	44
792	歴史資料	(銀座1丁目)石造物	銀座	近世	寛政元(1789)年	庚申塔1	44
793	歴史資料	泉林寺角石造物	銀座	近世	文化9(1812)年 万延元(1860)年	庚申塔4、不詳1	44
794	歴史資料	(銀座1丁目)石造物	銀座	近世	安政4(1857)年	猿田彦神1	44
795	歴史資料	(千代田3丁目)石造物	千代田	近世	天保7(1836)年	庚申塔1	44
796	歴史資料	仏母寺境内山門西石造物	千代田	近世近代	宝永7(1710)年 明治34(1901)年	二十二夜塔1、巡拝塔1	44
797	歴史資料	仏母寺境内石造物	千代田	近世	寛延4(1751)年(他3基)	庚申塔2、二十二夜塔1、聖観音1、聖徳太子1	44
798	歴史資料	仏母寺本堂北境内石造物	千代田	近世	万延元(1860)年	猿田彦神1	44
799	歴史資料	金鑽神社石造物	千代田	近代	昭和9(1934)年	二十二夜塔1、聖観音1、普賢菩薩1	44
800	歴史資料	金鑽神社石造物	千代田	近世	万延元(1860)年	庚申塔1、道祖神1	44
801	歴史資料	市立図書館西石造物	千代田	近代	昭和7(1932)年	庚申塔1	44
802	歴史資料	本庄西中学校東石造物	中央	近世	安永5(1776)年 天保7(1836)年 天保10(1839)年	庚申塔3、馬頭観音1	44
803	歴史資料	安養院総門西脇石造物	中央	近世	宝永4(1707)年 文政13(1830)年	地蔵菩薩7、巡拝塔1	44
804	歴史資料	阿夫利天神社入口左側石造物	中央	近世	寛政12(1800)年 文化7(1810)年 天保5(1834)年	庚申塔3	44
805	歴史資料	若泉公園崖・子育地蔵石造物	若泉			矜羯羅童子1	44

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文獻
806	歴史資料	若泉公園中島石造物	若泉	近代	明治7(1874)年	巖島神1	44
807	歴史資料	若泉公園崖石造物	若泉			制吒迦摩子1、虚空蔵童子1、金剛護摩子1	44
808	歴史資料	(若泉2丁目)石造物	若泉	現代	昭和38(1963)年	庚申塔葉師如来1、聖観音1	44
809	歴史資料	市街ランド東石造物	若泉	近世	万延元(1860)年	庚申塔2	44
810	歴史資料	庚申塔	滝瀬	近世	嘉永6(1853)年	嘉永六年銘、道標を兼ねる	143
811	歴史資料	庚申塔	滝瀬	近世	弘化4(1847)年	弘化四年銘、道標を兼ねる	143
812	歴史資料	庚申塔	滝瀬	近世	万延元(1860)年	万延元年銘、道標を兼ねる	143
813	歴史資料	庚申塔	滝瀬	近世	延宝8(1680)年	延宝八年銘、道標を兼ねる	143
814	歴史資料	馬頭観音	堀田	近世	天保3(1832)年	天保三年銘、道標を兼ねる	143
815	歴史資料	庚申塔	堀田			年不詳、道標を兼ねる	143
816	歴史資料	庚申塔	牧西	近世	元文2(1737)年	元文二年銘、道標を兼ねる	143
817	歴史資料	庚申塔	傍示堂	近世	正徳5(1715)年	正徳五年銘	143
818	歴史資料	庚申塔	新田	近世	万延元(1860)年	万延元年銘、道標を兼ねる	143
819	歴史資料	庚申塔	本庄			年不詳、道標を兼ねる	143
820	歴史資料	庚申塔	千代田			年不詳、道標を兼ねる	143
821	歴史資料	庚申塔	千代田	近世	宝暦3(1753)年	宝暦三年銘、道標を兼ねる	143
822	歴史資料	石仏2基	児玉町上真下	近世	文政2(1819)年銘		144
823	歴史資料	字北田路傍石仏	児玉町八幡山			馬頭観音1	144 262
824	歴史資料	長福寺石仏	児玉町八幡山	近世近代	延宝8(1680)年(他10基)	神祇5、鐘1、六地蔵1、観音4、二十二夜塔1、石燈籠1	144 262
825	歴史資料	字円良岡石仏	児玉町八幡山	近世	元禄5(1692)年	庚申塔2	262
826	歴史資料	児玉高校内土壘上石仏	児玉町八幡山	近世近代	万延元(1860)年 万延元(1860)年 明治12(1879)年	庚申塔9	262
827	歴史資料	[個人所有]石仏	児玉町八幡山	現代	昭和46(1971)年	猿田彦大神1	262
828	歴史資料	雉岡城跡石仏	児玉町八幡山	近世	明和3(1766)年 安政5(1858)年	庚申塔1、馬頭観音1、二十二夜塔2、(裏面如来)	144 262
829	歴史資料	(字雉岡)城山南側丘上石仏	児玉町八幡山	近世	元禄9(1696)年	地蔵1	262
830	歴史資料	浄眼寺石仏	児玉町八幡山	現代	昭和10(1935)年 昭和36(1961)年 昭和46(1971)年	地蔵2、六地蔵1、(読経塔・宝篋印塔)	262
831	歴史資料	(上町)社日新田石仏	児玉町児玉			社日塔1	262
832	歴史資料	(仲町)稲荷神社石仏	児玉町児玉			社日塔1	262
833	歴史資料	實相寺石仏	児玉町児玉	近世現代	延宝5(1677)年(他6基)	庚申塔2、地蔵3、六地蔵1、石塔4、巡拝塔1	144 262
834	歴史資料	(新町)役場下日道脇石仏	児玉町児玉	近世	享保(1716-1736)(他3基)	庚申塔3、馬頭観音1、二十二夜塔1	262
835	歴史資料	(新町)油地蔵石仏	児玉町児玉	近世	宝暦12(1762)年	地蔵1	262
836	歴史資料	玉蔵寺石仏	児玉町児玉	近世	寛政11(1799)年 寛政12(1800)年 安政7(1860)年	庚申塔1、六地蔵1、母子塔1、宝篋印塔・三所万葉)	262
837	歴史資料	玉蓮寺石仏	児玉町児玉	近世近代	寛文3(1663)年(他22基)	観音塔23、経典供養塔4、(宝篋印塔)	144 262
838	歴史資料	八幡神社石仏	児玉町児玉	近世近代	安政5(1858)年 大正9(1920)年	馬頭観音1、堀田彦大神1、(向井2、津家・柳山山門)	262

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	竝稱
839	歴史資料	龍台院石仏	児玉町児玉	近世現代	天明6 (1786) 年 平成2 (1990) 年	六地藏1、經典供養塔1、(三界万霊塔)	262
840	歴史資料	厄除御嶽山神社石仏	児玉町児玉	現代	昭和37 (1962) 年	甲子塔1	262
841	歴史資料	東福院石仏	児玉町児玉	近世	寛政5 (1793) 年	庚申塔1、二十二夜塔1	262
842	歴史資料	東福院墓地石仏	児玉町児玉	近代	明治8 (1875) 年	巡拝塔1	262
843	歴史資料	龍体稲荷神社石仏	児玉町児玉	近世	寛政12 (1800) 年	庚申塔1	262
844	歴史資料	法養寺石仏	児玉町児玉	近世現代	元禄 (1688-1704) (他7基)	神代、龍山、二夜塔1、巡拝塔1、地蔵1、聖観音1	144 262
845	歴史資料	字下八幡旧道脇石仏	児玉町児玉	近代	昭和3 (1928) 年 昭和10 (1935) 年	馬頭観音2	262
846	歴史資料	字水淵の路傍石仏	児玉町児玉	近代	明治30 (1897) 年 大正5 (1916) 年	庚申塔2、猿田彦大神1	262
847	歴史資料	白山神社石仏	児玉町児玉	近世	文化12 (1815) 年	二十三夜塔1	262
848	歴史資料	(字大道北) 県道脇石仏	児玉町児玉	近世	安永3 (1774) 年 寛政3 (1791) 年	庚申塔1、甲子塔1、(三界万霊塔)	262
849	歴史資料	(字久保田) 水田脇石仏	児玉町児玉	近世現代	文政13 (1830) 年 (他4基)	馬頭観音5	262
850	歴史資料	(字下生野) 路傍石仏	児玉町児玉	近世現代	天明元 (1781) 年 明治26 (1893) 年 昭和59 (1984) 年	庚申塔1、地蔵1、巡拝塔1	262
851	歴史資料	(字生野) 共有墓地前石仏	児玉町児玉	近代	昭和4 (1929) 年 昭和12 (1937) 年	庚申塔1、題目塔1、巡拝塔1	262
852	歴史資料	(字生野) 路傍石仏	児玉町児玉	近世	安永7 (1778) 年	地蔵1	262
853	歴史資料	(字清水) 旧道脇石仏	児玉町児玉	近世近代	元文5 (1740) 年 (他3基)	庚申塔1、馬頭観音2、二十二夜塔1	262
854	歴史資料	本町地蔵堂石仏	児玉町児玉			地蔵1	262
855	歴史資料	円通寺入口石仏	児玉町金屋	近世	延宝8 (1680) 年 寛政9 (1797) 年 嘉永5 (1852) 年	庚申塔2、六地藏1、馬頭観音1	262
856	歴史資料	円通寺石仏	児玉町金屋	近世	宝暦4 (1754) 年 宝暦8 (1758) 年	地蔵1、百万遍供養塔1	262
857	歴史資料	(字池内) 児玉新町境石仏	児玉町金屋	近世	文政8 (1825) 年	庚申塔1	262
858	歴史資料	天龍寺石仏	児玉町金屋	近世現代	正徳6 (1716) 年 (他7基)	庚申塔3、地蔵2、六地藏2、經典供養塔1、二十二夜塔2	144 262
859	歴史資料	(字桶川) 墓地入口石仏	児玉町金屋	近世	天保12 (1841) 年 元治元 (1864) 年	地蔵1、馬頭観音1、二十二夜塔1	262
860	歴史資料	(字桶川) 県道脇石仏	児玉町金屋	近世	元文5 (1740) 年 寛政12 (1800) 年 万延元 (1860) 年	庚申塔4	262
861	歴史資料	(字赤坂) [私有地] 前石仏	児玉町金屋	近世	安永7 (1778) 年 寛政6 (1794) 年	馬頭観音1、道祖神1	262
862	歴史資料	(字赤坂) 古墳の裾石仏	児玉町金屋	近世	明和元 (1764) 年 万延元 (1860) 年	庚申塔3	262
863	歴史資料	(字梅原) [個人墓地] 石仏	児玉町金屋	近世	宝暦9 (1759) 年	六地藏1、二十二夜塔1	262
864	歴史資料	(字桶川) 旧道脇石仏	児玉町金屋	近世	明和5 (1768) 年 嘉永5 (1852) 年	二十二夜塔2	262
865	歴史資料	宝蔵寺石仏	児玉町金屋	近世	享和2 (1802) 年	地蔵2	262
866	歴史資料	真福寺石仏	児玉町金屋			六地藏2、(聖観音)	262
867	歴史資料	(字北原) 上杉道脇石仏	児玉町金屋	近世	宝暦13 (1763) 年	庚申塔1	144 262
868	歴史資料	(字森西) 大師道脇石仏	児玉町金屋	近世	寛政12 (1800) 年	庚申塔1	262
869	歴史資料	淵龍寺石仏	児玉町金屋	近世現代	享保19 (1734) 年 宝暦2 (1752) 年 昭和32 (1957) 年	六地藏1、馬頭観音1、二十二夜塔1、百萬遍供養塔1、道祖神1	262
870	歴史資料	字念仏塚路傍石仏	児玉町金屋	近世近代	安政6 (1859) 年 (他5基)	庚申塔2、馬頭観音4、二十二夜塔1	262
871	歴史資料	字別所東路傍石仏	児玉町金屋			馬頭観音1	262

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	竝稱
872	歴史資料	(字倉林) [個人所有] 石仏	児玉町金屋	近代	大正9 (1920) 年	猿田彦大神1	262
873	歴史資料	(字倉林東) [個人所有] 石仏	児玉町金屋	近代	大正9 (1920) 年	猿田彦大神1	262
874	歴史資料	(字倉林前) [個人所有] 石仏	児玉町金屋	現代	昭和30 (1955) 年	猿田彦大神1	262
875	歴史資料	(字倉林) [個人所有] 石仏	児玉町金屋	現代	昭和33 (1958) 年	猿田彦大神1	262
876	歴史資料	字道上路傍石仏	児玉町長沖			馬頭観音1	262
877	歴史資料	恵日寺石仏	児玉町長沖	近世	正徳4 (1714) 年 文政2 (1819) 年 文政7 (1824) 年	六地藏1、二十二夜塔2、百万遍供養塔1、各号塔1	262
878	歴史資料	[個人所有] 石仏	児玉町長沖	近代	昭和18 (1943) 年	猿田彦大神1	262
879	歴史資料	字川原道下路傍石仏	児玉町長沖	近世近代	元文5 (1740) 年 (他6基)	庚申塔4、馬頭観音3、巡拝塔1、猿田彦大神1	262
880	歴史資料	[個人所有] 石仏	児玉町長沖	近代	昭和8 (1933) 年	猿田彦大神1	262
881	歴史資料	[個人所有] 石仏	児玉町長沖	近代	昭和10 (1935) 年	猿田彦大神1、(不動尊)	262
882	歴史資料	(字千本木) 長沖境石仏	児玉町高柳	近世	享保12 (1727) 年 万延元 (1860) 年	庚申塔3	262
883	歴史資料	(字南) 旧道脇石仏	児玉町高柳			地蔵1	262
884	歴史資料	(字南) 墓地前県道脇石仏	児玉町高柳	近世近代	宝暦10 (1760) 年 明治35 (1902) 年	馬頭観音2、百万遍供養塔1	262
885	歴史資料	(字見登) 共有墓地石仏	児玉町高柳	近世	明和3 (1766) 年	地蔵1、六地藏1、(聖観音)	262
886	歴史資料	三鳥愛宕神社石仏	児玉町高柳	近世近代	文化7 (1810) 年 明治16 (1883) 年	庚申塔1、社日塔1	262
887	歴史資料	字荒井路傍石仏	児玉町高柳	近代	明治16 (1883) 年	馬頭観音1	262
888	歴史資料	字浅間平路傍石仏	児玉町高柳	近世	文化7 (1810) 年	道祖神1	262
889	歴史資料	虚空蔵尊石仏	児玉町高柳	近世	宝永7 (1710) 年 享保17 (1732) 年 宝暦11 (1761) 年	地蔵1、二十二夜塔1、各号塔1、(宝蔵印塔)	262
890	歴史資料	(字谷) [私有地] 横石仏	児玉町高柳	近代	明治16 (1883) 年 大正11 (1922) 年 大正11 (1922) 年	馬頭観音2、道祖神1	262
891	歴史資料	長泉寺石仏	児玉町高柳	現代	昭和60 (1985) 年頃	六地藏1、道祖神1	262
892	歴史資料	県道飯倉高柳線脇石仏	児玉町高柳			庚申塔1、(御嶽山碑)	262
893	歴史資料	(字姥田) 県道脇石仏	児玉町飯倉	近世	文政5 (1822) 年	庚申塔1	262
894	歴史資料	(字下浜田) 県道脇石仏	児玉町飯倉	近世	元文4 (1739) 年 寛保2 (1742) 年	地蔵2、(聖観音)	262
895	歴史資料	(字下浜田) 共有墓地石仏	児玉町飯倉	近世	安永9 (1780) 年	光明真言供養塔1、(宝蔵印塔)	262
896	歴史資料	法性寺石仏	児玉町飯倉	近世	元禄10 (1697) 年 (他9基)	聖観音5、聖観音2、二十二夜塔3、各号塔1、地蔵1、地蔵印塔1	262
897	歴史資料	(字明神前) 蚕影社石仏	児玉町飯倉			社日塔1	262
898	歴史資料	字下八幡裏路傍石仏	児玉町飯倉	近世現代	安永3 (1774) 年 文化5 (1808) 年 昭和63 (1988) 年	庚申塔2、二十二夜塔1	262
899	歴史資料	(字代々木) 橋の袂石仏	児玉町飯倉			道祖神1	262
900	歴史資料	(字上八幡) 墓地下石仏	児玉町飯倉	近世	寛延2 (1749) 年	已待塔1	262
901	歴史資料	(字代々木上) 国道脇石仏	児玉町飯倉	近世	弘化期 (1844-1848)	庚申塔1	262
902	歴史資料	(字代々木前) 旧道脇石仏	児玉町飯倉	近世	享和2 (1802) 年 嘉永7 (1854) 年	道祖神1、猿田彦大神1	262
903	歴史資料	(字山崎下南) 観音堂石仏	児玉町飯倉	近世現代	寛保元 (1741) 年 (他4基)	六地藏1、二十二夜塔2、巡拝塔1、念仏供養塔1	262
904	歴史資料	(字山崎下北) [個人所有] 石仏	児玉町飯倉	近代	大正13 (1924) 年	猿田彦大神1	262

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	雑記
905	歴史資料	[個人所有]石仏	児玉町飯倉	近代	昭和9 (1934)年	猿田彦大神1	262
906	歴史資料	[個人所有]石仏	児玉町飯倉	近代	昭和10 (1935)年	猿田彦大神1	262
907	歴史資料	(字仮宿耕地)堂の前石仏	児玉町宮内	近世	安政7 (1860)年	庚申塔2、猿田彦大神1	262
908	歴史資料	(字仮宿)[個人所有]石仏	児玉町宮内	近代	明治17 (1884)年	馬頭観音1、猿田彦大神2	262
909	歴史資料	[個人所有]石仏	児玉町宮内			猿田彦大神1	262
910	歴史資料	[個人所有]石仏	児玉町宮内	近代	明治36 (1903)年	猿田彦大神1	262
911	歴史資料	[個人所有]石仏	児玉町宮内	近世	万延元 (1860)年	猿田彦大神1	262
912	歴史資料	(字手箱池)墓地入口石仏	児玉町宮内	近世	明和3 (1766)年 (他6基)	庚申塔6、二十二夜塔2	262
913	歴史資料	字手箱池路傍石仏	児玉町宮内	近世	文政12 (1829)年	庚申塔4	262
914	歴史資料	(字手箱池)個人墓地石仏	児玉町宮内			庚申塔1	262
915	歴史資料	(字仮宿)[個人所有]石仏	児玉町宮内	近世近代	万延元 (1860)年 昭和16 (1941)年	庚申塔2、猿田彦大神1	262
916	歴史資料	(字大室谷)個人墓地石仏	児玉町宮内	近世	明和3 (1766)年	廻国塔1	262
917	歴史資料	(字皆子)旧道脇石仏	児玉町宮内	近世	享保20 (1735)年 寛延2 (1749)年	庚申塔3、地蔵1、二十二夜塔1、巳持尊1、双体龍神2	262
918	歴史資料	若宮神社入口墓地石仏	児玉町宮内	近世	享保17 (1732)年 元文2 (1737)年 万延2 (1861)年	馬頭観音1、二十二夜塔25、廻国塔1	262
919	歴史資料	若宮神社石仏	児玉町宮内	近世	弘化2 (1845)年	社日塔1	262
920	歴史資料	(字天田)神社入口石仏	児玉町宮内	近世	寛政12 (1800)年	庚申塔1	262
921	歴史資料	(字天田)天玉様境内石仏	児玉町宮内	近世	宝暦2 (1752)年	庚申塔1	262
922	歴史資料	(字柳原北)共有墓地石仏	児玉町宮内	近世近代	宝永5 (1708)年 文政6 (1823)年 明治13 (1880)年	庚申塔2、地蔵1、馬頭観音1	262
923	歴史資料	[個人所有]石仏	児玉町宮内	現代	昭和49 (1974)年	猿田彦大神1	262
924	歴史資料	[個人所有]石仏	児玉町宮内	近代	明治17 (1884)年	猿田彦大神1	262
925	歴史資料	(字堂の入)共有墓地石仏	児玉町宮内	近世	宝暦11 (1761)年	地蔵1、二十二夜塔1	262
926	歴史資料	(字榎平)路傍石仏	児玉町宮内	近世	明和元 (1764)年 文化5 (1808)年 文政13 (1830)年	馬頭観音1、二十二夜塔1、巳持尊1、弁才天1	262
927	歴史資料	光福寺石仏	児玉町宮内	近世	寛延3 (1750)年 天保13 (1842)年 嘉永5 (1852)年	地蔵1、巡拜塔1、経巻供養塔1	262
928	歴史資料	(字瀧の前)不動堂石仏	児玉町宮内	近代	昭和7 (1932)年	地蔵1、(聖観音)	262
929	歴史資料	(字瀧の前)不動堂入口石仏	児玉町宮内	近世	正徳5 (1715)年 寛政12 (1800)年 安政2 (1855)年	庚申塔4	262
930	歴史資料	[個人所有]石仏	児玉町宮内	近代	明治30 (1897)年 大正12 (1923)年	馬頭観音1、猿田彦大神1	262
931	歴史資料	字高尾谷路傍石仏	児玉町宮内	近世	安永7 (1778)年	名号塔1	262
932	歴史資料	(字宮内原)八坂社脇石仏	児玉町宮内	近世	安政7 (1860)年 安政7 (1860)年	庚申塔2、馬頭観音1	262
933	歴史資料	字上池の下路傍石仏	児玉町塩谷			馬頭観音1	262
934	歴史資料	(字上諏訪)墓地入口石仏	児玉町塩谷	近世	宝暦3 (1753)年	地蔵1	262
935	歴史資料	(字篠)共有墓地石仏	児玉町塩谷	近世近代	寛保4 (1744)年 大正5 (1916)年	庚申塔1、二十二夜塔1	262
936	歴史資料	(字小松原)交差点石仏	児玉町塩谷	近世	寛政12 (1800)年	庚申塔1、(道標)	262
937	歴史資料	字平氏の宮石仏	児玉町塩谷	近世近代	寛政12 (1800)年 明治6 (1873)年 明治22 (1889)年	庚申塔1、馬頭観音2	262

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	雑記
938	歴史資料	諏訪神社石仏	児玉町塩谷			社日塔1	262
939	歴史資料	(字三角)女堀川端石仏	児玉町塩谷	近世	寛政8 (1796)年	庚申塔1	262
940	歴史資料	字三角路傍石仏	児玉町塩谷			馬頭観音1	262
941	歴史資料	(字真鏡寺)金王社跡石仏	児玉町塩谷	近世	寛政12 (1800)年	庚申塔1	262
942	歴史資料	真鏡寺石仏	児玉町塩谷	現代	昭和26 (1951)年	庚申塔1、六地藏1、二十二夜塔2	262
943	歴史資料	(字横尾西)交差点石仏	児玉町塩谷	近世	寛政12 (1800)年	庚申塔1、馬頭観音1、二十二夜塔1	262
944	歴史資料	[個人所有]石仏	児玉町塩谷	近代	大正9 (1920)年	庚申塔1	262
945	歴史資料	(字中道万原)三本辻石仏	児玉町塩谷	近世	万延元 (1860)年	庚申塔1	262
946	歴史資料	字下道万原路傍石仏	児玉町塩谷	近世	宝暦7 (1757)年	二十二夜塔1	262
947	歴史資料	字前田路傍石仏	児玉町保木野	近世近代現代	元禄15 (1702)年 (他8基)	庚申塔8、馬頭観音5、道標神1	262
948	歴史資料	御霊稲荷神社石仏	児玉町保木野	近代	明治12 (1879)年	社日塔1	262
949	歴史資料	龍清寺石仏	児玉町保木野	近世現代	寛保3 (1743)年 (他4基)	六地藏1、馬頭観音1、二十二夜塔2、道標神1、(宝蓋神)	262
950	歴史資料	(字腰薪蒔)寺入口石仏	児玉町保木野	近世	享保5 (1720)年	地蔵1	262
951	歴史資料	[個人所有]石仏	児玉町保木野	近代	明治45 (1912)年	猿田彦大神1	262
952	歴史資料	(字下宿)墓地入口石仏	児玉町保木野	近世	天明6 (1786)年 文化7 (1810)年 文政6 (1823)年	六地藏1、二十二夜塔1、光琳真言供養塔1	262
953	歴史資料	[個人所有]石仏	児玉町保木野	近代	昭和10 (1935)年	猿田彦大神2	262
954	歴史資料	十二神社脇共有墓地石仏	児玉町田端	近世	正徳5 (1715)年 (他4基)	地蔵1、六地藏1、二十二夜塔1、二十二夜塔2、巳持尊1	262
955	歴史資料	(字中原)工場入口石仏	児玉町田端	近世	天保14 (1843)年	馬頭観音1	262
956	歴史資料	(字中原)畑仲石仏	児玉町田端	近世	元文5 (1740)年	庚申塔1	262
957	歴史資料	(字十二天)旧道脇石仏	児玉町田端	近世	寛政12 (1800)年	庚申塔1、甲子塔1	262
958	歴史資料	(字南堂)女堀川端石仏	児玉町田端	近世近代	万延元 (1860)年 大正9 (1920)年	庚申塔3、巡拜塔1	262
959	歴史資料	(字日向山)池下路傍石仏	児玉町秋山	近世	明和元 (1764)年	馬頭観音1	262
960	歴史資料	字堂平路傍石仏	児玉町秋山	近世	享保20 (1735)年	庚申塔1	262
961	歴史資料	(字後内手)庚申堂石仏	児玉町秋山	近世	寛政元 (1789)年 天保7 (1836)年 安政4 (1857)年	庚申塔1、馬頭観音2、弁才天1	262
962	歴史資料	(字後内手)薬師堂石仏	児玉町秋山	近世	元禄2 (1689)年 延享2 (1745)年 寛政12 (1800)年	庚申塔2、二十二夜塔1、猿田彦大神1	262
963	歴史資料	字般若寺山際石仏	児玉町秋山	近代	明治27 (1894)年 明治27 (1894)年 大正9 (1920)年	庚申塔1、馬頭観音1、二十二夜塔1	262
964	歴史資料	観正院石仏	児玉町秋山	近世近代現代	宝暦13 (1763)年 (他4基)	六地藏1、二十二夜塔1、廻国塔1、甲子塔1、巳持尊1	262
965	歴史資料	直正寺石仏	児玉町秋山	近世	元文2 (1737)年	地蔵1	262
966	歴史資料	本覚院石仏	児玉町秋山	近世現代	宝暦6 (1756)年 (他3基)	地蔵1、六地藏1、二十二夜塔1、廻国塔1、巳持尊1、道標神1	262
967	歴史資料	(字中通)墓地地下石仏	児玉町秋山			庚申塔1	262
968	歴史資料	新蔵人神社石仏	児玉町秋山			社日塔1	262
969	歴史資料	新蔵人神社入口石仏	児玉町秋山	近世	万延元 (1860)年	庚申塔1	262
970	歴史資料	字郷戸路傍石仏	児玉町秋山			馬頭観音1	262

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	建群
971	歴史資料	字台路傍石仏	児玉町秋山	近世	元禄4 (1691) 年 (他4基)	庚申塔3、地蔵2	262
972	歴史資料	日輪寺石仏	児玉町秋山	近世現代	天保6 (1835) 年 元治元 (1864) 年 昭和63 (1988) 年	六地藏3、二十二夜塔1、(宝篋印塔)・三万遍舎塔	262
973	歴史資料	字兒島[私有地]裏路傍石仏	児玉町秋山	近世	宝暦3 (1753) 年	庚申塔1	262
974	歴史資料	字大明神路傍石仏	児玉町秋山	近世	享保10 (1725) 年	庚申塔1、道祖神1	262
975	歴史資料	(字甲中沢)路傍石仏	児玉町秋山	近世	嘉永7 (1854) 年	馬頭観音1	262
976	歴史資料	(字甲中沢)薬師堂石仏	児玉町秋山	近世現代	元禄5 (1692) 年 (他4基)	庚申塔2、六地藏1、百万遍舎塔1、巳塔1	262
977	歴史資料	字兒島路傍石仏	児玉町秋山	近代	明治21 (1888) 年	馬頭観音1	262
978	歴史資料	(字宿田保)古墳上石仏	児玉町秋山	近世	享保10年代 (1725-1734)	庚申塔1	262
979	歴史資料	(字乙中沢)秋山川端石仏	児玉町秋山	近世	元文2 (1737) 年	庚申塔1	262
980	歴史資料	(字塚原)共有墓地石仏	児玉町秋山	近世	宝暦2 (1752) 年 宝暦7 (1757) 年 寛政5 (1793) 年	庚申塔1、二十二夜塔2	262
981	歴史資料	御嶽神社石仏	児玉町秋山	近世	嘉永2 (1849) 年	庚申塔1、二十二夜塔1	262
982	歴史資料	(字中通)山裾路傍石仏	児玉町秋山	近世	享保8 (1723) 年	廻国塔1	262
983	歴史資料	(風洞・字塚原)工場前石仏	児玉町秋山	近世	元禄6 (1693) 年 (他3基)	庚申塔4、各号塔1	262
984	歴史資料	(風洞)字庚塚路傍石仏	児玉町秋山			各号塔1	262
985	歴史資料	(風洞)字中道[個人所有]石仏	児玉町秋山	近代	大正9 (1920) 年	庚申塔1、猿田彦大神1	262
986	歴史資料	(風洞)字中道[個人所有]石仏	児玉町秋山	近代	明治33 (1900) 年	猿田彦大神1	262
987	歴史資料	(風洞)字中道[個人所有]石仏	児玉町秋山	現代	昭和25 (1950) 年	猿田彦大神1	262
988	歴史資料	(風洞)字中道[個人所有]石仏	児玉町秋山	現代	昭和56 (1981) 年	猿田彦大神1	262
989	歴史資料	(風洞)字上の山石仏	児玉町秋山	近代	大正9 (1920) 年	猿田彦大神1、(御嶽山碑)	262
990	歴史資料	(風洞・字新堀)郷藏跡石仏	児玉町秋山			社日塔1	262
991	歴史資料	(風洞・字水押)墓地石仏	児玉町秋山	近世	寛保3 (1743) 年 (他5基)	馬頭観音1、二十二夜塔6	262
992	歴史資料	(風洞・字新堀)消防小屋石仏	児玉町秋山	近世	元禄5 (1692) 年 (他4基)	庚申塔4、地蔵1、多仏供養塔1、百万遍舎塔1	262
993	歴史資料	(風洞・字新堀)[個人所有]石仏	児玉町秋山	近代	昭和3 (1928) 年	猿田彦大神1	262
994	歴史資料	(風洞)普賢寺石仏	児玉町秋山	現代	昭和55 (1980) 年	地蔵1、六地藏1、(宝篋印塔)	262
995	歴史資料	(風洞)字北川原路傍石仏	児玉町秋山	近世	寛政8 (1796) 年 文化4 (1807) 年	庚申塔1、馬頭観音1、百万遍供養塔1	262
996	歴史資料	(風洞)字南路傍石仏	児玉町秋山	近世	享保9 (1724) 年 延享3 (1746) 年 天保12 (1841) 年	庚申塔1、地蔵1、馬頭観音1、(二十二夜塔)1、百万遍供養塔1、巳塔1	262
997	歴史資料	東小平岩谷堂石仏	児玉町小平	近世	正徳3 (1713) 年 (他3基)	地蔵2、馬頭観音1、念仏供養塔1、各号塔2、(不動明王)	262
998	歴史資料	東小平字蛭沢路傍石仏	児玉町小平	近世近代	文政7 (1824) 年 昭和7 (1932) 年	馬頭観音2、二十二夜塔1	262
999	歴史資料	東小平字蛭沢橋の袂傍石仏	児玉町小平	近世近代	安永4 (1775) 年 昭和6 (1931) 年	馬頭観音2	262
1000	歴史資料	(東小平)石神社石仏	児玉町小平	近世	文政7 (1824) 年	社日塔1	262
1001	歴史資料	(東小平字根岸)ほてい堂石仏	児玉町小平	近世近代	享保3 (1718) 年 (他3基)	庚申塔1、地蔵1、馬頭観音1、(二十二夜塔)1	262
1002	歴史資料	普明寺石仏	児玉町小平	近代	昭和10 (1935) 年	地蔵1、(宝篋印塔)	262
1003	歴史資料	東小平普明寺墓地石仏	児玉町小平	現代	昭和61 (1986) 年	六地藏1	262

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	建群
1004	歴史資料	(東小平)百体観音堂石仏	児玉町小平	近世近代	文政2 (1819) 年 (他6基)	地蔵1、(観音)1、(三層)1、(三層)1、(観音)1、(観音)1	262
1005	歴史資料	成身院石仏	児玉町小平	現代	昭和61 (1986) 年	六地藏1	262
1006	歴史資料	東小平字桑木原庚申塚石仏	児玉町小平	近世近代	宝永7 (1710) 年 (他6基)	庚申塔10	262
1007	歴史資料	(西小平字柳林)旧道脇石仏	児玉町小平	近世近代	安永5 (1776) 年 (他4基)	馬頭観音6、二十二夜塔1	262
1008	歴史資料	西小平公会堂石仏	児玉町小平	近世	享保5 (1720) 年	地蔵1、(三界万遍舎塔)	262
1009	歴史資料	(西小平)[個人所有]石仏	児玉町小平	現代	昭和56 (1981) 年	猿田彦大神1	262
1010	歴史資料	西小平字神山郷石仏	児玉町小平	近世近代	元禄16 (1703) 年 (他11基)	庚申塔2、馬頭観音4、二十二夜塔1、(念仏供養塔)1、巳塔1、(観音)1	262
1011	歴史資料	西小平[個人所有]石仏	児玉町小平	現代	昭和41 (1966) 年	猿田彦大神1	262
1012	歴史資料	西小平[個人所有]石仏	児玉町小平	近代	大正9 (1920) 年	猿田彦大神1	262
1013	歴史資料	西小平[個人所有]石仏	児玉町小平	現代	昭和27 (1952) 年	馬頭観音1	262
1014	歴史資料	西小平字石木沢路傍石仏	児玉町小平	近世近代	天明3 (1783) 年 (他5基)	庚申塔6、馬頭観音2、地蔵1、(念仏供養塔)1、百万遍供養塔1	262
1015	歴史資料	西小平字峯畑路傍石仏	児玉町小平			地蔵1	262
1016	歴史資料	西小平間瀬堰堤下石仏	児玉町小平	近世	寛政10 (1798) 年	地蔵1	262
1017	歴史資料	字平沢路傍石仏	児玉町太駄	近世	寛延2 (1749) 年 (他4基)	庚申塔1、馬頭観音1、二十二夜塔1、(念仏供養塔)1、巳塔1	262
1018	歴史資料	光福寺石仏	児玉町太駄	近世現代	宝暦7 (1757) 年 宝暦9 (1759) 年 昭和61 (1986) 年	地蔵3、六地藏1、二十二夜塔1	262
1019	歴史資料	字横畑路傍石仏	児玉町太駄	近世	寛政12 (1800) 年 天明10 (1839) 年 万延元 (1860) 年	庚申塔2、馬頭観音1、巳塔1、社日塔1、道祖神1	262
1020	歴史資料	(字西南)県道脇石仏	児玉町太駄	近世	天保8 (1837) 年 万延元 (1860) 年	庚申塔1、社日塔1	262
1021	歴史資料	(字西南)稲荷神社石仏	児玉町太駄			二十二夜塔1、二十三夜塔1	262
1022	歴史資料	(字西南)旧道脇石仏	児玉町太駄	近世	宝暦13 (1763) 年 安永2 (1773) 年 寛政5 (1793) 年	地蔵1、馬頭観音2、巳塔1	262
1023	歴史資料	徳蔵寺石仏	児玉町太駄	近世現代	安永7 (1778) 年 (他5基)	庚申塔1、地蔵1、二十二夜塔1、(念仏供養塔)1、百万遍供養塔1	262
1024	歴史資料	(字阿久戸)県道脇石仏	児玉町太駄	近世	安永6 (1777) 年 天保13 (1842) 年	庚申塔1、二十三夜塔1、甲子塔1	262
1025	歴史資料	字殿谷戸高札場石仏	児玉町太駄	近世近代	正徳4 (1714) 年 (他3基)	庚申塔1、地蔵1、馬頭観音1、二十二夜塔1	262
1026	歴史資料	字殿谷県道1号脇石仏	児玉町太駄	近世	寛政3 (1791) 年 文政元 (1818) 年	庚申塔1、馬頭観音1	262
1027	歴史資料	(字八殿谷)公会堂裏石仏	児玉町太駄	近世	文久2 (1862) 年	社日塔1	262
1028	歴史資料	(字八殿谷)[私有地]前石仏	児玉町太駄	近世	享和3 (1803) 年	庚申塔1、馬頭観音1	262
1029	歴史資料	(字八殿谷)旧道脇石仏	児玉町太駄	近世	元文5 (1740) 年 万延元 (1860) 年	庚申塔2	262
1030	歴史資料	(字沢戸)旧道脇石仏	児玉町太駄	近世	元文5 (1740) 年 (他4基)	庚申塔2、馬頭観音2、井才夫1、道祖神1	262
1031	歴史資料	(字沢戸)太子堂石仏	児玉町太駄	近世	明和6 (1769) 年	地蔵1、(念仏供養塔)1、(宝篋印塔)	262
1032	歴史資料	(字水口)県道脇石仏	児玉町太駄	近代	明治23 (1890) 年	馬頭観音1	262
1033	歴史資料	(字南)県道脇石仏	児玉町太駄	近世	安政5 (1858) 年	馬頭観音1	262
1034	歴史資料	(字南)旧道脇石仏	児玉町太駄	近世近代	天保13 (1842) 年 大正9 (1920) 年	庚申塔1、馬頭観音1	262
1035	歴史資料	正覚寺石仏	児玉町太駄	近世近代	延享元 (1744) 年 (他5基)	地蔵4、二十二夜塔1、百万遍供養塔2	262
1036	歴史資料	(字迎)八坂神社脇石仏	児玉町太駄	近世	元文5 (1740) 年 (他5基)	庚申塔2、馬頭観音1、二十二夜塔1、(念仏供養塔)1、甲子塔1	262

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	建群
1037	歴史資料	(字迎) 水田畦石仏	児玉町太駄	近世	万延元 (1860) 年文化 10 (1813) 年	庚申塔 1、馬頭観音 1	262
1038	歴史資料	(字下谷戸) 旧道脇石仏	児玉町河内	近世	元文 5 (1740) 年延享 4 (1747) 年	庚申塔 1、馬頭観音 1	262
1039	歴史資料	(字中川原) 共有墓地脇石仏	児玉町河内	近代	大正 9 (1920) 年	庚申塔 1	262
1040	歴史資料	(字中川原) 路傍石仏	児玉町河内			庚申塔 1	262
1041	歴史資料	(字中川原) 畑中石仏	児玉町河内			庚申塔 1	262
1042	歴史資料	十輪院石仏	児玉町河内	近世現代	延享 2 (1745) 年平成 5 (1993) 年	地藏 2、六地藏 1、二十二夜塔 1、(宝篋印塔)	262
1043	歴史資料	字勝沢路傍石仏	児玉町河内	近世近代	寛政 12 (1800) 年(他 4 基)	庚申塔 2、馬頭観音 3、巳待塔 1	262
1044	歴史資料	(字神子沢) [個人所有] 石仏	児玉町河内	近代	明治 3 (1870) 年	庚申塔 1、甲子塔 1	262
1045	歴史資料	(字神子沢) [個人墓地] 石仏	児玉町河内			六地藏 1、經典供養塔 1、名号塔 1	262
1046	歴史資料	(字新屋敷) 県道脇石仏	児玉町河内	近世近代	元文 5 (1740) 年安永 4 (1775) 年明治 17 (1884) 年	庚申塔 7、經典供養塔 1	262
1047	歴史資料	(字寺山) 県道脇石仏	児玉町河内	近代	大正 9 (1920) 年大正 13 (1924) 年	庚申塔 1、甲子塔 1、(聖観音)	262
1048	歴史資料	(字寺山) おすわ様石仏	児玉町河内	近世	万延元 (1860) 年	庚申塔 2	262
1049	歴史資料	(字木戸) 稲荷神社石仏	児玉町河内	近世近代	寛延 2 (1749) 年(他 3 基)	庚申塔 5、馬頭観音 1、二十二夜塔 1、巳待塔 1	262
1050	歴史資料	(字間瀬) 間瀬湖路傍石仏	児玉町河内	近世近代	万延元 (1860) 年明治 30 (1897) 年	庚申塔 1、馬頭観音 1	262
1051	歴史資料	(字横山) 旧道脇石仏	児玉町河内	近世	文久 3 (1863) 年	庚申塔 1	262
1052	歴史資料	(字日影瀬) 旧道脇石仏	児玉町河内	近世近代	明和 8 (1771) 年万延元 (1860) 年大正 9 (1920) 年	庚申塔 3、巳待塔 1	262
1053	歴史資料	金鑽神社石仏	児玉町河内	近世	嘉永 6 (1853) 年	社日塔 1	262
1054	歴史資料	(字上西耕地) 路傍石仏	児玉町稲沢	近世	明和 4 (1767) 年	巡拝塔 1	262
1055	歴史資料	(字上東耕地) 堂跡石仏	児玉町稲沢	近世	延享 2 (1745) 年(他 3 基)	庚申塔 3、六地藏 1、二十二夜塔 1、巡拝塔 1、(御影)	262
1056	歴史資料	(字上東耕地) [個人所有] 石仏	児玉町稲沢	近代	大正 13 (1924) 年	甲子塔 1、(神社碑)	262
1057	歴史資料	字上小川の内路傍石仏	児玉町稲沢	近世近代	宝暦 9 (1759) 年(他 4 基)	庚申塔 3、二十二夜塔 1、巳待塔 1、(御影)、社日塔 1、(御影)	262
1058	歴史資料	慈眼寺石仏	児玉町稲沢	近世	延享元 (1744) 年(他 3 基)	庚申塔 3、(堀)、十六夜山崎屋敷 1、(御影)、(光緒)	262
1059	歴史資料	慈眼寺墓地石仏	児玉町稲沢	近世	宝永元 (1704) 年(他 3 基)	地藏 1、馬頭観音 2、念仏供養塔 1	262
1060	歴史資料	(字下上平) 崖淵石仏	児玉町稲沢			馬頭観音 1	262
1061	歴史資料	(字下耕地) 八坂社脇石仏	児玉町稲沢			巳待塔 1	262
1062	歴史資料	(字下東耕) 地路傍石仏	児玉町稲沢	近世	宝暦 11 (1761) 年寛政 12 (1800) 年万延元 (1860) 年	庚申塔 3、巳待塔 1、社日塔 1	262
1063	歴史資料	(中稲沢) 畑脇石仏	児玉町稲沢			名号塔 2	262
1064	歴史資料	字葉師堂石仏	児玉町元田	近世	明和 4 (1767) 年万延元 (1860) 年	庚申塔 1、地藏 1、二十二夜塔 1	262
1065	歴史資料	字葉師堂 [個人所有] 石仏	児玉町元田			庚申塔 1	262
1066	歴史資料	字千手堂板碑保管庫石仏	児玉町元田	近世	宝暦 4 (1754) 年宝暦 13 (1763) 年	光明真言供養塔 1、百万遍供養塔 1	262
1067	歴史資料	字前元田バイパス脇石仏	児玉町元田			庚申塔 2	262
1068	歴史資料	(字後元田) 県道脇石仏	児玉町元田	近世近代	元禄 10 年代 (1697-1704) (他 6 基)	庚申塔 3、馬頭観音 2、二十二夜塔 1、甲子塔 1、巳待塔 1	262
1069	歴史資料	字下元田 [私有地] 前石仏	児玉町元田	近代	明治 27 (1894) 年	庚申塔 1	262

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	建群
1070	歴史資料	(字坊畑) 釈迦堂石仏	児玉町蛭川	近世	延享元 (1744) 年	二十二夜塔 1	262
1071	歴史資料	(字南廓) [個人所有] 石仏	児玉町蛭川			猿田彦大神 1	262
1072	歴史資料	(字南廓) 大堀川の端石仏	児玉町蛭川	近世	元文 3 (1738) 年	二十二夜塔 1	262
1073	歴史資料	(字南廓) 寺の前石仏	児玉町蛭川	近世近代	寛政 2 (1790) 年(他 4 基)	庚申塔 2、馬頭観音 6	262
1074	歴史資料	延命寺石仏	児玉町蛭川	近世現代	元文 5 (1740) 年昭和 40 (1965) 年	地藏 1、二十二夜塔 1、(願堂)	262
1075	歴史資料	(字東廓) 地藏堂石仏	児玉町蛭川	近世	享保 4 (1719) 年文化 5 (1808) 年	地藏 1、馬頭観音 1、經典供養塔 1	262
1076	歴史資料	(字東廓) 路傍石仏	児玉町蛭川	近世	天保 2 (1831) 年	猿田彦大神 1	262
1077	歴史資料	能淵寺石仏	児玉町蛭川	近世近代	享保 18 (1733) 年(他 6 基)	庚申塔 2、地藏 1、二十二夜塔 3、(願堂)	262
1078	歴史資料	(字東廓) [個人所有] 石仏	児玉町蛭川	近代	大正 8 (1919) 年	猿田彦大神 1	262
1079	歴史資料	(字東廓) [個人所有] 石仏	児玉町蛭川	近代	大正 9 (1920) 年	猿田彦大神 1	262
1080	歴史資料	(字金鑽林) 水田脇石仏	児玉町蛭川	近世	安政 6 (1859) 年	馬頭観音 1	262
1081	歴史資料	(字西廓) 路傍石仏	児玉町蛭川			猿田彦大神 1	262
1082	歴史資料	(字西廓) [個人所有] 石仏	児玉町蛭川			馬頭観音 1	262
1083	歴史資料	(字西畑) 女堀川端石仏	児玉町蛭川	近世	元文 5 (1740) 年	庚申塔 1	262
1084	歴史資料	(字萩窪) 路傍石仏	児玉町蛭川	近世	宝永元 (1704) 年安政 6 (1859) 年	庚申塔 2	262
1085	歴史資料	字前田路傍石仏	児玉町蛭川	近世	延享 2 (1745) 年	二十二夜塔 1	262
1086	歴史資料	(字新田) 林中石仏	児玉町蛭川			巳待塔 1、猿田彦大神 1	262
1087	歴史資料	(字新田) 畑中石仏	児玉町蛭川			馬頭観音 1	262
1088	歴史資料	(字内手) 町道脇石仏	児玉町下真下	近世近代	元文 2 (1737) 年安永 4 (1775) 年明治 45 (1912) 年	地藏 1、二十二夜塔 1、念仏供養塔 1	262
1089	歴史資料	(字石橋) Y 字路石仏	児玉町下真下			道祖神 1	262
1090	歴史資料	(字田島) 路傍石仏	児玉町下真下			(二十二夜塔)	262
1091	歴史資料	(字田島) [私有地] 前石仏	児玉町下真下	近世	元文 5 (1740) 年	庚申塔 1	262
1092	歴史資料	(字内手) 工業団地入口石仏	児玉町下真下	近代	明治 31 (1898) 年明治 (1868-1912)	馬頭観音 2	262
1093	歴史資料	(字石橋) 共有墓地石仏	児玉町下真下	近世近代	貞享 2 (1685) 年(他 6 基)	庚申塔 3、地藏 1、六地藏 1、馬頭観音 1、經典供養塔 1	262
1094	歴史資料	(字南共和) [個人所有] 石仏	児玉町共栄	現代	平成 3 (1991) 年	猿田彦大神 1	262
1095	歴史資料	正楽寺石仏	児玉町上真下	近世近代	宝暦 2 (1752) 年(他 13 基)	願堂、(願堂)、(願堂)、(願堂)、(願堂)、(願堂)	262
1096	歴史資料	(字原) 九郷用水端石仏	児玉町上真下	近世	天保 2 (1831) 年	馬頭観音 1	262
1097	歴史資料	(字堂前) 釈迦堂前石仏	児玉町上真下	近世	元文 5 (1740) 年(他 4 基)	庚申塔 3、地藏 1、二十二夜塔 1、并子天 1	144 262
1098	歴史資料	(字中内而) [個人所有] 石仏	児玉町上真下			猿田彦大神 1	262
1099	歴史資料	(字中内而) [個人所有] 石仏	児玉町上真下	近代	大正 3 (1914) 年昭和 10 (1935) 年	馬頭観音 1、猿田彦大神 1	262
1100	歴史資料	(字東) [個人所有] 石仏	児玉町上真下	現代	昭和 49 (1974) 年	猿田彦大神 1	262
1101	歴史資料	(字松場) 個人墓地石仏	児玉町上真下	近代	明治 15 (1882) 年	馬頭観音 1	262
1102	歴史資料	(字南) 墓地脇石仏	児玉町上真下	近世	元禄 3 (1690) 年文政 2 (1819) 年	二十二夜塔 1、巡拝塔 1	262

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文獻番号
1103	歴史資料	前真下、字向田路傍石仏	児玉町上真下	近世	寛政元(1789)年	馬頭観音1	262
1104	歴史資料	(字西)旧道脇石仏	児玉町吉田林			庚申塔2	144 262
1105	歴史資料	(字西組)〔個人所有〕石仏	児玉町吉田林			馬頭観音1	262
1106	歴史資料	(字堂の前)阿弥陀堂石仏	児玉町吉田林			地藏1、六地藏1	262
1107	歴史資料	西養寺石仏	児玉町吉田林	近世近代	元文5(1740)年(他17基)	庚申塔24、馬頭観音11	144 262
1108	歴史資料	(字東組)無縁墓地石仏	児玉町吉田林	近世	寛政6(1794)年 文政2(1819)年 文政9(1826)年	地藏1、二十二夜塔1、道祖神1、不動明王1	262
1109	歴史資料	(字堤)松池の端石仏	児玉町吉田林	近代	明治12(1879)年	道祖神1	262
1110	歴史資料	(字御林下)路傍石仏	児玉町吉田林	近世近代	宝永元(1704)年(他3基)	庚申塔4、馬頭観音1	144 262
1111	歴史資料	(字御林下)〔個人所有〕石仏	児玉町吉田林			庚申塔1、(不動明王)	262
1112	歴史資料	(字御林下)共有墓地石仏	児玉町吉田林	近世現代	元禄11(1698)年 昭和52(1977)年	地藏1、六地藏1	262
1113	歴史資料	(字摘田)弁天池土手石仏	児玉町入浅見	近代	明治2(1869)年	弁才天1	262
1114	歴史資料	(字後山)阿弥陀堂石仏	児玉町入浅見	近世現代	正徳5(1715)年(他13基)	神像、地蔵、馬頭観音、道祖神、不動明王	262
1115	歴史資料	(字内手)〔個人所有〕石仏	児玉町入浅見	近代	昭和13(1938)年	馬頭観音1	262
1116	歴史資料	(字内手)観音堂石仏	児玉町入浅見	近世	延宝4(1676)年 天保3(1832)年 天保13(1842)年	地藏2、六地藏1、二十二夜塔1	262

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文獻番号
1117	歴史資料	(字内手)〔個人所有〕石仏	児玉町入浅見	近代	昭和6(1931)年	猿田彦大神1	262
1118	歴史資料	(字正田)〔個人所有〕石仏	児玉町入浅見			馬頭観音1	262
1119	歴史資料	(字大塚)〔私有地〕脇石仏	児玉町入浅見			二十三夜塔1	262
1120	歴史資料	(字大塚)〔個人所有〕石仏	児玉町入浅見	近代	明治30(1897)年	馬頭観音1	262
1121	歴史資料	字城の内石仏	児玉町入浅見	近世	安政7(1860)年	庚申塔2	262
1122	歴史資料	八幡神社石仏	児玉町下浅見	近世	享和4(1804)年 元治元(1864)年	甲子塔3、(御嶽山碑)	262
1123	歴史資料	成就院別墓地石仏	児玉町下浅見	近世	明和7(1770)年	二十二夜塔1	262
1124	歴史資料	字前屋敷路傍石仏	児玉町下浅見	現代	昭和59(1984)年	弁才天1	262
1125	歴史資料	成就院前石仏	児玉町下浅見	近世近代現代	元禄15(1702)年(他25基)	神像、地蔵、馬頭観音、道祖神、不動明王	262
1126	歴史資料	(字新堀)西廓石仏	児玉町下浅見	近代	昭和9(1934)年	二十二夜塔1	262
1127	歴史資料	字根田の路傍石仏	児玉町下浅見	現代	昭和26(1951)年	馬頭観音1	262
1128	歴史資料	真福寺石仏	児玉町下浅見	近世近代現代	宝暦12(1762)年 明治29(1896)年 昭和50(1975)年	地藏1、六地藏1、馬頭観音1	262
1129	歴史資料	(字東廓)個人墓地石仏	児玉町高関	近世	元文2(1737)年(他3基)	地藏3、馬頭観音2、二十二夜塔1、(薬師)	262
1130	歴史資料	(字北田一丁)国脇道石仏	児玉町高関	近世	元文5(1740)年(他4基)	庚申塔6	262

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文獻番号	頁
1131	歴史資料	道標	鷯森	近代	昭和2(1927)年		昭和二年銘	143	71
1132	歴史資料	道標	傍示堂	近代	大正7(1918)年		大正七年銘	143	71
1133	歴史資料	道標	仁手	近代	昭和15(1940)年		昭和十五年銘	143	71
1134	歴史資料	道標	中央	近世	安永5(1776)年		安永五年銘	143	72
1135	歴史資料	道標	田中	近代	大正8(1919)年		大正八年銘	143	72
1136	歴史資料	道標	田中				年不詳	143	72
1137	歴史資料	道標	田中	近代	大正8(1919)年		大正八年銘	143	72
1138	歴史資料	道標	沼和田	近代	大正9(1920)年		大正九年銘	143	72
1139	歴史資料	道標	下野堂				年不詳	143	72
1140	歴史資料	道標	児玉町金屋	近代			上部破損	144	123
1141	歴史資料	道標	児玉町児玉	近代	大正4(1915)年銘	實相寺	鬼石方面への交差点角にあったが現在地に移転、全高285cm	144	123
1142	歴史資料	細村青荷(西窓青荷)墓	児玉町児玉	近世			光徳寺跡墓地、〔個人墓地〕内、川村碩布の門に入り、後に庵号「檀寮」を継ぐ	144	121
1143	歴史資料	旗本戸田重元墓	児玉町金屋				戸田十郎右衛門重美の子、半平・十郎右衛門、後に備後守に任官、慶長15(1610)年死去	144	121
1144	歴史資料	中神良甫筆塚	児玉町児玉	近代	明治3(1870)年	八幡神社	江戸時代末期～明治時代に寺子屋の師として活躍、本業は眼科医、明治2(1869)年死去	144	122
1145	歴史資料	墓碑	児玉町児玉	近世		玉蓮寺	無縁墓地内、女性師匠の墓、児玉周辺の女性の弟子の名が下部に刻まれる	144	122
1146	歴史資料	本庄晋一の墓	児玉町八幡山	近世		浄眼寺	江戸時代後期、本庄宿出身、眼科医、江戸の名医翠蘭のもとで修業、文政11(1828)年頃本庄宿で開業	144	123
1147	歴史資料	菅沼来蹄墓	児玉町児玉			實相寺	高さ117cm	144	124
1148	歴史資料	上野大掾藤原三好墓	児玉町吉田林	近代		長福寺	上野大掾藤原三好、妻さくの墓	144	125

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文庫番号	頁
1149	歴史資料	亀鼎の碑	牧西	近代	明治9(1876)年		宅地裏	14	1
1150	歴史資料	織茂定右衛門の墓碑	都島	近代	明治10(1877)年	正観寺	正観寺墓地	14	1
1151	歴史資料	杉瑤岳の寿蔵碑	沼和田	近代	明治14(1881)年	個人	畑地	14	2
1152	歴史資料	大塚雪斎の寿蔵碑	山王堂 175	近代	明治15(1882)年		宅地前	14	3
1153	歴史資料	境野楽山の碑	宮戸	近代	明治21(1888)年	個人	宅地内	14	3
1154	歴史資料	三間房五郎の碑	瀧瀬	近代		立岩寺	立岩寺境内	14	4
1155	歴史資料	戸塚彦衛の墓碑	瀧瀬	近代		立岩寺	立岩寺墓地	14	5
1156	歴史資料	金井眠石の墓碑	宮戸	近代		観泉寺	観泉寺墓地	14	6
1157	歴史資料	大杉大明神碑(稲荷神社石碑)	小和瀬	近世	寛政5(1793)年	稲荷神社	利根川、石造板型、「寛政五癸丑九月〇〇 武州榛沢郡小和瀬〇〇」「大杉大明神 魯谷謹書、一本木河岸	154	68、71、77、83
1158	歴史資料	架橋記念碑	山王堂	近代	明治17(1884)年		架橋記念碑 明治17年3月 架橋組合創立 石川三四郎書 他銘文有	154	84
1159	歴史資料	塙保己一の碑	児玉町保木野	近代	大正12(1923)年		公民館敷地内、塙先生百年祭記念碑	14 144	7 125
1160	歴史資料	中神良甫の碑	児玉町児玉本町	近代	明治27(1894)年	八幡神社	八幡神社境内	14	9
1161	歴史資料	中神良甫の筆塚の碑	児玉町児玉本町	近代	明治3(1870)年	八幡神社	八幡神社境内	14	10
1162	歴史資料	伊藤伊我八の碑	児玉町上眞下	近代	明治29(1896)年		宅地西方、石工多野郡平井村大澤包助	14 144	10 125
1163	歴史資料	峯岸周南の碑	児玉町吉田林	近代	大正5(1916)年	日枝神社(山王社)	日枝神社(山王社)境内	14 144	11 124
1164	歴史資料	横山慈海の碑	児玉町下眞下	近代	大正3(1914)年	龍泉寺	龍泉寺墓地	14	11
1165	歴史資料	高橋正司先生の碑	児玉町児玉	近代	昭和13(1938)年	法養寺	真之真道流柔道師範	144	121
1166	歴史資料	川村硯布句碑	児玉町児玉	近世	安政6(1859)年	八幡神社	俳人細村青荷が師の句碑を建立「春の水 夕山晴て 流れけり」	144	121
1167	歴史資料	董塚(芭蕉句碑)	児玉町児玉			八幡神社	俳人細村青荷が師の句碑を建立「山路来て 何やらゆかし董草」	144	121
1168	歴史資料	久米(児玉)逸淵墓及び句碑	児玉町児玉	近世	安政6(1859)年銘	玉蓮寺	墓石の前に句碑「鶯や持って生まれし春の声」、文久元(1861)年死去	144	122
1169	歴史資料	産業教育発祥の地碑	児玉町児玉	近代			競進社実業学校(現児玉農工高等学校)跡	144	122
1170	歴史資料	講道館柔道七段関根利三郎先生の碑	児玉町八幡山	近代		浄眼寺	明治23(1890)年児玉町十条生、講道館師匠三船のもとで業を積む、大正15(1926)年児玉町に修道館を開く	144	123
1171	歴史資料	中神良甫の碑	児玉町児玉			實相寺	中神良甫の出身や経歴が彫られる、碑高145cm	144	123
1172	歴史資料	井上為次郎翁の碑	児玉町児玉	近代	明治41(1908)年	實相寺	門弟92名連盟で建立、浅田流裁縫の名手、近郷の子女に指導、碑高143cm	144	123
1173	歴史資料	中村文太郎碑	児玉町児玉			實相寺	高さ109cm	144	124
1174	歴史資料	芭蕉句碑	児玉町八幡山	近世			雉岡城跡内、金毘羅神社前	144	124
1175	歴史資料	藤池の碑	児玉町吉田林	近世	文化11(1814)年銘			144	124
1176	歴史資料	峯岸周助(周南)の碑	児玉町吉田林	近代		西養寺	文久2(1862)年生、児玉町長を勤め文人としても名をなす	144	124
1177	歴史資料	金屋貯水池新設記念碑		近代	大正14(1925)年			265	62
1178	歴史資料	秋山十二天池竣工記念碑		近代	昭和			265	62
1179	歴史資料	秋山耕地整理組合竣工記念碑		現代	昭和23(1948)年			265	62
1180	歴史資料	本庄竹製品協同組合価格表		近代				75	140
1181	歴史資料	児玉南部竹工組合の定		近代				75	140

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文献番号	頁
1182	歴史資料	本庄籠職連盟簿		近代				75	139
1183	歴史資料	本庄籠職連盟簿		近代				75	139
1184	歴史資料	傍示杭	千代田	近代	大正元 (1912)年		大正元年銘	143	72
1185	歴史資料	大杉神社燈籠 (日枝神社境内)	山王堂	近世	天明3 (1783)年	日枝神社	「御神前」「天明三癸卯十一月日」「船持中」	154	68、71、84
1186	歴史資料	児玉町旧配水塔古写真		近代				265	口絵
1187	歴史資料	間瀬堰堤古写真		近代				265	口絵

【無形文化財】

番号	分類	名称	所在地	時代	概要	文献番号	頁
1	工芸技術	本庄織物 (本庄絣)	中央、山王堂、小島	近代	絹織物、伊勢崎市の賃織、農家の副業、自家製糸を行い普段着として太織を製織、明治時代中期に織物組合加入、伊勢崎銘仙として全国に知れ渡る	65、90、91、112	2、9、3、-
2	工芸技術	纏	中央		桐材、纏の修理・人形製作・人形修理・提灯づくり	90	9

【民俗文化財】（有形の民俗文化財）

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文献号	頁
1	衣服	綿入れ半天・馬喰半天	東五十子				男の仕事着（上体）	59	29
2	衣服	着物	東五十子・都島				男の仕事着（上体）・女の仕事着（上体）	59	29
3	衣服	シャツ	都島・児玉町東小平下				男の仕事着（上体）・女の仕事着（上体）	59	29
4	衣服	半天	東五十子・都島・児玉町生野				男の仕事着（上体）・女の仕事着（上体）	59	29
5	衣服	袖なし	児玉町生野				男の仕事着（上体）・女の仕事着（上体）	59	29
6	衣服	モモヒキ	都島・児玉町生野・児玉町東小平下				男の仕事着（下体）・女の仕事着（下体）	59	31 35
7	衣服	襦袢	東五十子・都島・児玉町生野				女の仕事着（上体）	59	33
8	衣服	タスキ	都島				女の仕事着（上体）	59	33
9	衣服	前掛	東五十子				女の仕事着（下体）	59	35
10	衣服	腰巻・オコシ	児玉町生野・児玉町東小平下				女の仕事着（下体）	59	35
11	衣服	モンペ	児玉町生野				女の仕事着（下体）	59	35
12	衣服	地下足袋	東五十子・都島				仕事のときの履物	59	37
13	衣服	裸足	東五十子・児玉町生野・児玉町東小平下				仕事のときの履物	59	37
14	衣服	ワラジ	都島・児玉町生野町・児玉町東小平下				仕事のときの履物	59	37
15	衣服	足袋	児玉町生野町・児玉町東小平下				仕事のときの履物	59	37
16	衣服	藁草履	児玉町東小平下				仕事のときの履物	59	37
17	衣服	オカタビ・ウワタビ・イシゾコ・タビグツ	児玉町東小平下				仕事のときの履物	59	37
18	食文化	御膳	東五十子・都島・児玉町生野・児玉町東小平下				膳（平常）の名称	59	27
19	住居	寄棟	都島				屋根型	59	7
20	住居	切妻造	東五十子・児玉町生野・児玉町東小平下				屋根型、本庄市に分布が見られる	59 76	7 1
21	住居	四間取り	東五十子・都島・児玉町生野・児玉町東小平下				間取りの型	59	9
22	住居	イロリ	児玉町生野・児玉町東小平下				イロリの名称	59	11
23	住居	カギゲタ	児玉町生野				イロリの用具（自在鉤）	59	13
24	住居	ゴトク	児玉町生野				イロリの用具（金輪）	59	13
25	住居	ツルベ	児玉町東小平下				イロリの用具（自在鉤）	59	13
26	住居	サントク	児玉町東小平下				イロリの用具（金輪）	59	13
27	住居	入母屋造					秩父から児玉地方にかけて切妻造の分布と重なるように広がる	76	4
28	住居	草屋根					県西部から北部にかけて「クズヤ」「クズヤネ」と呼ぶ	76	7
29	住居	杉皮屋根					竹押さえの杉皮屋根（児玉町）	76	10
30	住居	板屋根						76	8
31	生業	エンガ・エグワ・エングワ・エイグワ・イグワ・インガ	東五十子・都島・児玉町生野町・児玉町東小平下				柄鍬、人力スキの名称、畑うないの主要な用具、児玉町金屋で多く製作	59 85	49 150
32	生業	タカヤリ・タケヤリ・ヤリ・ヤリンボ	東五十子・都島				肩にない運搬具（棒類） ※肩に担う運搬具	59	53

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	所蔵元	概要	文献番号	頁
33	生業	天秤棒	東五十子・都島・児玉町生野町・児玉町東小平下				肩にない運搬具（棒類） ※肩に担う運搬具	59	53
34	生業	草刈りカゴ・クズカゴ	児玉町生野町				肩にない運搬具（天秤棒等の付属容器）※肩に担う運搬具	59	53
35	生業	セオイカゴ（背負い籠）・シヨイカゴ・シヨイヤカゴ・クワシヨイカゴ	都島				背負い運搬具（背負い籠）	59	55
36	生業	セオイバンゴ（背負い梯子）・シヨイバンゴ	都島				背負い運搬具（背負い梯子）	59	55
37	生業	シヨイタ・セエタ・セイタ	児玉町生野町・児玉町東小平下				背負い運搬具（背負い梯子）	59	55
38	信仰	ウチガミ	東五十子・都島・児玉町生野				屋敷神（氏神）	59	5
39	信仰	奥満宮	児玉町東小平下				屋敷神	59	5
40	信仰	八幡神社奉納品・奉物	児玉町児玉				額・太鼓・版木（神社、他）・幟・神像・流鏝馬用具・短筒・大弓・刀・鞍・鎧・陣笠・鎧・掛軸類等多数	144	122
41	民俗芸能	西小平の万作・小平の万作踊り、施設・楽器・衣裳など	児玉町西小平	近代			鉦、四ツ竹、幕 衣裳：着物、袴、カツラなど	55	114
42	民俗芸能	金鑽神楽・本庄組、衣裳・採物・楽器など	千代田				楽器、服装、採物、その他一通り	56	70
43	民俗芸能	金鑽神楽・本庄組、文献（免許状写し）	千代田	近世	文政8（1825）年			56	70
44	民俗芸能	金鑽神楽・根岸組、衣裳・採物・楽器など	児玉町小平				大太鼓1、小太鼓1、鼓1、笛10、面35、帽子7、冠5、袴一式、幣5、鈴3、鏡2、鉢1、扇10、剣1、弓矢1、鍬1	56	70
45	民俗芸能	金鑽神楽・根岸組、文献（写真・録音・スライド・8mm映画）	児玉町小平					56	70
46	民俗芸能	金鑽神楽・太駄組、衣裳・採物・楽器など	児玉町太駄				鼓、笛、面、帽子、冠、袴、鈴、鏡、鉢、扇、剣、弓矢	56	70
47	民俗芸能	金鑽神楽・太駄組、文献（金鑽神楽員申付候事）	児玉町太駄	近代	明治34（1901）年			56	70
48	民俗芸能	獅子頭（八坂神社の獅子舞）	本庄	近世	寛文3（1663）年	台町獅子舞保存会	台町の獅子舞（県指定無形民俗）で使用、寛文3（1663）年の獅子頭（籠頭と呼ぶ）、沼和田の雷電者の御神木を彫刻したと伝わる	101	170
49	民俗芸能	金鑽神楽（太駄組）神楽面	児玉町太駄			金鑽神社神楽太駄組		102	129
50	山車	南本町の山車		現代	平成3（1991）年		製作：高崎市・高久森一（日光兼光）	95	25
51	山車	本庄まつりの山車古写真		近代				95	65
52	民俗工芸	籠屋道具類		近代				75	141
53	民俗工芸	ジャカゴ（蛇籠）		近代			堤防を築いたり補修するのに使用した籠、利根川氾濫で堤防補修したのが製作の最後	75	139
54	民俗工芸	駒下駄工程品一式	岩槻市加倉			県立民俗文化センター	4工程	98	31

【民俗文化財】（無形の民俗文化財） ※「所在地」欄は主な伝承地域、「場所」「年月」欄は実施する場所・機会、期日等を示します。

番号	分類	名称	所在地	場所	年月	概要	文献番号	頁
1	食文化	あくぬき	児玉町生野・児玉町東小平下			児玉町生野：フキ・ワラビ・ゼンマイ・タケノコ・ゴボウ・ウド、児玉町東小平下：ワラビ・ゼンマイ・クルミ	59	23
2	食文化	ダンゴ・シトギ	東五十子・都島・児玉町生野・児玉町東小平下			東五十子：初午、都島：小正月・十五夜・初午・七夕・十三夜、児玉町生野：彼岸・盆・葬式・年忌、児玉町東小平下：彼岸・盆・十五夜・年忌・葬式	59	25
3	食文化	年越しソバ	児玉町東小平下			年越し・年取り	59	81
4	食文化	正月の儀礼食	東五十子・都島・児玉町生野町・児玉町東小平下			東五十子：うどん・そば、都島：モチ・うどん、児玉町東小平下：雑煮	59	81
5	食文化	播種の儀礼食				本庄：餅・まんじゅう、児玉：米飯・餅・ぼた餅・まんじゅう・五目めし・うどんなど	85	172
6	住居	カミザ	児玉町生野			イロリの座名（主人）※イロリにおける着座場所の呼称	59	15
7	住居	ヒガシムキ	児玉町東小平下			イロリの座名（主人）※イロリにおける着座場所の呼称	59	15
8	生業	ドブッタ	児玉町生野町・児玉町東小平下			湿田の名称	59	41
9	生業	オオドブ	児玉町生野町			湿田の名称	59	41
10	生業	マキタ（蒔田）	児玉町生野町			摘田の名称	59	43
11	生業	ノボシ（地干し）	都島			稲の干し方	59	47
12	生業	ハンデ・ハンデン	児玉町生野町・児玉町東小平下			稲の干し方	59	47
13	生業	ヒラガリ・ヒラボシ	児玉町生野町			稲の干し方	59	47
14	生業	日を冠した市名	児玉町生野町・児玉町東小平下			市の種類	59	57
15	生業	ヒナ市	児玉町生野町・児玉町東小平下			市の種類	59	57
16	生業	植木市	児玉町生野町・児玉町東小平下			市の種類	59	57
17	人の一生	後産（胎盤）・入口の敷居の下に埋める	東五十子・都島・児玉町生野町・児玉町東小平下			後産（胎盤）を埋める場所	59	69
18	人の一生	後産（胎盤）・恵方に穴を掘り埋める	都島			後産（胎盤）を埋める場所	59	69
19	人の一生	ヨメイリ	東五十子・都島・児玉町東小平下			婚姻の名称	59	73
20	人の一生	葬送儀礼	東五十子・都島・児玉町生野町・児玉町東小平下			東五十子：曹洞宗、都島：真言宗、児玉町生野町：日蓮宗、児玉町東小平下：真言宗・曹洞宗・神葬祭	59	75
21	人の一生	土葬	東五十子・都島・児玉町生野町・児玉町東小平下				59	77
22	信仰	両神講	児玉町生野町			山岳信仰（県内）関係の講	59	61
23	信仰	三峰講	児玉町生野町			山岳信仰（県内）関係の講	59	61
24	信仰	御嶽講	東五十子			山岳信仰（県外）関係の講	59	63
25	信仰	榛名講	児玉町生野町			山岳信仰（県外）関係の講	59	63
26	信仰	古峰講	児玉町東小平下			山岳信仰（県外）関係の講	59	63
27	信仰	太子講	児玉町秋平小平			職人仲間の信仰、安全や技術向上を祈願	75 86	126 104
28	信仰	大山講	児玉町塩谷		7月27日～8月21日	籠り行事のある祭り・行事、霊峰大山への信仰、大山阿夫利神社（諏訪神社末社）に代参する講	100	220
29	社会生活	青年会・青年団	東五十子・児玉町生野町・児玉町東小平下			若者組、娘組（若者組）	59	59
30	社会生活	女子青年団	東五十子			若者組、娘組（娘組）	59	59
31	社会生活	ワカイシ組・若者組	都島			若者組、娘組（若者組）	59	59
32	社会生活	処女会	児玉町生野町・児玉町東小平下			若者組、娘組（娘組）	59	59

番号	分類	名称	所在地	場所	年月	概要	文献番号	頁
33	社会生活	イッケ・エッケ	東五十子・都島・児玉町生野町・児玉町東小平下			同族集団の名称	59	65
34	社会生活	新暦	東五十子・都島・児玉町生野町・児玉町東小平下				59	79
35	年中行事	くわ立て・鍬入れ	牧西・東五十子・都島		1月11日	大正月、仕事始め、11日の蔵開き	50 59	12 85
36	年中行事	もの作りの日	牧西			粟穂穂・刀・削り花・鍬・すき・まんぐわ等、5日までに作るか買い求める	50	13
37	年中行事	ドンド焼き(ドンドン焼き)・道祖神焼き・鬼火	各地		1月12-15日	小正月、年神棚に供えたものをもやす	50、52、59、100	19、93、89、198
38	年中行事	アボヘボ	都島・児玉町生野町・児玉町東小平下			ものづくり ※「粟穂穂」小正月の作り物、五穀豊穣祈願	59	87
39	年中行事	削花(ハナ・ハナギ)	都島・児玉町生野町・児玉町東小平下			ものづくり	59	87
40	年中行事	オカユボウ(カユカキボウ)	都島			ものづくり	59	87
41	年中行事	送り盆	都島・児玉町生野町・児玉町東小平下			提燈を持って送る(帰りは火を消す)、墓まで送る	59	93
42	年中行事	月見	都島・児玉町生野町・児玉町東小平下			縁側に供物、供物を盗まれると良いことがある、畑の野菜や柿をとつても咎めない	59	95
43	年中行事	トオカンヤ・十日夜・イノコ	東五十子・都島・児玉町東小平下		10月9日	藁鉄砲で地面を打つ、モグラを追い払う	59	97
44	年中行事	虚空蔵様の縁日	児玉町高柳		1月13日	参詣後養蚕用のザルや籠を購入する習わし、養蚕をやっている家は皆おまえりに行き、お礼をうけてくる	60 75 92	8 123 7
45	年中行事	八幡神社春祭り(籠市)	児玉		3月15日		75	—
46	年中行事	城山稻荷神社の春祭り(籠市)	本庄		4月12日		75	—
47	年中行事	本庄まつり(金鑽神社例大祭)	本庄	市内各所(金鑽神社)	11月2-3日	「山車市内曳き廻し」を中心に、約2か月間伝統的な祭り行事と新しい行事が併存	84 95 100	19 1 206
48	年中行事	十五夜・十三夜の年占				十五夜に良い天気なら大麦が豊作、十三夜に良い天気なら小麦が豊作(十五夜が雨なら大麦が不作、十三夜が雨なら小麦が不作)	85	170
49	年中行事	マキアゲ				播種儀礼の名称	85	172
50	年中行事	播種の禁忌				成の日に麦まきを忌む、マキオトシ・サクオトシ:畑へサクを切ったまままきを忘れて土をかけることを忌む	85	176
51	年中行事	コキアゲ	児玉町塩谷			麦の脱穀が終了するとぼた餅を作って作神様(神棚に祀ってある)に供えて祝う	85	180
52	年中行事	秋祭り(八幡神社)	児玉町児玉	八幡神社神社	10月15日	神輿・山車・屋台・笠鉾の出る祭り・行事、山車	100	206
53	年中行事	天王様(白髭神社)	児玉町金屋	白髭神社	7月15日	神輿・山車・屋台・笠鉾の出る祭り・行事、子供神輿3	100	206
54	年中行事	天王様(三島愛宕神社)	児玉町高柳	三島愛宕神社	7月14日	神輿・山車・屋台・笠鉾の出る祭り・行事、子供神輿	100	206
55	年中行事	天王様(八坂神社)	児玉町飯倉	八坂神社	7月15日	神輿・山車・屋台・笠鉾の出る祭り・行事、子供神輿	100	206
56	年中行事	天王様(十二神社)	児玉町田端	十二神社	7月15日	神輿・山車・屋台・笠鉾の出る祭り・行事、子供神輿	100	206
57	年中行事	夏祭り(天神社)	児玉町秋山	天神社	7月14日	神輿・山車・屋台・笠鉾の出る祭り・行事、神輿	100	206
58	年中行事	夏祭り(日本神社)	児玉町西小平	日本神社	7月15日	神輿・山車・屋台・笠鉾の出る祭り・行事、子供神輿	100	206
59	年中行事	天王様(八坂神社)	児玉町吉田林				100	206
60	年中行事	雨乞い	仁手・児玉町太駄・児玉町宮内	諏訪神社(仁手)		ボンテンの出る祭り・行事、蛇(龍)作りの行われる祭り・行事	100	210
61	年中行事	流鏝馬	児玉町児玉	八幡神社	9月15日	占いを伴う祭り・行事	100	217
62	年中行事	お水(榛名)	児玉町			雨乞い行事(鳴物・村廻り・唄・雨乞山・梵天・池を浚う など)	100	226
63	年中行事	お念仏講	児玉町太駄	光福寺	7月1~3日	百万遍・大般若・観音経、数珠、無病息災祈願、オヒマチ(飲食)	100 113	233 16
64	年中行事	本庄祇園まつり	本庄市	市街地各地	海の日直前の土日	榛沢村(現岡部町)の六斎市を寛文3(1663)年に本庄宿へ移し、牛頭天王を市神として祀ったことに至る	113	18
65	年中行事	こだま夏まつり(東石清水八幡神社八坂祭・祇園祭り・おぎょん・天王さま)	児玉町児玉	八幡神社(末社・八坂神社)	海の日前日	宮神輿、町内神輿(自由渡御・けんか神輿)、子供神輿、神輿渡御発興祭、遷座祭、還御の儀	113	18

番号	分類	名称	所在地	場所	年月	概要	文庫番号	頁
66	年中行事	お姿流し	若泉	若泉第一公園 元小山川畔	7月31日	金鑽神社主体、人形を流す夏越 大祓、御仮舎、茅の輪くぐり	113	18
67	民俗 芸能	本庄歌舞伎	本庄市	不定期	不定期	歌舞伎芝居、古くは天狗連と称した、昭和 20(1945)年頃まで上演、現在上演不可	57	51
68	民俗 芸能	ナライシバヤ	児玉町稲沢	稲聚神社	1月2～17日	現在上演不可能、50戸ほどの各 家から役者が出た	57	51
69	民俗 芸能	さんてこ囃子・泉 町武之内会	泉町	金鑽神社例大 祭	11月2～3日	サンテコとは本庄まつり(金鑽神社 祭礼)山車曳きの時に演奏される曲	89 94 102	12 78 268
70	民俗 芸能	七軒町囃子保存会	七軒町	金鑽神社例大 祭	11月2～3日	さんてこ囃子系・屋台囃子系、大正13(1924)年頃、 台町のさんてこ囃子をとり入れたのが始まり	89 94	12 78
71	民俗 芸能	台町囃子保存会	台町	金鑽神社例大 祭	11月2～3日	さんてこ囃子系・屋台囃子系、江戸時代中期、台町の有力者 が京都より祭り囃子をもち帰り江戸の囃子などとり入れた	89 94	12 78
72	民俗 芸能	仲町囃子保存会	仲町	金鑽神社例大 祭	11月2～3日	屋台囃子系、昭和51(1976)年 仲町囃子保存会結成	89 94	12 78
73	民俗 芸能	宮本町囃子保存会	宮本町	金鑽神社例大 祭	11月2～3日	屋台囃子系	89 94	12 78
74	民俗 芸能	照若町囃子保存会	照若町	金鑽神社例大 祭	11月2～3日	屋台囃子系	89 94	12 78
75	民俗 芸能	上町町囃子保存会	上町	金鑽神社例大 祭	11月2～3日	屋台囃子系	89 94	12 78
76	民俗 芸能	本町町囃子保存会	本町	金鑽神社例大 祭	11月2～3日	屋台囃子系	89 94	12 78
77	民俗 芸能	南本町囃子保存会	南本町	金鑽神社例大 祭	11月2～3日	屋台囃子系、昭和55(1980)年 本町自治会から独立	89 94	12 78
78	民俗 芸能	上町山車囃子	児玉町児玉	八幡神社例大 祭	10月15日	さんてこ囃子系、明治時代初期 から中期にかけて作られた	89 94	12 78
79	民俗 芸能	仲町山車祭り囃子 保存会	児玉町児玉	八幡神社例大 祭	10月15日	さんてこ囃子系、明治時代初期に神鎮と して八幡神社に奉納されたのが始まり	89 94 103	12 79 174
80	民俗 芸能	本町山車囃子	児玉町児玉	八幡神社例大 祭	10月15日	さんてこ囃子系、山車建造時期で ある明治時代初期より伝承と推察	89 94	12 79
81	民俗 芸能	新町山車囃子	児玉町児玉	八幡神社例大 祭	10月15日	屋台囃子系、源流は群馬県赤城方面であると伝わ る、明治時代初期の屋台創建と同時期に開始か	89 94 105	12 79 188
82	民俗 芸能	金鑽神楽(宮崎組) 神楽ばやし	児玉町太駄			金鑽神社神楽宮崎組	102	129
83	民俗 芸能	金鑽神楽(太駄組) 神楽ばやし	児玉町太駄			金鑽神社神楽太駄組	102	129
84	民俗 芸能	児玉秋祭り四角太 鼓				21世紀に残したい・埼玉ふるさと 自慢100選	191	—
85	民俗 工芸	胡桃の皮(茶・染)	東五十子			染・織(木綿・絹を除く)	59	39
86	民俗 工芸	クチナシの実(黄・ 染)	都島			染・織(木綿・絹を除く)	59	39
87	民俗 工芸	榛の木皮(焦茶・ 染)	都島			染・織(木綿・絹を除く)	59	39
88	民俗 工芸	藤(織)	児玉町生野町			染・織(木綿・絹を除く)	59	39
89	民俗 工芸	藍作					66	10
90	民俗 工芸	野鍛冶	本庄			農具(及び刃物類)を作る鍛冶、平鍛、草力キ、 鍛、唐鍛、本庄・児玉野鍛冶協同組合	67 90	175 9
91	民俗 工芸	深谷鋸工業小組合				本庄に2人組合員	67	178
92	民俗 工芸	蹄鉄工	本庄・児玉町 長浜町			明治35(1902)年「埼玉県営業便覧」、蹄鉄(カ ナグツ)をつくり馬・牛に取り付ける	67	219
93	民俗 工芸	瓦製造	児玉町			児玉瓦業組合・児玉瓦工業組合	68	36
94	民俗 工芸	桐下駄職人	本庄			明治35(1902)年「埼玉県営業便覧」、下 駄の製造販売、桐材販売、下駄の小売り	69	21
95	民俗 工芸	人形師・玩物商	本庄町			明治35(1902)年「埼玉県営業 便覧」	70	15
96	民俗 工芸	籠職人	諏訪町・児玉町保木野・ 児玉町河内・児玉町児玉			明治35(1902)年「埼玉県営業便覧」、養蚕用具、 野菜出荷用具、ジャカゴ(蛇籠)、その他	75	72
97	民俗 工芸	草屋根職人	児玉町秋平			昭和20(1945)年頃、秋平・小 平に2名職人がいた	76	91
98	民俗 工芸	和菓子製造	千代田			埼玉県営業便覧	77	8

番号	分類	名称	所在地	場所	年月	概要	文庫番号	頁
99	民俗 工芸	唐臼職人	諏訪町・児玉町吉田林・ 児玉町金屋・児玉町秋山			諏訪町、児玉町吉田林（2人）、 児玉町金屋、児玉町秋山	80	5
100	民俗 工芸	曲物職人				明治期～、昭和15（1940）年埼玉県 篩金網工業組合：本庄市1、児玉町1	81	5
101	民俗 工芸	棒屋	東台			鍬柄屋、榎柄・牛車・源氏車・臼（モチツキ用）・ 山車のかじ棒、榎材、埼玉県榎木製品工業組合	90 92	9 6
102	民謡	さのさ	児玉町秋山			祝い唄	62	235
103	民謡	児玉の唄	児玉町児玉			祝い唄	62	236
104	民謡	酒盛唄	児玉町金屋			祝い唄	62	236
105	民謡	トコトット節	児玉町金屋			祝い唄	62	236
106	民謡	三ツ節	児玉町元田・ 秋山			祭り唄・踊り唄	62	236
107	民謡	春駒唄	児玉町金屋			行事唄	62	127
108	民謡	道祖神の誘いの唄	児玉町金屋			行事唄	62	126
109	民謡	十日夜の唄	児玉町金屋			行事唄	62	126
110	民謡	お手玉唄	栗崎・児玉町 金屋			子供歌（遊び歌）	62	237
111	民謡	おはじきの唄	日の出			子供歌（遊び歌）	62	132
112	民謡	手まり唄	日の出・児玉町河 内・児玉町金屋			子供歌（遊び歌）	62	128
113	民謡	羽根つき唄	日の出・児玉 町河内			子供歌（遊び歌）	62	240
114	民謡	なわとび唄	日の出・児玉町金 屋・児玉町児玉			子供歌（遊び歌）	62	132
115	民謡	下駄取り遊びの唄	日の出			子供歌（遊び歌）	62	241
116	民謡	人当て遊びの唄	日の出・児玉 町金屋			子供歌（遊び歌）	62	241
117	民謡	子もらい遊びの唄	日の出			子供歌（遊び歌）	62	133
118	民謡	身ぶり遊びの唄	若泉			子供歌（遊び歌）	62	241
119	民謡	眠らせ唄	日の出・栗崎・児玉町河内・ 児玉町秋山・児玉町金屋			子供歌（子守り歌）	62	241
120	民謡	遊ばせ唄	児玉町金屋			子供歌（子守り歌）	62	242
121	民謡	守っ子の唄	児玉町金屋			子供歌（子守り歌）	62	242
122	民謡	鬼決め唄	児玉町金屋			子供歌（子守り歌）	62	133
123	民謡	数え唄	日の出			子供歌（子守り歌）	62	242
124	民謡	からかい唄	児玉町金屋			子供歌（子守り歌）	62	243
125	民謡	天体気象の唄	児玉町金屋			子供歌（子守り歌）	62	243
126	民謡	囃し唄	日の出			子供歌（子守り歌）	62	135
127	民謡	博打打ちの唄	児玉町金屋			娯楽歌・流行歌・その他の歌	62	123
128	民謡	流行歌	児玉町金屋・ 秋山			娯楽歌・流行歌・その他の歌	62	244
129	民謡	余興歌	児玉町金屋			酒席などの騒ぎ唄	62	122
130	民謡	みつ節	児玉町金屋			踊り歌	62	124
131	民謡	機織り唄	児玉町金屋			仕事歌	62	125

番号	分類	名称	所在地	場所	年月	概要	文献番号	頁
132	民謡	ドハツキ唄	児玉町金屋			仕事歌（地固め地業）	62	125
133	民謡	手つなぎ唄	児玉町金屋			子供歌	62	132
134	民謡	押し遊び唄	児玉町金屋			子供歌	62	134
135	民謡	手合わせ唄	児玉町金屋			子供歌	62	134
136	民謡	悪態唄	児玉町金屋			子供歌	62	136

【記念物】(遺跡)

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号	頁
1	集落跡	薬師堂東遺跡	日の出	原始 古代	弥生・古墳・奈 良・平安	元小山川右岸の本庄台地上に位置、約350軒の竪 穴式住居跡、約200点のガラス小玉鏝型が検出	163 180	23 —
2	集落跡	西富田遺跡	西富田	古代	古墳	県選定重要遺跡、古墳時代中期の大集落 跡、カマド出現期の住居群	150 178 180	18 —

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
3	集落跡	石神境遺跡	古代	奈良・平安	180
4	集落跡	本庄2号遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
5	集落跡	本庄7号遺跡	古代	奈良・平安	180
6	集落跡	小島本伝遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
7	集落跡	元屋敷遺跡	古代	奈良・平安	180
8	集落跡	小島仕切沢遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
9	集落跡	本庄城跡遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
10	集落跡	天神林遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
11	集落跡	天神林II遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
12	集落跡	薬師堂遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
13	集落跡	本庄飯玉遺跡	古代	奈良・平安	180
14	集落跡	御堂坂遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
15	集落跡	南御堂坂遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
16	集落跡	本庄25号遺跡	古代	奈良・平安	180
17	集落跡	諏訪新田A遺跡	古代	古墳	180
18	集落跡	諏訪新田B遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
19	集落跡	諏訪新田C遺跡	古代	奈良・平安	180
20	集落跡	諏訪新田D遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
21	集落跡	本庄31号遺跡	古代	奈良・平安	180
22	集落跡	本庄32号遺跡	古代	奈良・平安	180
23	集落跡	東五十子北町中 遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
24	集落跡	東五十子赤坂遺 跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
25	集落跡	西五十子大塚遺 跡	古代	奈良・平安	180
26	集落跡	西五十子田端屋 敷遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
27	集落跡	本庄46号遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
28	集落跡	本庄54号遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
29	集落跡	本庄55号遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
30	集落跡	東本庄遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
31	集落跡	古川端遺跡	原始 古代	縄文・古墳・奈 良・平安	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
32	集落跡	北堀新田遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
33	集落跡	久下東遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
34	集落跡	久下前遺跡	原始 古代	弥生・古墳・奈 良・平安	180
35	集落跡	北堀久下塚北遺 跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
36	集落跡	本庄67号遺跡	古代	奈良・平安	180
37	集落跡	元富遺跡	古代	奈良・平安	180
38	集落跡	七色塚遺跡	古代	奈良・平安	180
39	集落跡	観音塚遺跡	古代	奈良・平安	180
40	集落跡	下田遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
41	集落跡	山根遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
42	集落跡	四方田遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
43	集落跡	笠ヶ谷戸遺跡	古代	奈良・平安	180
44	集落跡	伊丹堂前遺跡	古代	奈良・平安	180
45	集落跡	本庄82号遺跡	古代	奈良・平安	180
46	集落跡	雌濠遺跡	古代	奈良・平安	180
47	集落跡	薬師遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
48	集落跡	薬師元屋舗遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
49	集落跡	二本松遺跡	古代	古墳	180
50	集落跡	二本松遺跡	古代	古墳	180
51	集落跡	弥藤次遺跡	古代	古墳	180
52	集落跡	夏目遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
53	集落跡	夏目西遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
54	集落跡	社具路遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
55	集落跡	西富田新田遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
56	集落跡	今井松原廓遺跡	古代 近世	古墳・奈良・平 安・江戸	180
57	集落跡	長興寺境内附遺 跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
58	集落跡	久城往来北遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
59	集落跡	本庄100号遺 跡	古代	奈良・平安	180
60	集落跡	今井原屋敷遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
61	集落跡	本庄 102 号遺跡	古代	奈良・平安	180
62	集落跡	本庄 104 号遺跡	古代	奈良・平安	180
63	集落跡	将監塚遺跡	原始・古代・近世	縄文・奈良・平安・江戸	180
64	集落跡	将監塚遺跡	原始古代	縄文・奈良・平安	180
65	集落跡	宍勝寺北裏遺跡	原始古代	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	180
66	集落跡	東谷遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
67	集落跡	本庄 111 号遺跡	原始古代	縄文・奈良・平安	180
68	集落跡	本庄 113 号遺跡	古代	奈良・平安	180
69	集落跡	浅見山 I 遺跡	原始古代	縄文・奈良・平安	180
70	集落跡	前田甲遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
71	集落跡	今井川越田遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
72	集落跡	将監塚東遺跡	古代	古墳	180
73	集落跡	川原町遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
74	集落跡	地神遺跡	古代	奈良・平安	180
75	集落跡	塔頭遺跡	古代	奈良・平安	180
76	集落跡	北堀久下東北遺跡	古代	古墳	180
77	集落跡	雷電下遺跡	原始～中世	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉・南北朝・室町	180
78	集落跡	中畑遺跡	古代中世	奈良・平安・鎌倉・南北朝・室町	180
79	集落跡	浅見堺・武井橋遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
80	集落跡	城の内遺跡	原始古代	弥生・古墳	180
81	集落跡	新屋敷遺跡	原始～中世	縄文・古墳・奈良・平安・鎌倉・南北朝・室町	180
82	集落跡	藤塚遺跡	原始古代	縄文・古墳	180
83	集落跡	堀向遺跡	原始古代	縄文・古墳	180
84	集落跡	柿島遺跡	古代	奈良・平安	180
85	集落跡	将監塚東遺跡	原始古代	縄文・奈良・平安	180
86	集落跡	平塚遺跡	原始古代	縄文・古墳	180
87	集落跡	古井戸南遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
88	集落跡	古井戸遺跡	原始古代	旧石器・縄文・古墳・奈良・平安	180
89	集落跡	塚畠遺跡	原始古代	旧石器・古墳・奈良・平安	180
90	集落跡	南共和遺跡	古代	奈良・平安	180
91	集落跡	新宮遺跡	原始古代	縄文・奈良・平安	180
92	集落跡	辻ノ内遺跡	古代	奈良・平安	180
93	集落跡	真下境東遺跡	古代	奈良・平安	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
94	集落跡	辻堂遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
95	集落跡	南街道遺跡	原始～中世	縄文・古墳・南北朝・室町	180
96	集落跡	向田遺跡	原始古代	縄文・奈良・室町	180
97	集落跡	阿知越遺跡	原始古代	縄文・奈良・平安	180
98	集落跡	山王山遺跡	原始古代	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安	180
99	集落跡	大久保遺跡	古代	古墳・平安	180
100	集落跡	秋山諏訪平遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
101	集落跡	秋山東遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
102	集落跡	秋山郷戸遺跡	原始古代	縄文・奈良・平安	180
103	集落跡	秋山大明神遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
104	集落跡	秋山館跡	古代	奈良・平安	180
105	集落跡	金屋西遺跡	原始古代	弥生・古墳・奈良・平安	180
106	集落跡	倉林東遺跡	原始～中世	旧石器・縄文・古墳・奈良・平安・鎌倉・南北朝・室町	180
107	集落跡	児玉 78 号遺跡	古代	奈良・平安	180
108	集落跡	倉林後遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
109	集落跡	念仏塚遺跡	古代	奈良・平安	180
110	集落跡	神明前遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
111	集落跡	高柳原遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
112	集落跡	宇留井山遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
113	集落跡	葦池遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
114	集落跡	児玉 92 号遺跡	原始	縄文	180
115	集落跡	塩谷平氏ノ宮遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
116	集落跡	上松遺跡	古代	奈良・平安	180
117	集落跡	天田遺跡	原始古代	旧石器・縄文・弥生・奈良・平安	180
118	集落跡	宮内上ノ原遺跡	原始古代	縄文・奈良・平安	180
119	集落跡	徳万谷附遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
120	集落跡	塩谷原遺跡	古代	奈良・平安	180
121	集落跡	横尾後遺跡	原始古代	弥生・奈良・平安	180
122	集落跡	田端中原遺跡	古代	奈良・平安	180
123	集落跡	田端南屋敷遺跡	古代	奈良・平安	180
124	集落跡	乙中ノ堰遺跡	古代	奈良・平安	180
125	集落跡	十二天遺跡	古代	奈良・平安	180
126	集落跡	向遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
127	集落跡	保木野下宿遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
128	集落跡	ミカド遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
129	集落跡	御林下遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
130	集落跡	金屋遺跡群円良岡遺跡	古代中世	奈良・平安・鎌倉・南北朝	180
131	集落跡	金屋遺跡群上一ノ堰遺跡	中世	南北朝・室町・戦国	180
132	集落跡	金屋遺跡群一町田遺跡	古代	奈良・平安	180
133	集落跡	橋ノ入遺跡	原始古代	縄文・奈良・平安	180
134	集落跡	後張遺跡	古代中世	古墳・奈良・平安・鎌倉・南北朝・室町	180
135	集落跡	山崎上ノ南遺跡	古代	奈良・平安	180
136	集落跡	東牧西分遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
137	集落跡	羽根倉南遺跡	原始古代	縄文・古墳	180
138	集落跡	八幡山遺跡	原始	縄文	180
139	集落跡	町後東遺跡	古代	古墳	180
140	集落跡	塔ノ入遺跡	原始古代	縄文・平安	180
141	集落跡	秋山中山遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
142	集落跡	秋山竹ノ平遺跡	原始	縄文	180
143	集落跡	秋山山原遺跡	原始・古代・近世	縄文・平安・江戸	180
144	集落跡	般若寺東遺跡			180
145	集落跡	北飯盛遺跡	原始	縄文	180
146	集落跡	南飯盛遺跡	原始古代	縄文・奈良・平安	180
147	集落跡	蛭川坊田遺跡	古代	平安	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
148	集落跡	上真下東遺跡	古代	古墳・平安	180
149	集落跡	吉田林割山遺跡	古代	平安	180
150	集落跡	秋山大町遺跡	古代	古墳	180
151	集落跡	秋山大町東遺跡	古代	古墳	180
152	集落跡	女池遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
153	集落跡	児玉大天白遺跡	原始	縄文	180
154	集落跡	手白淵遺跡	中世	南北朝・室町	180
155	集落跡	児玉清水遺跡	原始古代	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	180
156	集落跡	倉林南原遺跡	古代	古墳	180
157	集落跡	明神ノ上東遺跡	古代	奈良・平安	180
158	集落跡	細木谷北遺跡	原始古代	縄文・奈良・平安	180
159	集落跡	細木谷南遺跡	古代	平安	180
160	集落跡	飯倉甲竹ノ鼻遺跡	古代	奈良・平安	180
161	集落跡	東鹿沼遺跡	古代	平安	180
162	集落跡	丙竹ノ鼻遺跡	古代	平安	180
163	集落跡	宮内仮宿前遺跡	古代中世	奈良・平安・鎌倉	180
164	集落跡	日向遺跡	古代	奈良・平安	180
165	集落跡	堂ノ入遺跡	原始古代	縄文・奈良・平安	180
166	集落跡	堂ノ入西遺跡	古代	平安	180
167	集落跡	東小平中郷遺跡	原始古代	縄文・平安	180
168	集落跡	河内下ノ平遺跡	原始古代	縄文・平安	180

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号	頁
169	古墳群	長沖・高柳古墳群	児玉町長沖・児玉町高柳・児玉町金屋	古代	古墳	小山川にのぞむ丘陵の上に分布する古墳群、前方後円墳を含む約150基	125、144、150、178、180	2、121、26、一、-
170	古墳群	百塚（を中心とする古墳群）	児玉町秋平	古代	古墳	小円墳を数多く残しているが、その多くが耕作や盗掘のために痛められている	125	2
171	古墳群	旭小島古墳群	小島	古代	古墳	県選定重要遺跡、組合せ箱式石棺を有する八幡山古墳を中心とする古墳群	143、150、163、178、180	72、21、16、一、-
172	古墳群	大久保山古墳群	北堀	古代	古墳	県選定重要遺跡、通称大久保山上に分布する東谷古墳を中心とする古墳群	150、178	24、-
173	古墳群	生野山古墳群	児玉町児玉	古代	古墳	県選定重要遺跡、生野山から北十条にかけて分布する前方後円墳2基を含む古墳群	150、178	32、-

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
174	古墳群	西五十子古墳群・東群	古代	古墳	180
175	古墳群	塚合古墳群	古代	古墳	180
176	古墳群	東五十子古墳群	古代	古墳	180
177	古墳群	鶉森古墳群			180
178	古墳群	北原古墳群	古代	古墳	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
179	古墳群	前山古墳群	古代	古墳	180
180	古墳群	塚本山古墳群	古代	古墳	180
181	古墳群	下町古墳群	古代	古墳	180
182	古墳群	元田古墳群	古代	古墳	180

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号	頁
183	古墳	稻荷山古墳 (秋平稲荷塚)	児玉町秋平	古代	古墳	陪塚を伴う、横穴式石室	125	2
184	古墳	不二塚	共和	古代	古墳	水田中の古墳	125	口絵
185	古墳	将軍山古墳 (将軍塚)	児玉町	古代	古墳	南の山腹に半円状に陪塚とおもわれる小円墳をめぐらす	125	2
186	古墳	児玉い号生野山	児玉町	古代	古墳	点々として多くの円墳の残がいをとどめる	125	2
187	古墳	円墳	旭	古代	古墳	畑中の円墳、封土の途中に3段の階段を設けて、径20-30cmの河原石を環状に組み、上を平らに封土でおおっていた	125	4
188	古墳	塚原	金屋	古代	古墳	小円墳が僅か数mの感覚をもって密集している	125	5
189	古墳	秋山諏訪山古墳	児玉町秋山	古代	古墳	前方後円墳横穴式石室、直刀、鐔、鞘木、鉄鏃、弓金具、勾玉、埴瓶出土	144 180	120 —
190	古墳	公卿塚古墳	児玉町	古代	古墳	円墳、造り出し付、普通円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪、石製模造品	151 163 180	144 10 —
191	古墳	北堀新田前遺跡	北堀	古代	古墳・奈良・平安	前方後方形周溝墓2基、方形周溝墓1基	163 180	10 —
192	古墳	前の山古墳	小島	古代	古墳	旭・小島古墳群、二段に構築された墳丘に葺石が敷かれ、角閃石安山岩を使用した横穴式石室	163 180	16 —

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
193	古墳	東谷古墳	古代	古墳	180
194	古墳	前山2号墳	古代	古墳	180
195	古墳	元富東古墳	古代	古墳	180
196	古墳	西原古墳	古代	古墳	180
197	古墳	開拓1号墳	古代	古墳	180
198	古墳	下野堂御手長山古墳	古代	古墳	180
199	古墳	御嶽塚古墳	古代	古墳	180
200	古墳	三空山古墳	古代	古墳	180
201	古墳	本庄138号遺跡	古代	古墳	180
202	古墳	本庄139号遺跡 (旭古墳群)	古代	古墳	180
203	古墳	仲町愛宕神社古墳	古代	古墳	180
204	古墳	御堂坂1号墳	古代	古墳	180
205	古墳	御堂坂2号墳	古代	古墳	180
206	古墳	本庄165号遺跡	古代	古墳	180
207	古墳	本庄166号遺跡	古代	古墳	180
208	古墳	小島御手長古墳	古代	古墳	180
209	古墳	前山1号墳	古代	古墳	180
210	古墳	兀塚1号墳	古代	古墳	180
211	古墳	下野堂二子塚古墳	古代	古墳	180
212	古墳	銚子塚古墳	古代	古墳	180
213	古墳	飯倉古墳群第1号墳	古代	古墳	180
214	古墳	飯倉古墳群第2号墳	古代	古墳	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
215	古墳	飯倉古墳群第3号墳	古代	古墳	180
216	古墳	飯倉古墳群第4号墳	古代	古墳	180
217	古墳	飯倉古墳群第5号墳	古代	古墳	180
218	古墳	飯倉古墳群第6号墳	古代	古墳	180
219	古墳	飯倉古墳群第7号墳	古代	古墳	180
220	古墳	飯倉古墳群第8号墳	古代	古墳	180
221	古墳	飯倉古墳群第9号墳	古代	古墳	180
222	古墳	飯倉古墳群第10号墳	古代	古墳	180
223	古墳	飯倉古墳群第11号墳	古代	古墳	180
224	古墳	飯倉古墳群第12号墳	古代	古墳	180
225	古墳	飯倉古墳群第13号墳	古代	古墳	180
226	古墳	長沖古墳群第31号墳 (前方後円墳)	古代	古墳	180
227	古墳	長沖古墳群第24号墳	古代	古墳	180
228	古墳	長沖古墳群第11号墳	古代	古墳	180
229	古墳	長沖古墳群第12号墳	古代	古墳	180
230	古墳	長沖古墳群第3号墳	古代	古墳	180
231	古墳	長沖古墳群第9号墳	古代	古墳	180
232	古墳	長沖古墳群第10号墳	古代	古墳	180
233	古墳	長沖古墳群第8号墳	古代	古墳	180
234	古墳	長沖古墳群第42号墳	古代	古墳	180
235	古墳	長沖古墳群第27号墳	古代	古墳	180
236	古墳	長沖古墳群第28号墳	古代	古墳	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
237	古墳	長沖古墳群第43号墳	古代	古墳	180
238	古墳	長沖古墳群第30号墳	古代	古墳	180
239	古墳	長沖古墳群第21号墳	古代	古墳	180
240	古墳	長沖古墳群第34号墳	古代	古墳	180
241	古墳	長沖古墳群第38号墳	古代	古墳	180
242	古墳	長沖古墳群第44号墳	古代	古墳	180
243	古墳	長沖古墳群第46号墳	古代	古墳	180
244	古墳	長沖古墳群第45号墳	古代	古墳	180
245	古墳	長沖古墳群第48号墳	古代	古墳	180
246	古墳	長沖古墳群第49号墳	古代	古墳	180
247	古墳	長沖古墳群第47号墳	古代	古墳	180
248	古墳	長沖古墳群第51号墳	古代	古墳	180
249	古墳	長沖古墳群第52号墳	古代	古墳	180
250	古墳	長沖古墳群第50号墳	古代	古墳	180
251	古墳	長沖古墳群第53号墳	古代	古墳	180
252	古墳	長沖古墳群第6号墳	古代	古墳	180
253	古墳	長沖古墳群第55号墳	古代	古墳	180
254	古墳	長沖古墳群第54号墳	古代	古墳	180
255	古墳	長沖古墳群第13号墳	古代	古墳	180
256	古墳	長沖古墳群第61号墳	古代	古墳	180
257	古墳	長沖古墳群第57号墳	古代	古墳	180
258	古墳	長沖古墳群第56号墳	古代	古墳	180
259	古墳	長沖古墳群第60号墳	古代	古墳	180
260	古墳	長沖古墳群第59号墳	古代	古墳	180
261	古墳	長沖古墳群第58号墳	古代	古墳	180
262	古墳	長沖古墳群第62号墳	古代	古墳	180
263	古墳	長沖古墳群第63号墳	古代	古墳	180
264	古墳	長沖古墳群第64号墳	古代	古墳	180
265	古墳	長沖古墳群第65号墳	古代	古墳	180
266	古墳	長沖古墳群第66号墳	古代	古墳	180
267	古墳	長沖古墳群第67号墳	古代	古墳	180
268	古墳	長沖古墳群第68号墳	古代	古墳	180
269	古墳	長沖古墳群第69号墳	古代	古墳	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
270	古墳	長沖古墳群第70号墳	古代	古墳	180
271	古墳	長沖古墳群第71号墳	古代	古墳	180
272	古墳	長沖古墳群第72号墳	古代	古墳	180
273	古墳	長沖古墳群第73号墳	古代	古墳	180
274	古墳	長沖古墳群第76号墳	古代	古墳	180
275	古墳	長沖古墳群第75号墳	古代	古墳	180
276	古墳	長沖古墳群第79号墳(前方後円墳「十兵衛塚古墳」)	古代	古墳	180
277	古墳	長沖古墳群第78号墳	古代	古墳	180
278	古墳	長沖古墳群第82号墳	古代	古墳	180
279	古墳	長沖古墳群第83号墳	古代	古墳	180
280	古墳	長沖古墳群第84号墳	古代	古墳	180
281	古墳	長沖古墳群第81号墳	古代	古墳	180
282	古墳	長沖古墳群第80号墳	古代	古墳	180
283	古墳	長沖古墳群第85号墳	古代	古墳	180
284	古墳	長沖古墳群第88号墳	古代	古墳	180
285	古墳	長沖古墳群第89号墳	古代	古墳	180
286	古墳	長沖古墳群第90号墳	古代	古墳	180
287	古墳	長沖古墳群第91号墳	古代	古墳	180
288	古墳	長沖古墳群第74号墳	古代	古墳	180
289	古墳	長沖古墳群第92号墳	古代	古墳	180
290	古墳	長沖古墳群第93号墳	古代	古墳	180
291	古墳	長沖古墳群第94号墳	古代	古墳	180
292	古墳	長沖古墳群第95号墳	古代	古墳	180
293	古墳	長沖古墳群第96号墳	古代	古墳	180
294	古墳	長沖古墳群第97号墳	古代	古墳	180
295	古墳	長沖古墳群第98号墳	古代	古墳	180
296	古墳	長沖古墳群第99号墳	古代	古墳	180
297	古墳	長沖古墳群第100号墳	古代	古墳	180
298	古墳	長沖古墳群第101号墳	古代	古墳	180
299	古墳	長沖古墳群第102号墳	古代	古墳	180
300	古墳	長沖古墳群第103号墳	古代	古墳	180
301	古墳	長沖古墳群第104号墳	古代	古墳	180
302	古墳	長沖古墳群第106号墳	古代	古墳	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
303	古墳	長沖古墳群第110号墳	古代	古墳	180
304	古墳	長沖古墳群第108号墳	古代	古墳	180
305	古墳	長沖古墳群第109号墳	古代	古墳	180
306	古墳	長沖古墳群第111号墳	古代	古墳	180
307	古墳	長沖古墳群第139号墳	古代	古墳	180
308	古墳	長沖古墳群第140号墳	古代	古墳	180
309	古墳	長沖古墳群第113号墳	古代	古墳	180
310	古墳	長沖古墳群第137号墳(前方後円墳)	古代	古墳	180
311	古墳	長沖古墳群第138号墳	古代	古墳	180
312	古墳	長沖古墳群第141号墳	古代	古墳	180
313	古墳	長沖古墳群第142号墳	古代	古墳	180
314	古墳	長沖古墳群第136号墳	古代	古墳	180
315	古墳	長沖古墳群第135号墳	古代	古墳	180
316	古墳	長沖古墳群第112号墳	古代	古墳	180
317	古墳	長沖古墳群第114号墳	古代	古墳	180
318	古墳	長沖古墳群第116号墳	古代	古墳	180
319	古墳	長沖古墳群第115号墳	古代	古墳	180
320	古墳	長沖古墳群第120号墳	古代	古墳	180
321	古墳	長沖古墳群第117号墳	古代	古墳	180
322	古墳	長沖古墳群第118号墳	古代	古墳	180
323	古墳	長沖古墳群第119号墳	古代	古墳	180
324	古墳	長沖古墳群第121号墳	古代	古墳	180
325	古墳	長沖古墳群第122号墳	古代	古墳	180
326	古墳	長沖古墳群第124号墳	古代	古墳	180
327	古墳	長沖古墳群第123号墳	古代	古墳	180
328	古墳	長沖古墳群第125号墳	古代	古墳	180
329	古墳	長沖古墳群第132号墳	古代	古墳	180
330	古墳	長沖古墳群第130号墳	古代	古墳	180
331	古墳	長沖古墳群第128号墳	古代	古墳	180
332	古墳	長沖古墳群第127号墳	古代	古墳	180
333	古墳	長沖古墳群第126号墳	古代	古墳	180
334	古墳	長沖古墳群第129号墳	古代	古墳	180
335	古墳	長沖古墳群第131号墳	古代	古墳	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
336	古墳	長沖古墳群第134号墳	古代	古墳	180
337	古墳	長沖古墳群第133号墳	古代	古墳	180
338	古墳	長沖古墳群第143号墳	古代	古墳	180
339	古墳	長沖古墳群第144号墳	古代	古墳	180
340	古墳	長沖古墳群第145号墳	古代	古墳	180
341	古墳	長沖古墳群第146号墳	古代	古墳	180
342	古墳	長沖古墳群第148号墳	古代	古墳	180
343	古墳	長沖古墳群第147号墳	古代	古墳	180
344	古墳	長沖古墳群第149号墳	古代	古墳	180
345	古墳	長沖古墳群第150号墳	古代	古墳	180
346	古墳	長沖古墳群第155号墳	古代	古墳	180
347	古墳	長沖古墳群第151号墳	古代	古墳	180
348	古墳	長沖古墳群第153号墳	古代	古墳	180
349	古墳	長沖古墳群第154号墳	古代	古墳	180
350	古墳	長沖古墳群第156号墳	古代	古墳	180
351	古墳	長沖古墳群第25号墳(前方後円墳)	古代	古墳	180
352	古墳	日向山古墳	古代	古墳	180
353	集落跡古墳	御堂坂古墳群	古代	古墳・奈良・平安	180
354	集落跡古墳	東五十子田端屋敷遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
355	集落跡古墳墓その他	西五十子古墳群	古代近世	古墳・奈良・平安・江戸	180
356	集落跡古墳群	本庄112号遺跡	原始古代	縄文・古墳	180
357	集落跡古墳群	生野山古墳群・生野山遺跡	古代	古墳	180
358	集落跡古墳群散佈地	脊戸谷遺跡	原始古代	縄文・古墳・奈良・平安	180
359	集落跡古墳群城跡	本庄中北原遺跡	古代	古墳・奈良・平安	180
360	集落跡寺院跡	寺山廃寺	原始古代	縄文・平安	180
361	集落跡寺院跡	金佐奈遺跡	古代中世	古墳・奈良・平安・室町	180
362	集落跡寺院跡	東小平中山遺跡	古代	奈良・平安	180
363	集落跡寺院跡その他	真鏡寺後遺跡	原始~中世	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉・南北朝・室町	180
364	集落跡城跡	東五十子城跡遺跡	古代中世	古墳・奈良・平安・室町	180
365	集落跡城跡	東五十子城跡遺跡	古代中世	古墳・奈良・平安・室町	180
366	集落跡城跡	城山遺跡	古代中世	古墳・奈良・平安・戦国	180
367	集落跡城跡	本田館跡	古代中世	古墳・奈良・平安・鎌倉	180
368	集落跡城跡	内手遺跡	原始~中世	縄文・奈良・平安・鎌倉・南北朝・室町	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
369	集落跡 城跡	真鏡寺館跡	原始~ 中世	弥生・奈良・平安・ 鎌倉・南北朝	180
370	集落跡 その他	今井諏訪遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
371	集落跡 その他	九反田遺跡	古代	古墳	180
372	集落跡 その他	西富田前田遺跡	古代	古墳	180
373	集落跡 その他	鷺山南遺跡	原始~ 中世	縄文・古墳・奈良・平安・ 鎌倉・南北朝・室町	180
374	集落跡 その他	左口遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
375	集落跡 その他	共和小学校校庭 遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
376	集落跡 その他	秋山塚原遺跡	原始 古代	縄文・弥生・古 墳・奈良・平安	180
377	集落跡 その他	六反畑遺跡	原始~ 中世	縄文・奈良・平安・ 鎌倉・南北朝・室町	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
378	集落跡 その他	金屋北原遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
379	集落跡 その他	金屋池脇遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
380	集落跡 その他	枇杷橋遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
381	集落跡 その他	下別所遺跡	古代	古墳・奈良・平 安	180
382	集落跡 その他	塩谷下大塚遺跡	原始 古代	縄文・弥生・古 墳・奈良・平安	180
383	集落跡 墓	飯玉東遺跡	原始 古代	弥生・古墳	180
384	集落跡 墓 城跡	観音山遺跡	原始~ 中世	縄文・奈良・平安・ 鎌倉・南北朝・室町	180
385	古墳 その他	久城前遺跡	古代	古墳	180
386	古墳群 その他	下野堂遺跡	古代	古墳	180

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号	頁
387	鍛冶 遺構	中堀	本庄市	中世	平安時代後期	鞆羽口、刀子、鎌、鉄鍬、埼玉県遺跡発 掘調査報告書 15 中堀・耕安地・久城前	67	10
388	鍛冶 遺構	大久保山	本庄市	中世	11世紀後半	鞆片、鉄滓、文化財調査報告 1 大久保 山 I 早稲田大学本庄校地	67	10
389	鍛冶 遺構	藍塚	本庄市			鉄塊、紡錘車、鎌、釘、手斧	67	10
390	鍛冶 遺構	藍塚	児玉町			鉄塊、紡錘車、鎌、釘、手斧	67	10
391	鍛冶 遺構	深町	児玉町			羽口片	67	10

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
392	窯跡	赤坂埴輪窯跡	古代	古墳	180
393	窯跡	山崎窯跡	古代	奈良・平安	180

番号	分類	名称	時代	年代	文献番号
394	窯跡	児玉窯跡群 金 草支群	古代	奈良・平安	180
395	祭祀	平沢祭祀遺跡	中世 近世	戦国・江戸	180

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号	頁
396	城館跡	五十子城跡	東五十子	中世	室町	城跡、土塁、竪穴遺構等、板碑、宝篋印塔、関 東管領山内上杉氏が古河公方足利成氏に備える	126、143、 146、153	115、71、 5、27
397	城館跡	栗崎館	栗崎	中世		館跡、水堀一部残存、宝篋印塔 2 基	126、146、 153、180	116、5、 27、-
398	城館跡	小島氏館	小島本伝	中世	平安・鎌倉	館跡、空堀一部残存、土塁、長松寺	126、146、 153、180	116、5、 27、-
399	城館跡	陣屋	滝瀬	中世		館跡、瀧瀬陣屋	126 153 180	117 27 -
400	城館跡	滝瀬氏館	滝瀬	中世	鎌倉	館跡	126、146、 153、180	118、5、 27、-
401	城館跡	富田氏館	西富田	中世	平安・鎌倉	館跡、空堀一部残存、土塁	126 146 153	118 5 27
402	城館跡	(北堀) 堀の内	北堀	中世		館跡、水堀、土塁	126 146 153	119 5 27
403	城館跡	(牧西) 堀の内	牧西	中世	平安末	館跡、牧西城、水堀一部残存、寅稻荷・ 大明神、牧西氏居館地か	126、146、 153、180	119、5、 27、-
404	城館跡	堀の内	四方田	中世	鎌倉	空堀・水堀一部残存、四方田氏居館地か	126、146、 153、180	120、5、 27、-
405	城館跡	久城田	今井	中世	平安・鎌倉	館跡、空堀一部残存、水堀、児玉党今居 氏の居館地か	126 153	120 27
406	城館跡	篠城	児玉町塩谷	中世	鎌倉	城跡、上下諏訪神社、城主伝塩谷氏	126、142、 146、153	122、76、 5、27
407	城館跡	城の内	児玉町入浅見	中世	鎌倉	館跡、阿佐見氏館、水堀一部残存	126 146 153	122 5 27
408	城館跡	関根氏館跡	児玉町下浅見	中世	鎌倉・南北朝・ 室町	館跡、土塁、堀(空・水堀)の一部残存	126、142、 146、153、 180	123、75、 5、27、 -
409	城館跡	武井館	児玉町下浅見	中世	鎌倉・南北朝・ 室町・戦国	館跡、堀(空・水堀)の一部残存	126、142、 146、153、 180	123、75、 5、27、 -

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文獻番号	頁
410	城館跡	真下氏館	児玉町真下	中世	平安・鎌倉	館跡、館主伝真下五郎大夫基行	126 142 180	124 76 -
411	城館跡	塩谷氏居館地	児玉町塩谷	中世	平安・鎌倉	武蔵七党児玉氏一派、比定地、館跡	126、146、 153、184	220、5、 27、18
412	城館跡	庄小太郎頼家館	北堀	中世	平安末	比定地、館跡、稲荷神社	126 146 153	220 5 27
413	城館跡	万年寺館	小島	中世	鎌倉	比定地、館跡	126 146 153	220 5 27
414	城館跡	河内氏居館地	児玉町河内	中世	平安・鎌倉	比定地、館跡	126 146 153	220 5 27
415	城館跡	蛭川氏居館地	児玉町蛭川	中世	平安・鎌倉	比定地、館跡、堀	126、146、 153、180	220、5、 27、-
416	城館跡	若水氏居館地	児玉町若水	中世	平安か	比定地、館跡	126 146 153	220 5 27
417	城館跡	阿佐美氏館跡	児玉町入浅見	中世		館跡、水堀の一部残、館主伝阿佐美右衛門尉実高	142 153	75 27
418	城館跡	五十子陣跡	東五十子・西五十子 ほか	中世	室町	城跡、御陣場等の地名、15世紀の中頃から関東官領上杉房顕が古河公方との対戦で陣を構えた	142 180	77 -
419	城館跡	牧西氏館跡	牧西	中世		児玉党庄権守広高の子弘季の居城	143	71
420	城館跡	毛無シ前館遺跡	児玉町吉田林			修正館跡の堀、毛無シ屋敷があったといわれる、上部破損	144	125
421	城館跡	瀧瀬館	本庄市	中世			146	5
422	城館跡	久保田館	本庄市	中世			146	5
423	城館跡	四方田館	本庄市	中世	鎌倉	館跡	146	5
424	城館跡	塚原館	児玉町	中世	鎌倉・南北朝・室町		146 180	5 -
425	城館跡	真下氏館	児玉町	中世	平安末	館跡、観音堂	146 153	5 27
426	城館跡	秋山館	児玉町	中世			146	5
427	城館跡	東五十子城跡	東五十子	中世	室町	城跡、堀	153	27
428	城館跡	大久保遺跡	栗崎	中世		堀、建物跡	153	27
429	城館跡	北廓遺跡	今井北廓	中世			153	27
430	城館跡	新蔵人館	児玉町秋山	中世	南北朝	館跡	153	27
431	城館跡	福島氏館	児玉町下浅見	中世	戦国末	館跡、御蔵屋敷	153	27
432	城館跡	古井戸遺跡	児玉町共栄・児玉町下真下	中世	室町	館跡、堀・井戸、板碑	153	27
433	城館跡	西富田本郷遺跡		古代 中世	平安・鎌倉		180	-
434	城館跡	塩原屋敷遺跡		中世 近世	戦国・江戸		180	-
435	城館跡	壺丁田遺跡					180	-
436	戦跡	五十子古戦場	東五十子・西五十子	中世	室町	御陣場、寺院跡、城跡、古河公方・足利成氏と山内上杉氏の最前線、「長尾景春の乱」の激戦地	122	15

番号	分類	名称	時代	年代	文獻番号
437	条里遺跡	今井条里遺跡	古代	奈良・平安	180
438	条里遺跡	西富田・四方田条里	古代	奈良・平安	180
439	条里遺跡	金屋条里	古代	奈良・平安	180

番号	分類	名称	時代	年代	文獻番号
440	条里遺跡	児玉条里遺跡	古代	奈良・平安	180
441	条里遺跡	児玉(蛭川)条里遺跡	古代 中世	古墳・奈良・平安・鎌倉・南北朝・室町	180
442	条里遺跡	児玉条里遺跡	原始 古代	縄文・奈良・平安	180

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文獻番号	頁
443	寺院	円心寺	本庄	中世	戦国	浄土宗、山門は市指定有形文化財	143 159 196	72 72 -

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文籍番号	頁
444	寺院	開善寺	中央	中世	戦国	臨濟宗、本庄城主小笠原氏の菩提寺	143 159 196	72 72 -
445	寺院	安養院	中央	中世	文明7 (1475)年	曹洞宗、文明7 (1475)年児玉党の本庄信明により創立、総門・山門・本堂は市指定有形文化財	143 159 196	72 72 -
446	寺院	法養寺	児玉町児玉	中世	建保3 (1215)年	児玉三十三霊場3番札所、建保元 (1213)年重慶の開山、下八幡神社別当寺	144 159 179	88 74 -
447	寺院	天龍寺	児玉町金屋	中世	戦国	児玉三十三霊場7番札所、銅鐘は県指定有形文化財	144 159 179	121 74 -
448	寺院	玉蓮寺	児玉町児玉	中世	弘安9 (1286)年	弘安9 (1286)年創建、児玉の豪族・児玉六郎時国開基、児玉氏の館跡ともいわれる	144 159	89 74
449	寺院	真福寺	児玉町金屋	中世	戦国	文禄年間 (1592-1596)以前古刹であったと伝える	144 159	122 74
450	寺院	浄眼寺	児玉町八幡山	中世	延徳年間 (1489-1492)	児玉三十三霊場6番札所、延徳年間 (1489-1492)、雉岡城主・夏目豊後守定基再興と伝わる	144 159 179	123 74 -
451	寺院	實相寺	児玉町児玉	中世	室町	児玉三十三霊場5番札所、塙保己一先生菩提寺、阿弥陀三尊像は県指定有形文化財	144 159 179	90 74 -
452	寺院	西養寺	児玉町吉田林	中世	室町	15世紀初頭以前創建、雉岡城の鬼門除に建立の口碑がある	144 159	124 74
453	寺院	長福寺	児玉町八幡山	近世	江戸	慶長年間 (1596-1615)創建、古くは千日堂、近世の絵図に無量寺と書く	144 159	93 74
454	寺院	龍清寺	児玉町保木野	近世		児玉三十三霊場27番札所、文政8 (1825)年焼失、文政10 (1827)年再建	144 179	125 -
455	寺院	玉蔵寺	児玉町児玉	中世	宝徳2 (1450)年	児玉三十三霊場4番札所、宝徳2 (1450)年開山、あじさい寺として知られる	144 159 179	90 74 -
456	寺院	普明寺	児玉町小平	中世	室町	児玉三十三霊場2番札所、南東山中の岩谷堂の遺品を伝える	159 179	75 -
457	寺院	淵龍寺別院長谷観音堂	児玉町金屋			児玉三十三霊場8番札所、奈良・長谷寺の十一面観音の分身を祀る	179	-
458	寺院	円通寺	児玉町金屋	中世	室町	児玉三十三霊場9番札所、自由民権論により結集した秩父困民党終息の地	159 179	74 -
459	寺院	戸田山直正寺	児玉町秋山			児玉三十三霊場10番札所、臨濟宗円覚寺派の禅寺	179	-
460	寺院	聖徳山本覚院	児玉町秋山			児玉三十三霊場11番札所、関東十霊場、十二天社まで上ると絶景	179	-
461	寺院	宥勝寺	栗崎	中世	建仁2 (1202)年	児玉三十三霊場19番札所、児玉党・荘小太郎頼家の菩提を弔うために開山	159 179	72 -
462	寺院	正観寺	都島	近世	江戸	児玉三十三霊場20番札所、算額が市指定有形文化財	159 179	71 -
463	寺院	光福寺	児玉町宮内	中世	戦国	曹洞宗、児玉三十三霊場29番札所、天正10 (1582)年鉢形城主・北条氏邦公により開創	159 179	73 -
464	寺院	宝玉山淵龍寺	児玉町金屋	中世	戦国	児玉三十三霊場30番札所、天文7 (1538)年記銘の護摩壇 (現存しない)	159 179	73 -
465	寺院	長泉寺	児玉町高柳	中世	室町	児玉三十三霊場31番札所、文明4 (1472)年創建、骨波田のフジが県指定天然記念物	159 179	73 -
466	寺院	光福寺	児玉町太駄	中世	長禄3 (1459)年	児玉三十三霊場32番札所、長禄3 (1459)年創建	159 179	75 -
467	寺院	泉林寺	銀座	近世	江戸	曹洞宗、武州本庄七福神めぐりの一つ、「長寿の神寿老人」を祀る	159 196	72 -
468	寺院	慈恩寺 (銭洗い弁財天)	中央	中世	戦国	真言宗、弘治2 (1556)年創建、寛文7 (1667)年に栗崎から移転	159 196	72 -
469	寺院	城立寺 (大黒尊天)	銀座			鉢形城から移転された五輪塔や宝篋印塔が建立	196	-
470	寺院	佛母寺 (銭洗い弁財天)	千代田			真言宗、元は金鎖神社境内の北側にあったが廃寺となり、現在地に再興	159 196	72 -
471	寺院跡	般若寺跡	児玉町秋山	中世	鎌倉		122 159 180	85 75 -
472	寺院跡	寺山廃寺	児玉町河内	古代	平安	寺山廃寺の風鐸 (市指定有形文化財)、瓦塔、須恵器、土師器	139 159	118 74
473	寺院跡	大久保山寺院跡	栗崎	中世	鎌倉・室町	県選定重要遺跡、旧西光寺跡か、瓦、瀬戸蔵骨器出土	150 178 180	25 -
474	寺院跡	日輪寺	杉山	中世	鎌倉	元応年間 (1319-1321)空心庵を建てる	159	71
475	寺院跡	宝輪寺	沼和田	中世	戦国		159	72
476	寺院跡	長松寺	小島	中世	戦国	小島氏館跡	159	72

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文獻番号	頁
477	寺院跡	神宮寺跡	本庄3丁目	中世	戦国	弘治2(1556)年の住職頼伝、現在地に移る	159	72
478	寺院跡	円満寺	傍示堂	中世	戦国	永禄年間(1558-1570)創建	159	72
479	寺院跡	宗真院	仁手	中世	戦国	文禄4(1595)年創建	159	72
480	寺院跡	正覚寺跡	小和瀬	中世	鎌倉	宝治元(1247)年創建、宝篋印塔、五輪塔、板碑	159	72
481	寺院跡	長光寺	小和瀬	中世	鎌倉	伝宝治元(1247)年創建	159	72
482	寺院跡	宝(法)蔵寺跡	小和瀬	中世	戦国	天正19(1591)年武州榛沢郡之内牧西村御繩打帳、板碑1	159	72
483	寺院跡	利益寺	鶴森	古代	奈良	伝天平3(731)年創建	159	72
484	寺院跡	諏訪遺跡	今井	中世		溝、土瀆・陶器、古銭他、一部発掘調査	159	72
485	寺院跡	社具路遺跡	西富田	中世		墓・陶器、瓦、釘、露盤他、一部発掘調査	159	72
486	寺院跡	安入庵跡	東富田	中世	室町	文明7(1475)年創建	159	72
487	寺院跡	光明寺	四方田	中世	戦国	堀・五輪塔部分3	159	72
488	寺院跡	浅見山遺跡AⅠ地区	東富田	中世		瓦窯1、建物跡17、溝19、井戸2、瓦塔、瓦、陶磁器、発掘調査	159	72
489	寺院跡	大久保山遺跡ⅢC地区	栗崎	中世		建物跡、平場・陶磁器他、発掘調査	159	72
490	寺院跡	大久保山遺跡ⅢA地区	栗崎	中世		平場・瓦塔2、板碑、鏡、銅碗、古銭他、発掘調査	159	72
491	寺院跡	西光寺跡	栗崎	中世	南北朝	平場・蔵骨器、瓦、板碑、宝篋印塔、五輪塔、延元2(1337)年戦火に罹災、一部発掘	159	72
492	寺院跡	不動寺	西五十子	近世	江戸	慶長年間(1596-1615)創建	159	73
493	寺院跡	増国寺	東五十子	古代	平安	天慶2(939)年創建、板碑1	159	73
494	寺院跡	天神坊跡	牧西	中世	戦国	天正19(1591)年武州榛沢郡之内牧西村御繩打帳	159	73
495	寺院跡	養命寺跡	牧西	中世	戦国	天正19(1591)年武州榛沢郡之内牧西村御繩打帳	159	73
496	寺院跡	大泉寺跡	牧西	中世	戦国	天正19(1591)年武州榛沢郡之内牧西村御繩打帳	159	73
497	寺院跡	長命寺跡	牧西	中世	戦国	天正19(1591)年武州榛沢郡之内牧西村御繩打帳	159	73
498	寺院跡	法泉寺跡	牧西	中世	戦国	天正19(1591)年武州榛沢郡之内牧西村御繩打帳	159	73
499	寺院跡	大楽寺跡	牧西	中世	戦国	天正19(1591)年武州榛沢郡之内牧西村御繩打帳	159	73
500	寺院跡	観音寺跡	牧西	中世	戦国	天正19(1591)年武州榛沢郡之内牧西村御繩打帳	159	73
501	寺院跡	治源寺跡	牧西	中世	戦国	天正19(1591)年武州榛沢郡之内牧西村御繩打帳	159	73
502	寺院跡	福正寺跡	牧西	中世	戦国	天正19(1591)年武州榛沢郡之内牧西村御繩打帳	159	73
503	寺院跡	大円坊跡	都島	近世	江戸	慶長17(1612)年上州那波郡都嶋御繩打帳(写)	159	73
504	寺院跡	蓮乘院跡	都島	近世	江戸	慶長17(1612)年上州那波郡都嶋御繩打帳(写)	159	73
505	寺院跡	法性寺跡	宮戸	中世	戦国	天正19(1591)年武州榛沢郡宮戸村御繩打帳	159	73
506	寺院跡	観乘坊跡	宮戸	中世	戦国	天正19(1591)年武州榛沢郡宮戸村御繩打帳	159	73
507	寺院跡	四門堂跡		中世	戦国	武田信玄の頃	159	73
508	寺院跡	真鏡寺	児玉町塩谷	中世		土居、土瀆、建物跡・板碑4、陶器、中世瓦、13世紀始め創建	159	73
509	寺院跡	観音寺	児玉町高柳	古代	平安	伝大同2(807)年創建	159	73

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文獻番号	頁
510	寺院跡	龍泉寺跡	児玉町下真下	中世	鎌倉	陶器、板碑、将監塚、古井戸遺跡内	159	73
511	寺院跡	馬頭観音堂跡	児玉町下真下	中世	鎌倉	12世紀末創建、板碑9	159	73
512	寺院跡	正楽寺	児玉町下真下	中世	鎌倉	慶長5(1600)年再興、板碑4	159	74
513	寺院跡	龍淵寺	児玉町蛭川	中世	鎌倉	板碑2	159	74
514	寺院跡	真福寺	児玉町下浅見	近世	江戸	板碑2・五輪塔、陶器	159	74
515	寺院跡	八幡廃堂	児玉町下浅見	中世		中世瓦	159	74
516	寺院跡	雉岡城廃寺群遺跡	児玉町八幡山	中世	鎌倉	14世紀以前創建、雉岡城築城で廃寺か、五輪塔多数	159	74
517	寺院跡	龍台院	児玉町児玉	近世	江戸	慶長年間(1596-1615)創建	159	74
518	寺院跡	東福院	児玉町児玉	中世	室町	延徳3(1491)年創建	159	74
519	寺院跡	恵日寺	児玉町長沖	中世	室町	板碑4、五輪塔部分	159	74
520	寺院跡	普賢寺	児玉町秋山2	中世	戦国		159	74
521	寺院跡	日輪寺	児玉町秋山	中世	鎌倉	宝篋印塔、五輪塔、板碑1、行田長久寺蔵明応7(1498)年大般若經奥書	159	74
522	寺院跡	成身院	児玉町小平	中世	室町	五輪塔群(16以上)	159	74
523	寺院跡	光(興)西寺	児玉町小平	中世	戦国	現春定寺、北条氏邦制札	159	74
524	寺院跡	大善院跡	児玉町八幡山	中世	室町	八幡社別当、延徳3(1491)年八幡宮社領之事	159	74
525	寺院跡	常福寺跡	児玉町河内	中世	鎌倉		159	74
526	寺院跡	正覚寺	児玉町太駄	中世	戦国	大永元(1521)年創建、板碑3	159	75
527	寺院跡	徳蔵寺(院)	児玉町太駄	中世	戦国	永正元(1504)年創建、慶長3(1598)年武州秩父郡太駄之郷御坪入御帳	159	75
528	寺院跡	興龍寺跡	児玉町飯倉	中世	戦国	天正13(1585)年移転、天龍寺の伝承	159	75
529	寺院跡	阿弥陀堂跡	児玉町飯倉	中世	戦国	大津叡山文庫蔵永徳3(1383)年止観伊賀抄奥書	159	75
530	寺院跡	正乗坊跡	児玉町河内	中世	戦国	元龜3(1572)年北条氏邦寄進状	159	75
531	寺院跡	福泉坊(院)跡	児玉町保木野	中世	戦国	天文23(1554)年聖護院門跡御教書、再興の文書	159	75
532	寺院跡	宝光院跡	児玉町(秋山)	中世	戦国	行田長久寺蔵永正12(1515)年銘十二天屏風裏書	159	75
533	寺院跡	薬師堂跡	児玉町(生野)	中世	戦国	天正11(1583)年吉晴社領寄進状	159	75
534	神社	天王様(八坂神社)	傍示堂			三国街道分岐点、土台石に「前橋、沼田道」	143	71
535	神社	金鑽神社	千代田			社殿は県指定有形文化財、幣殿には武正南廬、小倉紅於ら奉納の天井絵	143 196	72 -
536	神社	八幡神社	児玉町児玉	中世	永承6(1051)年	八幡太郎義家が永承6(1051)年奥州征伐の際、金鑽神社参詣帰途、石清水八幡宮を勧請し社殿建立	144	89
537	神社	水神社(日枝神社境内)	山王堂			利根川、日枝神社の境内社	154	77
538	神社	九頭龍社	都島			利根川、角折神社の境内社	154	77
539	神社	琴平神社	新井			利根川、都島連合地誌、創建年月不詳	154	77
540	神社	(大杉神社)	仁手			利根川	154	77
541	神社	大杉神社(日枝神社境内)	山王堂			水運の安全にかかわる水神、山王堂鎮守日枝神社境内、勧請年月共不詳	154	68
542	神社	普寛霊場(大黒尊天)	千代田			御嶽山開闢の開祖・普寛上人の墓がある	196	-

番号	分類	名称	所在地	時代	年代	概要	文献番号	頁
543	交通 (街道)	鎌倉街道上道	児玉町			鎌倉から武蔵国府を通り、上野・信濃・越後方面に至る、別名：上野信濃越後本道	140 141	9 2
544	交通 (水運)	一本木河岸跡	小和瀬	近世	寛永年間(1624-1644)	利根川、「新編武蔵風土記稿」に「寛永年中始マレリ」、船数7	154	28
545	交通 (水運)	仁手河岸跡	下仁手	近世		利根川、「武蔵国郡村誌」に荷船4	154	37
546	交通 (水運)	山王堂河岸跡	山王堂	近世		利根川、「新編武蔵風土記稿」に享保15(1730)年、安永5(1776)年：船数2、江戸廻船12、小舟12	154	37
547	交通 (水運)	三友河岸跡	新井	近世		安永5(1776)年：船数2、「武蔵国郡村誌」に荷船22	154	37
548	交通 (渡河)	仁手の渡し				利根川、渡船数1、私設、「武蔵国郡村誌」、陸参迅速図、「作場渡」	154	61
549	交通 (渡河)	利根川渡し・山王堂の渡し	山王堂一伊勢崎市	近世	江戸～昭和6(1931)年	利根川、渡船数2、私設、「武蔵国郡村誌」、伊勢崎道(船橋)、坂東大橋完成により船橋廃止	154	49
550	交通 (渡河)	三友の渡し	本庄市一伊勢崎市			陸参迅速図	154	61
551	旧宅	児玉郡本庄町御小休所	本町	近代	明治11(1878)年	田村佐惣治方、本陣跡、明治天皇御昼食所、伝寛永19(1642)年建築、明治25(1892)年所有者移動	119	3
552	郷倉跡	秋山郷倉址	児玉町秋山	近世 近代		県史跡、社日碑、～明治時代中期	184	19
553	その他	西五十子台遺跡		中世	室町		180	—
554	その他	藤塚		中世	鎌倉・南北朝・室町	発掘調査が実施され記録保存後消滅	180	—
555	その他	秋山堂平遺跡		古代	奈良・平安		180	—
556	その他	ハグレヤツ遺跡		古代	奈良・平安		180	—
557	その他	明神ノ上西遺跡		中世 近世	戦国・江戸		180	—
558	地名	鍛冶町	児玉町八幡山			武蔵国郡村誌	67	33
559	地名	金鑽社	児玉町八幡山			武蔵国郡村誌	67	33
560	地名	鍛冶小路	児玉町八幡山			新編武蔵風土記稿	67	33
561	地名	金屋村	児玉町金屋			新編武蔵風土記稿	67	34
562	地名	倉林	児玉町金屋			新編武蔵風土記稿	67	34
563	地名	金鑽・金鑽神社・金鑽社	西富田			新編武蔵風土記稿・武蔵国郡村誌	67	34
564		岡登景能墳墓	児玉町高柳	近世			120	98
565		内田本陣跡	銀座			通称南本陣、屋敷神(玉章稲荷)や井戸は現存	143	72
566		第2次本庄町役場		近代		※現存せず	169	192
567		南ノ前遺跡		古代	奈良・平安		180	—

【記念物】(名勝地)

番号	分類	名称	所在地	概要	文献番号	頁
1	公園	若泉公園(子育て公園)	若泉2丁目	元小山川原泉、大木の枝葉が公園から道路上空に突き出ている、公園の中に入ると涼しい風が園内を吹き抜ける	193	—
2	湧水	小平のごっくん水	小平	水がおいしいので「ごっくん、ごっくん」と飲んでしまうことに由来	164	22
3	湧水	石清水	小平	児玉方面から榎峠に向かい、ごっくん水の手前を左折して、未舗装の林道を突き当たった所にある名水、石清水といった風情	164	23

【記念物】（動物・植物・地質鉱物） ※動物における「所在地」欄は生息が確認された場所を示します。

番号	分類	名称	所在地	概要	文献番号	頁
1	動物	コアジサシ	板東大橋付近	チドリ目カモメ科 絶滅危惧種・危急種・留保分類群	161	4
2	動物	ムサシトミヨ	元小山川	トゲウオ目トゲウオ科 絶滅種・絶滅危惧種、和名のムサシは「武蔵」の意味、現在は熊谷市佐谷田の元荒川で確認されているのみ	161	8
3	動物	ホトケドジョウ		コイ目ドジョウ科 絶滅種・絶滅危惧種・応急種、低標高で湧水や伏流水が1年中流れ、河の底質が砂礫でサワガニが生息できるような細流を好んで生息	161	9
4	動物	カラスシジミ		チョウ目シジミチョウ科 絶滅危惧種、成虫は翅が黒色をおびる、幼虫は丘陵から山地の沢筋・川沿いに生育するハルニレを食べる	161	10
5	動物	ツボツスガリ		ハチ目アナバチ科 絶滅危惧種、昭和63(1988)年に児玉町で採集記録あり、「先行狩獵」という習性がある	161	17
6	動物	コガタシマトビケラ		トビケラ目シマトビケラ科 絶滅危惧種、県内河川の上流域から下流域まで広く分布、成虫は水面上を飛行するため、その空間と止まり木が近くに必要	161	19
7	動物	コガネグモ		クモ目コガネグモ科 応急種、河川敷のヨシ原や低山麓の谷津田周辺の草地を好んで生息	161	22
8	植物	金鑽神社のモミ	千代田	寛永16(1639)年関宿城主小笠原忠貴植樹、市指定天然記念物	143	72
9	植物	榦の木	児玉町保木野	樹齢約200年、高さ約25m、目通り約3.3m	144	125
10	地質 鉱物	間瀬峠付近地の点 紋片岩	児玉町河内	片理が発達しているため剥離性があり加工も容易なので、古くから古墳の石棺や板石塔婆・建築石材等に大量に使われてきた	162	3

【文化的景観】

番号	分類	名称	所在地	概要	文献番号	頁
1	文化的 景観	高窓の里	児玉町小平	江戸時代から明治時代にかけて盛んであった養蚕業の拡大の中で生まれた高窓と呼ばれる換気用の構造物を屋根の上に乘せた養蚕民家が多数存在	183 193 195	資料3 —
2	文化的 景観	都島集落	都島	水は蘇生し、道は公園と化す	190	—

【伝統的建造物群】

番号	分類	名称	所在地	概要	文献番号	頁
1	伝建	本庄宿		埼玉県歴史的遺産保存活用地区調査表一覧、旧本庄警察署、旭・小島古墳群、金鑽神社のクスノキなど	10 185	317 —

【その他】

番号	分類	名称	所在地	概要	文献番号	頁
1	その他	大久保山の周辺			185	—
2	その他	児玉の里			185	—

巻末資料3 既往調査一覧

※「番号」欄に網掛けを行った調査資料は、本庄市に所在する文化財の掲載が確認できなかったものを示します。

類型	番号	書籍名	編著者	発行	発行年月
有形文化財 (建造物)	1	埼玉県の民家：埼玉県民家緊急調査報告書	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1972.3
	2	埼玉県明治建造物緊急調査報告書：埼玉県明治建造物リスト	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1979.3
	3	埼玉の文化財 建造物・絵画編（埼玉の文化財シリーズ1）	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1981.3
	4	日本近代建築総覧：各地に遺る明治大正昭和の建物 新版	日本建築学会	技報堂出版	1983.11
	5	埼玉の近世社寺建築：埼玉県近世社寺建築緊急調査報告書（埼玉県有形文化財調査報告1）	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1984.3
	6	埼玉県大正建造物緊急調査（埼玉県有形文化財調査報告2）	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1985.3
	7	写真集 埼玉の木造校舎	中島清治	株式会社さきたま出版会	1990.3
	8	埼玉県の近代化遺産：近代化遺産総合調査報告書	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1996.3
	9	DOCOMOMO JAPAN 選定 日本におけるモダン・ムーブメントの建築			1999～
	10	埼玉県の近代和風建築：埼玉県近代和風建築総合調査報告書	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	2017.3
有形文化財 (美術工芸品)	11	埼玉県古文書所在目録	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1960
	12	埼玉の中世文書	埼玉県立図書館	埼玉県立図書館	1965
	13	埼玉県教育史金石文集上 埼玉県教育史別冊付録	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1967
	14	埼玉県教育史金石文集下 埼玉県教育史別冊付録	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1968
	15	埼玉の算額（埼玉県史料集 第2集）	埼玉県立図書館	埼玉県立図書館	1969.3
	16	板石塔婆緊急調査報告概要 昭和51年度	埼玉県立歴史資料館	埼玉県立歴史資料館	1977
	17	埼玉のやきもの：昭和53年度特別展	埼玉県立図書館	埼玉県立図書館	1978.4
	18	板石塔婆緊急調査報告概要 昭和52年度	埼玉県立歴史資料館	埼玉県立歴史資料館	1978
	19	埼玉県古文書所在確認調査目録	埼玉県立文書館	埼玉県教育委員会	1978.2
	20	板石塔婆緊急調査報告概要 昭和53年度	埼玉県立歴史資料館	埼玉県立歴史資料館	1979
	21	板石塔婆緊急調査概要 昭和54年度	埼玉県立歴史資料館	埼玉県立歴史資料館	1980
	22	板碑：埼玉県板石塔婆調査報告書	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1981.3
	23	埼玉の文化財 彫刻・工芸品編（埼玉の文化財シリーズ3）	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1982.3
	24	埼玉の文化財 書跡典籍古文書・考古資料歴史資料編（埼玉の文化財シリーズ5）	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1983
	25	埼玉県古代仏教遺品調査報告書	埼玉県県民部県史編さん室	埼玉県県民部県史編さん室	1984.3
	26	埼玉県文学資料所在調査集録 昭和58年度 短歌・俳句編	埼玉県教育局社会教育課	埼玉県教育局社会教育課	1984
	27	埼玉県寺院聖教文書遺品調査報告書1 目録編	埼玉県立文書館	埼玉県教育委員会	1984.3
	28	埼玉県寺院聖教文書遺品調査報告書2 解説・史料編	埼玉県立文書館	埼玉県教育委員会	1984.3
	29	埼玉県文学資料所在調査集録 昭和59年度 小説・詩編	埼玉県教育局社会教育課	埼玉県教育局社会教育課	1985
	30	美術工芸品（彫刻）所在緊急調査報告書1	埼玉県立博物館	埼玉県立博物館	1985.3
	31	埼玉県文学資料調査 昭和60年度 児童文学、伝説・民話、戯曲編	埼玉県教育委員会社会教育課	埼玉県教育委員会社会教育課	1986

種別	番号	書籍名	編著者	出版	発行年	
有形文化財 (美術工芸品)	32	美術工芸品(彫刻)所在緊急調査報告書2	埼玉県立博物館	埼玉県立博物館	1986.3	
	33	埼玉県文学資料所在調査 昭和61年度 評論・随筆・日記・書簡	埼玉県教育局指導部社会教育課	埼玉県教育局指導部 社会教育課	1987	
	34	美術工芸品(彫刻)所在緊急調査報告書3	埼玉県立博物館	埼玉県立博物館	1987.3	
	35	埼玉県文学資料所在調査 昭和62年度 漢詩文・翻訳文・同人誌・結社誌	埼玉県教育局指導部社会教育課	埼玉県教育局指導部 社会教育課	1988	
	36	埼玉ゆかりの人びとの書	埼玉会館	埼玉会館	1989.11	
	37	埼玉県神社関係古文書調査報告書	埼玉県立文書館編	埼玉県教育委員会	1990.3	
	38	金工品所在緊急調査報告書1	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1991.3	
	39	埼玉県仏教絵画調査報告書	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1993.3	
	40	中世石造遺物調査概報1	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1993.3	
	41	中世石造遺物調査概報2(平成5年度)	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1994.3	
	42	中世石造遺物調査概報3(平成6年度)	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1995.3	
	43	中世石造遺物調査概報4(平成7年度)	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1996.3	
	44	本庄市石造物調査報告書 本庄市文化財調査報告 第2集	本庄市教育委員会	本庄市教育委員会	1996.3	
	45	中世石造遺物調査概報5(平成8年度)	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1997.3	
	46	埼玉県中世石造遺物調査報告書1 本文・資料編	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1998.3	
	47	埼玉県中世石造遺物調査報告書2 図版編	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1998.3	
	48	埼玉の文化財 第52号特集 埼玉の石造物	埼玉県文化財保護協会	埼玉県文化財保護協会	2012.3	
	49	本庄早稲田の杜ミュージアム常設展示図録		本庄早稲田の杜 ミュージアム	2020.1	
	民俗文化財	50	埼玉の正月行事	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会社会教育課	1961.3
		51	埼玉の民俗	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1966
52		埼玉の民俗(写真集)	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1967.3	
53		埼玉の獅子舞	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1970.3	
54		埼玉の人形芝居(台本集)	埼玉県教育局文化財保護室	埼玉県教育局文化財保護室	1972	
55		埼玉の万作(埼玉県民俗芸能緊急調査報告書第1集)	埼玉県教育局文化財保護課	埼玉県教育委員会	1978.3	
56		埼玉の神楽(埼玉県民俗芸能緊急調査報告書第2集)	埼玉県教育局文化財保護課	埼玉県教育委員会	1980.3	
57		埼玉の地芝居(埼玉県民俗芸能緊急調査報告書第3集)	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1981.3	
58		獅子舞の分布と伝承(埼玉県民俗芸能緊急調査報告書第4集)	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1982.3	
59		埼玉県民俗地図	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1979.3	
60		埼玉県史民俗調査報告書	埼玉県県民部県史編さん室	埼玉県県民部県史編さん室	1980.12	
61		埼玉の文化財 無形文化財・民俗文化財編(埼玉の文化財シリーズ2)	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1981.3	
62		埼玉の民謡:埼玉県民謡緊急調査報告書	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1981.3	
63		埼玉の人形芝居用具 上巻	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県教育委員会	1982.3	
64		埼玉の人形芝居用具 下巻	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県教育委員会	1983.3	

類型	番号	書籍名	編著者	出版	発行年
民俗文化財	65	埼玉県民俗工芸調査報告書 第1集 長板中型	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1982.3
	66	埼玉県民俗工芸調査報告書 第2集 青縞	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1984.3
	67	埼玉県民俗工芸調査報告書 第3集 埼玉の鍛冶	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1985.3
	68	埼玉県民俗工芸調査報告書 第4集 埼玉のかわら	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1986.3
	69	埼玉県民俗工芸調査報告書 第5集 埼玉の桐細工	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1987.3
	70	埼玉県民俗工芸調査報告書 第6集 埼玉の雛人形	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1988.3
	71	埼玉県民俗工芸調査報告書 第7集 埼玉の木型	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1989.3
	72	埼玉県民俗工芸調査報告書 第8集 熊谷染	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1990.3
	73	埼玉県民俗工芸調査報告書 第9集 小川和紙	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1991.3
	74	埼玉県民俗工芸調査報告書 第10集 押絵羽子板	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1993.3
	75	埼玉県民俗工芸調査報告書 第11集 埼玉の竹細工	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1995.3
	76	埼玉県民俗工芸調査報告書 第12集 埼玉の草屋根葺き	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1997.3
	77	埼玉県民俗工芸調査報告書 第13集 埼玉の和菓子	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1999.3
	78	埼玉県民俗工芸調査報告書 第14集 鴻巣の赤物	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	2003.3
	79	埼玉県民俗工芸調査報告書 第15集 埼玉の船大工	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	2005.3
	80	埼玉県民俗工芸緊急調査報告書 第1集 唐臼	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1984.3
	81	埼玉県民俗工芸緊急調査報告書 第2集 曲物	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1985.3
	82	埼玉県民俗工芸緊急調査報告書 第3集 刳物	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1986.3
	83	さいたまの獅子頭	埼玉会館	埼玉会館	1984.11
	84	埼玉の祭り(埼玉県祭礼基本資料収集調査報告書)	埼玉県教育局文化財保護課	埼玉県教育委員会	1985.3
	85	麦作りとその用具(民俗資料調査報告書 第2集)	埼玉県立歴史資料館	埼玉県立歴史資料館	1985.3
	86	小正月とモノツクリ(民俗資料調査報告書 第3集)	埼玉県立歴史資料館	埼玉県立歴史資料館	1986.3
	87	農間余業とその用具(民俗資料調査報告書 第4集)	埼玉県立歴史資料館	埼玉県立歴史資料館	1987.3
	88	埼玉の餅搗き踊り(埼玉県民俗芸能調査報告書 第6集)	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1987.3
	89	埼玉の祭り囃子1(埼玉県民俗芸能調査報告書 第7集) 児玉・大里地方編	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1988.3
	90	埼玉県の諸職 埼玉県諸職関係民俗文化財調査報告書	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県教育委員会	1988.3
	91	さいたまの職人	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1991.12
	92	さいたまの職人2	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	2003.3
	93	さいたまの職人3	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	2006.3
	94	埼玉県の民俗芸能(埼玉県民俗芸能緊急調査報告書)	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1992.3
	95	本庄まつりの山車調査報告書(本庄市文化財調査報告1)	本庄市教育委員会	本庄市教育委員会	1992.3
	96	さいたまの仕事唄	埼玉会館	埼玉会館郷土資料室	1992.9
	97	埼玉のオビシャ行事	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県教育委員会	1994.3

類型	番号	書籍名	編著者	出版	発行年
民俗文化財	98	木工（民俗工芸収蔵資料解説目録2）	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1996.3
	99	金工・土石（民俗工芸収蔵資料解説目録3）	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	1997.3
	100	埼玉の祭り・行事	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県教育委員会	1997.1
	101	埼玉の民俗芸能1	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	2004.3
	102	埼玉の民俗芸能2	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	2004.3
	103	埼玉の民俗芸能3	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	2004.3
	104	埼玉の民俗芸能4	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	2005.1
	105	埼玉の民俗芸能5	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	2005.3
	106	埼玉の民俗芸能6	埼玉県立民俗文化センター	埼玉県立民俗文化センター	2006.2
	107	埼玉の文化財 第47号特集 民俗技術の保護と継承	埼玉県文化財保護協会	埼玉県文化財保護協会	2006.1
	108	埼玉の絵馬	埼玉県立歴史と民俗の博物館	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2007.3
	109	埼玉の注染	埼玉県立歴史と民俗の博物館	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2008.3
	110	金鑽神楽（埼玉県民俗芸能調査報告書）歴史・資料編	埼玉県立歴史と民俗の博物館	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2009.3
	111	金鑽神楽2（埼玉県民俗芸能調査報告書）演出・芸態編	埼玉県立歴史と民俗の博物館	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2010.3
	112	本庄織物（本庄紘）（埼玉県伝統的手工芸品23）	埼玉県産業労働部観光課	埼玉県産業労働部観光課	2012
	113	埼玉の夏祭り調査概報3 秩父・児玉	埼玉県立歴史と民俗の博物館	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2015.3
	114	巡り・廻りの民俗行事調査概報1 廻り地藏と回り念仏	埼玉県立歴史と民俗の博物館	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2017.3
115	巡り・廻りの民俗行事調査概報2	埼玉県立歴史と民俗の博物館	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2018.3	
116	巡り・廻りの民俗行事調査概報3	埼玉県立歴史と民俗の博物館	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2019.3	
117	埼玉県選択無形民俗文化財シリーズ	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会		
記念物	118	自治資料埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告 第1輯	埼玉県	埼玉県	1923
	119	自治資料埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告 第2輯 明治天皇御遺蹟之部	埼玉県	埼玉県	1924
	120	自治資料埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告 第3輯 史蹟之部	埼玉県	埼玉県	1926
	121	自治資料埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告 第4輯 史蹟及天然記念物之部	埼玉県	埼玉県	1928
	122	自治資料埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告 第5輯 史蹟及天然記念物之部	埼玉県	埼玉県	1933
	123	埼玉県名勝旧蹟案内	埼玉県史蹟名勝天然記念物調査会	埼玉県	1930.1
	124	保存指定同仮指定埼玉県史蹟名勝天然記念物	埼玉県	埼玉県	1933
	125	古墳調査報告書 第1編 本庄市及び児玉郡古墳調査	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1956.3
	126	埼玉の館城跡	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1968
	127	埼玉県動物誌仮目録 第1集	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1972.7
	128	埼玉県動物誌仮目録 第2集	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1972.12
	129	埼玉県動物誌仮目録 第3集	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1973.12
	130	埼玉県動物誌仮目録 第4集	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1975.3

類型	番号	書籍名	編著者	出版	発行年
記念物	131	埼玉県動物誌仮目録 第5集	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1976.3
	132	埼玉の鍾乳洞 埼玉の文化財 15号	堀口萬吉・昼間 明・町田明夫	埼玉県文化財保護協会	1975
	133	埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書 第1集 天然記念物緊急調査報告	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1976
	134	埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書 第2集 天然記念物緊急調査報告	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1978
	135	埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書 第3集 天然記念物緊急調査報告	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1982.3
	136	埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書 第4集 特別天然記念物緊急調査報告	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1983.3
	137	埼玉の文化財 史跡編 (埼玉の文化財シリーズ4)	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1982
	138	埼玉の文化財 名勝・天然記念物編 (埼玉の文化財シリーズ6)	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1983
	139	埼玉県古代寺院跡調査報告書	古代寺院調査会	埼玉県県民部県史編さん室	1982.3
	140	県内鎌倉街道伝承地所在確認調査報告書	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1982.3
	141	歴史の道調査参考資料 昭和57年度	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1983
	142	鎌倉街道上道 (歴史の道調査報告書 第1集)	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1983.3
	143	中山道 (歴史の道調査報告書 第5集)	埼玉県立博物館	埼玉県教育委員会	1986.3
	144	歴史の道調査報告書 第17集 川越・児玉往還	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1994.3
	145	中世城館跡調査概報 1	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1984.3
	146	中世城館跡調査概報 2	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1985.3
	147	中世城館跡調査概報 3	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1986.3
	148	中世城館跡調査概報 4	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1987.3
	149	埼玉県重要遺跡緊急調査報告書 1 (埼玉県埋蔵文化財調査報告書第14集)	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1985
	150	埼玉県重要遺跡緊急調査報告書 2 (埼玉県埋蔵文化財調査報告書第15集)	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1986.3
	151	埼玉県古式古墳調査報告書	埼玉県県民部県史編さん室	埼玉県県民部県史編さん室	1986.3
	152	埼玉の古代窯業調査報告書：末野・南比企窯跡群	埼玉県立歴史資料館	埼玉県立歴史資料館	1987.3
	153	埼玉の中世城館跡 (遺跡詳細分布調査「中世寺城跡調査」)	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1988.3
	154	利根川の水運 (歴史の道調査報告書 第10集)	埼玉県立さきたま資料館	埼玉県教育委員会	1989.3
	155	中世寺院跡調査概報 1	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1989.3
	156	中世寺院跡調査概報 2	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1990.3
	157	中世寺院跡調査概報 3	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1991.3
	158	埼玉の希少動物 天然記念物基礎調査報告書	埼玉県立自然史博物館	埼玉県教育委員会	1990.3
	159	埼玉の中世寺院跡 (遺跡詳細分布調査「中世寺院跡調査」)	埼玉県立歴史資料館	埼玉県教育委員会	1992.3
	160	鎌倉街道上道整備活用総合計画Ⅲ (歴史の道整備活用推進事業 児玉・大里北部地域)	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1999.3
161	埼玉の希少野生動物とその仲間	埼玉県立自然史博物館	埼玉県立自然史博物館	2000.1	
162	埼玉県の地質鉱物 天然記念物緊急調査 (地質鉱物) 報告書	埼玉県立自然史博物館	埼玉県教育委員会	2001.3	
163	埼玉の古墳	埼玉県立博物館	埼玉県立博物館	2003.2	

類型	番号	書籍名	編著者	出版	発行年
記念物	164	埼玉の名水	埼玉県立川の博物館	埼玉県立川の博物館	2007
	165	埼玉の動・植物 50 話	埼玉県立自然の博物館	埼玉新聞社	2009.2
	166	近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書	近代の庭園・公園等の調査に関する検討会、文化庁文化財部記念物課		2012.6
	167	名勝に関する総合調査－全国的な調査(所在調査)の結果－報告書		文化庁文化財部記念物課	2013
	168	近代遺跡調査報告書 鉦山	文化庁文化財部記念物課	ジヤース教育新社	2002.3
	169	近代遺跡調査報告書 政治(官公庁等)	文化庁文化財部記念物課	文化庁文化財部記念物課	2014.3
	170	近代遺跡調査報告書 軽工業 第1分冊(紡績・製糸・その他繊維工業・食品)	文化庁文化財部記念物課	文化庁文化財部記念物課	2014.3
	171	近代遺跡調査報告書 軽工業 第2分冊(化学・窯業・セメント・その他)	文化庁文化財部記念物課	文化庁文化財部記念物課	2015.3
	172	近代遺跡調査報告書 エネルギー産業	文化庁文化財部記念物課	文化庁文化財部記念物課	2016.3
	173	近代遺跡調査報告書 重工業	文化庁文化財部記念物課	文化庁文化財部記念物課	2016.3
	174	近代遺跡調査報告書 交通・運輸・通信業 第1分冊(鉄道・道路・橋梁・隧道・港湾)	文化庁文化財部記念物課	文化庁文化財部記念物課	2018.3
	175	近代遺跡調査報告書 交通・運輸・通信業 第2分冊(倉庫・灯台・運河・河川・堤防・飛行場・郵便・電信・電話・その他)	文化庁文化財第二課	文化庁文化財第二課	2019.1
	176	近代遺跡調査報告書 商業・金融業	文化庁文化財第二課	文化庁文化財第二課	2020.3
	177	近代遺跡調査報告書 農林水産業	文化庁文化財第二課	文化庁文化財第二課	2021.3
	178	重要遺跡	埼玉県		
	179	児玉三十三霊場			
	180	埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ	埼玉県		
	181	埼玉の古墳 児玉	塩野博	株式会社さきたま出版会	2004.9
文化的景観	182	農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究	農林水産業に関連する文化的景観の保存・整備・活用に関する検討委員会、文化庁文化財部記念物課		2005.6
	183	採掘・製造・流通・往来及び居住に関連する文化的景観の保護に関する調査研究	採掘・製造・流通・往来及び居住に関連する文化的景観の保護に関する調査研究会		2010.3
その他	184	埼玉乃文化財	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1951.11
	185	埼玉県歴史的遺産調査報告書	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1997.3
	186	埼玉人物事典	埼玉県教育委員会	埼玉県教育委員会	1998.2
	187	埼玉の文化財 第56号特集 埼玉の産業と文化財	埼玉県文化財保護協会	埼玉県文化財保護協会	2016.3
	188	埼玉の文化財 第56号特集 埼玉の産業と文化財2	埼玉県文化財保護協会	埼玉県文化財保護協会	2017.3
	189	新日本百景	週刊読売		1958
	190	美しい日本のむら景観百選	農林水産省		1991
	191	埼玉ふるさと自慢 100 選	埼玉新聞社	埼玉新聞社	2000.6
	192	ため池百選	農林水産省		2010.3
	193	彩の国クールスポット 100 選	環境ネットワーク埼玉		
	194	疎水百選	農林水産省		2006
	195	景観資源データベース	埼玉県		
	196	武州本庄七福神めぐり			

類型	番号	書籍名	編著者	出版	発行年
その他	197	本庄市史 通史編 1	本庄市史編集室	本庄市	1986.3
	198	本庄市史 通史編 2	本庄市史編集室	本庄市	1989.3
	199	本庄市史 通史編 3	本庄市史編集室	本庄市	1995.1
	200	本庄市史 資料編	本庄市史編集室	本庄市	1976.3
	201	本庄市 歴史年表	本庄市史編集室	本庄市	1995.1
	202	本庄市史料 第 1 巻	本庄市教育委員会	本庄市教育委員会	1962.1
	203	本庄市史料 第 2 巻	本庄市教育委員会	本庄市教育委員会	1962.2
	204	本庄市史料 第 3 巻	本庄市教育委員会	福島興巖・大館右喜	1963.1
	205	本庄市史料 第 4 巻	本庄市教育委員会	福島興巖・大館右喜	1964.9
	206	本庄市史料 第 5 巻	本庄市教育委員会	福島興巖	1965.9
	207	本庄市史料 第 6 巻	本庄市教育委員会	福島興巖	1966
	208	本庄市史料 第 7 巻	本庄市教育委員会	市史編集室 福島興巖・水島治平・柴崎起三雄・長谷川勇	1972
	209	本庄市史料 第 8 巻	本庄市教育委員会	本庄市史編集室 福島興巖・水島治平・柴崎起三雄・長谷川勇	1973.3
	210	本庄市史料 第 9 巻上	本庄市教育委員会	本庄市教育委員会	1974
	211	本庄市史料 第 9 巻中	本庄市教育委員会	本庄市史編集室 福島興巖・水島治平・柴崎起三雄・長谷川勇	1975
	212	本庄市史料 第 9 巻下	本庄市教育委員会	本庄市史編集室 福島興巖・水島治平・柴崎起三雄・長谷川勇	1979.3
	213	本庄市史料 仮目録 2	本庄市教育委員会	本庄市教育委員会	1977.4
	214	本庄市史拾遺 第一巻 第 1～5 号	本庄市史編集室	水島治平	1967.7
	215	本庄市史拾遺 別刷	本庄市史編集室	水島治平	1967.7
	216	本庄市史拾遺 第二巻 第 6・7 号	本庄市史編集室	水島治平・長谷川勇	1968.9
	217	本庄市史拾遺 第三巻 第 8 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室	1969.3
	218	本庄市史拾遺 (別刷) 第三巻 第 9 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室	1969.12
	219	本庄市史拾遺 (別刷) 第四巻 第 10 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平・長谷川勇	1970.3
	220	本庄市史拾遺 (別刷) 第四巻 第 11 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平・長谷川勇	1970.12
	221	本庄市史拾遺 第 12 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平	1990.3
	222	本庄市史拾遺 第四巻 第 13 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平・長谷川勇	1972.3
	223	本庄市史拾遺 第四巻 第 14 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平	1974
	224	本庄市史拾遺 第四巻 第 15 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平・長谷川勇	1974.3
	225	本庄市史拾遺 第六巻 第 16 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 柴崎起三雄・水島治平	1974
226	本庄市史拾遺 第六巻 第 17 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室	1976	
227	本庄市史拾遺 第七巻 第 18・19 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平	1977	
228	本庄市史拾遺 第八巻 第 20 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平	1978	
229	本庄市史拾遺 第 21 号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 柴崎起三雄・水島治平	1987.2	

類型	番号	書籍名	編著者	出版	発行年
その他	230	本庄市史拾遺 第22号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平	1988.3
	231	本庄市史拾遺 第23号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平・平野秀之	1988.3
	232	本庄市史拾遺 第24号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平	1988.3
	233	本庄市史拾遺 第25・26号合併号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平	1989.3
	234	本庄市史拾遺 第27号	本庄市史編集室	本庄市史編集室 水島治平	1990.3
	235	本庄市史拾遺 第28号	本庄市史編集室	本庄市史編集室	1991.3
	236	本庄市史拾遺 第30号	本庄市史編集室	本庄市史編集室	1994.1
	237	児玉町史 近世資料編	児玉町教育委員会	児玉町	1990.3
	238	児玉町史 中世資料編	児玉町教育委員会	児玉町	1992.3
	239	児玉町史 自然編	児玉町教育委員会	児玉町	1993.3
	240	児玉町史 民俗編	児玉町教育委員会	児玉町	1995.3
	241	児玉町史 近現代資料編	児玉町教育委員会、児玉町史編さん委員会	児玉町	2002.3
	242	児玉町史資料調査報告 古代 第1集 北武蔵における古式古墳の成立	児玉町教育委員会	菅谷浩之	1984.3
	243	児玉町史資料調査報告 古代 第2集 秋山古墳群	児玉町史編さん委員会	児玉町史編さん委員会 (原始古代部会)	1990.3
	244	児玉町史史料調査報告 中世 第2集 武蔵七党児玉党関係史料集	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1988.3
	245	児玉町史史料調査報告 中世 第3集 児玉町の中世石造物	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1998.3
	246	児玉町史史料調査報告 第1集 桜沢家所蔵文書	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1973.9
	247	児玉町史史料調査報告 第2集 大字小平区有文書	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1975.3
	248	児玉町史史料調査報告 第3集 平等山宝金剛寺成身院文書	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1976.11
	249	児玉町史史料調査報告 第4集 武蔵國児玉郡太駄村・河内村諸家文書	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1977.12
	250	児玉町史史料調査報告 第5集 武蔵國児玉郡上・下稲沢村・元田村諸家文書	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1979.3
	251	児玉町史史料調査報告 第6集 検地帳・名寄帳集録	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1980.3
	252	児玉町史史料調査報告 第7集 武蔵國児玉郡児玉村諸家文書	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1981.3
	253	児玉町史史料調査報告 第7集 解説 近世「児玉」に関する二・三の問題	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1981
	254	児玉町史史料調査報告 第8集 武蔵國児玉郡吉田林村諸家文書	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1983.3
	255	児玉町史史料調査報告 第8集 近世吉田林村の構造と動向	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1985.1
	256	児玉町史史料調査報告 第9集 武蔵國児玉郡入浅見村・下浅見村・高関村諸家文書	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1985.3
	257	児玉町史史料調査報告 第10集 八幡山町史料集	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1987.1
	258	児玉町史史料調査報告 第11集 武蔵國那賀郡秋山村諸家文書	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1988.3
	259	児玉町史史料調査報告 第12集 九郷用水関係資料集	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1989.3
260	児玉町史史料調査報告 第13集 久米逸淵小伝	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1990.3	
261	児玉町史史料調査報告 第14集 児玉町諸家文書目録	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1991.3	
262	児玉町史史料調査報告 第15集 児玉町の石仏	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1996.3	

類型	番号	書籍名	編著者	出版	発行年
その他	263	児玉町史史料調査報告 第16集 武蔵国児玉郡八幡山町福田家所蔵文書	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1997.3
	264	児玉町史史料調査報告 第17集 塙記念館所蔵文書	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	1999.3
	265	児玉町史史料調査報告 第18集 児玉町の近代化遺産	児玉町史編さん委員会	児玉町教育委員会	2003.3

巻末資料4 アンケート結果

本計画の作成にあたって、市内の指定等文化財の所有者・管理者に対してアンケート調査を実施しました。対象は行政所有の文化財を除く100件で、延べ93件（回答率93%）から回答をいただきました。なお、所有者・管理者が重複するものも文化財ごとに回答を得ています。

アンケートは全7問による選択・記述併用式とし、所有・管理する文化財に関する現状（保存状況）、活用（公開）状況、直面する課題、理想像・今後の展望、未指定文化財の所有確認等を問うものとなりました。

アンケートは協議会による内容確認を経て、令和3（2021）年11月22日に発送し、同年12月20日を締切として返送を依頼しました。

以下にアンケートの内容と収集した意見の整理・分析を示します。

1) アンケートの内容

【質問1】 貴方が所有・管理する文化財について、下記に記入された内容をご確認ください。現状と異なる場合は訂正をお願いします。 ① 文化財の名称 ② ①の文化財を所有・管理する方の 氏名 及び 住所 。 ※文化財の所有・管理を団体が担っている場合は 団体名称 及び 団体の所在地 が記入されています。 ③ 文化財の 所在地・保管場所（住所と具体的な場所） ※無形の文化財は 実施場所 が記入されています。	
① 文化財の名称	旧本庄警察署 ※例示
② 所有者・管理者の氏名・住所 又は 団体名称・所在地	本庄市 〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 ※例示
③ 文化財の所在地・保管場所 又は 文化財の実施場所	〒367-0053 埼玉県本庄市中央1丁目2番3号 ※例示

【質問2】（複数回答可） 【質問1】に示した文化財の 保存状況 についてお聞かせください。	
<input type="checkbox"/> 特に問題はない。良好である。	
<input type="checkbox"/> 破損・劣化している	具体的な内容を記入してください 例) 雨漏り、虫食いなど
<input type="checkbox"/> 後世に継承することが難しい状況にある	具体的な理由を記入してください 例) 保存状態の悪化、後継者不足 など
<input type="checkbox"/> その他	上記以外の保存状態と具体的な内容を記入してください

【質問3】（複数回答可） 【質問1】に示した文化財をより良い状態で後世に伝えていくために必要と考える 今後の対応 をご記入ください。（※今後の実施の予定は問いません。）	
<input type="checkbox"/> 修理・修復	具体的な内容を記入してください
<input type="checkbox"/> 防災・防犯対策の整備	具体的な内容を記入してください 例) 耐震改修、防災（火災報知設備・消火設備）・防犯設備（防犯カメラ）の設置 など
<input type="checkbox"/> 人材の確保・育成	具体的な内容を記入してください
<input type="checkbox"/> その他	上記以外に必要な対応を記入してください

【質問4】（複数回答可）

【質問1】に示した文化財の 公開状況 についてお聞かせください。
右欄には公開の具体的内容として、公開時期や内容を記入してください。
例）〇〇神社の祭礼で毎年〇回（〇月〇日）に公開する など
一般公開していない場合は、その理由について記入してください。

<input type="checkbox"/> 常時一般公開している。	
<input type="checkbox"/> 定期的に期間限定で公開している。	公開の具体的内容
<input type="checkbox"/> イベント・催事等で限定公開している。	公開の具体的内容
<input type="checkbox"/> 一般公開していない。	非公開の理由
<input type="checkbox"/> その他	上記にあてはまらない公開状況があれば記載してください。

【質問5】（複数回答可）

【質問1】に示した文化財を今後どのようにしていきたいか、所有者・管理者としての理想や今後の展望をお聞かせください。（※計画の参考とするもので、市がご希望にお応えするものではありません。）

例）修理・修復を行って、後世により良い状態で伝えたい。
一般に公開してより多くの人に文化財の価値を知ってもらいたい。
解説看板を設置（又は新しく）したい。
トイレ・駐車場などの見学者の利便性を向上したい。
より多くの観光客を呼び込むためのPRを行いたい。 など

【質問6】（複数回答可）

【質問1】に示した文化財以外で、後世に残したい、伝えたい所有物・管理物があればご教示ください。また、残したい、伝えたい理由、価値の概要などを併記してください。

例）指定・登録文化財以外の建物、構造物、美術工芸品
指定文化財を実施するための衣装や道具

保存すべきもの	所在地	理由・概要

【質問7】（複数回答可）

あなたが地域にとって大切だと思うもの、将来に残していきたいと思うものがあればご教示ください。
（※質問6とは異なり、回答者の所有・管理を問いません）

例）地域特有の手業（民俗技術、工芸技術）、地域を代表する町並みや風景
地域で行われる祭礼や民俗芸能
地域に伝わる生業・信仰・年中行事・食文化 など

保存すべきもの	所在地	理由・概要

2) アンケート回答の整理・分析

【質問2】文化財の保存状況について（複数回答可）

回答内容	回答数	割合 (%)
特に問題はない、良好である	50	53.8
劣化・破損している	27	29.0
自然災害や犯罪に対する対策が取られていない	18	19.4
後世に継承することが難しい状況にある	15	16.1
その他	13	14.0

※割合は回答があった93件に対するものとします。複数回答可とするため、合計は100%になりません。

回答数93件中のうち、50件（53.8%）が保存状態に問題がないと考えている。

一方で、回答者の**約4割が現在又は今後の文化財保存に何らかの懸念**を有していることになる。

回答数93件のうち、**27件（29.0%）の所有者・管理者が、対象の文化財に何らかの劣化・破損を把握**している。文化財分類ごとの主な劣化・破損の内容は以下のとおり。

建造物：木部の劣化・破損・雨漏り、害獣の侵入

美術工芸品：（絵画）虫食い、（彫刻）木部破損・彩色剥離

（歴史資料）表面の劣化・風化、石碑地盤面の表土流出

有形の民俗文化財：山車や屋台の使用に伴う経年劣化

- ・本体の歪み、車輪のひび割れ、梶棒の不具合、人形台の不具合など使用に関する部分

- ・幕、漆、金工、木彫など装飾に関する部分

に大別される

遺跡：雑草類の繁茂

植物：虫害、空洞化

回答数93件のうち、**18件（19.4%）の所有者・管理者が、自然災害や犯罪に対する懸念**を有している。主な内容は以下のとおり。

火災への懸念：火災報知設備・消火設備設置の必要性

地震への懸念：文化財又は収蔵庫の耐震性能、植物の支柱新設

その他自然災害への懸念：落雷の経験、強風・地震による倒木・枝折（文化財の破損及び隣家への被害）、水害による文化財の流出、病害虫対策

犯罪への懸念：収蔵庫の劣化、防犯設備の未設置

特に、**有形の民俗文化財である山車・屋台の収蔵庫（山車蔵）の老朽化に伴い、耐震性能や防火・防犯対策への懸念**を示す管理者が多い。

回答数93件のうち、**15件（16.1%）の所有者・管理者が、後世への伝承・継承に対する懸念**を有している。主な懸念の内容は、**後継者不足と資金調達**が主体である。また、保存状態の悪化（植物の樹勢悪化など）による継承の懸念を示す所有者・管理者も散見される。

一方、文化財の所在地やアクセス道の草刈り・清掃実施など、保存会による活動に関する回答もあり、伝承・継承については地域差があることも予想される。

その他、保存状態に関する回答を以下に挙げる。

- ・文化財（山車・屋台）収蔵庫の温湿度管理。

- ・祭礼で使用される有形の民俗文化財及び関係する用具の劣化・破損（関連文化財の劣化・破損）

- ・植物への影響を懸念して周囲に除草剤が使用できない

- ・植物の枝が折れて隣家に被害が発生した場合の対処や責任問題

【質問3】文化財をより良い状態で後世に伝えていくために必要と考える今後の対策（複数回答可）

回答内容	回答数	割合 (%)
修理・修復	30	32.3
防災・防犯対策の整備	21	22.6
人材の確保・育成	16	17.2
その他	20	21.5

※割合は回答があった93件に対するものとします。複数回答可とするため、合計は100%になりません。

回答数93件中のうち、58件（62.4%）が文化財をより良い状態で後世に伝えていくために必要な対策を挙げている。

アンケートは「実施の予定を問わず」としたが、結果的に現状の保存状態に「問題ない」とした所有者・管理者は今後の対策を「特にない」と返答（又は未回答）する傾向にある。この結果から、所有者・管理者は文化財の破損・劣化が認められてから対応を行っている可能性も考えられる。

回答数93件のうち、**30件（32.3%）の所有者・管理者が**、より良い状態での後世への継承に**修理・修復が必要と考えている**。文化財分類ごとの対策は以下のとおり。

建造物：耐震補強工事、彩色の修復、定期的な維持管理（小修理）

美術工芸品：（絵画）破損・虫食い修復、軸装の定期的修復

有形の民俗文化財：定期的な維持管理（使用に向けたメンテナンス）、装飾の経年劣化の修復、失われた用具の復元

植物：定期的な剪定・養生

なお、各文化財の劣化・破損の度合いについては把握されていない。**緊急性に差異があることが予想されることから、全体把握と修理・修復の優先度を定める必要性**が指摘される。

回答では修理・修復も必要であるが、**定期的な小修理やメンテナンスの必要性**を述べている。また、文化財であることから**専門業者への修復依頼を求める**が、資金調達に対する課題が垣間見られた。

回答数93件のうち、**21件（22.6%）の所有者・管理者が**、より良い状態での後世への継承に**防災・防犯対策が必要と考えている**。文化財分類ごとの対策は以下のとおり。

火災への懸念：火災報知設備・消火設備の設置

地震への懸念：文化財又は収蔵庫の耐震補強

その他自然災害への懸念：倒木に対する支柱の新設・交換

犯罪への懸念：収蔵庫の整備、防犯カメラの設置

防災・防犯設備設置に関する回答が多く、市内文化財の防災・防犯に関する**対策・体制について全体把握を行う必要性**が指摘される。

火災・地震対策の回答が多い一方、水害や落雷への対応に関する回答が見受けられない（回答例に示していないことが一因と考えられる）。**利根川とその支流による水害の危険性があるもの、平地における落雷の危険性があるものについては、所有者・管理者に周知し、対策を検討する必要がある**。

回答数93件のうち、**16件（17.2%）の所有者・管理者が**、より良い状態での後世への継承に**人材の確保・育成が必要と考えている**。

人材の確保・育成の必要性を述べる回答の割合は他に比して少ないが、これは文化財の特性にも起因すると考えられる。個人所有の文化財（美術工芸品など）は原則として相続となるため、後世への継承に人材確保が必須ではなく、**地域が管理する文化財（山車・屋台、信仰に関わる遺跡・植物など）は人材の確保・育成への意識が強い**と考えられる。

直近の課題としては団体員の高齢化による活動の停滞が挙げられ、次世代や若者の後継者不足が懸念されている。このため、主に山車・屋台の保護団体では、保存会設立による人材育成や子ども達への文化財継承の実施に努めている。

その他、後世への継承に必要な今後の対策に関する回答を以下に挙げる。

- ・継続的な利活用
- ・文化財の状態の定期的な観察（※観察とメンテナンスがセットで必要）
- ・器具備品倉庫の拡張（文化財及び関連物の安全な収蔵設備の整備）
- ・文化財保護と継承者確保はセットで考えるべき課題
- ・山道の整備（安全な見学通路の確保）
- ・清掃等の維持管理（体制）
- ・文化財の記録保存

【質問4】文化財の公開状況について（複数回答可）

回答内容	回答数	割合 (%)
常時一般公開している	42	45.2
定期的に期間限定で公開している	5	5.4
イベント・催事等で限定公開している	15	16.1
一般公開していない	28	30.1
その他	11	11.8

※割合は回答があった93件に対するものとします。複数回答可とするため、合計は100%になりません。

回答数93件の文化財公開状況は上の表のとおり（定期的な期間限定公開とイベント・催事等の限定公開の双方を行っている文化財があるため、合計は93件/100%にならない）。

民間所有の文化財のうち、約7割がなんらかの形で一般に公開され、文化財価値が共有されている。

非公開のものは個人所有の美術工芸品が多数を占め、防犯上の理由によるところが大きい。**ただし、申出があれば公開・展示へ貸与する回答もあり、非公開文化財の活用についてその手法などを検討すべき余地がある。**

個人所有の建造物は現住であること、無住でも管理者がいないことが非公開の理由として挙げられ、プライバシー確保の観点から公開が困難な状況がうかがえる。

限定的な公開のものは山車・屋台が主体である。本庄まつり・こだま秋まつりで公開されるが、本庄の山車は「はにぼんプラザ」において輪番で展示公開を行っている。

【質問5】文化財を今後どのようにしていきたいか（理想/今後の展望）

回答数93件中のうち、49件（52.7%）に回答があった。主な内容は以下のとおり。

建造物	<ul style="list-style-type: none"> ・中山道を中心とする地域活性が必要 ・文化財の活用団体との協働が可能であれば検討したい ・記念事業で修復を検討している ・見学環境の向上（排水整備） ・観光協会等の協力体制（能楽殿の活用促進） ・広域協議会を設立、魅力あるもてなしの検討
美術工芸品	<ul style="list-style-type: none"> ・現状のやり方で後世に伝えたい ・修理・修復の上、より多くの公開の機会を作る ・所在や価値の周知、広く認知してもらいたい（※非公開の周知も含む） ・見学環境の向上（敷地清掃手間の軽減） ・行政による信頼できる修復業者の指定・紹介、専門家による記録（拓本） ・未表装の絵画の整備 ・防災・防犯設備の整備

有形の民俗文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・保存している神輿の復活（担げるように修復したい） ・修理・修復・旧来の姿への復原 ・劣化した部位部材の新調（貴重な部位・部材を保管しレプリカに変更したい） ・常時展示見学が可能な収蔵庫の整備 ・収蔵庫の位置変更（国道沿いであって見学案内が危険） ・修理に向けた体制・仕組みづくり ・後継者の育成、若者が参加しやすい日程への配慮、皆で楽しめるまつりにしたい
遺跡	<ul style="list-style-type: none"> ・見学環境の向上／見学通路となる山道の階段化
植物	<ul style="list-style-type: none"> ・強風に伴う枝折れ等による危害の排除（見学者、通行人、隣地等） ・定期的な養生（樹勢回復） ・日本一を目指したい ・維持管理への補助 ・榲（かや）の実の有効活用
<p>全体的な傾向として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修理・修復による文化財の価値向上 ・公開機会の増加による文化財価値の周知 ・見学環境の向上への展望 ・後継者養成 <p>など、所有者・管理者による保存・活用の改善意識が見られる。</p> <p>一方で、所有者・管理者自らが業者を選定し修理・修復するよりも、行政に信頼できる業者や専門家の紹介を求め、活用面では、広域協議会の設立や文化財の活用を企画・運営する他団体との協働を求めている点などから、所有者・管理者が単独で文化財を保存・活用していくことが困難な様子もうかがえる。</p> <p>加えて、理想・今後の展望を問う設問であるが、費用面について苦慮する意見は圧倒的に多く、行政支援だけに頼らない資金調達の手法検討が求められる。</p>	

【質問6】 後世に残したい、伝えたい所有物・管理物

18 件の所有者・管理者から 35 物件の提示があった。主要な未指定文化財の概要は以下のとおり。		
<ul style="list-style-type: none"> ・書、画（軸装類） ・人形、衣装 ・祭具 ・頂相 ・神社社殿又は社殿彫刻 ・小倉青於水墨画 ・幟立て（無形の民俗文化財） 	<ul style="list-style-type: none"> ・和算書 ・蚕具 ・花嫁のうちかけ ・浅間山噴火の墓誌 ・獅子頭 ・御供車（簡易屋台） ・御神輿 	<ul style="list-style-type: none"> ・お囃子 ・社寺境内の樹木 ・仏像、仏画 ・パリ万博のメダル、出品許可証 ・刀剣類

【質問7】 地域にとって大切だと思うもの、将来に残していきたいと思うもの

20 件の所有者・管理者から 29 物件の提示があった。主要な未指定文化財の概要は以下のとおり。		
<ul style="list-style-type: none"> ・祭礼 ・祭具 ・修験修法 ・地質鉱物（緑泥片岩） ・万灯供養（放光寺・山王堂） ・年中行事（葬儀など） ・仏像 	<ul style="list-style-type: none"> ・蚕具 ・巨樹、巨木 ・刀剣類 ・神楽殿と神楽 ・御神幸祭 ・節分（行事） ・御神迎祭 	<ul style="list-style-type: none"> ・除夜の鐘 ・陣屋門（田村本陣門） ・各町のお囃子 ・養蚕の守札など（有形の民俗文化財） ・田、畑、山（風景） ・蚕室

巻末資料5 ワークショップの記録

本計画の作成にあたって、市民の記憶に残る季節ごとの風物詩・行事・暮らし方など、民俗文化財に関する情報を体系的に把握し、それらの変遷や関連性を市民と共有することを目的とするワークショップ「本庄の暮らし暦を考える」を開催しました。

ワークショップは令和3（2021）年11月27日に2回、同年12月4日に1回、計3回を開催し、延べ37名に参加いただきました。

以下にワークショップ開催の内容と収集した意見について記録します。

ワークショップ「本庄市の暮らし暦を考えよう」開催概要

開催回	開催日時	会場	参加人数／グループ区分
第1回	令和3（2021）年11月27日（土） 10：00～11：30	本庄市役所6階 大会議室	9名 (第1班：3名 第2班：4名 第3班：2名)
第2回	令和3（2021）年11月27日（土） 14：00～15：30		7名 (第1班：3名 第2班：4名)
第3回	令和3（2021）年12月4日（土） 14：00～15：30	児玉文化会館セルディ 大会議室	21名 (第1班：5名 第2班：5名 第3班：6名 第4班：5名)

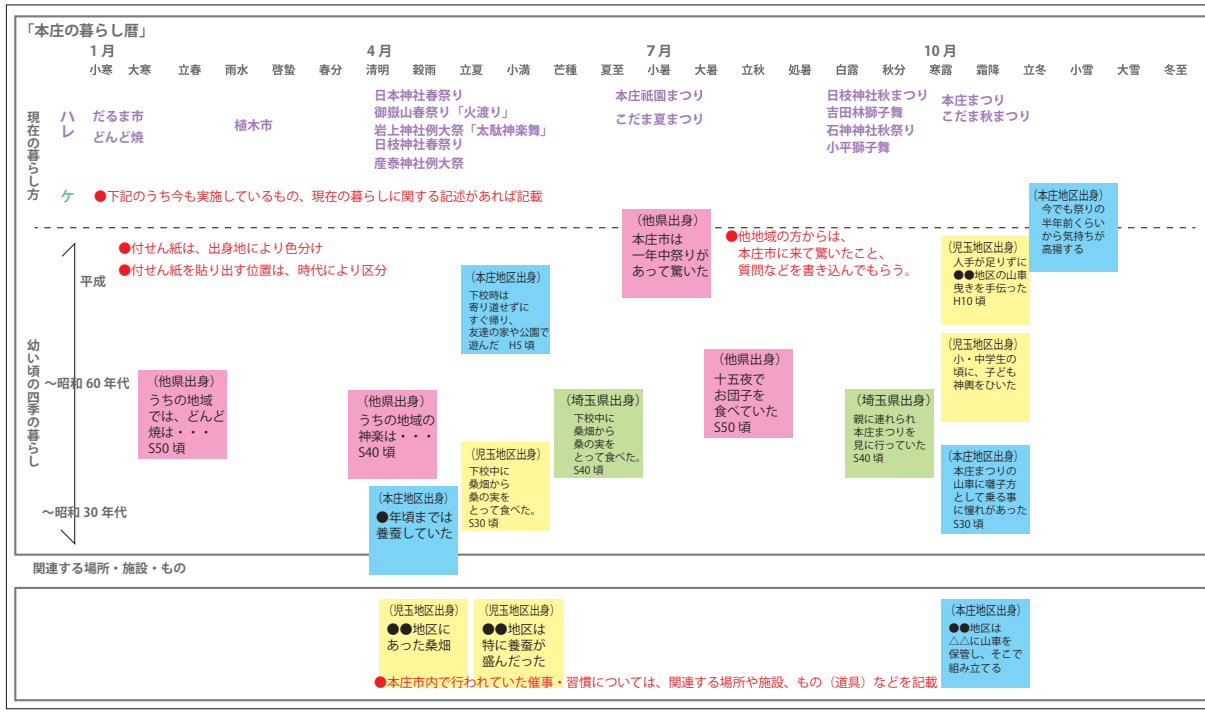
ワークショップ「本庄市の暮らし暦を考えよう」の流れ

時間	プログラム	協議形式	すること	担当	資料など	ねらい 成果イメージ
10：00 － 14：00	ステップ1 プログラム説明 時間配分 15分	全体	※受付時にグループ分け ・文化財保存活用地域計画の概要説明 ・WSの趣旨説明と最終目標の説明 ・本日のプログラム説明	文化財 保護課	(配布物) ・プログラム ・文化財保存活用 地域計画の概要	－
10：15 － 14：15	ステップ2 「本庄の暮らし暦」 の作業説明 時間配分 10分		・事前に現在の催事や習慣を記入した「本庄の暮らし暦」について説明する ・ステップ3以降の作業内容を説明する	支援 事業者	(模造紙) ・本庄の暮らし暦	現代の本庄の暮らし方を共有する (参加者の子どもの頃の暮らしとの違いを想像しながら)
10：25 － 14：25	ステップ3 「暮らし暦」で 世代間の暮らし方 地域間の暮らし方 の違いを把握しよう 時間配分 50分	1) 以下の各テーマについて、参加者が付せん紙に記入 ① 暦に既に記載された催事等について、自身が幼い頃はどのようなことをしたか ② その他、各季節での暮らしの思い出 水路で野菜を冷やした 学校帰りに桑の実を食べた 等 ③ 上述の活動に関連する場所や施設 (本庄市のみ) 2) 記入した付せん紙を簡潔に発表しながら貼っていく 3) 一度、他のグループの模造紙を確認する時間を設け、それらをふまえて追加のコメントがあれば付せん紙に記述、貼り出す	時代別、地域別の暮らし方の違いを知り、本庄市の文化の特徴を共有する			
11：15 － 15：15	ステップ4 各グループの成果発表 時間配分 10分	1) 各グループの成果を発表する。(1班2分程度) ・当たり前と思っていたが違ったもの ・時代が変わっても残っているもの ・現在は消失してしまったもの など 2) 発表内容を弊社スタッフが(模造紙)本庄の暮らしの特徴に書き込む	(模造紙) ・本庄の暮らし暦 ・本庄の暮らしの特徴			－
11：25 － 15：25	ステップ5 閉会 時間配分 5分	全体	・閉会あいさつ ※ WSの成果は後日参加者に報告	文化財 保護課	(模造紙) ・本庄の暮らしの特徴	－

※「時間」欄は上段：午前開催、下段：午後開催を示します。

作業イメージ：「暮らし暦」で、本庄の四季の暮らし等を整理しよう

- 以下の各テーマについて、参加者が付せん紙に記入します。
 ①既に記載された催事等について、自身が幼い頃はどのようなことをしたか。
 ②その他、各季節での暮らしの思い出（水路で野菜を冷やした、学校帰りに桑の実を食べた等）
 ③上記の活動に関連する場所や施設（本庄市のみ）
 ※市外の方々は、上記の他に本庄市に来て驚いたことや質問などを書き込んでいただけます。
- 記入した付せん紙を簡潔に発表しながら貼っていきます。
- 一度、他のグループの模造紙を確認する時間を設け、それらをふまえて追加のコメントがあれば付せん紙に記述、貼り出します。
- 各班の協議結果を発表し合います。



ワークショップ「本庄市の暮らし暦を考えよう」の作業イメージ



ワークショップの様子（第1回）



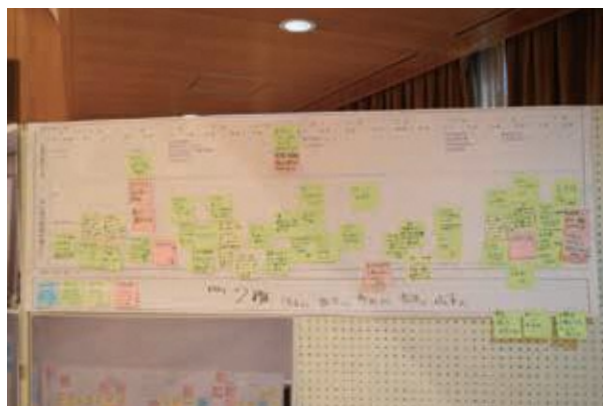
ワークショップの様子（第2回）



ワークショップの様子（第3回）



ワークショップの成果の一例（第1回 第2班）



ワークショップの成果の一例（第3回 第2班）

付せん凡例／青：本庄地域出身 黄：児玉地域出身 緑：県内出身 赤：県外出身

ワークショップで収集した意見を以下に整理しました。各意見は各回・各班ごとに、季節順・年月順・時代順で並べて整理を行いました。なお、付せんの記述は内容の精査を行わず、可能な限り参加者が行った記述をそのまま掲載したものです。

第1回 第1班

付せんの記述	季節	年月	時代	記述者の出身地区
七軒町自治会 お手長様 (おてながさま) ご例祭 (寄居)	春	3月	現在	本庄地域
普寛霊場春季例祭 (刀渡り)	春	4月	現在	
児玉 千本桜まつり	春	4月中旬	現在	
本庄早稲田の杜 クロスカントリー ハーフマラソン 4月初旬	春		現在	
お姿流し (夏越お祓い) 若葉公園内で	夏	7月31日	現在	
桑の実 = どどめ	夏		昭和30年代	
七夕祭り (銀座通り) はら踊り	夏		昭和40年代	
石尊様 (阿夫天神神社)	秋	9月3日	現在	
普寛霊場秋季例祭	秋	10月10日	現在	
本庄まつり 山車、太鼓練習	秋	10月1日~	現在	
花火大会 (毎年)	秋		現在	
12月末 もちつき 自宅	冬	12月	現在	
だるま市 佛母寺	冬			
本庄市カルタ大会 PTA主催 市内12小学校が参加	冬		現在	
金鑽神社 神迎祭 お神迎え	冬		現在	
旧暦11月1日 (大安日) 金鑽神社	冬		現在	
商業祭 (祭市) 現 商店会マーケット	冬		現在	
お蚕様の様をつけないと怒られた			~昭和60年代	
「本庄野菜」は、昔はあまりできなかった→その代わりに養蚕			~昭和60年代	
利根川、養蚕→本庄の豊かさ→おすし屋の多さ			~昭和60年代	
本庄は寿司屋が多かった			~昭和60年代	
本庄駅北口 七福神めぐり			現在	
最近はずつマイモ栽培が増えたが、川越の青木昆陽のおかげ??				
本庄のいも栽培は青木昆陽による				
児玉 日本神社 ※日本で唯一				
青い目の人形 (本庄西小2体、藤田小1体)				
駅南口は桑畑	春		昭和40年代	児玉地域
小学校の授業で「おかいこ様」を見学した	春		~昭和60年代	
昔は通りで祭りをしていた	夏			
米福、人形師 石尊祭りに飾った	秋		~昭和30年代	
石尊祭 伊勢崎まで屋台 大正時代はバクチ	秋			
福大福を食べる	冬		現在	
明治期ころまでは、商売の浮き沈み、回転、早かった			明治	
本庄が首都となる計画もあった 明治期			明治	
本庄と児玉の間、チンチン電車 大正期			大正	
伊勢崎銘仙の横流し→「暴力のまち」			昭和26年	
利根川の第四水門 度胸試し			昭和30年代	
ペンシルロケットを開発 (西小)			昭和34年2月19日	
三交通り ・親不孝通り・世界食堂・はじめや			昭和40年	
郡上橋 ケンカしてた			昭和40年?	
以前は、ひもかわうどんもあった			昭和40年代	
児玉カルタをつくった			昭和60年頃	

車社会になるとさびしくなった			～昭和 60 年代	
城山 くじゃく etc. がいた			～平成	
きらくのソースかつ丼			現在	
もとは天領 絹のまち				
児玉党の地域				
馬を育てる地域				
山車の資金源は絹				
つみっこ 小麦を使った料理				
今の本庄のチカラ ・祭りは多い ・群馬に近い				
お花見 城山	春		～平成	
家で祭り 7月 自宅	夏	7月	昭和 60 年代	
児玉カルタ大会 金屋小	冬		現在	

第 1 回 第 2 班

付せんの記述	季節	年月	時代	記述者の出身地区
本庄地域 祖父宅にお蚕さまがいた 約 30 年前	春		～昭和 60 年代	本庄地域
本庄地域 夏 7月 神輿をかつぐ	夏	7月	現在	
本庄地域 夏 (8月) 本庄音頭 納冷祭	夏	8月	現在	
児玉地域金屋 (保木野) 顕彰祭 墓前祭～ (塙保己一)	秋			
本庄地域 冬 つみっこ (すいとん) を食べる	冬		現在	
本庄から見る赤城が好き !!	冬		現在	
毎日 うどん 自分で打つ				
となりぐみ				
新生活 (お通夜、告別式)				
通年 ナビラが食卓に出る			現在	
3月 ひな祭り (お節句) いなか寿司 (巻寿司、太巻) を作る (ごぼう、人参など) 児玉地域	春	3月		埼玉県内
八幡神社 3月 15日 植木市	春	3月 15日		
4月 お花見 夜は提灯が沢山で明るかった 座って夜桜、寒かった 児玉 城山公園	春	4月		
ヨモギまんじゅう ヨモギで液肥 (天恵緑汁) をつくります 4・5月 児玉地域	春	4・5月		
児玉地域 桜の花見 (千本桜)	春			
おかいこの仕事がとても大変だった 家の中で炭をたき 春～夏 金屋、本泉地区	春			
6月頃 田植え 昔は近所中で手伝う 小昼飯 (こじゅうはん、おやつ): じゃがいもの塩ふかしなど、キャベツの千切りにソース	夏	6月		
7月のおまつり 金屋の子は金屋のおまつりで神輿をかつぎ神社からお金をもらい、それを持って児玉のおまつりに行く	夏	7月		
児玉地域 (蛭川) 8月 15日 戦没者慰霊祭 駒形神社に集まる	夏	8月 15日		
児玉 夏まつり ケンカみこし (八坂神社→八幡神社)	夏		現在	
盆踊りの練習 (公民館や小学校で) ヤグラを立ててまわっておどる	夏		現在	
八幡神社 茅輪くぐり	夏			
9月 12日 保己一先生の墓前祭 子どもたちも参加	秋	9月 12日	～昭和 60 年代	
9～10月 お月見 十五夜、十三夜 まんじゅうを各家で作った 子どもがつりに来る	秋	9～10月		
11月 13日? 八幡神社ゆず市	秋	11月 13日		
11月 20日ごろ えびす講 (商売の神様)	秋	11月 20日頃		
児玉 田畑の野焼き (収穫後に)	秋	11月		
秋 11月ごろ 十日夜 (とおかんや) イネわらやサトイモの茎で作る。わら鉄砲で土をたたく	秋	11月		
12月 10日 十日の市 「十日の市は風が吹く」 麦ふみの頃 児玉地域	冬	12月 10日		
1月 7日 七草がゆ	冬	1月 7日		
1月 15日? どんど焼き 児玉町下町大久保地区 もちを焼く	冬	1月 15日		
1月 15日 小豆がゆ うちではさとうをかける	冬	1月 15日		
1月 25日? 天神講 子どもたちが集って食べたり遊んだりした	冬	1月 25日		
1月 16日やぶ入り おしょうゆのご飯 「えんまのつらよごし」といっていた	冬	1月		

児玉（蛭川地区） 手づくり味噌をつくっています。1～2月（寒仕込）	冬	1月	
金鑽神社（本庄・児玉） 新年初詣	冬	1月	
2月の初午 稲荷神社 かてめし、ごぼう、油揚げ	冬	2月	
三郷市 江戸川堤防 ・枯芝でソリスベリ・タコあげ	冬		現在
桜山公園 寒桜と紅葉狩り 児玉・稲沢地区	冬		
モチつき、正月飾り	冬		
冬 農家の冬仕事 炭焼き 本泉地区	冬		
本庄・児玉 2階が蚕棚で占領される（養蚕）	冬		
児玉地域 日本神社 ・青いダルマ・なでしこジャパン			
二毛作→小麦（粉）文化 児玉・農業			
本庄・児玉 隣保館が地区センター？			
金屋小の校歌3番 心の中にはなわ先生が生きている			
前橋では 敷島公園 赤城の千本桜	春		埼玉県外
前橋 春 よもぎを採取してよもぎだんごを作って食べた	春		
児玉地域 千本桜のお花見	春		
前橋 毎年8月15日に花火大会だった 利根川の河川敷に見に行った思い出	夏	8月15日	
南公民館の庭で地区自治体の納涼祭をやっていた	夏		
お祭りの屋台で焼まんじゅうを食べた	夏		
本庄 マリーゴールドの丘 10～11月 イルミネーション	秋	10～11月	
群馬 運動会のチームが山の名前 赤城団、榛名団、妙義団	秋		
群馬 秋 大胡のあたり 菊まつり 菊人形の展示 ながめの菊人形が有名だった	秋		
茨城研 七五三のお祝が結婚式のように 親せきを呼んで披露宴をする	秋		
群馬 上毛かるた 群馬県人は全員知っている、いうことができる	冬	1月	
前橋 学校が午前中で終わった 1月9日の初市、だるま市 1月3日高崎少林山→前橋→伊勢崎とまわる	冬	1月	

第1回 第3班

付せんの記述	季節	年月	時代	記述者の出身地区
春まつり（東五十子） 宮崎組の神楽 若宮神社 昭和40年代まで 4月4日	春	4月4日	～昭和40年代	本庄地域
普寛霊場春の例大祭 火渡り 修験者者刃渡り 4月10日	春	4月10日	現在	
お釈迦様の甘茶がけ 今はやっていない。昭和50年代頃まで 開善寺	春	4月	～昭和50年代	
城山稲荷神社例大祭 お神楽、植木市	春		現在	
藤田地区 7月にお盆をやっていた 今も7月	夏	7月	現在	
七夕まつり 氷柱飾り 8月7日（旧暦たなばた） 三交通り	夏	8月7日		
8月25日お盆 1か月遅れの10日遅れ 北泉地区 昭和40年代まで	夏	8月	～昭和40年代	
お姿流し（メイン） 茅の輪くぐり 夏越し8月 今もやっている 若泉公園	夏	8月		
桑の実（トドメ）を食べながら遊ぶ 健康診断を心配 北泉	夏			
9月1・2日 石尊様（セキトウサマ） みせもの小屋、ほうずき売り 阿夫利天神社	秋	9月		
金鑽神社 七五三の宮参り 千歳飴	秋	9月		
花火大会 戸根川 9月初旬	秋	9月		
普寛霊場秋の例大祭 10月10日 全国から集まる 今もやっている	秋	10月10日	現在	
本庄まつり 1か月の太鼓練習 各町内	秋	11月	現在	
十五夜 近所の家のお供えをヤスでとりに行く 昭和30年代	秋		昭和30年代	
恵比寿講（12月、1月） 酒をなみなみ のりまき イナリ寿司山盛り 現在でも	冬	12・1月	現在	
天神講（カレーを食べた） 今はやっていない 本泉の方 1月25日にやっていた	冬	1月25日		
正月にまゆだまを神棚に飾る 昭和30年代までやっていた 北泉地区	冬	1月	～昭和30年代	
節分 いわしの頭を糎（ひいらぎ）	冬	2月		
金鑽神社 お神迎え 熊手買い 大福もち	冬		現在	
除夜の鐘つき 各寺	冬		現在	
じまん焼（大判焼のこと） ふじ屋さん				

シミッコ (すいとんのこと) 小じょ飯				
焼まんじゅう (年中) (上州) トラックで売りに来ていた				
3月15日 八幡さま 植木市	春	3月15日		児玉地域
大正院 養蚕の供養塔 5月28日供養祭	春	5月28日		
こだま夏まつり 喧嘩みこし 八幡様から出発、中央通り	夏			
七五三 児玉八幡神社 太鼓をたたき菓子をまく 子供たちが学校帰り	秋		現在	
こだま秋まつり 御陣見行列の塩をかけてもらうことで無病息災を願う習慣	秋		現在	
こだま秋まつり 各地区でおはよしの練習 子供たちがやっている	秋		現在	
十五夜 十三夜 まんじゅうつり 炭酸まんじゅうを作った	秋			
吉田林の獅子舞はもっと紹介してほしい	秋			
除夜の鐘つき 天龍寺 昔は楼にみんなが登って打っていた 今は住職だけが登っている	冬	12月		
(児玉飯倉地区) 持ち回りで大黒様を1年間預かる 12月に集まりサンマをお供えて1年を振り返る 今は12~13軒で引き渡しの行事を行う	冬	12月		
長谷観音堂 1月11日大祭 護摩をたく 無病息災 一年の感謝	冬	1月11日		
正月 まゆ玉づくり "まゆ玉の木"につける 花がき にわたこの木 児玉	冬	1月		
福茶 豆でいれたお茶	冬	2月		
大正院 シルク工場勤めの人の休みの日に市が出た 毎月28日 今はない				
大正院 毎月28日 ごぶどう様				
八幡さま みせもの小屋				

第2回 第1班

付せんの記述	季節	年月	時代	記述者の出身地区
ひな祭りのもち、もちつきをして干しておいて油で揚げて食した	春	3月		本庄地域
4月8日は旭地区長松寺で甘茶を飲んだ	春	4月8日		
養蚕時 忙しく、昼はすいとんかうどん	春			
七夕祭り、いつも8月7日に一か月遅れて開催されており、ときわスーパーの一角に戦争展(写真展)があり、こわかったのを思い出す ~平成7年	夏	8月7日	~平成	
大昔はお盆の月に八木節で踊った 下野堂 8月頃	夏	8月		
夏になると都島の湧水で泳いだ	夏		~昭和60年代	
学校帰り、桑畑のどどめを食べて怒られたのを思い出す(南小) 昭和40年代	夏		昭和40年代	
養蚕の時期になると家中の畳を床の間に積み、家中消毒した	夏			
沼和田の飯玉神社で11月3日に、年寄りが夜、おこもりをして、神殿に赤飯、サンマを奉納した	秋	11月3日		
文化の日は仮装行列 小学生は武者行列	秋	11月	~平成	
十五夜にススキと野菜をそなえて月を見た	秋			
12月30日までにしめ縄作り ワラで結んで自家と神社へ奉納するため持っていった	冬	12月		
福豆 金鑽神社へまき いわしの頭を作る 豆茶を飲む 豆はかたかった	冬	2月		
じいさんから 戦後、闇市があった そこに参加していたことを聞く どこにあったのか?			戦後	
身馴川が小山川にかわる前、堤防がなかった頃、生野山と身馴川がぶつかった所が深くなっており、そこで飛び込みをしたそうだ 70年前の話			昭和20年代	児玉地域
吉田林、清水池、思池 付近では、河川改修前に清水がわき出ており、そこで潜って遊んだという話が残っている				
お月見の時、たけをつなげた先端にはりを付け、だんごをとって「ねずみにとられた」との話にして縁起をかついだそうだ	秋			埼玉県内
小正月 まゆ玉をつくった	冬	1月		
お札、ダルマ 高尾山等に持って行く 年明け	冬	1月		
子どもの遊び 猿また 昭和60年代				
本庄では「つみっこ」といわない				
江戸時代に桑原ぼくりんがたたえた石碑あり				

第2回 第2班

付せんの記述	季節	年月	時代	記述者の出身地区
土手の桜を家族で花見する	春	4月		本庄地域
いまい台女堀川の桜波木花見	春	4月		

神社で神楽をやっていた 地域の人達が集まった しろ山稲荷は4月	春	4月	
桑畑、桑のドドメを学校帰りに食べた	春	5月	
本庄祇園まつり おみこし 7月	夏	7月	
竹の子の皮に梅干しを入れて(くるみ)、なめる	夏	7月	
銀座通りの七夕 にぎやかであった 8月7日	夏	8月7日	
南小納涼祭 本庄音頭 8月	夏	8月	
薬師様の祭り 地域のコミュニティのひとつでした 小和瀬	夏	8月	
盆迎え 迎え火、送り火	夏	8月	
お盆迎え(8月)	夏	8月	
備前渠川で夏泳ぐ ヤスで魚をつく	夏		
家の廊下にかざったススキ、まんじゅうを友達と竹やりで取りに行った 9月 or 10月	秋	9月・10月	
西富田金鑽神社 秋祭りで神楽 10月	秋	10月	
本庄まつり 本町の山車 上町の山車	秋	11月	
氏神様(12月)	冬	12月	
正月神様(1月)	冬	1月	
元旦に神社に集まり、豆をもらってくる 小和瀬	冬	1月	
戸根川で、冬、土手すべりで遊んだ	冬		
「ちりんかりん」火の用心 小和瀬	冬		
普寛霊場 普寛まんじゅう 4月4日、10月10日	春・秋	4月4日・10月10日	
子供1歳になった時に1生もちを持ち祝った			
結婚式、三々九度の後に、チャリンカリンとぶつけて祝った 50年前 小和瀬			昭和40年代
朝日通りの道路脇のお店 にぎやかであった 昭和30～35年頃			昭和30～35年頃
かぐら			
日本の家には神様がたくさんいる			
祝日は国旗を上げていたが今は少ない			
紙しばい 各神社			
納豆売り 氷売り			
お葬式で、お墓に入れる前に三回まわって弓矢を引いて、紙に包んだお金をばらまく			
家を建てる時に、お金、お菓子をまく			
成りもの(柿、ザクロ、いちじく)が沢山あった			
十日夜 わらでっぼう	秋	10月	児玉地域
12月31日 商店は12時まで開いていた	冬	12月31日	
正月飾り 一夜飾りはダメ	冬	12月	現在
毎年2月28日、児玉長浜町 ヒナ市 お祭り同様、うるう年は2月29日にやる	冬	2月28日	
「どっかん」ボン菓子を作る機械			
目立て屋 児玉			
昔はタルで、土葬だった			
くわの実摘み 5月頃	春	5月	
赤城おろしで大根を干す たくあん漬け 冬前	秋	冬前	現在
十五夜をやると十三夜もやる 十五夜のみは「片目月」(カタメツキ)という	秋		
どんと焼 伊勢崎	冬	1月	
まゆ玉飾り	冬	1月	
豆まき いわしの頭、ひいらぎ 大豆の枯木を結わえていわしの頭をつける	冬	2月	
葬式で座布団を供する→葬儀の家→お寺へ 伊勢崎			

第3回 第1班

付せんの記述	季節	年月	時代	記述者の出身地区
本泉地区 ひなまつり 3/3 現代	春	3月3日	現在	児玉地域
八幡神社の植木市に行った(3/14か3/15)	春	3月14か15日		

本泉地区 お彼岸 (ぼたもち) 3/17 現代	春	3月17日	現在	
本泉地区 花祭り (つばきの花 十輪院) 4/8 現代	春	4月8日	現在	
本泉地区 端午の節句 5/5 現代	春	5月5日	現在	
城山で桜の花見をしていた (班の花見) 露店も出ていた	春			
本泉地区小塚 土用 (たんさんまんじゅう、すまんじゅう) 7/20 大正時代	夏	7月20日	大正	
本泉地区 盆 (踊り) 8/13・8/16 昭和	夏	8月13～16日	昭和	
本泉地区 お盆 8/13 盆 送り 8/16 (十輪院) 現代	夏	8月13～16日	現在	
本泉太駄上区 お盆迎え 盆なわ作り 8月 現在まで	夏	8月	現在	
本泉地区 ホタル狩り 昭和	夏		昭和	
小・中学生の子ども達で子供こしがあつた (第二金屋) 白ひげ神社夏祭りの前にやつてもらつた お金をこずかいにする	夏			
本泉 十五夜 だんごつり 10月 昭和～現代	秋	10月	昭和～現在	
本泉太駄上区 道ぶしん 秋 (10月) 昭和60年頃	秋	10月	昭和60年頃	
本泉太駄上区 ねん仏回し 秋 (10～11月) 昭和60年頃	秋	10～11月	昭和60年頃	
本泉地区 とうかんや 11/10 大正	秋	11月10日	大正	
十五夜、十三夜におまんじゅうとすすきを飾つた	秋			
本泉 角松送り 12/28～12/30 現代	冬	12月28～30日	現在	
本泉地区 神社大祓い 12/29 現代	冬	12月29日	現在	
年越しそば (12/31)	冬	12月31日		
本泉地区 初参 河内金鑽神社 1/1 現代	冬	1月1日	現在	
本泉地区 嘉例 (家例) 1/1 現代	冬	1月1日	現在	
本泉地区 お供え 1/1 大正～昭和	冬	1月1日	大正～昭和	
おぞうに (1/1)	冬	1月1日		
本泉地区 作立て、山入 1/2 大正～昭和	冬	1月2日	大正～昭和	
本泉地区 山入 1/2 大正時代	冬	1月2日	大正時代	
うどん (1/2)	冬	1月2日		
本泉地区 新年祭 1/3 現代	冬	1月3日	現在	
本泉地区 棚探し 1/3 大正～昭和	冬	1月3日	大正～昭和	
1/3 金鑽神社のだるま市がある	冬	1月3日		
お米 (1/3)	冬	1月3日		
本泉地区 七草 1/7 昭和～	冬	1月7日	昭和～	
本泉地区 蔵開き 1/11 大正～昭和	冬	1月11日	大正～昭和	
本泉地区 小正月 1/14・15・16 大正～昭和	冬	1月14～16日	大正～昭和	
本泉地区 虚空蔵様 1/20 昭和	冬	1月20日	昭和	
本泉地区 恵比寿講 1/20 昭和	冬	1月20日	昭和	
本泉地区 天神講 1/25 昭和	冬	1月25日	昭和	
本泉地区 節分 2/3 昭和	冬	2月3日	昭和	
節分にいわしの頭をひいらぎの枝にさして玄関につるした 2/3	冬	2月3日		
本泉地区 初午 (ハツウマ) 2月の第1午の日 昭和	冬	2月	昭和	
本泉太駄上 初午 毎年2月 明治～現代	冬	2月	明治～現在	
本泉太駄上 けんちん汁 (じゃがいも、さといも、人参、ごぼうのみそ味) 冬 現在	冬		現在	
本泉太駄地区 みそ、しょうゆづくり 大きなかまを持っている家でやる 労働力で返す 集落共同のみそしょうゆ 昭和30年代	冬		昭和30年代	
社日 (こよみ) 3月・9月 現代	春・秋	3月・9月	現在	
本泉太駄神楽 年2回春秋 (4月10月) 岩上神社	春・秋	4月・10月		
本泉地区 春秋の大祭 4/15・10/15 現代	春・秋	4月15日・10月15日		
蒭の棒を取って一束10円で売り歩いた (小学校の行事)				
秋平地区 花まつり (秋山のお寺3か所) 甘茶をいただく 赤飯は“ささげ”	春		昭和30年代以前	埼玉県外
「あわこ」(カジカの卵 (石の下に産み付ける) をゆでて味付けして食べる 小山川	春			
円通寺の梅園を歩く	春			
どどめ、すかんぼの茎をかじつた	春			
桜の写真を撮る、観賞 児玉千本桜 白楊高校	春			

セリ、ヨモギ、フキ、梅を家族で料理する 本泉祖母宅	春		
お寺で臨時保育園（農繁期）	夏		
秋平 夜蛍が飛びまわり、追いかけた（田んぼ、川） 初夏	夏		
お盆に家の前で紙を燃やし先祖を迎えた（キュウリ、ナスを庭先に飾らない）	夏		
夏の子供みこし（カレーを食べる） 金屋地区（第3）	夏		
高崎 えびすこう（商店安売り）	秋	11月21・22日	
十五夜のお供え物を食べて遊ぶ 十日夜に餅やぼた餅を食べるのが楽しみ、わら鉄砲を作って地面をたたきながら唄う	秋		
木の陰や杉林の中で秘密基地を作って遊んだ			
石の道標 右へ秩父 左へ秋山			
天神講に呼ばれて子供の集まりがあった 昼食をいただく			
隣り組のお悔やみに行くことを「じんぎ（仁義）に行く」という			
建前で屋根の上から餅を紙に包みバラまいた。			
群馬は「上毛かるた」秋平は「秋平かるた」「こだまかるた」「本庄かるた」「さいたまかるた」子どもは覚えていない			

第3回 第2班

付せんの記述	季節	年月	時代	記者の出身地区
児玉地域 3月15日 植木市（植木、箆、刃物） 八幡神社春まつり	春	3月15日		児玉地域
3月ひな祭り、ヨモギ餅（摘み草）	春	3月	～昭和60年代	
児玉地域（上町） 4～5月？ ザリガニ取り 美児沢用水	春	4～5月		
児玉地域 4月 花見 城山公園	春	4月		
お寺（實相寺） お茶をかけたたりしていました。お釈迦祭り 4月頃	春	4月		
5月5日 岩谷堂まつり	春	5月5日		
弁財天（弁天様）、金運、交通安全、恋愛成就	春			
かいぼり（小川を堰き止めて魚を取った） 春	春			
児玉地域 草そり 山玉山・八高線土手 俵のふた、ゴザ等を尻の下に敷いてすべる	春			
児玉地域 6月 茅の輪くぐり 八幡神社	夏	6月		
7月 小平あじさいまつり	夏	7月		
7月 さなぶり 田植え終了後豊作を祈る	夏	7月		
児玉地域 8月 蚊帳 ～昭和45年頃	夏	8月	～昭和45年	
児玉地域 8月 西瓜提灯 近所の空地	夏	8月		
8月 盆踊り	夏	8月		
夏 遊んだりしながら桑の実をよく食べた	夏			
夏祭りの時、ホタルの飛び交う様子をよく見た	夏			
農休み 蚕あげ 田植え 学校休み（3～7日）	夏			
小川や田んぼなどで夜にかがり火を焚き魚を取った ヤス	夏			
ホタル観賞 夏	夏			
十日夜 旧暦（収穫祭） 10月10日十五夜 お月見（藁鉄砲）中にサトイモの茎を入れて作る 庭など地面をたたき 秋	秋	10月10日		
児玉地域 10月（陰暦 10月10日） 十日夜 モグラ退治（地面たたき）、藁鉄砲で	秋	10月10日		
10月 十間夜 各家	秋	10月		
児玉地域 11月3日 稚児行列 ～昭和50年代 七五三の日？	秋	11月	～昭和50年代	
11月23日 百体観音まつり	秋	11月		
秋 十五夜の時、まんじゅうを隣のものまでよく食べた	秋			
児玉地域 12月10日の市 駅通り 門松・神棚・箆・刃物等販売	冬	12月10日		
児玉地域小平 明治～昭和50年代 庚申様 旧隣家で 12月 会食し一年間語り合う	冬	12月	～昭和50年代	
もちつき 12月30日 ～現在	冬	12月	現在	
十日夜のわら鉄砲 12月	冬	12月		
12月 しめ縄飾り 各家	冬	12月		
児玉地域 12月 氏神祭り 各家庭	冬	12月		
1月頃 天神講 近隣の子供達で会食する 昭和35年頃	冬	1月	昭和35年頃	

1月13日 児玉地域 まゆ玉飾りをやりました 養蚕関係各家 カシの木、桑の木	冬	1月		
道祖神（どんど焼） 食いこ（正月） 冬 カレー、具を持ち寄った 昭和35年頃	冬			昭和35年頃
冬 十日夜わらでっぽうと叫びながらモグラ、ネズミを追い払ったあと、柿の木へ	冬			
葬式 三べん回ってお金をまく				
紙芝居の水飴				
上棟式 お菓子、もち、ボールも投げた				
5月3日 山崎山（岡部チサンGC）でてこん会をする 芸能、出店が出てにぎやかだった 昭和30年頃	春	5月3日		昭和30年頃
田植えの時、伯母さん達が手伝いに来て、終わるとマンガ洗いとして労をねぎらった 昭和30年頃	夏			昭和30年頃
旧10月10日（11月10日頃） 父親が芋がらを入れて、とおかんや薫鉄砲を作ってくれて近所の庭を叩いて歩いた	秋	11月		
秋（12月頃） こうしんまつり 各家が集まり、神様みたいな物を出して、ごちそう食べる	冬	12月		
お正月になると正月餅を出し、木を削った花木を作り、頂いたみかん箱、さけ1匹などあげて、鏡開きでおろして食べた 昭和30～	冬	1月		昭和30年頃
昭和30年頃 まゆ玉を作り、桑の木にさして、お蚕さんが沢山とれるように飾り、その後、あんこに入れて食べた	冬			昭和30年頃
（家）春～秋には、雨が降ると「のやすみ」といって、じじやきなど焼いてくれた	春～秋			
（植木市）きっかけは桑の苗の販売 昔は盛大だった	春			埼玉県外
コクゾウさま 春	春			
養蚕、稲作の繁忙期は学校休み	夏			
わらでっぽうを柿の木につるすと実る	秋			
猿田彦のかけ軸をかける その年の作付を報告し合った 明治～昭和50年代				～昭和50年代
こじっこめ				

第3回 第3班

付せんの記述	季節	年月	時代	記者者の出身地区
児玉町本町・連雀地区 3/15 頃 春祭り 八幡神社	春	3月15日		児玉地域
八幡神社の春祭りの植木市で草花を買った 3月	春	3月		
お手長様 火ぶせ祭 3月	春	3月		
3月の春の節句には、お雛様を飾り、ひし形の餅を供える	春	3月		
春（4月3日） 西小平 日本神社 獅子舞が行われた	春	4月3日		
（4月3日） 東小平 庚申塚 獅子舞が行われた	春	4月3日		
4月3日 日本神社（合祀山）の春の大祭	春	4月3日		
4月3日 日本神社の大祭に万作を踊る	春	4月3日		
甘茶祭 4月	春	4月		
5月5日 岩谷堂まつり 陣見山	春	5月5日		
ヨモギ風呂 5月の節句	春	5月		
児玉町十二天橋付近 千本桜まつり つい最近 4～5年ほど前	春		現在	
八坂神社（こだま夏まつり）に参加した 宵宮神輿渡御にも参加 7月	夏	7月		
ため池にて水口祭 7月	夏	7月		
お盆 昔は9月、今は8月13日	夏	8月		
8月には七月飾り	夏	8月		
タナバタ祭 8月	夏	8月		
お盆は家族が集まり、墓参りして食事を楽しんだ 8月 うどん打ってる	夏	8月		
ぼんおどり大会 児玉小枝庭 8月下旬 現在なし	夏	8月		
夏 お盆の中日 盆踊りが行われた。（打ち上げ花火もあります） 観光農業センター駐車場	夏			
お盆にはナスに楊枝を差し馬に見立て、わらを燃やして、迎えと送りを行う	夏			
児玉町内本町地内 こだま夏まつりと町内（本町）渡御	夏			
十五夜祭 9月	秋	9月		
稲荷神社 お九月祭 10月下旬	秋	10月		
町民体育祭 10月頃 合併までやってた 現在なし	秋	10月		
児玉小3年生の授業に祭囃子の指導に行っている 10月 本町でやってる	秋	10月		
秋（10月17日） 東小平 石神社 獅子舞が行われた	秋	10月		

十日夜 わら鉄砲 10月	秋	10月	
こだまの秋祭りに、練習会から参加している 10月 11月	秋	10月・11月	
七五三 神社でモチ、みかん配った 11月	秋	11月	
11月23日 さざえ堂観音まつり	秋	11月	
十五夜、十三夜にススキと一緒におまんじゅうを縁側に供える 炭酸まんじゅう	秋		
児玉町内駅前通り こだま商工会まつり	秋		
児玉町内 本町 稲荷神社前 こだま秋祭りといよ宮	秋		
秋まつりにボン菓子	秋		
もちつきをして地域の人たちと楽しんでいる 本町 12月	冬	12月	
除夜の鐘つきにお寺に行っている 12月	冬	12月	
冬 自宅 大晦日には年越しそばを食べた	冬	12月	
暮れに餅をつくが、31日（一夜餅）はNG お正月飾りも31日はNG	冬	12月	
へいそく 氏神様 1月 12月	冬	12月・1月	
初午 1月 稲荷様	冬	1月	
初詣に行っている 神社、寺 1月	冬	1月	
まゆ玉 1月	冬	1月	
1月31日 高柳だるま市 こくぞうさま	冬	1月	
節分 豆まき 八幡様	冬	2月	
八幡神社の節分祭に行った 2月	冬	2月	
稲荷神社 初午祭 2月?	冬	2月	
2月の節分には、いわしを焼き、頭をひらぎの枝に差して、玄関に魔除けに飾ると、大巻寿司を作る	冬	2月	
本町地区 本町もちつき大会	冬		
春：ぼたもち 秋：おはぎ を作る	春・秋		
こいのぼりをあげる			
かけじくをまわす（子宝） 二十二夜様（にやさま）			
お祝い事 結婚式 ふたばの料亭			
お祝い事でふじやに行った 現在はなし			
小昼飯 小じょ飯 やさいを煮て、しょうゆ味 粉を水でといて入れる（すいとん）			
粉をといてフライパンで焼いて、砂糖醤油（じり焼き）			
おそうしきの時に旗（細長い）をもってまわった			
上棟の時にぐしもちをまいた			
金そば きらく			
天神講 子どもが集まった（冬?）			
千本桜花見 4月 小山川関係 埼玉初の整備 桜植樹	春	4月	埼玉県外
児玉夏祭り 7月	夏	7月	現在
十日夜（トオカンヤ） わら鉄砲（子供が集団で家廻り） 10月	秋	10月	
児玉かるた 正月 平成元年	冬	1月	平成
かるた 今はやっていない	冬		
農繁休業 4月・10月（季節託児所）	春・秋	4月・10月	
二十二夜様 毎月22日 掛け軸をまわす 子宝祈願 女性が集まる 名字によって分かれている			

第3回 第4班

付せんの記述	季節	年月	時代	記述者の出身地区
学校帰りに、「植木市」やっていると、急いでランドセル置いて神社に行った	春	3月		児玉地域
植木市 小学校入学で植木を庭に植えた	春	3月		
お祭りの準備と称する飲み会が始まる 4月	春	4月		
城山公園でお花見	春			
城山公園 花見 桜	春			
千本桜 小山川 花見	春			

間瀬湖 桜花見 つり	春		
新町 七夕まつり	夏		
夏まつり 昔はいきなりぶつけた	夏		
子供神輿 あんどん持たかかった こだま夏まつり	夏		
夏まつり 高張を持つことがステータス	夏		
(夏まつり) ピンクに塗られたひよ子	夏		
こだま夏まつり 祖母が「天王様」といっていた 1,000円をしょった亀つり	夏		
城山公園 夏休みラジオ体操	夏		
實相寺にて夏休みのラジオ体操	夏		
仲町 10月29日 稲荷神社 おくんち	秋	10月29日	
商工まつり 10月第3日曜日 歩行者天国	秋	10月	
当時、10月15日が秋まつりだったので、学校から早く帰れたのがうれしかった	秋	10月	
元々10月15日 平日だったので祝日に変更(合併前)	秋	10月	
児玉秋まつり 今は11月3日	秋	11月	
だるまやだんご (十五夜)	秋		
秋まつり ラーメンカードをもらった 大阪屋・中村や	秋		
こだま秋まつり 小学校、半日で帰った	秋		
秋まつり前にキンモクセイの香りを感じた	秋		
實相寺 かねつき 12月31日	冬	12月31日	
いせや 年越しラーメン	冬	12月	
元旦サッカー	冬	1月	
仲町 稲荷神社 初午	冬	2月	
字別サッカー大会 小学生	冬		
児玉かるた	冬		
伊勢屋の祭り終りのラーメン券 夏・秋	夏・秋		
児玉音頭 運動会			
町民体育祭 字別リレー→今はやってない 児玉中グラウンド			
元田 つりばり			
(間瀬湖) へらぶな ワカサギ			
JR八高線 三菱トランク			
イニシャルD 間瀬峠			
むかぜや			
金そば			
マロン(食パン) 給食			
マロンのパン給食			
児玉牛乳 給食で出た			

巻末資料6 ヒアリング調査の記録

本計画の作成にあたっては、市内文化財の保存・活用やまちづくりに関わる活動を行う団体に対して、各団体の文化財への関わり方（現在の活動内容）、文化財の保存・活用に向けた将来像（理想・展望）、文化財の保存・活用活動に際しての課題、文化財の保存・活用に向けて必要な補助・支援・仕組みなどについてヒアリング調査を行いました。

ヒアリング調査は令和4（2022）年11月16日に2団体、翌17日に1団体、計3団体から貴重なご意見をいただきました。以下にヒアリング調査の成果に関する概要を記録します。

団体名	児玉商工会
日時	令和4（2022）年11月16日 10：00～11：30
場所	児玉商工会館
参加者（敬称略）	児玉商工会 事務局長 飯塚 孝志

問	返答
現在の文化財への関わり方、活動内容、団体設立の趣旨など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商工会としては文化財のPRをしていこうというスタンスで活動を行っている。 ・ 今年10/16に競進社模範蚕室周辺及び近隣区域で児玉商工まつりを開催、まつりの来場者に競進社模範蚕室の見学を促すような取組を行った。
商工会で「まちづくり」に関して行っている4つのプロジェクトの活動状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 塙保己一プロジェクト ・ 日本神社プロジェクト ・ 児玉党・いざ鎌倉鎌倉街道プロジェクト ・ 商工広場プロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塙保己一プロジェクト 塙保己一先生が持っていた巾着を作り中学校に寄付している。元々は販売目的ではないが、今後は販売も行っていきたいと考えている。 ・ 日本神社プロジェクト 日本で唯一「日本」という名前が付くといわれる神社。青い「必勝だるま」があり、高校野球やオリンピック選手が祈願に来てくれる。サッカーワールドカップで優勝した日本女子代表など、有名な方に寄贈すると、返納のために日本神社に来てくれる。そういった方法でPRを行っている。 ・ 児玉党・いざ鎌倉鎌倉街道プロジェクト 「児玉」にちなんだ何かをしていこうと立ち上げたプロジェクト。九州には児玉姓が多く、江ノ島には「児玉神社」という神社があることなどを調べたが、そこで動きが止まっている。 ・ 商工広場プロジェクト 競進社模範蚕室前にある商工広場の活用。今年、児玉商工まつりを開催した。商工会の会員に、レンタサイクルを置かせてもらって、競進社周辺に観光ルートを作って回ってもらうことも考えている。
青年部・女性部の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年部は日本神社プロジェクトに関わっている。 ・ 会員の多くは、こだま夏まつりやこだま秋まつりに並々ならぬ力を注いでいる。 ・ 女性部の年配の方たちは文化財をよく知っていて、塙保己一先生の巾着は主に女性部が作っている。伝統工芸ではないが手工芸の講習会なども開いている。
文化財の保存・活用に向けた将来像（理想・展望）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商工会の趣旨・目的としては、文化財を商業的な観点から集客につなげていきたい。市外から人を呼び込んで、いかにしてお金を落としてもらうかの仕組みを作りたい。そのためには、商工会が文化財を理解することが必要で、文化財をよく知る地域の一般の方と接点を持って文化財を理解していく仕組みづくりが必要と感じている。 ・ 今年は商工広場で児玉商工まつりを開催し、競進社模範蚕室の見学も実施したことで、商工会と文化財の間に市民が入り接点を持つことができた。 児玉商工まつりに関するアンケートを行ったところ、ふだんあまり知らない競進社に触れることができ良かったという回答を多くいただいた。 児玉商工まつりでの競進社の入場者数は約240人で、1日でおおよそ1か月分の入場者数となった。今後はもっと文化財と連携していきたいと考えている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・青年部が雉岡城跡でイベント等を行いたいという意向があり、市民からはハロウィンやクリスマスイベントがよいという声も挙がっている。桜の名所「城山公園」のイメージが強く花見に観光客が来るが、もっと活用したい。遺跡としての価値もアピールしていく必要がある。 ・商工会としては、イベントに出店すると店舗よりも利益が出るので、そういった機会が増えると有り難い。
<p>文化財の保存・活用に際しての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「塙保己一プロジェクト」は形ができてきているので、巾着などを委託販売できるように継続して進めていきたい。「塙保己一記念館」などで販売できるとよい。 ・文化財施設はトイレ利用が主体となってしまっている。見学については、競進社模範蚕室に興味あっても塙保己一記念館に興味がない（逆も同様）という状況も見られる。市内の文化財を上手く紐づけできないか。 ・文化財のPR方法をもっと検討する必要がある。 ・児玉地域は、四季の景観など見どころはたくさんある。良いものをつなげて回遊ルートを設定したいと思っているが、どの団体が主体的に実施するのかで進まない。以前、観光協会と商工会で観光ルートについて話したが進んでいない。観光ルートの中でお土産等を購入してほしいが、市内にお土産を買う場所が少ない。ダムカード目的で児玉に来る方はいるが、観光周遊したりお土産を買ったりする方は少ない。市内に道の駅などの施設もないので、商工会員の農家さんから加工品を販売したいという要望には、高速道路サービスエリアなど地域外の人が集まる場所を紹介してきた。 ・商工会の役員には、商工広場に観光拠点があれば町に回遊性が生まれるという漠然とした希望がある。 ・児玉の飲食店は結構な頻度で休みを取っていて、町めぐりの時に立ち寄ってもらいたくても定休日のことがある。地域のお店の休業日が多いのは、地元にお金が落ちてこないのが理由の一つかもしれない。 ・最近、国道及び県道の拡張工事で店舗が5～6件閉めている。交差点にあった昭和時代初期のレンガ造の建物も取り壊された。方向性がない状態で道路拡張だけ進めて行くと、町の貴重な歴史的建造物がどんどん取り壊されていく。 ・また、児玉の空家・空き店舗は大きな問題で、活用してくれる人も集めていく必要がある。
<p>文化財の保存・活用に向けて必要な補助・支援・仕組みなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財に関する商工会の動きを促進させるためには、商工会の職員が文化財の知識を身につけ文化財保護課と知識を共有することが必要。 ・学生達の力を借りて、まちづくりに関わってもらいたいという意見も出ている。 ・いずれもマンパワーが重要。 ・商工会の立場では文化財だけを専門的にできない。だからこそカリスマ的に引っ張って行ってくれる人が出てきてほしいと思う。 今後、商工会が文化財とどのように関わればよいかノウハウがない。観光地にある商工会はノウハウがわかっていて連携できていると感じる。コンサルティングしてくれる人を紹介してくれると有り難い。 ・個人、民間で文化財と連携したイベントを行っている人もいる。規模にもよるが商工会の方でそういった方たちを支援することは可能（商工会会員であることが望ましい）。 ・財源に余裕があれば、商工広場に複合施設を建設し、文化財の展示室を作ったり、観光案内や子育て支援などができればよいのかもしれない。そうすれば、周りと連携して町の活性化につながるのではないかと。何らかのハードが必要になってくると思う。

ヒアリング団体 NPO 法人 ネットワークひがしこだいら
 日時 令和4（2022）年11月16日 13：00～15：00
 場所 本庄市観光農業センター
 参加者（敬称略） ネットワークひがしこだいら 根岸久 立花 勲 根岸 敬明

問	返答
現在の文化財への関わり方、活動内容、団体設立の趣旨など	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO の活動概要 「小平の獅子舞」をはじめとする児玉町東小平の文化財の保護活動や地域の環境美化を通じて、多くの人に地域の良さを知ってもらえるよう、また地域に暮らす人々が生きがいを持って生活できるよう活動を行う。 ・ NPO 設立のきっかけ 元は団塊の世代の生きがいづくりとして結成したボランティア団体だった。ボランティアにもお金がかかる、地域に公共施設（観光農業センター）があるので、この維持管理運営したらどうかということで NPO に移行するという話になった。 ・ 当初は地域の文化財の保護育成を目的に前身にあたる団体を結成。 現在は、地域の文化財（成身院百体観音堂（市指定有形文化財）、岩谷堂（市指定史跡））の管理を行っている。下部組織として「獅子舞保存会」（小平の獅子舞（市指定民俗文化財））や「不動滝保存会」などがある。 ・ 現在は東小平地域のためになること全般に活動の幅を広げており、その中の一つとして文化財保護育成の活動を継続している。
文化財の保存・活用に向けた将来像（理想・展望）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体として長期的な目標（将来像）は特に設けていない。その時々で自分たちがやりたいこと、訪れる人たちに必要なことなどを考えて実行している。 元々、施設（観光農業センター）の管理はシルバー人材センターが請け負っていたが、受付業務が主体で、活動につながっていなかった。一帯が都市公園になっていて、一部の施設管理を請けたのがきっかけ。 ・ 新たに計画しているのは、地域にあるお寺や神社などのパワースポットをめぐるパンフレットを作り始めている。 パワースポットは6か所（百体観音堂、不動滝、ほてい堂他）。それぞれの場所に御朱印を設置し、専用の手ぬぐいを販売してそこに6か所の朱印を集めるという計画。来年の3月ぐらいには実現したい。 ・ 他には「ふるさとの森公園」で見られる植物のパンフレットを作っている。
文化財の保存・活用の際しの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の会員は27名。 現時点で人不足は感じていないが、組織の高齢化（最年少でも62歳）、後継者不足が課題となっている（集落自体が高齢化し中年層がない）。 地域に新たな担い手が見つからないので、今後は地域外にも目を向け、広く後継者を募集し解決したいと考えている。一緒にやっていける仲間を求めたい。 ・ 限界集落は他人事だと思っていたが、自分のところがそうなるとは思わなかった。 ・ このまま後継者が入ってこなければ、獅子舞の伝統も途切れてしまう。もし途切れても復活する日のために、それなりの資料は保存している。 ・ この組織の出発点は補助金に頼らず、自分たちがやってることに市がついてきてくれればよいというスタンス。 ・ 実績を残すと市が補助金を紹介してくれるなど手を差し伸べてくれる。 ・ ただ自分たちでできることももうすぐ限界を迎えるという感覚がある。 ・ 秋平小学校（全学年合わせて100人くらい）の総合教育の一環に協力している。具体的には5年生の田植え・稲刈り体験と一緒に実施したり、獅子舞を教えたりして後継者になってもらうための種まきをしている。 ・ 獅子舞の継承は、以前は小平集落のみが対象だったが、現在は秋平小学校を対象に希望者を募り、15～20人ほどが参加している。子供たちも獅子舞などの伝統文化にあまり興味がなく、高校・大学卒業後どれだけの生徒が地域に残ってくれているかというのが問題。 ・ 今教えている子たちが一度出ていったとしても、また戻ってきてくれると嬉しい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「獅子舞保存会」や「不動滝保存会」などの下部組織には活動が停滞しているものもある。各保存会の役員体制が機能していないことが原因であり、一部の人の負担が非常に大きくなっている。今後は活動が停滞している下部組織についても活動させていきたい。 ・獅子舞保存会は全体で15～16人。若者はいない。昔からいる人よりも、他所から入って来た人の方が協力的。 ・成身院百体観音堂（日本三大さざえ堂の一つ）の観光客が多い。客層は中～老年、御朱印ブームでも人が来た。ダムカードを取りに来る人が結構いるが、成身院百体観音堂にはあまり寄ってくれない。
文化財の保存・活用に向けて必要な補助・支援・仕組みなど	<ul style="list-style-type: none"> ・高窓の里には、現在、6～7軒ほどの養蚕民家が残っている。これらにはまだ人が住んでおり、話せば国登録文化財に登録させてくれる家はあると思う。 ・農村ミュージアムかねもとぐらは高山社の分教場であったことから、世界遺産との関連で見に来る人はいるが、個人で管理を行っているため、必ずしも見学できるとも限らない。 ・今後、空家になってしまいう家が出てくる。空き家バンクなどは実施していない。例えば、市で買い上げてもらうようなことも必要かもしれない。 ・自分たちだけでは活動が行き詰ってしまうので、他団体との連携は必要と感じている。同じような活動をしているNPOもあるが、うまくまとまらない。人に協力を仰いでも、結局自分たちでやった方が早いということになってしまう。 ・今までヤマユリや芝桜を植えたりしてきたが、そういう時に単発的なNPO同士の協力や市民の協力が得られたらよいと思う。 ・ネットワークの組み方によって、連携は有効になると思う。単発的な協力や情報交換など。 ・市には文化財関連の相談窓口を作してほしい。

ヒアリング団体 本庄まち NET
 日時 令和4（2022）年11月17日 15：00～17：00
 場所 戸谷正夫建築設計事務所
 参加者（敬称略） 本庄まち NET 代表 戸谷 正夫

問	返答
現在の文化財への関わり方、活動内容、団体設立の趣旨など	<ul style="list-style-type: none"> ・2005年に財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構が主催する「まちづくり大学」という市民むけ連続講座が2006年まで開催された。これに参加した受講生の中から市民によるまちづくり活動・本庄まち NET が生まれた。現在も任意団体として活動している。 ・まちづくり活動を通して、まちが良くなるように「自律性のある豊かな地域社会の実現」を目指している。 ・まち NET は、本庄地域を拠点として、有志の市民一人一人がまちづくりへの思いと願い、自らの意思をもとに自主的に活動し、互いに交感・支援し合う中で、地域内外の市民団体や専門家、行政等の方々との連携と協働を深め、自律性のある豊かな地域社会の実現に資することを目的とする（本庄まち NET 会則より）。 ・構成メンバーは市民のほか、大学教授、県・市議員、商工会・市役所職員など多岐にわたる。会員は35人くらい。本庄市外の方が5～6人含まれる。年齢層は30代～80代と幅広い。 ・本庄まち NET は事業的なことは行わない。会員が好きなこと、興味があることを、3人以上のプロジェクトチームを作って実行する。 ・「2015（平成27）年度・プロジェクトチームの活動計画」では、五臓六腑の会、地域産業ふれあい、からくり門弥、「世間遺産」発見まち歩き、建築・地域デザイン、都市農園事業計画、まち NET 本庄塾、本庄地元学、まちつくりの9つのチームが活動を行った。 ・プロジェクトチームごとに活動を進め、月1回集まって各チームの活動報告を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築・地域プロジェクトチームでは、本庄宿に古くなった建物が多く見られるようになってきたので、調べたり、見学会を開いて、使いたい人と絡めて活用している。修復できるものは修復し、更地にするものは広場として活用することで、自ずとまちの景観は整うのではないか。 ・ 「本庄宮本蔵の街」は元々、旧小森商店（酒問屋）の敷地。主屋を取り壊した跡地の土地分譲と、3棟の土蔵の修復・賃貸を計画、地元の若い人が購入・借用してくれた。民間事業として、収入を金融機関へ返すやりかたを採った（※まち NET ではなく設計事務所としての業務）。これを契機に、町の人たちから古い建物の修復や活用について相談がくるようになった。 ・ 公的な補助金もあればよいが、期待せず民間の資金で行うに越したことはない。空家の活用なども含めて、どのようにプログラムを組むか（かかる費用、誰が使うか、資金回収が可能か）にかかっている。 ・ まち歩きも度々行っている。本庄の町は段丘の先端にある。土地形状を生かしたまちづくり（散策路の計画など）も検討していたが、大きなホームセンターができて分断されてしまった。
<p>文化財の保存・活用に向けた将来像（理想・展望）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会として具体的な将来像は考えていない。話す機会と場所があれば、目的などは必要ないと考えている。 ・ 月1回集まって、皆が話ができる場を作りたい。目的がなくても、そういった場が大事だと思う。 ・ 地域に住み、働いている人たちが「まちの景色」として共通に思い描く場所は非常に大切である。修復するなどして将来に残していくことで、まちは自然に生まれ変わっていくのではないか。 ・ 本庄はピンボケのまちといわれたことがある。つまり、見るべきポイントが不明瞭。市民の「共通の場所」を大切に、焦点を当ててわかりやすいものにする。既存の文脈を生かしたまちづくりを行いたい。 ・ コンテンツを町の中に落とし込んだ時に、将来像を語れるのかは確かに大事なことだと思う。
<p>文化財の保存・活用に際しての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一番は活用方法だと思う。本庄市のポテンシャルを整理しながら、どのように活用していけるか。いままでの文化財は保存が中心だったが、これからは活用が大事で、活用の仕方に経済原則がどのように絡んでくるかだと思う。昔は、市の公共物は公有性が必要だったが、今はそうではない。
<p>文化財の保存・活用に向けて必要な補助・支援・仕組みなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政と民間ができることは違う。お互いをサポートしながらやればよいと思う。 ・ 取組に関連する手続等の情報を行政から提供してもらえれば、活動の幅が広がる。 ・ これからは行政も変わる必要がある。市の職員も責任をもって地域自治に関わる仕組みが必要。行政とのコミュニケーションはすごく必要。 ・ 住んでいる人も責任を果たすことが問われてくる。そうすることで、新しい地域づくりができていくのではないか。 ・ 補助金は一生懸命やっている人には必要。 ・ 他団体との連携は少ない。やりたいこと・テーマが合えば協力すればよい。現在は、県内の他のまちづくりの人たちと一緒にやりたいことはある。 ・ まちなかの商売、人が集まる・楽しむ仕掛けは別のグループがやっているので、いろいろな傾向の団体があった方がよいのではないか。
<p>文化財保存活用地域計画に期待することなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画を立てることで、潜在していたものが顕在化すればよいのではないか。場所の意味、まちの意味をみんなにわかってもらえる。 ・ 東京から見た本庄市は何もないように見えるが、住んでいる人が本庄は良い所だと思えばよいのではないか。そういう理想像を求めて、実際にそうなれば、結果的に市外の人にも注目するのではないか。

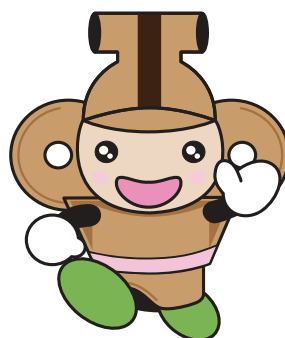


令和5（2023）年度
文化庁文化芸術振興費補助金
（地域文化財総合活用推進事業）

本庄市文化財保存活用地域計画

令和5（2023）年3月31日

発行 編集	本庄市教育委員会 本庄市教育委員会事務局 文化財保護課 〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 TEL 0495（25）1111 FAX 0495（25）1193
編集協力	株式会社グリーンシグマ 〒950-2042 新潟県新潟市西区坂井700番地1 TEL 025（211）0010 FAX 025（269）1134
印刷	株式会社ハイングラフィック 〒950-2022 新潟県新潟市西区小針1丁目11番8号 TEL 025（233）0321 FAX 025（233）0322



本庄市マスコット
はにぼん

令和5年3月 作成
令和5年7月 認定
本庄市教育委員会